

茨城県行方郡北浦村

六台遺跡  
調査報告書

1990年3月

山田地区遺跡発掘調査会



卷頭

## 例　　言

1. 本報告書は、茨城県行方郡北浦村大字山田字六台2377番地他の発掘調査報告である。

1. 本遺跡の調査は、ゴルフ造成工事に先行する埋蔵文化財の調査である。

1. 本遺跡の現地調査は、昭和63年6月11日～12月16日まで行ない整理作業は平成元年6月1日～12月24日まで行なった。

1. 本遺跡の現地調査は、山田地区遺跡調査会を組織し、2班は汀安衛が担当し、宮内勝也（10月）で進めた。整理作業は、小林広が図面、写真、原喜代子が遺物整理、増井常子、額賀浩が遺物復元、沼田洋子、大川都喜子が遺物実測・トレース、橋本浩子、白木とも子が版組を、表は池田和代がそれを行ない、汀が執筆および、総括して行なった。

1. 本報告書の縮尺は、遺構に関しては1/20、1/40、1/80、1/100を基準とした。遺物は、1/2、1/3、1/4が基準である。水系のレベルは、統一表示を基準としたが、不可能な場合はその図中に表示した。

1. 本報告書で、1班、2班が協議のうえ統一表示できるものは統一表示した。

1. 分析等は別冊において述べるため、総括としてまとめは簡単に行なった。

1. 本報告書で使用したスクリーントーンは、焼土、カマドの袖、粘土であり、炭化物は出土状態のまま図示した。



陶　袖



粘　土



粘　土



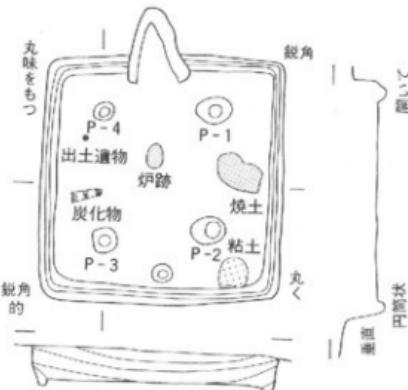
焼　土



炭化粒, 粒子

### 記述方法について

- 遺構は、右図の様にトレース図示した。
- 周溝は、U・V等で表し、ゆるやか、強く、浅く等と表現した。
- 柱穴は、U字状、円筒状と表現し、ゆるやか、強く、等と表現した。
- 壁面は、直立のものは垂直、やや開くものは鋭角、開くものは開いて、と表現した。
- 竪は、外部への掘り方、袖部形態でU字状、半円形、円形状と表現した。
- 土層は、新版標準上色帳（1987）を使用した。（主に 2.5YR. 5YR. 7.5YR. 10YR.）
- 覆土は、ゆるく流れ込み状のものはレンズ状とし、各層が入り乱れているものは、投げ込み的状と表現した。
- 遺物は、主に口縁部形態を説明し、須恵器は、輪積み及び粘土紐巻上げを器表面、断面等の観察から回転ミズビキ、ロクロ水引きの二種類に分類した。とくに須恵器は巻上げ痕、断面の観察にはルーペを使用したが、断定できないものは？を付した。
- 回転は底部に残っている状態を示した。土製品は、径、長さ、重さ等を便宜的に使用し表中に示した。器形等不明確なものは独自の判断で寸法を表示した。（たとえば丸底に近い壺の底部）
- 遺構は、隅部の状態で丸く、鋭角、丸味をもつ等と表現した。これは総体的に見ての場合を基準とした。
- 遺構プランは東西、南北で60~70cm以下の違いの場合は方形プランと表現した。
  
- 土坑はすべて坑と表現したが墓と思われるものは土壤と表現した。
  
- その他、独自の判断等で表現したものもある。



# 目 次

例 言			
I 位置と環境	1	第24号住居址	75
II 調査経過	2	第26号住居址	78
III 調査の梗概	4	第27号住居址	78
IV 造構と遺物	8	第28号住居址	84
1 住居址	8	第29号住居址	88
第1号住居址	8	第31号住居址	91
第2号住居址	12	第32号住居址	94
第3号住居址	14	第33号住居址	99
第4号住居址	18	第34号住居址	102
第5号住居址	20	第36号住居址	107
第6号住居址	23	第37号住居址	113
第7号住居址	28	第38号住居址	117
第8号住居址	33	第39号住居址	119
第9号住居址	36	第40号住居址	122
第10号住居址	38	第41号住居址	126
第11号住居址	43	第42号住居址	129
第12号住居址	45	第43号住居址	133
第13号住居址	45	第44号住居址	134
第17号住居址	46	第45号住居址	137
第14号住居址	52	第46号住居址	140
第15号住居址	52	第47号住居址	143
第16号住居址	53	第48号住居址	145
第18号住居址	56	第49号住居址	148
第19号住居址	58	第50号住居址	152
第20号住居址	61	第51号住居址	155
第25号住居址	61	第52号住居址	160
第21号住居址	64	第53号住居址	166
第22号住居址	68	第54号住居址	169
第23号住居址	71	第73号住居址	169
		第55号住居址	175

第56号住居址	177	第89号住居址	277
第57号住居址	180	第90号住居址	280
第67号住居址	183	第91号住居址	282
第58号住居址	185	第92号住居址	285
第59号住居址	189	第93号住居址	287
第60号住居址	193	第94号住居址	290
第61号住居址	197	第95号住居址	293
第62号住居址	202	第96号住居址	294
第63号住居址	205	第97号住居址	296
第64号住居址	209	第98号住居址	297
第65号住居址	211	第99号住居址	297
第66号住居址	215	第100号住居址	297
第68号住居址	217	第101号住居址	298
第69号住居址	222	第102号住居址	299
第70号住居址	225	第106号住居址	299
第71号住居址	227	第103号住居址	302
第72号住居址	235	第104号住居址	303
第74号住居址	239	第105号住居址	304
第75·75'号住居址	239	銅·鐵製品	308
第76号住居址	244	2 土坑	311
第77号住居址	246	第3号土坑	311
第78号住居址	249	第15号土坑	313
第79号住居址	255	第17号土坑	315
第80号住居址	260	第55号土坑	315
第81号住居址	262	第57号土坑	317
第82号住居址	263	第68号土坑	320
第83号住居址	265	第66号土坑	320
第87号住居址	266	第4号土坑	322
第84号住居址	270	第6号土坑	323
第85号住居址	272	第13号土坑	323
第86号住居址	273	第15'号土坑	326
第88号住居址	275	第20号土坑	326

第21号土坑	326	第72号土坑	352
第22号土坑	326	5. 溝	354
第23号土坑	327	第1号溝	354
第29号土坑	327	第2号溝	354
第28号土坑	330	第3号溝	354
第33・34号土坑	332	第4号溝	354
第26号土坑	333	第5号溝	355
第38号土坑	333	第6号溝	355
第16号土坑	335	第7号溝	355
2. 古墳時代～平安時代の土坑	340	第8号溝	355
第46号土坑	340	第9号溝	356
第35号土坑	341	第10号溝	356
第36号土坑	341	第11号溝	356
第37号土坑	341	V 総括	359
第48号土坑	341		
第51号土坑	344		
第70号土坑	344		
第1号土坑	344		
第2号土坑	344		
第8号土坑	345		
第12号土坑	345		
第14号土坑	348		
3. 粘土張り土坑	349		
第39号土坑	349		
第40号土坑	349		
第41号土坑	349		
第42号土坑	351		
第43号土坑	351		
第65号土坑	351		
4. 葬壙	352		
第45号土坑	352		
第69号土坑	352		

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	1	第29図 第11号住居址出土遺物実測図	45
第2図 遺構位置図	5	第30図 第12号住居址実測図	46
第3図 遺構位置図	7	第31図 第13・17号住居址実測図	47
第4図 第1号住居址実測図	9	第32図 第13・17号住居址実測図	48
第5図 第1号住居址実測図	10	第33図 第13・17号住居址出土遺物実測図	
第6図 第1号住居址出土遺物実測図	11		50
第7図 第2号住居址、竈、出土遺物実測図		第34図 第14号住居址、竈実測図	51
	13	第35図 第15号住居址実測図	53
第8図 第3号住居址実測図	15	第36図 第16号住居址実測図	54
第9図 第3号住居址実測図	16	第37図 第16号住居址、出土遺物実測図	55
第10図 第3号住居址出土遺物実測図	17	第38図 第18号住居址、竈実測図	57
第11図 第4号住居址、竈実測図	19	第39図 第18号住居址出土遺物実測図	58
第12図 第4号住居址出土遺物実測図	20	第40図 第19号住居址、竈実測図	59
第13図 第5号住居址、竈実測図	21	第41図 第19号住居址出土遺物実測図	60
第14図 第5号住居址出土遺物実測図	22	第42図 第20・25号住居址実測図	62
第15図 第6号住居址、竈実測図	24	第43図 第20・25号住居址出土遺物実測図	
第16図 第6号住居址出土遺物実測図	25		63
第17図 第6号住居址出土遺物実測図	26	第44図 第21号住居址実測図	65
第18図 第7号住居址実測図	29	第45図 第21号住居址実測図	66
第19図 第7号住居址実測図	30	第46図 第21号住居址出土遺物実測図	67
第20図 第7号住居址出土遺物実測図	31	第47図 第22号住居址実測図	69
第21図 第8号住居址実測図	34	第48図 第22号住居址竈、出土遺物実測図	
第22図 第8号住居址実測図	35		70
第23図 第8号住居址出土遺物実測図	35	第49図 第23号住居址実測図	72
第24図 第9号住居址、竈、出土遺物実測図		第50図 第23号住居址竈、出土遺物実測図	
	37		73
第25図 第10号住居址実測図	38	第51図 第24号住居址、出土遺物実測図	
第26図 第10号住居址実測図	39		76
第27図 第10号住居址出土遺物実測図	40	第52図 第26号住居址、竈実測図	77
第28図 第11号住居址、竈実測図	44	第53図 第27号住居址実測図	79

第54図	第27号住居址竪実測図	80	第85図	第42号住居址尖測図	130
第55図	第27号住居址出土遺物尖測図	81	第86図	第42号住竪実測図	131
第56図	第28号住居址実測図	85	第87図	第42号住居址出土遺物実測図	132
第57図	第28号住居址出土遺物実測図	86	第88図	第43号住居址尖測図	133
第58図	第29号住竪実測図	88	第89図	第44号住居址竪実測図	134
第59図	第29号住居址実測図	89	第90図	第44号住居址尖測図	135
第60図	第29号住居址出土遺物実測図	90	第91図	第44号住居址出土遺物尖測図	136
第61図	第31号住居址、竪実測図	92	第92図	第45号住居址、竪実測図	138
第62図	第31号住居址出土遺物実測図	93	第93図	第45号住居址出土遺物実測図	139
第63図	第32号住居址実測図	95	第94図	第46号住居址、竪実測図	141
第64図	第32号住竪実測図	96	第95図	第46号住居址出土遺物尖測図	142
第65図	第32号住居址出土遺物実測図	97	第96図	第47号住居址、竪実測図	144
第66図	第33号住居址、竪実測図	100	第97図	第47号住居址出土遺物尖測図	145
第67図	第33号住居址出土遺物実測図	101	第98図	第48号住居址、竪実測図	146
第68図	第34号住居址尖測図	103	第99図	第48号住居址出土遺物実測図	147
第69図	第34号住居址竪実測図	104	第100図	第49号住居址出土遺物実測図	
第70図	第34号住居址出土遺物実測図	105			148
第71図	第36号住居址実測図	108	第101図	第49号住居址実測図	149
第72図	第36号住竪実測図	109	第102図	第50号住居址実測図	153
第73図	第36号住居址出土遺物実測図	110	第103図	第50号住居址出土遺物実測図	
第74図	第36号住居址出土遺物実測図	111			154
第75図	第37号住居址尖測図	114	第104図	第51号住居址実測図	156
第76図	第37号住居址出土遺物尖測図	116	第105図	第51号住竪実測図	157
第77図	第38号住居址、竪実測図	118	第106図	第51号住居址出土遺物実測図	
第78図	第38号住居址出土遺物実測図	119			158
第79図	第39号住居址、竪実測図	120	第107図	第51号住居址出土遺物実測図	
第80図	第39号住居址出土遺物実測図	121			159
第81図	第40号住居址、竪実測図	123	第108図	第52号住居址尖測図	161
第82図	第40号住居址出土遺物実測図	124	第109図	第52号住居址出土遺物実測図	
第84図	第41号住竪、住居址出土遺物尖測図				162
		126	第110図	第52号住居址出土遺物実測図	
第83図	第41号住居址、竪実測図	127			164

第111図	第53号住居址、炉址実測図	167	第134図	第61号住居址出土遺物実測図	
第112図	第53号住居址出土遺物実測図				200
	.....	168	第135図	第62号住竈実測図	202
第113図	第54・73号住居址実測図	171	第136図	第62号住居址実測図	203
第114図	第54号住竈実測図	172	第137図	第62号住居址出土遺物実測図	
第115図	第54・73号住居址出土遺物実測図				204
	.....	173	第138図	第63号住居址実測図	206
第116図	第54号住居址出土遺物実測図		第139図	第63号住竈実測図	207
	.....	174	第140図	第63号住居址出土遺物実測図	
第117図	第55号住居址実測図	176			208
第118図	第55号住居址出土遺物実測図		第141図	第65号住居址、竈実測図	210
	.....	177	第142図	第64号住居址出土遺物実測図	
第119図	第56号住居址実測図	178			211
第120図	第56号住居址出土遺物実測図		第143図	第65号住居址実測図	212
	.....	179	第144図	第65号住竈実測図	213
第121図	第57・67号住居址実測図	181	第145図	第65号住居址出土遺物実測図	
第122図	第57・67号住竈実測図	181			214
第123図	第57・67号住居址出土遺物実測図		第146図	第66号住居址、竈、出土遺物 実測図	
	.....	184			216
第124図	第58号住居址、竈実測図	186	第147図	第68号住居址実測図	219
第125図	第58号住居址出土遺物実測図		第148図	第68号竈、出土遺物実測図	220
	.....	188	第149図	第68号住居址出土遺物実測図	
第126図	第59号住居址実測図	190			221
第127図	第59号住居址竈実測図	191	第150図	第69号住居址実測図	223
第128図	第59号住居址出土遺物実測図		第151図	第69号住竈、出土遺物実測図	
	.....	192			224
第129図	第60号住居址実測図	194	第152図	第69号住居址、竈、出土遺物 実測図	
第130図	第60号住竈実測図	195			226
第131図	第60号住居址出土遺物実測図		第153図	第70号住居址、竈、出土遺物 実測図	
	.....	196			228
第132図	第61号住居址実測図	198	第154図	第71号住竈出土遺物実測図	230
第133図	第61号住竈実測図	199			

第155図	第71号住居址出土遺物実測図	232	第176図	第82号住竈、出土遺物実測図	264
第156図	第71号住居址出土遺物実測図	234	第177図	第83・87号住居址実測図	267
第157図	第72号住居址、竈実測図	236	第178図	第83号住竈、炉状実測図	268
第158図	第72号住居址出土遺物実測図	237	第179図	第83・87号住居址出土遺物実測図	269
第159図	第74号住居址、竈実測図	238	第180図	第84号住居址出土遺物実測図	271
第160図	第75・75'号住居址実測図	240	第181図	第85・86号住居址実測図	272
第161図	第75号住竈実測図	242	第182図	第85・86号住居址出土遺物実測図	273
第162図	第75号住居址出土遺物実測図	243	第183図	第88号住居址実測図	275
第163図	第76号住居址、竈実測図	245	第184図	第88号住居址出土遺物実測図	276
第164図	第77号住居址実測図	247	第185図	第89号住居址、竈実測図	278
第165図	第77号住居址出土遺物実測図	248	第186図	第89号住居址出土遺物実測図	279
第166図	第78号住居址実測図	250	第187図	第90号住居址、竈実測図	281
第167図	第78号住竈、出土遺物実測図	251	第188図	第91号住竈実測図	282
第168図	第78号住居址出土遺物実測図	252	第189図	第91号住居址実測図	283
第169図	第78号住居址出土遺物実測図	254	第190図	第91号住居址出土遺物実測図	284
第170図	第79号住居址、竈実測図	256	第191図	第92・93号住竈実測図	285
第171図	第79号住居址出土遺物実測図	259	第192図	第92号住居址出土遺物実測図	286
第172図	第79号住居址出土遺物実測図	260	第193図	第92・93号住居址実測図	288
第173図	第80号住居址、出土遺物実測図	261	第194図	第93号住居址出土遺物実測図	289
第174図	第81号住居址実測図	262	第195図	第94号住居址実測図	291
第175図	第82号住居址実測図	263	第196図	第94号住居址出土遺物実測図	292
			第197図	第95号住居址実測図	293

第198図	第96号住居址実測図	294	第224図	第28・33・34号土坑実測図	331
第199図	第96号住居址出土遺物実測図	295	第225図	第28号上坑出土遺物括影図	332
			第226図	第26・38号土坑実測図	334
第200図	第97号住居址実測図	296	第227図	第26・38号土坑山上遺物活影図	335
第201図	第100号住居址実測図	298	第228図	第16・46号土坑実測図	336
第202図	第101、102、106号住居址実測図	300	第229図	第16・50・55・56・57号土坑 出土上器括影図	337
第203図	第102号住居址出土遺物実測図	301	第230図	第4・6・11・27・42・67号土坑 出土遺物括影図	338
第204図	第103号住居址実測図	302	第231図	第66号土坑出土遺物実測図	339
第205図	第104号住居址実測図	303	第232図	土器片錐括影図	339
第206図	第105号住居址実測図	305	第233図	第35・36号土坑実測図	342
第207図	第104、105号住居址出土遺物 実測図	306	第234図	第37・48・51号土坑実測図	343
第208図	鉄、銅、土製品実測図	309	第235図	第70号上坑実測図	345
第209図	第3、15号土坑実測図	312	第236図	第1・2号上坑実測図	346
第210図	第3号上坑出土遺物実測図	313	第237図	第8・12・13・14号上坑 実測図	347
第211図	第3号土坑出土遺物括影図	314	第238図	第14号上坑出土遺物実測図	348
第212図	第17・55号土坑実測図	316	第239図	第39・40・41・42・43・65号土坑 実測図	350
第213図	第57・68号土坑実測図	318	第240図	第45・68・72号土坑実測図	353
第214図	第57号土坑出土遺物実測図	319	第241図	第1・2・3・4・5・6・7・ 8・9・10・11号溝実測図	357
第215図	第66号土坑実測図	320			
第216図	第66号土坑遺物括影図	322			
第217図	第66号上坑出土遺物括影図	323			
第218図	第4・6号土坑実測図	324			
第219図	第13・15・20・21号上坑実測図	325			
第220図	第20・21・23号上坑出土遺物 括影図	327			
第221図	第22・23号土坑実測図	328			
第222図	第29号土坑実測図	329			
第223図	第29号土坑出土遺物括影図	330			

## 写 真 図 版 目 次

- P L 1 調査区中央部からの遠景（北浦、鹿島台地を望む）。上 山田城址側を望む（南側）。下
- P L 2 調査前の風景（東側から西側）。上 調査前の風景（東側から西側を見る）。下
- P L 3 中央部の遺構検出状態。上 中央部から南側の検出状態。下
- P L 4 中央部から北側の検出状態。上 中央部から北東側の検出状態。下
- P L 5 中央部から東側の検出状態。上 中央部から東南側の検出状態。下
- P L 6 北東隅部の住居址と溝（2区）。上 南側から北側を見る（住居址と6号溝）。下
- P L 7 南東隅部から西北側を見る（住居址群）。上 北側から南側の住居址検出状態（2区）。下
- P L 8 南東隅部の住居址検出状態。上 南側の傾斜面に位置する住居址群。下
- P L 9 西南部の住居址群検出状態。上 中央部の住居址群検出状態。下
- P L 10 C地区完掘状態（東側から）。上 C地区完掘状態（後は浄水場）。下
- P L 11 南西隅部の住居址群検出状態。上 1号住完掘。下
- P L 12 2住遺物出土状態、3住遺物出土状態 3住遺物出土状態 3住竈完掘状態 4住完掘  
4住竈完掘状態
- P L 13 5住完掘 5住竈完掘 6住遺物出土状態 壌出土状態 壌出土状態  
碗形土器高台部
- P L 14 6住竈内遺物 6住完掘 7住遺物出土状態 7住竈上層 7住完掘 8住竈土層
- P L 15 8住竈完掘 8住完掘 9住竈完掘 9住完掘西側から 9住完掘南側から  
10住竈完掘

- P L 16 10住遺物出土状態 10住完掘 11住遺物出土状態南側 11住完掘東側から 15・11・  
6・8各住居址完掘状態 12住竈土層
- P L 17 13住居址完掘 14住居址 14住居址土層 15住完掘（左） 16住完掘（西側から） 17  
住遺物出土状態（西側から）
- P L 18 17住竈完掘 17住完掘 18住竈完掘 19住遺物出土状態（西側から） 18住完掘（西側  
から） 20・25住完掘（上25住）
- P L 19 21住遺物出土状態 21住竈完掘 21住完掘 22住遺物出土状態 22住遺物出土状態  
22住完掘
- P L 20 23住遺物出土状態 23住完掘 24住遺物出土状態 24住遺物 24住遺物（玉類）出土状態  
24住完掘（右23号住）
- P L 21 25住完掘 26住竈土層 27住遺物出土状態 27住遺物出土状態 27住遺物出土状態 27  
住竈出土状態
- P L 22 27住完掘 28住遺物出土状態 28住完掘 29住遺物出土状態 29住遺物 29住遺物 29  
住完掘
- P L 23 31住遺物出土状態 31住竈 31住竈右袖遺物出土状態 31住完掘 32住遺物出土状態  
32住完掘
- P L 24 33住遺物出土状態 33住竈完掘 33住完掘 34住遺物出土状態 34住遺物出土状態 34  
住遺物出土状態 34住竈完掘 34住完掘
- P L 25 36住遺物出土状態 36住遺物出土状態 36住竈土層 36住完掘 36住竈完掘 37住遺物  
出土状態
- P L 26 37住竈調査状態 37住完掘 38住遺物出土状態 38住竈遺物（西側から） 38住完掘  
39住遺物出土状態
- P L 27 39住竈内遺物 39住完掘 40住遺物出土状態 40住竈土層 40住竈完掘 40住完掘
- P L 28 41住土層 41住土層 41住竈内遺物出土状態 41住完掘 42住柱穴土層 42住柱穴土層  
42住完掘 44住竈土層
- P L 29 44住竈完掘 44住竈内遺物出土状態 44住完掘 45住竈完掘 45住遺物出土状態 45住  
竈土層 45住竈土層 46住遺物出土状態
- P L 30 47住遺物出土状態 47住遺物出土状態 47住竈土層 47住竈完掘 47住完掘 48住遺物  
出土状態 48住完掘
- P L 31 49住遺物出土状態 49住遺物出土状態 49住竈完掘 49住完掘 50住遺物出土状態 50  
住遺物出土状態 51住遺物出土状態 51住遺物出土状態

- P L 32 51住須恵器甕出土状態 51住土製品？出土状態 51住竈内遺物出土状態 51住完掘 52  
住遺物出土状態 51住遺物出土状態 52住遺物出土状態 左同 52住完掘
- P L 33 53住遺物出土状態 53住遺物出土状態 53住炉址土層 53住炉完掘 53住完掘（網文）  
54住竈土層 54住竈内甕出土状態 54住完掘
- P L 34 55住遺物出土状態 55住鉄器 55住遺物出土状態 55住完掘 56住貯藏穴 56住竈土層  
56住竈完掘 56住完掘
- P L 35 57住遺物出土状態 57住遺物出土状態 57住竈完掘 57住完掘（67住） 58住竈内遺  
物出土状態 左同近景
- P L 36 59住遺物出土状態 59住竈完掘 60住遺物出土状態 60住完掘 61住遺物出土状態（6  
号溝） 61住竈完掘
- P L 37 61住完掘 62住柱穴内遺物出土状態 61住完掘（6号溝） 62住遺物出土状態  
62住土層 62住完掘
- P L 38 63住竈内遺物出土状態 63住完掘 64住遺物出土状態（环） 64住竈完掘 64住完掘  
(6号溝) 65住竈内遺物出土状態
- P L 39 65住土層 65住土層、遺物出土状態 65住遺物出土状態（西側から） 65住完掘 66住遺  
物出土状態 66住遺物出土状態
- P L 40 67住竈土層 左同 69住完掘 68住遺物出土状態 68住遺物出土状態 68住砥石出土状  
態 68住竈完掘 68住完掘
- P L 41 69住遺物出土状態 69住竈土層 70住遺物出土状態 70住遺物出土状態 70住遺物出土  
状态 70住竈上層 70住竈完掘 70住完掘
- P L 42 71住遺物出土状態 71住遺物出土状態 71住遺物出土状態 左同細部 同細部 71住遺  
物出土状態（左同）（左同） 71住竈内遺物出土状态 71住完掘
- P L 43 72住上層 72住竈内遺物出土状態 72住遺物出土状態 72住遺物 72住遺物 72住完掘  
73住完掘 74住遺物出土状態 74住竈完掘
- P L 44 74住完掘 75住遺物出土状態 75住遺物出土状態 75住紡錘車出土状態 75住完掘 77  
住遺物出土状態 77住管状土鍤出土状態 77住完掘
- P L 45 78住遺物出土状態 78住遺物 78住遺物 78住遺物「再」の文字 78住完掘 79住遺物  
出土状態 79住遺物出土状态袖部 79住遺物坏類出土状态
- P L 46 80住完掘 80住竈完掘 82住遺物出土状態 82住竈土層 82住遺物出土状態 82住遺物  
出土状態 83住竈内遺物出土状态 左同
- P L 47 84住土層 84住上層 85住土層 89住遺物出土状態 89住竈内遺物出土状態 89住遺物  
出土状態 89住遺物出土状態 89住完掘

- P L 48 90住遺物出土状態 90住完掘 91住完掘 上、90、中91、下、89住完掘 92住遺物出土  
状態 同左 同左 92住遺物出土状態 92住遺物出土状態
- P L 49 93住遺物出土上状態 93・92住完掘 94住坏出土状態 94住完掘 95住遺物出土状態 96  
住遺物出土状態（繩文） 96住遺物出土状態 99住土層と完掘
- P L 50 100住完掘 101・102・106完掘 103住遺物出土状態 103住土層 98住完掘 104住完  
掘 105住遺物出土状態 105住遺物出土状態
- P L 51 3号土坑遺物出土状態 3号土坑上部 3号土坑遺物出土状態 3号土坑遺物出土状態  
3号土坑完掘 16号土坑の遺物出土状態 16号土坑石器山上状態 17号土坑と32号住
- P L 52 55号土坑遺物出土状態 同細部 57号土坑土層 57号土坑完掘 66号土坑土層 66号土  
坑遺物出土状態 66号土坑遺物山上状態 4号土坑遺物出土状態
- P L 53 6号土坑遺物出土状態 同細部 15号土坑完掘 20・21号土坑完掘 22・23号土坑完掘  
25号土坑完掘 35号土坑完掘 33・34号土坑完掘
- P L 54 26号土坑完掘 38号土坑 38号土坑遺物出土状態 38号土坑遺物山上状態 68号土坑遺  
物出土状態 51号土坑完掘 59号土坑完掘 13・13'土坑遺物出土状態
- P L 55 2号土坑遺物出土状態 8号土坑完掘 36号土坑遺物出土状態 36号土坑遺物出土状態  
37号土坑完掘 47号土坑完掘 48号土坑完掘 50号土坑完掘
- P L 56 39号粘土坑完掘 40号粘土坑完掘 41号粘土坑完掘 40・41・42・43号粘土坑完掘  
45号粘土坑完掘
- P L 57 72号墓壙と97号住、65号墓壙 55号土坑完掘 17号土坑完掘 28号土坑遺物出土状態  
61号土坑完掘 28号土坑遺物出土状態
- P L 58 66号土坑完掘 68・72号土坑完掘 6号土坑完掘 70号土坑完掘 68号土坑土層  
1号溝上層 1号溝完掘
- P L 59 2号溝完掘 3号溝土層 5号溝完掘（西側から） 4号溝完掘（南側から）  
5号溝完掘（東側から）
- P L 60 6号溝完掘（南側から） 8号溝完掘 9号溝完掘 10号溝完掘 11号溝完掘
- P L 61 1、2、3、4、6号住居址出土遺物
- P L 62 7、8、9、10、11、16、17号住居址出土遺物
- P L 63 18、19、21、22、23、24、27、28、29号住居址出土遺物

- P L 64 31.32.33号住居址出土遺物
- P L 65 34.36.37号住居址出土遺物
- P L 66 39.40.41.42.44号住居址出土遺物
- P L 67 45.46.47.48号住居址出土遺物
- P L 68 51.52号住居址出土遺物
- P L 69 53.54号住居址出土遺物
- P L 70 49.50.51号住居址出土遺物
- P L 71 55.56.57.58号住居址出土遺物
- P L 72 59.60.61.62.63.64.65号住居址出土遺物
- P L 73 66.67.68号住居址出土遺物
- P L 74 70.71号住居址出土遺物
- P L 75 71.72.73.75号住居址出土遺物
- P L 76 77.78号住居址出土遺物
- P L 77 78.79号住居址出土遺物
- P L 78 82.83号住居址出土遺物
- P L 79 84.85.86.88.89号住居址出土遺物

P L 80 92, 93, 94号住居址出土遺物

P L 81 96, 97, 102, 105号住居址出土遺物

P L 82 3, 7, 10, 13, 17, 23, 28, 36, 37号住居址土鍤、支脚

P L 83 38, 37, 40, 42, 44, 47, 48, 52, 54, 55, 56, 58, 60, 61, 62, 65, 68号住居址出土土鍤

P L 84 69, 70, 75, 85, 86, 88, 91, 92, 104, 105号住居址出土土鍤、石器、砥石

P L 85 3, 6, 10, 20, 21, 34, 36, 37, 40, 41, 42号住居址出土石鍤、砥石、石器

P L 86 47, 48, 51, 53, 54, 58, 59, 63, 65, 68, 69, 75号住居址出土石器

P L 87 3号土坑出土遺物

P L 88 57号土坑出土遺物

P L 89 57号土坑出土遺物

P L 90 66号土坑出土遺物

P L 91 3, 61, 67, 27, 16, 17号土坑出土遺物

P L 92 28, 26, 38号土坑出土遺物

P L 93 6, 11, 27, 29, 68号土坑出土遺物

P L 94 14, 36, 28号, 3住～11住, 22住～28住, 32住～41住, 42住～49住, 50住～74住, 75住～93住土坑,  
住居址出土土器片鍤、土器

P L 95 現地説明会の風景（上, 下）

## I 位置と環境

本遺跡は、北浦村役場の西南側500m、標高34m程の台地上に所在している。遺跡は、役場付近から入り込む小支谷に南、東、北の三方が面し比較差25m程で水田面へ鋭角に移行する舌状台地で調査面積は12,000m<sup>2</sup>で六台遺跡の4割前後を占める。

遺跡は、北浦から直線にして1.2km程で山田地区浄水場付近には小地点貝塚も認められ本遺跡の主体は調査区の西側、エリア外に大半を置くと推定される。

調査区は、以前畑として利用されていたが10~20年前に山林となり大型機械の損傷を受けず遺存状態は比較的良好な状態を呈していたが西側では近年まで畑として利用されていたため覆土の大半を消失し床面のみの住居址が多かった。

本遺跡の北側500mには今山遺跡、北西側には古屋敷館址、東南側には平遺跡、古館跡が位置している。



第1図 遺跡周辺地形及び位置図

## II 調査経過

調査は、昭和63年5月17日から12月16日までの8ヶ月間実施した。整理は、平成元年6月12日から平成2年2月15日まで行なった。以下箇条書きに経緯を述べる。

- 5月16日 テント設営（仮）トレンチ設定し表土層除去、繩文上器片散見される。
- 17日 試掘に基づいてユンボによる表土層除去、北東隅部から開始する。
- 20日 表土除去5分の1程進む、プレハブ、テントの位置決定し移動、Gクイ打ち。
- 30日 表土除去ユンボはあと1日前後かーブレハブ移転完了。溝3条、住居址40軒程確認される。南側斜面部調査。切り合い関係の遺構が多い。
- 6月2日 Gクイ打ち、6割程終。
- 4日 調査区西側から1号住居址とし掘り込み開始、南側斜面調査続行、遺構なし。
- 10日 1号溝、3号住調査、南側斜面部遺構、貝塚等確認出来ず本日で終了とする。
- 15日 12号住まで調査進む、中央北側では6.8.11.15号住の4軒の切り合いとなる。
- 24日 降雨の為午前中で打ちきり、午後、水洗、注記作業（7名）調査は21号住まで。
- 29日 調査は、ほぼ順調、25号住まで進む。10号住1辺8m前後。
- 7月4日 26.27号住調査開始する。
- 8日 26.27号住ベルト除去、28号住は大型一辺8m前後。
- 15日 27.28号住電調査終了。29号住上層作図終了。31号住ベルト除去、33号住調査開始。降雨の為午前中。午後水洗、注記作業（6名）
- 20日 27.28号住完掘。35号住は？不明、37号住調査開始、降雨の為4時終了。
- 26日 5号溝調査開始、36号住遺物平面図作製、37号住土層図作製、ベルト除去。
- 30日 39.40.42号住調査開始、土坑は13号まで。
- 8月4日 5号溝一部残る。他はプラン確認作業を進める。
- 8日 5号溝エレベーション、42号住調査ほぼ、43号住終了、44.45号住調査開始、13日～16日までお盆の為休みとする。
- 20日 41号住遺物上げ、47号住遺物平面図、48号住調査開始、18.20.号土坑調査。
- 25日 53号住調査（41号住と複合）繩文、52号住あと1日前後か、20.21号土坑平面図
- 9月2日 51.52号住平面図終了、トランシット故障、56号住調査開始。
- 9日 54号住遺物上げ、57.59号住土層作図、60号住4区を除き床面検出。
- 16日 61.65号住調査開始、6号溝に切られた遺構、60号住土層作図終了。
- 21日 67号土層作図終了、ベルト除去、65号住土層作図準備。
- 29日 61.65号住遺物平面図、69号住調査、3分の2程進む、57号住平面図作製。

- 10月 3日 61号住エレベーション、平面図作製、66.69号住ベルト除去、68号住ほぼ。  
8日 69号住竪調査、74号住土層図作製、72号住調査、降雨の為午前中。  
14日 71号住竪調査、70号住遺物上げ、31～35号土坑調査開始。  
17日 68号住遺物上げ、74号住平面図作製、76号住調査開始降雨の為午前中。  
24日 68号住平面図作製、75.76号住竪調査、78.79.80.81号住調査開始。調査区西側の遺構  
はいずれも耕作の為覆土は5～20cm前後、床面のみも多い。  
29日 完掘写真65.42.68.67.58.63号住、80号住平面図作製、7号溝調査、40.44号土坑調査
- 11月 2日 78.82号住遺物上げ、89.90号住午後調査開始、39.40.41号土坑（粘土張り）平面図、  
エレベーション。  
10日 83.87.89.90号住エレベーション、50号土坑上層作図、51号土坑ベルト除去。  
15日 91号住土層図作製、92.93号住遺物上げ、92.93号住内芋穴掘込み、92号住には“たた  
ら”状焼土南側面に多量、鉄滓は極少量。  
22日 92.93号住エレベーション、94号住平面図作製、7.8号溝調査。  
26日 済水場東側調査区へ主力を移し表土除去、遺構確認作業へ。  
30日 98.99.100号住調査、105号住調査ほぼ、10号溝調査終了。
- 12月 3日 105号住土層作図、ベルト除去。100.102号土層作図、10号溝平面図作製。  
9日 住居址残りの完掘写真撮影、72.13.61.66.67.70号土坑調査。  
16日 現場説明会、参加者30名前後、調査は一部を残し終了。（写真、平面図）  
19日 写真、平面図等終了、本日をもって作業終了とする。
- 整理作業は、平成元年6月12日より開始し水洗い、注記、復元、実測と進めた。平成2年2月  
12日をもってすべての作業を終了した。

### III 調査の概要

本遺跡は、前述の様に三方を支谷に面する舌状台地部分と浄水場東側の台地平坦部の2ヶ所に別けられ舌状部分が11,000m<sup>2</sup>程の面積を有し大部分を占める。浄水場部分は500m<sup>2</sup>である。

遺構は、調査区のほぼ全面にわたって検出されたが中央部の最も高い部分と西側のゆるく傾斜を示す部分では少ない。分布状態を大きく大別すれば東南側、東側、中央部北側、中央部やや西側、南西側の5ブロックに分ける事が出来る。

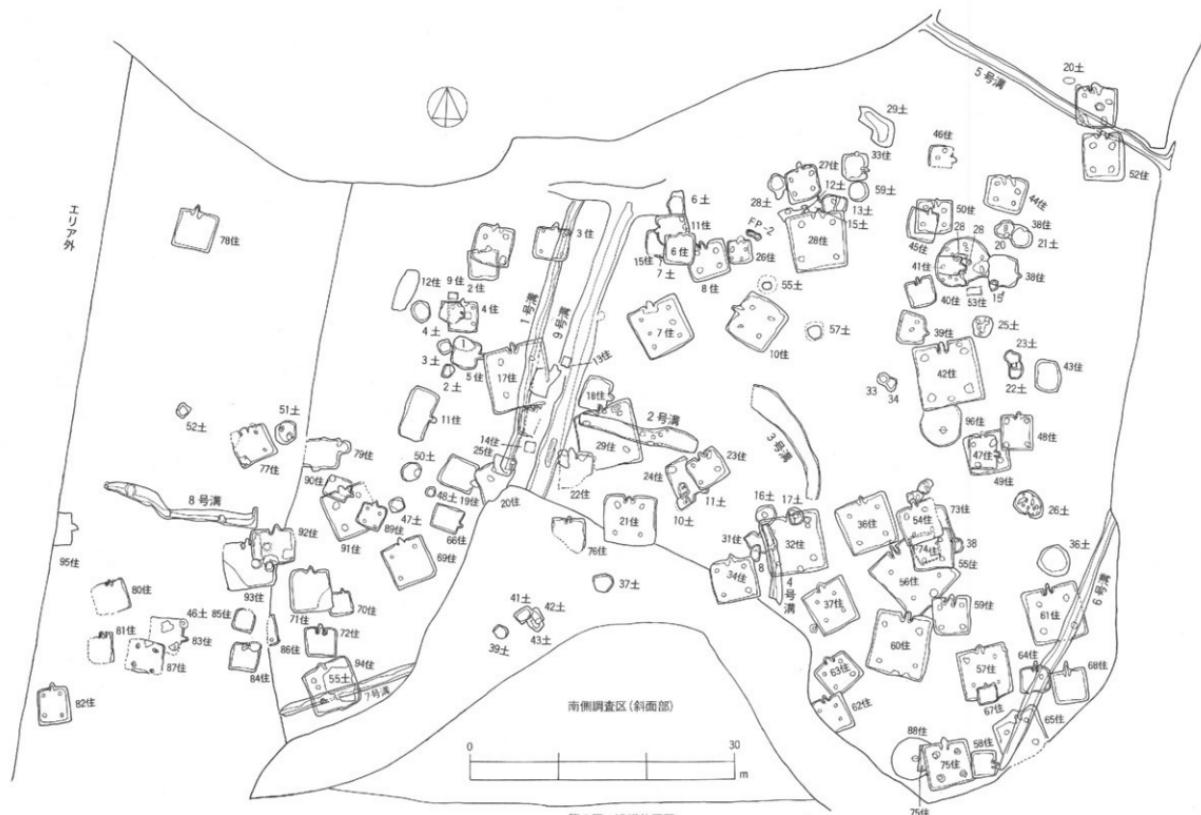
時代別に大別すれば縄文時代中期の住居址3軒、円形状プラン、土坑30基、古墳時代後期から平安時代にかけての住居址85軒、うち平安時代初頭に位置づけられるもの16軒、時期不明のもの3軒、土坑11基、中世期の粘土張り土坑5基、溝11条、墓壙と考えられるもの3基、その他時期不明のもの10基などが主な遺構である。

遺構を概観すれば縄文中期の住居址は円形状プランで径6m前後、炉址を有する。プラスコ状土坑が7基検出され3.57.66号土坑からはかなりの遺物が検出された。(阿玉台II式前後) 古墳時代の住居址は一辺8m前後の大型のものは数軒認められ主柱穴を6本もつものも認められ主軸はやや北西方向、5m前後のプランを有するものは北西方向に主軸を置くものと北側に主軸を置くものとに分かれ、5m以下のプランを有するものには長方形状を呈するものが多く、主柱穴を有しないものも多い。長方形状プランを有するものは東側に竈を構築するものが多く半円形状に外部へ張り出している。これらは袖部は明確ではなく、掘り込みはいずれも浅い。土坑は、明確なものはなく出土遺物から判断して本時期と思われるものでプラン等に共通点は有しない。

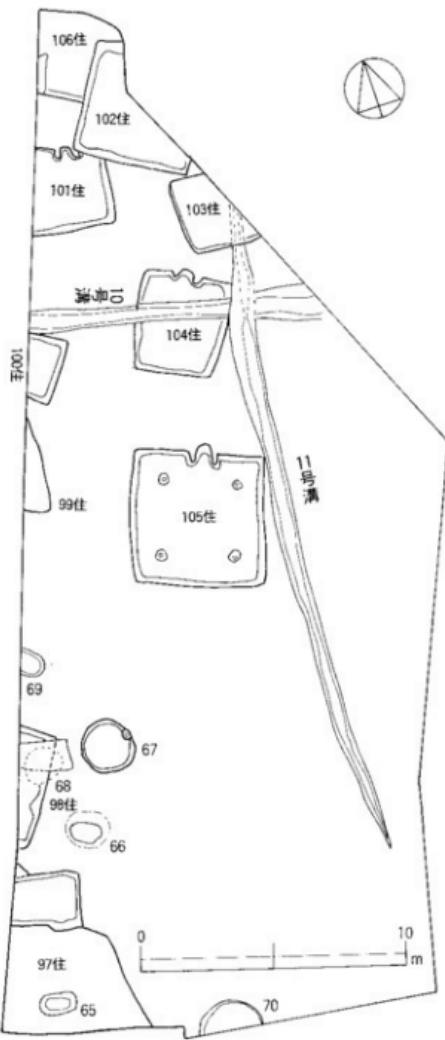
中世期の粘土張りの土坑はいずれも隅円長方形状で底部はゆるいU字状を呈する。粘土は5cm程の厚さを有する。

溝は、11条検出された。3条はそれぞれ台地隅部に認められU字状掘り込みで部分的ではあるが方形状構成を呈する。館址?屋形状か・・・。その他は不規則な位置、掘り込みで相互の関係は認められない。

その他墓壙と考えられるものが3基程認められた。



第2図 道標位置図



第3図 造構位置図（浄水場東側）

## IV 遺構と遺物

### 1. 住居址

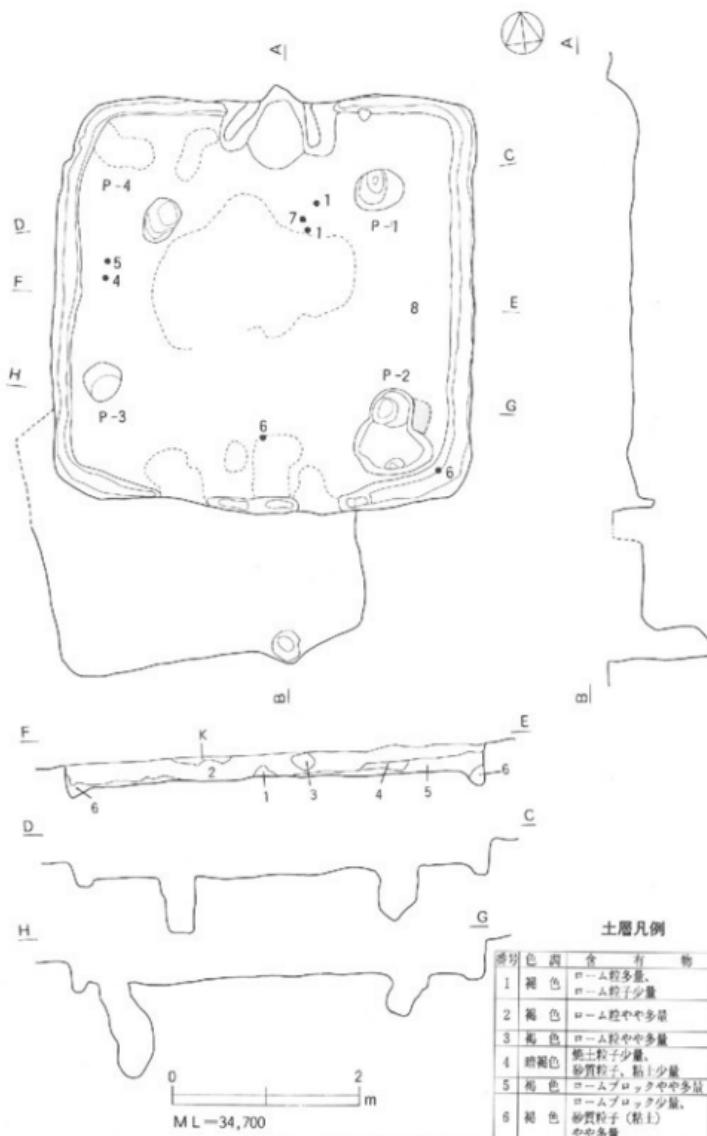
#### 第1号住居址（第4・5・6図）

本地は、調査区の北西侧1区、K-10・11グリットを中心に確認された住居址で台地は西、北側に緩く傾斜を示す位置に検出され、北側7mには支谷が入りこみ位置的には最も北側に占地している。南側の2号住居址の大半を掘り込み東側4mには3号住居址が位置している。主軸をN-7°-Eに置き、東西4.54m、南北4.38m、隅部のやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は垂直に近く立ちあがり深さは18cm～34cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが南側の一部は砂質粘土が多く見られ貼床、壁面周辺部はやや弱い。柱穴は4ヶ所認められたがP3・4はやや位誤がずれた状態、P1は52cm×45cmの楕円形状、深さは55cm、底部はV字状、P2は45cm×42cm、深さ45cmやや斜めに掘り込むP3もほぼ同様であるが深さは1mを測る。P4は50cm×38cm、深さ57cm円筒状に掘り込む。周溝は幅10cm～20cm、深さ10cm～15cmでU字状に巡る。

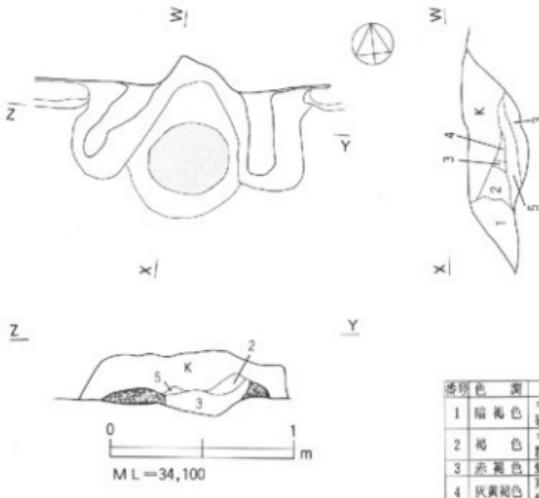
竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は悪く、袖部は「ハ」の字状に開き短く付設している。火床部は前面に位置し若干掘り込み、煙道部は緩やかに立ち上がる。外部へは「V」字状に掘り込みV字形態をしている。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土、灰褐色の粘土上を用い葉かね粘性はややあるが攪乱がひどく明確な形態は認めなかった。

覆土は、レンズ状にほぼ自然埋積の様相を呈し8層に分類された1～3・5・6層は褐色、4・7層は暗褐色、8層は灰褐色、7層は砂質粘土粒子、焼土粒子を少量含む。各層共縋まりはある。

遺物は、やや多く認められ住居址全体に散在して検出されたがいずれも細片である。1・2は土師器、3～8は須恵器、土師器は口縁部が水平に近く開き口唇部は、上方へ丸く揃み出している。2は平底から開いて立ちあがり甌に近い。3・5・6は須恵器杯、口径と底径の差は小さい。何れも底部は回転窓切り、ナデ調整が認められ体部下端に窓削りを認める。7は高台部がやや長日「ハ」の字状に張る。8は天井部の膨らみは弱くカエリはなく、つまみは扁平化している。



第4図 第1号住居址実測図



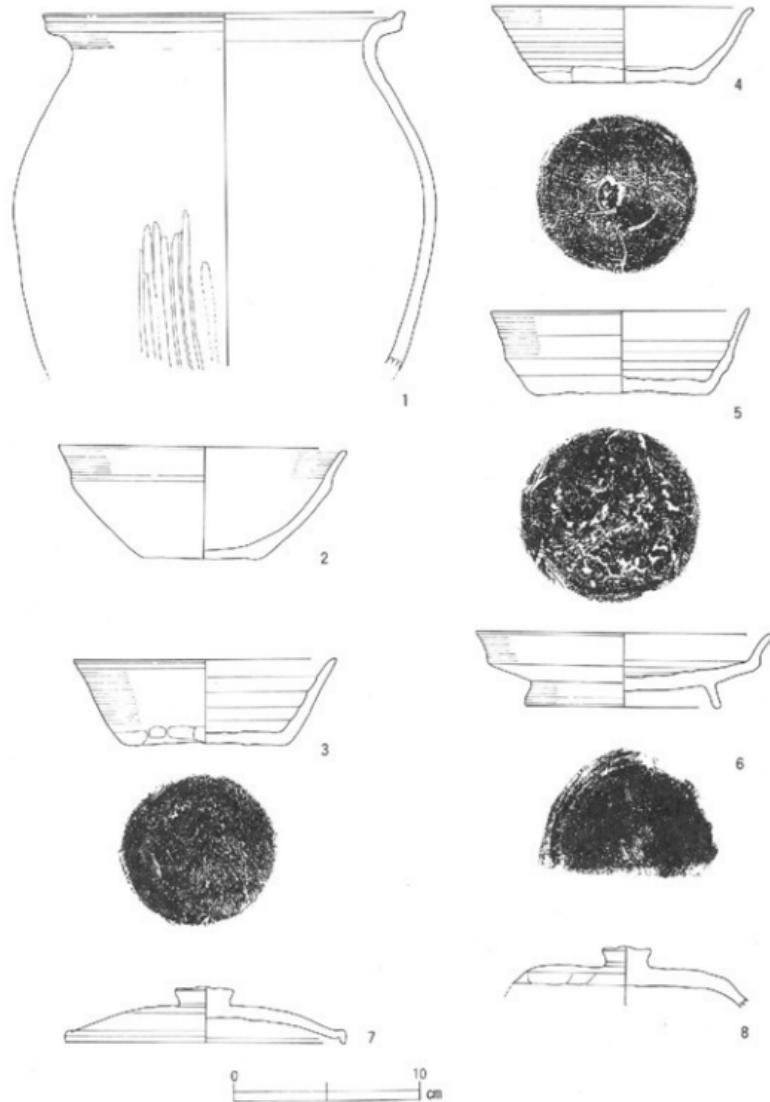
第5図 第1号住竈実測図

### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 19.5 B C	最大径を胴部上位に置き、口縁部水平に近く開き、口唇部上方へ丸くみ出す。器肉は薄い。	横ナデ、ナデ 笠削り型(下位)	礫、雲母 にぶい橙色 普通	15 % + 10
2	碗 土師器	A 15.4 B 6.0 C 6.4	安定した平底からゆるやかに開いて立ち上がり到部に弱い張りをもち、口縁部は開き薄い、口唇部は丸く収める。(二次焼成削落)	横ナデ、ナデ 底部ヘラナデ	礫 淡い橙色 や不良	20 % 竈内
3	环 須恵器	A 14.1 B 4.5 C 8.7	安定した平底から開いて器肉を減じて外反、成形痕を消し直線的に立ち上がり口唇部は開いて丸く収める。	巻上げ?回転台 底部削り、笠調整 右廻り	礫(1~3 mm) 褐色 や良	60 % 床直
4	环 須恵器	A 14.0 B 4.1 C 8.1	安定した平底から体部が弱く張りながら立ち上がり口唇部外反し薄く、丸く収める。体部の器肉は薄い。成形板消し。	巻上げ? 内面ナデ 底部削り、笠調整 回転台、左廻り	礫、雲母 灰白色 普通	60 % 床直
5	环 須恵器	A 13.8 B 4.4 C 9.4	安定した平底から体部が弱く張りほぼ直線的に立ち上がる。内外とも体部下位に成形痕を残している。口唇部薄く尖り気味。	巻上げ、ナデ 底部削り 笠切り、回転台 左廻り	礫、雲母 褐色 普通	60 % 床直
6	盤 須恵器	A 16.0 B 4.0 C 10.2	付高台は短めで薄く、「ハ」の字状、底部はゆるく立ち上がり氣味で口縁部外傾し丸く収める。	巻上げ、ナデ、笠削り 回転台 左廻り	礫 褐色 良	60 % + 10

### 土層凡例

名前	色調	含有物	性質	通り
1	暗褐色	ローム粒や多量 砂質粒子少量	無し やや 有り	
2	褐色	ローム粒多量、 粒子・粘土粒子少量	〃	〃
3	赤褐色	粘土粒子や多量 粘土粒子少量	〃	〃
4	灰黄褐色	粘土多量、 粘土粒子少量	弱い 弱い	
5	暗褐色	粘土粒子少量	無し	〃



第6図 第1号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調、焼成	備考
7	蓋 須恵器	A 15.0 B 3.0 C 3.1	天井部のフクラミは弱く、口端部一旦ふくらみ下位に鋭角的、断面三角形状内面に凹部ありカエリはない。つまみは扁平化、貼付。	巻上げ、ナデ 回転台 左廻り	擦(1~3mm) 石英 褐色 やや良	90 % 床 直
8	蓋 須恵器	A B C 2.5	天井部のフクラミは強いと思われる。口端部欠失、つまみはやや顯著に残り宝珠形状貼付、調整粗雑。	巻上げ、ナデ、箆削り 回転台	擦 褐色 やや良	30 % + 20

## 第2号住居址（第7図）

本址は、1号住居址の南側1区、L-10・K-10グリットを中心に確認された住居址で台地は西側に傾斜を示す面に位置し検出され大半を1号住居址に掘り込まれた遺存状態は悪い。主軸をN-7°-Wに置き、東西3.3m、南北2.9mのやや長方形形状プランを呈している。壁面は、ほぼ鋭角に立ちあがり深さは32cm~40cmを測る。床面の大半は1号住居址の下部から検出され窓の前面を中心に踏み固められていたが周辺部は悪く中央部に1号住居址の周溝が入り凹凸が見られる。柱穴は認められず南側、北側に円形状の70cmほどの深さを持つピットが認められた。周溝はほぼ一周して認められやや深く広い。

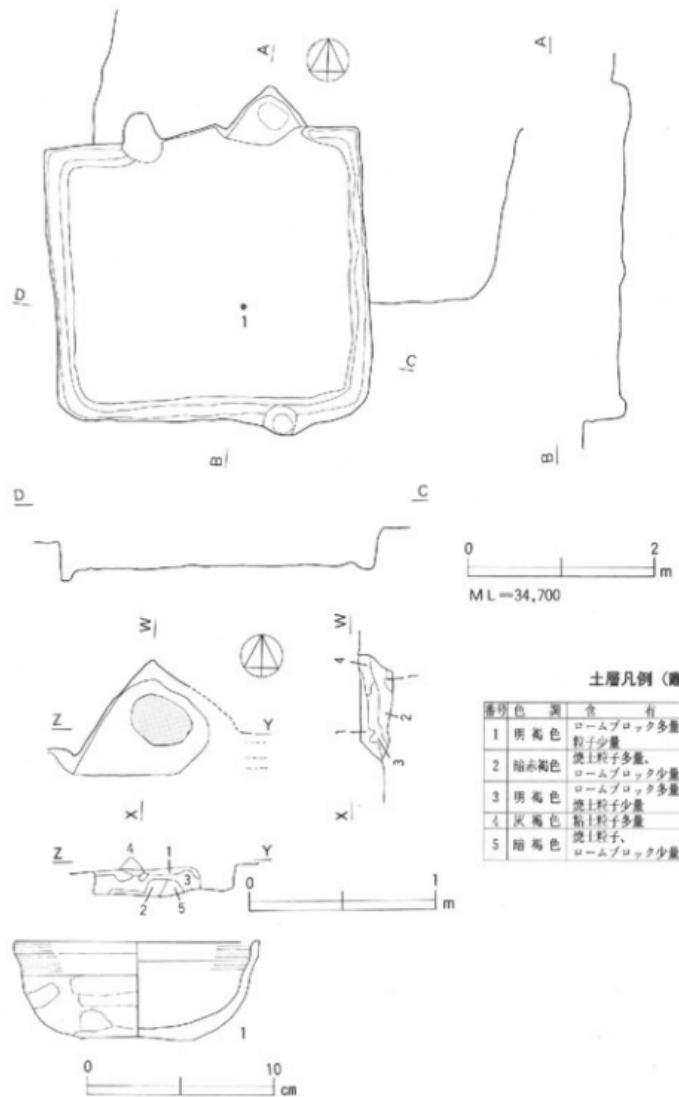
窓は、北壁中央部東側に位置し、遺存状態は悪く押しつぶされた様な状態で検出された。火床部と思われる焼土粒子を多量に含む層が認められ、これを本址の窓と推定した。遺存状態が不良の為形態は不明、ハート状形態を呈するか？

覆土は、5層に分類されたが何れも1号住居址の投げ込みの感が強い。1層は1号住居址の床面で黒褐色、締まりは強い。2層は、明褐色ローム粒子を含む。3層は、褐色、砂質粒子、粘土を多く含む。4層は暗褐色ローム粒子、焼土粒子を少量含む。5層はロームブロックを多量に含み粘性、締まりは強い。

遺物は、少なく総数50片程度でいずれも細片である。図示した1は土師器壺でやや深め口縁部ナデ、体部は箆削り、口縁部は外反気味で口唇部は尖る。

## 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調、焼成	備考
1	碗 土師器	A 12.3 B 5.2 C 6.1	平底から内側に器肉を減じながら立ち上がり口縁部は直立気味、口唇部や開き気味やや粗雑な作り。	横ナデ、ナデ 箆削り	擦、砂 淡い橙色 やや不良	50 % 床 直



第7図 第2号住居址、竪、出土遺物実測図

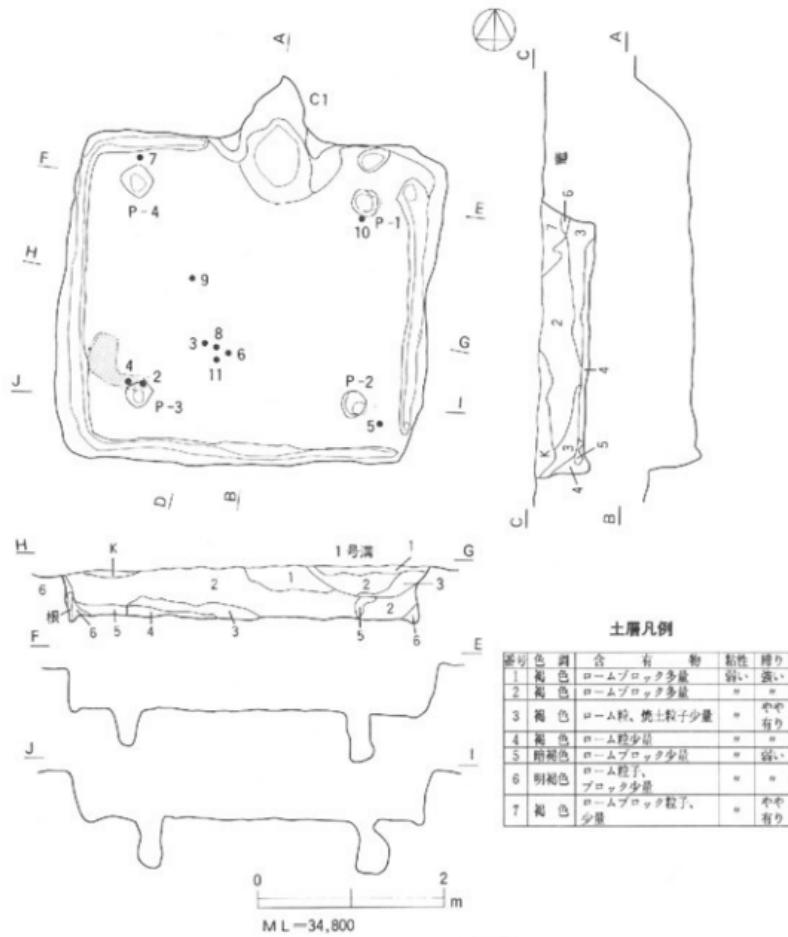
### 第3号住居址（第8・9・10図）

本址は、1号住居址の東側1区、M-9・10グリットを中心に確認された住居址で台地はゆるく西側に傾斜を示す位置に検出された。東側は壁面に沿ってU字状に1号溝の掘り込みが認められたが床面には到達していない。主軸をN-5°-Wに置き、東西3.9m、南北3.5mの東西に45cm程長い、隅部のやや丸みをもつ長方形プランを呈している。壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは40cm～65cmを測り東側は溝に因る変形が認められた。床面は竈の前面を中心良く踏み固められていたがわずかに壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所確認されいずれもU字状の掘り込みを呈し、P1は30cm×28cm、深さ54cm、P2は30cm×25cm、深さ56cm内部で膨らむ。P3は28cm×25cm、深さ54cm、P4は30cm×32cmで方形状、深さ42cmが検出されたがほぼ深さ、掘り込み形態にそれ程の差違は認められない。周溝は、竈東側の一部残し一周しU字状形態で掘り込み幅10cm～20cm、深さは5～15cmを測る。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良く袖部は逆八の字状に短く付設。火床部は中央部に位置し床面と水平、外部へはU字状に掘り込まれ煙道部は垂直に近く立ち上がる。形態的には[U]の字状形を呈している。袖部は砂質のやや多い黄褐色の粘土を用い築かれ、粘性は強く内側は赤くレンガ状を呈していた。

覆土は、東側を1号溝に掘り込まれている他はほぼ自然堆積の様相を呈し6層に分類された。5、6層を除き何れも褐色層、これはローム粒子、ロームブロックの混入の差である。

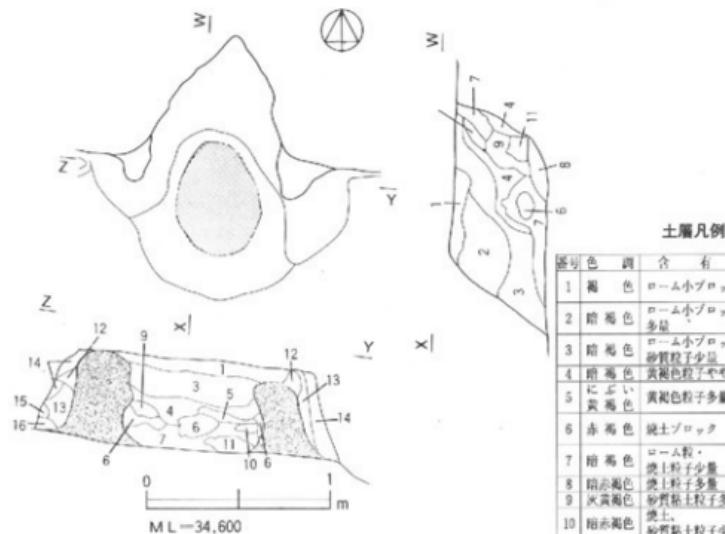
遺物は、中央部南側にやや多くみられ須恵器の出土が多い。図示した遺物は1を除きすべて須恵器である。1は竈内から出土したもので鍋に近い形態、2は安定した平底ナデ調整3.4も同様で高台は貼付、やや短め、張りは強い。6～8は蓋で天井部の膨らみはややあり、カエリは無い。6はやや大型、7を除きつまみは欠失。9は巖石、10は紡錘車、11は土製の丸玉で粗雑な作り、遺物は総じて少ない。



出土土器観察表

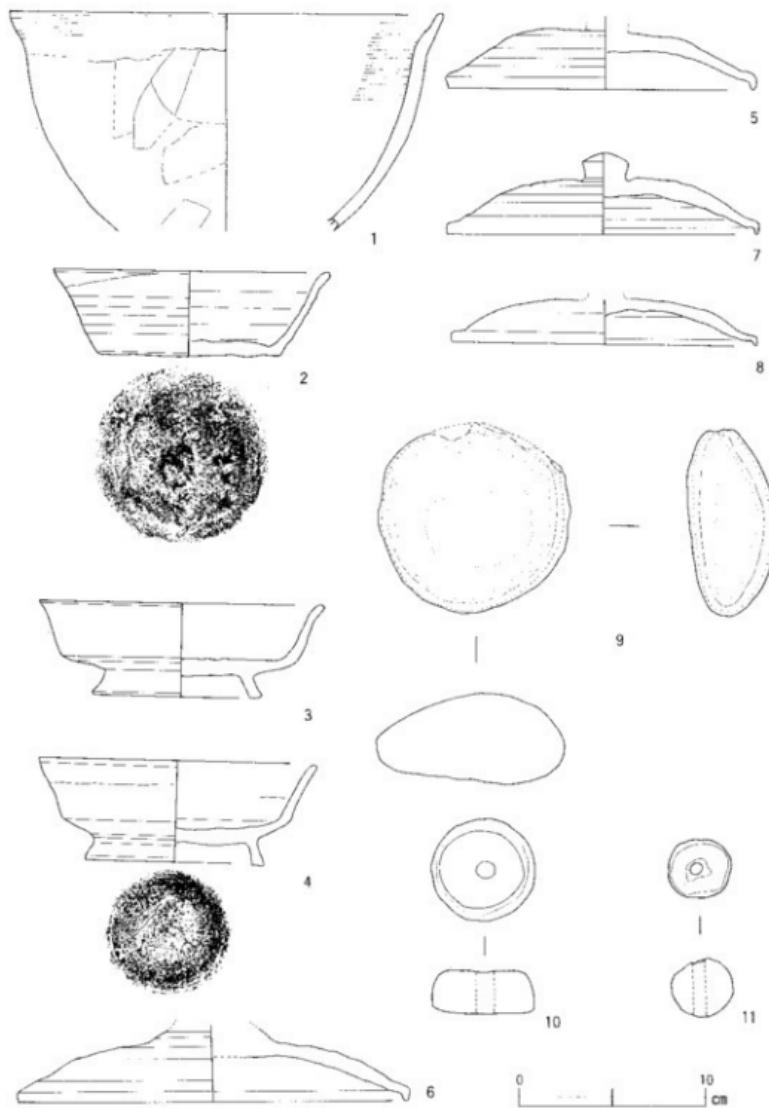
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎上	色調	焼成	備考
1	鉢 土師器	A 23.2 B C	小さな平底と思われる底面から内側して立ち上がり口縁部外反、口唇部丸く收める。輪幅 痕を残す。(内面丁重な横ナタ)	横ナタ、横位の範削 り	礫 浅い橙色	普通	10 % 電内	

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	环 須恵器	A 14.8 B 4.5 C 9.8	安定した平底から立ち上がり口唇部肥厚し、外反、底部凹削り、内側底部との間に回みが巡る。	巻上げ、荒削り 回転台 左廻り	礫、墨母 灰褐色 やや良	80 % 床 直
3	高台坏 須恵器	A 15.3 B 5.1 C 8.2	高台は「く」の字状に強く張る。やや長目、底部は水平に移行、体部は直線的に開いて立ち上がる。口唇部肥厚し丸く収める。	巻上げ 回転台、高台貼付 左廻り	礫(1~4mm) 青灰褐色(褐色) 良	60 % 床 直
4	高台坏 須恵器	A 14.8 B 5.4 C 8.6	3に比べ高台部の張は弱い、やや長目に貼付、口縁部は直線的に立ち上がり口唇部外傾し丸く収める。	巻上げ、ナデ 回転台、内部に巻上痕を残す。	礫(1~3mm) 褐灰色 やや良	50 % + 10
5	蓋 須恵器	A B C 16.6	天井部のフクラミはややある。端部は内傾気味、断面三角形状、つまみは欠失する。	巻上げ、ナデ、 回転台、つまみ貼付	礫(1~3mm) 灰褐色 やや良	95 % + 15
6	蓋 須恵器	A B C 21.0	蓋になると思われる(高台皿?の可あり)端部はやや内傾よりやや丸味をもつフクラミは弱く退化したカニリと思われる部分あり。	巻上げ、ナデ、 回転台、つまみ貼付 左廻り	礫(1~4mm) 黒褐色(灰白色) 良	40 % + 20



第9図 第3号住居実測図

土層凡例				
逐号	色	含 有 物	性	硬
1	褐 色	ローム小ブロック少量	無し	やや 有り
2	暗 褐 色	ローム小ブロックや砂 多量	弱い	#
3	暗 褐 色	ローム小ブロック・ 砂質粒子少量	やや 有り	強 い
4	暗 褐 色	黄褐色粒子や多量	#	#
5	黄 褐 色	黄褐色粒子多量	強 い	#
6	赤 褐 色	粘土ブロック	無し	やや 有り
7	暗 褐 色	ローム・ 塵土粒子少量	弱 い	#
8	暗赤褐色	塵土粒子多量	無し	弱 い
9	灰 黄褐色	砂質粘土粒子多量	強 い	強 い
10	暗赤褐色	砂質粘土粒子少量	弱 い	#
11	暗 褐 色	塵土粒子・炭化粒子、 砂質粘土粒子多量	無し	弱 い
12	褐 灰 色	粘土粒子や多量	強 い	強 い
13	灰 黑 色	粘土粒子・小石少量	やや 有り	#
14	褐 色	ロームブロック少量	ロームブロック	#
15	暗 褐 色	やや多量	弱い	強 い
16	暗 褐 色	ローム小ブロック少量	#	#



第10図 第3号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
7	蓋 須恵器	A 2.5 B 4.5 C 16.6	天井部はフクラミはややあるがカエリはない 5に比べ口端部は鋭角、尖る。つまみは宝珠 形で貼付、丸味をもつ。	巻上げ、ナデ 回転台 左廻り	礫(1~3mm) 褐色 やや良	60 % + 11
8	蓋 須恵器	A B C 16.4	天井部は6よりフクラミは弱く、口端部は短 く鋭角、カエリは消滅つまみは欠失、端部は 短く水平に伸びる。	巻上げ、ナデ 回転台 左廻り	礫(1~3mm) 褐色 やや良	50 % 床直

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
9	敲石	10.4	10.2	4.4	680	安山岩	+ 12	
10	訪耕車			2.3	73	土製	床直	一部孔部欠、ナデ押え、孔部内気味、ほぼ完
11	上鍬	3.2	3.4	0.7	30	~	+ 11	不整形球状、孔部内形

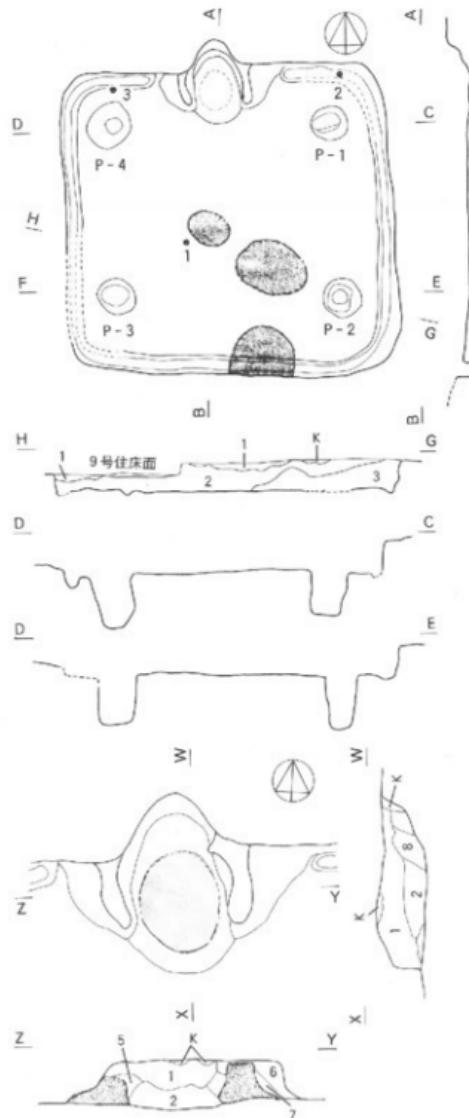
## 第4号住居址（第11・12図）

本址は、2号住居址の南側1区、L-11・12グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるく西側に傾斜を示す位置に検出された。西南側4分の1程の覆土は9号住居址に掘り込まれていたが床面には到達していない。主軸をN-3°-Wに置き、東西3.5m、南北3.35m隅部が丸みをもつ方形プランを呈し壁面はほぼ鋭角に立ち上がり、深さは10cm~30cmを測る。床面は竈の前面を中心良く踏み固められていたが僅かに壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。中央部に砂質粘土粒子の散在が見られ、周溝はU字状形態で幅10~15cm、深さ5~10cm欠失部分を除いて巡る。柱穴は隅部に4ヵ所確認されいずれも円筒状の掘り込みを呈し、P 1は40cm×35cm、深さ50cm、P 2は径40cm程、深さ56cm、P 3は40cmの円形状、深さ50cm、P 4は52cm×45cmの長形状、深さ60cmが検出された。深さ、掘り込み形態にそれ程の差違は認められない。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は悪く袖部は逆ハの字状に長目に付設。火床部は中央部に位置し僅かに掘り込む、外部へは半円状に掘り込み煙道部は開いて立ち上がる。形態的には[U]の字形状を呈している。袖部は砂質のやや多い褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。内側は赤くレンガ状を呈していた。床面は貼床である。

本址の下部5cmは4Aとした掘り込みを認めたが調査の結果明確な遺溝、遺物は確認出来ず本址の掘り込み部と理解した。（柱穴、周溝、竈等）

覆土は、レンズ状の自然埋積を示し8層に分類された。1層は暗褐色、砂質粘土粒子を含む。



土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	繊り
1	暗褐色	砂質粒子少量、リーム粒少量、無し	弱い	弱い
2	褐色	リーム粒、炭土粒少量、弱い	弱い	弱い
3	褐色	リームブロックや多し、無し	弱い	弱い

0 2  
m  
ML = 34,600

土層凡例

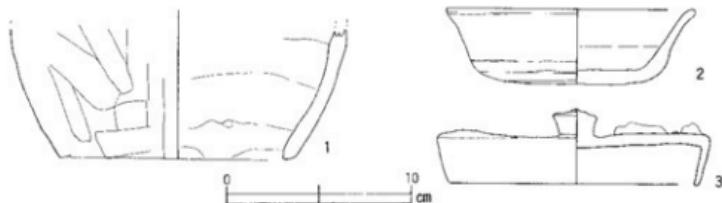
番号	色調	含有物	粘性	繊り
1	暗褐色	砂質粒子(粘土)や多量、無し	弱い	弱い
2	暗赤褐色	炭土粒少量、リームブロックや多量、無り	弱い	弱い
3	黒褐色	炭化粒子少量、無し	弱い	弱い
4	赤褐色	無土粒子多量、無し	強い	強い
5	暗赤褐色	無土粒子多量、無り	やや	弱い
6	褐色	黄褐色砂質粒子多量、無り	弱い	弱い
7	褐色	黄褐色砂質粒子少量、無り	弱い	弱い
8	暗赤褐色	炭土粒子、炭化粒子多量、無し	弱い	弱い

0 1  
m  
ML = 34,500

第11図 第4号住居址、竪実測図

(9号住の竈) 2、3層は褐色、これはローム粒子、ロームブロックの混入の差で大半を占める。

遺物は、床面から出土したものの大半は縄文式土器であった。1は孔部断面三角形状の竈底部、調整は窓削り2、3は須恵器で2は器肉を減じて立ちあがり口唇部肥厚外反、竈東側床面から出土、3は顕著な凝宝珠つまみをもつ蓋で口端部は鋭角に長く伸びる。上面には灰釉を認める。焼成は良く緑灰色を呈する。搬入品と思われる。



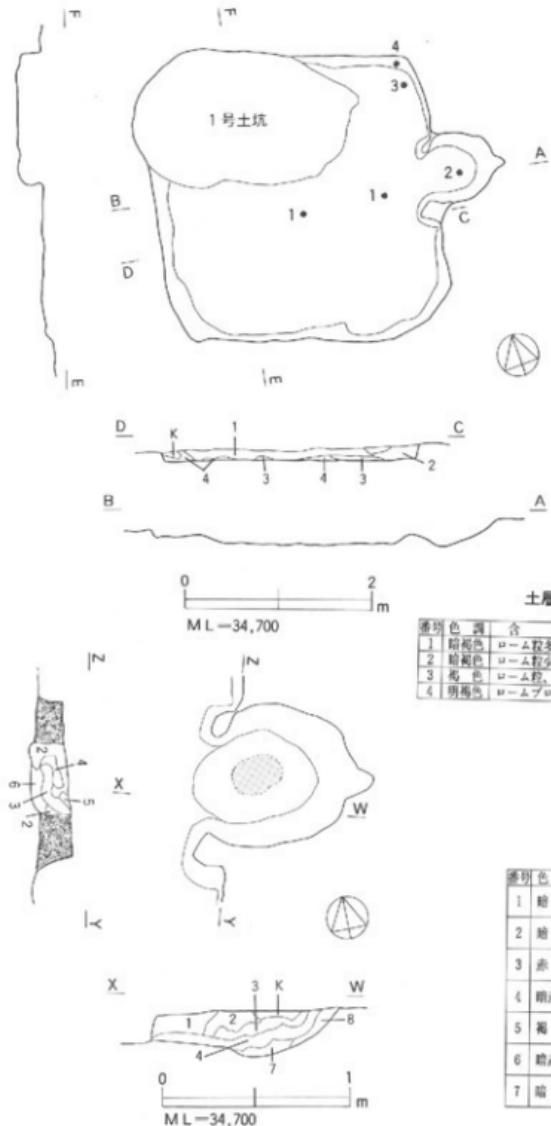
第12図 第4号住居址出土遺物実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	竈 上部器	A B C 12.5	孔部近くで若干肥厚、断面三角形状、内外ともやや粗雑な調整。	窓削り (斜位、継位、横位) ナデ	礫 淡い橙色(暗褐色) 普通	5 % + 4
2	壺 須恵器	A 13.5 B 4.0 C 6.5	やや不安定な底盤から聞いて立ち上がり口唇部肥厚、外反、丸く吸める。底部、体部下位はやや8~9mmと厚い。	巻上げ、窓削り ナデ、回転台 左廻り	礫、安母 灰褐色 普通	40 % 床直
3	蓋 須恵器	A 2.3 B 4.1 C 13.4	口縁部は2.3cmと長く、内頬薄い。上部に灰釉、宝珠つまみは形態化していない、貼付。	巻上げ?横ナデ ナデ、回転台? 左廻り	礫 緑黄褐色 良	60 % 床直

#### 第5号住居址 (第13・14図)

本址は、4号住居址の南側1区、L-14グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるく南側に傾斜を示す位置に検出された。西北側には1号土坑が全体の3分の1程を掘りこむ。主軸をE-15°-Sに置き、東西2.9m、南北2.9mやや変形な方形プランを呈しすると推定される。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり、深さは南側で5cm東側で13cm前後と浅い。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝、柱穴は確認されない。



第13図 第5号住居址、竈実測図

覆土は、自然埋積と理解され4層に分類された。暗褐色、褐色、明褐色、粘性は弱いが縮まりは強い。

竈は、東壁ほぼ中央部に検出され遺存状態は比較的良好袖部を僅かに付設。火床部は中央部に位置し僅かに掘り込む、外部へはU字状に70cm程掘り込み煙道部はゆるく立ち上がる。形態的には〔U〕の字形状を呈している。袖部は灰褐色の粘土を

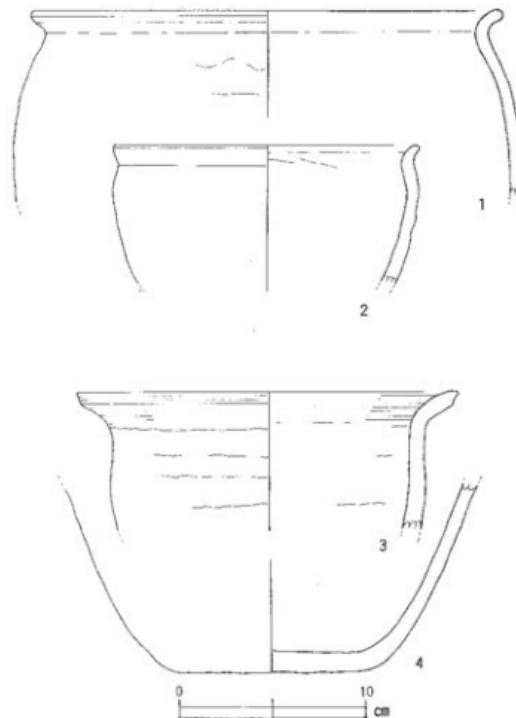
#### 土層凡例

#### 土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	縮り
1	暗褐色	ローム小ブロック、黄褐色砂質粒子少量	弱い	強い
2	暗褐色	燒土粒子やや多量、黄褐色砂質粒子少量	やや有り	"
3	赤褐色	燒土粒子多量、黄褐色砂質粒子少量	強い	やや有り
4	暗赤褐色	燒土粒子、ローム粒少量	弱い	弱い
5	褐色	砂質粒子(粘土)やや多量	"	強い
6	暗赤褐色	燒土粒子やや多量、灰化粒子少量	"	弱い
7	暗褐色	燒土粒子、ロームプロック少量	"	強い

用い築かれ粘性は強い、内側は赤くレンガ状を呈していた。住居内へは僅かに10cm～20cmで竈の主体は外部に位置し灰褐色粘土を張り付ける。本竈形態は本遺跡では数例認められた。雲母片岩は竈の袖の補強材と支脚の替わりとして利用された感じで出土した。

遺物は、縄文式土器、雲母片岩が大半であり総体的に少なく50片程度で、竈内部、周辺からのお出であり、竈は口唇部がつまみ出しのものは確認出来ない。



第14図 第5号住居址出土遺物実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎上、色調、焼成	備考
1	竈 土師器	A 25.2 B C	口径の大きい長胴形の形態か、口縁部は短く外反、口唇部は丸く収める。	ナデ、輪積痕を残す	礫、雲母 暗い棕褐色 やや不良	100 % 床直
2	小型竈 土師器	A 16.4 B C	口径が大きい鉢に近い形態、頸部はやや強く口縁部は短く外反、口唇部丸く収める。外面剥落多し。	ナデ、調整粗雑 (内面は丁寧なナデ)	礫 暗い赤褐色 やや不良	10 % 竈内
3	瓶 土師器	A 20.0 B C	口径を最大径にして他は長胴形状の器形を呈する。瓶になるとと思われる。口唇部は水平方向にわずかにつまみ出している。	横ナデ、輪積痕を残す、粗雑	礫、雲母 黄褐色 やや不良	5 % 床直
4	竈 土師器	A B C 10.5	安定した底部から内側に立ち上がり長胴形状の器形を呈するものか、二次焼成がひどい。	外面粗雑、焼割り?	礫 灰褐色(暗灰色) やや不良	10 % + 3

### 第6号住居址（第15・16・17図）

本址は、3号住居址の南側1区、S-11・12グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。東側は8号住居址、北側で12号住居址、西側で15号住居址の床面を掘り込み構築され本群の住居址の中では最も新しい時期のものである。主軸をN-2°-Wに置き、東西3.4m、南北3.2mの隅部が丸みをもつ方形プランを呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは50cm前後を測る。床面は竈の前面を中心良く踏み固められていたがわずかに壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行し炭化物が散在して認められた。周溝はU字状形態で幅10~15cm、深さ5~10cmで一周し竈の両側で消失する。柱穴は確認されず若干の掘り込みが見られたがこれらは他の切りあい関係の柱穴と推察される。

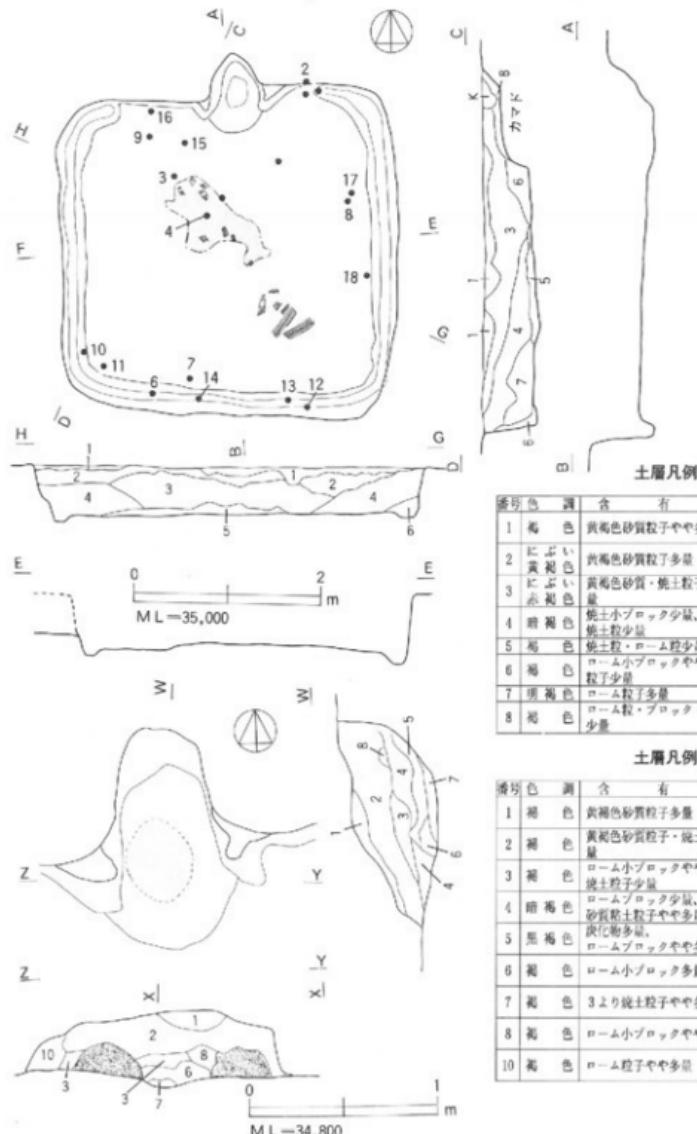
覆土は、13層に分類された。1層は暗褐色2、3層は褐色、4層は暗褐色、5層以下は黒褐色で炭化粒子、物を多量に含み5層を除き埋積状態から人為的と理解され繊まりは各層ともある。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良く短い袖部は「ハ」の字状に付設、焚口部は僅かに狭く、外部へはU字状に掘り込み煙道部の立ち上りは緩やか、黄灰褐色粘土を用いて構築している。

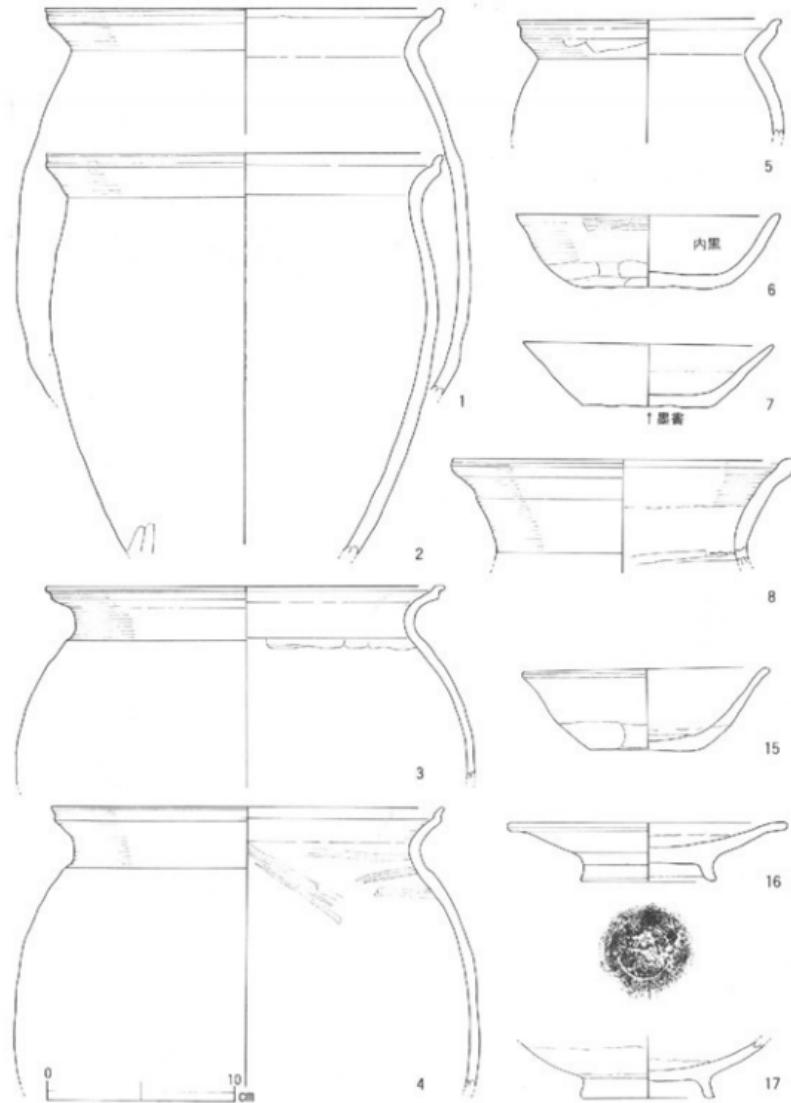
遺物は、竈周辺と東、西側から須恵器等が出土、量的にはやや多く認められほぼ平均して散在し、検出されている。壺は何れも口唇部はつまみ出しや長円、丸みを持ち「く」の字状に外反、胴部は、長胴形のものと球胴形に近いものも見られるが器肉は薄い。須恵器の瓶は斜め、横位の平行叩き目を持ち二種類の叩き目が認められる。底部は鏗削りがなされ口縁部は水平に短く開く口唇部は僅かにつまみ出し状。底、孔部は中央部に円形周辺に長円形の五孔形態、粘土巻き上げ、輪積？。环はすべて底径と口径が約倍に近い形態、底部鏗削りナデ調整のものもみられるが回転鏗切り痕をそのまま残すものも見られる。そのほか三角形状の砥石が検出され一面に使用痕が認められかなり使いこまれている。

出土土器観察表

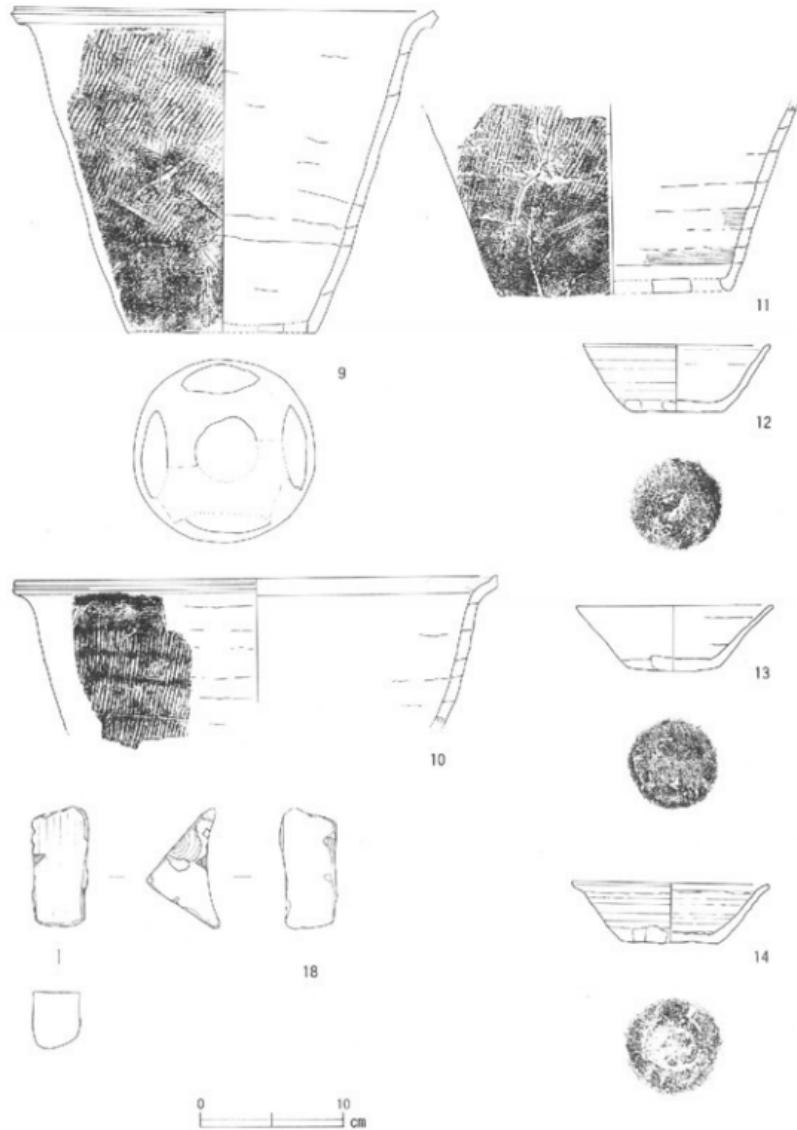
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土	色調	焼成	備考
1 上部器	壺	A 21.3	頭部「く」の字状、口縁部やや肥厚、短い口唇部は上へ丸くつまみ出し最大径を制限位におく長胴形か。	横ナデ、ナデ粗雑	陶	暗褐色	20 %	竈内
		B				暗褐色		
		C				やや不良		
2 上部器	壺	A 21.1	頭部窪くくびれ、口縁部短く、口唇部上方へ長目につまみ出す。器肉は薄い、外面粗雑。	横ナデ、ナデ鏗削り	陶、長石、雲母	暗褐色	20 %	床直
		B						
		C				やや不良		



第15図 第6号住居址、縦実測図



第16図 第6号住居址出土遺物実測図



第17圖 第6号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法覚(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
3	環土師器	A 21.3 B C	器内は薄く肩部に調整ハミダシの穂状をもつ、口縁部く口唇部斜上方へつまみ出す。丸味をもつ。	横ナデ、ナデ	礫 淡い赤褐色 普通	10 % + 5
4	環土師器	A 21.0 B C	器内は薄く頸部「く」の字状、口唇部は一端立ち上がり横位に丸くつまみ出す。	横ナデ、ナデ 細い箇状工具で横位に調整	礫、長石 におい桜色 普通	30 % + 17
5	小型環土師器	A 9.0 B C	小型カメで頸部「く」の字状外反、口唇部斜上方へつまみ出し丸味をもつ。	横ナデ、ナデ	礫、雲母 暗褐色 普通	10 % 覆土
6	環土師器	A 14 B 3.9 C 3.7	内黒、施磨き状、丁重な調整平底からゆるく内彎して立ち上がり、口唇部外傾、丸く收める。	巻上げ、施磨き、内黒 底部ヘラ調整 回転台	礫、雲母 におい桜色(内黒) やや良	80 % + 15
7	環土師器	A 13.3 B 3.4 C 6.8	平底から体部が弱く張り口唇部薄くなり丸く收める。底部「龍」の字状墨書きあり。	内黒細い施磨き、 ナデ回転台	礫、石英 暗褐色(内黒) やや良	20 % + 15
8	蓋須恵器	A 16.1 B C	口縁部外反、口唇部肥厚し丸く收める。内面に巻上げ痕残す。	巻上げ、横ナデ、ナデ 笠削り、回転台	礫、雲母 灰褐色 やや良	20 % + 16
9	蓋須恵器	A 27.0 B 22.8 C 13.3	孔部5孔、中央部円形、他は三ヶ月状、直線的に開いて立ち上がり口縁部は短く断面一角形状。	輪積痕？巻上げ 平行叩目、笠削り ナデ	礫、長石 暗褐色 普通	60 % + 5
10	蓋須恵器	A 34.0 B C	口径の大きい瓶で孔部に直線的に移行するものと思われる。粘土結晶上げ痕を明確に残す。	外面縦位の平行叩き 内側ナデ	礫、雲母、石英 暗褐色 普通	5 % + 18
11	蓋須恵器	A B C 16.3	底部は6孔になると推定され9とはほぼ同様な器形を呈すると思われる。輪積痕を明瞭に残す。外面叩き、10と同一個体か。	横ナデ、笠削り 輪積み、平行叩き	礫、石英 褐灰色 普通	15 % + 30
12	環須恵器	A 8.2 B 4.8 C 6.4	やや小さな底部から開いて立ち上がり口唇部僅かに外反や尖り気味。	巻上げ、ナデ 回転台、 左廻り	礫(1~3mm) 石英 褐灰色 やや良	95 % + 10
13	環須恵器	A 14.0 B 4.5 C 6.0	不安定な底部で口径に対し小さめ、体部は直線的に開いて立ち上がり口縁部は外反気味で器内は薄い。調整粗雑、不整形。	巻上げ、ナデ、笠削り 回転台、底部笠削り 左廻り	礫、雲母、石英 暗褐色 普通	90 % + 5
14	環須恵器	A 13.9 B 4.2 C 6.2	小さめの底部から開いて立ち上がり口縁部外反、口唇部丸く收める。	巻上げ、ナデ 回転台、底部笠削り 左廻り	礫、石英、雲母 褐灰色 普通	90 % + 15
15	環須恵器	A 13.1 B 4.3 C 5.9	小さめの底部からゆるく内彎して立ち上がり体部は外へゆるく張る。口縁部開き気味、口唇部は外反、丸く收める。	巻上げ、ナデ 回転台、笠削り 左廻り	礫、雲母、石英 灰褐色 普通	60 % + 12

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	粘土、色調、焼成	備考
16	高台付圓 須恵器	A 14.9 B 3.2 C 8.2	短く直立気味の高台貼付、腹部はゆるく立ち上がり気味、口縁端部は水平に開き、丸く收める。巻上げ痕を残す。	巻上げ、ナデ 回転台 右廻り?	黒、長石、石英、雲母 にぶい褐色(褐灰)	60 % 床直
17	高台付圓 須恵器	A B C 7.0	短く直立気味の高台を付け、器内は薄い、底 部は水平に移行してからゆるやかに立ち上が る。	巻上げ、ナデ 回転台 左廻り	黒、石英、雲母 灰黄色 普通	50 % + 16

石器一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
18	砥石	8.3	4.0	4.3	135	凝灰岩	+ 17	3面に使用痕をもつ

## 第7号住居址（第18・19・20図）

本址は、6号住居址の南側1区、P-12・13グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。切り合ひ関係はなく単独である。主軸をN-27°-Wに置き、東西5.6m、南北5.5mの隅部が鋭角な方形プランを呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは70cm前後を測る。床面は窓の周辺部では良く踏み固められていたがわずかに壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝はU字状形態で幅15~25cm、深さ10cmほどで窓前面では広くなり灰原と合流する。

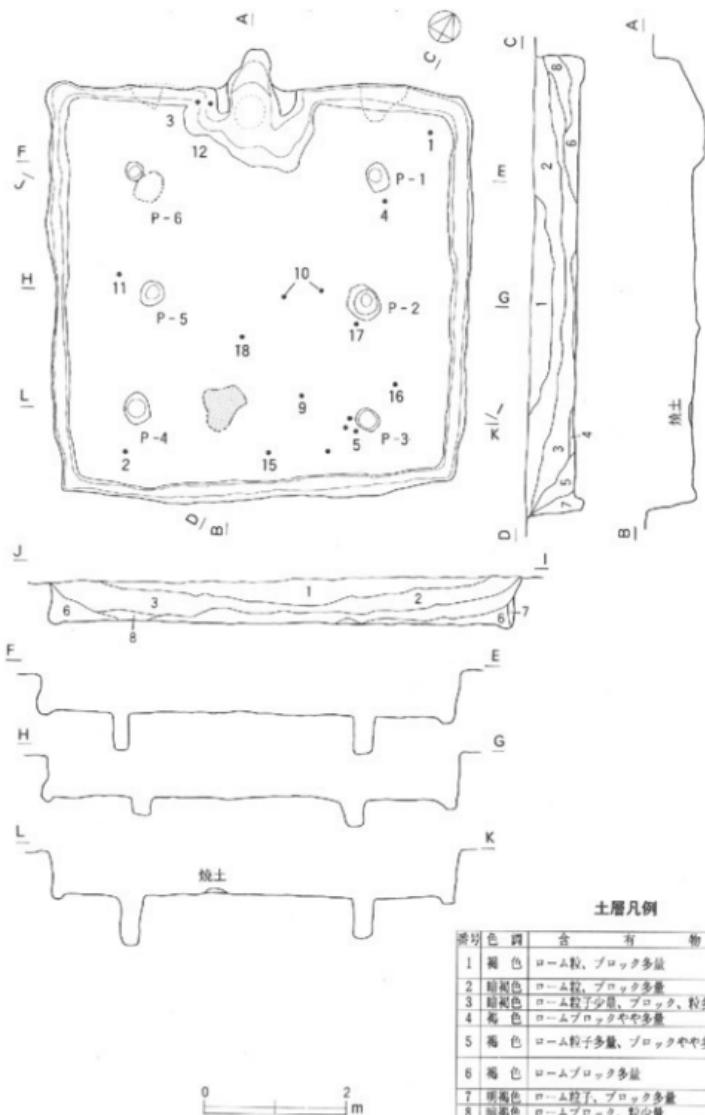
本址では灰原が顯著に掘り込まれている。類例は2件と少ない。

柱穴は、南北方向に6ヶ所確認されいずれも円筒状の掘り込みが見られたP1は40cm×30cm、深さ55cm、P2は46cm×50cm、深さ37cmとやや浅い、P3は35cm×35cm、深さ57cm、P4は45cm×24cm、深さ70cmと深い、P5は35cm×32cm、深さ25cmと浅い、P6は28cm×25cm、深さ55cm幅の最も狭い掘り込み形態を有している。

窓は北西の壁面に位置し北側に40cm程寄って構築されていた。外部へは60cmほどの深さでU字状に掘り込み袖部は直線的に40cmほど付設、火床部は20cm程の深さに掘り込まれ前面部に位置し、煙道部は緩やかに立ち上がる。砂質の粘性の弱い粘土を用いている。

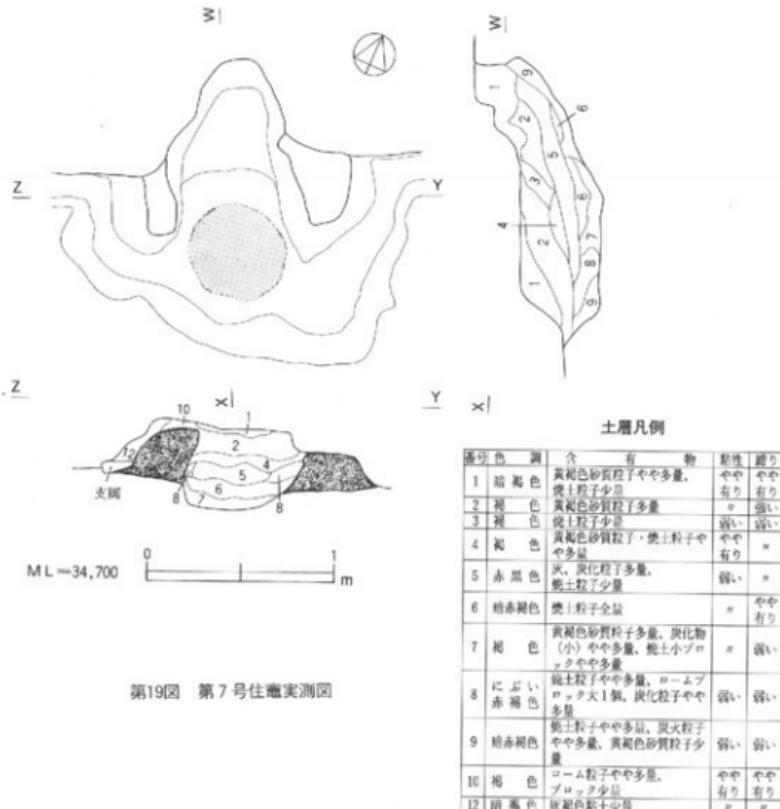
覆土は、レンズ状に自然埋積を呈し8層に分類され下層部に向かって明るさを増しているが何れもロームブロック、粒子の混入差で結まりはややあるが粘性は弱い。

遺物は、ほぼ平均に散在して認められ甕は「く」の字状外反、口唇部のつまみ出しは無い、球胴形に近いか、坏は小型化し碗に近い形態、6は手捏状口縁部は外反、内傾、開き気味のものが

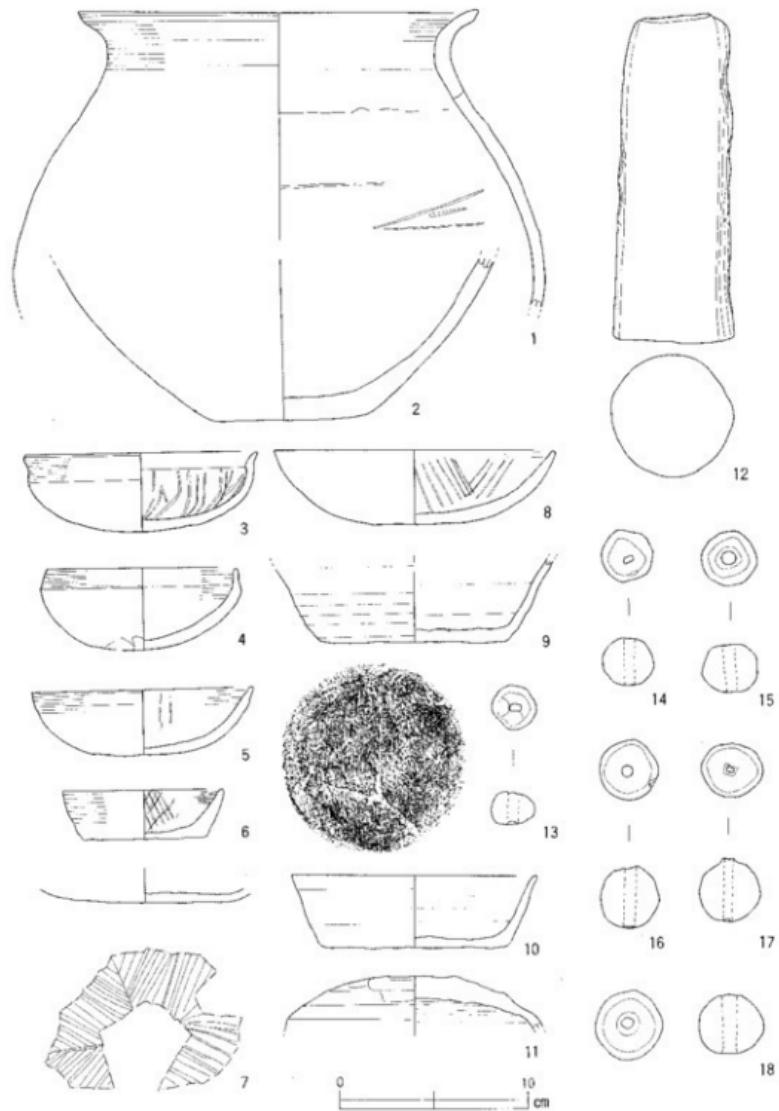


第18図 第7号住居址実測図

認められる。須恵器坏は、底部が笠削りがなされ回転窓切り痕を残さない。粘土巻き上げ、輪積?。坏はすべて底径と口径の差は小さい形態、蓋はつまみを有しない。支脚は竈内から出土、土製の丸玉は不整形、粗雑な作り、孔部は円形状、長円形状のものが見られ重さは30g前後を計る。



第19図 第7号住竈実測図



第20図 第7号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A 21.4 B C	最大径を胴中位に置き類型「く」の字状に外反、口縁部短く水平に近く開く、口唇部横位につまみ出し気味。	横ナデ、ナデ	礫、雲母 暗褐色(にぶい橙色) 普通	10 % + 15
2	壺 土師器	A B C 8.3	器形の剖には小さめの底部からゆるく内彎して立ち上がり球形状器形か、器内は厚い。	ナデ、内面剥落多し	礫、石英、長石、砂 にぶい赤褐色 やや不良	20 % + 19
3	壺 土師器	A 12.5 B 4.2 C 3.0	丸底に近い底部から内彎して立ち上がり肩部に弱い稜をもち、口縁部短く外反、口唇部尖り気味。	横ナデ、ナデ 荒削り	礫 にぶい黄褐色(にぶい橙色) 良	60 % + 10
4	壺 土師器	A 10.3 B 4.4 C	丸底から内彎して立ち上がり口縁部との間に弱い稜をもち直立、薄く口唇部尖り気味。	横ナデ、ナデ 荒削り	精選(礫) 浅い橙色(1級黒褐色) 良	40 % + 27
5	壺 土師器	A 11.7 B 3.5 C 4.5	礫に近い器形、ゆるく内彎して立ち上がり口唇部わずかに内傾気味(つまみ出し状)器内は薄い。	横ナデ、ナデ 荒ナデ状	礫 浅い橙色 良	40 % + 15
6	手 捺 土師器	A 8.4 B 2.6 C 6.5	安定した平底から器内を減じ尖る口唇部へ移行、内面櫛状工具による斜位の調整?あり。	横ナデ、ナデ	精選(雲母) 暗褐色 やや良	30 % 覆土
7	壺 土師器	A B C 8.5	底部内面に木葉状の荒削りをもつ。器内は薄い。	荒削り、ナデ 荒磨き	礫、雲母 橙色 やや良	30 % 覆土
8	壺 土師器	A 15.0 B 4.0 C 4.7	丸底気味からゆるく内彎して立ち上がりそのまま口唇部へ移行、尖る。内面は荒削り瓦質状。	横ナデ、ナデ 荒ナデ、荒磨き	精選、雲母 にぶい黒褐色 やや良	95 % 覆土
9	杯 須恵器	A B C 9.7	安定した平底から外反して立ち上がり、器内は薄い。底部、荒削り。	巻上げ、荒削り 回転台、ナデ	礫、石灰状?石英 褐灰 やや良	40 % + 9
10	壺 須恵器	A 13.1 B 4.8 C 10.1	安定した平底から鋭角的に器内を減じて立ち上がり口唇部尖り気味。	底部の上に巻上げか 回転台、ナデ	礫、スコリア 灰白色 やや良	50 % + 41
11	蓋? 須恵器	A 4.0 B C	天井部のフクラミはややあるが、つまみは存在しない。上部は荒削り、下端は丁寧なナデ。	上部荒削り、ナデ 回転台 左廻り	礫、石英、長石 暗褐色 普通	50 % + 21

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
12	支脚	17.7	6.5			土製	床直	95%円筒状
13	土鏡	1.8	2.2	0.6	10	"	覆土中	不整形つぶれ状、押え、ナデ、粗雑、孔部長方形状。
14	"	2.5	2.7	0.6	15	"	"	不整形球状 ナデ調整、孔部長方形状。
15	"	2.5	2.9	0.7	21	"	+	9 不整形球状 ヘラナデ調整、孔部円形。
16	"	3.2	3.1	0.6	30	"	+	59 長円形状、不整形、孔部円形。
17	"	3.4	3.2	0.4	30	"	+	55 痛円形球状、不整形、孔部長方形状。
18	"	3.1	3.5	0.7	37	"	+	4 球形状、やや良好な調整、孔部梢円形状。

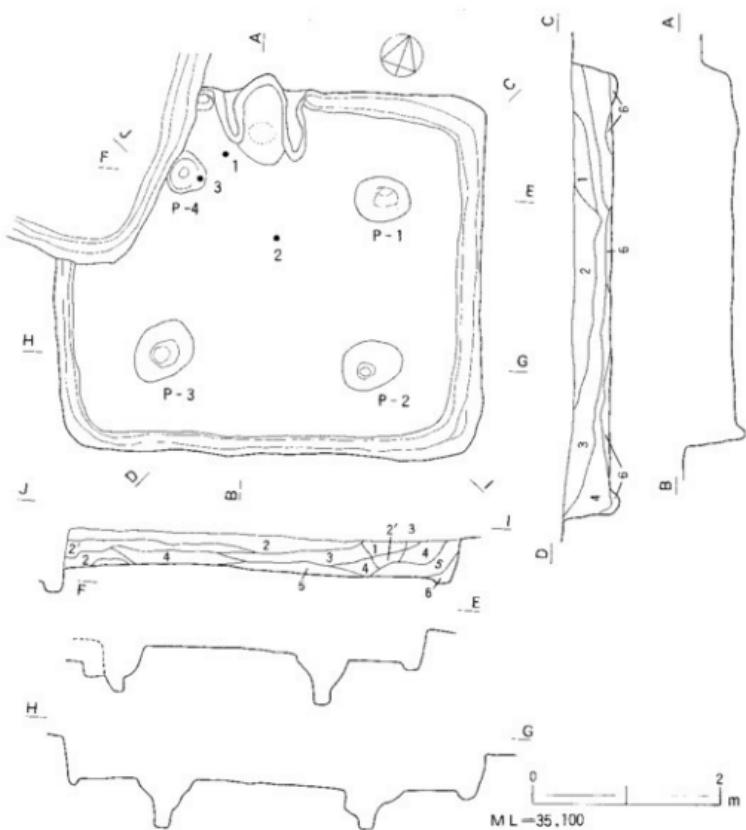
## 第8号住居址（第21・22・23図）

本址は、6号住居址の東側1区、L-10・11グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。西側の五分の一程を6号住居址に切り込まれている。主軸をN-19°-Wに置き、東西4.3m、南北3.9m隅部が僅かに丸みをもつ長方形プランを呈し、壁面はやや開き気味に立ち上がり深さは40cm前後を測る。床面は窓周辺部を中心に良くなじみ固められほぼ平坦に移行している。周溝はU字状形態で幅15~20cm、深さ10cm前後で一周し明確な掘り込みを持つ。柱穴は、4ヶ所確認されいずれも長円形状、掘り込みはV字状形態、P1は55cm×50cm、深さ50cm、P2は65cm×52cm、深さ40cmとやや浅い、P3は75cm×57cm深さ55cm、P4は45cm程の円形状、深さ50cm。

窓は北壁中央部に位置し構築されていた。外部へは僅かに半円形状に掘り込み住居内へ60cm~75cmと長く袖部を直線的に付設、形態的にはU字状、焚口部はやや広く火床部は前面に位置し僅かに掘り込まれ、煙道部は鋭角的に立ち上がる。砂質の粘性の弱い粘土を用いて築いている。押しつぶされた感じをもつ。

覆土は、レンズ状に自然埋積を呈し7層に分類されたがI~Jライン右側では小穴の掘り込み？木の根？の変則的な土層を示す。1~3層は暗褐色でローム粒、粒子の混入量の差で2層は焼土粒子を含む。4~5層は褐色ロームブロック、粒、粒子を含み6層は明褐色、下層程明るさを増している。各層とも縁まりはややある。

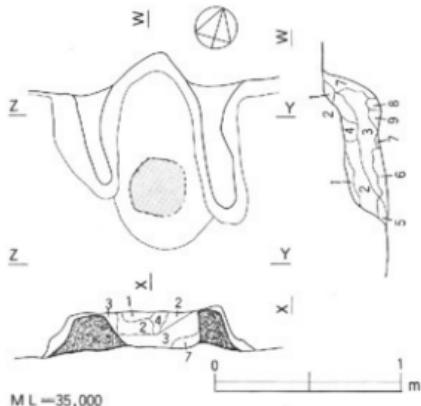
遺物は、総数50片程で窓周辺から散在して出土、1は球胴形の焼と思われ、2は肩部に弱い稜状の段をもち口縁部は内傾、3は顯著な棱を持ち口縁部は内傾長く開き気味で大型。



土層凡例

番号	色調	含 有 物	動 性	結 構
1	暗褐色	ローム粒多量、鈣土粒少量	弱い	やや有り
2	明褐色	ローム粒、鈣土粒多量	"	"
2'	明褐色	ローム粒少量	"	"
3	褐色	ローム粒少、粒多量	"	"
4	褐色	ロームブロック少量、粒多量	やや有り	強い
5	褐色	炭化粒少、板状少	やや有り	やや有り
6	明褐色	ローム粒子・鈣土粒多量	やや有り	やや有り

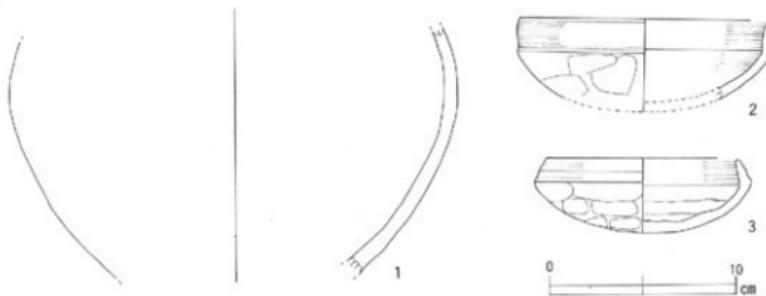
第21図 第8号住居址実測図



第22図 第8号住居実測図

土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	塊り
1	褐色	ローム粒・黄褐色砂質粒子少量	弱い	やや有り
2	褐色	黄褐色砂質粒子少々多量、 地上粒子少量 ローム粒少量	やや 有り	#
3	赤褐色	純土粒やや多量、炭化粒少量	無し	弱い
4	褐色	ローム粒少量	弱	#
5	赤褐色	焼土粒やや多量	弱	#
6	赤褐色	地上粒子多量、 ローム粒子やや多量	弱	#
7	褐色	ローム粒子多量	弱い	#
8	明褐色	ローム粒子多量	やや 弱い	弱い
9	暗褐色	黒褐色小ブロックやや多量、 灰褐色砂質粒子少量	無し	#



第23図 第8号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A B C	胴下半部のみ最大径を胸部中位に置くか内外とも二次焼成による剥落多し。	ナデ?	醜、長石 にぶい黒褐色(赤褐色) やや不良	5 % 床直
2	壺 土師器	A 13.6 B 5.0 C	丸底に近い器形と思われる口縁部との間にやや顯著な棱をもち、口縁部長目でやや聞き気味、口唇部尖り気味。(1部赤彩)	横ナデ、鋸削り ナデ	醜 にぶい赤褐色(黄褐色) 普通	15 % 床直
3	壺 土師器	A 10.4 B 4.0 C 3.5	丸底気味からゆるく内側して立ち上がり口縁部短く内傾、口唇部丸く收める。	横ナデ、鋸削り ナデ	醜 灰黄褐色 普通	40 % + 9

第9号住居址(第24図)

本址は、4号住居址の覆土を掘り込み1区、J-12グリットを中心に確認された住居址で台地は西側に緩く傾斜を示す位置に検出された。切り合い関係からは本址が新しい。主軸をE-4°-Sに置き推定約東西2m、南北2.5mの隅部がやや丸味をもつ長方形プランを呈すると考えられる。壁面は開いて立ち上がり深さは10cm前後を測る。床面の半分以上は貼り床竈前面は縫まりは認められたが他は弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝、柱穴は確認されない。

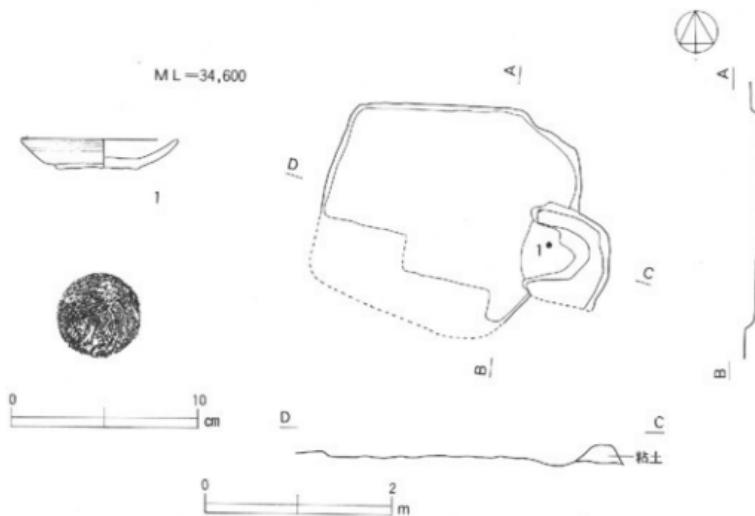
竈は東側の壁面中央部に位置していると推定される。外部へは25cm程半円形に掘り込み全て灰褐色の粘土を用い貼付けている。袖部は直線的に短く30cmほど付設、火床部は10cm程掘り込まれ中央部に位置し、煙道部は緩やかに立ち上がる。袖部には雲母片岩が補強材として利用され、砂質の少ない粘性の強い粘土を用いている。

覆土は、1層に分類され暗褐色、縫まりはややある。

遺物は、少なく総数40件ほど認められたが床面からは1片のみの出土、図示したものは底部に回転糸切り痕を持つ、その他の釘と思われるものがみられた。

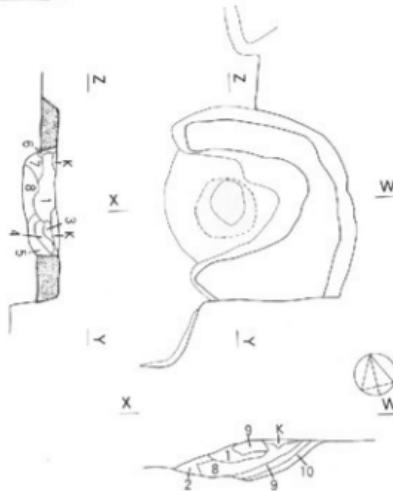
出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	皿 土師器	A 8.4 B 1.5 C 4.4	底面回転糸切り、僅かに張り出し、ゆるく立ち上がり浅い。	ロクロ水引き 回転糸切り 左通り	醜、雲母 にぶい褐色 普通	60 % 竈内



#### 土層凡例

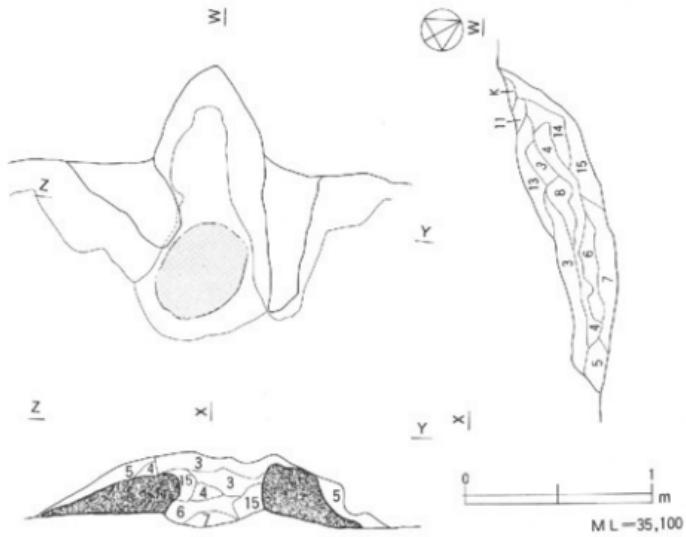
番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	赤褐色	粘土粒子や多量、 炭化粒子少量	弱い	強い
2	明赤褐色	粘土ブロック	n	n
3	にぶい 赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	n	n
4	暗赤褐色	焼土粒子多量	n	n
5	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粒子少量	n	n
6	暗赤褐色	焼土粒子多量	n	n
7	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粒子少量	n	n
8	赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量	n	n
9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少 量	n	n
10	灰褐色	粘土	強い	n



第24図 第9号住居址、竈、出土遺物実測図

### 第10号住居址（第25・26・27図）

本址は、7号住居址の東側1区、L-11・12S-11・12 グリットを中心に確認された住居址で遺跡のはば中心部に占地し台地はほぼ平坦に移行する。切り合い関係はなく単独である。主軸をN-51°-Wに置き、東西5.3m、南北5.2mの隅部の僅かに丸味をもつ方形プランを呈し、壁面は開き気味に立ち上がり深さは60cm前後を測る。床面は竈の周辺部、中央部は良く踏み固められていたがわずかに壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝は北壁側に僅かに認められたに過ぎなかった。柱穴は、4ヶ所確認されいずれも壁面から1m程離れた位置に長円形で円筒状の掘り込みが見られP1は52cm×45cm、深さ70cm、P2は60cm×40cm、深さ90cmと深く底部で二段になる。P3は55cm×40cm、深さ61cm、P4は60cm×40cm、深さ50cmでU字状の掘り込み形態

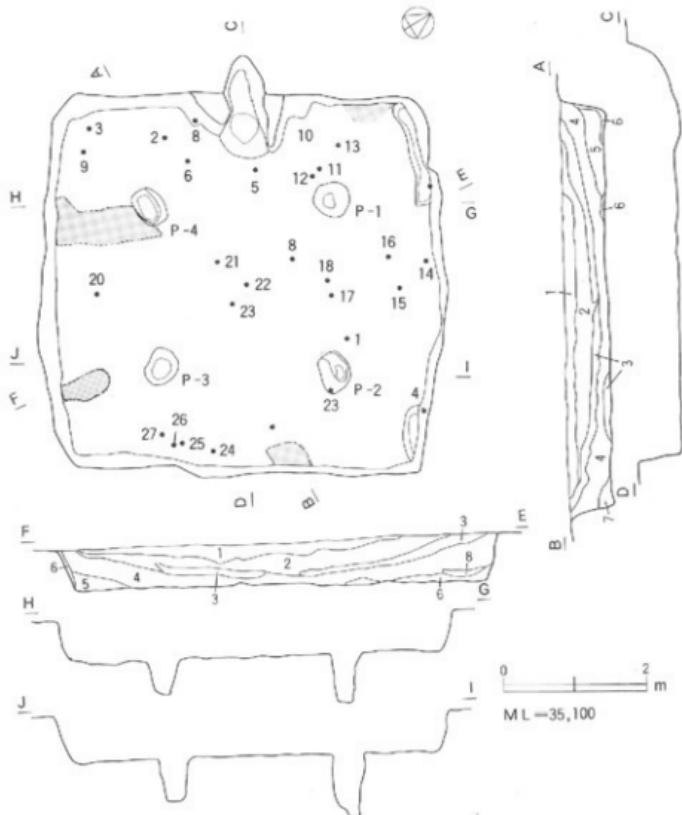


土層凡例（竈）

番号	色調	含 有 物	粘性	硬さ
1	褐色	燒土粒、黄褐色砂質粒子少量	やや 有り	やや 有り
2	褐色	黄褐色砂質粒子や多量	" "	" "
3	褐色	燒土粒、黄褐色砂質粒子やや多し 黒褐色ブロック少量	やや 有り	" "
4	黄褐色	黄褐色砂質粒子多量	弱い、弱い	" "
5	褐色	燒土粒、黄褐色砂質粒子やや多量、黒褐色ブロック多量	" "	" "
6	褐 色	黄褐色砂質粒子、燒土粒、炭化粒 子少量	弱い、弱い	" "
7	明赤褐色	燒土粒子、燒土小ブロック多量 黄褐色砂質粒子多量	やや	" "
8	褐色	燒土粒子少量	有り	" "

番号	色調	含 有 物	粘性	硬さ
9	黄褐色	黄褐色砂質粒子多量	"	柔軟
10	暗褐色	ローム粒、燒土粒、ローム粒子少 量	弱い、 有り	" "
11	褐色	黄褐色砂質粒子やや多量	"	" "
12	暗褐色	燒土小ブロック、黄褐色砂質粒子 やや多量、ローム粒子少量	弱い、	" "
13	褐色	黒褐色ブロック、ロームブロック 少量、黄褐色砂質粒子、燒土粒子 少量	弱い、 有り	" "
14	褐 色	燒土粒子、黄褐色粒子やや多量、 黒褐色小ブロック多量	弱い、 有り	" "
15	暗赤褐色	燒土小ブロック、黒褐色小ブロッ ク少量、燒土粒子やや多量	弱い、 弱い	" "

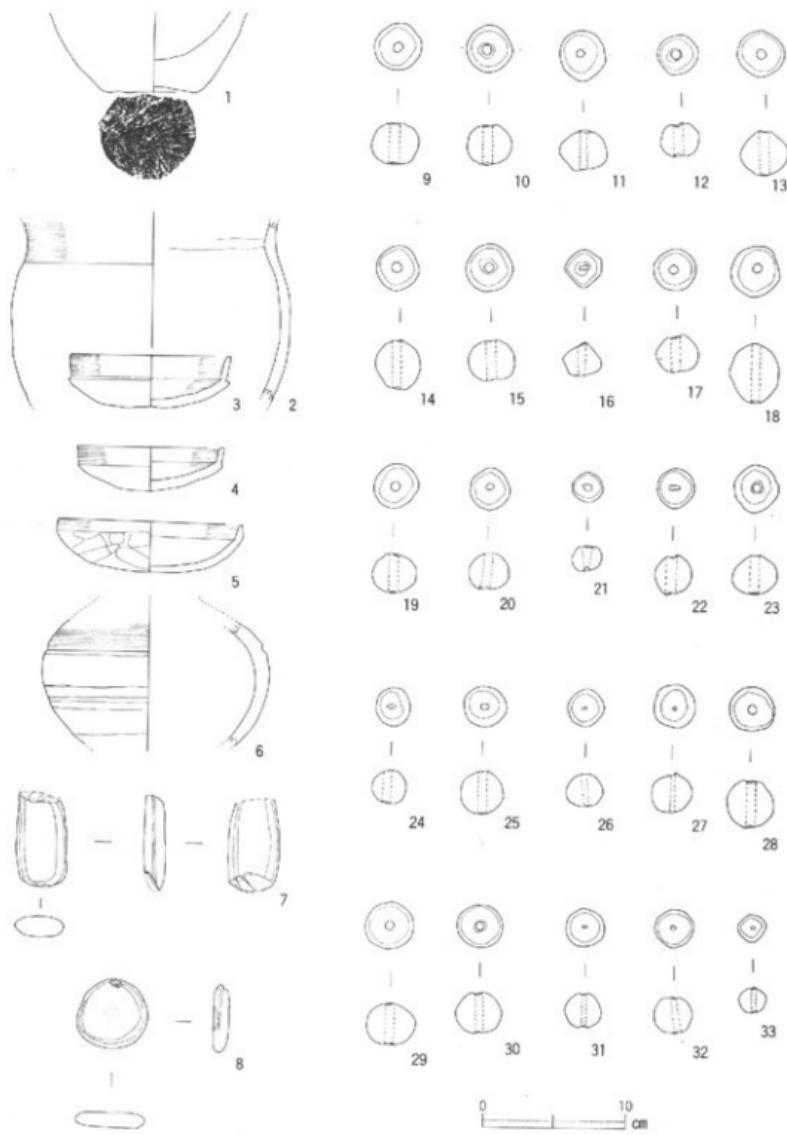
第25図 第10号住居址実測図



土層凡例

番号	色調	含 有 物	黏性	持り
1	黒褐色	焼土粒・ロームブロック少量	弱い	強い
2	褐色	ロームブロック多量、焼土粒少量	やや 有り	〃
3	暗褐色	焼土粒子・ロームブロックやや多量	弱い	〃
4	褐色	ロームブロック・粒子やや多量	やや 有り	強い
5	褐色	ローム粒子やや多量、ブロック少量	〃	〃
6	暗褐色	ロームブロック少量、粒子多量	〃	〃
7	にじい 赤褐色	焼土粒子多量	弱い	やや 有り

第26図 第10号住居址実測図



第27図 第10号住居址出土遺物実測図

を有している。床面には焼上が散在して4ヶ所認められる。

甕は北壁中央部に位置し外部へ50cm程U字状に掘り込み袖部は右側は70cmと長く直線的に、左側は「く」の字状に内傾40cmほど付設左右対称ではない。火床部は前面に位置し5cm程の深さに掘り込まれ、煙道部は緩やかに立ち上がる。焚口部は広く幅40cmを測る。砂質の粘性の弱い粘土を用いている。

覆土は、自然埋積を呈し7層に分類され下層部に向かって明るさを増しているが何れもロームブロック、粒子の混入差で締まりはややあり粘性は弱い。7層は赤褐色で焼上粒子を多量に含み壁面周辺に認められた。

遺物は、やや多くほぼ平均して散在して認められたが床面からは1片も認められなかった。甕は器形を窺えるものは少なく長胴形気味、坏は顯著な稜をもつものと半球形のものの二種類が認められ小型化している。口縁部は外反、直立気味のものがみられる。6は須恵器長頸瓶か？ロクロ水引成形、肩部にカキ目痕を残す。土製の丸玉は不整形で粗雑な作り、孔部は円形状、長円形状のものが見られ重さは30g前後を計り25個と、多い。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備考
1	小型甕 上部器	A B C 6.6	器内は厚く、底部木葉痕をもつ、手捏的。	ナデ	砂、礫 に赤い褐色 やや不良	15 % + 5
2	甕 上部器	A B C	器内はやや薄い長胴形状の器形を呈すると思われる。	横ナデ、撚ナデ ナデ	礫、長石 に赤い褐色 やや不良	10 % + 6
3	坏 上部器	A 11.2 B 3.7 C 3.0	丸底氣味からゆるく内壁して立ち上がり口縁長目で外傾、体部との間に顯著な稜をもち、肩部は丸く収める。	横ナデ、ナデ 撚ナデ	礫、石英 に赤い褐色 普通	60 % + 10
4	坏 上部器	A 10.3 B 3.1 C 2.1	丸底からゆるく開いて立ち上がり口縁部の間に弱い稜をもち、短か目で外傾、口縁部は丸く収める。	横ナデ、ナデ 撚ナデ	礫、長石 暗褐色 やや良	99 % + 27
5	坏 土器	A 13.0 B 3.7 C 3.6	丸底氣味からゆるく内壁して立ち上がり短い口縁は直立し口唇部やや尖り気味。	横ナデ、撚削り ナデ	礫、石英 に赤い褐色 普通	40 % + 40
6	瓶 須恵器	A B C	つぶれた球形状を呈すると思われる「瓶」と考えられる。肩部に一筋の弦紋が通り上部はカキ目下部はヘラケズリでやや粗雑	ロクロ水引? 回転台 カキ目、撚削り ナデ	礫、長石、石英 青灰褐色 良	5 % + 30

石器・土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
7	石斧	6.5	3.5	1.5	53	流紋岩	覆土中	上、下、端部欠失、刃部は船刃か？
8	投石？	4.8	5.0	1.0	38	安山岩	〃	円盤状形状、一部欠
9	土鍤	2.9	3.3	0.7	30	土製	+	球形狀、ナデ押え、孔部正円形、孔端片側カット状
10	"	2.8	3.3	0.7	30	"	+	不整形球状、ナデ押え、孔部正円形状
11	"	2.7	3.2	0.5	30	"	+	押つぶされて方形に近い、ナデ、ケズリ
12	"	2.3	2.9	0.6	15	"	+	不整形球状、ナデ、ケズリ押え、孔部正円形
13	"	3.2	3.3	0.6	28	"	+	ほぼ球形狀、ナデ、押え、孔部正円形球状、大部分剥落(1/10欠)
14	"	3.5	3.0	0.7	30	"	+	長円形状、ナデ、押え、孔部正円形状
15	"	2.9	3.4	0.6	28	"	+	不整形球状、ナデ、押え、孔部正円形
16	"	2.4	2.7	0.6	12	"	+	方形状、不整形、押え、ナデ、孔部長方形状
17	"	2.6	3.0	0.6	20	"	+	押しつぶされた球形狀、ナデ、孔部正円形
18	"	4.1	3.4	0.6	45	"	+	管状に近い形状、ナデ、孔部正円形状(-部欠1/10)
19	"	2.9	3.1	0.6	24	"		不整形球状、ナデ、孔部正円形
20	"	2.5	2.8	0.5	17	"	床直	ややつぶれ気味の球状、ナデ、押え、孔部円形状
21	"	1.8	2.2	0.6	6	"	〃	不整形、ナデ、孔部方形から小円孔へ
22	"	2.7	2.6	0.8	18	"	+	やや長円形状、ナデ、丁重な調整、孔部正円形状
23	"	2.8	3.2	0.6	26	"	+	不整形球状、粗雑な調整、ナデ、孔部正円形状
24	"	2.4	2.4	0.6	15	"	床直	ほぼ球形狀、ナデ、丁重、孔部長円形状
25	"	3.1	3.0	0.6	26	"	+	ほぼ球形狀、ナデ、押え、孔部方形状
26	"	2.4	2.6	0.4	15	"	+	球形狀、ナデ、やや良好調整、孔部長方形状
27	"	2.9	2.9	0.3	20	"	+	不整形球状、ナデ、押え、孔部半截竹管状工具
28	"	3.4	3.2	0.6	34	"	床直	不整形球状、ナデ、押え、孔部正円状
29	"	2.9	3.4	0.6	30	"	覆土中	ややつぶれ気味の球形狀、ナデ、孔部正円状
30	"	2.8	3.2	0.5	25	"	〃	不整形球状、ナデ、孔部正円状
31	"	2.4	2.7	0.3	15	"	〃	ほぼ球形狀、ナデ、孔部長方形状(小孔)
32	"	2.5	2.7	0.4	16	"	〃	ほぼ球形狀、ナデ、孔部正方形状、一部指紋状痕残す
33	"	1.8	2.0	0.3	6	"	〃	不整形、三角形状、ナデ?孔部長円形状、小型

### 第11号住居址（第28・29図）

本址は、3号住居址の南側1区、P-9グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。切り合い関係は北側は6号土坑、南西側は15号住居址を切り込み南側では6号住居址に切り込まれている。主軸をW-10°-Sに置き、東西3.3m、南北3.2mの隅部が鋭角な方向プランを呈し、竈を西壁に置く唯一の造構で壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは38cm前後を測る。床面は竈の周辺部では良く踏み固められていたが総じて縫まりは弱くほぼ平坦に移行している。周溝はU字状形態で幅15~25cm、深さ20cmほどで巡る。柱穴は明確に確認されず、周溝部分に掘り込みが見られたP1は30cm程の深さ、P2は長径55cm、深さ50cm楕円形、P3は不整形、深さ20cm。

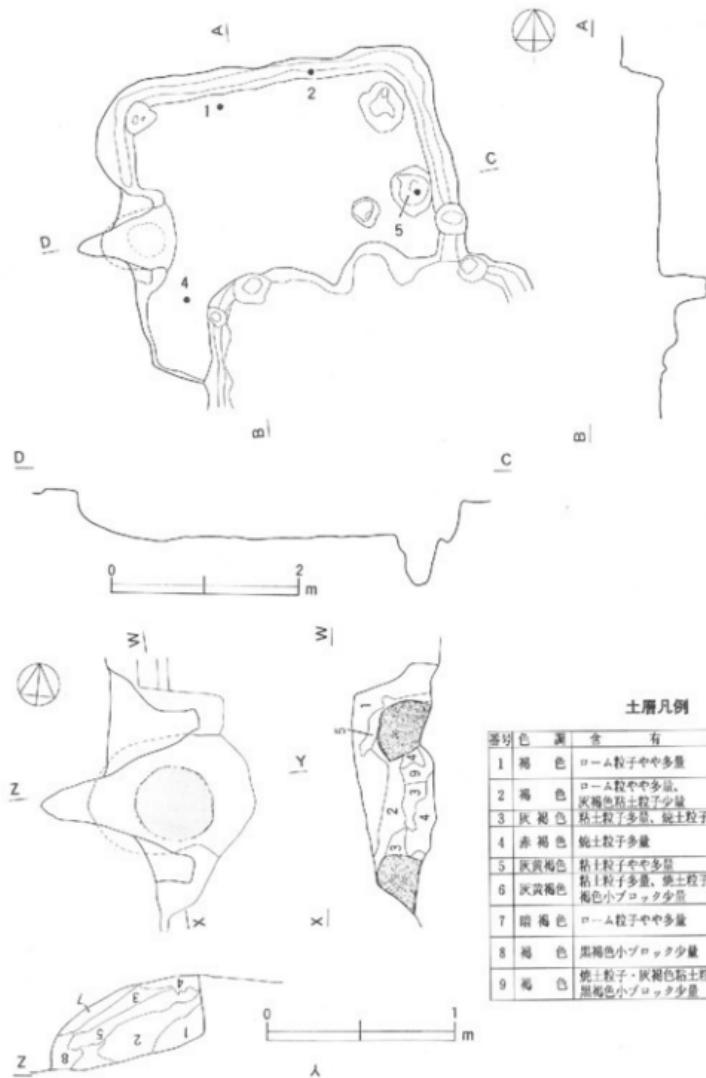
竈は西側の壁面に位置し構築されていた。遺存状態は良く15号住居址の一部を埋めて外部へはV状掘り込み袖部は開き直線的に40cmほど付設、火床部は10cm程の深さで掘り込まれ前面部に位置し、煙道部は強く立ち上がる。黄灰褐色砂質の粘性の弱い粘土を用いている。左袖の大半は15号住居址を埋めている為縫てこの粘土を用いていた。

覆土は、レンズ状に自然埋積を呈し6層に分類され下層部に向かって明るさを増しているが何れもロームブロック、粒子の混入差で縫まりはややあり粘性は弱い。

遺物は少なく总数50片前後、甕は「く」の字状外反、口唇部は丸く收める。2は口唇部がつまみ出し気味、3は縦位の平行叩き目を持つ須恵器、4・5は膨らみの弱い天井部をもつ蓋でつま

### 出土土器観察表

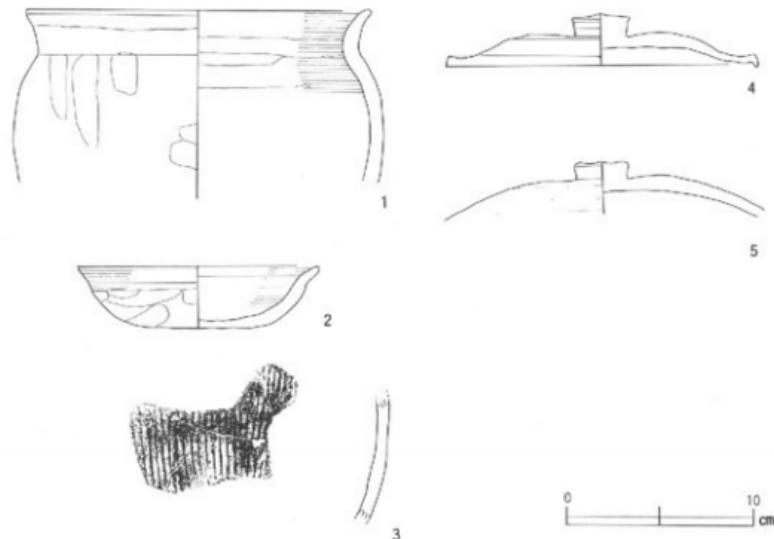
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1 1	甕 土師器	A 19 B C	頸部のくびれは弱く口縁外反、口唇部水平に近く開き尖り気味、輪郭廻残す。	窓削り、ナデ 横ナデ	礫、墨母 暗い褐色 普通	10 % + 10
2 2	甕 土師器	A 12.9 B 3.4 C 7.0	平底からゆるく内側して立ち上がり、口縁部水平に近く開き、口唇部丸く收める。肩部に弱い縫をもつ。	横ナデ、窓削り ナデ	精選 にぶい黒褐色(淡い 棕色) やや良	40 % + 29
3 3	甕 須恵器	A B C	平行叩き目をもつ(やや広目)器肉は薄い。	平行叩き目、ナデ	礫 褐色 やや良	5 % 覆土
4 4	蓋 須恵器	A 3.1 B 2.8 C 11.7	天井部フクラミは弱く、つまみは扁平化やや凹み気味(點付)端部はゆるく開いて伸び断面三角形。	巻上げ、ナデ 回転台 左廻り	礫、石英 灰褐色 やや良	20 % + 20
5 5	蓋 須恵器	A B C	やや大型の蓋か、天井部はややフクラミをもつと思われるが大半欠失、つまには扁平。	巻上げ、ナデ 回転台 左廻り	礫、石英 灰褐色 やや良	20 % + 17



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	硬り
1	褐 色	ローム粒子やや多量	弱い	やや 有り
2	褐 色	ローム粒子や多量	〃	〃
3	灰褐色	灰褐色粘土粒子少量	強い	強い
4	赤褐色	粘土粒子多量	無し	やや 有り
5	灰黃褐色	粘土粒子や多量	弱い	弱い
6	灰黃褐色	粘土粒子多量、佛土粒子・黒褐色小ブロック少量	〃	やや 有り
7	暗褐色	ローム粒子やや多量	やや 有り	〃
8	褐 色	黒褐色小ブロック少量	〃	弱い
9	褐 色	佛土粒子・灰褐色粘土粒子・黒褐色小ブロック少量	弱い	弱い

第28図 第11号住居址、竪実測図



第29図 第11号住居址出土遺物実測図

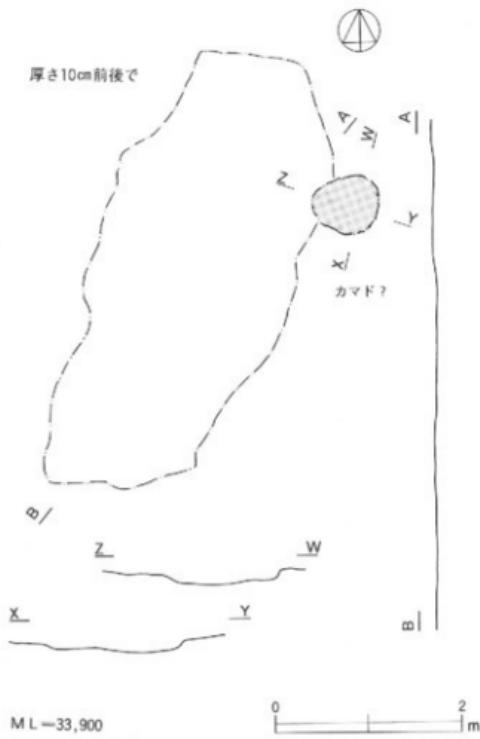
みは扁平化、カエリは無い。4は口端部が水平に一旦伸びてから開き気味に下方へ長目に伸び断面三角形状。

#### 第12号住居址（第30図）

本址は、9号住居址の西側1区、H-11・I-12グリットを中心確認された住居址で台地が西側に傾斜を示す位置に検出された。切り合ひ関係はない。遺存状態は悪く床面状の縛まりと東側に竈状の掘り込みが見られ、焼土が認められた為、本遺溝を住居址と考えた。方形プランもしくは長方形プランを呈する遺溝と思われ、近接の9、16号住居址同様の形態か？。

#### 第13号住居址（第31・32・33図）

本址は、17号住居址の覆土及び東側1区、H-13・14グリットを中心確認された住居址で東側を9号溝、畑寄せ溝に掘り込まれ遺存状態は悪い。主軸をN-20°-Wに置くものと思われ東西2・1m、南北2.2mの隅部の丸い方形プランを呈すると思われる。壁面が明確に認められたのは極一部であった。床面は貼り床、竈の周辺部でやや踏み固められていたに過ぎない。ほぼ平坦に移行している。周溝、柱穴は確認されない。



第30図 第12号住居址実測図

#### 第17号住居址（第31・32・33図）

本址は、5号住居址の東側1区、K-13・14グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。覆土中に13号住居址、1号溝が掘り込まれている。主軸をN-14°-Wに置き、東西7m、南北7mの隅部が鋭角な正方形プランを呈し、本遺跡では大型の部類に入る。壁面は西側ではオーバーハンプ状態、その他はほぼ垂直に立ち上がり深さは30cm~40cm前後を測る。床面は全体に良く踏み固められほぼ平坦に移行している。中央部西側には焼土、炭化物が散在、床面には焼けが認められ炭化物の出土状態から主材は抜き取りと思われ、その後燃やしたものと考えられる。周溝は13号住居址部分では確認されないが他はU字形態で5~20cm、深さ10cm~15cmほど巡る。柱穴は4ヶ所確認されいずれも二段の掘り込みが見られたP1は45cm×50cm円筒状で深さ50cm、P2は35cm×50cm長円形、深さ50cm、P3は60cmの円形状、深さ60

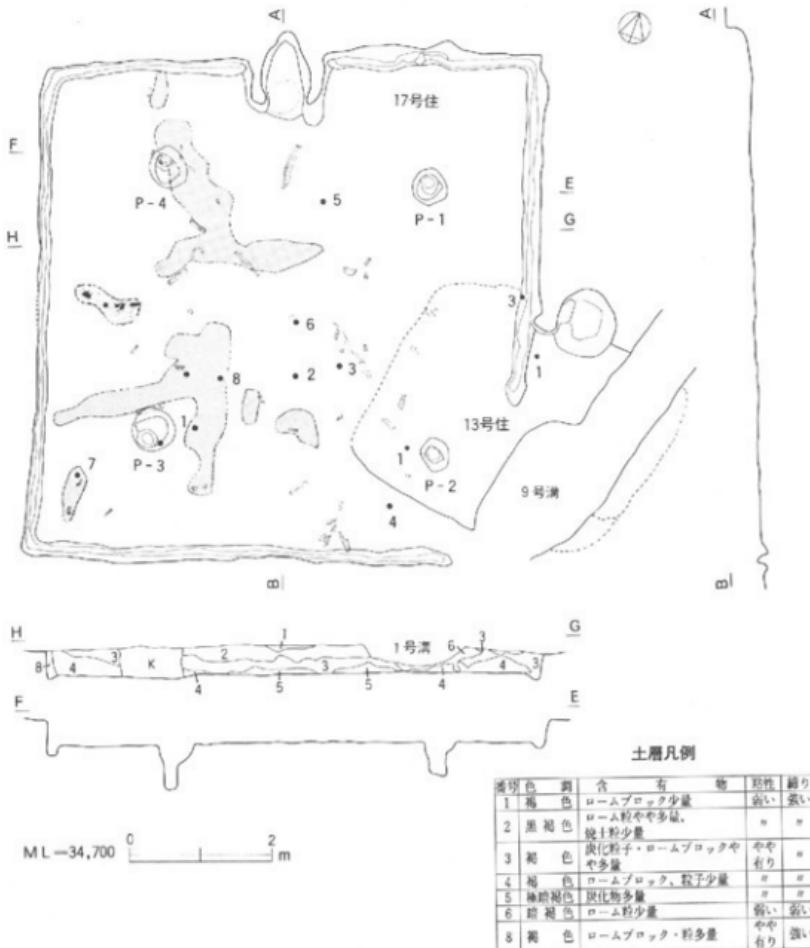
竈は北壁に位置していたが中央部は烟寄せ溝、9号溝に掘り込まれ遺存状態は不良。外部へU字状に掘り込む形態と思われ、袖部は灰褐色の粘土を用いて付設しているが遺存状態から推定し、やや長目で直線的な形態か？。火床部、煙道部は不明。砂質の少ない粘性の強い粘土を用いている。

覆土は、17号住居址とそれほど差を示さない。厚さ10cm前後で何れもロームブロック、粒子の混入差で締まりはややあり粘性は弱い。

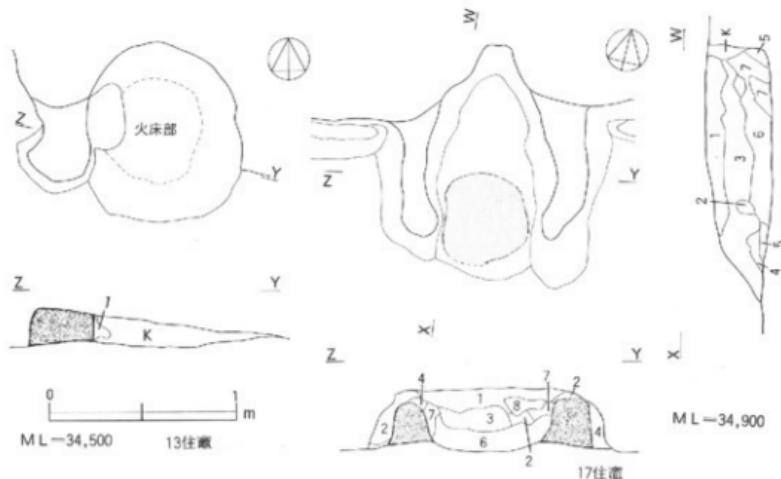
遺物は、少なく図示した1~4が本址のもので壺は口唇部上方につまみ出し「く」の字状外反2は、鉢形状に近く開きながら直線的に立ち上がり口唇部は丸く收める。3は半球形の壺、口縁部はやや長目で内傾気味、口唇部は断面三角形尖る。4は石製紡錘車で本遺跡では石製は少ない。

cm、P-4は50cm×60cm、深さ60cm掘り込み形態から抜き取り痕ではなく建て替え、建てる時の掘りかたと考えられる。

竈は北壁中央部に位置して構築されていた。外部へはU字状に30cm程掘り込み袖部は直線的に60cm~70cmほど長く付設、火床部は僅かに掘り込まれ前面部に位置し焚口部はわずかに狭くなり煙道部は直立し立ち上がる。砂質の多い灰褐色の粘性のやや弱い粘土を用いている。



第31図 第13、17号住居址実測図



#### 土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	黒褐色	ローム粒少量	無し	やや 有り

#### 17号住處

番号	色 調	含 有 物	粘性	繊り
1	暗褐色	ロームブロック・灰褐色砂質 粒子少量	弱い	や 有り
2	褐色	ロームブロック少量、 灰褐色砂質粒子や多量	強い	強い
3	褐色	ロームブロックや多量、 砂質ブロック少量	弱い	弱い
4	灰褐色	灰褐色砂質粒子多量	"	"

番号	色 調	含 有 物	粘性	繊り
5	暗赤褐色	焼土粒少量、 灰褐色砂質粒子 少量	無し	弱
6	暗赤褐色	燒土粒や多量、炭化物少量	弱い	やや 有り
7	暗赤褐色	焼土粒や多量、 灰褐色砂質粒子少量	無し	強い
8	褐色	ローム粒・粒子・灰褐色砂質 粒子少量	弱い	やや 有り
9	褐色	ローム粒少量	やや 有り	強い
10	褐色	2に近く性は同一		

第32図 第13、17号住處実測図

覆土は、若干の乱れが見られるがほぼレンズ状に自然埋積を呈し11層に分類され下層部に向かって明るさを増し焼土、炭化物、粒子が多く含まれる。他は何れもロームブロック、粒子、焼土、炭化粒子等の混入差で繊まりはややあり粘性は弱い。

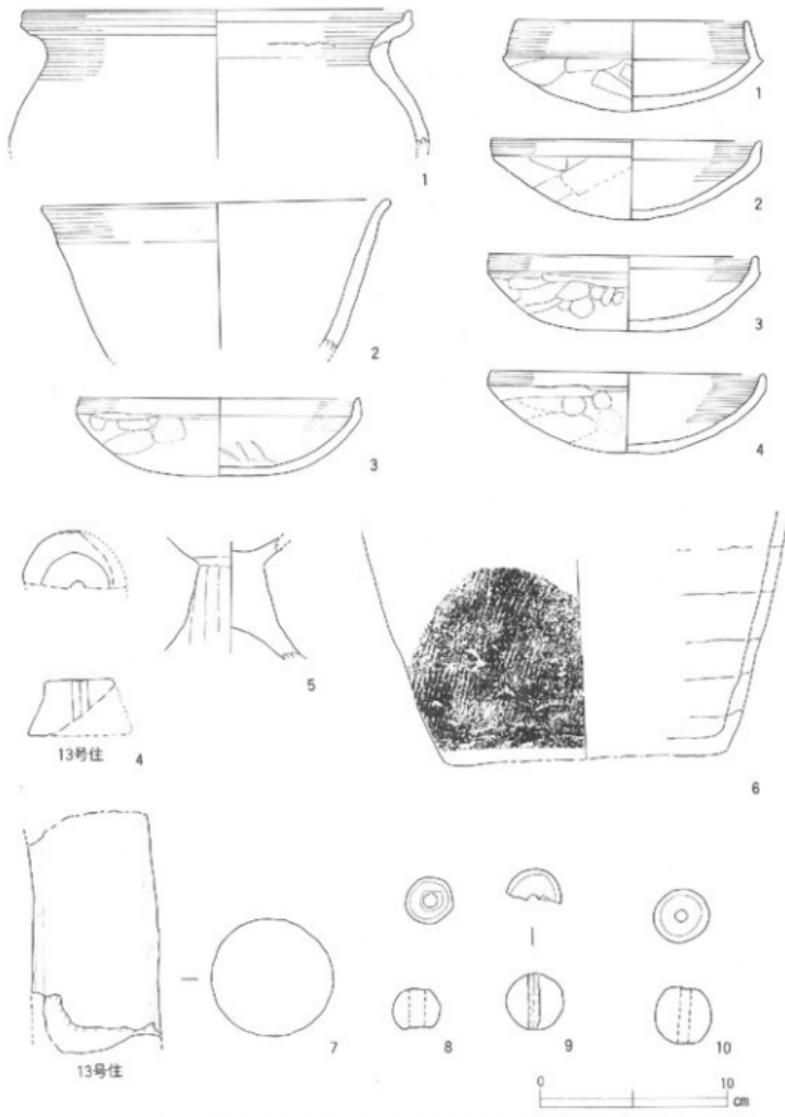
遺物は、ほぼ平均し散在して認められたが完形の物ではなく、坏は口縁部が長く内傾肩部に顕著な段を持つものと半球形で口縁部は肥厚し、口唇部を丸く收めるものの二種類が認められた。5は本址では数少ない高环脚部やや長目、6は大型の鉢で斜めの平行叩き目をもち底部鏝削りの須恵器。7はやや大型の支脚で円筒状、8～10は土製の丸玉で整形は丁寧、孔部は正円形状、重さ10g～25g前後を計る。

出土土器観察表

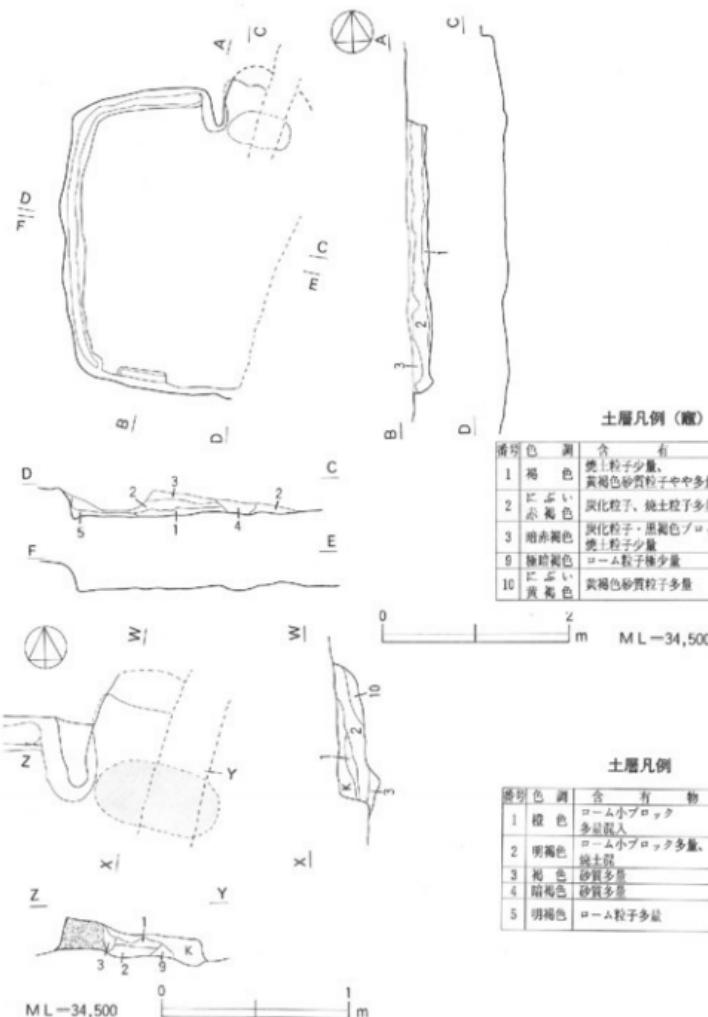
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A 21.0 B C	頸部「く」の字状外反、口縁部短く水平に近く開き口唇部上方へ長目につまみ出す、器肉薄い。	横ナデ、ナデ	黒 暗褐色 普通	10 % 床直
2	鉢 土師器	A 18.7 B C	頸部？弱くくびれ、形態的には鉢形、直線的に底部に移行、内外とも調整困難。底か?	横ナデ、ナデ	黒、雲母 にぶい赤褐色 やや不良	30 % + 15
3	环 土師器	A 15.0 B 4.2 C 5.0	内彎して立ち上がり口縁部は短く直立、口唇部尖り氣味。平底に近い。	横ナデ、箇削り ナデ	黒、雲母、石英 黒褐色 やや不良	40 % + 16
1	环 土師器	A 22.4 B 5.9 C 2.5	丸底気味からゆるやかに立ち上がり肩部に顎著な棱をもつ、口縁部長く内傾、口唇部丸く収める。(17号住)	横ナデ、箇削り ナデ	黒 暗褐色 やや良	60 % + 7
2	环 土師器	A 14.4 B 4.3 C 2.0	丸底気味からゆるく内彎して立ち上がり、口縁部短く直立、口唇部尖る。(17号住)	横ナデ、箇ナデ ナデ	黒、雲母 にぶい橙色(一部 黒褐色) やや良	90 % 床直
3	环 土師器	A 14.4 B 4.1 C 4.7	安定した底部からゆるく内彎して立ち上がり口縁部短く直立、口唇部丸く収める。(17号住)	横ナデ、箇削り 箇ナデ、ナデ	黒、石英、雲母 暗褐色 普通	50 % 床直
4	环 土師器	A 14.2 B 4.3 C 3.0	丸底気味の底部から内彎して立ち上がり口縁部短く内傾、口唇部丸く収める。(17号住)	横ナデ、箇削り 箇ナデ、ナデ	黒、雲母 黒褐色(にぶい橙色) 普通	90 % 床直
5	高 环 土師器	A B C	脚部は短く「ハ」の字状に開くと思われる。环部は丸底か。(17号住)	箇削り、ナデ	黒、長右 黒褐色 やや不良	20 % + 15
6	甕 須恵器	A B C 15.0	平行叩き目をもち、下部は箇ナデ状から箇削り、平底?。(17号住) 13号住のものか。	縦位の平行叩き 箇削り ナデ	黒、石英、雲母 灰白色 やや良	10 % + 25

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
4	筋輪車		3.6	3	25	滑石	覆土中	台形状、上ドナデ調整、孔部円形状、30%欠
7	支脚		7.0			土、製	+ 21	40%前後
8	上 鉢	2.2	2.5	1.0	"	"	"	両端カット状、ナデ、孔部円形
9	"		3.0	3.0	"	覆土中	1/2欠、ナデ、孔部円形状か?	
10	"	2.9	3.0	0.6	"	"	"	やや長形状、ヘラナデ、孔部円形



第33図 第13、17号住居址出土遺物実測図



第34図 第14号住居址、竪実測図

#### 第14号住居址（第34図）

本址は、17号住居址の南側1区、L-14・15グリットを中心に確認された住居址である。大半は9号溝によって掘り込まれ遺存状態は悪い。覆土、床面は溝にその他、煙寄せ溝が掘り込まれている。主軸をN-2°-Eに置き、東西3.5m前後で隅部が丸味をもつ方形プランを呈すると思われる。壁面は西側では鋭角的な面を残して立ち上がり、深さは20cm前後を測る。床面は全体に締まりは弱く、ほぼ平坦に移行している。周溝は西側、北側で確認されU字状形態で認められた。深さ10cm～15cmほど巡る。柱穴は、確認されない。

竈は北壁に位置して構築されていた。大半は煙寄せ溝に掘り込まれ遺存状態は悪い。遺存している左袖部から推定して短く直線的に20cm～30cmほど付設していると思われ、火床部は僅かに掘り込まれ前面部に位置し焚口は開き気味か？。煙道部は擾乱の為不明。砂質のやや少ない灰褐色の粘性のやや強い粘土を用いている。

覆土は、若干の乱れが見られるが自然埋積と思われ5層に分類され1層は褐色、2層は明褐色ロームブロックを多量に含む、3層は暗褐色で下層程明るさを増す。

遺物は、少なく総数で24片で図示出来るものはない。17号住居址の10cm南側、13号住居址の20cm南と言う位置関係から本址は17号住居址よりは新しく13号住居址よりは古いか？。

遺物から13号との新旧関係は断定出来る資料は少なくプラン、方位、規模等から推定して時間的にはそれほどの差は持たないと理解される。

#### 第15号住居址（第35図）

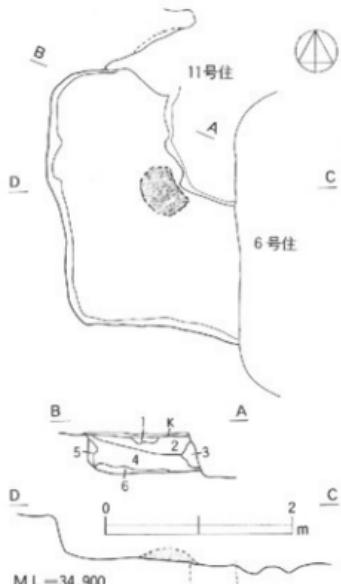
本址は、6号住居址の西側1区、P-9・10グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出され東側を6号住、北側を11号住に切り込まれ南側には土坑が存在していた。遺存部は約五分の二前後と思われる。主軸をN-6°-Wに置き、南北2.7mの隅部が僅かに丸みを持つ方形プランを呈すると推定され、壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは50cm前後を測る。床面は全体に踏み固められているが壁面周辺が弱い。東側に向かってやや傾斜をしめす。中央部に粘土が認められた。周溝、柱穴は確認されない。

竈は遺存部では検出されない。

覆土は、6層に分類され1～4層は褐色1・3層は灰褐色の粘土粒子、2・4層はロームブロック、粒子の混入差で締まりはややあり粘性は強い。

遺物は、少なく図示出来る物はなかった。

本址は切り合い関係からは6号住→11号住→8号住=15号住が推定される。本群の住居址の中では最も古い時期に構築されたと断定される。



土層凡例

層別	色調	含 有 物	性 質	縫 り
1	褐色	火褐色粘土粒子や多量	強い	強い
2	褐色	ローム小ブロック・粒子少量	やや 有り	強い
3	褐色	灰褐色粘土粒子少量	〃	強い
4	褐色	ローム粒・小ブロックや多量	〃	〃
5	明褐色	ローム粒子・ブロック多量	強い 有り	やや 有り
6	明褐色	ローム粒子多量	強い	強い

第35図 第15号住居址実測図

### 第16号住居址（第36・37図）

本址は、17号住居址の西南側1区、I-14・15グリットを中心に確認された住居址で台地が緩く西側に傾斜を示す面に位置し検出された。切り合い関係ではなく単独である。主軸をE-14°-Sに置き、東西3.3m、南北5.8m、隅部の鋭角な長方形プランを呈している。壁面は北、東側では10cm~15cmを測るが南側では擾乱の為不明確。床面は竈の前面を中心によく踏み固められていたが前述のように南側は凹凸が見られ遺存状態は悪い。僅かに西側に傾斜を示す。周溝は北側の全体の三分の二程で認められ北壁面ではU字状に明確な掘り込みを残していた。柱穴は確認出来ない。

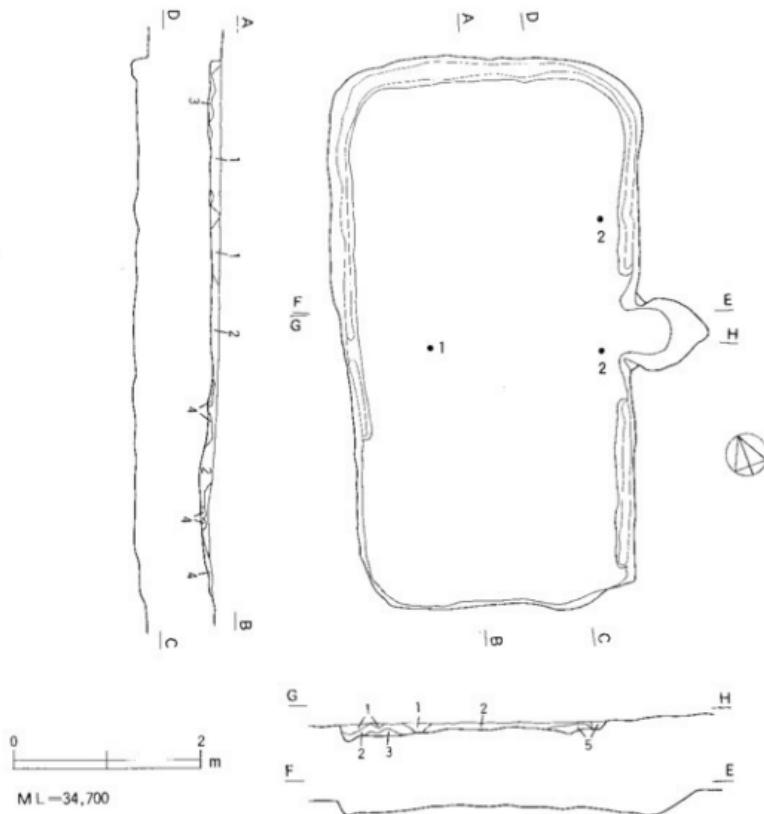
竈は東壁中央部に位置し確認された。大部分をU字状に外側に掘り込み構築している。袖部は逆八の字状に僅かに付設、焚口部は狭く火床部は10cm程掘り込み中位に位置、煙道部はゆるやかに立ち上がる。袖、火床部周辺は灰褐色の粘土を用い粘性は強い。東壁に竈を持つ一群の住居址の中ではプラン及び竈の形態は類似のものが多い。

覆土は、5層に分類されたが1層暗褐色を除き何れも褐色でロームブロック、粒、焼土

粒子、炭化粒子、灰褐色粘土粒子の混入差である。

遺物は、総数55片ほどで少なく僅かに壺形土器に器形の窺えるものが見られた。1、2とも「く」の字状外反、1は口唇部尖り気味、2は外面カット状でつまみ出し気味、1は最大径が胴中位で長胴気味、2は最大径を上位に置き長胴形。

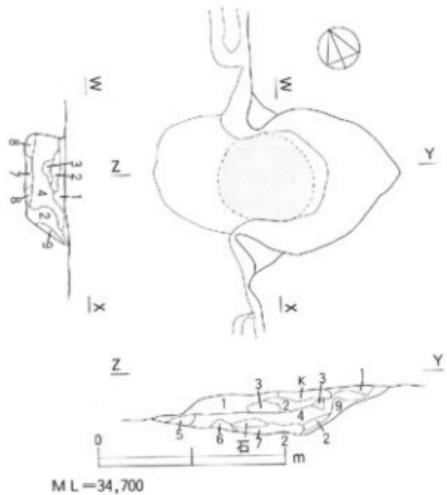
東側に竈を有するプラン、遺溝の中では最も古い時期に位置するものとおもわれる。



土層凡例

番号	色調	含 有 物	結 構	性 質	被 り
1	暗褐色	ロームブロック少量	弱	強	い
2	褐 色	ローム粒・塊・粒・小ブロック少量	"	"	
3	褐 色	ローム粒・小ブロック少量	"	"	
4	褐 色	ローム粒子や多量	やや有り	弱	い
5	褐 色	燒土粒子・炭化粒子・灰褐色粘土 粒子多量	"	やや有り	

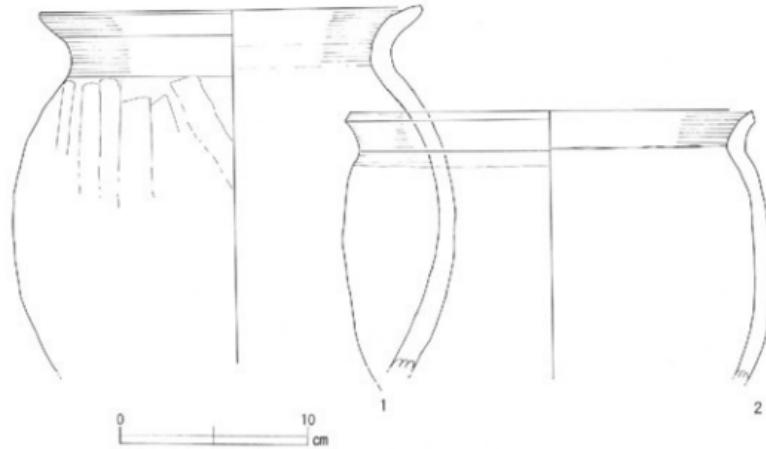
第36図 第16号住居址実測図



M L = 34,700

土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	透 水 性
1	褐色	黒色粒・燒土粒子少量	弱い	強い
2	褐灰色	灰褐色粘土粒子多量	強い	弱い
3	棕色	褐色粘土ゾック多量	弱い	やや 有り
4	暗赤灰色	褐色粒や多量	弱い	弱い
5	黒褐色	燒土粒子少量	弱い	弱い
6	褐色	燒土粒子・灰褐色粘土粒子少 量	弱い	弱い
7	赤褐色	燒土粒子多量	無し	弱い
8	褐色	燒土粒子少量	弱い	弱い
9	褐灰色	灰褐色粘土粒子多量、 燒土粒子少量	強い	強い



第37図 第16号住宅、出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 20.4 B C	頸部「く」の字状外反、口縁部肥厚し水平に近く開き口唇部丸く收める。最大径を胴中位に置く。	横ナデ、箇削り ナデ	裸、空母 褐色、1部黒褐色 やや不良	40 % 床直
2	甕 土師器	A 21.4 B C	頸部のくびれは弱く「く」の字状外反、口脣部断面三角形状、長胴形か器内は薄い。	横ナデ、ナデ	裸、長石 に多い黒褐色 普通	20 % 床直

## 第18号住居址（第38・39図）

本址は、13号住居址、1号溝の東側1区、O-14・P-14グリットを中心に確認された住居址で台地はほぼ平坦に移行する面に位置し検出された。切り合ひ関係は南東側に29号住居址竈部分が位置しこれをつぶしている。主軸をE-10°-Sに廻り、東西3m、南北3.4m、隅部が丸味をもつ長方形状プランを呈していしている。壁面は北、東側では10cm～15cmを測るが南、西側で5cm前後と浅い。床面は竈の前面を中心良く踏み固められていたが前述の様に南側では粘土が見られ貼り床になる。わずかに西側に傾斜を示す。周溝は北側、東側の半分に浅く認められたが他は検出されない。柱穴は確認出来ない。

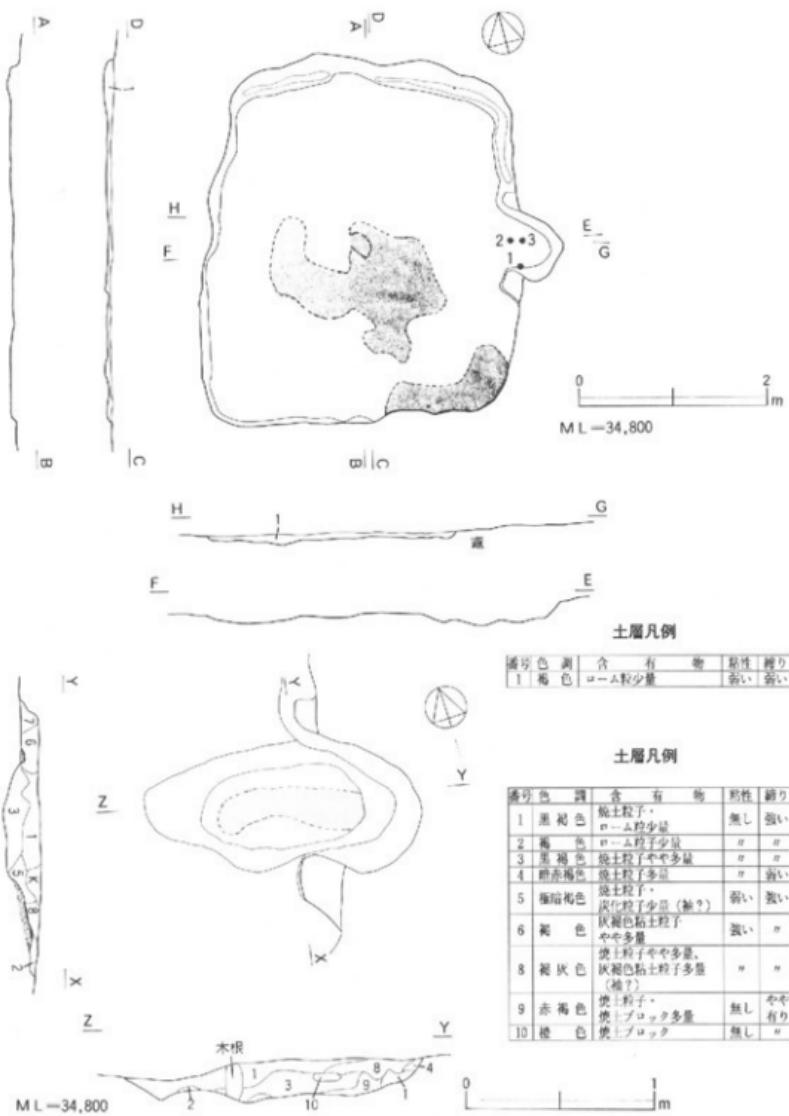
竈は東壁中央部に位置し確認された。大部分をU字状に外側に掘り込み構築している。袖部は20cm程の長さで直線的に僅かに付設、焚口部は開き火床部は15cm程掘り込み竈内から住居内に細長く認められ前述の16号住居址同様煙道部はゆるやかに立ち上がり袖、火床部周辺は灰褐色の粘土を用い粘性は強い。東壁に竈を持つ一群の住居址の中ではプラン及び竈の形態は類似のものが多い。

覆土は、浅いため1層に分類されたが何れも褐色でロームブロック、粒、粒子の混入差である。縮まりは弱い。

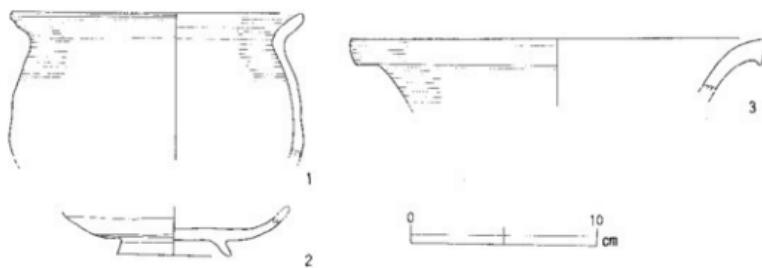
遺物は、前述の様に浅いため床面からの出土は少なく竈内より出土した甕形土器と皿状で短い脚をもち内面に箇ナデをもつものと須恵器甕？と思われる大型の小破片が見られたが明確に器形の窺えるものはない。

東側に竈を持つ遺構の中では本址も長方形プランを呈し遺物は少なく浅くその類例の範囲から外れるものではない。

竈前面に灰原が認められる点は他の東側に竈をもつ遺構の中では差違が認められよう。



第38図 第18号住居址、竪実測図



第39図 第18号住居址出土遺物実測図

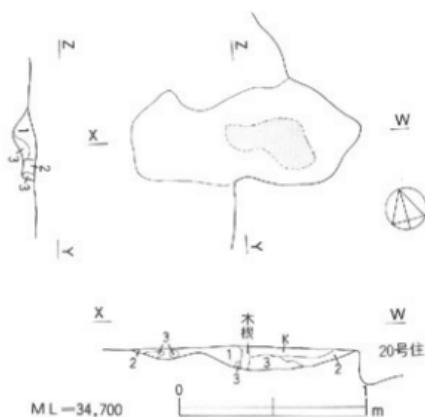
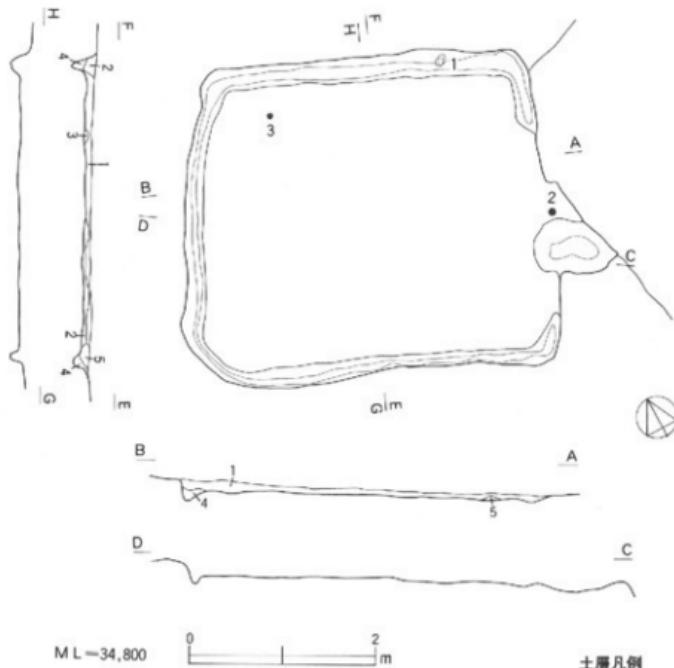
#### 出土土器観察表

番号	器種	法層(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	新土、色調、焼成	備考
1	小型壺 土師器	A 20.5 B C	小型壺と推察され、頸部は「く」の字状外反 短い口縁部は肥厚、上方へ尖り気味。	横ナデ、ナデ	難、長石 橙色 普通	20 % 窓内
2	台付壺 土師器	A B C 6.0	脚部、台は貼付、短く「ハ」の字状に開き薄い。水平に近く開いてゆるく体部は立ち上がる。	ナデ、鎌磨き状	難、石英 暗褐色 やや良	20 % 窓内
3	壺 須恵器	A 22.2 B C	口縁部外反、口唇部下位にたれ下がり状、やや丸味をもつ。搬入品か?。	横ナデ、ナデ	難 灰白色 やや良	5 % 窓内

#### 第19号住居址（第40・41図）

本址は、14号住居址の南側1区、L-16・K-17グリットを中心に確認され住居址で台地が緩く東側に傾斜を示す面に位置し検出された。東側の一部は20号住居址を埋めて構築し西側中央部には土坑が認められた。(縄文期) 主軸をE-18°-Sに置き、東西4m、南北3.3mやや不整形な長方形プランを呈していしている。壁面立ち上がりは5cm~10cmを測り浅い。床面は窓の前面を中心良く踏み固められていた。ほぼ水平に移行する。周溝はU字状に明確な掘り込みを有し幅10cm~20cm、深さ10cm前後。柱穴は確認出来ない。

窓は東壁中央部やや南に寄って位置し確認された。U字状に外側に掘り込み構築している。袖



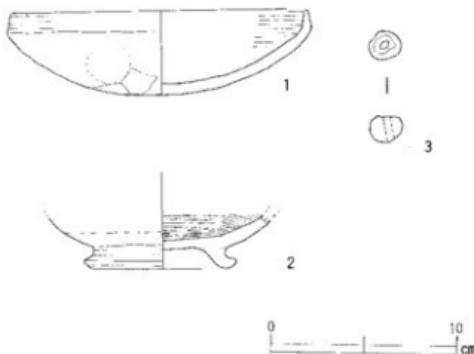
第40図 第19号住居址、竪実測図

部は認められず火床部は10cm程掘り込み中位に位置し周辺部に灰褐色の粘土を貼付けている。煙道部はゆるやかに立ち上がる。

東壁に竈を持つ一群の住居址の中ではプラン及び竈の形態は類似のものが多く本址の場合明確に東側に長軸を置く。

覆土は、5層に分類された。1・2・4層は褐色でロームブロック、粒、粒子の混入差である。3層は暗褐色で焼上粒子を少量含む、5層はロームブロック、粒子を多量に含み明褐色、粘性はややある。1層が大部分をしめる。

遺物は、少なく20片程度1は竈袖に当る部分から出土半球形の坏、口縁部は短く直立、口唇部は丸味をもつ、2は周溝から出土した内黒で碗形に近く脚部は短く断面三角形状に収めている。3は図示しなかったが雲母片岩で竈を持つ住居址の遺構の中では共通するものすべて出土している。



第41図 第19号住居址出土遺物実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	环 上部器	A 15.9 B 5.5 C 3.5	丸底気味で内壁して立ち上がり口縁部は内傾し短い、口唇部尖り気味。	横ナデ、箆ナデ ナデ	礫、砂長石 にふい黒褐色 普通	80 % 床 直
2	台付皿 上部器	A B C 8.1	台は貼付、短く端部“ハネ”上りり状構造に丸く収める。内黒艶磨状(剥落多し)。	ナデ、箆ナデ	礫、長石 淡い褐色(灰褐色) やや良	20 % 床 直

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
3	上縁	1.3	1.7	0.4	3	土製	覆土中	不整形球状、孔部長円形、指頭押え

## 第20号住居址（第42・43図）

本址は、19号住居址の東側1区、K-16・K-17グリットを中心に確認された住居址で台地が緩く東側に傾斜を示す面に位置し検出された。東側は傾斜の為大部分欠失し北側は25号住居址に掘り込まれ遺存率は五分の二前後と思われる。主軸をN-20°-Eに置き、東西、南北5mほどの方形プランを呈するものと思われる。壁面の立ち上がりは北、西側で20cm前後を測り浅い。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められれば水平に移行する。周溝は北側の一部に認められたが不規則な掘り込みを有していた。柱穴は確認出来ないが中央部近くに径60cm程の円形状の掘り込みが見られ深さ70cmを測る。

竈は北壁に位置し確認されたが袖部の一部のみで形態等は不明。砂質の粘性の弱い粘土を用いていた。

覆土は、4層に分類され自然埋積か？1層は暗褐色2・3層は褐色、4層は明褐色何れもロームブロック、粒、粒子の混入量の差である。

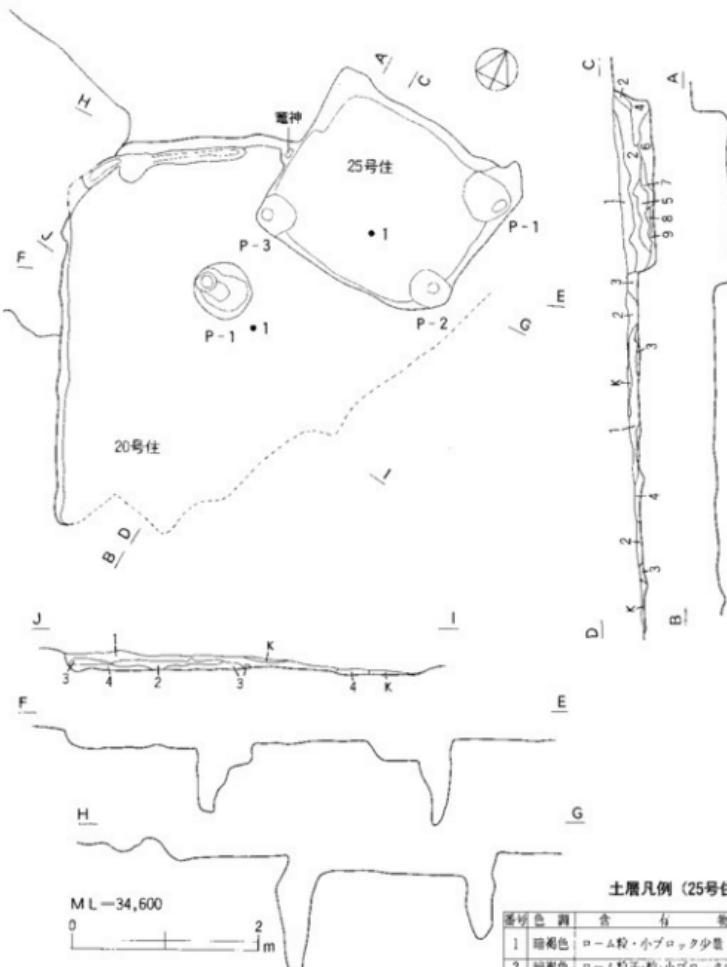
遺物は、少なく15片程度1は胴部下半で鋤削りがみられ球形胴に近い壺形土器か、周溝部からは図示しなかったが雲母片岩が浮いて出土19号住居址もしくは25号住居址のものか？

本址は19号住居址に埋められ又25号住居址に掘り込まれ、切り合い関係からは最も古い時期になり少ない遺物から断定するには困難であるが20号住→19号住→25号住の新旧関係が推定される。

## 第25号住居址（第42・43図）

本址は、20号住居址の北東側1区、K-16・L-16グリットを中心に確認された住居址で台地が緩く東側に傾斜を示す面に位置し検出された。20号住居址の北隅を切り掘り込む。長軸をE-7°-Sに置き、東西2.2m、南北2mの隅部が西側では銳角、東側では丸味をもつ方形プランを呈していいしている。壁面立ち上がりは北、西側では40cmを測り開き気味、南側では本址の確認が遅れた為掘り込みは20号住居址の床面からであった。床面は全体的に締まりは弱くローム剥き出しの感をもつがほぼ水平に移行する。周溝は確認されない。柱穴と思われるピットが北、東、南側の三ヶ所隅部に認められ60cm～70cmと深くU字状に二段の明確な掘り込みを残していたが西隅部に確認されなかったため柱穴と断定するには問題な点がある。

竈は確認されない。調査時に北側に焼上りが確認された為、竈と考えられたがたんなる焼上で竈、

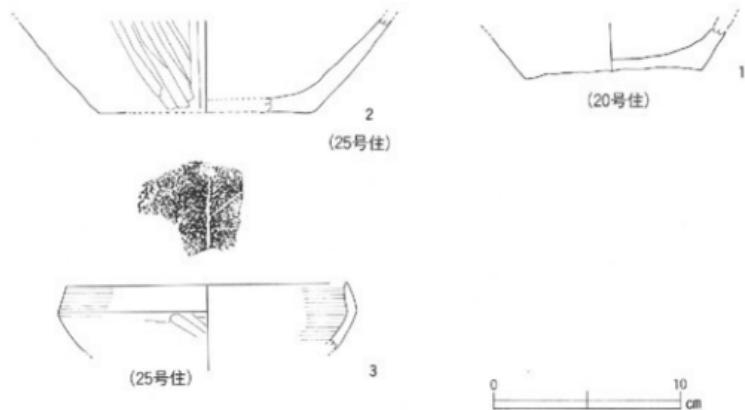


第42図 第20、25号住居址実測図

炉にはならなかった。

覆土は、9層に分類され1・2・4・7層は暗褐色でロームブロック、粒、粒子、焼土粒子、の混入差で3、9層はローム粒子多量、粘土粒子の混入差である。5・6層も褐色ではほぼ同様。

遺物は、総数15片ほどで少なく僅かに甕型土器と思われる2と半球形状で口縁部長目で内傾する3の坏は口唇部尖る。その他雲母片岩が床面から出土している。



第43図 第20、25号住居址出土遺物実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A B C 9.9	平底から開いて立ち上がる、底部に木葉痕あり(20号住)	ナデ	礫、石英 にぶい橙色 普通	1 % + 5
2	甕 土師器	A B C —	平底から開いて立ち上がり器肉を減じる。底部木葉痕、ヘラケズリ(25号住)	笠削り、ナデ	礫、雲母、石英 にぶい褐色 普通	5 % + 2
3	坏 土師器	A B C —	小破片、肩部から長目の口縁部は内傾、器肉は薄い。(25号住)	横ナデ、能ナデ ナデ	礫 黒褐色 普通	5 % 覆土中

## 第21号住居址（第44・45・46図）

本址は、25号住居址の東側1区、○-17・18グリットを中心に確認された住居址で台地はゆるく南側に傾斜を示す位置に検出された。切り合い関係ではなく単独であるが南側の半分は床面のみでこの終わりを住居址の範囲として捉えた。主軸をN-2°-Eに置き、東西5.8m、南北5.2m隅部が僅かに丸味を持つ方形プランを呈し、遺存状態の良い北側では壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは55cm東側の一部では60cmを測る。床面は竈の周辺部では良く踏み固められていたがわずかに壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝は各方向で確認出来なかった。柱穴は、4ヶ所確認されP 1、P 2は径50cm、60cm、深さ50cmから60cmを測りU字状の掘り込み。P 3は径50cm、深さ60cm長円形状で二段に掘り込みP 4は55cm×60cmで楕円形深さ50cmで大きめの掘り込み。

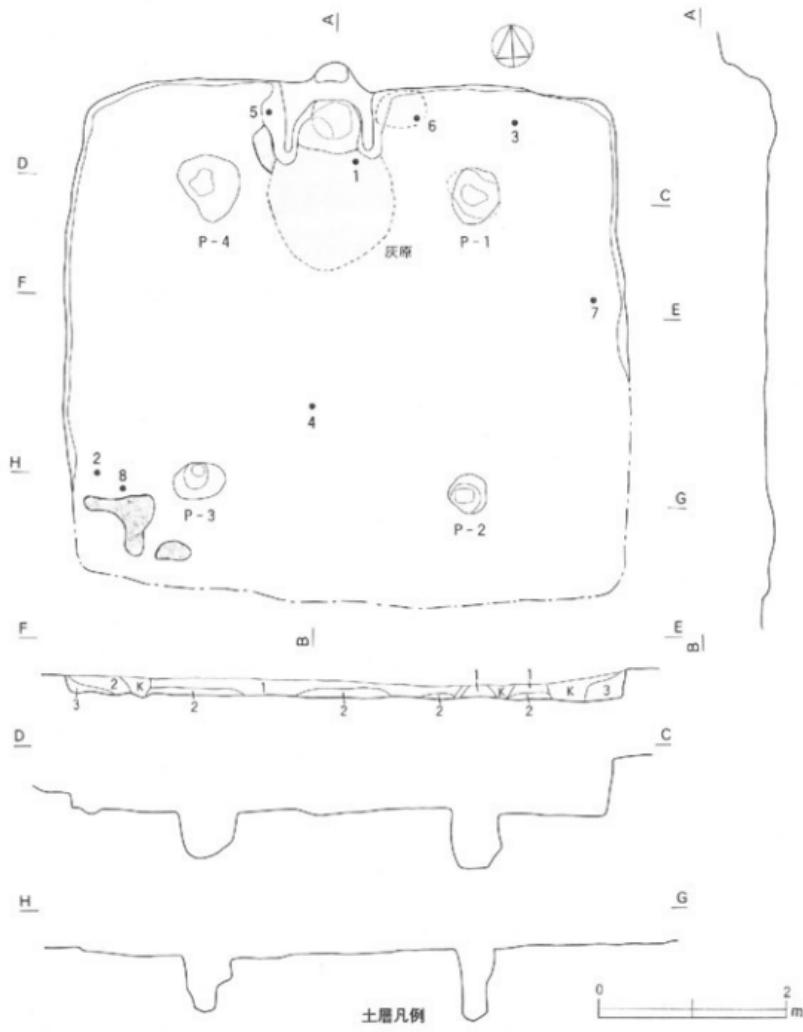
竈は北壁中央部に位置し遺存状態は良く天井部の一部と煙道部が確認された。外部へは僅かに掘り込み袖部は90cmほどの長さで直線的に付設、火床部は10cm程掘り込まれ中程に位置し、煙道部は緩やかに立ち上がる。砂質の多い灰黄色粘土を用い粘性の弱い粘土を用いている。前面には灰原が認められる。

覆土は、6層に分類されたが1・2・5・6層は褐色層で何れもロームブロック、粒子の混入差で繊維はややあり粘性は弱い。

遺物は、中央部から西側に散在して認められ全体に少なく総数70片程度であった。1は竈の灰原から出土した菱形土器。口唇部は斜め上方へ擴み出す。2は格子、平行叩き目をもつ。3は当て痕を残す。4は安定した底部から開いて器肉を減じて立ち上がり口唇部尖る。底部は笠調整がなされ5は回転窓切り痕の後ナデ。6は付高台で回転窓切りを残している。7は擴み部を欠失し天井部のふくらみは弱い。口端部は尖り気味でカエリはない。8は四面に使用痕をもち一部自然部を残し欠失する磁石。

やや大形の住居址で付高台の壙を出土した類例は少なく、本時期でもこのような規模の住居址が存在していることは注目される事である。また掘り込みが浅い点は他の遺構と違いはない。

灰原の前面に広がる点も注目される遺構である。



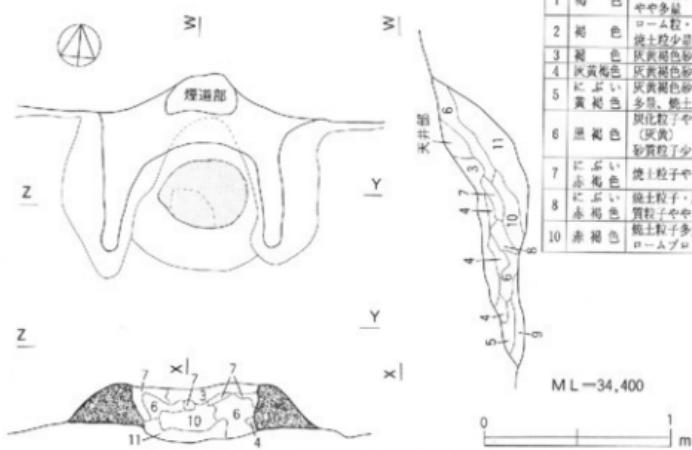
番号	色調	含 有 物	粒 度	粗 粒
1	褐色	ロームブロック少量、粒子やや多量	砂 質	やや あり
2	褐色	ローム粒子多量、ブロック少量	泥 質	な い
3	明褐色	ローム粒子多量、ブロックやや多量	泥 質	な い

M.L. = 34,500

第44図 第21号住居址実測図

土層凡例

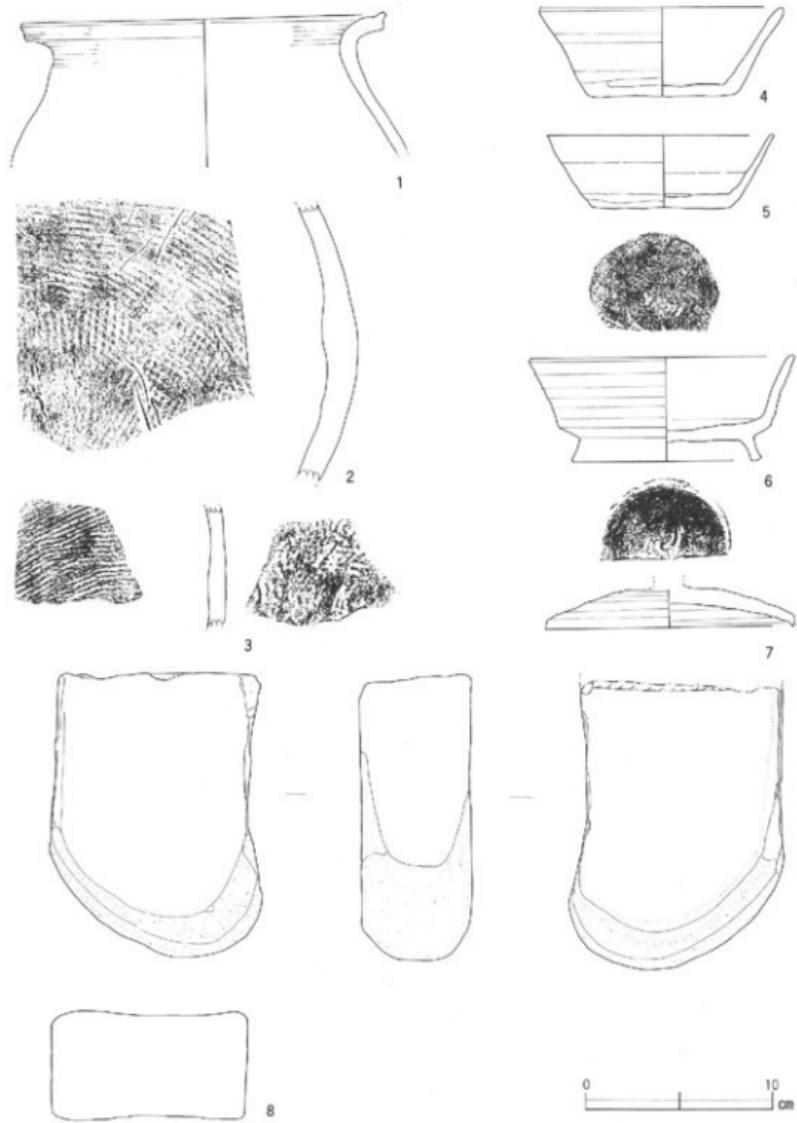
番号色調	含有物	新性	持続性
1 灰色	灰黃褐色砂質粒子やや多量。	弱い	強い
2 灰色	ローム・焼土粒少（9割）	やや有り	やや有り
3 灰色	灰黃褐色砂質粒子少量。	弱い	弱い
4 灰黃褐色	灰黃褐色砂質粒子多量。	弱い	弱い
5 黄褐色	灰黃褐色砂質粒子中や多量。燒土粒少量。	弱い	弱い
6 淡褐色	灰褐色少（やや多量、（灰黃）砂質粒子）少量。	弱い	弱い
7 にぶい赤褐色	燒土粒子やや多量。	無し	弱い
8 にぶい赤褐色	燒土粒子・灰黃褐色砂質粒子やや多量。	弱い	弱い
10 赤褐色	燒土粒多量、ロームブロック少量。	弱い	やや有り



第45図 第21号住居実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土瓶器	A 19.5 B C	口縁部水平に近く外反、口唇部斜上方へ丸くつまみ出す。	横ナデ、ナデ	礫、石英、雲母 にぶい黒褐色 普通	5 % + 10
2	壺? 須恵器	A B C	幅の広い叩き目を横位、縱位にもち、内外に灰軸が認められる。	輪積み?、巻上げ? 叩き、ナデ	礫、石英 にぶい灰褐色 良	5 % + 8
3	壺? 須恵器	A B C	横位の幅の狭い平行叩き目をもち、内面に同心円状のあて巻をもつ。	輪積み?、巻上げ? 叩き、ナデ	礫、石英 にぶい灰褐色 良	3 % + 21
4	壺 須恵器	A 13.0 B 4.8 C 7.8	安定した平底から直線的に開いて移行、口唇部丸く収める。底部削り。	箝削り、横ナデ ナデ 左廻り	礫 褐色 やや良	70 % + 4
5	壺 須恵器	A 12.1 B 3.9 C 8.0	安定した平底から直線的に開いて立ち上がり器肉は薄い。口唇部丸く収める。	ロクロ水引?、ナデ 底部箈削り	礫、石英 にぶい褐色 やや良	40 % 電油
6	壺 須恵器	A 14.2 B 5.5 C 10.2	付高台は「ハ」の字状に開き、底端部に位置し、底部は水平に移行、体部は直立気味に立ち上がり、口縁部開き気味、口唇部尖り気味。	ロクロ水引? ナデ、底部箈削り 左廻り	礫、長石 褐色 良	40 % 床直



第46図 第21号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法規(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎上、色調、焼成	備考
7	蓋 須恵器	A B C 13.2	天井部のフクラミは浅く、カエリはない端部は丸くつまみ出しつまみ部欠失。	巻上げ、ナデ 回転台	磯、長石 褐色 やや良	80 % + 6

### 石器一覧表

番号	器種	法規(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
8	砥石？	15.2	11.2	6.0		砂岩	+	5 4面使用痕あり、砥石として使用したと理解され各面痕跡顯著

### 第22号住居址（第47・48図）

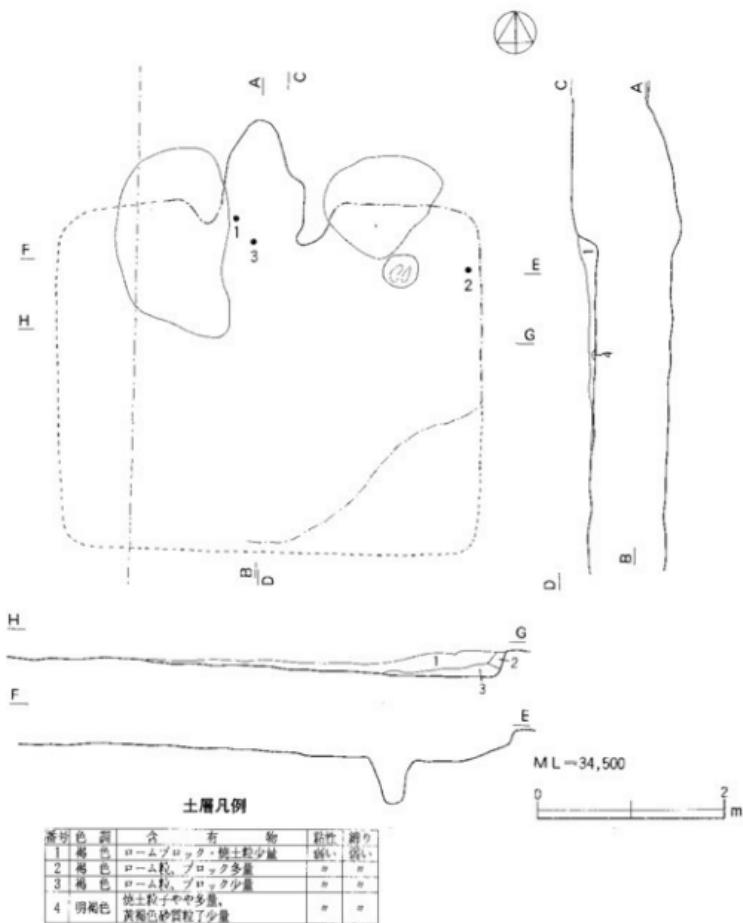
本址は、9号溝の東側1区、M-16・N-16グリットを中心に確認された住居址で台地はゆるく南側に傾斜を示す位置に検出された。竈の西側、南側は大きく攪乱が入り西側は9号溝に掘り込まれ遺存部は少ない床面の確認された面から範囲を捉えた。主軸をN方向に置くと思われ推定4m前後の方形プランを呈すると思われる。遺存状態の良い北側では若干の立ち上がりが認められる。床面は竈の周辺部ではやや踏み固められていたが遺存状態は悪い。ほぼ平坦に移行している。周溝、柱穴は確認されない。

竈は北壁に位置し遺存状態は悪く左袖部は欠失している。僅かに右袖、火床部が認められ僅かに掘り込み前面に位置する。袖部は60cmほどの長さで直線的に付設、煙道部は緩やかに立ち上がる。砂質の多い灰黄色粘土を用い粘性の弱い粘土を用いている。

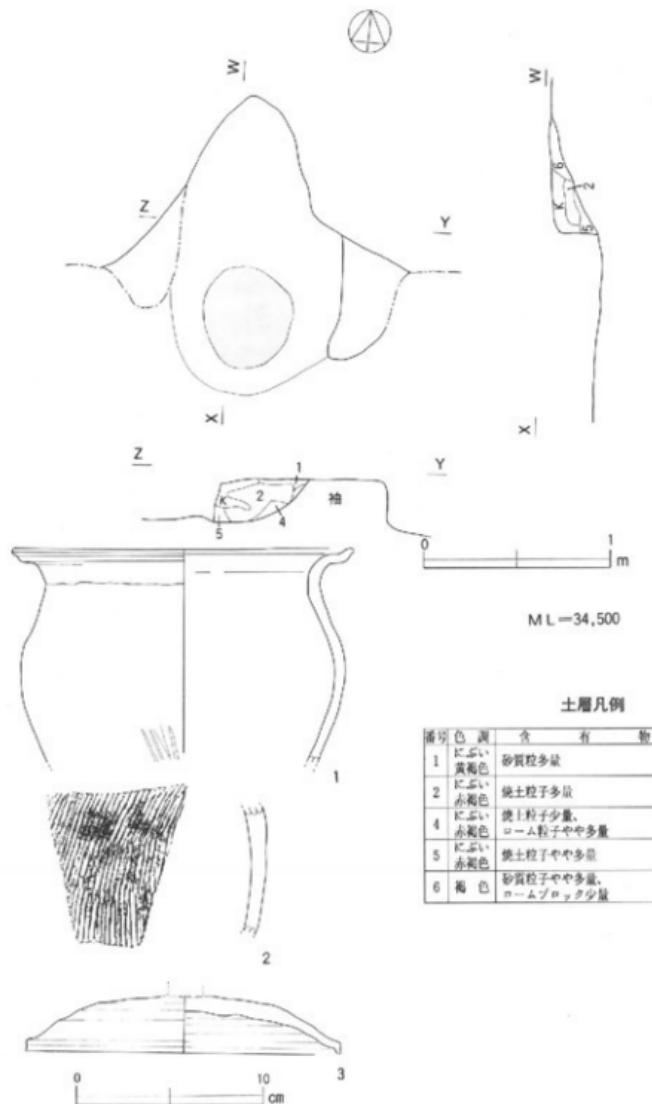
覆土は、4層に分類されたが1・2・3層は褐色層で何れもロームブロック、粒子の混入差で繋まりはややあり粘性は弱い。4層は明褐色焼土粒子を含む。

遺物は、竈の中、東側に散在して認められ全体に少なく総数40片程であった。1は變形土器で口唇部は斜め上方へ摘み出す。2、3は須恵器で2は大型の壺か縦位の平行叩き目をもつ3は蓋で摘み部を欠失し天井部のふくらみはややある。カエリは退化。

29号住居址を掘り込み、切り合い関係からは29号住→22号住の新旧が認められるが遺存状態が悪く、遺物も少ないため土器については明確に断定できないがかなり時期に遡りが認められる。



第47図 第22号住居址実測図



第48図 第22号住居址発、出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	小型壺 土師器	A 18.3 B — C —	頸部「く」の字状、口縁部斜上方へ長くつまみ出し丸く収める。	横ナデ、ナデ 箇削り	織、雲母 暗褐色 普通	10 % 電 内
2	甕 ？ 須恵器	A — B — C —	横位の平行叩き目をもつ。胴上半部	平行叩き目、ナデ	織、長石、石英 褐灰色 やや良	胴 部 床 直
3	蓋 須恵器	A — B — C 16.7	天井部のフクラミはややあり施調整、端部は直立し丸くつまみ出す。	巻上げ、ロクロ水引き？上部回転ヘラ調整、左廻り	織、石英 褐灰色 やや良	40 % 電 内

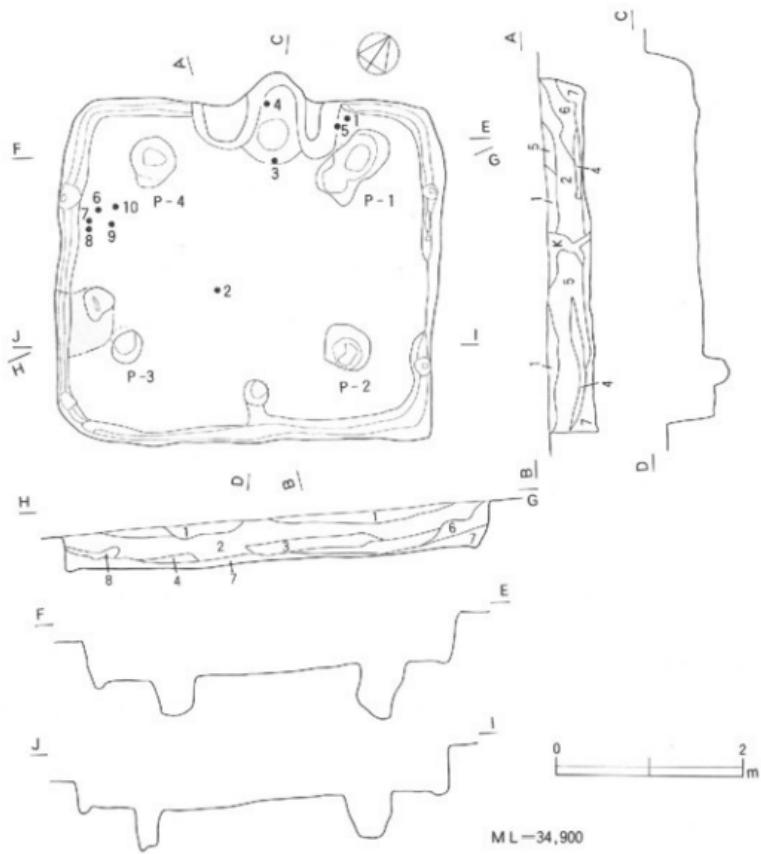
## 第23号住居址（第49・50図）

本址は、18号住居址、2号溝の東側1区、Q-16・R-16グリットを中心に確認された住居址で台地が緩く南側に傾斜を示す位置に検出された。西側で24号住居址を切り込み複合関係にある。主軸をN-35°-Wに置き、東西3.65m、南北4mの隅部の丸味をもつ方形プランを呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは30cm～50cm前後を測る。床面は竈の周辺部では綺まりはみられたが壁面周辺が弱い。中央部がやや高く移行している。周溝はU字状形態で幅10cm～20cm、深さ10cmほどで巡り東側に2ヶ所、西側に1ヶ所のピットが見られた。いずれも10cm前後と浅い。柱穴は、4ヶ所確認されその他2ヶ所のピットが認められた。P1はやや斜めに掘り込まれ径45cm、深さ60cm、P2は径50cm、深さ50cm、P3は径30cm、深さ45cm、P4は径40cm、深さ40cmを割る。

竈は北壁面に位置して構築されていた。外部へは半円形に30cmほど掘り込み袖部は直線的に50cm～60cmほどの長さで付設、火床部は若干掘り込まれ前面部に位置し、煙道部は緩やかに立ち上がる。U字状形態を呈し砂質で粘性の弱い粘土を用いている。焚口部は開き気味。

覆土は、投げ込み的で7層に分類され1・2・3・4・5層は褐色。何れもロームブロック、粒、粒子の混入差で4・7層は暗褐色でローム粒少量、7層は多量に含む。

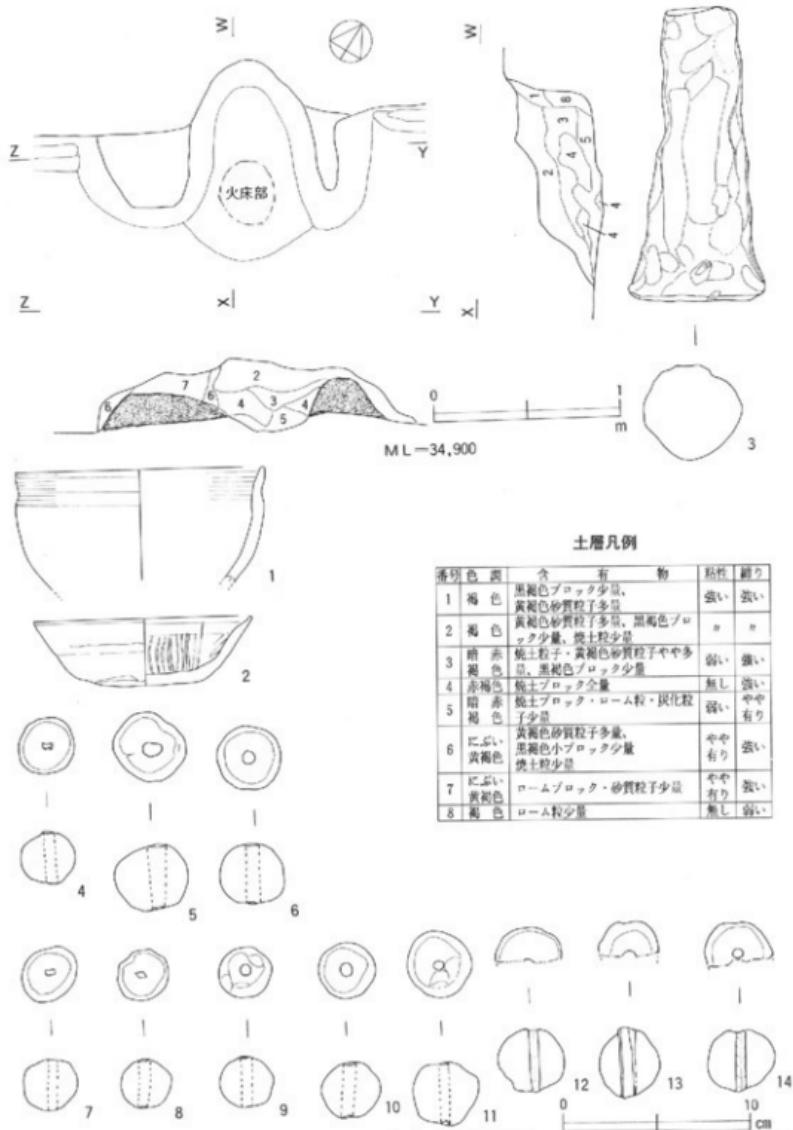
遺物は、総数50片程で竈側に多く認められ1は竈東側から出土した甕で肩部に段をもつ。2は外反して立ち上がり口唇部内面に段が巡り輪積み痕を残す。6～10は西側壁面にそってまとまって出土、何れも不整形粗雑な作りで孔部は三日月状のものが多く重さは15～37gと幅がある。



土層凡例

番号	色 裏	含 有 物	性 質	組 み
1	褐色	ローム数少量	弱	い やや有り
2	褐色	ローム小ブロックや多量、 ローム粒子少量	"	"
3	褐色	灰褐色砂質粒子や多量	強	い
4	鉛褐色	ローム数少量	弱	い やや有り
5	褐色	ローム小ブロック少量	やや有り	"
6	褐色	ローム粒子や多量	"	強 い
7	明褐色	ローム粒子多量	強	い

第49図 第23号住居址実測図



第50図 第23号住居址竪、出土遺物実測図

出土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	碗 土師器	A 13.3 B C	内縁して立ち上がる。口縁部凹く外縁気味、口唇部丸く收める。器内は薄い。	横ナデ、ナデ	漆 にぶい赤褐色(1部 黒褐色)	50 % 電 神
2	环 七輪器	A 11.6 B 3.6 C 5.0	やや丸底気味開いて立ち上がり口縁部内側に沈線状凹み?つまみ出し?、が認められ内面 蓋層状。	粘土巻上げ、箆削り ナデ	漆、長石 橙色 や良	90 % + 8

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
3	支脚	15.7	7.2	5.1	523	土 製	廻 内	粗雑なナデ、ヘラ削り、四凸厳しい、やや細い
4	土 箍	2.9	3.0	0.5	25	"	"	不整形球状、ナデ、押え、孔部長方形状
5	"	3.5	3.9	1.0	35	"	床 直	不整形球状、方形に近い、ナデ、押え粗雑、孔部横円形
6	"	3.2	3.4	0.7	35	"	"	ほぼ球形状、ナデ、押え、孔部正円形
7	"	2.8	2.9	1.1	25	"	"	不整形球状、ナデ、孔部長方形状
8	"	2.8	2.7	0.6	17	"	"	不整形球状、ナデ、押え、孔部平行四辺形状
9	"	5.2	2.8	0.6	16	"	"	不整形球状、ナデ、押え、削り、孔部正円形
10	"	2.9	3.0	0.7	25	"	"	不整形球状、ナデ、押え、孔部正円形状
11	"	3.4	3.4	0.5	37	"	覆土中	不整形球状、ナデ、押え、孔部円形状
12	"	3.3	3.5	0.6	15	"	"	不整形球状、ナデ、箆削り、押え、孔部三ヶ月状?1/2欠
13	"	3.7	3.1	0.8	17	"	"	長円形状、粗雑なナデ、ケズリ、孔子横円形状1/2欠
14	"	3.2	3.6	0.6	20	"	"	不整形球状、ナデ、削り、孔部正円形2/5欠

## 第24号住居址（第51図）

本址は、23号住居址の西側1区、Q-16・17グリットを中心に確認された住居址で大半を23号住居址に掘り込まれて検出された。23号住居址と複合関係にある。主軸をN-2°-Eに置き、南北4.2cm隅部が若干丸味を持つ方形プランを呈すると思われる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは18cm~24cm前後を測る。床面は全体的に縮まりはみられたが上坑が多く弱い面が見られた。ほぼ平坦に移行している。周溝は北、西側の一部に認められたが浅い。柱穴は確認されず西側に径90cmの円形のピットが認められた。土坑は何れも縄文中期。

窓は確認されず23号住居址に掘り込まれ欠失したと推定される。

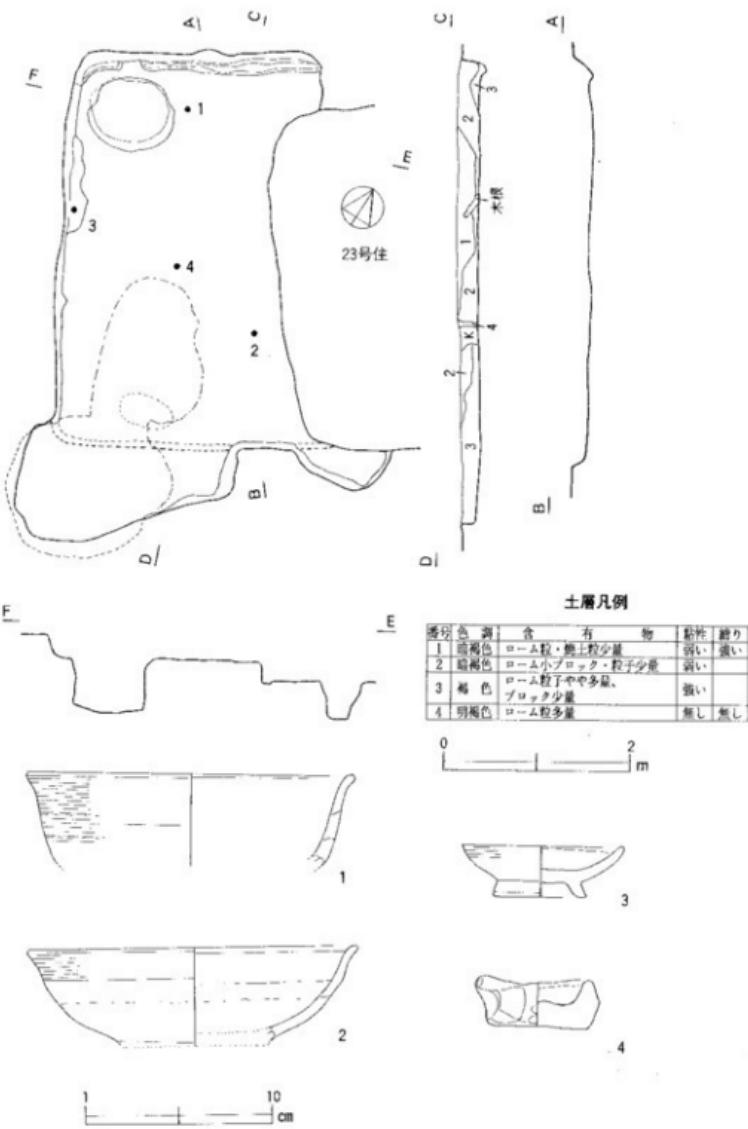
覆土は、4層に分類されレンズ状の自然埋積を示す。1層より徐々に明るさを増し4層は明褐色何れもロームブロック、粒、粒子の混入差で1層は焼土粒子を少量含む。

遺物は、総数35片程と少なく図示出来たものは4点であった。1・2は付け高台の大型の碗と推定され内面に巻き上げ痕を残し、1は平底?、高台はハの字状に張り内面に巻き上げ痕を残す。4は手すくねやや大型で指頭押え。

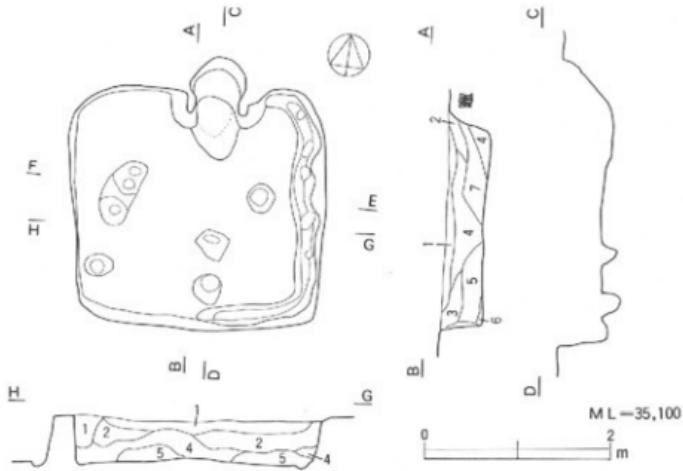
覆土、及び北東隅部、南側など切り合い複合が認められ遺存状態の悪い遺構であった。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	碗 土器	A 17.6 B C	体部外面、巻き上げ痕を残す。直立気味に立ち上がり口唇部肥厚、外反。	横ナデ、ナデ ナテ磨状?	織、雲母 黒褐色(一部褐色) やや良	10 % + 11
2	台付碗 土器	A 17.8 B C	ゆるやかに内轉して立ち上がり口縁部外反、 口唇部丸く収める。(巻上腹残す)	巻上げ、横ナデ、ナ デ	織、雲母 暗褐色(黒褐色) やや良	20 % + 8
3	台付皿 土器	A 8.2 B 2.7 C 5.0	「ハ」の字状に強く張る高台を貼付、体部は ゆるく内轉して立ち上がり口唇部は丸く収め る。(内面墨褐色)	巻上げ、箆ナデ 磨き。付高台	織、石英 にぶい橙色 やや良	100 % 床 直
4	手 掌 土器	A 6.3 B 2.7 C 5.0	安定した平底、ヘラケズリ、指頭押へ等で調 整、粗雑、口唇部凹凸。	箆削り、押へ、ナデ	織、スコリア 淡い黄褐色 普通	90 % + 9

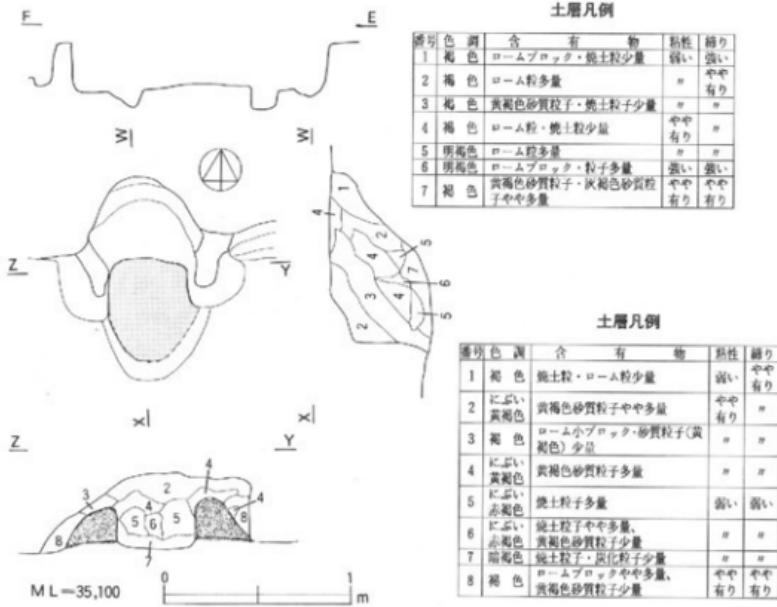


第51図 第24号住居址、出土遺物実測図



土層凡例

層序	色調	含 有 物	熱性	繊り
1	褐色	ロームブロック・燒土粒少量	弱い	強い
2	褐色	ローム粒多量	〃	やや有り
3	褐色	黄褐色砂質粒子・燒土粒子少量	〃	〃
4	褐色	ローム粒・燒土粒少量	やや有り	〃
5	明褐色	ローム粒多量	〃	〃
6	明褐色	ロームブロック・粒子多量	強い	強い
7	褐色	黄褐色砂質粒子・灰褐色砂質粒子やや多量	やや有り	やや有り



土層凡例

層序	色調	含 有 物	熱性	繊り
1	褐色	燒土粒・ローム粒少量	弱い	やや有り
2	にぶい 黄褐色	黄褐色砂質粒子やや多量	やや	〃
3	褐色	ローム小ブロック・砂質粒子(黄褐色)少品	〃	〃
4	にぶい 黄褐色	黄褐色砂質粒子多量	〃	〃
5	にぶい 赤褐色	燒土粒子多量	弱い	弱い
6	にぶい 赤褐色	燒土粒子やや多量、 黄褐色砂質粒子少量	〃	〃
7	暗褐色	燒土粒子・炭化粒子少量	〃	〃
8	褐色	ロームブロックやや多量、 黄褐色砂質粒子少量	やや 有り	やや 有り

第52図 第26号住居址、窓実測図

#### 第26号住居址（第52図）

本址は、8号住居址の東側1区、L-11・M-11グリットを中心に確認された住居址で台地が平坦に移行する面に位置し検出された。切り合ひ関係はなく単独であるが西側10cm～40cmには8号住居址が位置する。主軸をN-15°-Wに置き、東西2.6m、南北2.5m、隅部の丸い小型の方形プランを呈している。壁面は西側では鋭角他は開いて立ち上がり壁高は45cm前後を測る。床面は竈の前面では良く踏み固められていたが他は凹凸が見られ遺存状態は悪い、ほぼ平坦に移行する。周溝は東、南側の内部に小穴が認められる。この部分だけだれたU字状の掘り込みが見られた。柱穴は確認出来ない。小ビットが5カ所程認められたが不規則な位置関係で径30cm前後深さ20cm。

竈は北壁中央部に位置し確認された。外部へ半円形状に掘り込み住居址内には30cm程の長さで袖部を付設、焚口部は狭く火床部は10cm程掘り込み前面に位置、煙道部はゆるやかに立ち上がる。袖部は黄灰色粘土を用い粘性は弱い。

覆土は、若干乱れは認められるがほぼ自然埋積と理解され7層に分類されたが1～4層は褐色でロームブロック、粒、焼土粒子の混入差である。5・6層は明褐色ロームブロック、粒子を多量に含む。下層に向かって明るさを増す。

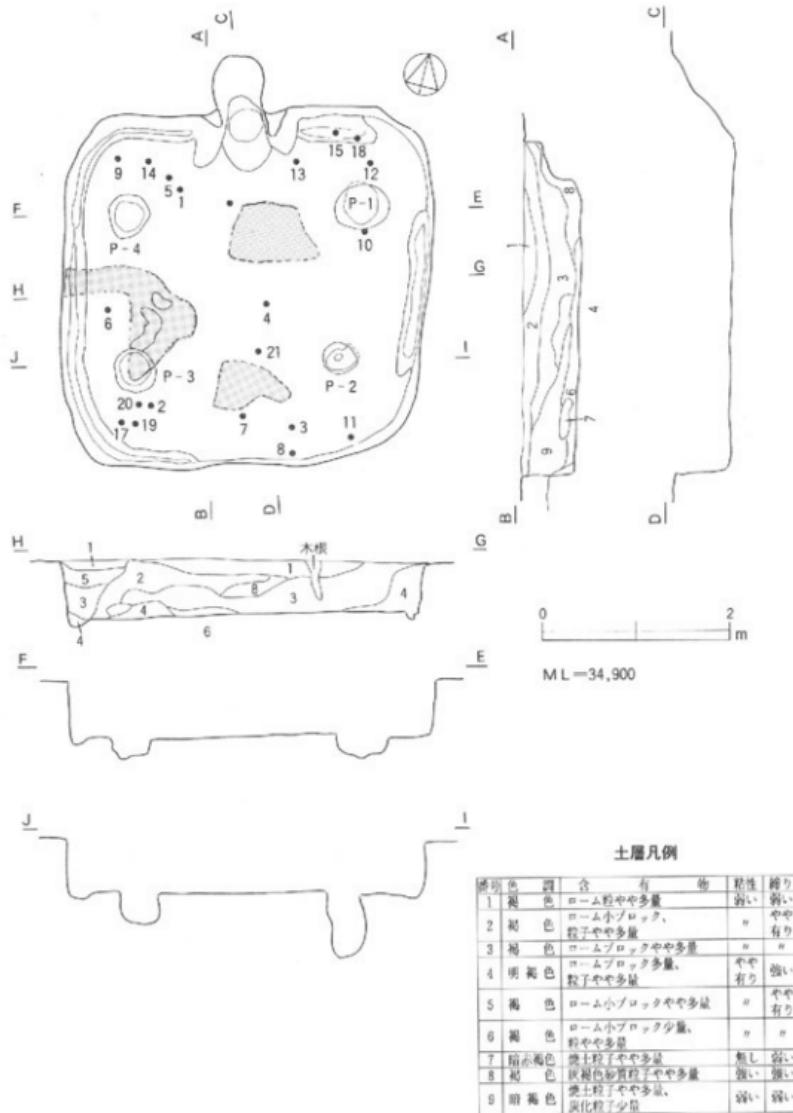
遺物は、総数35片ほどで少なく器形の窺えるものは少量、図示出来るものはない。

#### 第27号住居址（第53・54・55図）

本址は、26号住居址の北東側1区、T-7・8グリットを中心に確認された住居址で台地は緩く北側に傾斜する位置に検出された。北側の谷とは10m程の距離にあり南側、西側には土坑が3基掘りこまれている。主軸をN-17°-Wに置き、東西3.8m、南北3.8mの隅部の丸い方形プランを呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がり壁高、深さは60cm前後を測り深い。床面は竈の前面部では縁まりが認められたが壁面周辺が弱くローム剥き出しであった。三ヵ所の焼上の散在が見られ一部は床面が焼けている。ほぼ平坦に移行している。周溝は北東隅部、南側の一部に欠失する部分が認められ他はU字状形態で幅15～20cm、深さ10cmほどで巡る。柱穴は、4ヶ所確認されいずれも円形状の掘り込みが見られた。P1は45cm×60cm楕円形、深さ75cm、P2は40cm前後の円形状、深さ35cm Uの字状、P3は50cm程の円形、深さ20cmと浅い、P4は42cm×50cm楕円形、深さ22cmと浅い。

竈は北壁中央部より40cm程寄って構築されていた。外部へはU字状に70cm程掘り込み袖部は直線的に50cmほど開き気味に付設、焚口部は開く火床部は僅かに掘り込み前面に位置し、煙道部は緩やかに立ち上がる。砂質で粘性の弱い粘土を用いている。

覆土は、西側に土坑状に乱れが見られる他は自然埋積を呈し9層に分類され1・2・3・5・6・8層は褐色層でロームブロック、粒、粒子の混入量の差で4層は明褐色ロームブロックを多

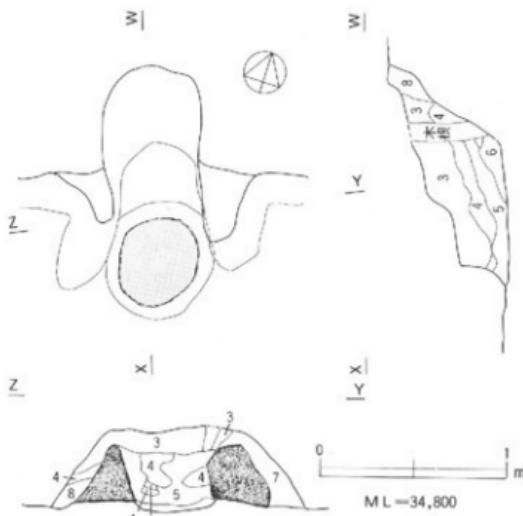


第53図 第27号住居址実測図

量に含み 7層は暗褐色焼土粒子をやや多く含む。G-Hラインの西側は土坑の可能性が考えられたが確認が遅く平面的には捉える事が出来なかった。

遺物は、ほぼ平均して散在してかなり認められ総数350片前後で小型の住居址としては多い部類に入る。

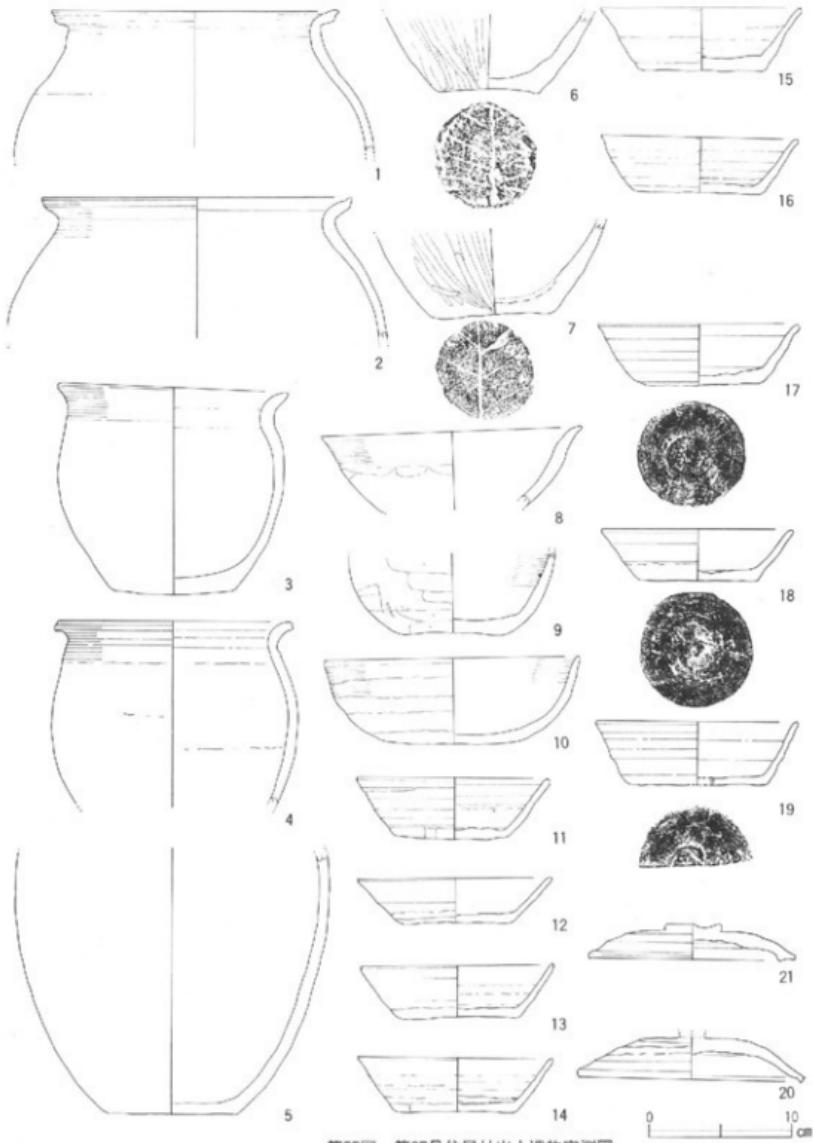
1-7は變形土器で1・2は口唇部つまみ出し、3は尖り気味、4は凹みをもつ。6・7は底部に窓削りがなされる。8は壊、9は碗か、10は大型、他は須恵器で安定した底部から開いて立ち上がり底部は横位の窓削り、巻き上げ痕を残す、回転ヘラ切痕を残すものとヘラで消すものが見られる。20・21は蓋で天井部の膨らみの強いものと弱いものカエリ、の顯著なものと退化し摘みの扁平化するものが認められる。



#### 土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	硬さ
1	褐色	ローム粒子・粒少量	弱い	弱い
2	褐色	灰黄褐色砂質粒子や多量	弱	弱
3	褐色	燒土粒・ローム粒少量	やや 有り	やや 有り
4	灰黄	灰黄褐色砂質粒子多量、 燒土粒子少量	弱	弱
5	褐色	燒土ブロック少量、 燒土粒子や多量	無し	弱い
6	灰黄	ロームブロックや多量、 燒土粒子少量	弱	弱
7	褐色	ロームブロック・灰黄褐色砂質粒子少量	やや 有り	強い
8	明褐色	ローム粒子多量、砂質粒子少量	強い	弱

第54図 第27号住居址遺実測図



第55図 第27号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎上 色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 20.1 B C	長胴形状器形、口縁部水平に近く開き、口唇部斜上方へつまみ出す。口縁部短い。	横ナデ、ナデ	礫、石英 にぼい黄褐色 普通	40 % + 33
2	甕 土師器	A 21.7 B C	最大径を胴上位に置くと思われる。頸部「く」の字状外反、短い。口唇部上方へ丸くつまみ出す。	横ナデ、ナデ	礫、雲母、石英 にぼい黄褐色 普通	10 % + 3
3	小型甕 土師器	A 16.2 B 14.2 C 8.3	や丸底気味、内轉して立ち上がり頸部弱く「く」の字状外反、肥厚、口唇部丸く収める。	横ナデ、ナデ 底部削り	礫、砂、石英 にぼい黄褐色 普通	70 % 床直
4	小形甕 土師器	A 16.5 B 13.0 C	3に近い器形と推定され口唇部外面に沈線が巡りや下位にたれ気味。調整はやや粗雑。	横ナデ、窓ナデ ナデ	礫、石英、長石 暗褐色 普通	70 % 床直
5	甕 土師器	A B C 9.2	平底から内轉して立ち上がり長胴形状、器形 器内はやや厚め。	ナデ、窓ケズリ	礫、長石、石英 暗褐色 普通	20 % + 7
6	甕 土師器	A B C 7.1	上底気味の底部から開いて立ち上がり器肉厚い。底部木底痕。	窓ケズリ、ナデ	礫、長石 暗褐色 普通	100 % + 3
7	甕 土師器	A B C 8.1	平底から開いて立ち上がり器肉厚い。底部木 葉痕。	窓削り、ナデ	礫、雲母、石英 暗褐色 普通	60 % + 5
8	碗 ? 土師器	A 13.5 B C	口縁部との間に弱い溝をもち長目、口唇部水 平に近く開く、やや尖り気味。	横ナデ、窓削り ナデ	礫、石英 にぼい暗褐色（暗褐色 色） 普通	15 % + 23
9	碗 土師器	A B C 7.2	平底から内轉して立ち上がり口縁部消失する。 立ち上がりながら器肉を減じる。	窓削り、ナデ 横ナデ	礫、石英 暗褐色（にぼい黄褐色 色） やや良	60 % + 5
10	碗 土師器	A 17.8 B 6.1 C 7.0	平底から内轉して立ち上がり口縁部やや肥厚し、外傾気味、口唇部丸く収める。	横ナデ、ナデ 窓削り？	礫、石英、雲母 暗褐色 普通	30 % 床直
11	坏 須恵器	A 13.6 B 5.3 C 8.0	平底から開いて立ち上がり器肉は一定、口唇 部丸く収める。底部窓削り。	巻上げ、回転ミズビ キ、窓削り、ナデ	礫、雲母 灰白色 普通	95 % + 8
12	坏 須恵器	A 13.7 B 3.2 C 7.6	安定した平底から開いて立ち上がり器肉は薄い。口縁部やや肥厚し、口唇部丸く収める。 底部窓切り。	巻上げ、回転ミズビ キ、ナデ 左廻り	礫、石英 灰暗褐色 普通	50 % + 4

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
13	环 須恵器	A 13.1 B 3.8 C 8.4	安定した平底から開いて立ち上がり口唇部丸く收める。底部鋸切り。	巻上げ、回転ミズビキ、鋸切り 左廻り	礫、雲母、石英 褐色(灰白色) やや良	80 % + 2
14	环 須恵器	A 13.7 B 3.9 C 8.4	安定した平底から開いて立ち上がり口唇部丸く收める。底部鋸削り。	巻上げ、回転ミズビキ、ナデ、鋸削り 左廻り?	礫、石英、雲母 灰白色 やや良	70 % 床 直
15	环 須恵器	A 14.1 B 4.5 C 8.8	安定した平底から器肉を減じ、開いて立ち上がり口縁部やや肥厚、口唇部丸く收める。	巻上げ、回転ミズビキ、左廻り	礫、雲母、石英 淡い褐色 やや不良	70 % 床 直
16	环 須恵器	A 13.3 B 4.0 C 8.9	安定した平底から器肉を減じながら立ち上がり口縁部やや肥厚し外傾、丸く收める。	巻上げ、回転ミズビキ、ナデ	礫、雲母、石英 灰褐色(灰白色) やや良	90 % + 21
17	环 須恵器	A 14.0 B 4.4 C 8.0	平底から器肉を減じて立ち上がり口縁部外反やや肥厚。	巻上げ、回転ミズビキ、ナデ 左廻り	礫、雲母、石英 暗褐色 やや良	60 % 床 直
18	环 須恵器	A 8.4 B 3.7 C 8.2	平底から開いて立ち上がり口唇部丸く收める(底部へう切り)。	巻上げ、回転ミズビキ、ナデ、鋸切り	礫、石英 灰褐色 普通	80 % + 7
19	环 須恵器	A 10.3 B 4.5 C 9.6	安定した平底から開いて立ち上がり口唇部丸味をもつ。	巻上げ?、回転ミズビキ、ナデ 左廻り	礫、雲母、石英 褐色 やや良	30 % + 35
20	蓋 須恵器	A 15.8	天井部フクラミはやや有り。端部は短く内傾、内側にわずかに沈線状凹みあり。	上部鋸削り、つまみ貼付、回転ミズビキ、ナデ、左廻り	礫、石英、長石 褐色 やや良	95 % 床 直
21	蓋 須恵器	A 14.5 B 2.5 C 4.0	フクラミは弱い端部は水平に伸び、内傾カエリをもつ。つまみは扁平(貼付)。	巻上げ?、回転ミズビキ、ナデ、鋸切り	雲母、石英、礫 褐色(暗褐色) やや不良	30 % 床 直

## 第28号住居址（第56・57図）

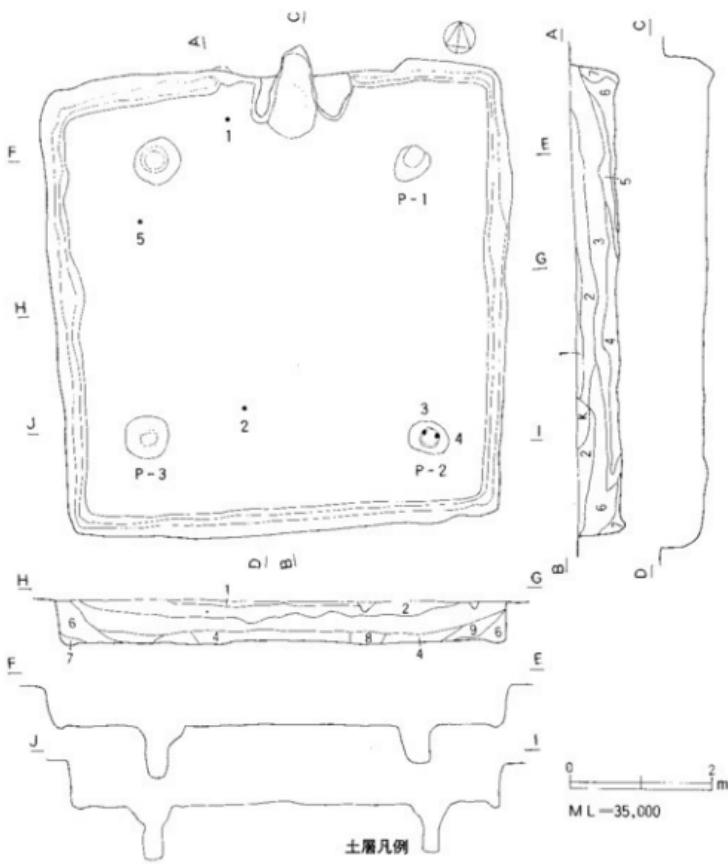
本址は、27号住居址の南側1区、T-9・11、U-9・11グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。北壁側を一部を土坑に掘り込まれているが住居址との切り合い関係はなく単独である。主軸をN-11°-Wに置き、東西6.1m、南北6.2m隅部が僅かに丸みをもつ大型の方形プランを呈する。壁面は鋭角的に立ち上がり壁高、深さは60cm前後を測る。床面は竈の前面部を中心に良く踏み固められていたが僅かに敷面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝はゆるいU字状で幅15~20cm、深さ10cmほど巡る。柱穴は、4ヶ所確認されP1は径50cmの楕円形状、深さ50cm、P2は、45cm×60cmの長円形、深さ70cm、P3は径60cm前後の方形状、深さ70cm、P4は径65cm前後で円形状、深さ70cm、P1を除き二段の掘り込みで深い、U字状の掘り込み形態を有している。

竈は北壁中央部に位置し検出されたが、遺存状態は悪い。外部へは40cm程掘り込み袖部は流れで不明に近いが残存部から推定して直線的に60cmほど付設していたと思われる。火床部は若干の掘り込みがみられ前面部に位置し、煙道部は鋭角に立ち上がる。砂質の多い粘性の弱い粘土を用いている為流れ出しか再利用されたと考えられる。（粘土の）

覆土は、レンズ状に自然埋積を呈し9層に分類され下部中央で最も暗い層をしている。2・3・4層は何れもロームブロック、粒子、焼上粒、粒子、炭化物、粒子を混入1・5・9層はロームブロック、粒、粒子の混入差で縫まりはややあり粘性は弱い。

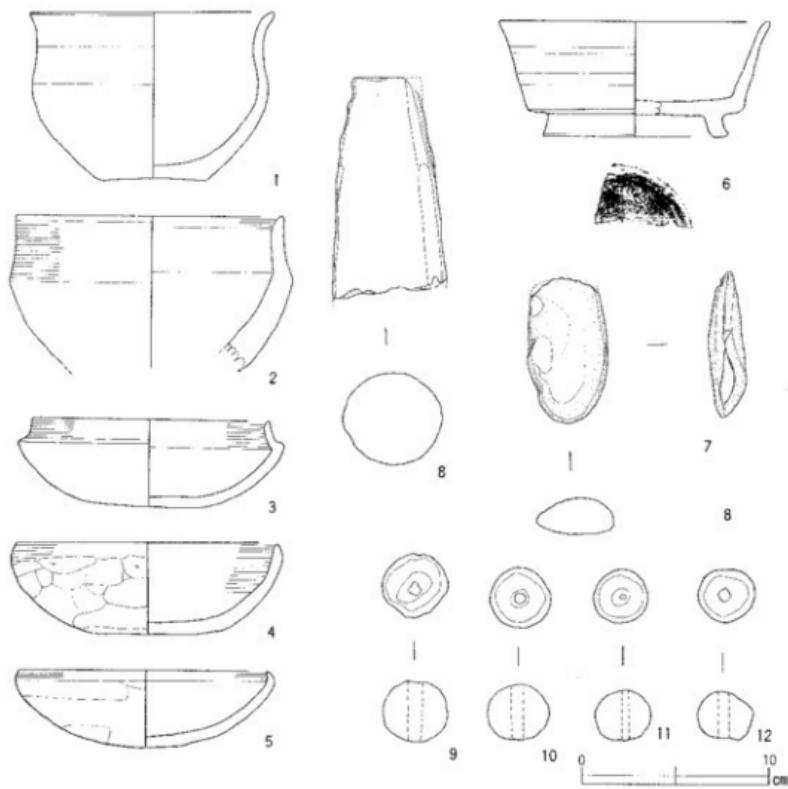
遺物は、大型の住居の割合には少なく総数200片程度であった。床面からの出土は3片で1は竈西側からである。

甕は外反するものと直立気味のものがみられ口唇部は尖る。坏は半球形状のものと顯著な受け部を持つものが認められた。6は須恵器でハの字状に短い付けて高台を貼付、その他支脚、石斧、上製丸玉がみられ孔部円形、方形状、楕円形と多様な形態のものが見られ、重さは22gから30g前後を計る。



番号	色調	含 有 物	物	粒性	繊り
1	褐色	ローム粒少量		弱い	やや 有り
2	暗褐色	焼け柱・ローム粒・粒子少量		弱い	〃
3	褐色	ローム小ブロック・粒・燒土粒少量		やや 強い	有り
4	暗褐色	炭化柱や多量、 ローム粒・燒土粒子少量		弱い	やや 有り
5	暗褐色	ローム粒多量、小ブロック少量		弱い	〃
6	褐色	ローム柱・ブロックや多量		強い	〃
7	暗褐色	ローム粒子・ブロック多量		弱い	〃
8	褐色	ロームブロック少量、粒やや多量		弱い	やや 有り
9	褐色	ローム粒多量、小ブロック少量		やや 有り	有り

第56図 第28号住居址実測図



第57图 第28号住居址出土遗物实测图

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	参考
1	小型甕 土師器	A 13.1 B 8.9 C 5.6	小さめの底部分から内側して立ち上がり口縁部外反(括れは弱い)口唇部はやや尖り気味。	二次焼成ひどい為不明。ナデ?	礫、石英、長石に似た赤褐色やや不良	70 % 床直
2	小型甕 土師器	A 14.2 B C	腹部は1.5cmと厚く、口縁部はやや器肉を減じ、内傾気味。口唇部内側カット状、尖る。内面丁重な調整。	横ナデ、ナデ 内面磨き状	スコリア 淡い赤褐色(暗褐色) 普通	10 % 覆土中
3	坏 上師器	A 12.8 B 4.6 C 5.5	不安定な底座からゆるく内側して立ち上がり翼部に顯著な稜をもつ。口縁短く内傾、口縁部尖り気味。	横ナデ、ナデ	礫、石英、雲母 淡い褐色 やや良	50 % + 18
4	坏 上師器	A 14.0 B 4.8 C 5.5	平底からゆるく内側して立ち上がり、口縁部内傾、短い、口縁部丸味をもつ。	横ナデ、箇削り ナデ	礫、雲母、石英 1部赤褐色(に似た黄褐色)やや良	30 % + 7
5	坏 土師器	A 13.4 B 4.2 C	ゆるく内側して立ち上がり口縁部短く内傾、口唇部尖り気味。	横ナデ、ナデ 箇削り	礫、石英 に似た黒褐色 やや良	20 % 覆土中
6	高台坏 須恵器	A 14.5 B 6.2 C 10.0	付高台は短く厚い、強は弱い、開きながら立ち上がり器肉を減じる。口唇部丸く収める。	ロクロ水引?ナデ 左廻り?	礫、石英 青灰褐色(褐色)	20 % 床直

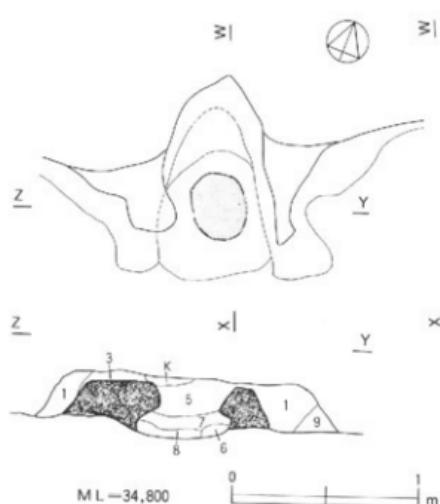
石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
7	敲石?	7.8	4.4	2.0	92	滑紋岩?	覆土中	刃部、鎌刃的で片刃状、一部欠、河原石を若干手を加えている
8	支脚		6.5		360	土 製	- 5	下部欠失、ほぼ円筒状、欠部が盛る?
9	七 錐	3.3	3.5	0.7	31	"	覆土中	不整形(一部カット状)球状、ナデ、ケズリ 孔部5角形状
10	"	2.9	3.2	0.6	25	"	"	ほぼ球形状、ナデ、丁重、孔部正方形状
11	"	2.7	2.9	0.4	22	"	"	球形状、ナデ、やや丁重、孔部長方形状
12	"	2.6	3.1	0.7	22	"	"	球形状、ナデ、押え、孔部変形的凹形

### 第29号住居址（第58・59・60図）

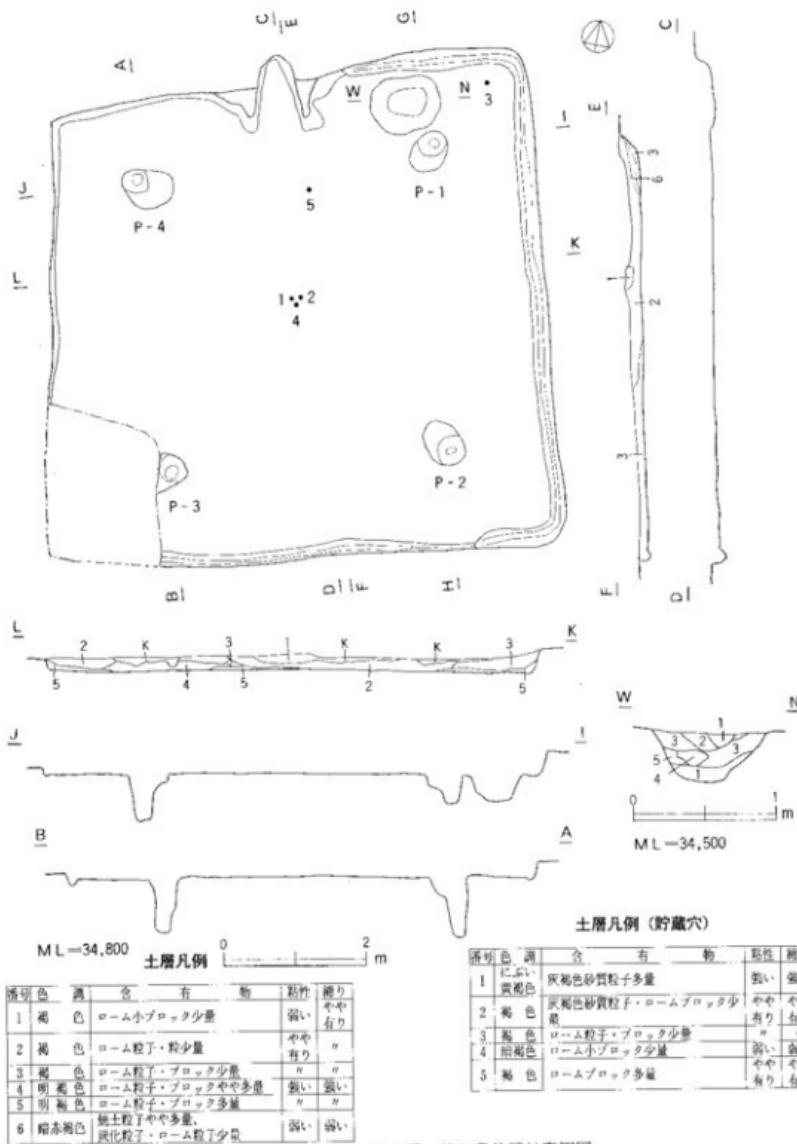
本址は、18号住居址の南側1区、U-15・16、O-15-16グリットを中心確認された住居址で台地は緩く南側に傾斜を示す位置に検出された。南西壁側を22号住居址に一部掘り込まれ北側では18号住居址に埋められて3軒と切り合い関係にある。主軸をN-17°-Wに置き、東西6.7m、南北7m隅部は鋭角的で大型の方形プランを呈する。壁面立ち上がり壁高は浅く5~20cm前後を測る。床面は竈の前面部を中心に踏み固められていたが僅かに檻面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝は北側の一部東、南側に認められ東側は若干深い。他は顯著なU字状を呈していた。柱穴は、4ヶ所確認されP1は50cm×60cmの楕円形状、深さ40cm、P2は50cm×60cmの長円形、深さ60cm、P3も同様、P4は50cm×70cmで楕円形状、深さ70cm二段の掘り込みでU字状形態を有している。竈東側には長さ80cm、幅40cmの貯蔵穴が認められる。本例は2軒のみである。

竈は北壁中央部に位置し検出された。一部18号住居址に埋められており遺存状態はあまり良くない。外部へはU字状に40cm程掘り込み袖部は直線的に60cmほどの長さで付設、火床部は若干の掘り込みがみられ中位に位置し煙道部は一旦水平に移行してから鋭角に立ち上がる。形態的には



第58図 第29号住居実測図

土層凡例					
番号	色調	含 有 物	硬 性	透 気	通 水
1	褐色	ローム粒・黄褐色砂質粒子少 量	やや 有り	やや 有り	
2	褐色	ロームブロック・黄褐色砂質 粒子少量	強い	強い	
3	褐色	黄褐色砂質粒子やや多量	〃	〃	
4	黄褐色	黄褐色砂質粒子やや多量	やや 有り	やや 有り	
5	黄褐色	黄褐色砂質粒子多量、 焼土粒子少量	強い	〃	
6	灰褐色	焼土粒子やや多量	弱い	〃	
7	棕褐色	炭化粒子少量	〃	弱い	
8	赤褐色	燒土多量	無し	無し	
9	褐色	ローム粒子やや多量、 ゾック少量	強い	〃	

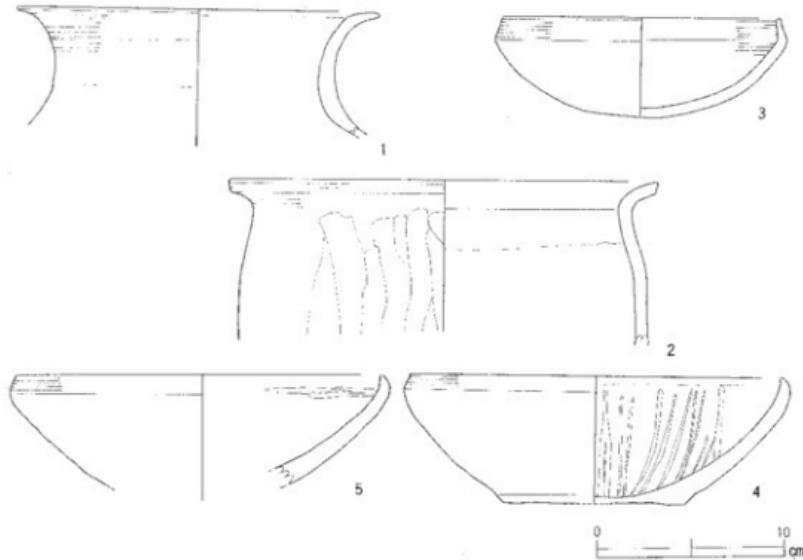


第58図 第29号住居址実測図

V字状を呈すると思われる。砂質の少ない粘性の強い粘土を用いている。

覆土は、浅いが6層に分類され、投げ込み的な埋積状態を呈している。1・2・3層は何れもロームブロック、粒、粒子の混入の差で褐色、4・5層は明褐色ロームブロック、粒子の混入差で締まりはややあり粘性は弱い。

遺物は大型の住居の割合には少なく100片程度であった。床面からの出土は少ないが図示した遺物は大部分床直からである。1・2は壺形土器で頭部は長目、口縁部は水平に開き、口唇部は尖り気味の1と口縁部の短い2が見られ、2は甌の可能性が強い。口唇部は外面に凹部が巡る。坏は半球形のものと甌に近いものが認められた。4は疎な箒磨きが内面に見られた。底部は安定した平底。



第60図 第29号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(m)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備考
1	壺	A 14.4 B C	括れは長くゆるく「く」の字状、口縁部は水平に開き口唇部は丸く収める。1脚赤彩(口縁部)	横ナデ、ナデ	礫、石英 暗褐色(褐色) やや不良	20 % + 11
2	甕 ? 土師器	A 23 B C	括れは弱く器形は長胴と思われる短い口縁部は水平に近く開き口唇部外側に細い沈線を巡らす。底の可能性が強い。	横ナデ、箒削り ナデ	礫、長石 暗褐色 普通	10 % 床直
3	鉢 土師器	A 14.9 B C	半球形状やや深めの形態、口縁部短く内傾、口唇部薄く丸く収める。	横ナデ、ナデ 箒ナデ	礫、長石 黒褐色 普通	70 % 床直
4	碗 ? 土師器	A 17.3 B 6.8 C 9.6	やや突だし気味の底部から内壁して立ち上がり口縁部短く内傾、口唇部尖る。	横ナデ、ナデ 笠磨き	礫、雲母、石英 にぶい赤褐色(黒褐色) 普通	40 % + 5
5	壺 ? 土師器	A 19.5 B C	底部欠の為不明、台付?ゆるく内壁して立ち上がり口縁部内傾、口唇部尖る。二次焼成	横ナデ、ナデ 笠磨き状	礫、長石、石英 赤褐色(黒褐色) やや不良	20 % + 6

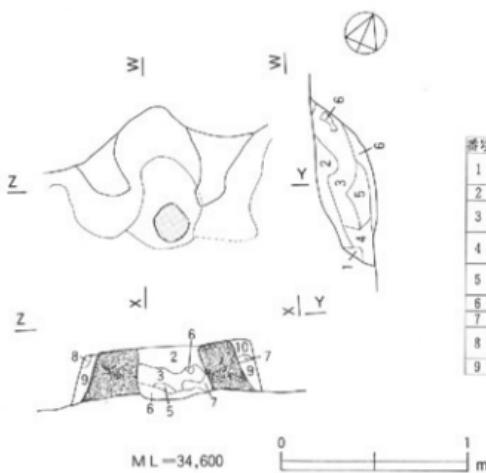
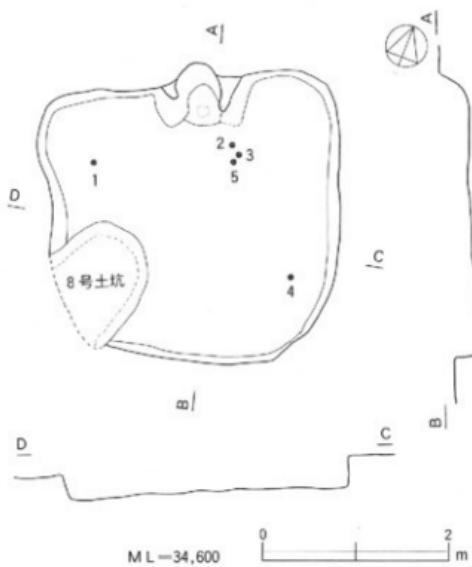
## 第31号住居址（第61・62図）

本址は、29号住居址の東南側1区、S-18グリットを中心に確認された住居址で台地はやや強く南西側に傾斜を示す面に位置し検出された。南隅部を8号土坑、東側半分は32号住居址を埋め切り合い複合関係にある。主軸をN方向に置き、東西3.1m、南北3.1m、隅部の丸い不整形な小型の方形プランを呈すると推察される。壁面は北、東側では30cm~40cmの壁高を測るが南、西側では土坑、切り合いの為不明確。深さは10cm~20cmをもつ。床面は甕の前面で一部縮まりが認められたが他は貼り床、とローム剥き出して凹凸が見られ状態は悪い。僅かに西側に傾斜を示す。周溝、柱穴は確認出来ない。

甕は北壁に位置し確認された。外側に半円形状に掘り込み袖部を逆「ハ」の字状に内側に50cm程付設、焚口部は狭く火床部は僅かに掘り込み前面に位置、煙道部はゆるやかに立ち上がる。袖部は黄褐色砂質の多い粘土を用い粘性は弱い。

覆土は、3層に分類されたが褐色層で何れもロームブロック、粒、粒子の混入差でレンズ状の自然埋積と理解される。

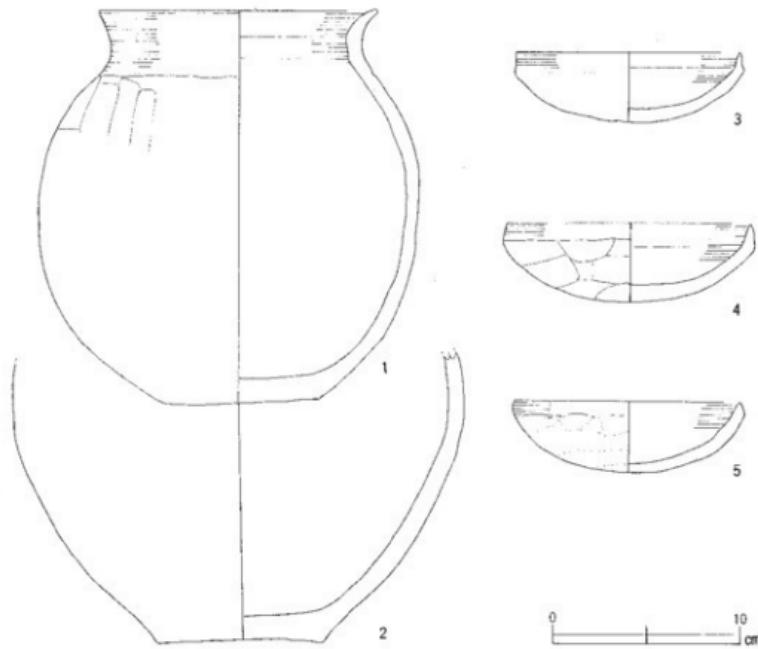
遺物は、総数100片ほどで少なく甕右袖前面から集中して認められた。大半は接合関係にある。1の甕形土器は最大径を胴部中位に置き長胴形、口縁部は短く「く」の字状外反、口唇部は尖る。2も同様な器形か、壺は3点認められ肩部に弱い稜をもち口縁部は直立、口唇部は尖るものと半球形状口縁部短く内傾、口唇部尖るもののが見られたが須恵器は検出されなかった。



#### 土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	通水性
1	褐色	ムラ・黄褐色砂質粒子少 量	弱い	弱い
2	褐色	黄褐色砂質粒子多量	"	"
3	褐色	黄褐色砂質粒子多量、 燒土粒子少量	強い	弱い
4	褐色	黄褐色砂質粒子少量	やや 有り	やや 有り
5	灰褐色	燒土粒子・燒土粒・黄褐色砂 質粒子やや多量	"	"
6	赤褐色	燒土粒子多量	弱い	弱い
7	赤褐色	燒土粒少量	強い	"
8	褐色	黄褐色砂質粒子少量	やや 有り	やや 有り
9	褐色	黄褐色砂質粒子やや多量	強い	強い

第61図 第31号住居址、竪実測図



第62図 第31号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法概(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	壺 土師器	A 15.1 B 21.1 C 8.3	ほぼ球形に近い。口縁部短く外傾、口齊部薄く尖る。	横ナデ、ナデ 路削り	陶、長石 褐色(1部橙色) やや良	70 % 床直
2	壺 土師器	A B C 8.8	安定した平底から内側して立ち上がりやや器肉を減じる。長胴形状器形か。器肉はやや厚い。	籠ナデ、ナデ	陶 黒褐色 普通	10 % 床直
3	环 土師器	A 12.1 B 3.8 C 1.0	丸底の半球形状器形、肩部に弱い縦状の垂りをもつ。口齊部短く直立、口齊部尖り気味。	横ナデ、籠ナデ ナデ	陶、石英、雲母 黒褐色(1部暗褐色) 普通	90 % 床直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
4	环 土師器	A 13.1 B 4.2 C 2.5	丸底に近い底部からゆるく内脇して立ち上がり短い口唇部は内傾気味。	横ナデ、箋削り ナデ	輝、石英、長石 淡い橙色 やや良	80 % 床直
5	环 土師器	A 12.1 B 3.8 C 1.8	丸底からゆるく内脇して立ち上がり口縁部短く内傾、口唇部丸味をもつ	横ナデ、箋ナデ ナデ	輝、スコリア 暗褐色(淡い黄褐色) やや良	100 % 床直

### 第32号住居址（第63・64・65図）

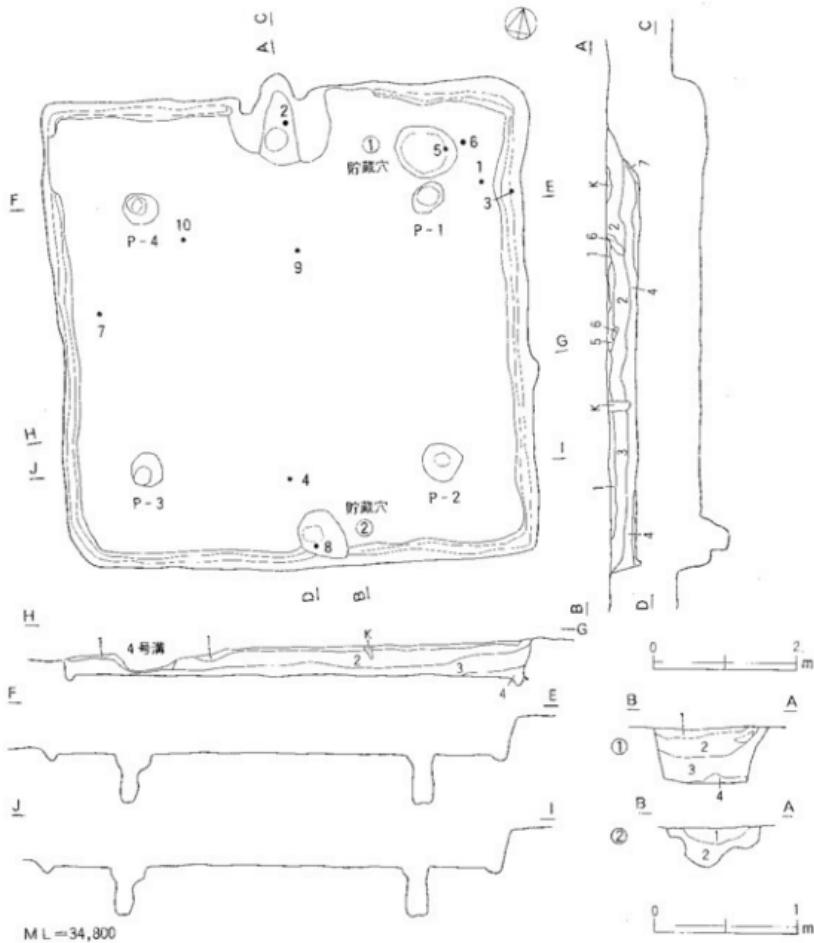
本址は、31号住居址の東側1区、S-17・18・T-17・18グリットを中心に確認された住居址で台地は西側にやや強く南側では緩く傾斜示す位置に検出された。西側は31号住居址に埋められている。上部には3号溝が掘りこまれていた。主軸をN-14°-Wに置き、東西7m、南北7.3m南西の隅部がやや丸みをもつ大型の方形プランを呈する。壁面にほぼ垂直に立ち上がり西側では20cm、東北側では50cm前後の壁高を測る。床面は竈の周辺部を始め良く踏み固められていたがわずかに壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝は竈東側で若干の切れが見られる他はU字状形態で幅10~15cm、深さ10cmほどで巡る。柱穴は、4ヶ所確認されP1は30cm×50cmの楕円形、深さ70cm、P2は径60cm円形状、深さ70cm、P3は40cm×50cm楕円形、深さ65cm、P4は円形状、深さ70cmいずれの柱穴もU字状の掘り込み形態を有している。

その他竈東側と南壁面の二か所に貯蔵穴が見られ、竈東側は長円形深さ40cm、長軸90cm、短軸70cmを測る。南壁のものは底面も凹凸が見られ28cmと浅い。

竈は北壁中央に位置し構築されていた。外部へは40cmほど半円形状に掘り込み袖部は直線的に80cm、110cmほど付設、火床部は僅かに掘り込まれ前面部に位置し煙道部ほぼ水平に移行してから強く立ち上がる。形態的にはU字形状を呈する。黄褐色砂質の粘土を用いて築いている。

覆土は、レンズ状に自然埋積を呈し6層に分類され下位に向かって明るさを増し何れもロームブロック、粒子の混入差で締まりはややあり粘性もややある。

遺物は、大型の住居址の割には少なく総数150片程であった。床面からは10片程であった。1・2・3は長脚形の壺型土器で、2は最大形を駆上位に置く。4は甌の可能性が強い、口縁部は僅かにつまみ出す。5は肩部に弱い棱をもつ6・7はII縁内傾5は短い。8・9は石器と推定される。9は上製の丸玉で不整形、粗雑な作り、孔部は三日月状重さは30gを測る。



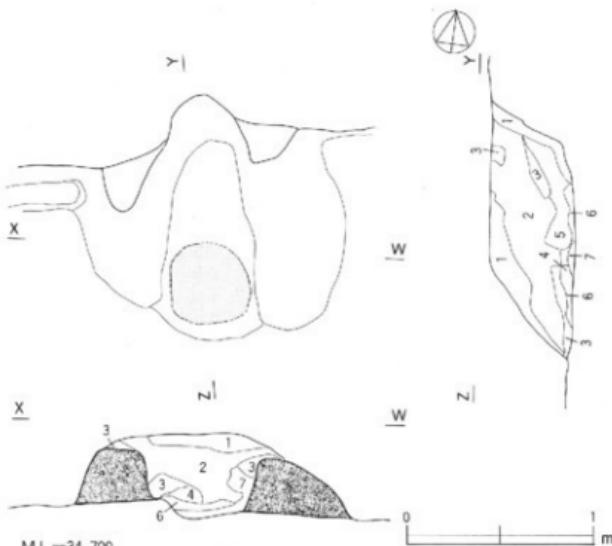
土層凡例

番号	色調	含 有 物	粒性	網り
1	褐色	ローム粒少量	弱い	弱い
2	褐色	ローム粒・小ブロック少量	やや 有り	強い
3	褐色	ロームブロック・粒子やや多量	強い	〃
4	明褐色	ローム粒・ブロック多量	〃	〃
5	褐色	ローム粒少量	弱い	弱い
6	褐色	秋黄褐色砂質粒子やや多量	弱い	強い
7	褐色	秋黄褐色砂質粒子やや多量	弱い	強い

土層凡例 (貯藏穴)

番号	色調	含 有 物	粒性	網り
①	褐色	ローム粒子やや多量	弱い	弱い
1	明褐色	ローム粒子多量	〃	〃
2	褐色	ローム小ブロック・粒子やや多量	やや 有り	〃
3	褐色	ロームブロック・粒子やや多量	やや 有り	〃
4	明褐色	ロームブロック多量	やや 有り	強い
②	1	明褐色 ロームブロック・粒子やや多量	やや 有り	やや 有り
②	2	明褐色 ロームブロック・粒子やや多量	〃	強い

第63図 第32号住居址実測図

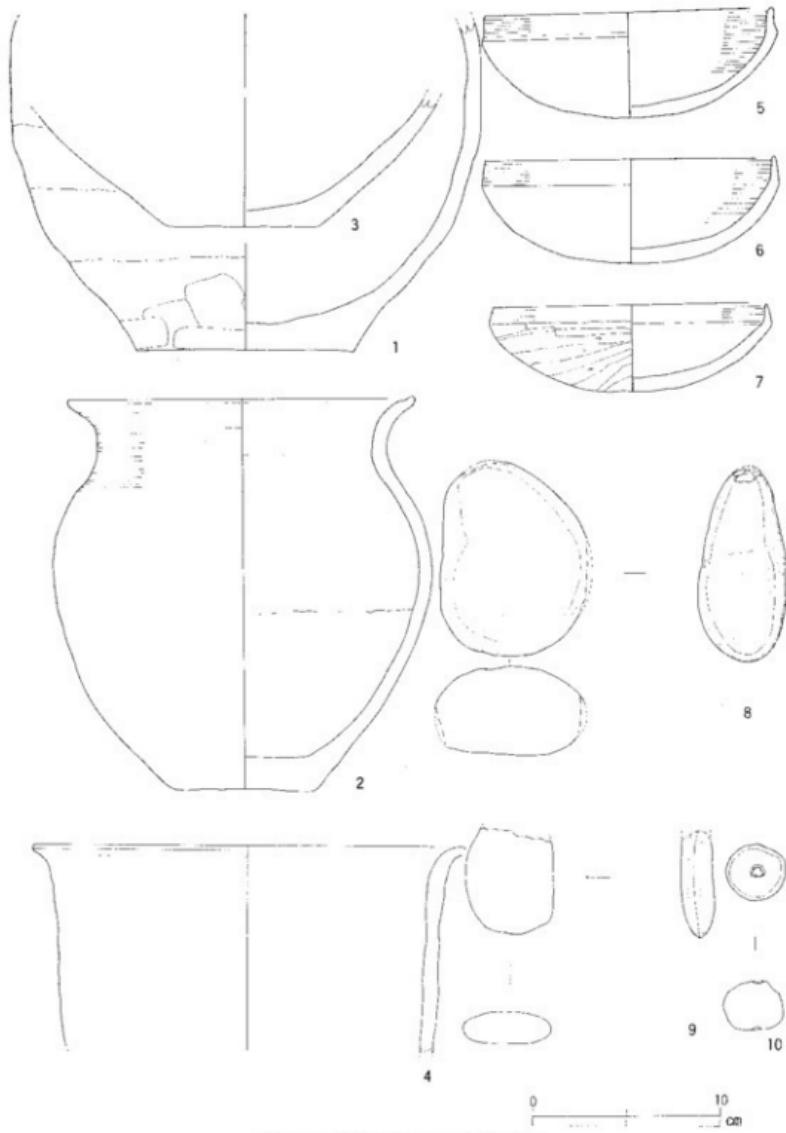


ML -34,700

土層凡例

番号	色調	含 有 物	透 竹	堆 累
1	褐色	黄褐色砂質粒子や多量	やや有り	強 い
2	にぶい 黄褐色	黄褐色砂質粒子多量	強 い	弱 い
3	にぶい 黄褐色	黄褐色砂質粒子多量、 粘土粒子や多量	〃	〃
4	暗赤褐色	焼化粒子少量、炭化粒子や多量	無 し	弱 い
5	にぶい 黄褐色	粘土小ブロック・コームブロック	やや有り	強 い
6	赤褐色	少量、黄褐色砂質粒子多量	無 し	強 い
7	赤褐色	燒土粒子・炭化粒子少量	〃	〃

第64図 第32号住處実測図



第65図 第32号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 土師器	A B C 11.5	底部は器肉が厚く上底気味、内縛して立ち上がり最大径を胴中位前後に置くと思われる。器形的には甕に近いか。	ナデ、押え 鋸削り	礫、長石、 暗赤褐色 普通	20 % + 10
2	甕 土師器	A 18.0 B 21.0 C 7.5	やや小さめで肥厚した底部から内縛して立ち上がり、最大径を胴や上位に置き頸部「く」の字状、口唇部わずかに丸くつまみ出し気味。	横ナデ、ナデ	礫、礫 にぶい黒褐色 普通	90 % 車内
3	甕 土師器	A B C 7.8	平底から開いて立ち上がり、器肉はやや厚みをもつ。球形胴に近い甕形土器か？。	横位ナデ、不規則な ナデ	礫、砂 黒褐色（暗褐色） やや不良	20 % + 38
4	瓶 土師器	A 23.0 B C	口縁部短く外反、口縁部器肉を減じ丸く収める。凸弾状器形か。	ナデ、横ナデ	礫、長石、石英 暗赤褐色 普通	30 % + 24
5	甕 土師器	A 15.4 B 5.6 C 3.0	半球状形態内縛して立ち上がり口縁部内傾気味器肉は薄い。口唇部丸く収める。	横ナデ、泡ナデ（磨きに近い）ナデ	礫、長石、石英 にぶい橙色 普通	99 % 炉窓穴
6	甕 土師器	A 15.4 B 5.6 C 3.0	半球状形態、内縛して立ち上がり口縁部内傾気味、器肉は薄い。口唇部丸く収める。	横ナデ、泡ナデ（磨きに近い） ナデ	礫、長石、石英 にぶい橙色 普通	99 % 床直
7	甕 土師器	A 14.5 B 5.7 C 3.4	半球形形態、口縁短く内傾気味、口唇部尖る。体部は泡ナデ、磨きに近い。	横ナデ、ナデ磨き状 ナデ	礫、雲母 黒褐色（暗褐色） やや良	90 % 床直

石器 土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
8	敲石	10.5	8.1	4.7	555	砂岩	貯藏穴	大部分は自然部を残し、敲部に使用痕あり、一部欠
9	石斧		4.6	1.7	76	綠泥岩	+ 3	上部を欠失する。刃部、槍刃、やや粗雑な調整、大部分自然石
10	土鍬	2.6	3.2	0.7	28	土製	+ 15	不整形球状、押え、ナデ、孔部5角形状、端部カット状

### 第33号住居址（第66・67図）

本址は、27号住居址の東北側1区、V-7グリットを中心に確認された住居址で台地は緩く北側に傾斜を示す面に位置し検出された。切り合い関係はなく単独である。主軸をN-80°-Eに置き、東西2.7m、南北2.8m講部の丸い小型の方形プランを呈する。壁面は強く開いて立ち上がり深さは50cm～60cmを測る。床面は竈の前面では弱く縮まりが認められたが大半はローム剥き出し状、凹凸が見られ遺存状態は悪い、ほぼ平坦に移行する。周溝は、浅くU字状に巡り南側の一部に欠部がある。柱穴は確認出来ない。北、南側の周溝内に径50cm、30cm深さ80cm、40cmのビットが認められた。

竈は東壁側中央より南側に40cm程寄った位置に確認された。30cm程U字状に外側に掘り込み、袖部は直線的に65cm、50cm程の長さで付設、焚口部は僅かに狹くなる。火床部はやや前面に位置、掘り込みは認められず煙道部へゆるやかに立ち上がる。袖部は黄灰褐色の粘土を用い粘性は弱い。東側に竈を持つ一群の住居址の中では掘り込みの深さ、竈の形態、粘土等に違いが見られる。

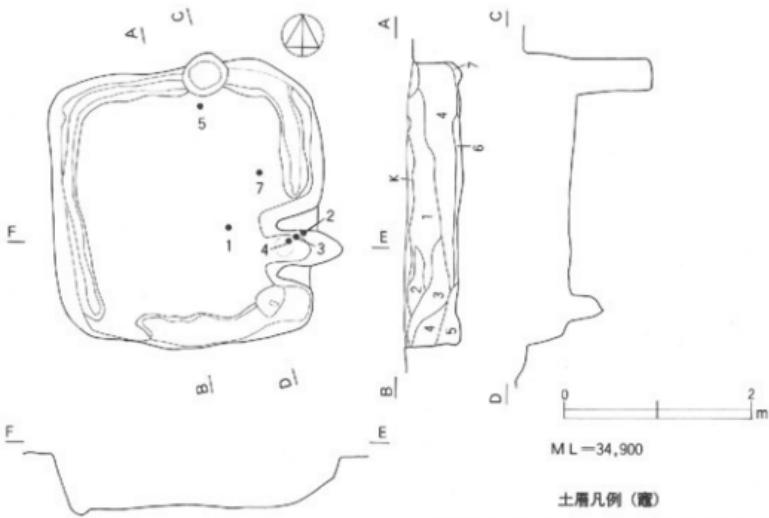
覆土は、7層に分類されレンズ状の自然埋積を示し1～5層は褐色でロームブロック、粒、焼土粒子の混入差である。6、7は明褐色ロームブロックを多量に含む。

遺物は、総数100片ほど出土1・2は甕形土器で頭部が肥厚し口唇部を垂下する1と斜め上方に摘み出す2が認められる。1は最大径を胴上部に置く、2は長胴形か？3は円筒状に近い楕、孔部丸く収める。5・6・7は須恵器で4は底部鉗削り、安定した底部をもつ6は盤？短く直立する高台を貼付、7は天井部にやや膨らみをもつ蓋で退化したカエリをもつ。

東側に竈を持つプラン、遺構の中では最も古い時期に位置するものとおもわれる。

出土土器観察表

番号	器種	法寸(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 土師器	A 23.8 B C	口端部1.0～1.5cmと器肉厚く、口縁外反口唇部カット状最大径を胴中位に置く。	横ナデ、ナデ、 やや粗雑	礫、長石、石英 に赤褐色 普通	20 % + 10
2	甕 土師器	A 23.4 B C	長胴気味、口縁部水平に近く外反、口唇部上方へ、長くつまみ出し、丸く収める。器肉薄い。	横ナデ、ナデ	礫、長石、石英 に赤褐色 普通	10 % 竈 内
3	甕 土師器	A 26.7 B 24.5 C 13.3	孔端部は断面三角形状、直線的に立ち上がり口縁反く外反し口唇部上方へつまみ出し気味 尖る。(2次焼成)	ナデ、施ナデ状 横ナデ	礫、石英、長石 に赤褐色(に ぶい橙色) 普通	40 % 竈 内

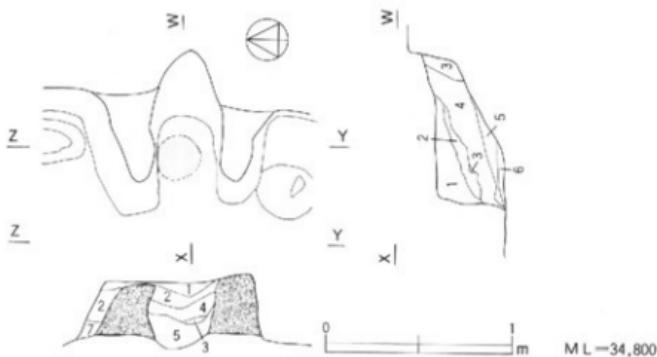


土層凡例 (縦)

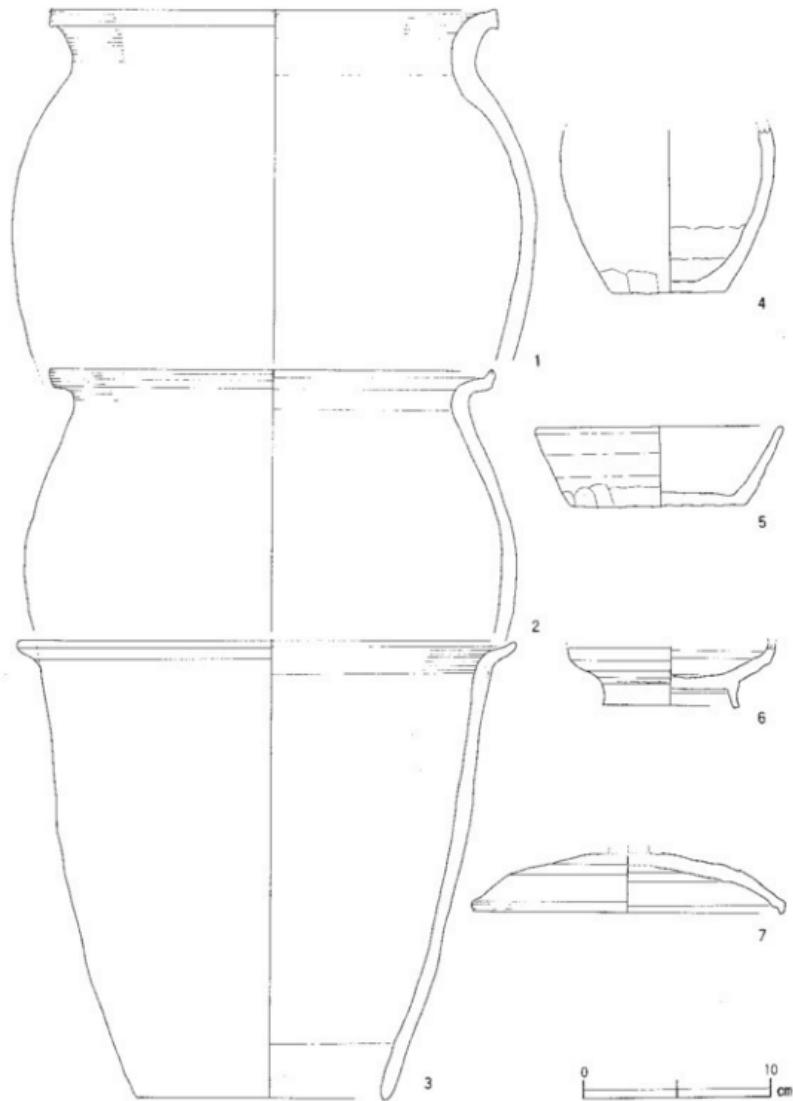
番号	色調	含 有 物	粒性	硬性	透り
1	褐色	ローム粒や多量、施土粒少量	弱い、弱い。	やや 有り	やや 有り
2	褐色	ローム粒子・焼土粒少量	やや やや	無し	無し
3	褐色	ロームブロックや多量、粒少量	無し	無し	無し
4	褐色	ローム粒や多量、粒子少量	無し	無し	無し
5	褐色	ローム粒や多量、ブロック少量	無し	無し	無し
6	明褐色	△粒子少量、ブロック多量	強い、強い。	無し	無し
7	明褐色	ロームブロック・粒子多量	無し	無し	無し

土層凡例

番号	色 調	含 有 物	粒性	硬性
1	褐色	ローム粒や多量、施土粒少量	弱い、弱い。	やや 有り
2	褐色	ローム粒子・焼土粒少量	やや やや	無し
3	褐色	ロームブロックや多量、粒少量	無し	無し
4	褐色	ローム粒や多量、粒子少量	無し	無し
5	褐色	ローム粒や多量、ブロック少量	無し	無し
6	明褐色	△粒子少量、ブロック多量	強い、強い。	無し
7	明褐色	ロームブロック・粒子多量	無し	無し



第66図 第33号住居址、竪実測図



第67図 第33号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
4	小型甕 土師器	A B C 6.0	安定した半底から内側して立ち上がる。頸部のくびれる形態と出われる。	ナデ、鎌削り ヘラナデ状	磚、長石 において褐色 苔斑	40 % 窯内
5	环 須恵器	A B C 13.3 4.2 9.3	半底から開いて唇肉を減じて立ち上がり口唇部丸く收める。(底部鎌削り)	巻上げ、ナデ 鎌削り、回転ミズビ キ	磚、石英、長石 褐色 やや良	30 % + 32
6	碗 須恵器	A B C 7.3	付高台で直立気味、開いて立ち上がり、体部は直立すると思われる。高台は薄い。	巻上げ? 回転ミズビキ 鎌削り(左振り)	磚、長石、石英 褐色 やや良	30 % 覆土中
7	蓋 須恵器	A B C 16.3	天井部のフクラミはやあり、底部内側気味に尖り收めている。カエリはない。上部磨削り、つまみは附か?	巻上げ、回転ミズビ キ、鎌削り、ナデ	磚、石英、長石 暗褐色 やや良	20 % + 29

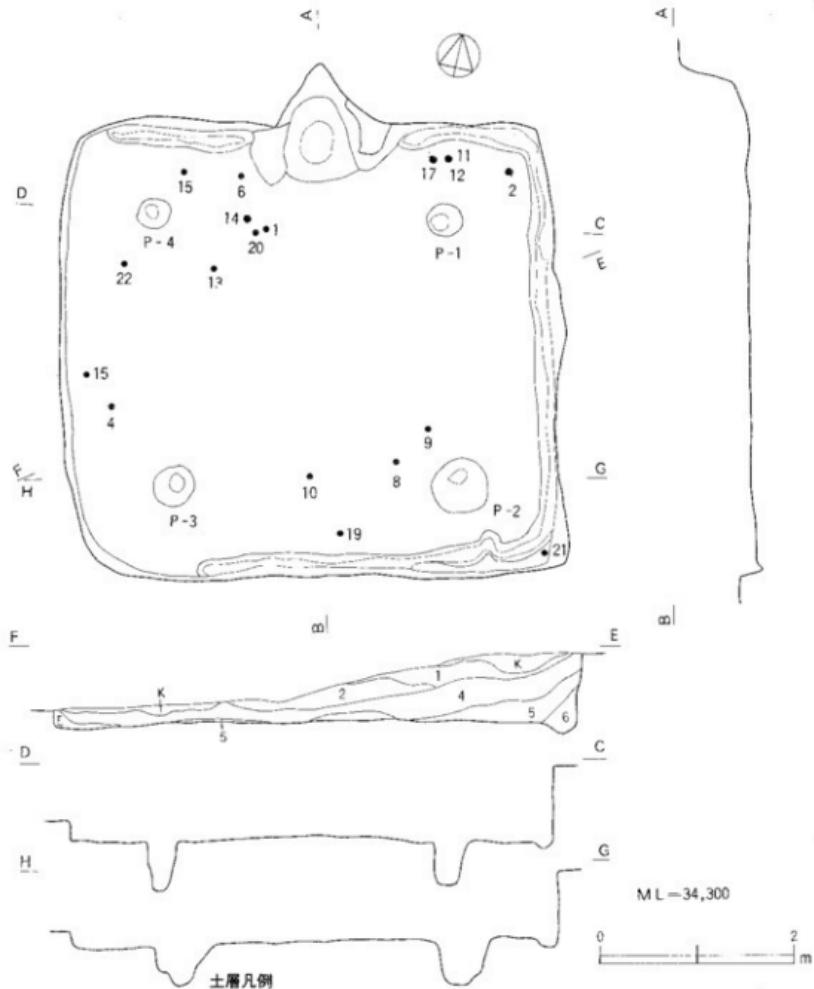
#### 第34号住居址(第68・69・70図)

本址は、32号住居址の南側1区、R-19・S-19グリットを中心に確認された住居址で台地は南、西側に強く傾斜を示す面に位置し検出された。[以前畠の境界に当る部分に位置している。]切り合は関係なく単独である。主軸をN-15°-Wに置き、東西4.9m、南北4.7m、隅部が若干丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は西、南側では10cm~30cmを測り北、東側では50cm~60cmを測り深い。床面は竈の前面を中心によく踏み固められ中央部が僅かに高くなるがほぼ平坦に移行している。周溝は一部の切れが認められ、他は15cm~20cmの幅5cm~10cmの深さで巡る。柱穴は4ヶ所確認された。何れも各隅部近くに位置していた。P1は径34、深さ45cm円筒状、P2は径60cm、深さ45cmのU字形状、P3は径、幅とも40cm前後で二段の掘り込み、P4は径42cm程、深さ50cmの円筒状。

竈は北壁中央部に位置し確認された。60cm程U字状に外側に掘り込み袖部は直線的に60cm程付設、僅かに焚口部が狭くなる。火床部は僅かに掘り込み中位に位置、煙道部は鋭角的に立ち上がる。袖部は灰褐色の粘土を用い粘性は強い。この種の粘土で構築されている竈はすくなかった。

覆土は、6層に分類された。遺存状態からレンズ状の自然埋積と推定される。上部1・2層は暗褐色、下位4・5層は褐色、6層は明褐色、何れもロームブロック、粒、焼土粒子、炭化粒子、灰褐色粘土粒子の混入差である。各層とも粘性、締まりはある。

遺物は、总数150片ほどで少ないが器形の窺えるものが20点程見られた。甕は口縁部つまみ出すものと丸く收めるものがある。(1・2)甕は、孔部内面カット状と丸く收めるものが見られた。7は須恵器で口唇部折り返しナデ状で長圆形と思われる。ロクロ水引きが認められる上師器



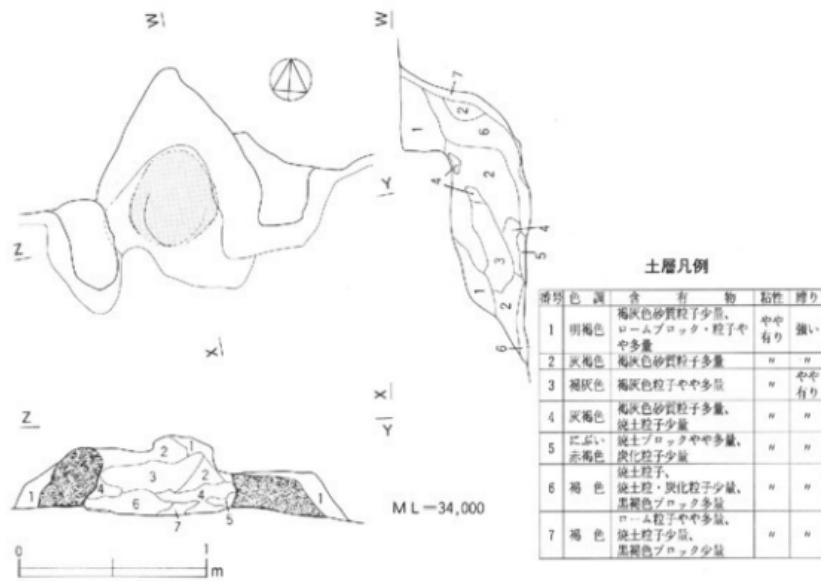
土層凡例

番号	色	測	合	有	物	粘性	硬
1	葡萄色		ローム粒子・粒少量			弱い	弱い
2	暗褐色		泥・粒や多量、ローム粒少量			やや	やや
4	褐色		ローム小ブロックや多量、 ローム粒子少量			有り	有り
5	褐色		ローム多量、陶土粒や多量			〃	〃
6	明褐色		ローム粒子・ブロック多量			強い	強い

第68図 第34号住居址実測図

环は碗に近い器形、須恵器环はややおおきめ底部から外反して立ちあがり口唇部は肥厚し、丸く収める。高台付盤、大型の蓋などが見られた。

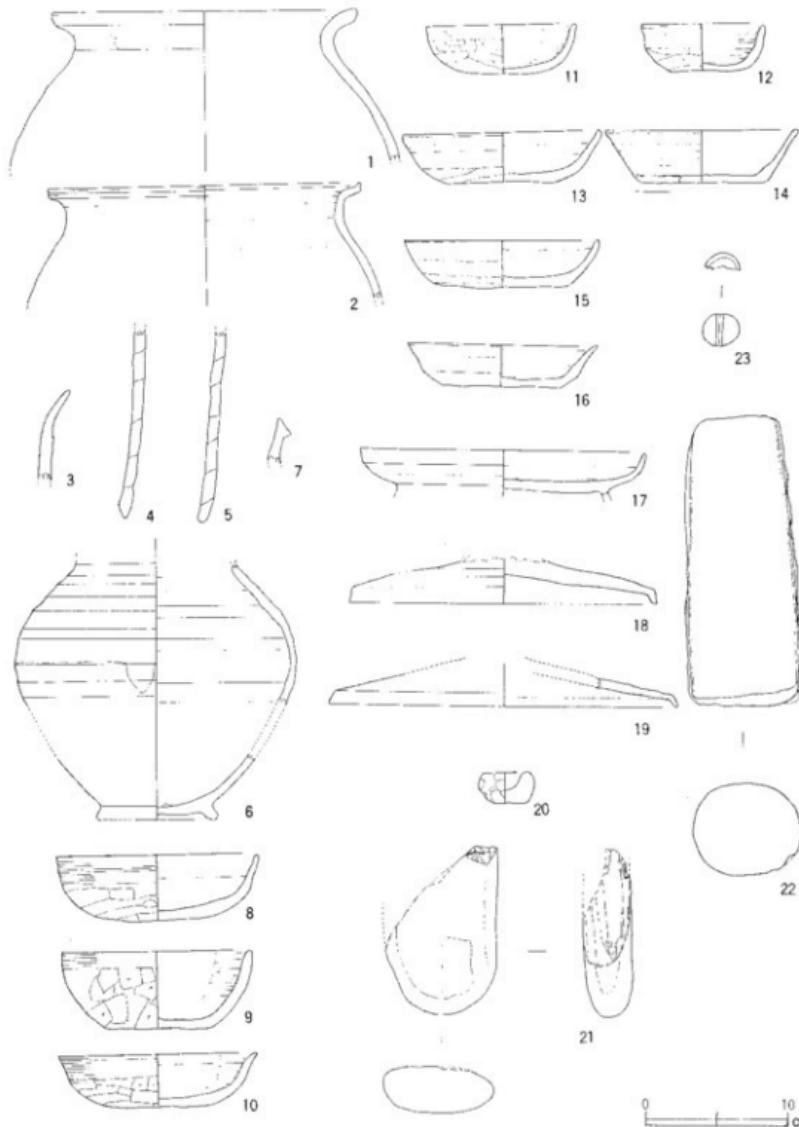
北側に竈を持つプラン、遺構の中では最も新しい時期に位置するものとおもわれる。



第69図 第34号住居址査定測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	摹形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 土師器	A 21.4 B C	長胴形に近い器形、頸部は強く、口唇部外反 口唇部カット状で肥厚。	横ナデ、ナデ 鋸削り	礫、雲母、石英 にぶい褐色 普通	15 % + 8
2	甕 土師器	A 22.0 B C	口唇部水平に近く開き、口唇部丸くつまみ出 している。器肉は薄い。	横ナデ、ナデ	礫、長石 にぶい褐色 普通	10 % + 9
3	甕 土師器	A - B - C -	括れは弱く口唇部外傾、器肉を減じ尖り気味。			10 % + 28



第70図 第34号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考	
4	壺 土師器	A B C	孔部断面二角形状	ナデ、粗雑	礫、雲母、長石 に赤い黄褐色 普通	10 % + 16	
5	壺 土師器	A B C	孔部は鋭角的三角状、内側気味。	斜位の輪の狭い箇削 り、ナデ、粗雑	礫、雲母、石英、長石 に赤い黄褐色 普通	10 % 覆土中	
6	瓶? 須恵器	A B C	短い脚部を引出し、内側気味に立ち上がり最 大径を脚部や上位に置き、肩部、底部には 灰釉をもつ。	クロ水引、ナデ 底部ナデ	礫極少量 灰褐色 良	40 % + 22	
7	甕? 須恵器	A B C	口縁部水平に近く開き、口唇部カット状弱く 凹む。	横ナデ、ナデ	礫、長石、雲母 灰褐色 やや良	1 % 覆土中	
8	壺 土師器	A B C	14.1 4.6 5.5	不安定な底部から内側して立ち上がり、肩部 に縦をもち、口縁外傾し口唇部底立氣味で丸 く収める。	横ナデ、箇削り ナデ、底部挽削り	礫、長石 深い橙色 普通	80 % + 10
9	壺 土師器	A B C	13.2 5.4 7.2	安定した底部から内側して立ち上がり、口唇 部直立、口唇部開いて尖り氣味。	横ナデ、箇削り ナデ	礫、長石 暗褐色(暗い褐色) 普通	30 % + 44
10	壺 土師器	A B C	13.9 3.7 6.0	不安定な底部から開いて立ち上がり、口縁部 外反、口唇部尖り氣味、開く。	横ナデ、箇削り ナデ	礫、石英、長石 に赤い橙色 やや良	30 % + 7
11	壺 土師器	A B C	10.6 3.5 4.5	安定した平底から内側して立ち上がり、口唇 部外傾、丸く収める。	横ナデ、ナデ 箇削り	礫、石英、長石 暗褐色(一部深褐色) やや良	100 % + 6
12	壺 土師器	A B C	8.7 3.4 4.1	平底から内側して立ち上がり口唇部尖り氣味 やや粗雑な小形の壺	横ナデ、箇削り	礫 に赤い黄褐色 やや良	99 % + 6
13	杯 土師質	A B C	14.0 3.4 7.4	平底から開いて立ち上がり口唇部や肥厚丸 く収める。	巻上げ?回転ミズビ キ、ナデ、底部箇削 り、左廻り	礫、長石、石英 暗褐色 普通	20 % + 10
14	壺 須恵器	A B C	13.5 3.7 8.7	安定した平底から外反氣味に直線的に立ち上 がる。口唇部若干肥厚。	巻上げ?回転ミズビ キ、箇削り、ナデ 左廻り	礫、石英、長石 灰褐色 やや良	20 % + 28
15	壺 須恵器	A B C	13.5 3.4 8.2	平底から開いて立ち上がり口唇部尖り氣味。 底部挽削り。	巻上げ、回転ミズビ キ、ナデ、箇削り 左廻り	礫、長石、石英 褐色 やや良	90 % + 16
16	壺 須恵器	A B C	13.3 3.0 8.3	平底から開いて器内を減じながら立ち上がり 口唇部丸く収める。	巻上げ、回転ミズビ キ、ハラ切り 底底へラナデ	礫、石英、長石 暗褐色 やや良	30 % 覆土中

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
17	蓋 須恵器	A 20.0 B C	付高台を有し、口縁部はやや開いて立ち上がり、口唇部丸く収める。皿に近い。	ロクロ水引成形の可 能性、底部ナデ 有廻り?	焼、長石、石英 褐色(底部、にぶい 褐色) 普通	30 % 床直
18	蓋 須恵器	A B C 21.5	つまみを欠き、形態不明、端部は長口に開いて伸びる。台付皿?。	巻上げ、回転ミズビ キ、ナデ	焼、長石、石英、長石 褐色 普通	40 % 床直
19	蓋 須恵器	A B C	内面カエリはないが、わずかに凹む、かなり 扁平な蓋。台付皿?。	巻上げ、回転ミズビ キ、ナデ	焼、長石、 褐色 普通	10 % 床直
20	手 振 土器	A 2.8 B 2.3 C 2.0	不整形状円形、内側指頭で押しこみ状「U」 字状を呈する。	ナデ、押へ	焼、雲母 淡い褐色 やや良	100 % 床直

石器、土製品一覧表

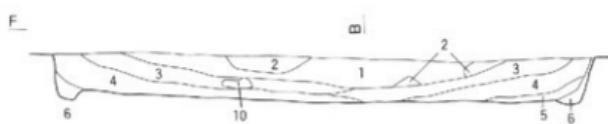
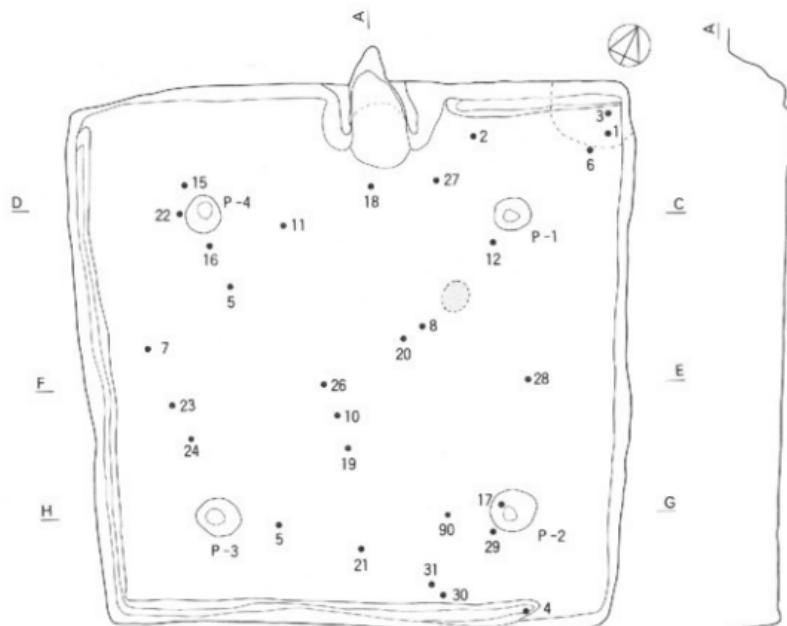
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
21	敲 石		8.1	3.4	368	砂岩	+ 36	敲石と思われる握部を欠失、人半は自然石状、1/3欠
22	支 脚	20.5	7.9	6.5		土 製	+ 6	ほぼ円筒状、粗雑な整形ナデ、剥落面多し、50%
23	上 篦	2.3	2.5	0.5	5	々	覆土中	ほぼ球形状、ナデ、孔部円形状?1/2欠

## 第36号住居址（第71・72・73・74図）

本址は、32号住居址の東側1区、V-17・18 グリットを中心に確認された住居で台地は僅かに西側に傾斜を示す位置に検出された。切り合ひ関係はなく単独である。主軸をN-20°-Wに置き、東西5.4m、南北5.8mの隅部が鋭角な方形プランを呈し、壁面は何れの面も弱く開いて立ち上がり深さは60cm、南側で50cm、西側で38cm前後を測る。床面は竈の周辺部では良く踏み固められていたがわずかに壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝はU字状形態で幅10~15cm、深さ10cm程で巡るが北、東側では検出出来なかった。桂穴は4ヶ所確認され、いずれも径40cm~50cm楕円形、深さは60cm~70cmと深い。2・3は二段状の掘り込みがみられた。

竈は北壁中央部にやや東寄りに位置して構築されていた。外部へは40cmほどの長さでV字状に掘り込み袖部は直線的に60cmほどの長さで付設、焚口は開く、火床部は10cm程の深さに掘り込まれ前面部に位置し、かなり広い範囲をもつ。煙道部は強く立ち上がる。黄褐色砂質の粘性が弱い粘土を用いている。

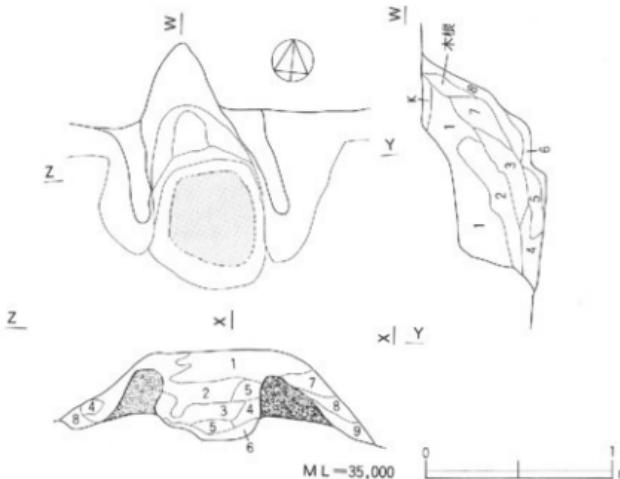
覆土は、レンズ状に自然埋積を呈し6層に分類され下層部に向かって明るさを増している。確認面では暗褐色、6層は明褐色で何れもロームブロック、粒子の混入差で締まりはややあり粘性



第71図 第36号住居址実測図

は弱い。

遺物は、ほぼ平均し総数400片程度散在して認められ、本遺跡では多い部類に入る。竈前に一部甕の散在があった。大部分は壺と丸球が占める。甕は長胴形気味、頸部は「く」の字状外反、口縁部は短く口唇部は尖る。壺は肩部に稜を持つものと口縁部が外反、内傾するもの、半球形のものが認められる。須恵器は検出されない。支脚は底径が大、土製の丸玉は不整形、粗雑な作り、孔部は円形状のものが大半を占め重さは5g～20g前後を計る。



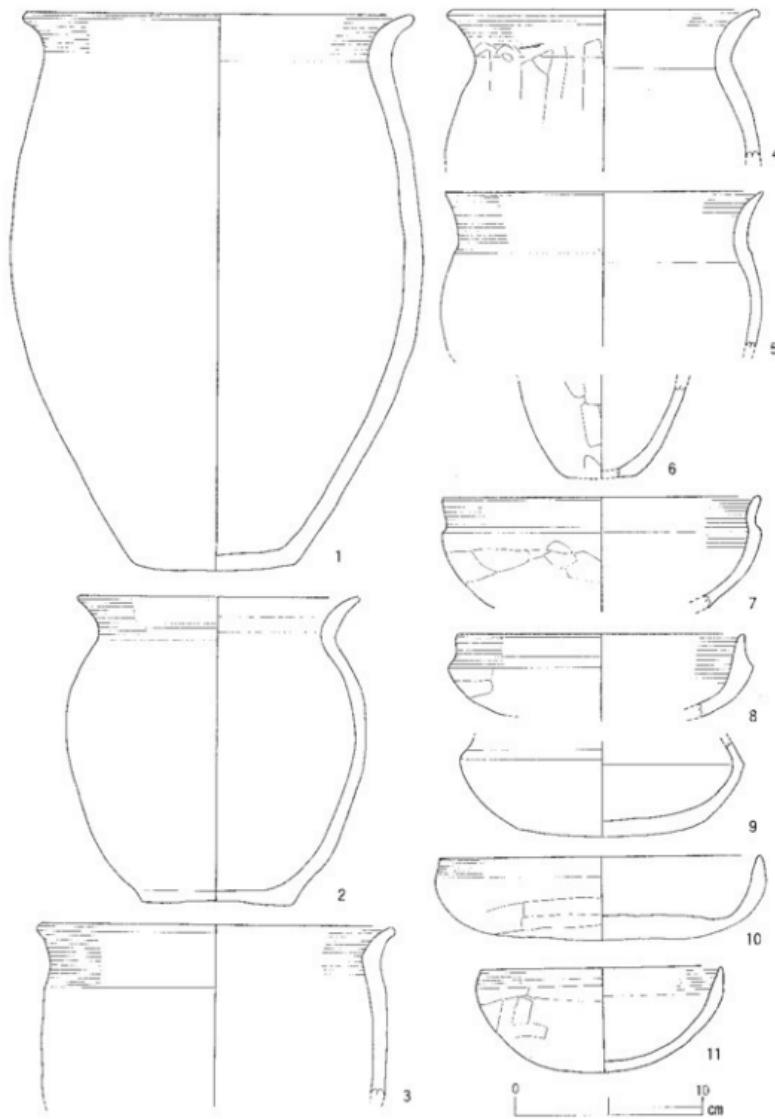
土層凡例（住居址）

番号	色調	含 有 物	粘性	結 晶
1	暗褐色	ロームブロックやや多量、 陶土粒少量	弱い	やや 有り
2	褐色	ロームブロック・粒子やや多量	やや 有り	強い
3	暗褐色	ローム小ブロック少量、 陶土粒やや多量	弱い	〃
4	褐色	ロームブロック・粒やや多量	やや 有り	〃
5	褐色	ローム粒子・ブロックやや多量	〃	〃
6	明褐色	ローム粒子やや多量、ブロック多量	強い	〃
10	黒褐色	灰化粒多量、陶土粒少量	弱い	弱い

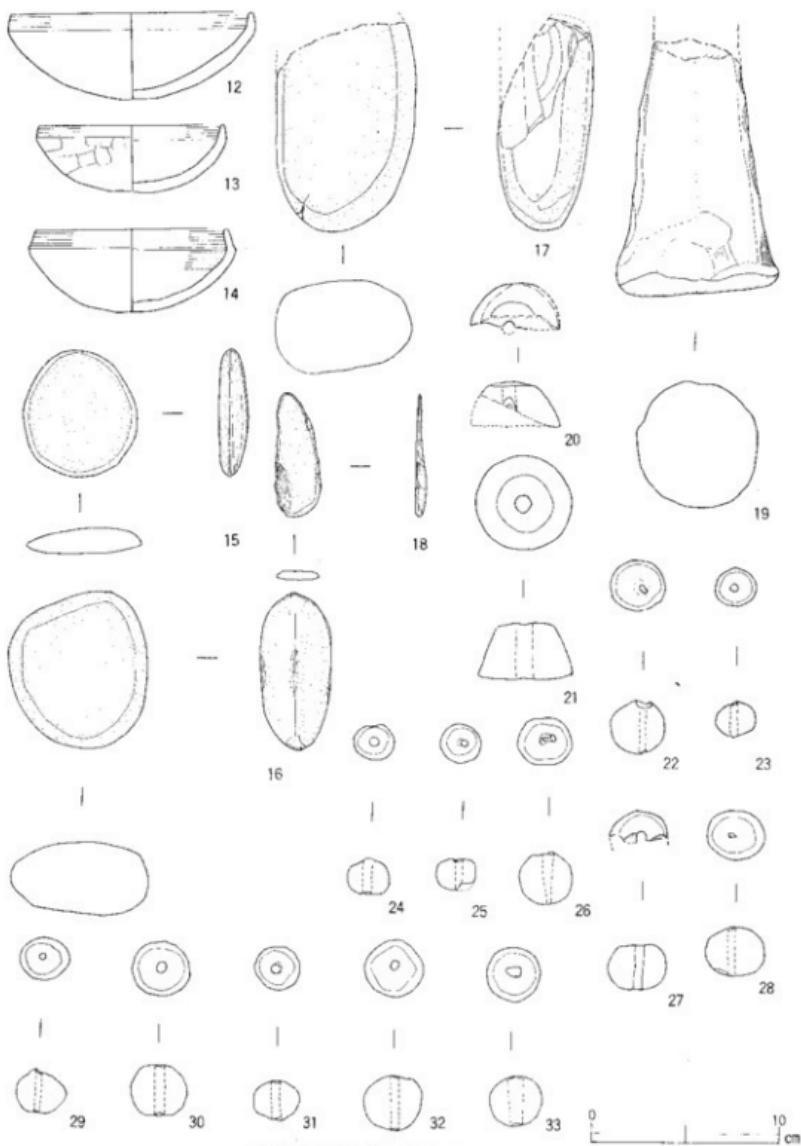
土層凡例（竈）

番号	色調	含 有 物	粘性	結 晶
1	褐色	黄褐色砂質粒子・焼土粒少量	やや 有り	やや 有り
2	にぶい 黄褐色	焼土粒・黒褐色ブロック少量、 黄褐色砂質粒子多量	強い	強い
3	暗赤褐色	焼土ブロック粒子や多量	弱い	弱い
4	にぶい 赤褐色	焼土粒子・焼土ブロック多量	〃	〃
5	赤褐色	焼土ブロック	〃	〃
6	赤褐色	火を受けたロームブロック	無し	〃
7	褐色	黄褐色砂質粒子・黒褐色ブロック 少量	弱い	やや 有り
8	褐色	ローム粒子やや多量、 黄褐色砂質粒子少量	強い	強い
9	褐色	ローム小ブロック・焼土粒少量	〃	弱い

第72図 第36号住居実測図



第73図 第36号住居址出土遺物実測図



第74図 第36号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 土師器	A 20.7 B 30.3 C 8.5	長胴形の器形。やや丸味をもつ底部からやや強く立ち上がり、最大径を胴中位に置き、口縁部とほぼ同径。口縁部肥厚水平に近く開き、口部丸く收める。	横ナデ、ナデ	礫、砂、長石 にぶい褐色 普通	50 % 床直
2	小型甕 土師器	A 15.0 B 16.3 C 6.0	安定した平底から内側して立ち上がり頸部「く」の字状外反、口唇部ゆるく外反し尖り気味。	二次焼成の為、器面 は変形気味 ナデ、粗雑?	礫、長石 赤褐色 やや不良	80 % 床直
3	甕 土師器	A 19.0 B C	括れは弱く、口縁部短く外反、口唇部肥厚し丸く收める。外面剥落のため不明。	横ナデ、ナデ	砂、礫 にぶい褐色 普通	10 % 床直
4	小型甕 土師器	A 16.2 B C	頸部「く」の字状外反、口唇部やや肥厚し外反カット状。	横ナデ、箒削り ナデ	礫 暗褐色 普通	10 % + 23
5	小型甕 土師器	A 16.9 B C	口縁部の長い形態でやや器内は高く、ゆるく外傾、口唇部尖る。	横ナデ、ナデ	礫、雲母、石英 暗褐色(一部にぶい 赤褐色) 普通	10 % + 22
6	小型鉢? 土師器	A — B — C —	小さな底部から鋭角的に立ち上がり器肉は薄い。	箒削り、ナデ	礫、石英、長石 黒褐色 普通	5 % + 29
7	鉢 土師器	A 17.0 B C	体部はゆるく内側して立ち上がり肩部にやや顯著な棱を有し、口縁部開き気味、口唇部丸く收める。	横ナデ、箒削り状 ナデ	礫、雲母、長石 暗褐色(にぶい褐色) やや良	10 % + 41
8	环 土師器	A 15.3 B C	体部は内側して立ち上がり器肉を増す、肩部に顯著な棱を有し、口縁部直立口唇部尖る。	横ナデ、箒削り ナデ	礫、雲母 赤褐色、1部黒褐色 やや良	10 % 床直
9	环 土師器	A B C 7.0	丸底気味でゆるく内側して立ち上がり口縁部内傾、器肉をやや減ずる。	横ナデ、ナデ 内面磨きに近い	礫 明褐色 やや良	10 % 覆土中
10	环 土師器	A 17.1 B 4.4 C 11.5	水平に近い底部から鋭角に立ち上がり口縁部は内傾、口唇部尖り気味。	横ナデ、箒削り ナデ	礫、石英、 にぶい赤褐色 普通	20 % 床直
11	环 土師器	A 12.9 B 5.5 C 4.5	半球形の体部から内側して立ち上がり口縁部直立気味、口唇部尖る。肩部に弱い棱状のものをもつ。	横ナデ、ナデ ヘラ磨き状	礫、石英、 にぶい褐色 やや良	70 % + 8
12	环 土師器	A 13.0 B 4.6 C 2.5	半球形形態、体部は外反して立ち上がり口縁部短く口唇部尖る。	横ナデ、ナデ	礫、長石、 にぶい褐色 やや良	40 % 床直
13	环 土師器	A 10.0 B 3.6 C 3.5	半球形形態。内側して立ち上がり口縁部短く直立、口唇部尖る。	横ナデ、ナデ ナデ状	礫、長石 にぶい褐色 やや良	80 % 覆土中

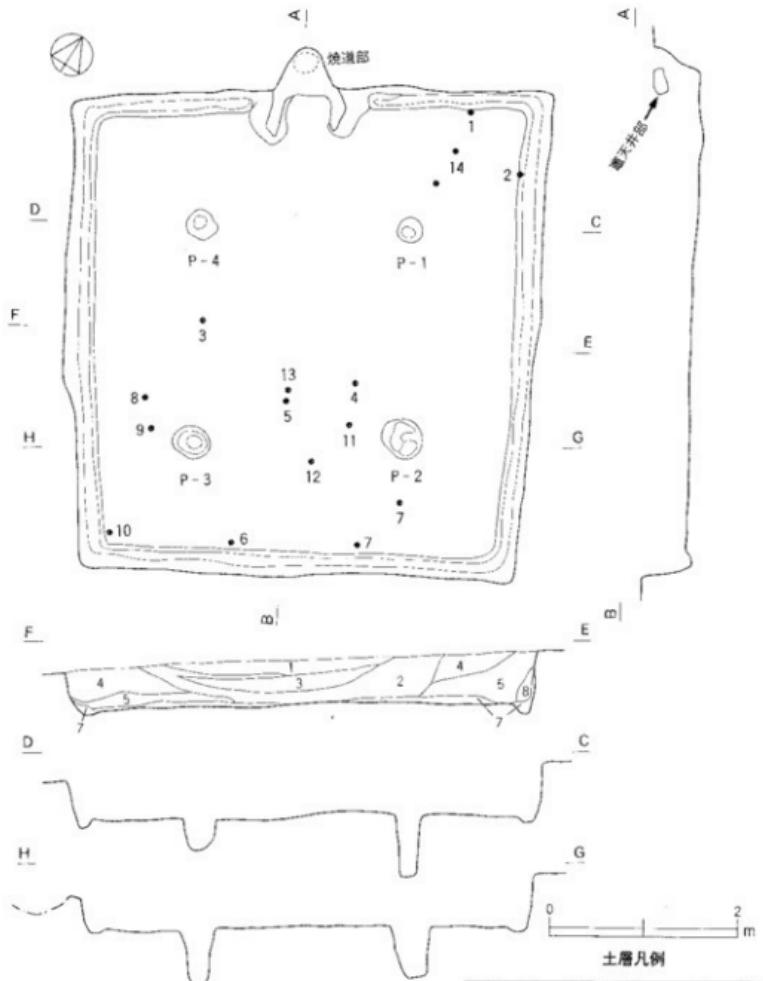
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様			整形技法	胎土、色調焼成	備考
14	环 土師器	A 10.3 B 4.4 C 2.5	半球形状形態、ゆるく内彎して立ち上がり口 縁部短く内傾、肩部に弱い棱をもつ。			横ナデ、ナデ	礫、長石 に赤い褐色 普通	30 % 覆土中

### 石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
15	敲石	6.8	5.1	1.4	80	砂岩	床直	円形状、扁平、薄い、スリ石？
16	敲石？	8.4	7.5	3.8	345	メノウ	〃	横円形状、短軸両端使用あり、片面に凹部あり。
17	石斧		7.4	4.9	539	綠泥岩	+	大半を欠失、自然石を一部加工。
18	支脚		8.6		735	土製	+	7 腹部端部が「ハ」の字状に張る、上部は円筒状。 礫、長石や粗礫
19	筋鉢車				12	綠泥岩	+	45 大半を欠失、孔部円形状
20	筋鉢車	5.0	5.1	1.0	70	土製	床直	台形状、ほぼ完形
21	石ヒ？	6.7	2.5	0.5	12	綠泥岩	+	20 刃部はやや丸味をもつ、1部欠失
22	土鍤	2.9	2.8	0.5	21	土製	床直	ほぼ球形状、やや丁重なナデ、孔部円形状
23	〃	1.9	2.2	0.5	8	〃	〃	小形、不整形状、ナデ、押え、孔部円形状
24	〃	2.0	2.1	0.5	9	〃	〃	小形、不整形状、押え、孔部正円形
25	〃	2.8	2.9	0.7	20	〃	〃	小形、長方形球状、ナデ、押え、孔部正円形
26	〃	2.4	3.1	0.5	11	〃	〃	1/2欠球形状、ナデ、丁重、孔部正円形
27	〃	1.7	2.2	0.4	6	〃	〃	長方形球状、ナデ、押え、孔部円形状
28	〃	2.6	3.1	0.4	22	〃	〃	横位に長円弧形、ナデ、丁重、孔部不整形長円形
29	〃	2.3	2.6	0.3	14	〃	+	13 不整形球形、ナデ、ケズリ、孔部正円形
30	〃	2.7	3.1	0.5	23	〃	+	31 やや不整形球状、ナデ、押え、削り、孔部正円形
31	〃	2.1	2.4	0.4	10	〃	+	12 不整形球状、ナデ、孔部正方形
32	〃	2.6	2.8	0.8	32	〃	+	10 ほぼ球形状、ナデ、丁重、孔部5角形状
33	〃	3.0	3.1	0.5	23	〃	1	42 ほぼ球形状、ナデ、孔部5角形状

### 第37号住居址（第75・76図）

本址は、36号住居址の南側1区、U-19・20グリットを中心に確認された住居址で台地が西側に傾斜を示す位置に検出された。切り合い関係はなく単独である。主軸をN-38°-Wに置き、東西4.6m、南北5mの隅部が鋭角な方形プランを呈し、壁面は西側で開いて立ち上がり他は鋭角的、深さは50cm、60cm前後を測る。床面は竈の周辺部では良く踏み固められ良好な状態。ほぼ平坦に移行している。周溝はU字状形態で幅10~15cm、深さ10cm程度で巡る。柱穴は、4ヶ所確認されP1は径30cmで深さ65cmで円筒形状掘り込み、P2は径40cm円形状深さ50cmのV字状、P3は40cmの長円形状、深さ60cm、P4は径30cm、深さ35cmと径、深さがほぼ同じでU字状掘り込みを



M.L. = 34,700

第75図 第37号住居址実測図

層別色調	含 有 物	特 性	織り
1 雜褐色	微土粒・ローム粒・ブロック少量	少い やや 有り	
2 細褐色	微土粒少角・ローム粒少や多量	〃	〃
3 黒褐色	微土粒・皮灰粒子少や多量	〃	弱い
4 褐色	ローム粒多量・粒子やや多量	やや 有り 石けり	
5 褐色	ローム粒・粒子多量	〃	〃
6 褐色	黄褐色砂質粒子多量	強い	強い
7 褐色	ローム粒子・ブロック多量	〃	〃
8 明褐色	ローム粒子多量・ブロック少量	弱い	

もつ。

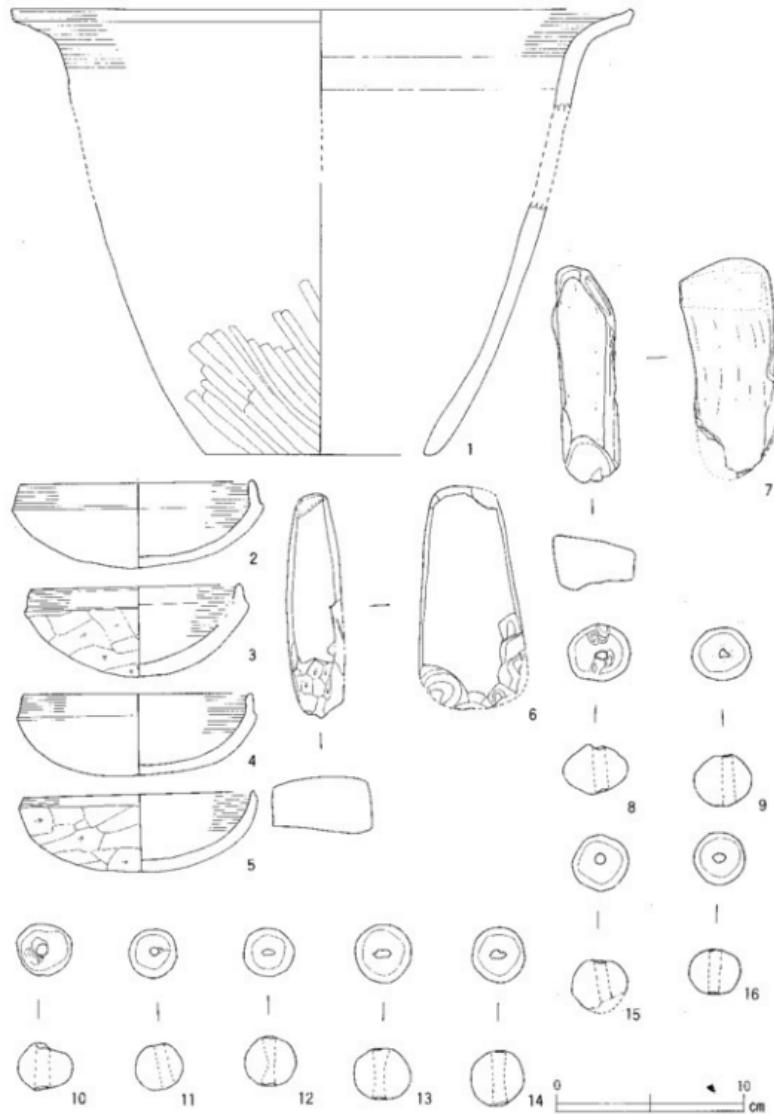
竈は北壁中央部に位置して構築されていた。外部へは50cmほどの長さで半円形状に掘り込み袖部は開き気味に直線的に60cmほどの長さで付設、焚口は開く、火床部は10cm程の深さに掘り込まれ中位に位置し、煙道部は緩やかに立ち上がる。黄灰褐色の粘性のやや強い粘土を用いている。天井部の一部が遺存していた。類例は少ない。

覆土は、レンズ状に自然埋積を呈し8層に分類され下層部に向かって明るさを増している。確認面1層と2層は暗褐色、3層は黒褐色ここに後世の掘り込みが存在したと考えられるが平面的には捉えられなかった。4・5・6層は褐色で何れもロームブロック、粒子の混入差で締まりは強く粘性は弱い。8層は明褐色壁面貼りつき層。

遺物は、散在して認められ総数100片程度認められた。開き気味に立ち上がり、口縁部は外反し長目、口唇部は摘み出しの窓。窓は肩部に弱い稜を持ち小型化するものと半球形のものが認められる。土製の丸玉は不整形、粗雑な作り、孔部は円形状のものと長方形のものが見られ重さは15g～22g前後を計る。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	壺 土師器	A 33.2	孔部平面上にカット形態的には三角形状、口縁部長目で水平に開く、口唇部上方へつまみ出す。	横ナデ、ナデ 鋸削り	礫、長石、石英 にぶい黄褐色 普通	20 %
		B 12.1				+ 19
		C 12.1				
2	壺 土師器	A 15.5	体部は半球形状ゆるく、内側にて立ち上がり 肩部に弱い稜をもつ、口縁部内傾。	横ナデ、ナデ	礫 黒褐色 やや良	40 %
		B 4.6				+ 23
		C 2.2				
3	壺 土師器	A 11.2	半球形状、肩部に弱い稜を有し短い口縁部は 内傾気味。口唇部丸く収める。	横ナデ、ナデ 鋸削り	礫、石英、雲母 暗褐色 やや良	50 %
		B 4.8				床 直
		C 2.5				
4	壺 土師器	A 15.3	丸底気味の底部から内側にて立ち上がり肩部 に弱い稜をもつ。口縁部短く内傾、口唇部丸 く収める。	横ナデ、泡ナデ ナデ	礫、石英 暗褐色 やや良	40 %
		B 4.3				床 直
		C 4.5				
5	壺 土師器	A 12.4	半球形状に近い体部からゆるく内側にて立ち 上がり口唇部は内傾、尖る。	横ナデ、鋸削り ナデ	礫 黒褐色(にぶい黒褐色) やや良	30 %
		B 4.2				
		C 4.0				床 直



第76図 第37号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表

番号	器種	法 尺(cm)			重量(g)	材 質	出土地点	備 考
		最大長	最大幅	最大厚				
6	石斧	12.1	5.8	3.0	313	練泥岩	床 直	一部を欠失、握部は平面的に加工、刃部は始刃か
7	砥石		4.9	2.7	223	砂 岩	"	一面のみ使用痕あり、ゆるく中央部が凹む、人半は自然石状1部欠失
8	土 錐	2.5	3.3	0.7	22	上 製	+	22 不整形、算盤玉状、一角形孔部長円形
9	"	2.6	3.1	0.5	22	"	+	31 やや長円形状形、ナデ、孔部三角形状
10	"	2.5	3.0	0.7	15	"	床 直	不整形形状粗雑、ナデ、押え、指文痕残る、孔部正円状
11	"	2.4	2.5	0.5	16	"	+	39 ほぼ球形状、ナデ、孔部正円状
12	"	2.6	2.7	0.7	18	"	+	27 ほぼ球形状、ナデ押え、孔部長円形
13	"	2.7	3.0	0.8	26	"	+	37 ほぼ球形状、ナデ、孔部長円形状
14	"	2.9	2.7	0.6	23	"	+	27 やや長円形球状、ナデ、孔部長円
15	"	2.5	2.9	0.6	19	"	"	不整形球状、粗雑なナデ、孔部正円形狀
16	"	2.4	2.6	0.6	16	"	"	ほぼ球形状、やや粗雑、ナデ、孔部複円形

## 第38号住居址（第77・78図）

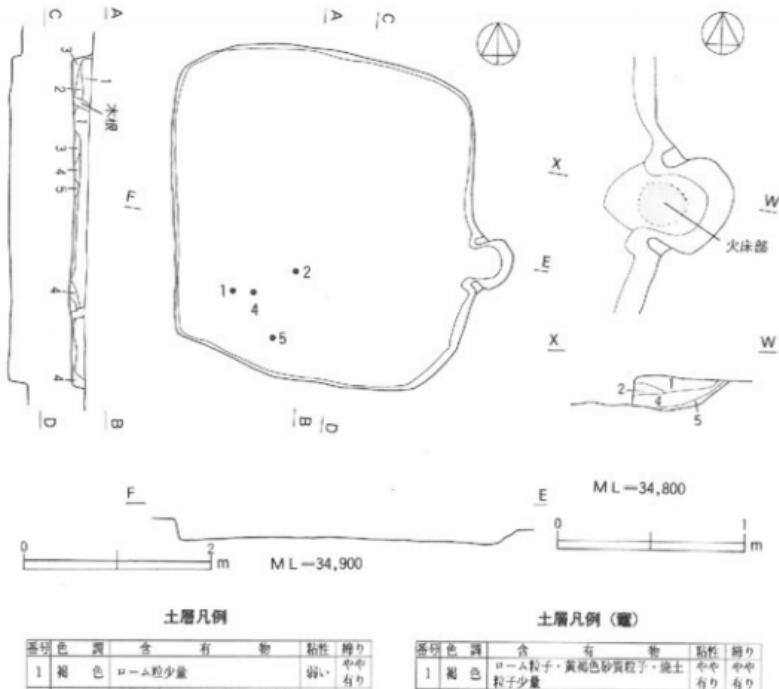
本址は、42号住居址の東側1区、Y-10・Z-10グリットを中心に確認された住居址で台地は緩く北側に傾斜を示す面に位置し検出された。切り合い関係では53号〔縄文中期〕を切り南側に時期不明の土坑に掘り込まれている。主軸をE-18°-Sに置き、東西3.1m、南北2.9m不整形な隅部の丸い方形プランを呈している。壁面は北、西側では10cm～20cmを測るが東側では10cm前後。床面は多少踏み固められていたが他はローム剥き出しに近く締まりはない。ほぼ平坦に移行する。周溝、柱穴は確認出来なかった。

竈は東壁中央部南寄りに位置し確認された。大部分を半円形状に外側に掘り込み構築している。40cm程掘り込み袖部は10cmから15cmと短く付設、焚口部は僅かに狭くなる。火床部は5cm程掘り込み中央に位置、煙道部はゆるやかに立ち上がる。袖部は黄褐色の粘土を用い粘性は強い。東壁に竈を持つ一群の住居址の中ではプラン及び竈等類似のものが多く何れも浅く、締まりは悪い。

覆土は、5層に分類されたが確認面の1層褐色が大半を占めロームブロック、粒、粒子の混入差である。南側に一部暗褐色層が見られ総合的には投げ込み状。

遺物は、絶数55片ほどで少なく格子状の叩き痕をもつ須恵器がみられた。2は陶器に近い高台貼付クロ水引、土製の丸球は丁重なナデ調整するものが多い。孔部は円錐、長方形、長丸形で形の差違がみられ重さは12g～30gを計る。

東側に竈を持つプラン遺構の中では新しい時期と思われる。



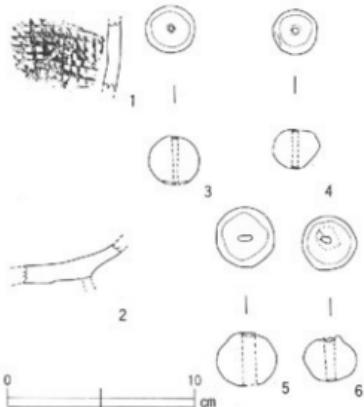
第77図 第38号住居址、窓実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	釉上・色調、焼成	備考
1	土師質	A - B - C -	格子状の叩きをもち、叩き面は凸。瓦との関係で注目される遺物。	叩き、ナデ	輝、雲母、長石 にぶい暗褐色 やや良	1 % 床直
2	碗? 土師器	A - B - C -	高台?脚部は欠失するが端部に位置。ゆるやかに立ち上がる。内面、黒褐色	ロクロ水引か(胎土 の流れから)	輝、石英、長石 にぶい黄褐色(暗褐色) 普通	10 % + 13

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
3	土錐	2.6	2.6	0.3	17	土 賦	+ 5	ほぼ球形、ナデ？面粗離、ざらざら孔部少孔円形
4	"	2.1	2.3	0.3	12	"	+ 15	不整形、ナデ、押え、孔部正円、貫通？
5	"	2.9	3.2	0.7	30	"	床 直	球形状、ナデ、孔部長方形
6	"	2.4	2.9	0.6	16	"	覆土中	不整形、ナデ、押え、孔部長円形状

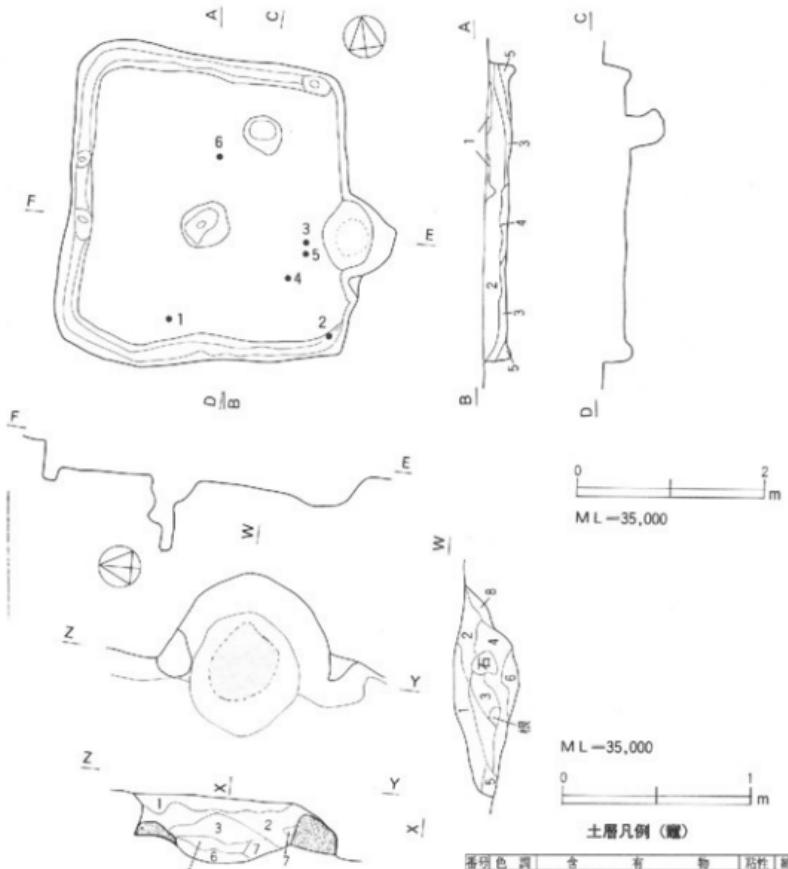


第78図 第38号住居址出土遺物実測図

## 第39号住居址（第79・80図）

本址は、38号住居址の南西側1区、W-11・12グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。切り合い関係はなく単独である。主軸をE-12°-Sに置き、東西3.2m、南北3.4mの隅部の丸い不整形な方形プランを呈し、壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは20cm～30cm前後を測る。床面は竈の周辺部では良く踏み固められていたが壁面周辺が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝はV字状形態で幅10cm～15cm、深さ10cmほどで巡る。柱穴は、確認されず中央部、西側にピットが見られたが中央部のものは木根の可能性が強い、西側のものは径40cm、深さ40cm、U字状の掘り込み形態を有している。

竈は東側の壁面中央部より南へ40cm程寄って構築されていた。外部へは60cmほど半円形に掘り込み袖部は短く10cmほど付設、火床部は10cm程掘り込まれ中位に位置し焚口は開く、煙道部は緩やかに立ち上がる。砂質の粘性の弱い粘土を用いている。本跡は東側に竈を持つ一群の住居址の中では粘土、形態等若干の差違が見られる。



土層凡例

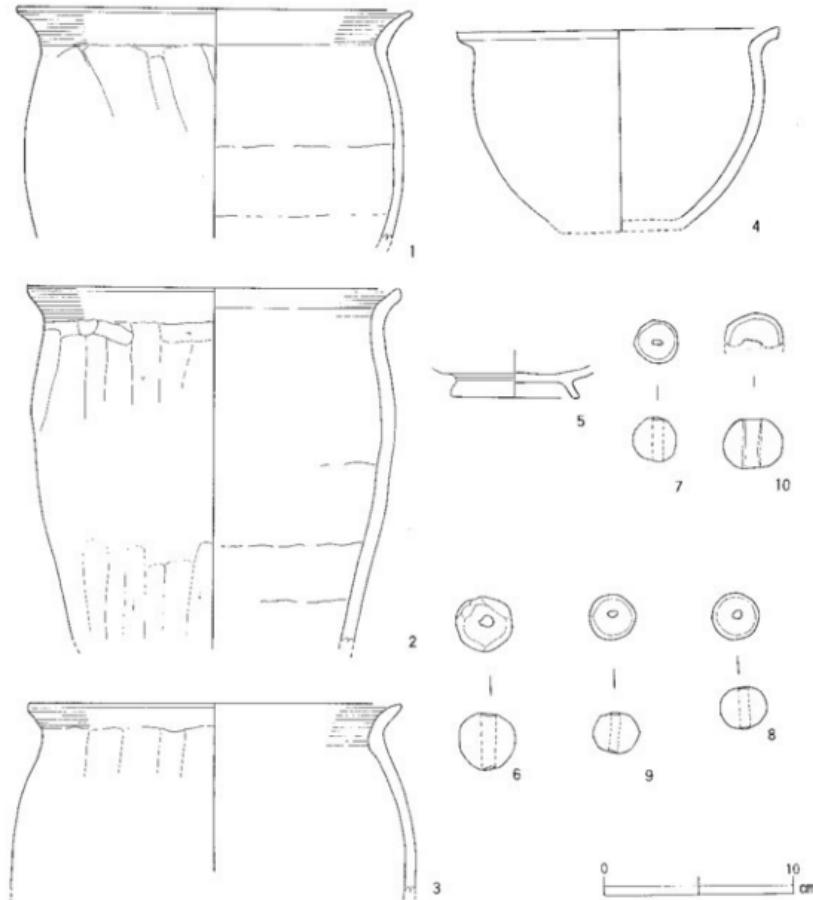
番号	色調	含 有 物	粘性	崩り
1	黃 色	ローム粒子少量	弱い やや 有り	弱い やや 有り
2	褐 色	燒け粒子・黄褐色砂質粒子少量	やや やや 有り	やや やや 有り
3	暗褐色	黄褐色砂質粒子や多量	弱い やや 有り	やや やや 有り
4	暗褐色	黒褐色ブロック・焼化粒子・燒上粒子 少量	弱い やや 有り	弱い やや 有り
5	暗褐色	炭化物やや多量、ローム粒子少量	やや 有り	やや やや 有り
6	赤褐色	燒上ブロック多量	無し	弱い
7	赤褐色	純土粒子やや多量	無し	やや 有り
8	褐 色	ローム粒子やや多量、ブロック少量	やや 有り	やや 有り

番号	色調	含 有 物	粘性	崩り
1	暗褐色	純土粒子少量	弱い やや 有り	弱い やや 有り
2	褐 色	燒け粒子・黄褐色砂質粒子少量	やや やや 有り	やや やや 有り
3	褐 色	黄褐色砂質粒子や多量	やや やや 有り	やや やや 有り
4	暗褐色	黒褐色ブロック・焼化粒子・燒上粒子 少量	弱い やや 有り	弱い やや 有り
5	暗褐色	炭化物やや多量、ローム粒子少量	やや 有り	やや やや 有り
6	赤褐色	燒上ブロック多量	無し	弱い
7	赤褐色	純土粒子やや多量	無し	やや 有り
8	褐 色	ローム粒子やや多量、ブロック少量	やや 有り	やや 有り

第79図 第39号住居址、竪実測図

覆土は、レンズ状の自然埋積を呈し5層に分類され確認面では褐色、下層床面では炭化物を含む暗褐色、周溝、壁面は明褐色を示し各層とも締まりはややある。

遺物は、ほぼ平均して散在して認められ総数150片程出土したがこの1割程は鉄滓であった。何れも3cmから5cm程の大きさでやや鉄分が多い。甕は長角形「く」の字状外反、口唇部は尖る。幅の広い粗い箇削りが認められる。鉢に近い器形も見られる。5は胸部が貼付され碗に近い形態、



第80図 第39号住居址出土遺物実測図

土製の丸玉は不整形、粗雑な作り、孔部は梢円形状、長円形状のものが見られ重さは10g～26g前後を計る。

#### 出土土器観察表

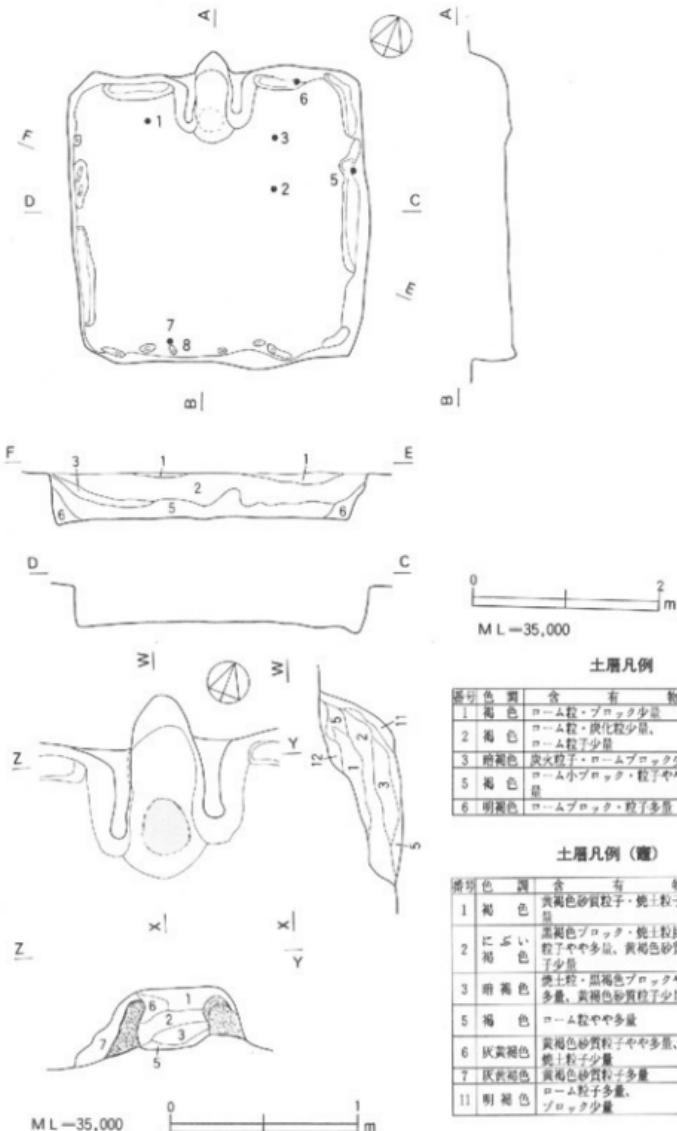
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	摹形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土器	A 21.2	器内は薄く、弱く「く」の字状に頸部はくびれやや肥厚、口唇部丸く收める。	横ナデ、ナデ、 窓削り	礫、石英、長石 にぶい橙色(暗褐色) 普通	10 %
		B				床直
		C				
2	甕 土器	A 19.9	器内は薄く長楕円形、口縁部短く外反、口唇部外側わずかに凹む。	横ナデ、窓削り ナデ	礫、石英、長石 にぶい暗褐色 普通	20 %
		B				+ 12
		C				
3	甕 土器	A 19.9	頸部「く」の字状外反口縁外反し、口唇部丸く收める。	横ナデ、窓削り ナデ	礫、長石 にぶい橙色(暗褐色) 普通	10 %
		B				覆土中
		C				
4	甕 土器	A 17.2	器形は鉢に近い、口縁部水平に近く開き、口唇部外側カット状、洞部は三角形状。	やや粗雑な斜位のナ デ	礫、石英、長石 にぶい褐色 普通	30 %
		B				+ 10
		C				
5	碗 上器	A	脚部は貼付、薄く短い。内面黒色、ナデミガ キに近い。	巻上げか?回転ミズ ビキ、ナデ	礫、石英、長石 にぶい黄褐色(黒色) やや良	10 %
		B				+ 7
		C 6.9				

#### 土製品一覧表

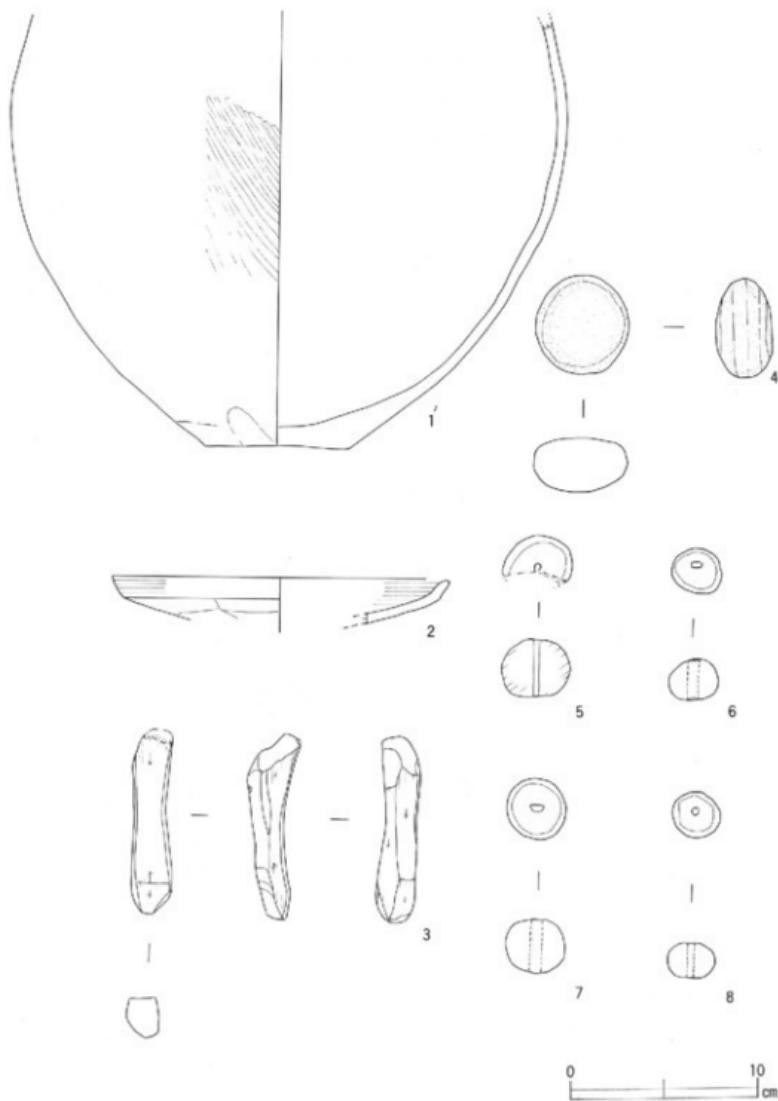
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
6	土 睡	3.1	2.9	0.8	26	土 製	+ 18	小整形、球状、ナデ、押え、削り、孔部正円状
7	"	2.2.	2.5	0.4	12	"	+ 18	ほぼ球形状、ナデ、押え、孔部三日月状
8	"	2.2	2.5	0.5	14	"	覆土中	球形状、ナデ丁重、孔部正円形状
9	"	2.2	2.3	0.6	10	"	窓 内	ほぼ球形状、やや粗雑なナデ、孔部長円形
10	"	2.7	3.1	0.9	11	"	"	不整形球状、ナデ、孔部長方形状、1/2欠

#### 第40号住居址（第81・82図）

本址は、39号住居址の北側1区、W-10・11グリットを中心に確認された住居址で台地は緩く北側に傾斜を示す面に占地し、切り合い関係はなく単独で検出された。主軸をN-26°-Wに置き、東西3m、南北3.1m、隅部の丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は、東側でならかに傾斜を示すほかは鋭角に立ち上がり、壁高40cm～45cmを測る。床面は窓の前面を中心に良く踏み固められ中央部がやや高くなる他はほぼ平坦に移行する。周溝は各壁面に断片的に見られ南側ではピット状の掘り込みがみられた。柱穴は確認出来ない。



第81図 第40号住居址、窓実測図



第82図 第40号住居址出土遺物実測図

竈は北壁中央部に位置し確認された。外側に30cm程半円形に掘り込み構築している。袖部は直線的に長さ60cm付設、焚口部は開き気味、火床部は10cm程掘り込み前面に位置、煙道部はゆるく移行してから強く立ち上がる。袖部は灰褐色の粘土を用い粘性は強い。形態はU字状。

覆土は、6層に分類されたが自然埋積、投げ込み状の部分がみられる。確認面2層は褐色で炭化粒を含む。間に3層の暗褐色炭化粒子を含む。床面近くは褐色でロームブロック、粒、粒子の混入差で各層とも締まりはある。

遺物は、総数115片ほど出土、中央部及び竈の前面から認められた。1は壺形土器で竈西側から出土。やや長胴気味大型、器肉は薄い、2は遺存率が少なく断定は出来ないが皿の可能性が強い。11唇部は尖る。3は磁石で使用痕が顯著で湾曲する。土製の丸玉は円形状調整はやや良い、円形孔と台形孔が認められ重さは11gから30gを計る。

出土土器観察表

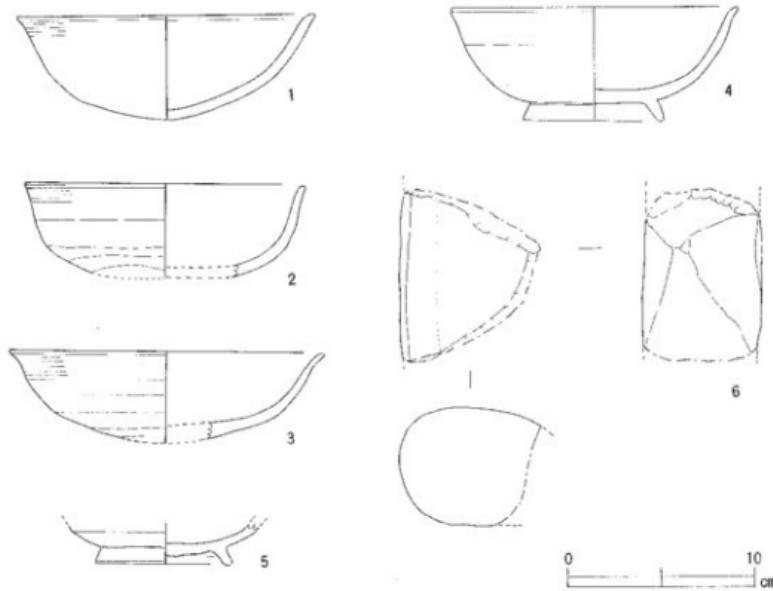
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土器	A B C 6.9	球形に近い壺になる可能性もあり。器肉は薄く胴部中位に細かな謹！ガキ状の削りをもち底部は粗雑。	ナデ、箇削り 押え	礫、石英、長石 に富む黒褐色(褐色) やや良	40% + 10
2	皿？ 土器	A 17.9 B C	ゆるく開いて立ち上がる底部から口縁部は外反して丸くやや肥厚、口唇部尖る。大半を欠失しているため断定は出来ない。	横ナデ、ナデ 箇削り	礫、長石 褐色 普通	10% + 33

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
3	砥石	10.0	2.1	2.2	50	凝灰岩	+	25 5面に使用板あり、顯著95%
4	すり石状	5.3	3.0	2.9	112	メノウ	覆土中	平面球形状、偏平
5	土鍬	3.1	3.6	0.3	25	土製	床直	変形球形状、ナデ、丁重、孔部長方形約1/2欠
6	"	2.2	2.6	0.6	15	"	"	変形球形状、ナデ、丁重、孔部長方形
7	"	2.9	3.1	0.6	30	"	"	ほぼ球形状、ナデ、ミガキに近い、孔部長円形状
8	"	1.8	2.5	0.3	11	"	"	ややつぶれ球形状、ナデ、押え、孔部正円形状

第41号住居址（第83・84図）

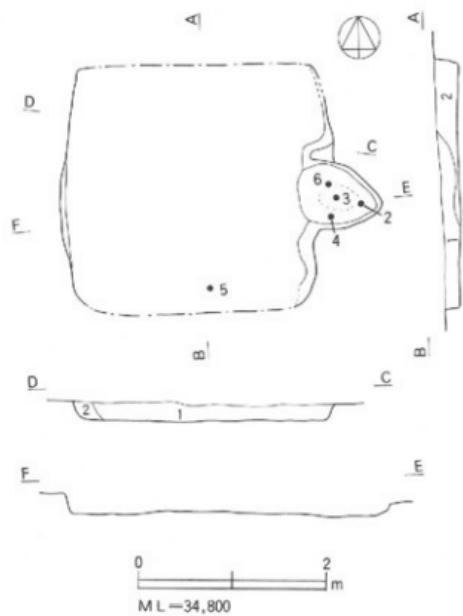
本址は、40号住居址の北東側1区、X-9・10グリットを中心に確認された住居址で台地は緩く北側に傾斜を示す面に占地し53号住〔縄文〕を掘り営まれ複合関係にある。主軸をE方向に置き、東西南北2.7m、隅部の丸みをもつ方形プランを呈するものと推定される。壁面は、ゆるく傾斜を示して立ち上がり壁高20cm～30cmを測る。床面は竈の前面に若干踏み固められた部分もみられたが総じて綺まりは悪く貼床の様相ではなくほぼ平坦に移行する。周溝、柱穴は確認出来なかつた。



第84図 第41号住窓、住居址出土遺物実測図

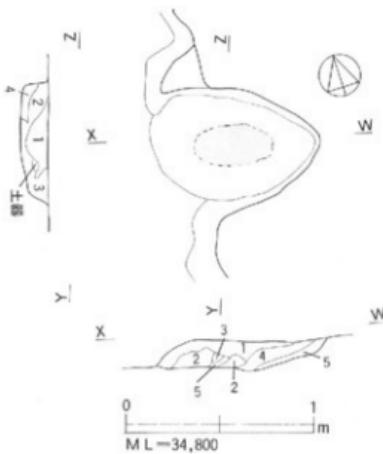
竈は東壁中央部に位置し確認された。外側に60cm程U字状に掘り込み構築している。袖部は、長さ30cm、10cmと短く付設、焚口部は開く、火床部は僅かに掘り込み中程に位置、煙道部はゆるやかに立ち上がる。袖部は灰褐色の粘土を用い粘性は強い。形態はU字状。

覆土は、2層に分類されたが確認面1層が大部分を占め暗褐色でローム粒、粒子を含む2層は、褐色でロームブロックを多く含む。



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	持り
1	暗褐色	ローム粒、粒子少量	弱い	やや 有り
2	褐色	ローム小ブロック少量	やや	" 有り



土層凡例（窓）

番号	色調	含 有 物	粘性	持り
1	暗褐色	灰褐色砂質粒子、 燒土ブロック少量	やや 有り	やや 有り
2	赤褐色	灰褐色砂質粒子、燒土粒子少量	"	強い
3	赤褐色	燒土ブロック	無し	"
4	褐色	燒土ブロック・焼土粒子少量	弱い	やや 有り
5	褐色	ローム粒子、燒土粒子少量	やや 有り	"

第83図 第41号住居址、窓実測図

遺物は、総数120片ほど出土し大半は竈内から認められた。1は丸底に近い环で体部はゆるく外反して立ち上がり口唇部は尖る。2は碗に近い器形、3は高环か?回転ミズビキ、4は短い脚部をもつ碗で貼付、口唇部丸く収める。5も同一形態か、何れも巻き上げ痕を残す。須恵器は僅かに破片を認めたに過ぎず東側に竈をもつ住居址遺物、掘り込み形態、プランと類似する。

出土土器観察表

番号	器種	法規(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	碗 土器	A 16.0 B 5.6 C 2.4	半球形状、内縁して立ち上がり口唇部外反、丸く収める。内黒环に近い。	巻上げ?横ナデ ナデ	礫、長石 にぶい褐色(黒色) やや良	30 % 竈内
2	碗 土器	A 15.0 B C	体部は内縁して立ち上がり直立気味に口唇部に移行し、やや外反、丸く収める。	巻上げ?ナデ 鎌削り	礫、長石 にぶい褐色 普通	20 % 竈内
3	环? 土器	A 16.8 B C	器肉は薄く外反して立ち上がり口唇部外反、口唇部水平に近く丸く収める。脚部貼付か。	巻上げ、回転ミズビキ ナデミガキ状	礫 暗い橙色(暗赤褐色) 普通	10 % 竈内
4	碗 土器	A 15.3 B 6.1 C 7.7	貼付した脚は短く薄い。体部は内縁して立ち上がり口唇部で開く。	巻上げ、回転ミズビキ ナデ 左廻り	礫、石英、雲母、長石 暗褐色(黒褐色) 普通	60 % 竈内
5	碗 土器	A 7.4 B C	底部端部に脚部を「ハ」の字状に貼付。	ロクロ水引? ナデ	礫 褐色(黒褐色) 普通	20 % + 10

石器一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
6	巖石			6.2	613	安山岩	竈内	1部に加工痕状、使用痕あり、大半欠

#### 第42号住居址（85・86・87図）

本址は、41号住居址の南側1区、X-12・13Y-12・13グリットを中心に確認された大型の住居址で台地は緩く東側に傾斜を示す。切り合い関係はなく単独である。主軸をN-8°-Wに置き、東西8.2m、南北7.1m、東西方向に1.15m長い隅部が鋭角な長方形状プランを呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは60cm~70cm前後を測る。床面は、竈の前面部を中心に良く踏み固められ、僅かに壁面周辺部が弱い。ほぼ平坦に移行している。周溝は、西、北側に「く」の字状に幅10~15cm、深さ10cm程で見られただけであった。柱穴は、4ヶ所確認されいずれも二段の掘り込みをもち下部はU字状の掘り込みが見られた。P1は径1mの円形状深さ85cm、P2も径1mで不整形状、深さ85cm、P3は径95cm、P4は径1m三段の掘り込みをもつ、深さは90cm前後を有している。

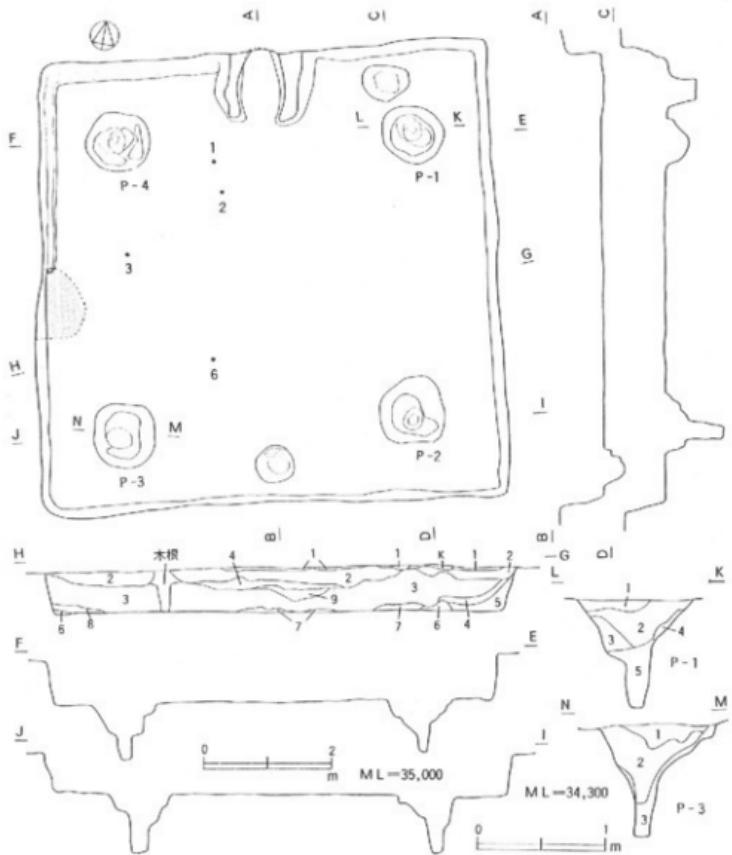
竈は北壁中央部に位置して構築されていた。外部へは掘り込みではなく、袖部は直線的に1.15mほど長く付設、灰褐色で粘性の強い粘土を用いている。火床部は、中位やや前面に位置し僅かに掘り込み、煙道部は垂直に立ち上がる。袖部は幅が大きく外部へ掘り込みを持たない本遺跡では唯一の遺構である。

覆土は、レンズ状に自然埋積と推定され8層に分類出来た。下層部に向かって明るさを増し確認面1層は暗褐色、2・3・4層は褐色でロームブロック、粒、粒子の混入差で5・6層は、焼土粒子を含む。7層は、暗褐色床面張り付きで炭化物を多量に含む。8層は、炭化粒子、焼土粒子を含み暗赤褐色層。縞まりはややあり粘性は弱い。

遺物は、総数200片程ほぼ平均し散在して認められ大きい割には少ない。1は小型の甕で口縁部は短く、弱く開き口唇部は丸く収め球胴形に近い。2は大型の甕か、3は肩部に稜を持つ壺、4は半球形状、5は高环か、体部との間に顯著な稜をもつ、6は口縁部水平に近く開き口唇部は尖る。内面赤彩。須恵器は検出されなかった。上製の丸玉は不整形、粗雑な作り。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	小型甕 土師壺	A 15.0 B C	球形洞を呈する小型の甕型土器と推定され、口縁部短く、弱く外傾、口唇部丸く収める。	横ナデ、ナデ	礫、長石 にぶい黒褐色(褐色) 普通	50 %
2	甕 土師壺	A B C 7.5	底部はわずかに凹む、長胴形カメか?。	ナデ	礫、石英、長石 にぶい黒褐色(褐色) 普通	10 %



土層凡例（柱穴）P1.P3

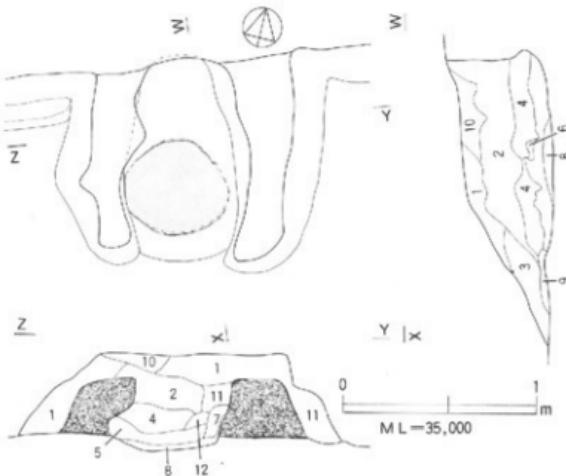
番号	色調	含 有 物	粒性	織り
1	褐色	ローム粒子・粒子やや多量	弱い	やや 有り
2	褐色	ローム小ブロック・地土粒子少量	〃	弱い
3	褐色	地土粒子・炭化粒子やや多量	〃	〃
4	明褐色	ロームブロック・粒子多量	やや 有り	やや 有り
5	明褐色	ローム粒子多量	弱い	弱い
1	褐色	ローム粒子・粒子やや多量	〃	やや 有り
2	褐色	ローム小ブロックやや多量	〃	弱い
3	明褐色	ローム粒子・小ブロック多量	強い	〃

土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	織り
1	暗褐色	ローム粒子少量	弱い	やや 有り
2	褐色	ローム粒少量	やや	〃
3	褐色	ロームブロックやや多量	〃	〃
4	褐色	ローム粒多量、ブロックやや多量	〃	〃
5	明褐色	ロームブロック多量	強い	強い
6	明褐色	粒・地土粒子少量	〃	〃
7	暗褐色	炭化粒子多量、 ロームブロック・地土粒子少量	弱い	やや 有り
8	暗褐色	炭化粒子やや多量、 地土粒子少量	〃	弱い
9	暗褐色	ロームブロック・粒子・砂質粒子 少量	〃	やや 有り

第85図 第42号住居址実測図

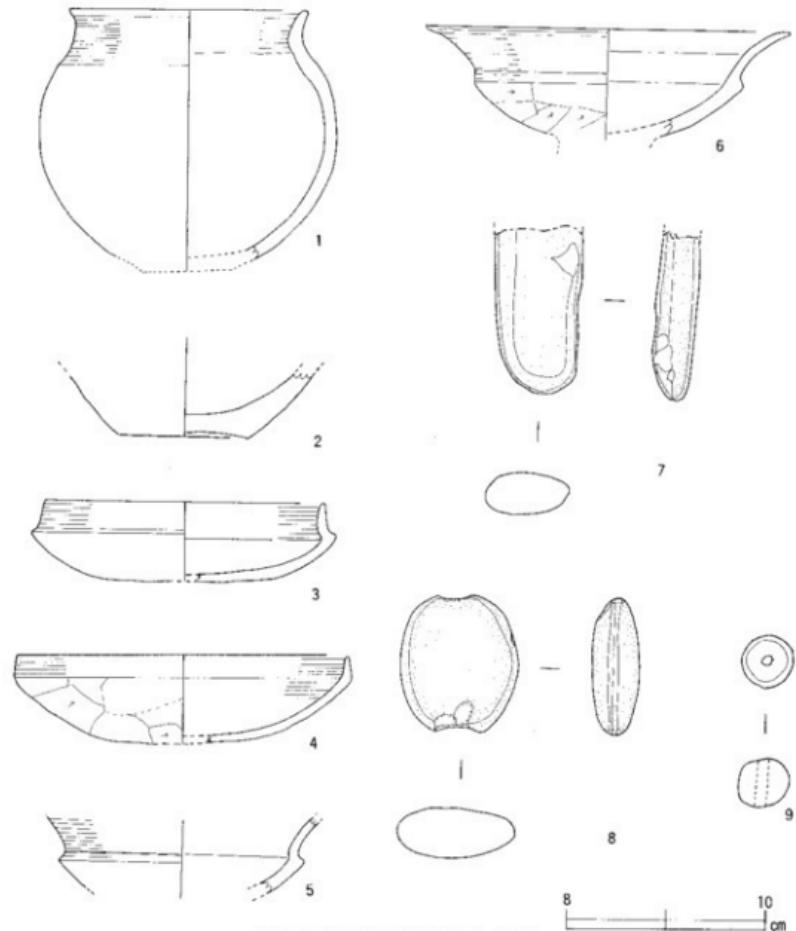
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
3	杯 土師器	A 14.3 B 4.0 C 8.0	安定した底部からゆるく内側して立ち上がり 肩部に顯著な稜を有し、口縁部薄く内傾口唇 部尖り気味。	横ナデ、ナデ 笠ミガキ状	礫、長石 黄褐色(にぶい黄 褐色)	20 %
4	环 土師器	A 16.8 B 4.5 C -	底部は丸底気味ゆるく内側して立ち上がり口 縁部は直立気味、口唇部尖り気味。	横ナデ、籠刷り ナデ	礫、長石 黒褐色 普通	30 %
5	环 土師器	A - B - C -	体部と口縁部の間に顯著な稜を有し、口縁部 長く外反。	横ナデ、ナデ	礫、雲母、長石 にぶい橙色 普通	10 %
6	高环? 土師器	A 18.4 B - C -	体部は内側してゆるく立ち上がり口縁部は器 肉を離し外反、水平に近く開き、口唇部は水 平に外側に開く。1部赤彩	横ナデ、ナデ 籠刷り	礫、長石 1部赤褐色、暗褐色 普通	40 %



土層凡例

番号	色調	含 有 物	性質	織り
1	青 色	灰褐色砂質粒子やや多量、黑褐色 小ブロック少量、ロームブロック 少量	やや 有り	やや 強い 有り
2	青 色	ローム小ブロック少量、佛土粒子 やや多量、灰褐色砂質粒子多量 ロームブロック・灰褐色砂質粒子 少量	強い	強い
3	褐 色	ロームブロック少量	強い	強い
4	青 色	灰褐色砂質粒子多量、 佛土粒子少量	#	#
5	暗赤褐色	灰褐色砂質粒子やや多量、 佛土ブロックや多量	弱い	#

第86図 第42号住竈実測図



第87図 第42号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	山土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
7	石斧		4.5	2.1	129	綠泥岩	覆土中	自然石を利用した石斧と思われる。1/2欠
8	石鍬	7.1	5.9	2.5	142	砂岩	"	100%
9	土鍬	2.4	2.6	0.6	16	土製	"	やや不整形球状、ナデ、押え、孔部長円形状。

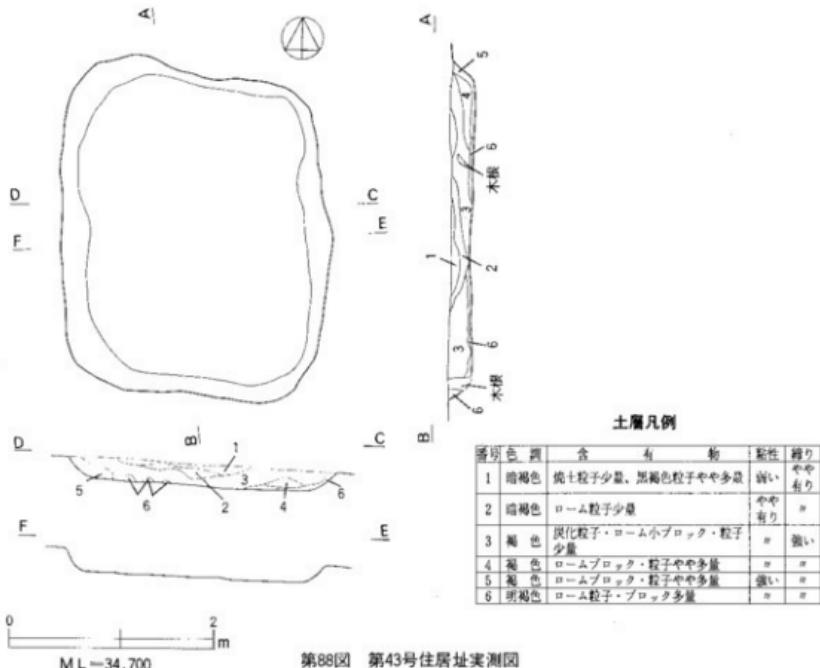
### 第43号住居址（第88図）

本址は、42号住居址の東側2区、A-12・13グリットに確認された住居址で台地は強く東側に傾斜を示す面に位置し検出された。切り合い関係はなく単独である。長軸をN-O°に置き、東西2.7m、南北3.4m、隅部が丸みを持つ長方形プランを呈している。壁面は、強く開いて立ち上がり西側では、30cm、東側では20cmの壁高を測る。ローム剥き出しの感が強い。床面は一部に縮まりも見られるが前述の様にローム剥き出し状、若干の凹凸が見られ遺存状態は悪い、東側に10cm程の傾斜を示す。周溝、柱穴は確認出来ない。

竈、炉等は確認出来なかった。

覆土は、レンズ状の自然埋積を示し6層に分類された。1層確認面は暗褐色焼土粒子、黒色粒子を含む。2層も暗褐色3・4・5層は、何れも褐色でロームブロック、粒、粒子の混入量の差、3層は、炭化粒子少量含む。6層はソフトローム層で明褐色。

遺物は、総数35片程度で少なく図示出来るものはなかった。縄文土器が10片、他は土師器坏で本遺構の時期は掘り方、プラン、竈、炉、遺物等から古墳時代後半と推定される。

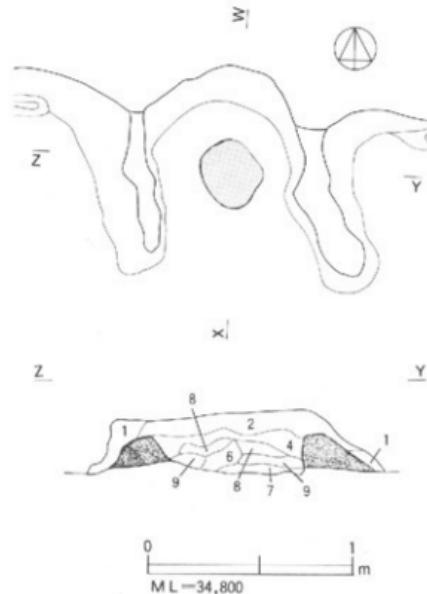


第88図 第43号住居址実測図

#### 第44号住居址（第89・90・91図）

本址は、33号住居址の東側1区、Y-8・9、Z-8・9グリットを中心に確認された住居址で台地は、弱く北、東側に傾斜を示す位置に検出された。切り合い関係はなく単独である。主軸をN-14°-Eに置き、東西4.3m、南北2.7m隅部が鋭角な長方形プランを呈している。壁面は、東側の一部を除き何れも開いて立ち上がり35cm～50cmの壁面を測る。床面は、縦じて締まりは良く僅かに周溝部周辺の一部に若干の凹凸が見られる他は遺存状態は良い。僅かに西、北側に傾斜を示す。周溝は、幅10cm～15cm前後でU字状に巡る。柱穴は、4ヶ所確認されP4を除き径55cm前後の円形で下部は円筒状に50cm～60cm程掘り込み、P4は径45cm、深さ65cm U字状の掘り込みをもつ。

竈は、北壁中央部に確認され総体的に東側を向き構築されていた。外側には20cm程掘り込み、袖部は、直線的に80cm程長く付設、焚口部は僅かに狭くなる。火床部は、ほぼ水平で中位に位置、煙道部は強く立ち上がる。黄褐色の粘性のやや強い粘土を用い築いている。形態的にはU字状。東側を向くものは唯一の遺構。

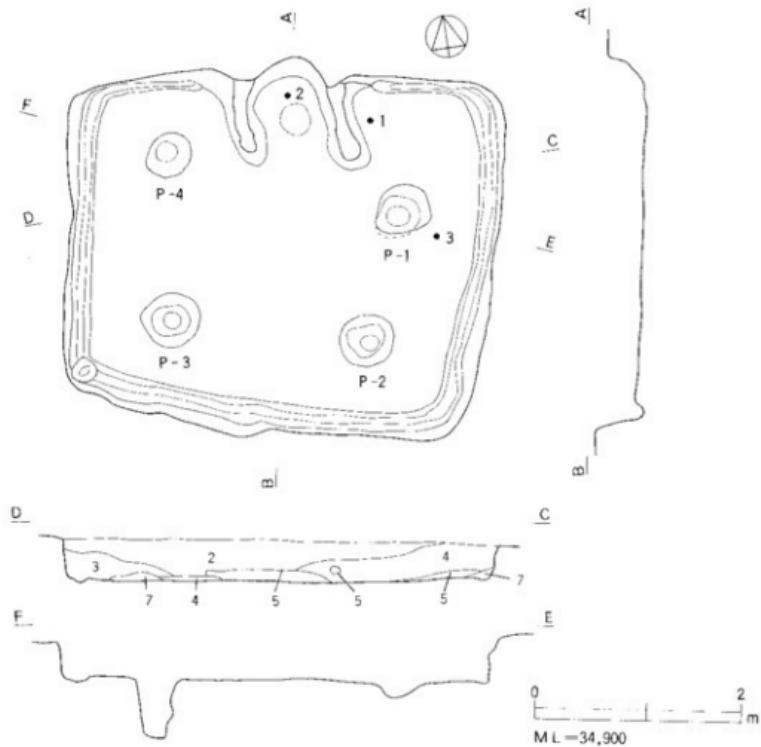


第89図 第44号住居址竈実測図



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘 性	持 続 力
1	褐色	ローム粒子・灰褐色砂質粒子少量	やや 有り	強い
2	にじみ 黄褐色	灰褐色砂質粒子やや多量、 鐵土粒子少量	強 い	〃
4	褐色	炭化粒子・ローム粒子少量	やや 有り	やや 弱い
5	暗褐色	砂質粒子やや多量	強 い	弱 い
6	赤褐色	鐵土粒子・鐵土ブロック・灰褐色 砂質粒子やや多量	強 い	やや 有り
7	赤褐色	鐵土粒子多量、 鐵土ブロック・砂質粒子少量	〃	〃
8	にじみ 黄褐色	灰褐色砂質粒子多量、 鐵土粒子少量	〃	弱 い
9	暗赤褐色	灰褐色砂質粒子少量、 鐵土粒・鐵土粒子多量	〃	〃
10	褐色	鐵土粒子少量	やや 有り	強 い



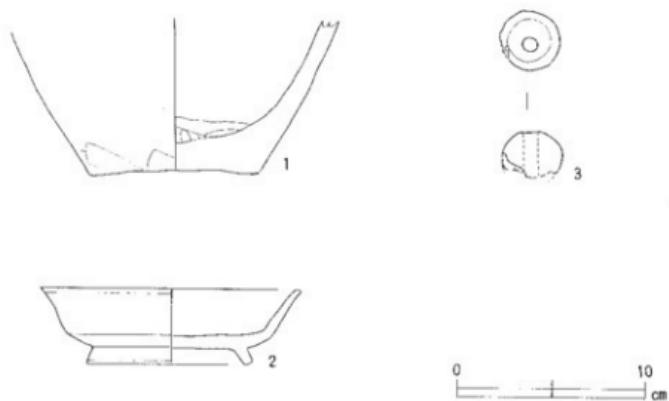
土層凡例

番号	色調	含 有 物	有 性	弱り
2	褐色	ローム粒多量、 燃土粒・ロームブロック少量	有り	やや 有り
3	褐色	ローム粒・焼土粒少量	弱い	"
4	褐色	ローム小ブロック多量、 粒子や砂多量	やや	"
5	火褐色	砂質粒子やや多量	強い	強い
7	明褐色	ロームブロック・粒子多量	"	"

第90図 第44号住居址実測図

覆土は、レンズ状の自然埋積を示し5層に分類された。2層確認面は暗褐色、4・7層除き焼土粒子を含む。5層は灰褐色で砂質の粘土粒子を含む。他はロームブロック、粒、粒子の混入量の差で褐色。

遺物は、総数100片程で散在して出土した。器形の窺えるものは少なく、1は甕形土器の底部と思われる長胴形状、2は須恵器、脚を貼付した碗で短くハの字状に開く。体部は外反して立ち上がり口唇部は尖る。回転ミズビキ、その他土製の丸球がみられた。



第91図 第44号住居址出土遺物実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕形 土器	A 8.9	安定した底部から開いて立ち上がる器肉は厚い。内面粗雑な調整。	ナデ、底部窪ナデ 削り状	輝、長石 黒褐色(にぶい橙色) 普通	10 %
		B				+ 25
		C				
2	須 器	A 13.7	付高台は短く「ハ」の字状、やや厚め。体部は開き、口唇部外反気味で丸く収める。	巻上げ?回転ミズ ビキ?ナデ	輝、長石、石英 灰白色 普通	40 %
		B 4.0				+ 33
		C 8.8				

#### 土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔径				
3	土鍤	2.4	3.1	0.8	18	土製	+ 16	ほぼ球形、ナデ、押え、孔部正円形、1/3欠失

## 第45号住居址（第92・93図）

本址は、44号住居址の北側1区、W-8・9、X-8・9グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する面に古地と50号住居址を埋め複合関係にある。主軸をN-7°-Eに置き、東西3.1m、南北3.4m隅部がやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は、弱く開いて立ち上がり40cm～45cmの壁高を測る。床面は総じて縁まりは良く僅かに壁面部周辺では若干の凹凸が見られる他は遺存状態は良く50号住居址部分に貼床部分が見られた。ほぼ平坦に移行する。周溝、柱穴は確認出来なかった。

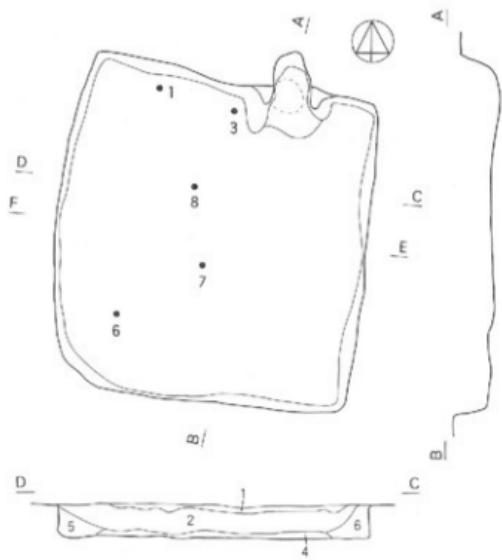
竈は、北壁中央部から東側に50cm程寄った位置に構築されていた。外側には60cm程掘り込み、袖部は、直線的に30cm～50cm程短く付設、焚口部は開く、火床部は、10cm程掘り込みやや奥部に位置、煙道部は強く立ち上がる。灰褐色の粘性のやや強い粘土を用い築いている。形態的には、U字状を呈する。

覆土は、5層に分類され上部は自然堆積、下部は投げ込みか、確認面1層は黒褐色、2・3・6層は褐色で明確な差違がみられる。5層は明褐色でローム粒子を多量に含む。

遺物は、総数100片程度で散在して出土した。5cm～10cmの鉄滓が5点程みられた。1、2は頸部くの字状、口唇部は丸みをもつ。3は鉢に近い。4は短く「ハ」の字状に開く脚部を貼付する大型の碗、6は大型の須恵器か、7は底部静止糸きりの壊か、8も同様。10は竈内から出土した羽口、支脚として利用されていた。

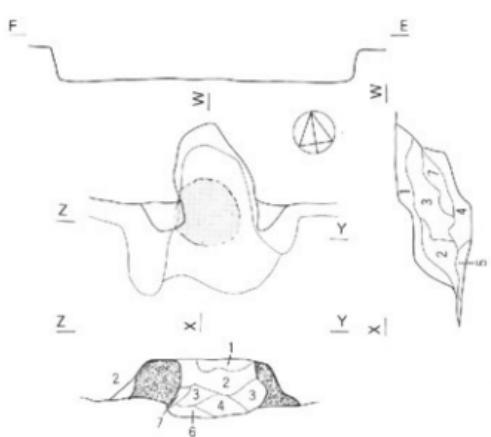
出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 挽成	備考
1	壺 土師器	A 20.3 B C	やや長楕形状器形か。口唇部短く外反、口唇部丸く収める。	横ナデ ナデ	礫、雲母、長石 淡い橙色 普通	10 % 床 直
2	壺 土師器	A 23.1 B C	頸部くの字状、口唇部短く口唇部カット状	横ナデ、ナデ 箋削り	礫、石英、長石 にぶい橙色 普通	15 % 竈 内
3	壺 土師器	A B C	鉢に近い器形か。平底？	ナデ、(箋削り状)	礫、雲母、石英 にぶい橙色 普通	5 % + 17
4	碗 土師器	A 19.1 B 7.3 C 8.4	脚部は短く端部に貼付、内側した立ち上がり器内を減じる。口唇部外反、丸く収める。脚を短く貼付。	巻上げ、回転ミズビキ 調整	礫、長石、石英 にぶい赤褐色(に ぶい黒褐色) やや良	60 % 竈 内
5	碗 土師器	A 17.5 B C	体部は内彎し、器内を減じて立ち上がり口唇部薄く尖る。	巻上げ?回転ミズ ビキ?ナデ、箋ナデ	礫、長石、石英 褐色(にぶい黒褐 色) やや良	30 % 竈 内



土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	弱り
1	黒褐色	ローム粒子少量	弱い	やや 有り
2	褐色	ローム小ブロック、 粒子少量	やや 有り	強い
4	褐色	炭化粒少量、 ローム小ブロック少量	やや 有り	"
5	明褐色	ローム粒子多量、 ブロックや砂多量	強い	"
6	褐色	ローム粒子や多量	やや	やや 有り

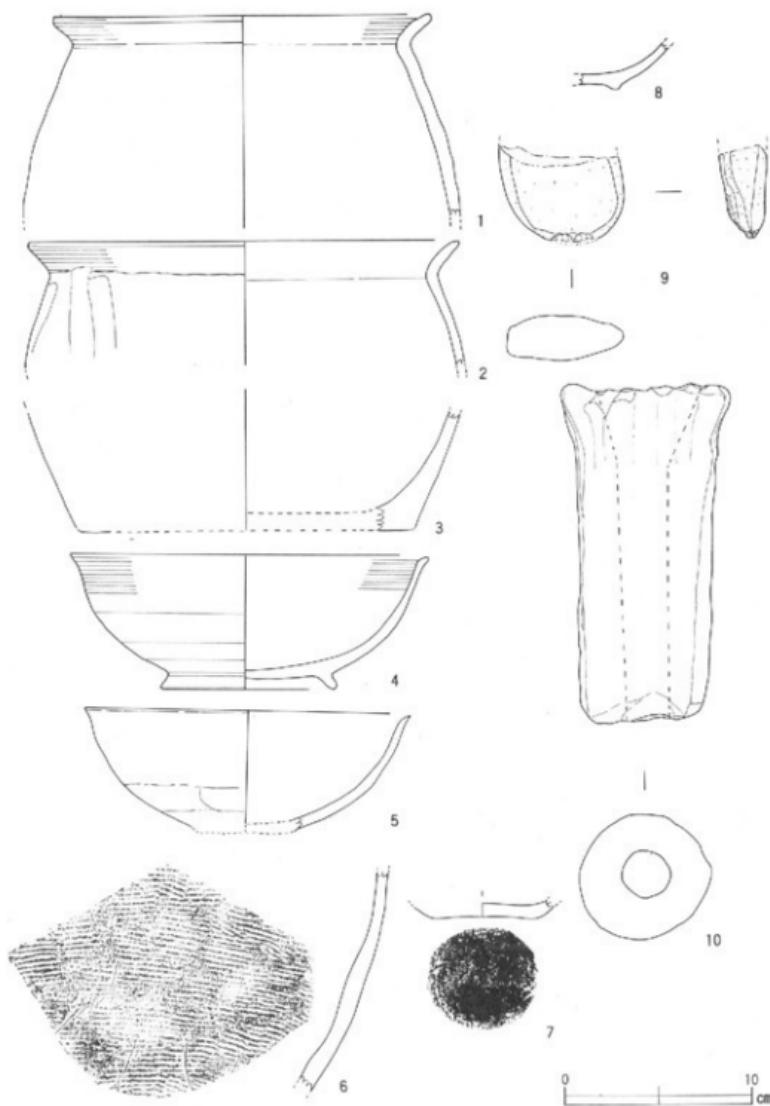


土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	弱り
1	褐色	ローム小ブロック少量	強い	やや 有り
2	暗褐色	ローム小ブロック少量、 黄褐色砂質粒子やや多量	強い	強い
3	灰黃褐色	黄褐色砂質粒子多量、 にじみ	"	"
4	赤褐色	黄褐色砂質粒子少量、 炭土粒子やや多量	弱い	弱い
5	暗褐色	炭土粒子やや多量、 炭化物や砂多量	"	"
6	赤褐色	炭土粒、 炭土粒子	やや	無し
7	褐色	炭土ブロック全量	有り	"
		炭土粒子	弱い	やや 有り

ML-33,900

第92図 第45号住居址、竪実測図



第93図 第45号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
6	甕 須恵器	A B C	斜位の平行叩き目を有し、1部灰褐色	叩き、ナデ、押え (円形状) 当手具	礫、石英、雲母 灰褐色、1部灰褐色 良	5 % 床直
7	甕 須恵器	A B C	平底からゆるく内側して立ち上がる。底部回転糸切り。皿の可有る。	ロクロ水引き? 回転糸切り	礫、長石 にぶい褐色(黒褐色) やや良	10 % + 19
8	甕 土師器	A B C	脚は短く貼付、体部は開いて立ち上がる。器内薄い。皿の可有り。	巻上げ?回転ミズ ビキ?, ナデ	礫、長石 褐色にぶい黒褐色 やや不良	10 % + 16

土器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重積(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
9	石斧		6.5	2.4	105	粘板岩	覆土中	2/3欠、蛤刃状
10	羽口	18.2	7.2	9.0	925	土 製	甕 内	ほぼ円筒形、羽口部はラッパ状に聞く、やや粗雑、カマド支脚として使用されていた。

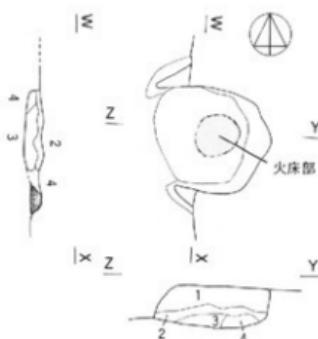
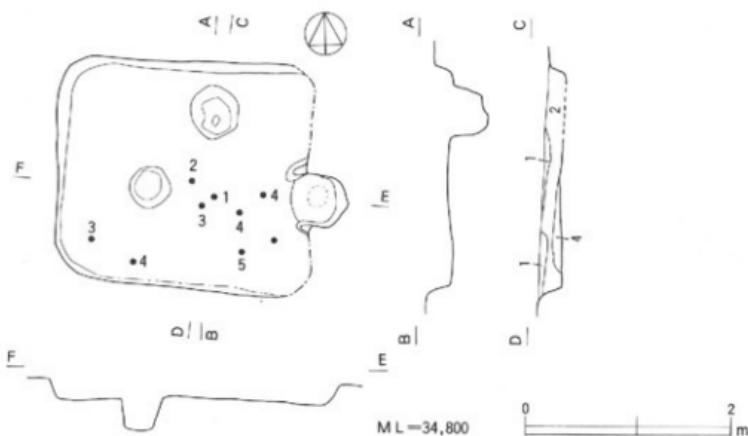
#### 第46号住居跡（第94・95図）

本址は、33号住居址の東側、1区Y-6・7、X-6・7グリットを中心に確認された住居址で台地は北、東側に傾斜を示す。切り合い関係はなく単独で検出された。主軸をE-1°-Sに置き東西2.7m、南北2.4mの長方形プランを呈する。壁面は外反して立ち上がりソフトローム剥き出し、壁高は20cm~30cmを測る。床面は、竈の前面で若干の綺まりが認められる他はローム剥き出し、中央部がやや高く周辺はやや低くなり移行する。北側に焼土ブロックが認められた。周溝、柱穴は、検出されなかった。竈は、東壁ほぼ中央部に位置し確認された。外側に90cm程円形に掘り込み袖部を20cm程短く付設、焚口部はわずかに狭くなる。火床部は奥部に位置し、僅かに掘り込み、煙道部はゆるやかに立ち上がる。袖部は黄褐色の粘性のやや強い粘土を用い築いている。形態的には円形状を呈する。東壁に竈をもつ住居址の中では特異な部類に入る。(U字状、半円形掘り込みが一般的であった。)

覆土は、4層に分類されレンズ状の自然埋積と理解される。確認面1・3層は黒褐色、2・4層は暗褐色。3・4層は焼土粘子を含む。他は若干のローム粒、粒子を含む。

遺物は、総数100片程出土した。大部分はカマド前面、中央部から検出された。1・2・3は甕形土器でいずれも長胴形、頸部「く」の字状外反、3は、回転ミズビキと思われる調整痕をもつ、口唇部は1は外反し斜めにカット状、2は鋭角に、3は上方へつまみ出し状、4は「ハ」の字状の付高台をもつ甕、内面に不規則なナデ調整が認められ回転ミズビキ？(ロクロ水引きか。) 5

は壺に近い形態か…底部に回転糸切りの痕跡を残す。ロクロ水引と思われる。須恵器は皆無に近い。



#### 土層凡例

層別色 號	含 有 物	粘 性	緻 細
1 黒褐色	ローム粒子少量	弱い	やや 有り
2 暗褐色	ローム粒やや多量	やや 有り	"
4 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒少量	やや 有り	"

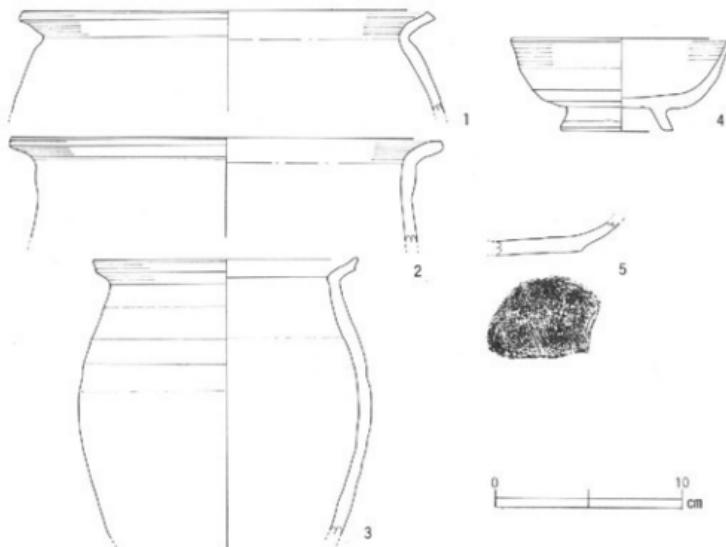
#### 土層凡例（窓）

1	褐 色	黄褐色砂質粒子・ローム粒子少量	やや 有り	やや 有り
2	赤褐色	焼土粒・焼土粒やや多量	"	"
3	赤褐色	焼土ブロック	弱い	"
4	赤褐色	焼土粒多量	"	"

第94図 第46号住居址、窓実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 土師器	A 21.6 B C	長胴形状頸部強く「く」の字状外反、口唇部斜位に外側へカット。肩部はやや張るか。器肉は薄い。	横ナデ、ナデ	礫、雲母、長石 にぶい褐色(にぶい褐色) 普通	5 % + 2
2	甕 土師器	A 23.1 B C	頸部はくびれず、口縁部水平に開く。やや肥厚、外面に凹状あり。	横ナデ、ナデ	礫、石英、長石 にぶい褐色 やや不良	5 % 床直
3	小型甕 土師器	A 14.1 B C	長胴形状小型甕頸部「く」の字状、口唇部上方へまみ出す。器肉薄い。	ロクロ水引か(上部) 巻上げ、ナデ 回転ミズビキ可大	礫、長石、石英 暗褐色 やや良	30 % + 2
4	碗 土師器	A 11.9 B 5.0 C 6.0	付高台の脚部は「ハ」の字状貼付、体部器肉を感じ内彎して立ち上がり口唇部やや肥厚丸く収める。(内黒に近い)	巻上げ? 回転ミズビキ ナデ	礫、長石 褐色(にぶい深褐色) やや良	60 % 床直
5	皿 土師器	A B C	器形的には皿状と思われる。外反、開いてゆるく立ち上がる。回転糸切り。	ロクロ水引か ナデ	精選 褐色 普通	10 % + 4



第95図 第46号住居址出土遺物実測図

#### 第47号住居址（第96・97図）

本址は、43号住居址の南西側、1区Y-15グリットを中心に確認された住居址で台地は、東側に傾斜を示す位置に検出された。49号住居址の覆土中に営なまれている。主軸をE-3°-Nに置き、東西3.1m、南北、3.6m南北に長い長方形プランを呈している。（類側は16号住居址）壁面は、開いて立ち上がり、壁高は20cm～30cmを測る。床面は、一部に貼床部分が認められ壁面部周辺部を除き縫まりが認められた。中央部がやや高まるがほぼ平坦に移行している。周溝、柱穴は、検出されなかった。

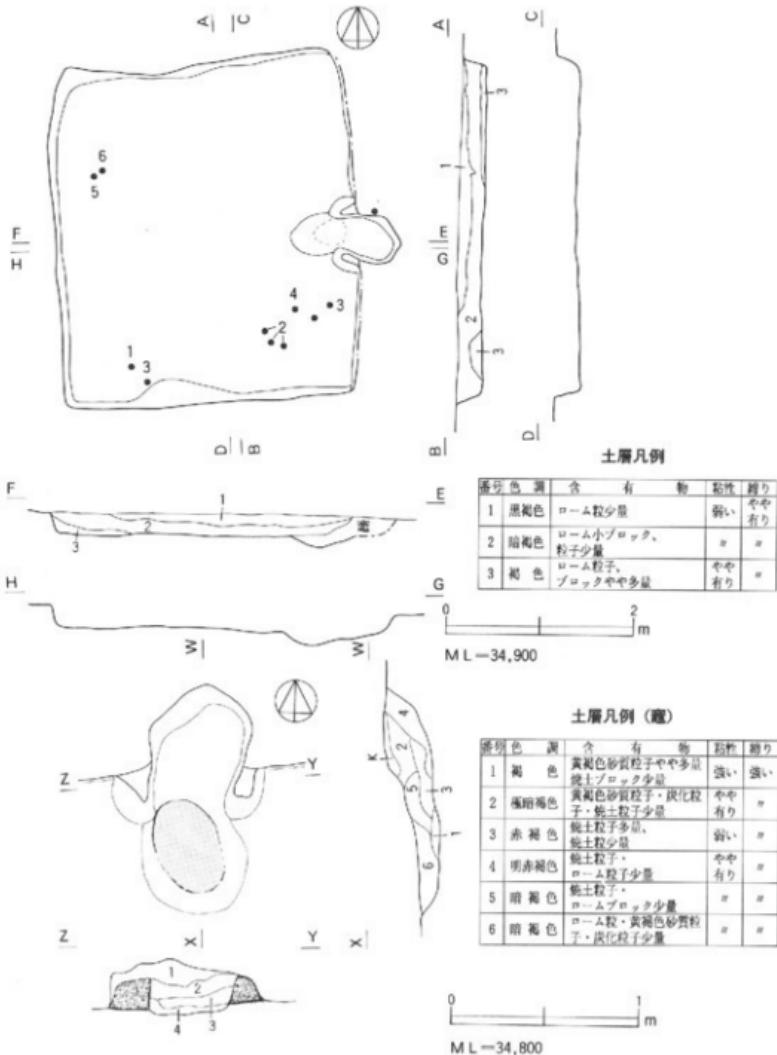
窓は、東壁中央部やや南寄りに位置し検出された。外側に50cm程V字状に掘り込み構築し、袖部は30cm程内傾気味に短く付設、焚口部はやや狭くなる。火床部は袖部外側に位置し、15cm程掘り込みが認められた。煙道部はゆるく移行してからやや強く立ち上がる。（火床部を袖部前面に位置するものは本址のみである）黄褐色の粘性のやや弱い粘土を用いて築いている。形態的にはU字形状。

覆土は、3層に分類されレンズ状の自然埋積と理解され、確認面1層は黒褐色、2層は暗褐色、1・2層が大半を占める。3層は褐色、いずれもロームブロック、粒、粒子の混入量の差。

遺物は、総数150片程検出され、1割前後は鍛冶炉の鉄滓を含む。大型のものも認められ10kgを計る。壺形土器は、小型、頸部「く」の字状外反、口唇部は外反カット状、やや大型の甌は器肉は一定、环より小皿に近い3は底部に回転糸切り底をもちクロ水引、4も高台が貼付されているが同様と思われる。土製の丸球は、不整形、孔部長円形のものと円形のものが認められ重さは10g、15gを計る。須恵器は皆無に近い。

出土土器観察表

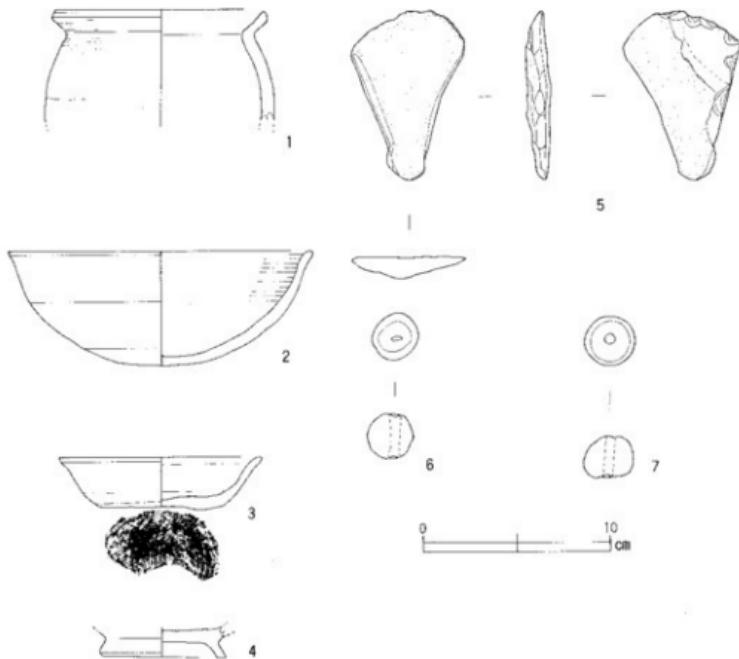
番号	器種	法寸(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備考
1	小型甌 土師器	A 11.1	小型カメと思われる頸部「く」の字状、口唇部つまみ出し状。	横ナデ、ナデ	礫、石英、長石 にぶい褐色 普通	10 %
		B				+ 6
		C				
2	甌 土師器	A 16.3	丸底気味からゆるく内脣して立ち上がり口縁部やや肥厚丸く収める。内面ナデミガキ状、内黒に近い。	巻上げ？回転ミズ ビキ、ナデ	礫、石英、雲母 にぶい褐色（黒褐色） やや良	20 %
		B 6.1				
		C 4.0				床直
3	环 土師器	A 10.8	同転糸切りの底部から内脣して立ち上がり口縁部外傾。	ロクロ水引、底部回転糸切り、ナデ 左廻り	礫、石英、雲母 にぶい褐色 普通	60 %
		B 2.6				1 10
		C 6.7				
4	环？ 土師器	A	脚部は短く「ハ」の字状に貼付、内面（内黒）。	ロクロ水引、ナデ	礫、石英、長石 にぶい黄褐色（内黒） やや良	10 %
		B				
		C 6.6				+ 5



第96図 第47号住居址、竪窓測図

石器、土製品一覧表

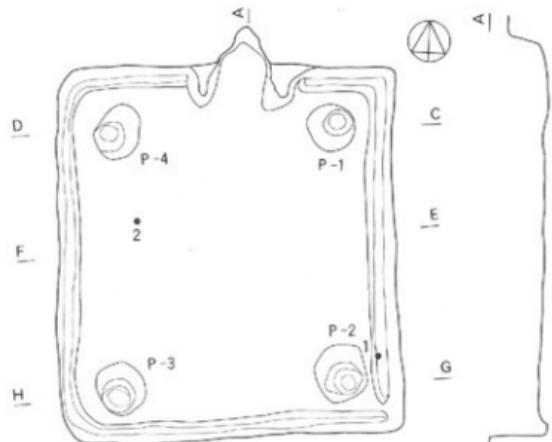
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
5	石包丁?	9.0	6.2	1.2	58	頁岩	+	8 刃部片面、ほぼ完。片刃(プレの可あり)
6	土鍤	2.4	2.5	0.6	10	上質	+	14 不整形球状、ナデ、謫削り状、孔部長円状
7	土鍤	2.2	2.6	0.5	15	〃	+	12 片側カット状、不整形球状、ナデ、孔部正円形状



第97図 第47号住居址出土遺物実測図

第48号住居址（第98・99図）

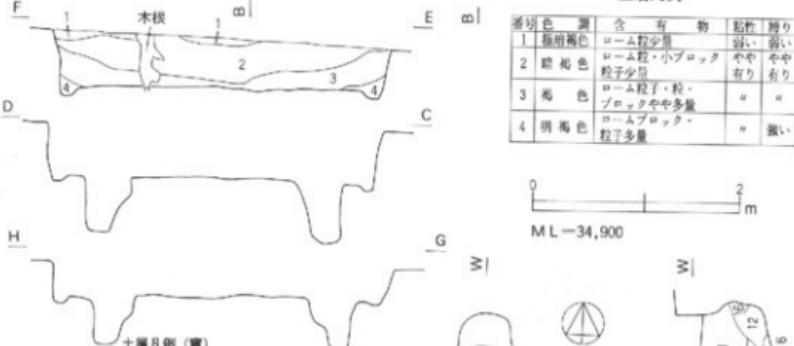
本址は、47号住居址の東側1区、Z-14・15グリットを中心に確認された住居址で台地は緩く東側に傾斜を示し一部は49号住居址を切り込み、複合関係にある。主軸をN-2°-Wに置き、東西3.7m、南北3.95m、南北に20cm程長い隅部の鋭角的な方形プランを呈する。壁面は、西側では垂直気味に立ち上がるが他の北、東、南側では弱く開いて立ち上がり壁高35cm～60cmを測る。



土層凡例

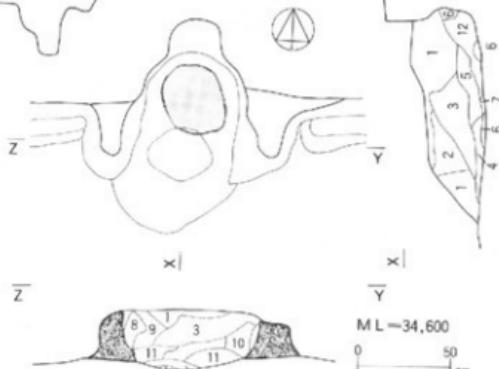
番号	色調	含有物	粘性	持り
1	板岩褐色	ローム質少量 ローム質・小ブロック	弱い やや	弱い 有り
2	暗褐色	粒子少量	有り	有り
3	褐色	ローム質子・粒・ ブロックや多量	"	"
4	明褐色	ロームブロック・ 粒子多量	"	強い

0 2 m  
ML = 34,900



土層凡例(續)

番号	色調	含有物	粘性	持り
1	褐色	ローム質・ローム質子・ 黄褐色砂質子少量	中や 有り	中や 有り
2	褐色	ローム質少量	"	"
3	褐色	黄褐色砂質子や多量	強い	強い
4	強暗褐色	灰褐色少量	弱い	弱い
5	褐色	褐色子・灰褐色子・ 褐色砂質子少量	"	やや 有り
6	明褐色	ロームブロックや量	"	"
7	赤褐色	褐色子多量	無し	弱い
8	赤褐色	褐色子少量 (柱上に吸けたもの)	"	やや 有り
9	褐色	黄褐色砂質子多量	弱い	弱い
10	赤褐色	柱上褐色子多量	"	"
11	暗赤褐色	褐色子・灰褐色子・ 黄褐色砂質子少量	"	"
12	強暗褐色	褐色子少量、 黄褐色砂質子・ 少量	"	"



第98図 第48号住居址、竪実測図

床面は竈前面を中心に良く踏み固められ、壁面周辺を除き良好で中央部がやや高くなり移行する。周溝は、幅10cm～20cm、深さ5cm～10cm程度で一周しU字状、柱穴はいずれも隅部直近に位置し4ヶ所検出され、径50cm程度の円形状で2段の掘り込みが認められる。深さは、P1は65cm、P2は52cm、P3は50cm、P4は60cm、2を除きU字状形態の掘り方をもつ。

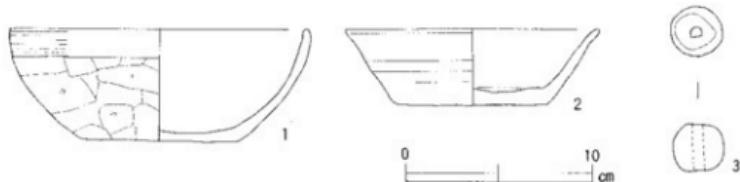
窓は、北壁中央部に位置し確認された。外側へ40cm程U字状に掘り込み、袖部を直線的に40cm程の長さで付設、焚口部は開く、火床部は僅かに掘り込み奥部に位置し、煙道部は強く立ち上がる。黄褐色の粘性のやや弱い粒子を用いて築いている。

覆土は、4層に分類されレンズ状の自然埋積と理解される。一部西側49号住居址に掘り込まれている。確認面1層は極暗褐色、大部分を示める2層は暗褐色、床面直の3層は褐色、周溝部の4層は暗褐色、ロームブロック、粒、粒子の混入量の差。

遺物は、少なく総数70片程度の出土であった。1は大型の環で安定した平底から内湾して立ち上がり口縁部は内傾気味横ナデ、口唇部は丸く收める。2は、須恵器で回転ミズビキ？底部ナデ調整、口唇部はやや尖り気味、内面はナデ調整、上製の丸球は丁重なナデ、孔部半円形状。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備考
1	碗 土鍋器	A 16.1 B 6.0 C 8.2	安定した平底から内湾して立ち上がり口縁部内傾気味、口唇部内傾。	横ナデ、箒削り ナデ	礫、長石、石英 によい黒褐色 普通	70 % + 35
2	环 須恵器	A 13.6 B 4.1 C 8.1	安定した平底から器内に撇して外反して立ち上がり、口唇部丸く收める。	回転ミズビキ? 底部ナデ	礫、雲母、長石 灰白色 やや良	30 % + 53



第99図 第48号住居址出土遺物実測図

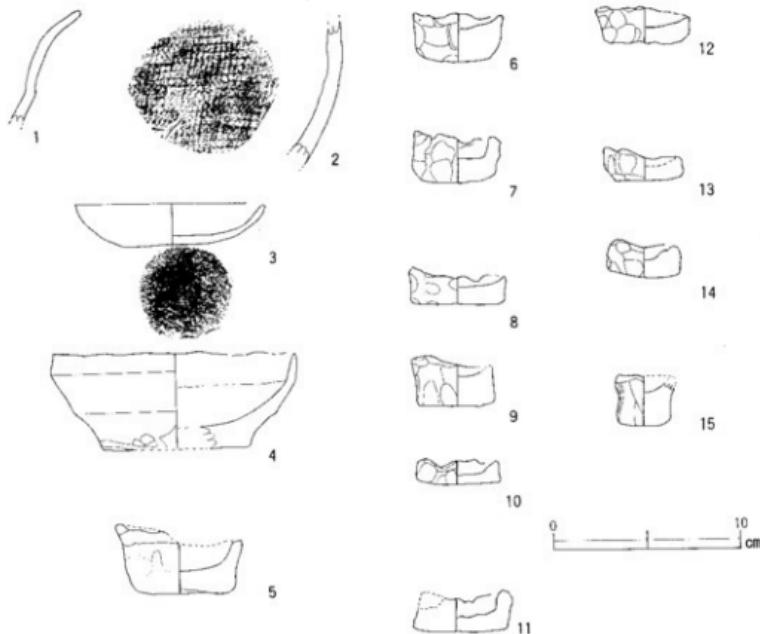
土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
3	土鍋	2.6	2.8	0.5	20	土製	覆土中	長円形状、ナデ、孔部半円形状

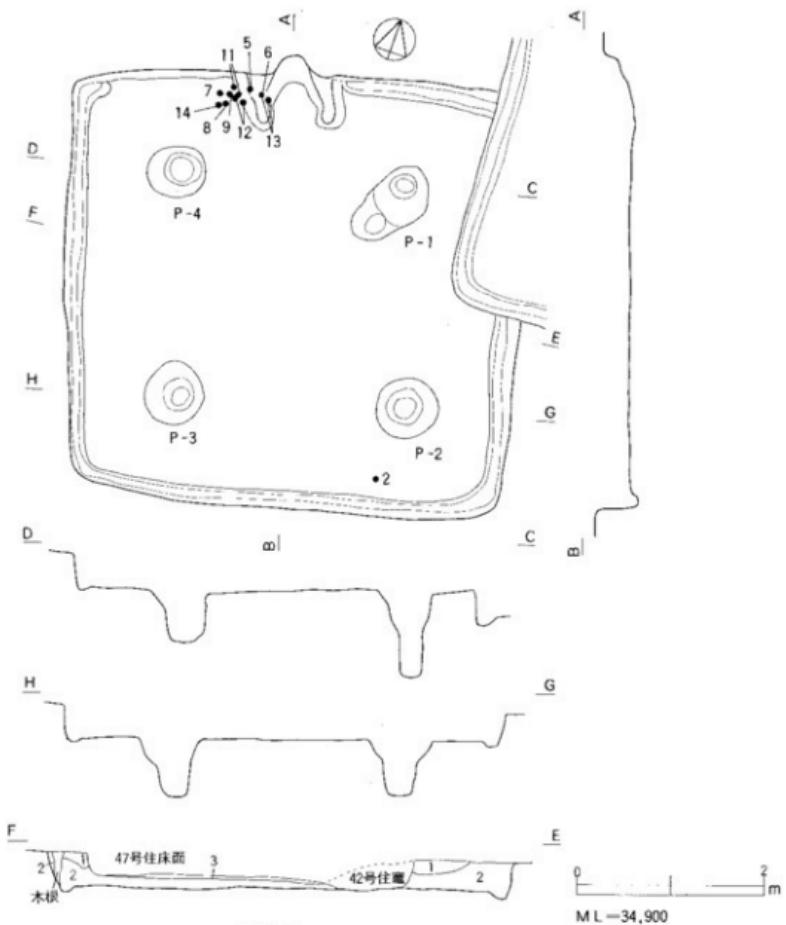
第49号住居址（第100・101図）

本址は、48号住居址の西側1区、Y-15、Z-15グリットを中心に確認された住居址で、台地がほぼ平坦に移行する位置に占地する。上部を47号住居址、東側の1部を48号住居址に掘り込まれ欠失する。主軸をN-22°-Wに置き、東西4.6m南北4.5m隅部が僅かに丸味をもつ方形プランを呈する。壁面は、弱く開いて立ち上がり壁高30cm~40cmを測り、北側は不整形出入をする。ほぼ平坦に移行する。縦まりは壁面部の一部を除いてやや良い。周溝は、北側竈西側を除き一周する。形態的には、U字状形で幅5cm~15cm、深さ5cm~10cm、柱穴は4ヶ所認められ隅部よりやや中央寄りに位置し検出された。P1は、長径1m、径60cm程のものと思われ深さ90cm、下部円筒状、P2・3・4は径60cm深さ50cm~60cmのU字状掘り込みでいずれも二段の掘り方をもつ。

竈は、北壁中央部に位置し確認された。外側へは20cm程U字状に掘り込み袖部は、直線的に50cm程の長さで付設、焚口部は開く。火床部は、前面に位置し僅かに掘り込む。灰褐色の粘土を用い、U字状形態をもつ。



第100図 第49号住居址出土遺物実測図



土層凡例

番号	色	調	含	有	物	粘	性	辨	り
1	褐	色	ローム粉	少	量	弱	い	弱	い
2	褐	色	ローム粉	少	量	多	量	や	有
3	褐	色	褐色	プロック	(好住東山層)	強	い	強	い

第101図 第49号住居址実測図

覆土上は、4層に分類されたが図示した部分では3層である。上部大半を47号住居址に掘り込まれ1部は竈に掘り抜かれている。3層は47号住居址の床面、他はローム粒、粒子、ブロックの混入量の差。

遺物は、少なく総数100片程の出土で図示したものは竈袖部西側から集中して出土した手捏土器が大半を示める。1は高環の一部と思われる。3は、静止糸切り痕をもつ皿状上器、器肉は薄い。2は、須恵器大甕か？格子状叩きをもち内面に当痕をもつ。4は、鉢形で底部に木葉痕をもつ。やや粗雑な調整。5～15はすべて手捏土器で、高さは4cm以下で、径7cm以下、さかずき状に近いものと小皿に近いもの、小鉢状のものが認められ深さは5mm～2cm。調整はすべて指頭押え、ナデ、内外とも。本例は本遺跡の中では唯一の出土状態をもつ、また、手捏が多量に出土したもの唯一である。(他に89号住居址は、東側に坏類をもつ)新旧関係は49号住→48号住→47号住と切り合ひから理解される。3は本址の時期とかなりの差があり上部の47住の遺物の可能性が強い。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	釉土、色調、焼成	備考
1	高環 土師器	A	1部赤彩、水平に近く口縁は開く、口輪部丸く収まる。	ナデ、ミガキ状	輝、長石 黄褐色 普通	5 %
		B				覆土中
		C				
2	甕 須恵器	A	外腹は格子状叩き、内面には當具と思われる円形の凹部があらわる。	叩き、ナデ	石英、長石 褐灰色 良	床直
		B				
		C				
3	皿 状 土師器	A 10.0	底部は静止糸切り、ゆるく内脇して立ち上がり、器肉は薄い(环状)。(47住のものか)	ロクロ水引 ナデ 左削り	輝、長石、雲母 に赤褐色 普通	60 %
		B 2.8				P 4 中
		C 5.2				
4	鉢 状 手 捺 土師器	A 13.0	手捏的な粗雑な作り、口縁部直立口唇部尖る。	ナデ、押え	輝、長石 に赤褐色 やや不良	10 %
		B 5.1				覆土中
		C 7.8				
5	手 捺 土師器	A 6.7	鉢状、やや深めで手程で最も大きく深い。	ナデ、押え	石英、長石、輝 に赤褐色 普通	60 %
		B 4.8				電 油
		C 4.8				
6	手 捺 土師器	A 4.9	ゆるく「U」字状に凹む。底部の方が厚い。 つつみ状。	押え、ナデ	長石、雲母 に赤褐色(褐色) やや不良	99 %
		B 4.6				電 油
		C 3.4				
7	手 捺 土師器	A 6.3	直立気味、内面「U」字状。	押え、ナデ、指紋 残る	雲母、長石 に赤褐色 やや良	99 %
		B 2.4				電 油
		C 3.4				
8	手 捺 土師器	A 5.0	直立気味、内面浅くゆるい「U」字状。	押え、ナデ	輝、長石、雲母 に赤褐色 普通	99 %
		B 1.9				電 油
		C 5				

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備考
9	手 捺 土師器	A 6.3 B 2.0 C 6.0	直立気味底部厚い、内部「U」字状、押え つつみ状に近い。	ナデ、押え	長石、礫 にぶい赤褐色 普通	90 % 電 査
10	手 捺 土師器	A 4.3 B 1.3 C 4.4	直立気味、底部薄く、やや深め、皿状形態	押え、ナデ	石英、長石 にぶい橙色 やや不良	90 % 電 査
11	手 捺 土師器	A 4.3 B 2.1 C 5.1	直立気味、底部やや厚く、粗雑なナデ、押え (手捏中最も粗雑)	押え、押しつけ気味	礫、長石、石英 にぶい橙色 やや不良	80 % 電 査
12	手 捺 土師器	A 5.0 B 2.0 C 4.1	直立気味に立ち上がる、内面は弱い、「U」字 状、口輪部丸る。	押え、ナデ	礫、長石、石英 にぶい橙色	50 % 電 査
13	手 捺 土師器	A 4.2 B 1.7 C 3.5	大半を割落しているため皿状に近い、やや粗 雑な作り	押え、ナデ	石英、長石 にぶい黒褐色 やや不良	40 % 電 査
14	手 捺 土師器	A 3.4 B 1.6 C 3.8	やや粗雑、指頭で押えて凹みを付けた状態。	押え、ナデ	石英、長石、礫 暗い橙色 普通	90 % 電 査
15	手 捺 土師器	A 2.7 B 2.2 C 2.5	粘土塊を中央部指頭で押えた形狀。 つつみ状。	押え	礫、石英、長石 暗赤褐色 普通	70 % 電 査

### 第50号住居址（第102・103図）

本址は、45号住居址の北東側1区Y-8・9、X-8・9グリットを中心に確認された住居址で台地は僅かに北側に傾斜を示す。主軸をN-1°-Wに置き、東西3m、南北2.8m隅部は、東南側が丸味をもつては鋭角的な方形プランを呈する。45号住居址の約1/3を切り込み複合関係にある。壁面は、ほぼ鋭角的に立ち上がり壁高は50cm~60cmを測り、深い。床面は、中央部がやや高くなり移行、周溝は幅広く深さは5cm前後と浅く。U字状形を呈する。柱穴は、4ヶ所認められ径40cm~50cm程の楕円形状、深さ35cm~40cmを測り径に対してやや浅い掘り方を呈し2~3回の掘り替へが認められる。

竈は、北壁中央部に位置し確認された。外側には20cmと僅かに掘り込み袖部は、90cmと直線的に長く付設、火床部は中位に位置し10cm程掘り込む、煙道部はやや開き気味に立ち上がる。大部分を住居址内に構築し、形態的にはU字状形を呈する。灰褐色の粘性の強い粘土を用いて築いている。

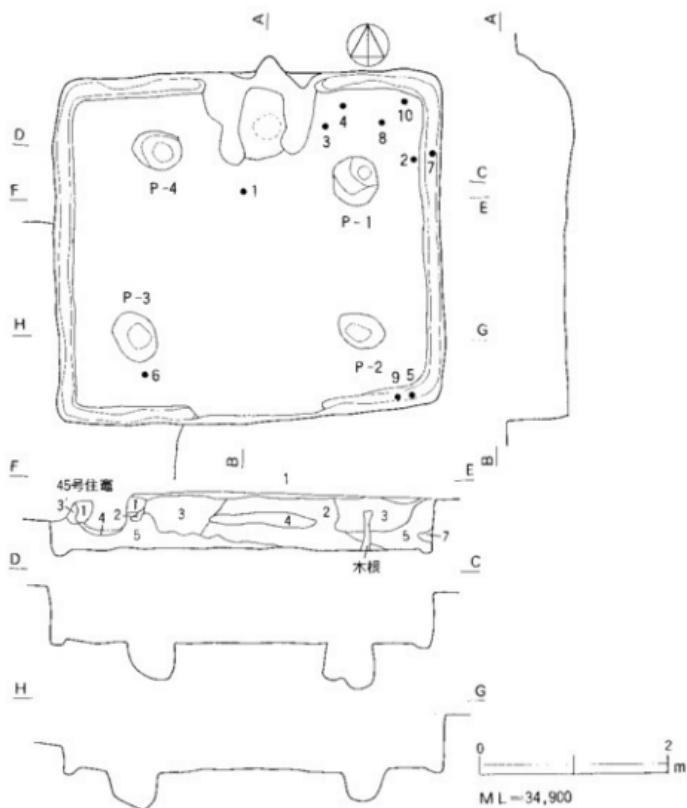
覆土は、3分の1程を45号住居址に掘り込まれていたが他は複雑な埋積状態を示し投げ込み状を呈していた。確認面の暗褐色3・4層は、45号住竈の遺存部がかなりの部分を占め確認面1層は暗褐色2層以下の褐色層が大部分を占め中央部には焼土粒子を含む褐色層（2・4層）などがあり壁面周辺部（6・7層）は、暗褐色を示し、竈前面には焼土が認められた。総じて縛まり粘性はやや強い。

遺物は、総数100片程と少なかったが、竈東側、南東壁面部から坏、甕の出土が認められた。1は、口縁部強く外反し口唇部丸く収める。2は内側に沈線を1条巡らす。3・4は大形、小形

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 22.5	頸部強く「く」の字状、口縁部水平に開く、口縁部斜面にカット状。	巻上げ? ナデ、踏ナデ	礫、長石、雲母 にぶい黄褐色 普通	100 % -
		B				41
		C				
2	甕 土師器	A 25.3	輪積痕を残す、粗雑な壺形、頸部ゆるく外反、口縁部水平に開く、口縁部内面に凹み沈線を巡す。（つまみ出しとは違いがある）	輪積、横ナデ ナデ、 やや粗雑	礫 にぶい黄褐色 普通	5 % +
		B				5
		C				5
3	小形甕 土師器	A 13.5	安定した平底から内壁して立ち上がり頸部に弱い稜、口縁部や薄く外反、剥落のため不明多し。	横ナデ、ナデ ヘラナデ 踏削り	礫、長石、雲母 にぶい赤褐色、 1部黒褐色 普通	50 %
		B 7.3				
		C 6.6				甕袖
4	縹 土師器	A 25.0	やや不整形の底部からはぼ垂直に立ち上がり 口縁部外縁、口縁部丸く収め上部に凹み沈線	横ナデ、踏削り ナデ	礫、長石、石英 にぶい褐色 (にぶい黄褐色) やや不良	80 %
		B 13.1	が巡る。内側は不規則なナデ、粗雑			
		C 12.5				床直

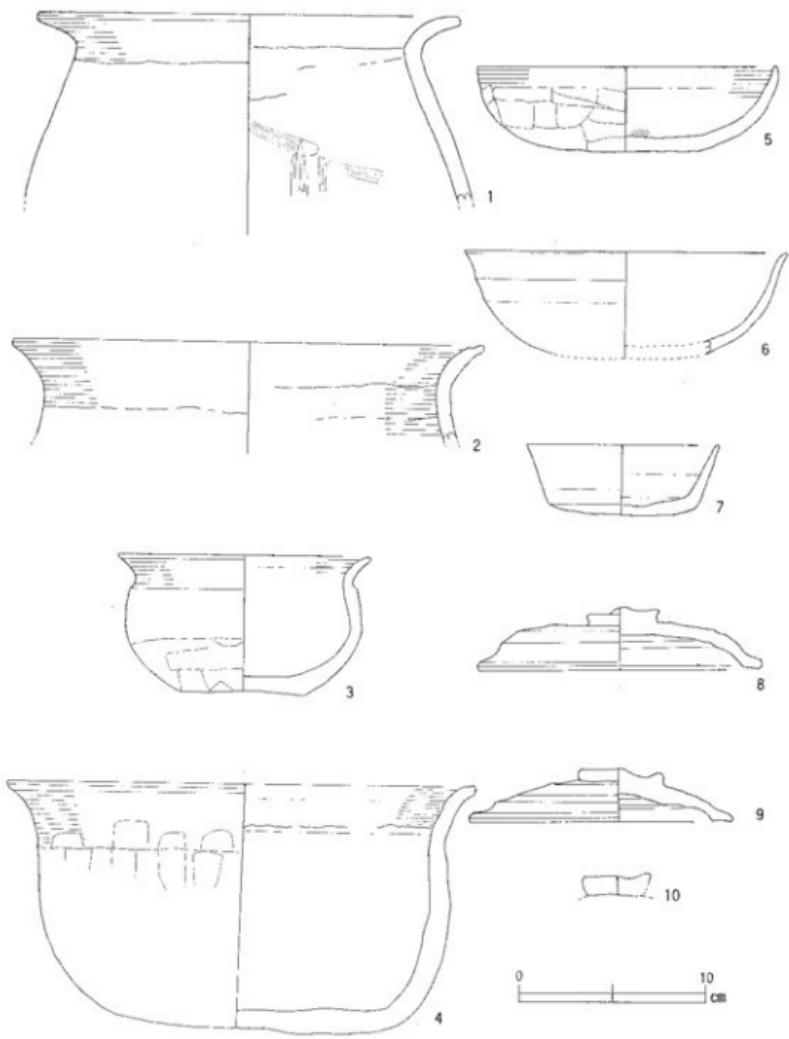
の鉢状、ナベ状に近い器形、5・6は半球形状坏、7～9は、須恵器で内面にナデ巻上げ痕を残す。天井部のフクラミのやや強い8・9の蓋、カエリは顕著、口端部丸く收め水平に短く伸びる。



土層凡例

番号	色	含 有 物	性 質	構 造
1	暗褐色	ローム粒子少量	無 し	弱 い
2	褐色	焼土粒、ロームブロック少量	やや有り	強 い
3	褐色	ローム粒、小ブロック、粒子少量	〃	やや弱り
3'	褐色	ロームブロックや多量	〃	〃
4	褐色	焼土粒、黄褐色砂質粒子やや多量	強 い	強 い
5	褐色	ロームブロックや多量、 粒子少量	やや有り	やや有り
7	明褐色	ローム粒子多量、ブロック少量	やや有り	やや弱り
8	褐色	ロームブロック、焼土粒子少量	〃	〃

図102図 第50号住居址実測図



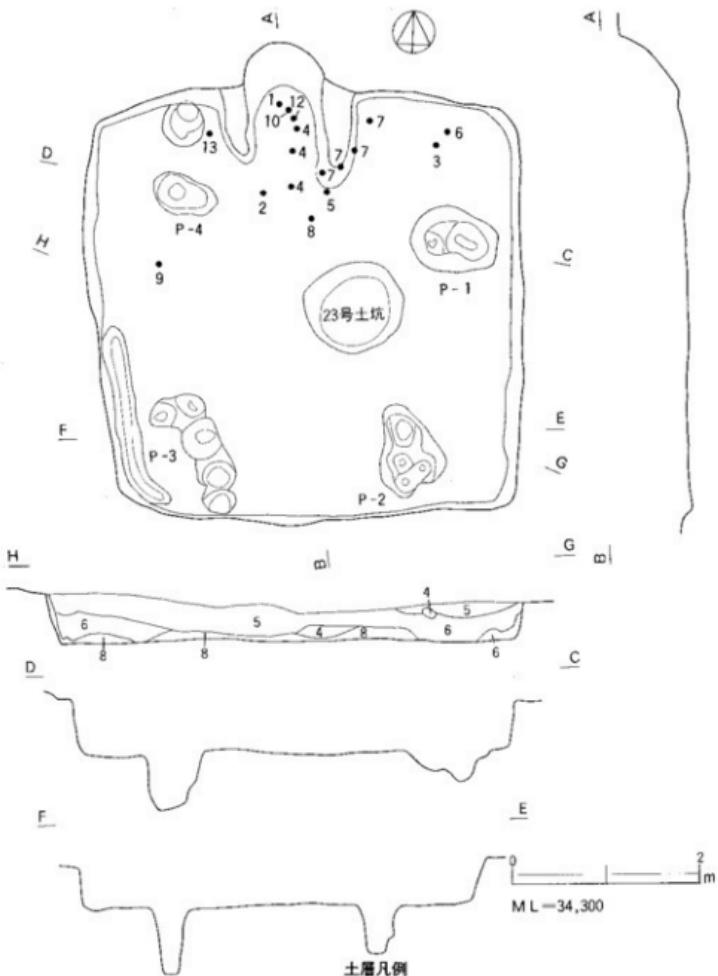
第103图 第50号住居址出土遗物实测图

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調、焼成	備考
5	杯 土師器	A 16.1 B 4.6 C 7.8	やや不安定、大きい底部からゆるく内側して立ち上がり、肩部に横ナデ、ハミダシ痕を残している。	横ナデ、箇削り ナデ	輝、長石、雲母 暗い赤褐色 にぶい黒褐色 普通	97 % 床直
6	碗 ? 土師器	A 10.3 B C	やや大型の碗形土器か、体部は一旦弱く張り、口唇部近くで外反気味、丸く収める。	回転ミズビキ? ロクロ水引? ナデ	輝、長石、石英 にぶい褐色(内黒) やや良	10 % + 24
7	杯 須恵器	A 10.3 B 3.8 C 7.5	小型でやや不安定気味の底盤から直線的に強く立ち上がり器肉を減じる。口唇部尖り氣味。	ロクロ水引、 ナデ(左廻り)	輝、長石、雲母 褐灰色 やや良	99 % + 10
8	蓋 須恵器	A 15.1 B 3.4 C 3.9	天井部分のフクラミはやや有り、端部は一旦水平に開き肥厚、丸く収める、つまみ扁平貼付。	ロクロ水引? 天井 部箇削り、回転ミズビキ? ナデ	輝、雲母、長石 暗褐色(黒褐色) やや良	99 % 床直
9	蓋 須恵器	A 14.0 B 2.9 C 4.6	やや扁平化、つまみ貼付、フクラミは弱く端部は一辺水平に伸び丸く収める(巻上痕残す)。	巻上げ、 回転ミズビキ	輝、雲母、長石 褐灰 やや良	100 % 床直
10	蓋 須恵器	A B C 3.6	フタつまみ扁平化、貼付。つまみ部	ナデ	輝 暗褐色 普通	+ 38

#### 第51号住居址 (第104・105・106・107図)

本址は、52号住居址の北側2区、B-5グリットを中心に確認された住居址で台地が、緩く東側に傾斜を示す位置に検出された。南側を5号溝に掘り込まれていたが床面には到達していない。その他土坑が2基掘り込まれていた。主軸をN-1°-Wに置き、東西4.3m、南北4.4m隅部の丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は、東側の一部を除き何れも垂直に立ち上がり50cm~60cmの壁高を測る。南側では5号溝に掘り込まれ10cm程の部分もある。床面は、総じて縛まりは悪い特に周溝部周辺は若干の凹凸が見られた。ほぼ平坦に移行する。周溝は、南側隅部に僅かに認められたに過ぎなかった。幅は10cm~15cm前後でU字形状。柱穴は、4カ所確認されたが何れも複数の乱雑な小穴が見られた。位置関係は不整形状で一定しない。P1は長径1m、深さ30cm、P2は長径1m、短径60cmで深さ50cm下部は円筒状、P3は径40cm、深さ70cmの円筒状を中心に小穴を穿つ、P4は単穴で長径65cm、短径45cm深さ60cm程のU字形状その他、竈西側に径40cm前後の円筒状で深さ50cm~60cm程の掘り込みが見られた。

竈は、北壁中央部に確認された。外側には45cm程U字状に掘り込み、袖部は、直線気味に80cm、1.1mと長く付設、焚口部は僅かに狭くなる。火床部は、ほぼ水平に移行、中位に位置、火床部全面部が5cm程掘り込まれている。煙道部は、やや強く立ち上がる。黄褐色の粘性のやや強い粘土を用い築いている。形態的にはU字状。

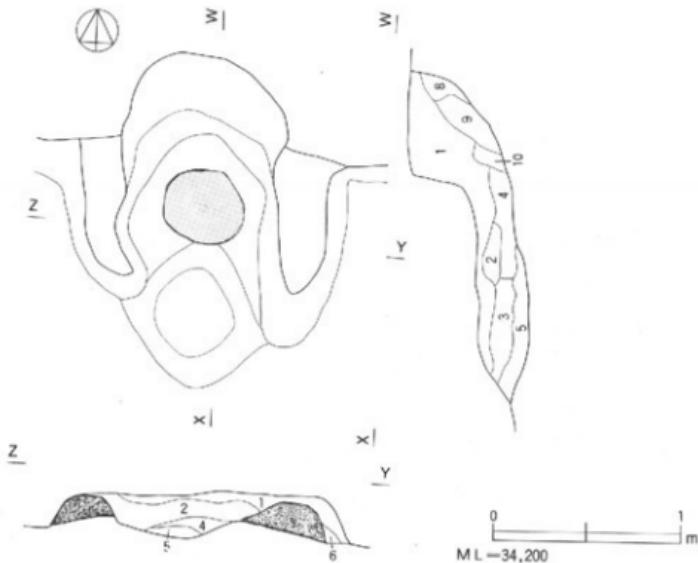


番号	色調	含 有 物	粘 性	薄 り
4	褐色	ローム粒や多量、 小ブロック少量	弱い やや有り	
5	褐	ロームブロック少量、 粒や多量	やや有り	強
6	褐	ローム粒子多量、 ブロック少量	〃	〃
8	明褐色	ローム粒々・ブロック多量	強 い	〃

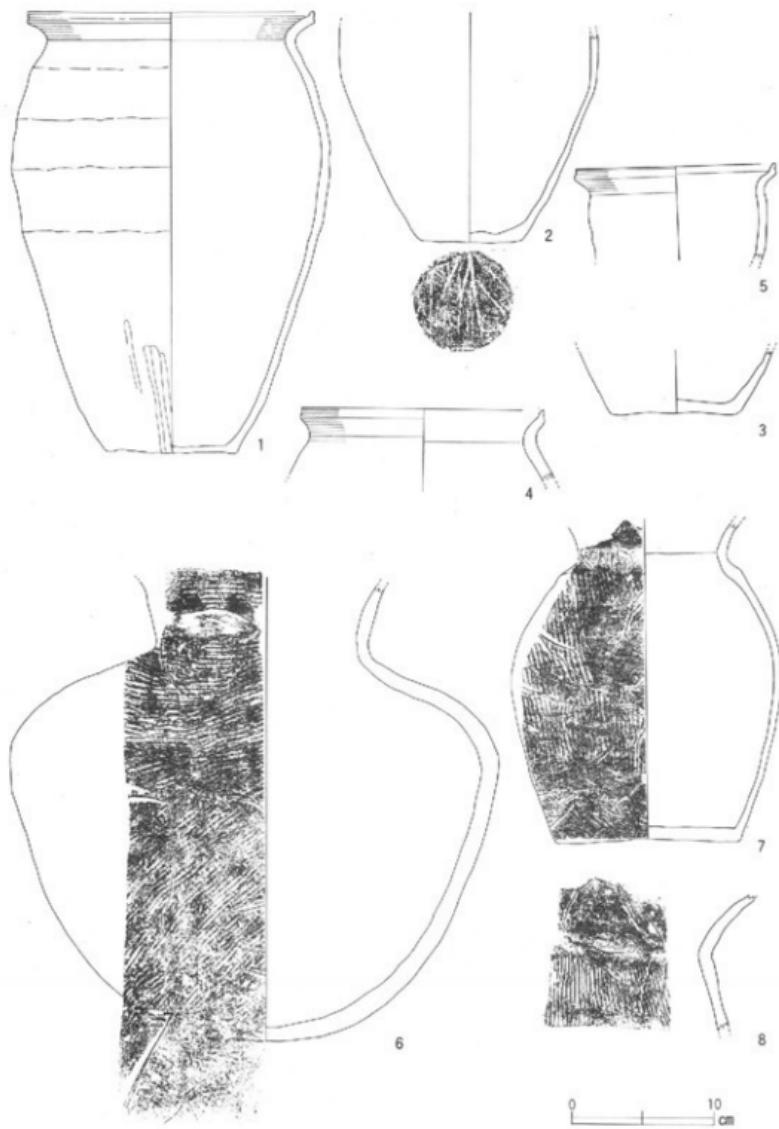
第104図 第51号住居址実測図

覆土は、レンズ状の自然埋積を示し8層に分類された。上部1・2・3層は5号溝に掘りこまれ欠失N-S方向で認められ黒、暗褐色。5~7は褐色層、7層は黄褐色粘土粒子を含む、8層は明褐色、他はロームブロック、粒、粒子の混入量の差。

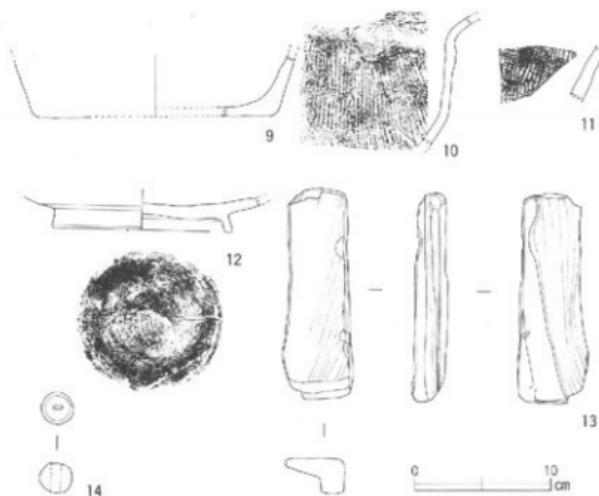
遺物は、総数200片程で竈周辺に集中して認められた1は、竈左袖部から土圧でつぶれた状態で出土、長胴形で口唇部上方につまみだす、2・3も同様か。6は須恵器の大型の甕で底部は丸味をもちナデ調整、胴部は斜位の粗い叩き目をもつ球胴形、口縁部は欠失不明、括れは強い。竈東側から横位で出土。9・10・11は土師質で叩き目を持つ器内は薄い。12は須恵器で底部に回転糸切り痕をもちナデ調整で大半を消している。短い脚部、付高台をもつ碗に近い器形か、多様な遺物を持つ遺構である。



第105図 第51号住竈実測図



第106図 第51号住居址出土遺物実測図



第107図 第51号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 20.2 B 31.0 C 9.2	最大径を胴上位に置き、口縁部短く強く外反、口唇部上部へつまみ出し丸く収める。	横ナデ、ナデ 鋸削り	礫、長石、雲母 暗褐色 普通	90 % 電 内
2	小型甕 土師器	A B C 7.0	底部平底から鋭角的に立ち上がり器肉は薄い、長脚形状、最大径胴上位におく。(木葉痕脛部)	ナデ	礫、長石、雲母 暗褐色(黄褐色) やや良	30 % + 2
3	甕 土師器	A B C 9.0	平底からやや鋭角的に立ち上がる。器肉薄い、底部やや厚め、鉢形状?。	調整はやや粗雑 鋸削り、ナデ	礫、雲母、長石 にぶい褐色 普通	10 %
4	甕 土師器	A 17.0 B C	「く」の字状に外反、口縁短く口唇部上方へ長くつまみ出し丸く収める。	横ナデ、ナデ	礫、雲母、長石 橙色 普通	10 % 電 内
5	甕 土師器	A 14.1 B C	小型の鉢形に近い形状、器肉は薄い、口縁部外反、口唇部上方へ丸く長めにつまみ出す。	横ナデ、ナデ、粗雑	礫、雲母、長石 にぶい褐色 普通	10 % 電 内

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
6	壺 須恵器	A B C 8.0	丸底に近い。肩部に最大径をもち張り頸部は長め、口縁部欠失している。横位、斜めに叩目を残す。	輪積か、叩き ナデ	難 灰褐色 普通	90 % 床直
7	壺 土師器	A B 19.0 C 12.7	肩～底部は鉢状に近い、器肉薄く頸部は「く」の字状外面ナデ調整。	巻上げ、ナデ 継位の叩き	難、雲母、長石 にぶい褐色 普通	50 % 竈袖
8	壺か？ 土師器	A B C	大形の壺か、頸部「く」の字状、継位の平行叩き。	巻上げ、ナデ 叩き	長石、難、雲母 にぶい黒褐色 やや不良	10 % + 10
9	壺か？ 土師器	A B C 14.2	平底、巻上げ？1部叩きあり、鉢状に近い器形。	叩き、ナデ	難、石英、雲母 にぶい褐色 やや不良	10 % + 20
10	壺か？ 土師器	A B C	平行叩き、粗面凸凹微しく粗雑。	横ナデ、叩き ナデ	難、長石、雲母 にぶい黒褐色 普通	100 % 竈内
11	壺 土師器	A B C	カメ形上唇網底が格子状叩き。	ナデ、叩き	雲母、長石 黄褐色 やや不良	竈内
12	皿 須恵器	A B C 15.2	付高台部は弱く「ハ」の字状底部は水平に近く移行、底部回転糸切り？。	巻上げ？ 回転ミズビキ、ナデ	難、長石、雲母 褐色 やや良	40 % 竈土部

石器 土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
13	石器？	15.5	5.2	2.5	117	砂岩？	+ 10	粘板岩状？片面「く」字状、不明製品
14	土鍤	2.0	2.4	0.7	12	土 製	覆土中	やや不整形球状、ナデ、押え、孔部長円形状

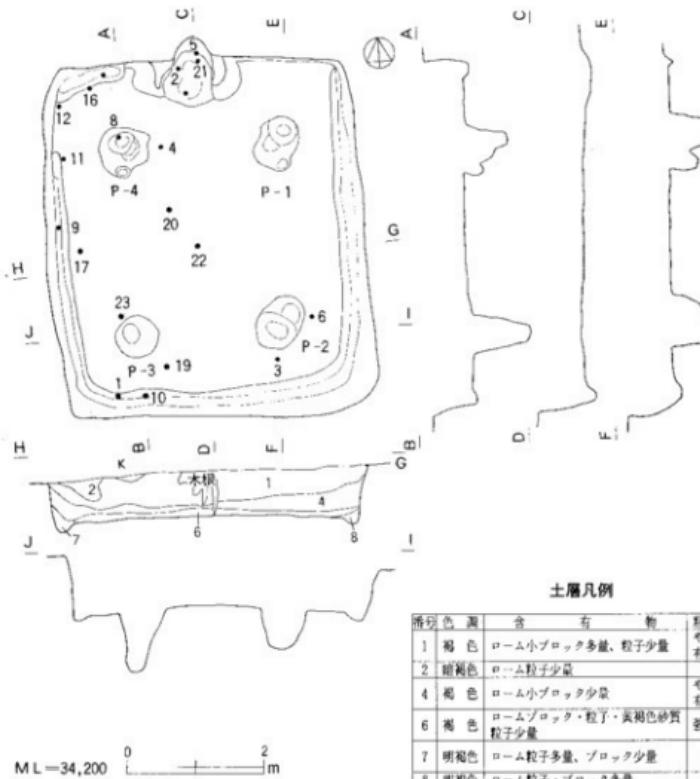
## 第52号住居址（第108・109・110図）

本址は、51号住居址の東南側2区、B-6・7、C-6・7グリットを中心に確認された住居址で台地はやや強く北、東側に傾斜を示す。北側を5号溝に掘り込まれ壁面は10cm前後の部分もある。他に木の根痕等が見られた。主軸をN-6°-Wに置き、東西4.6m、南北5.7m南北が1m程長い。隅部がやや丸みをもつ長方形プランを呈する。壁面は、鏡角に立ち上がり北側の溝に掘り込まれている他は60cm~80cmを測り深い。床面は竈前面、中央部では縁まりが見られたが周溝部周辺は若干の凹凸がみられローム剥き出しに近く、ほぼ平坦に移行する。周溝は、竈東側を除き幅10cm~15cm前後、深さ5cm程度緩いU字状に巡る。柱穴は、4カ所確認されP3を除き二段の

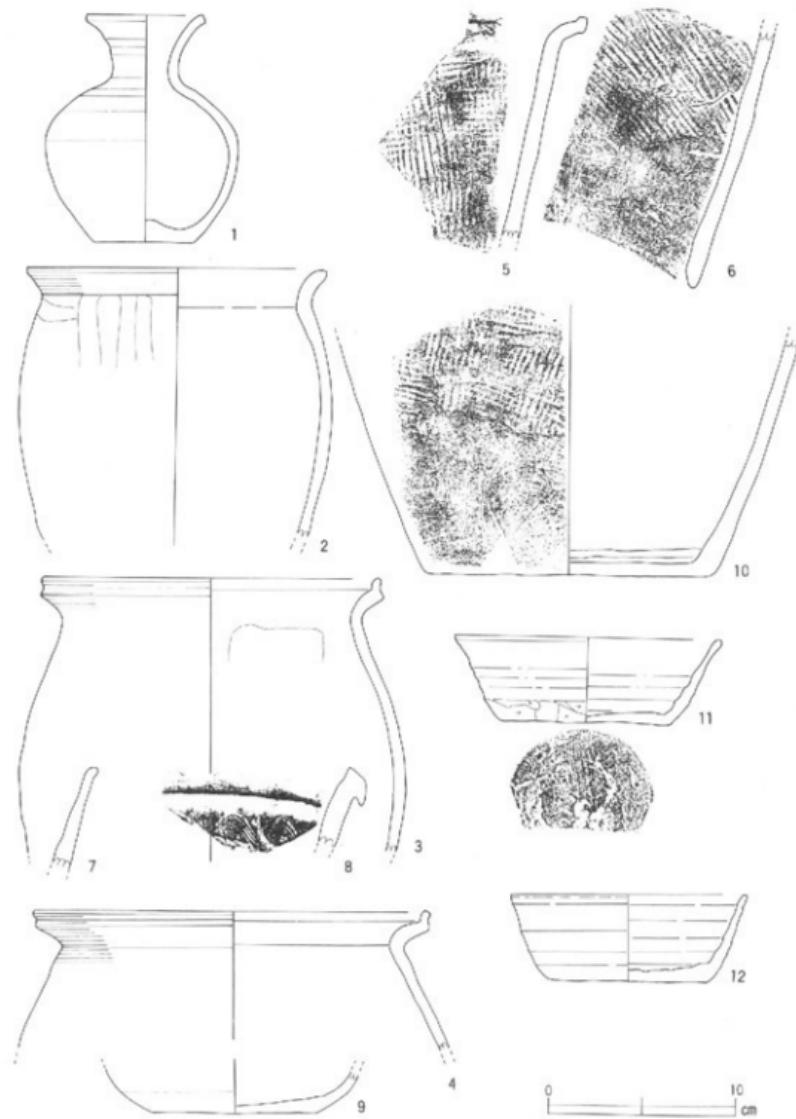
U字状形の掘り込み長径80cm前後、短径60cm程で深さ55cm~60cm、P-2は径60cm円形状深さ85cm U字状の掘り込みをもつ。

竈は、北壁中央部に検出されたが大半を5号溝に掘りこまれていた。外側には30cm程U字状に掘り込むと推定される。袖部は、開き気味で直線的に60cm程付設、焚口部は開き気味。火床部は、10cm程掘り込み前部に位置、煙道部は掘りこまれ不明。黄褐色の粘性のやや強い粘土を用い築いている。形態的にはU字状。

覆土は、レンズ状の自然埋積を示し8層に分類された。確認面の1層が大部分を占め褐色、8層は周溝部に見られた明褐色層で張り付き。他はロームブロック、粒、粒子の混入量の差で褐色。



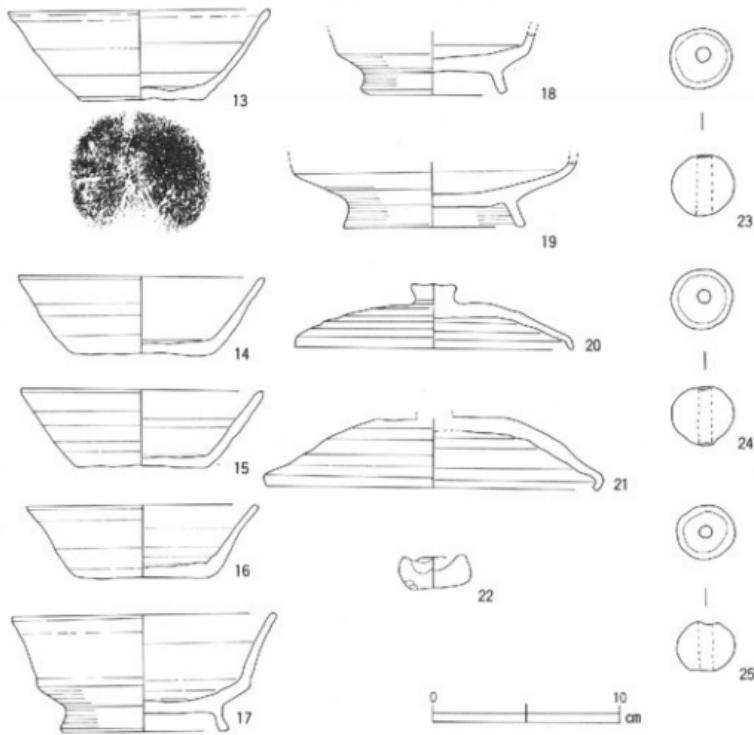
第108図 第52号住居址実測図



第109図 第52号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法規(cm)	器形の特徴及び文様	発形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	小形壺 土師器	A 6.2	安定した平底から半球形形状の胴部をもち頸部長目、口縁部外反、口唇部やや肥厚丸く收める。	上部回転ミズビキ 胴下位はナデ 底部置ミガキ状	礫、長石、石英 にぶい黄褐色 やや良	100 % + 13
		B 12.2				
		C 5.2				
2	壺 土師器	A 16.0	口縁部外反、口唇部肥厚し丸く收める。最大径をやや胴部上位に置き長胴形。	横ナデ、窪ナデ 窓削り	礫、長石、雲母 にぶい暗褐色(暗 褐色) 普通	15 % 電 内
		B				
		C				
3	壺 土師器	A 18.0	長胴形態で最大径を胴中位に置く、口縁部外反、口唇部上方へ丸くつまみ出す。	横ナデ、ナデ 窓削り	礫、長石、雲母 黄褐色 普通	10 % 床 直
		B				
		C				
4	壺 土師器	A 21.0	やや胴の張る器形か、頸部「く」の字状外反、口唇部上方へ丸くつまみ出す。	横ナデ、ナデ	礫、長石、雲母 にぶい橙色 普通	10 % + 14
		B				
		C				
5	鉢 土師器	A	鉢形状の鉢の器形を呈すると考えられるもので格子状の引きをもつ。	格子状に横位 縦位の印め	礫、雲母、長石 にぶい黒褐色 普通	5 % 電 内
		B				
		C				
6	鉢 土師器	A	5と同一個体を考えられる	〃	〃	〃
		B				
		C				
7	長颈瓶 須恵器	A	長頸瓶か、外面及び内面自然断続が認められる。搬入名か。	やや不整形のナデ 調整	礫、 綠灰褐色 良	覆土中
		B				
		C				
8	壺か?	A	口縁部外反、やや長目端部カット状、青海波状文(6本単位)。	ナデ、波状、沈線	雲母、石英、長石 灰褐色 やや良	1 % P 4 中
		B				
		C				
9	壺 土師器	A 13.4	安定した平底からやや強く内彎気味に立ち上がる。内面内黒(丁重なナデ)。	ロクロ水引か? ナデ	礫、雲母、石英 にぶい橙色(黒色) やや良	20 % + 55
		B				
		C				
10	鉢 須恵器	A	安定した平底からやや鋭角に立ち上がり、直線的、口縁部が短く外反する器形か。	輪彫み、斜位の平行叩き、窪ナデ状 ナデ、押え	礫、雲母、長石 褐色 普通	30 % + 17
		B				
		C 15.2				
11	壺 須恵器	A 14.1	安定した平底から弱く張り開いて立ち上がり、口縁部は肥厚し外反。	巻上げ?、回転ミズビキ ナデ、窪ナデ	礫、雲母、長石 灰褐色(灰白色) 普通	40 % + 15
		B 4.6				
		C 9.0				
12	壺 土師器	A 12.5	安定した平底から器肉を減じて聞き気味に立ち上がり、口唇部丸く收める。	巻上げ?、回転ミズビキ 左廻り	礫、長石 にぶい黒褐色 (にぶい暗褐色) 普通	80 % + 11
		B 4.1				
		C 8.5				
13	鉢 須恵器	A 14.0	鋏切りの底部から器肉は薄く開いて立ち上がり、口唇部丸く肥厚し收める。	巻上げ?、回転ミズ ビキ、ナデ窓切り	礫、長石 褐色 やや良	40 % 覆土中
		B 4.8				
		C 6.6				
14	壺 須恵器	A 13.1	安定した平底から開いて直線的に立ち上がり、やや器肉を減じて口唇部に移行丸く收める。	巻上げ、回転ミズ ビキ、ナデ	礫、長石 褐色 やや良	40 % 覆土中
		B 4.1				
		C 7.3				



第110図 第52号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
15	坏須恵器	A 13.0 B 4.0 C 7.1	安定した平底から開いて立ち上がり器肉は一定、口唇部肥厚し丸く収める。	巻上げ、回転ミズビキ、ナデ左削り	難、長石、雲母 灰褐色 普通	20 % 覆土中
16	坏須恵器	A 15.5 B 3.8 C 7.0	安定した平底から開いて器肉を減じて立ち上がる。	巻上げ、回転ミズビキ、ナデ	難、雲母、長石 灰白色 やや不良	40 % + 42
17	高台坏須恵器	A 14.0 B 6.3 C 8.9	付高台やや張る、長目、体部と底部の間に板状の弱い張り体部は外反、口縁部開いて丸く収める。	巻上げ、回転ミズビキ、ナデ	難、雲母、長石 褐色 やや良	30 % + 43
18	高台坏須恵器	A B C 7.7	付高台の張りは弱く、短く、体部は開いて張るか？	巻上げ、回転ミズビキ、ナデ	難、長石、雲母 暗灰褐色 やや良	20 % + 45
19	高台坏須恵器	A B C 9.7	高台の張は強く、底部は水平に移行、体部は開き気味に立ち上がる。盤の可能性が強い。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ ナデ	難、石英、雲母、長石 褐色 やや良	20 % + 42
20	蓋須恵器	A 14.6 B 3.5 C 2.5	天井部のフクラミは弱く、つまみは長目口端部ゆるく外反し尖る。カエリは無くつまみ貼付。	粘土紐巻上げ？回転ミズビキ？ ロクロ？ 難削りナデ右削り	難 褐色 やや良	30 % + 51
21	蓋須恵器	A 17.9 B C	天井部のフクラミはやや有る。つまみ欠失口端部ゆるくたれ気味に伸び、内側つまみ出し丸く収める。カエリはない。	粘土紐巻上げ、回転ミズビキ、ナデ 難削り、右削り	難、長石、雲母 暗褐色 やや良	50 % + 33
22	手捏土師器	A 3.4 B 1.7 C 3.1	中央部指頭で押え込み「U」字状、粗雑な押え。	指頭押え	難、長石、雲母 にぶい褐色 普通	90 % + 40

遺物は、総数300片程で散在して出土したが特に竈前、内部からの出土が多かった。1は壺形土器で流れるような線を持つ小型の壺形、回転調整痕を残す。2・3・4・は土師器で口唇部は尖るもの、上方へつまみ出すものがみられる。5・6は同一個体と思われる土師質の瓶、平行叩き目を持つ下位はナデ調整、7は長頸瓶、8は青海波状文をもつ。9は内黒で碗形に近い、10からは須恵器で大型の鉢に近い器形。11から18は坏で11.12を除き外反して立ちあがり口径が底径の倍に近い。17は長目の高台を貼付18は短目、19はハの字状に聞く盤に近い器形か。21・22はややふくらみをもつ蓋でカエリはない、22は手捏で指頭押え。須恵器は回転ミズビキ調整。

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(R)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
23	土錐	3.2	3.2	0.7	31	土製	+	36 やや不整形球状。ナデ、やや丁重孔部正円形
24	"	3.1	3.2	0.7	30	"	覆土中	ほぼ球形状。ナデ、丁重、孔部正円形
25	"	2.5	3.0	0.8	20	"	"	やや不整形球状。ナデ、孔部正円形

## 第53号住居址（第111・112図）

本址は、41号住居址の下部1区、X-9・10のグリットを中心に確認された住居址で台地のはば平坦な面に検出され上部を41号住居址、中央部を28号土坑に、東側を31号住居址に掘り込まれ遺存状態は悪い。長軸をE方向に置き、径6cm前後の円形状プランを呈するものと推定される。壁面は、鋭角的に立ち上がり壁高10cm～25cmを測る。床面は、炉の周辺は良く踏み固められていたが壁面周辺は凹凸が見られ締まりは悪い。ほぼ平坦に移行している。柱穴と推定されるピットは12ヶ所認められた。P 1・2・3・4・5・6が主柱穴と思われ、これらは長円形に巡り後の副主柱と推定されるP 7・8・9・10・11・12が見られた。何れも径30cm前後で深さ30cm前後。

炉跡は中央部より北側に寄った位置に認められ20cm程掘りこみ長径80cm前後の地床炉3層に分類され焼土粒子を多量に含む、ローム面はブロック化している。周溝は、確認出来なかった。

覆土は、8層に分類されたが4層の一部、7・8層は41号住居址の床面層、1・2・3は褐色ローム粒子、ロームブロックの混入の差、4・5・6は暗褐色炭化粒子を含む。

遺物は、100片前後出土しているが1を除き大多数が破片であった。1は炉の北側の床面から出土した深鉢で口径30cmを測るが胴部を欠失している。1・3は深鉢、口縁部肥厚、口唇部は丸く収める。器肉厚め、外、内側はナデミガキ状、3はにぶい黒褐色、ヘラ押引き、4は深鉢で口縁部は外傾、ヘラ押引き、にぶい暗褐色、雲母、石英を含む。

5は口縁キャリバー、口唇部尖り気味、楕円区画方形？暗褐色。

6は口縁部肥厚し外傾気味、半截竹管による楕円区画、暗褐色。

7は口縁キャリバー、口唇部内側カット状尖り気味、「の」の字状、暗褐色。

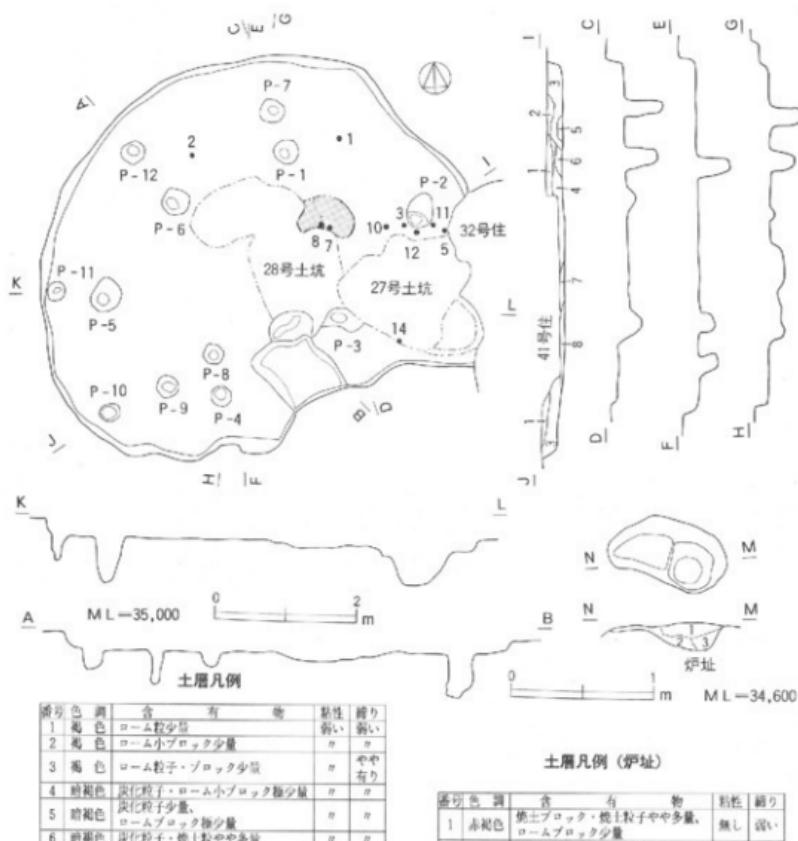
8は波状口縁突起部、キャリバー、「の」の字状、黄褐色。

9は波状口縁、「の」の字状橙色。10は棒状工具により有節沈線、黄褐色。

11は外面は粗いL.Rの繩を縦位に施文、2条1組の沈線を懸垂し口縁部外反、胴部弱くくびれる、にぶい暗褐色。

12は縦位の施文、内面だけ丁寧なナデ、疊、雲母。13は、櫛状工具による縦位の施文。

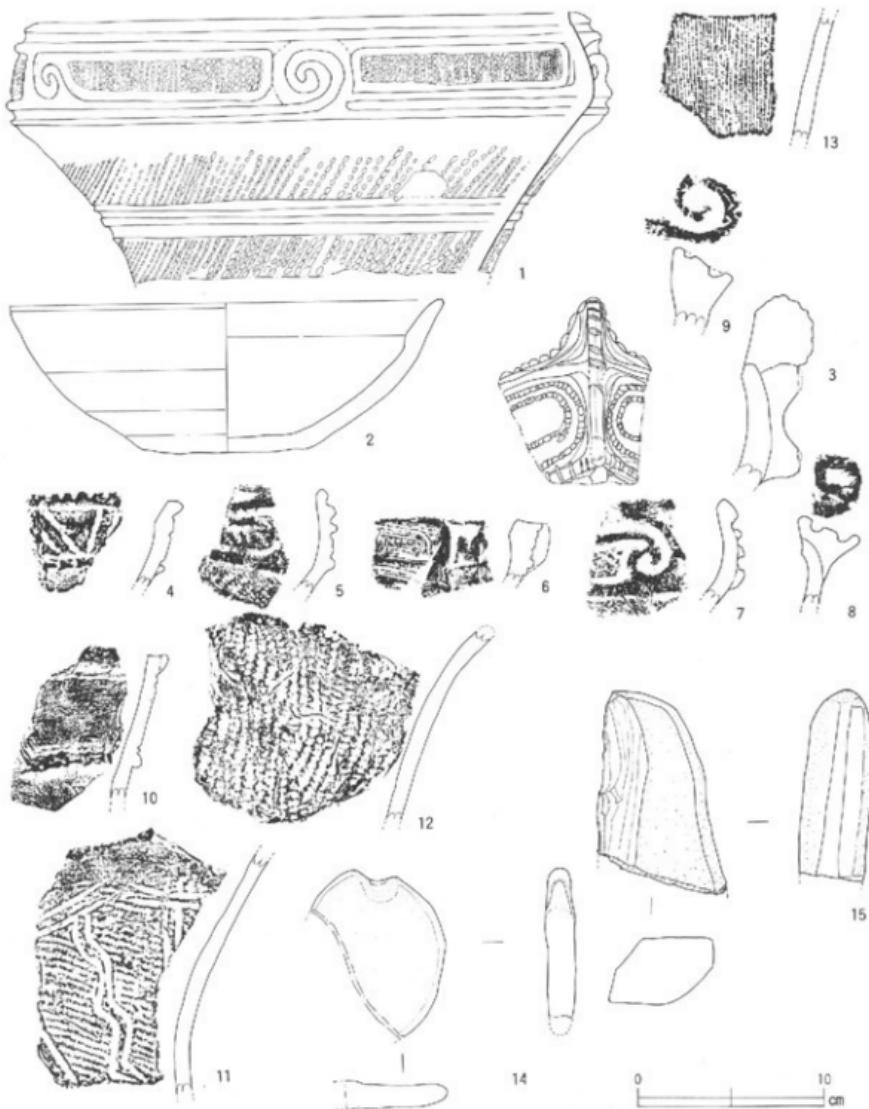
加曾利E式、阿玉台式が認められる遺構で時期は绳文時代中期後葉と推定される。



第111図 第53号住居址、炉址実測図

石器、土製品一覧表

番 号	器 種	法 量(cm)			重 量(g)	材 質	出土地点	備 考
		最大長	最大幅	最 大 孔 厚				
14	石 鍬				108	砂 岩	覆土巾	長円形状、扁平な自然石の長軸部を欠く40%
15	敲 石	9.8	6.0	5.6	335	安山岩	床 直	大半を欠失し敲石と思われる。自然石



第112図 第53号住居址出土遺物実測図

#### 第54号住居址（第113・114・115・116図）

本址は、36号住居址の東側1区、W-17・X-17グリットを中心に確認された住居址で台地はほぼ平坦に移行する。73・74・55号住居址を掘り込み本群の中では最も新しい時期にあたる。主軸をN-17°-Wに置き、東西4.5m、南北4.4mの隅部がやや丸みをもつ方形プランを呈する。壁面は、垂直に立ち上がり壁高は、60cm前後を測り深い。床面は、竈前面、中央部では縞まりが見られたが周溝部周辺では若干の凹凸がみられ縞まりはやや弱い。ほぼ平坦に移行する。周溝は、北、西側に幅20cm、深さ10cm程で緩いU字状に巡る。柱穴は、4ヶ所壁面からやや離れた位置に確認されいずれも梢円形、P 1は長径65cm前後、短径50cm程で深さ60cm、二段の掘り込みをもつ、P 2は径60cm、短径40cm、深さ55cm U字状の掘り込みをもつ。P 3は長径50cm、短径30cm、深さ7.5cm円筒状掘り込み。P 4は長径70cm、短径55cm、深さ55cmでU字状の二段の掘り込み。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良い。外側には70cm程U字状に掘り込み袖部は、開き気味で直線的に40cm程付設、焚口部はやや狭くなる。火床部は5cm程掘り込み中位に位置、煙道部はやや強く立ち上がる。灰褐色の粘性のやや強い粘土を用い築いている。形態的には、U字状。竈内からは5の甕が正立で出土。

覆土は、レンズ状の自然埋積を示し7層に分類された。確認面の1層が大部分を占め褐色、5層は周溝部に見られた明褐色層で張り付き。他はロームブロック、粒、粒子の混入量の差で褐色。

遺物は、総数200片程が散在して出土した。1～5は土師器で1は口唇部がつまみだし長胴形、胴下部に胞削りが見られる。5は竈内から出土した小型の壺口唇部は僅かにつまみ出し。6は孔部が肥厚し断面三角形の櫛、7は碗に近い器形、8～12は須恵器、9・10は外反度がや強く口径と底径の差が小さい。10は胞切り後ナデ調整、8は高台付、強く「ハ」の字状に開き短い。11は、器肉が薄い12・13も付け高台をもつ、やや長め、14は三面に使用痕を持つ砥石、土製の丸球は不製形状のものが多く孔部は小さく円形状。

新旧関係は73号住→56号住→74号住→55号住の順が推定される。

#### 第73号住居址（第113・115図）

本址は、54号住居址の東側1区、X-17グリットを中心に位置し確認されたが大半を74.54.55号住居址に掘り込まれ遺存状態は悪く、3m前後の東壁側部分だけであった。遺存部から推定すると主軸をN-16° Wに置き、南北4.1m前後の方形プランを呈すると推定される。壁高は40cm前後を測り垂直に立ち上がる。東側の一部と北側に若干の掘り込みが認められる。床面は良好な縞まりが認められ覆土は、4層に分類され、自然埋積を呈し2・3層褐色、4層は暗褐色、縞まりは強い、柱穴、竈は検出されなかった。

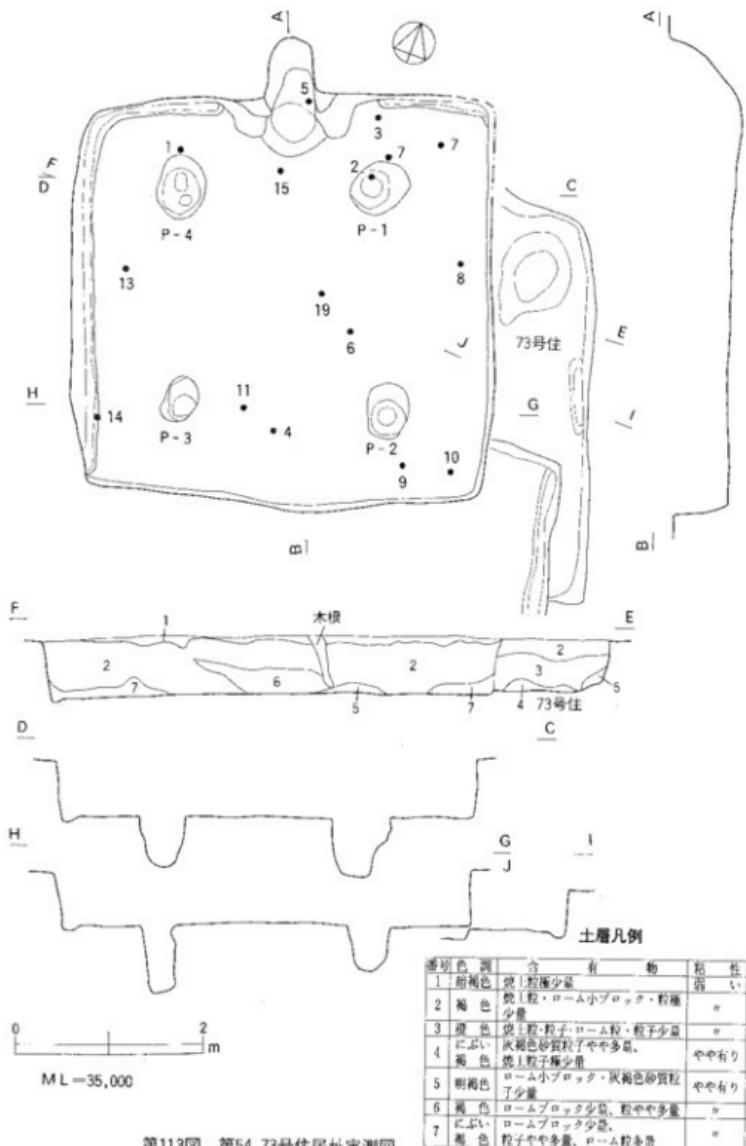
遺物は少なく器形を窺えるものは坏だけで半球形状のものと、肩部に弱い棱をもち口縁部は長

く外反するものが認められた。(第115図)

本群の54・55・56・73・74号住居址群の中では切り合い遺物から最も古い時期が推定される。

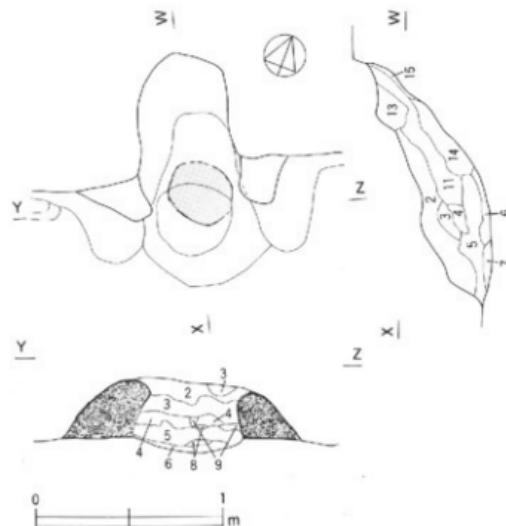
### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 19.2 B 31.4 C 8.5	小さな底膨らみ、鋸角に立ち上がり、最大径を肩部に置き長楕円形、口縁部近く「く」の字状外反、口唇部上方へ丸くみ出す。	横ナデ、箒ナデ 削り状、ナデ	礫、長石 にぶい赤褐色 (にぶい黒褐色) やや良	40 % 床直
2	甕 土師器	A B C 9.4	安定した平底から外反して立ち上がり、器肉は薄い。	箒ナデ状、ナデ 内外粗錐	礫、石英、雲母、 暗褐色 普通	10 % 覆土中
3	甕 土師器	A B C 9.5	平底から外反して立ち上がり器肉を減じる。内外調整粗雑。底部木葉痕。	箒削り、ナデ 底部木葉痕	礫、長石、雲母、 にぶい褐色(褐色) 普通	50 % + 10
4	甕 土師器	A B C 8.1	底部に木葉痕をもち、外反して直線的に立ち上がる。器肉はやや厚い。	箒削り、ナデ	礫、雲母、長石 にぶい黒褐色(淡い褐色) 普通	50 % + 20
5	甕 土師器	A 14.0 B 15.6 C 7.4	丸底気味の底部から内彎して立ち上がる。最大径を側中位に直く、瓶部「く」の字状口唇部上方へ丸くみ出す。下位は火を受け剥落多し。	横ナデ、ナデ 箒ナデ状	礫、長石、石英 にぶい黒褐色 (1部赤褐色) やや不良	99 % 庫内
6	甕 土師器	A B C 10.2	孔部近くは器肉は厚く内側カット状、底部平滑。	外面横位 内面横位のナデ	礫、雲母 黄褐色(褐色) やや良	10 % + 15
7	碗 土師器	A 12.0 B 5.1 C 6.7	安定した平底から内彎して立ち上がり、口縁部直立、口唇部カット状に尖る。内面底部不整形。小形の跡に近い。	横ナデ、箒削り ナデ、底部削り	礫、長石、雲母 にぶい褐色 普通	80 % 庫直
8	高台环 土師器	A 15.0 B 5.4 C 9.9	付高台はやや強く張る。底部水平に移行し体部は開いて直線的に立ち上がり口唇部丸をもつ。	巻上げ、回転ミズ ビキ、ナデ	礫、雲母 にぶい赤褐色 普通	70 % 床直
9	环 須恵器	A 13.8 B 4.1 C 8.1	安定した平底から開いて立ち上がり口唇部丸く吸める。底部近くは箒削り。	巻上げ?回転ミズ ビキ、ナデ 左削り	礫、長石、雲母 褐灰色 やや良	80 % 床直
10	环 須恵器	A 15.1 B 4.1 C 7.5	安定した平底から開いて立ち上がり、口唇部外反、丸く吸める。	巻上げ?回転ミズ ビキ、箒削り、ナデ 左削り	礫、長石、石英 灰褐色 やや良	100 % 床直
11	环 須恵器	A B C 8.7	安定した平底から外反して立ち上がり体部の器肉は薄い。	巻上げ、回転ミズ ビキ、底部箒切り ナデ、左削り	礫、雲母、灰白色 やや良	50 % + 10



第113図 第54、73号住居址実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
12	環 須恵器	A 14.6 B 5.4 C 10.2	高台部はやや長目、やや弧形、端部肥厚底部は水平に移行、体部腹角に立ち上がり口唇部丸く収める。	巻上げ、回転ミズ ビキ、ナデ 左廻り	礫、石英、長石 褐色 やや良	60 % + 10
13	高台环? 須恵器	A B C 9.8	高台は貼付「ハ」の字状に弱く張る。蓋の可 能性有り。	巻上げ 回転ミズビキ、ナデ	礫、長石、褐色 やや良	底 部 50 % + 20



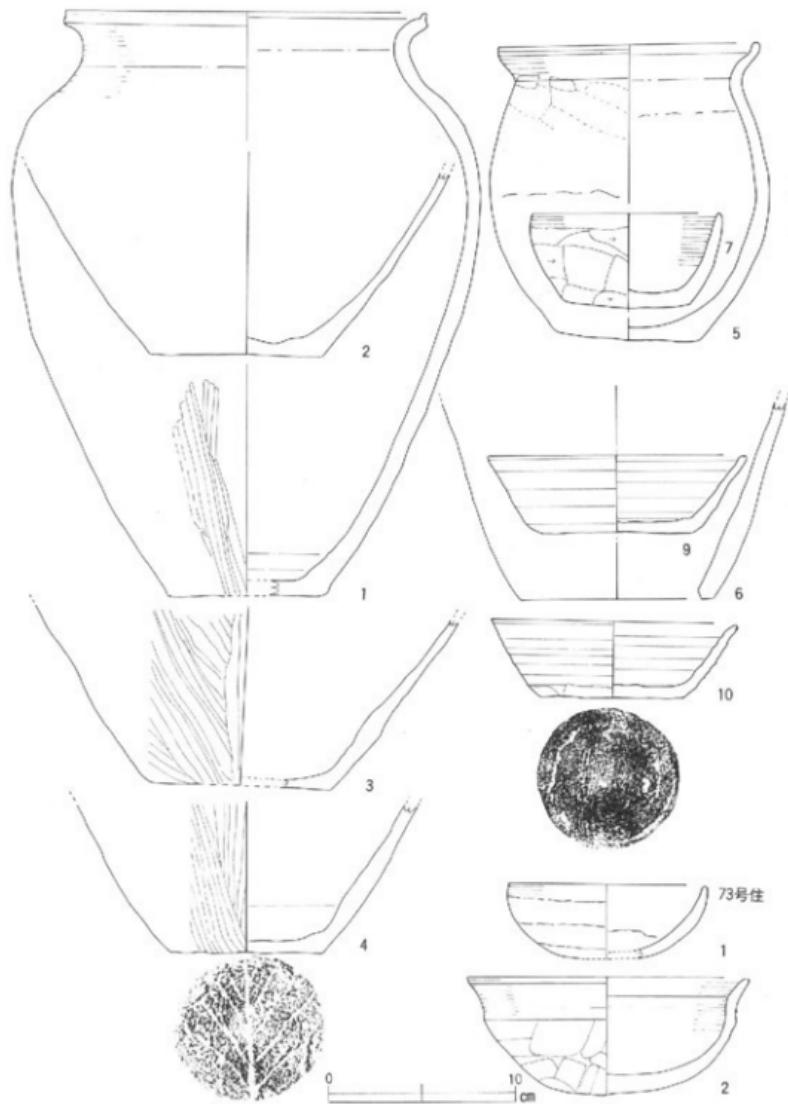
土層凡例

番号	色	含 有 物	硬 性	織り
2	褐 色	灰黄褐色砂質粒子・ ローム粒子極少量	柔	柔
3	灰 黄 褐 色	灰黄褐色砂質粒子少量	強	強
4	赤 褐 色	燒土粒子全量 燒土粒子、炭化稻子少 量、小石少量	無し	柔
5	赤 褐 色	燒土粒子多量	柔	弱
6	赤 褐 色	灰黄褐色砂質粒子少量	やや 有り	やや 有り
7	灰 黄 褐 色	灰黄褐色砂質粒子多量 黑褐色ゾロッカ極少量	柔	柔
8	赤 褐 色	微土ブロック	無し	柔
9	赤 褐 色	灰黄褐色砂質粒子・ 燒土粒子多量	弱	弱
11	褐 色	ロームブロック少量、 粒やや多量、灰黄褐色 砂質粒子極少量	やや 有り	柔
12	褐 色	ロームブロック純土粒 灰黄褐色砂質粒子少 量 ローム粒や多量	柔	柔
13	灰 黄 褐 色	灰黄褐色砂質粒子多量 黑褐色ゾロッカ少量	弱	弱
14	褐 色	11に近い、燒土粒子、 粒少量 ローム粒子、 灰黄褐色砂質粒子少 量 小石少量	柔	やや 有り
15	褐 色	ローム粒子、 灰黄褐色砂質粒子少 量 小石少量	柔	柔

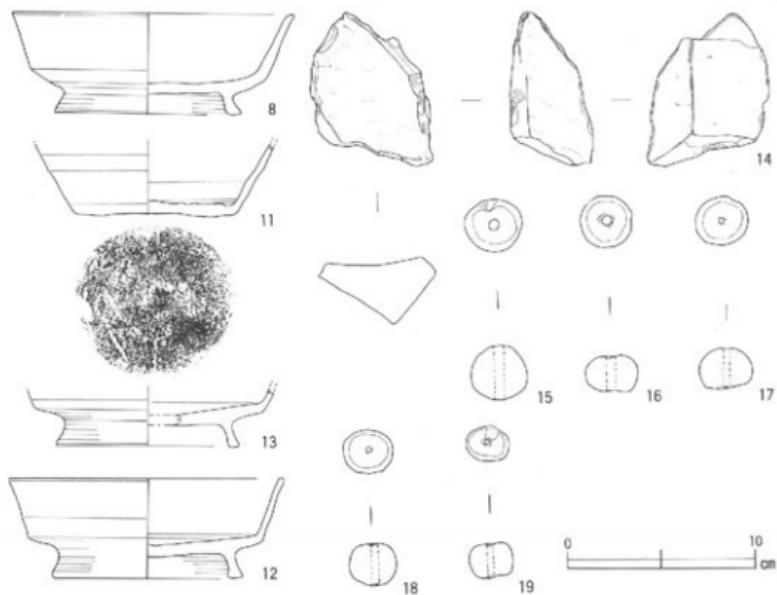
第114図 第54号住居実測図

出土土器観察表 (73号住居址)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	陶 土器	A 10.6 B 4.0 C 4.5	器形的には半球形状平底か、内側して立ち上 がり、口縁部直立気味、口唇部丸く収める。	横ナデ、笠削り ナデ、笠削り	礫 にぶい黄褐色 普通	10 % + 3
2	環 土器	A 15.0 B 6.3 C 4.8	不安定な底部分からゆるく内側して立ち上 がり、口縁部は外反、長目、口唇部丸く収める。	横ナデ、笠削り ナデ	礫 黒褐色 やや良	60 % 床 直



第115図 第54、73号住居址出土遺物実測図



第116図 第54号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
14	砥石	8.1	6.4	3.6	135	凝灰岩	+	10 三面に使用痕あり、断面三角形状
15	土鍤	2.9	3.1	0.5	22	土製	+	15 不整形球状、孔部円形、粗雑
16	"	1.9	1.7	0.5	13	"	+	20 不整形、つぶれた球状、孔部円形
17	"	2.2	2.8	0.4	15	"	覆土中	ややつぶれた球状、孔部三ヶ月状
18	"	2.2	2.6	0.4	10	"	"	不整形、球状、孔部橢円形状
19	"	1.8	2.3	0.3	6	"	"	不整形、四角形状、孔部円形状

### 第55号住居跡（第117・118図）

本址は、54号住居址の南側1区、X-18、Y-18グリットを中心に確認された住居址で台地はほぼ平坦に移行する。56・73・55号住居址を掘り込み74号住居址を埋め本群の中では54号住居址について新しい。主軸をN-8°-Wに置き、東西4.6m、南北4.7m、隅部がやや丸みをもつ方形プランを呈する。壁面は、銳角に立ち上り壁高は50cm～60cm前後を測る。床面は、中央部が若干高く縫まりが見られたが周溝部周辺では凹凸がみられ縫まりはやや弱い。ほぼ平坦に移行する。周溝は、東側に幅10cm～20cm、深さ5cm程でU字状に認められた。柱穴は、壁面、隅部からやや離れた位置に4ヶ所確認され径40cm前後の円形状を呈している。P1、P2は二段に掘り込まれ深さ55cm～60cm U字状、円筒状の掘り込みをもつ。

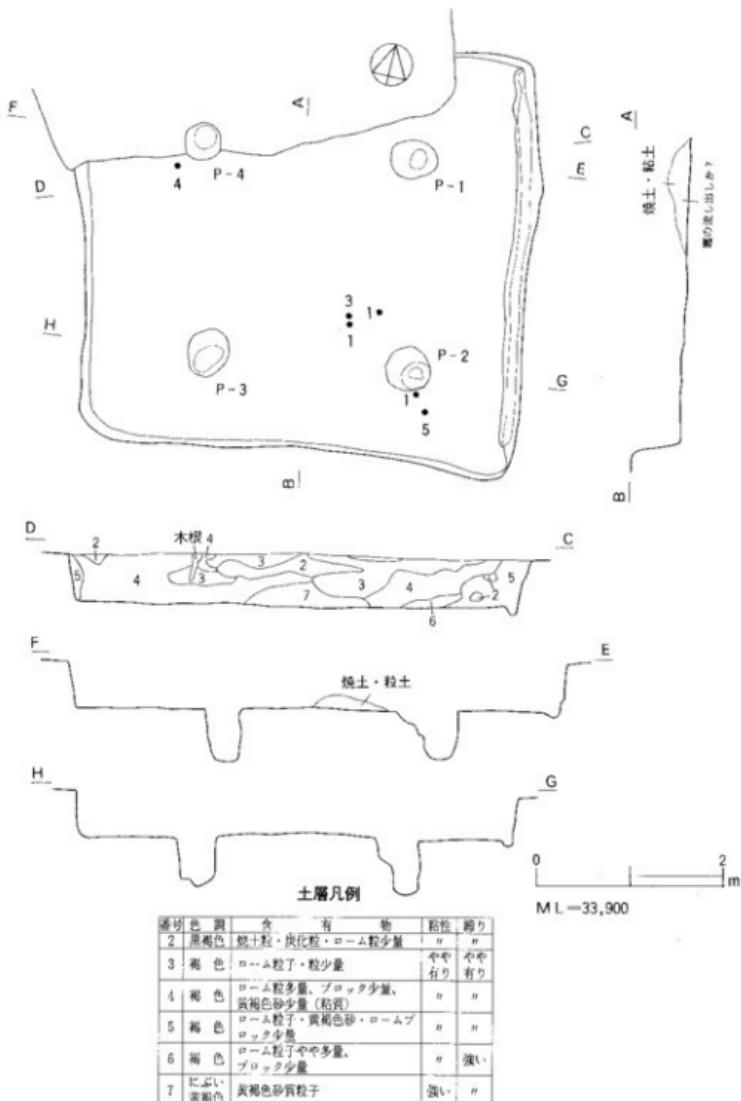
甕は、前述のように北側を54号住居址に掘り込まれ確認できない。粘土、焼土、の混入層が見られこれが甕の流れ出しか？黄褐色の粘性のやや弱い粘土が見られた。

覆土は、7層に分類された。中央部の大部分を占める褐色層はロームブロック、粒、粒子、の混入量の差。5層褐色は壁面部に見られたもので4層よりやや暗い。2層のみ炭化粒子を含む。粘性、縫まりはややある。

遺物は、総数100片程が散在して出土した。器形を窺えるものは少ない。1は土師器坏で底部は静止糸きり、3・4は須恵器蓋天井部の膨らみは強い。3は口端部は丸く收めカエリは退化している。カット状の4は水平気味に伸びカエリはない。つまみは貼付け扁平、上製の丸球は不整形で18gを計る。

出土土器観察表

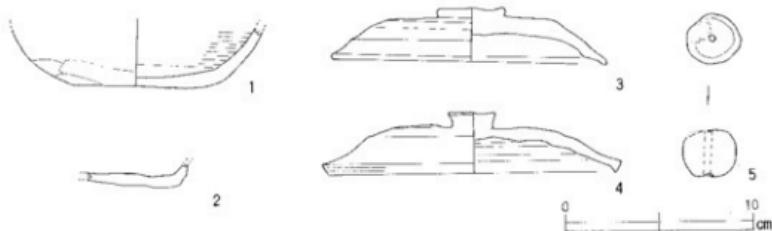
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1 土師器	A	安定した半球からゆるく内脇にて立ち上がり口縁部欠失し不明、前に近いか？内面横位、不規則なナデ調整。	鋸削り、箋ナデ	礫、雲母、長石	30 %	
	B		横ナデ、ナデ	にぶい褐色		
	C	7.5	普通	+ 14		
2 皿状 土師器	A	細片のため器形は断定出来ないが皿状を呈すると推定される。	箋ナデ、削り状、ナデ	礫、雲母、長石	5 %	
	B		にぶい黒褐色			
	C		やや良	床直		
3 須恵器	A	天井部のフクライはやや有る、つまみ貼付、扁平、L部削り、口端部丸く收めカエリは退化している。	巻上げ、回転ミズギキ、箋削り	礫、長石	40 %	
	B		灰褐色			
	C	8.4	やや良	床直		
4 須恵器	A	焼成のゆがみをもつフクライはやや有り口端部内傾、断面二角形状、カエリはなし、つまみ扁平化、天井部削り。	巻上げ？ 回転ミズギキ、箋削り、ナデ	礫、雲母、長石	20 %	
	B		褐色			
	C	2.5	やや良	= 24		



第117図 第55号住居址実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
5	土錐	2.5	2.8	0.3	18	土製	+ 11	不整形球状、孔部凹形(小孔)



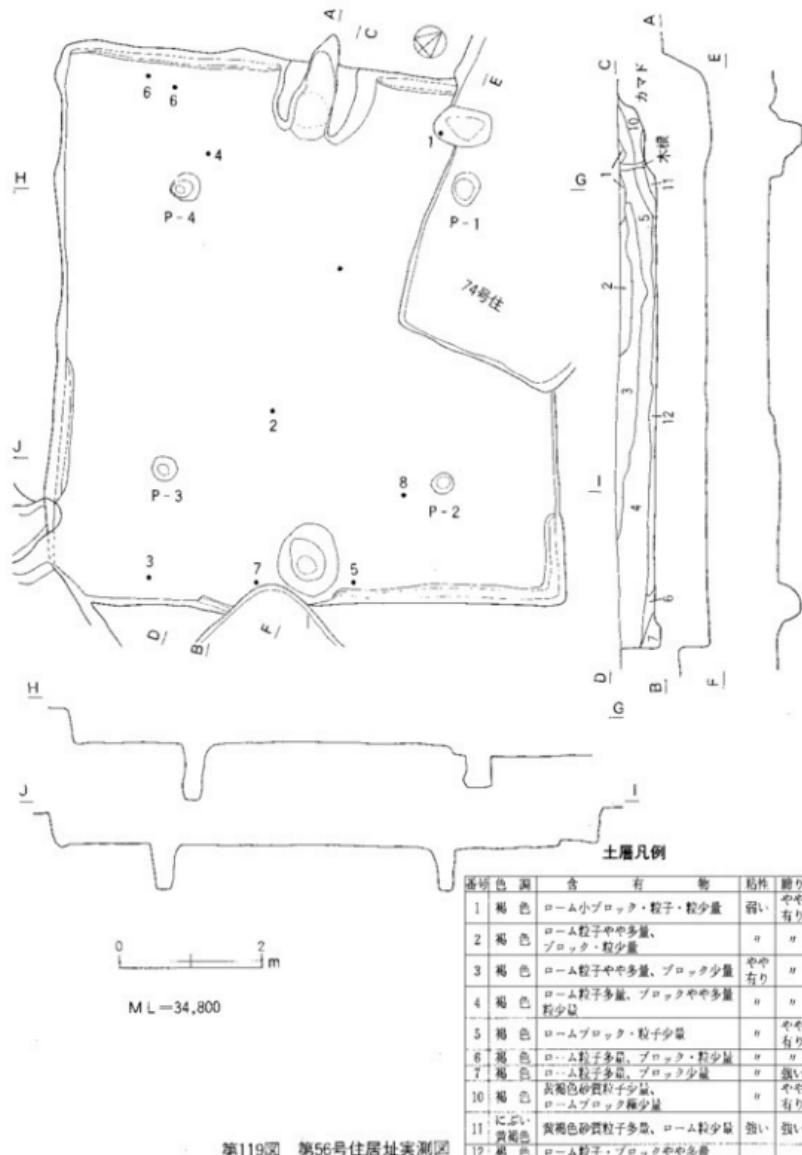
第118図 第55号住居址出土遺物実測図

第56号住居址 (第119・120図)

本址は、55号住居址の西側1区、W-18・19、X-18・19 グリットを中心に確認された住居址で台地は平坦に移行する。北側を73・55・54号住居址に掘り込まれ南側を60・59号住居址の隅部に掘り込まれ複雑な切りあい複合関係にある。主軸をN-45°-Wに置き、東西7.3m、南北7.9m。南北に60cm程長い。隅部の鋭角な方形プランを呈する大型の遺構である。壁面は、垂直に立ち上がり壁高は40cm～50cmを測る。床面は、竈前面、中央部を中心に良く踏み固められれば平坦に移行する。周溝は、北側と西側、南側の一部に幅10cm～20cm前後、深さ5cm～10cm程でU字状に認められた。その他竈東側、南側壁面に貯蔵穴と推定される掘り込みが見られ竈東側からは岡示した1が出土している。南側は径1m、深さ30cm、竈東側は長径80cm、短径50cm、深さ50cm。柱穴は、4カ所確認され径30cm～50cmの円形状で深さ60cm～80cmの円筒状掘り込みをもつ。

竈は、北壁に検出され、外側へは30cm程V字状に掘り込み袖部を直線的に1.1m程長く付設、焚口部は若干狭くなる。火床部は、前面に位置し10cm程掘り込む。煙道部は強く立ち上る。黄褐色の粘性のやや強い粘土を用い築いている。形態的には、V字状形。

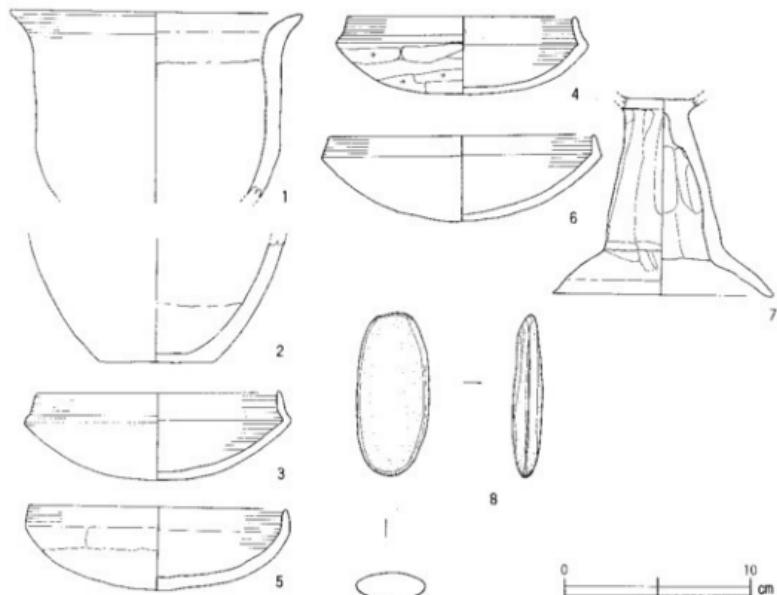
覆土は、レンズ状の自然埋積を示し12層に分類された。確認面1・2・3・4層が大部分を占める褐色、1層より序々に明るさを増す。7層まで同様でロームブロック、粒、粒子の混入量の差、6・7層は周溝部、壁面部に認められた。床面の12層は褐色であるが締まり、粘性に差違が見られた。11は竈の流れ出し層。



遺物は、総数100片程で大型の割には少なく散在して出土した。1は竈東側の貯蔵穴から出土した鉢形土器、3～6は壺で肩部に稜を持つ3・4と半球形の5、口縁部〔く〕の字状の6がみられる。

本址は、本遺跡の中では大型で主軸を西に45°程振れ掘り込み切り合い関係、遺物から本群の中に73号住について古い時期の所産と理解される。

[54・55・73・74・59・60号の住居址の中で]



第120図 第56号住居址出土遺物実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	小型壺 土器	A 15.7	器形的に鉢に近い、器形的には口縁部短く肥厚し外反、器内厚い。	横ナデ、ナデ	礫、長石 におい赤褐色 (におい黒褐色) やや不良	20 %
		B				+ 10
		C				
2	壺 土器	A	平底から内側して立ち上がる。器形的には小型のかま、鉢型か、二次焼成を受けもらい。 やや粗雑	ナデ? 鑿削り? 二次焼成の為不明	礫、長石 赤褐色 やや不良	100 %
		B				+ 10
		C 6.1				

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	粘土、色調、焼成	備考
3	壺 土師器	A 13.1	丸底気味の底部からゆるく内側して立ち上がり口縁部「く」の字状に強く一旦屈曲、内側して立ち上がり、口唇部やや尖り気味。	横ナデ、ナデ	礫、長石、スコリア 石英 におい褐色 やや良	90 % 床直
		B 4.7				
		C 3.5				
4	壺 土師器	A 12.3	平底に近い底部からゆるく内側して立ち上がり口縁部は「く」の字状に内傾や長目、口唇部丸く収める。	横ナデ、鎌削り ナデ	礫、長石 におい褐色(褐色) やや良	90 % 床直
		B 4.2				
		C 3.1				
5	壺 土師器	A 13.9	丸底に近い底部からゆるく内側して立ち上がり口縁部直立、口唇部尖り気味。	横ナデ、鎌削り ナデ	礫、雲母 におい黒褐色 普通	40 % + 7
		B 4.5				
		C 3.0				
6	壺 土師器	A 14.4	丸底に近い底部からゆるやかに内側して立ち上がり口縁部短く内傾、口唇部尖り気味。	横ナデ、鎌磨状 ナデ	礫、長石 黒褐色(におい褐色) 普通	40 % + 10
		B 4.6				
		C 2.4				
7	高壺 土師器	A	壺部欠失、脚部は円筒状、端部は「ハ」の字状に開き弱く張る。	鎌ナデ状、ナデ 指頭押え	礫、長石 黒褐色、褐色 やや良	50 % + 7
		B				
		C 11.8				

石器一覧表

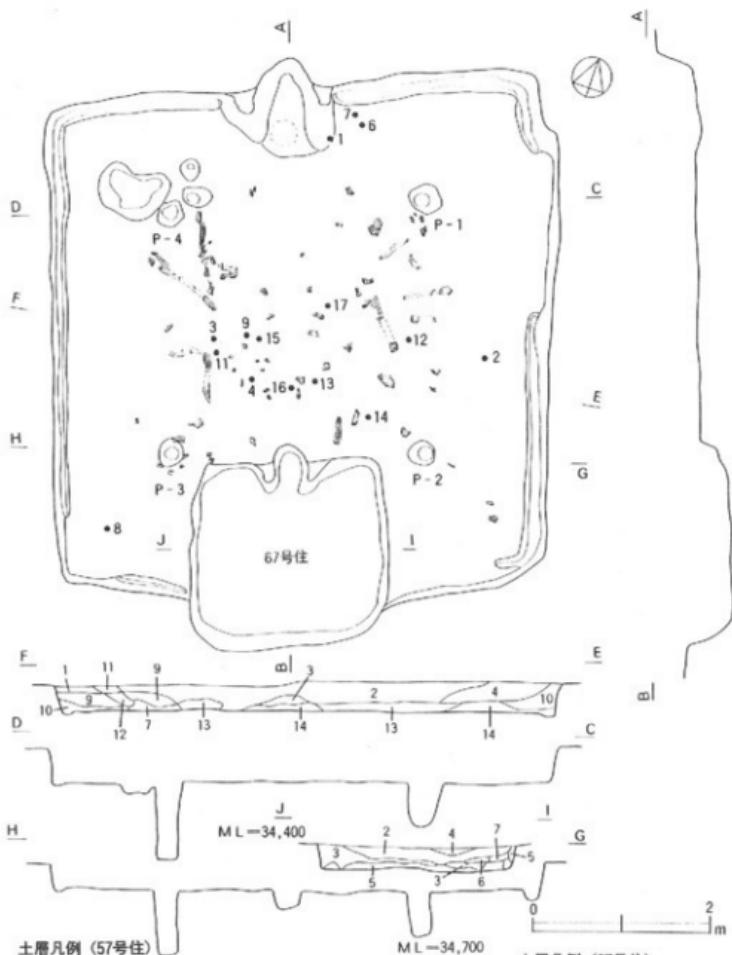
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	山土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
8	石斧?	8.8	3.8	1.9	84	砂岩	+ 5	各面とも、若干の加工痕をもつ敲石か。

#### 第57号住居址（第121・122・123図）

本址は、56号住居址の東南側1区Y-21・22、X-21・22 グリットを中心に確認された住居址で台地は南側へ緩く傾斜を示す。南側に床面を掘り込み67号住居址が営まれていた。主軸をN-15°-Wに置き、東西5.6m南北-5.5m~5.8mの不整形状の方形プランを呈する。隅部は若干丸味をもつ。壁面は、開き気味に立ち上がり、壁高30cm~35cmを測る。床面は北側では良好な継まりを呈していたが南側、東側周溝部周辺でローム剥き出し状、ほぼ平坦に移行する。床面中央部には多量の炭化材が認められ、いずれも中央に向かって伸びている。遺存状態から架屋状態を復元する事は不可能であるが本遺跡では数少ない例で焼却の可能性が強い。周溝は、南側の一部を除き幅10cm~20cmで深さ10cm~15cmでU字状に巡る。柱穴は4ヶ所認められP 4の周辺には大小のピットが認められるがいずれも浅い。P 1は径40cm、深さ50cmでU字状形の掘り方を呈する。

竈は、北壁中央部に認められ外側へ30m程U字形に掘り込む、袖部は70cmほど長めに開き付設、焚口部は開く。火床部は、前面に位置僅かに掘り込む。煙道部は強く立ち上がる。灰黄褐色の粘性の弱い粘土を用い築いている。形態的にはU字状形。

覆土は、11層に分類され自然埋積状。確認面2層が大部分を占めにぶい褐色、1・3・4・9



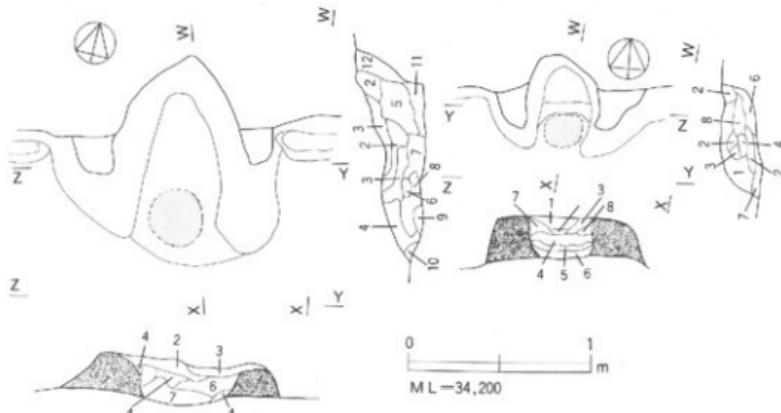
番号	色	調査	含	有	物	粘性	砂り
1	褐色	1	ローム粒子量	有	右り	右り	
2	褐色	1	にぶい、	焼成物、	焼土粒子極少量	やや 有り	"
3	褐色	1	褐色	焼土粒子、	ローム粒子極少量	有り	"
4	褐色	1	にぶい、	5 mm人のコーンブロック少量	"	"	
7	明褐色	1	褐色	焼成物、	焼土粒子極少量	"	"
8	褐色	1	にぶい、	焼土粒子極少量	"	"	
10	褐色	1	ロームブロック多量	"	"		
11	褐色	1	にぶい、	焼土粒子多量	"	"	
12	褐色	1	にぶい、	焼土粒子多量、	炭化物粒子少量	やや 有り	"
13	火成色	1	火成色	ロームブロック焼土粒子炭化物少量	"	右り	"
14	褐色	1	褐色	焼土ブロック少量	"	"	

番号	色	調査	含	有	物	粘性	砂り
2	褐色	2	ローム粒少量、	小	ブロック少量	弱い	弱い
3	褐色	2	ロームブロック少量	"	"	"	"
4	暗褐色	2	ロームブロック極少量、	燒土	少量	弱い	弱い
5	明褐色	2	ローム粒子多量、	ブロック少量	"	やや 有り	強い
6	にぶい、 赤褐色	2	焼土粒子やや多量、	ローム粒少量	"	なし	弱い
7	褐色	2	焼土粒子極少量、	ローム粒少量	"	"	"

第121図 第57、67号住居址実測図

層も同様で混入物の差。床面直くには、13・14層のブロック状層位が認められ、灰褐色で粘土、焼土粒子を含む。10層は明褐色層、各層とも、粘性、締まりはややある。

遺物は、総数150片程中央部に散在して出土した。すべて土師器で須恵器は検出されなかった。1は肩部にはみだし状の段をもつ壺で長胴気味、坏は、肩部に顯著な稜をもち口縁部内傾するものと丸く内傾気味のもの、半球形状のもの、外反して開き口唇部は尖る8が認められ調整から若干新しい様相をもつ。9は円筒状脚部をもち裾部はラッパ状に開く高坏。10は、回転ミズビキをもつ碗状土器で、覆土上部から出土。67号住関係のものかー。土製の丸球は不整形、三ヶ月状孔部で重さ15g。



土層凡例 (57号住)

番号	色調	含有物	粘性	締り
2	にぶい 黄褐色	灰褐色砂質粒子多量、 焼土粒子極少量	弱	弱
3	褐色	灰褐色砂質粒子少量	弱い	弱い
4	にぶい 黄褐色	灰褐色砂質粒子多量、 ローム粒子少量、焼土粒子極少量	やや 弱い	弱い
5	黒褐色	灰褐色砂質粒子多量、 焼土・ロック層少量	弱い	弱い
6	赤褐色	焼土・ロック層少量	無し	弱い
7	黒褐色	焼土粒子極少量、炭化粒子少量	弱い	弱
8	褐色	灰褐色砂質粒子少量、 炭化粒子少量	弱	弱
9	にぶい 赤褐色	焼土粒子やや多量、 ロームブロック少量 (火を受けた)	無し	弱
10	赤褐色	炭化粒子多量、焼土粒子少量	弱	弱
11	褐色	ロームブロック少量、 褐色砂質粒子少量	弱い	弱
12	明褐色	ロームブロック少量、 ローム粒子多量	やや 弱り	弱り

土層凡例 (67号住)

番号	色調	含有物	粘性	締り
1	褐色	ローム粒子極少量、 灰褐色砂質粒子少量	弱い	弱い
2	褐色	焼土粒子極少量、 灰褐色砂質粒子多量	弱	弱
3	にぶい 黄褐色	黄褐色砂質粒子多量	弱	弱
4	にぶい 赤褐色	焼土粒子多量、ブロック少量	無し	弱
5	暗褐色	炭化粒子極少量	弱い	弱
6	褐色	ロームブロック少量、粒子少量	やや 弱り	弱り
7	にぶい 黄褐色	黄褐色砂質粒子やや多量	弱い	弱い
8	にぶい 赤褐色	黄褐色砂質粒子多量、 焼土粒子やや多量	弱	弱

第122図 第57、67号住竈実測図

第67号住居址（第121・122・123図）

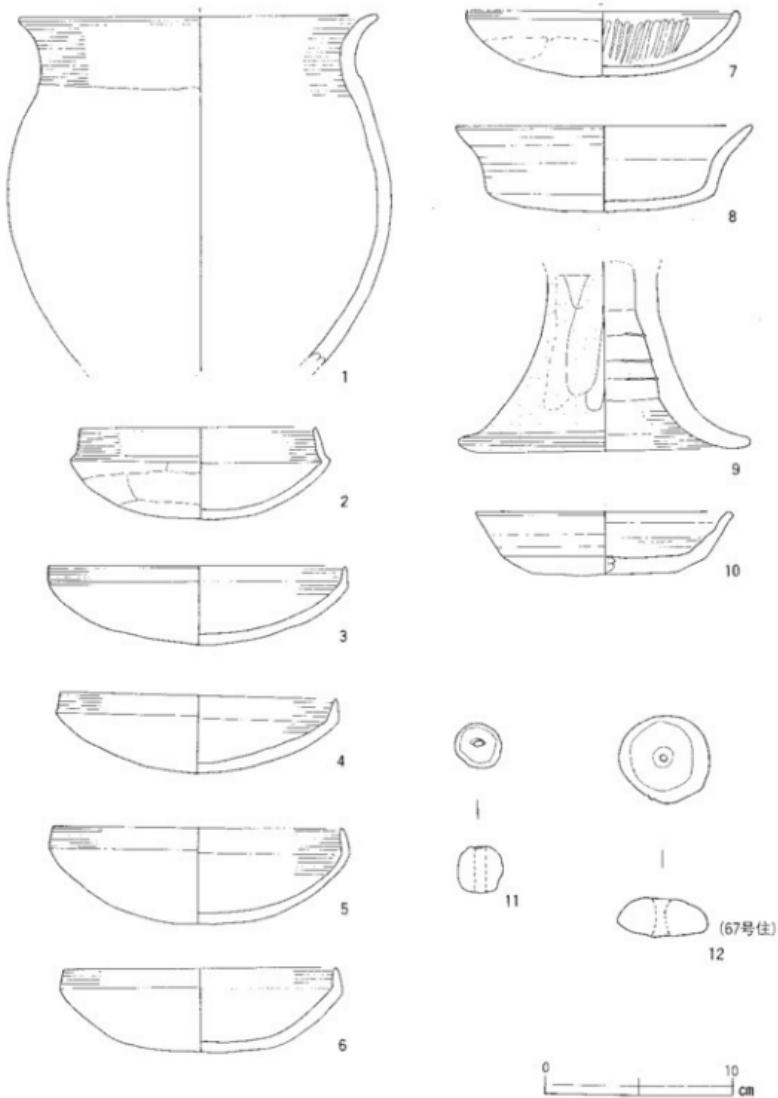
本址、57号住居址の南側内部に位置し床面を切り込み營まれ確認が遅くなり57号住の床面からの検出となった。主軸はN-15°-Wに置き、東西2.3m、南北2.1m、隅部の丸味をもつ小型のプラン。壁面は、鋭角に立ち上がり壁高は30cm前後を測る。床面は、竈前面に一部縮まりが認められた他は、ローム剥き出し状、表面はゆるく立ち上がる。周溝、柱穴は検出されなかった。

竈は、小型で若干外側に掘り込むあまり焼けが認められず使用したかどうか疑わしい。

遺物は、少なく紡錘車が1点出土したに過ぎず、土器は図示できるものはなかった。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎上 色調、焼成	備考
1	竈 土師器	A 19.1	頭部のくびれは深く「く」の字状にゆるく外反、口縁部水平に近く開く、口唇部丸く収める。外面はやや粗雑な調子。	横ナデ、ナデ	疊、長石 赤褐色 普通	40 %
		B			疊、長石 赤褐色	+ 59
		C			疊、長石 赤褐色 普通	+ 59
2	环 土師器	A 15.0	丸底気味の底部からゆるく内脣して立ち上がり肩部で「く」の字状に内横口縁や長目、口唇部薄く尖る。	横ナデ、箆ナデ状 内面丁重なナデ	疊、雲母、長石 にぶい黒褐色 やや良	70 %
		B 5.0			疊、長石、暗褐色 やや良	+ 3
		C 5.0			疊、長石、暗褐色 やや良	+ 7
3	环 土師器	A 15.2	底部は不安定で丸底に近い、体部はゆるやかに立ち上がり口縁部短く直立し口唇部尖る。	横ナデ、箆ナデ状 ナデ	疊、長石、暗褐色 やや良	40 %
		B 4.2			疊、長石、暗褐色 やや良	+ 7
		C 3.2			疊、長石、暗褐色 やや良	+ 7
4	环 土師器	A 14.6	丸底に近い底部からゆるやかに立ち上がり、口縁部短く内横気味、断面△角形状に尖る。	横ナデ、ナデミガ キ状、ナデ	疊 にぶい橙色 やや良	20 %
		B 4.2			疊 にぶい橙色 やや良	+ 12
		C 2.4			疊 にぶい橙色 やや良	+ 12
5	环 土器	A 15.3	丸底に近い底部からゆるく器肉を減じて立ち上がり口縁部やや長く内横、口唇部尖る。	横ナデ、箆ナデ状 ナデ	疊、褐色 やや良	80 %
		B 5.2			疊、褐色 やや良	床 直
		C 3.5			疊、褐色 やや良	床 直
6	环 土師器	A 14.5	平底気味の底部から内脣して立ち上がり口縁部短く内横気味、口唇部尖り気味。	横ナデ、ナデミガ キ状、ナデ	疊、長石 にぶい暗褐色 普通	50 %
		B 4.5			疊、長石 にぶい暗褐色 普通	床 直
		C 5.0			疊、長石 にぶい暗褐色 普通	床 直
7	环 土師器	A 14.4	平底に近い底部からゆるく内脣して立ち上がり口縁部短く直立、口唇部尖る。 (粗雑)	横ナデ、箆ナデ状 ナデ、内面磨削 (粗雑)	疊、 暗褐色 普通	40 %
		B 3.5			疊、 暗褐色 普通	床 直
		C 4.5			疊、 暗褐色 普通	床 直
8	环 土師器	A 15.7	丸底気味の底部から縫合に立ち上がり口縁部外反、口唇部丸味をもつ。(内面内黒)	回転ナデ? 内面ナデ状	疊 にぶい橙色(黒色) 普通	99 %
		B 4.6			疊 にぶい橙色(黒色) 普通	+ 10
		C 12.0			疊 にぶい橙色(黒色) 普通	+ 10
9	高环 土師器	A	脚部は鋭く「ハ」の字状に開いて端部は水平に短く伸びて丸く収める。赤彩(外面)	箆ナデ磨状、横ナ デ、ナデ	疊、長石 にぶい赤褐色 やや良	80 %
		B			疊、長石、石英 赤褐色 やや良	床 直
		C 15.6			疊、長石、石英 赤褐色 やや良	床 直
10	环 須恵器	A 13.7	平底から開いて立ち上がり口唇部に移行、わ ずかに肥厚。	巻上げ 回転ミズビキ ナデ	疊、長石、石英 赤褐色 やや良	20 %
		B 3.4			疊、長石、石英 赤褐色 やや良	覆土中
		C 7.8			疊、長石、石英 赤褐色 やや良	覆土中



第123図 第57、67号住居址出土遺物実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
11	土 球	2.4	2.5	0.6	15	土 製	+ 22	長円形球状、孔部横円形

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
12	紡錘車?	2.0	4.8	1.0	18	土 製	+ 10	円形状、土製品

## 第58号住居址（第124・125図）

本址は、57号住居址の南側1区、Y-24、Z-24グリットを中心に確認された住居址で台地は南、東側に強く傾斜を示し調査区の南東端部に占地する。東側竈端部を6号溝、西側30cmに75号住居址が位置している。主軸をほぼE方向に置き、東西2.8m、南北2.9m、隅部の丸味をもつ小型の方形プランを呈する。壁面は、垂直に近く立ち上がり壁高は東側で30cm、北側で70cmを測る。床面は、総体的に縁まりは弱く周溝部はローム剥き出し状。周溝は、幅10cm～20cm、深さ5cm～10cmで巡るが竈両端部で切れる。柱穴は検出されない。

竈は、東壁中央部に構築され外側に40cm程半円形状に掘り込み袖部は40cm程、左袖は直線的、右袖は内傾して付設、焚口部は開き気味。火床部は奥部に位置し若干掘り込む、形態的に半円形状。内側右袖部には坏が重なって出土した。黄褐色の砂質の多い粘土を用い塗かれ粘性は弱い。

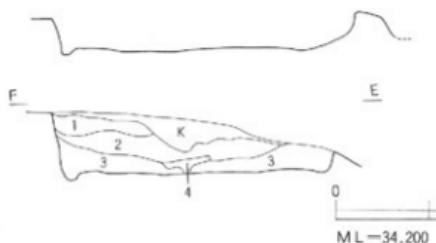
覆土は、4層に分類されたが上部に攪乱層が認められる。ほぼ自然埋蔵と理解される層序を示す。1・2・3層は褐色、下層に向かって明るさを増し、中央部に暗褐色の4層が認められ炭火粒子、焼土粒子を含む。粘性はなく縁まりは弱い。

遺物は、总数100片程中央部西側に偏在して出土し竈内からは坏が出土している。口縁部は肥厚する。竈は11唇部つまみ出し気味。2～7は坏で2は碗に近く口唇部尖る。3は体部との境いに弱い張りをもつ。口唇部は丸く收める。器肉の薄い4は内湾して立ち上がり口唇部外反する。5は小型。6・7は安定した平底。いずれも体部は窓削りを残す。8・9は皿で立ち上がりは短く口唇部丸く收める8とカット状の9がある。10から13は須恵器で10は大型の壺か…11は回転ミズビキの坏で体部の器肉は薄い。12・13は外反して立ち上がる器形。土製の丸球は球形状、孔部円形で重さ11gから22g、14はメノウで長円形球状。

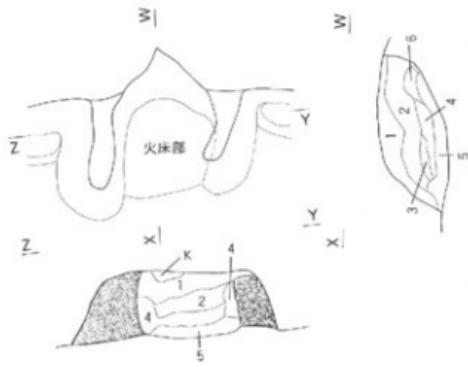


土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	硬り
1	褐色	炭化粒子極少量、礫土粒少量。ローム粒や多量	弱い	弱い
2	褐色	粒や多量、炭化粒子極少量	〃	〃
3	褐色	ローム粒多量、ブロック少量	やや 有り	強い
4	暗褐色	ローム粒、炭化粒子少量 焼け粒極少量	無し	弱い



土層凡例（窓）

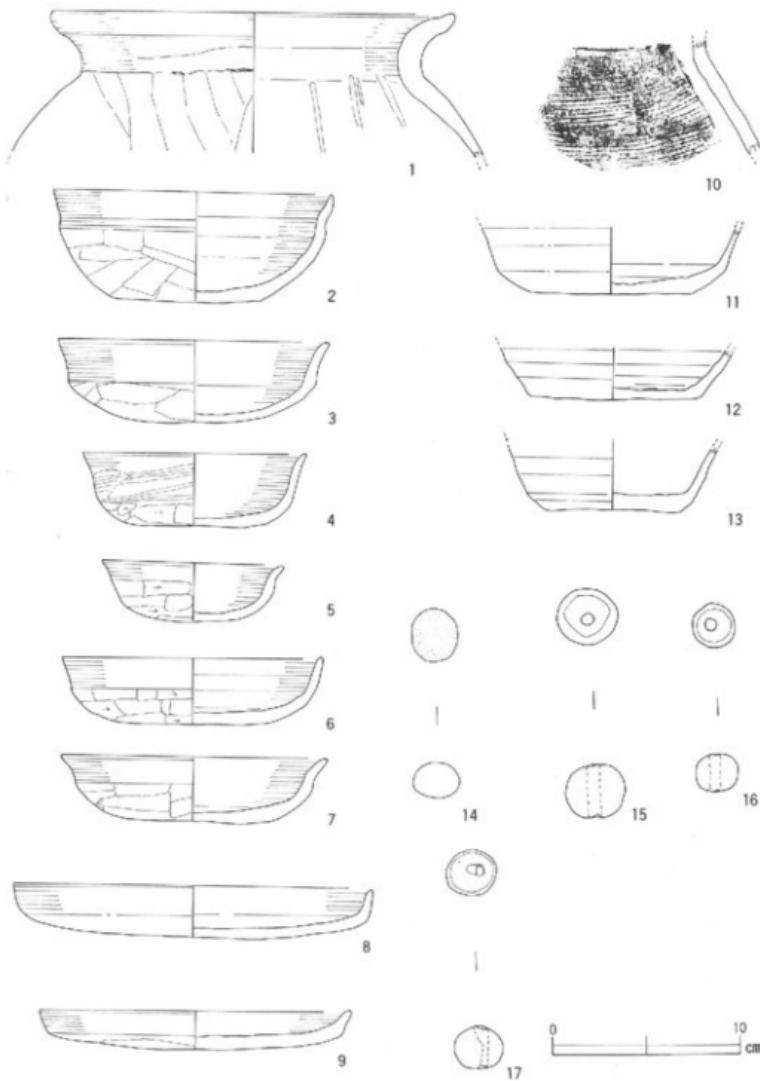


番号	色調	含 有 物	粘性	硬り
1	黄褐色	黄褐色砂質粒子少量、ロームブロック極少量	弱い	やや 有り
2	にじむ 黄褐色	黄褐色砂質粒子やや多量 焼け粒少量	〃	〃
3	褐色	黄褐色砂質粒子やや多量 焼け粒少量	〃	弱い
4	赤褐色	黄褐色砂質粒子少量、焼け粒多量、焼上ブロック極少量	無し	〃
5	棕褐色	黄褐色砂質粒子、礫土粒 炭化粒子少量、炭化粒子やや多量	弱い	〃
6	にじむ 黄褐色	2層に近い		

第124図 第58号住居址、窓実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A 21.5 B C	球形状剖部の器形か、口縁「く」の字状外反 口唇部つまみ出し気味。	横ナデ、箝削り ナデ	礫 にぶい褐色 やや良	10 % + 10
2	壺 土師器	A 14.9 B 6.0 C 7.0	安定した平底からゆるく内側して立ち上がり 口縁部との間でゆるく結れ外反、口唇部尖る。	横ナデ、箝削り、 内面丁重な横ナデ ナデ	礫、雲母、長石 褐色 やや良	80 % 床 直
3	壺 土師器	A 14.4 B 4.4 C 6.4	平底からゆるく内側して立ち上がり体部との 間には弱い縫をもち、口縁部外反、やや肥厚、 口唇部丸く収める。	横ナデ、箝削り (内面ナデ、丁重)	礫、長石 にぶい褐色 やや良	100 % 床 直
4	壺 土師器	A 11.9 B 3.9 C 7.1	平底から鋭角に立ち上がり口縁部外反気味口 唇部丸味をもつ。(②の中に入って出上)	巻上げ?底部箝削り ナデ	礫、スコリア 褐色(にぶい褐色) やや良	100 % 床 直
5	壺 土師器	A 9.8 B 3.2 C 5.2	やや丸底気味の底部から内側して立ち上がり 口縁外反、口唇部尖り気味。(小型)	横ナデ、箝削り ナデ	礫、雲母、長石 褐色 やや良	100 % 床 直
6	壺 土師器	A 13.9 B 3.6 C 8.0	安定した平底からゆるやかに立ち上がり口 縁部長目外反、口唇部丸く収める。	横ナデ、箝削り ナデ	礫、長石 褐色 やや良	70 % + 10
7	壺 土師器	A 14.2 B 3.5 C 7.8	平底からゆるく内側して立ち上がり口縁部外 反、口唇部丸く収める。	横ナデ、箝削り ナデ	礫、雲母 褐色(黄褐色) 普通	60 % + 10
8	壺 土師器	A 19.2 B 2.7 C 16.0	安定した平底から直立して口縁部に移行や や外反気味、口唇部丸く収める。	横ナデ、ナデ 底部四削り	礫、雲母 褐色 やや良	70 % 床 直
9	壺 土師器	A 16.6 B 2.1 C 15.5	ほぼ平坦水平に近い底部から開いて立ち上 がり鋭い。口唇部丸味をもって収める。	横ナデ、箝削り ナデ	礫、雲母 褐色、黒褐色 普通	60 % 床 直
10	壺 須恵器	A B C	頸部下端、横位の平行叩きをもつ。かき目状。	叩き、ナデ	安母、礫 灰白色 やや良	1 % + 15
11	壺 須恵器	A B C 8.7	碗に近い器形か、器肉を減じて立ち上がる、 口唇部消失。	粘土紐巻上げ? 回転ミズビキ、ナデ 底部回転施調輪 (右回転?)	礫、長石 灰褐色 やや良	40 % + 17
12	壺 須恵器	A B C 9.2	平底から開いて立ち上がり口唇部消失、底部 回転施切り。	巻上げ、 回転ミズビキ、ナデ 左端	礫、長石、雲母 褐色 普通	30 % + 20
13	壺 須恵器	A B C 7.4	安定した底部から外反して立ち上がり、器肉 を減じる。口縁部消失。	ロクロ水引か? ナデ	礫、 褐色 良	30 % + 25



第125図 第58号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
14	スリ石?	2.9	2.4	1.9	25	メノウ	+	10 自然石円形、丸くスリ石状?
15	土 罐	2.8	3.2	0.7	22	土 製	+	12 不整形球状、孔部正円形
16	"	2.0	2.2	0.6	11	"	覆土中	不整形球状、孔部円形
17	"	2.3	2.7	0.8	14	"	"	不整形球状、孔部方形状

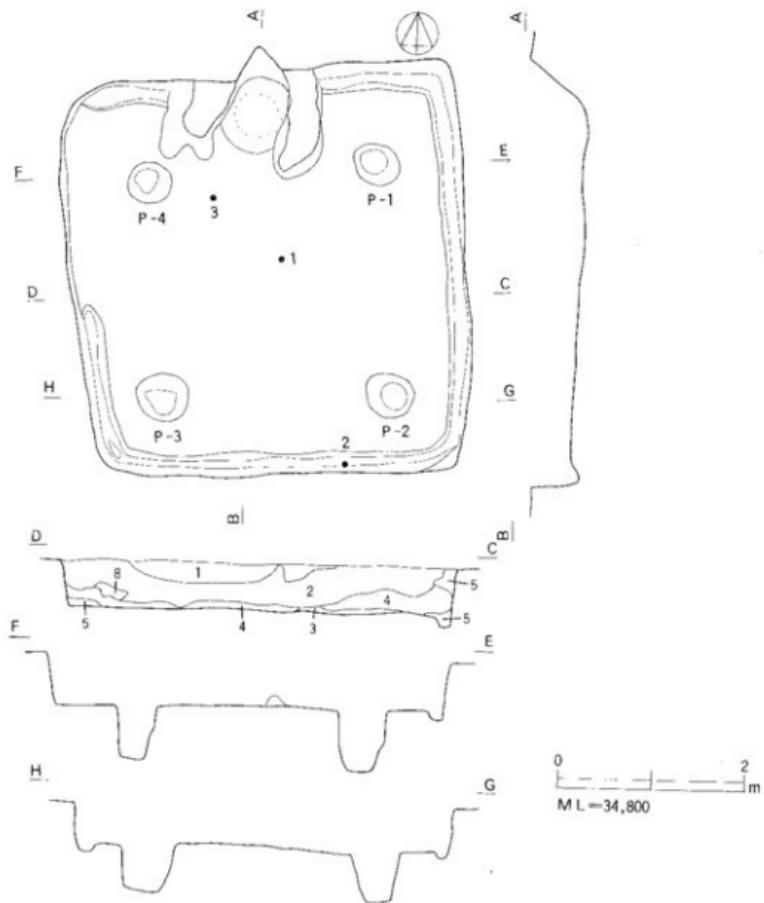
## 第59号住居址（第126・127・128図）

本址は、56号住居址の東南側1区、Y-19・20、Z-19・20グリットを中心に確認された住居址で台地はほぼ平坦に移行する。北西隅部で56号住居址の南壁面の一部を掘り込み、西側では60号住居址の壁面と、ぎりぎりに接し若干の切り合い関係にある。主軸をN-4°-Wに置き、東西4.3m、南北4.4m、隅部の丸味をもつ不整形形状の方形プランを呈する。壁面は、開き気味に立ち上がり壁高は50cm前後を測る。床面は、総体的に綺まりは弱いが一定した固さを有していた。中央部が若干高くなる他は、ほぼ平坦に移行する。周溝は、西壁側で欠失部も認められたが他は幅10cm~20cm、深さ10cm前後でU字状に巡る。柱穴は、4ヶ所認められいずれも径50cm前後の円形を呈し、深さは50cm~60cmで一定し掘り方はU字形状態。一部に二段の掘り込みも認められた。

竈は、北壁中央部に位置し検出された。外部へは30cm程U字状に掘り込み袖部は西向きに右側は1.2m、左側は80cmと長く付設、焚口部は開く。火床部は中程に位置し5cm程掘り込む。黄褐色の粘土を用い塗いている。形態的にはU字形状であるが西側を向く焚口は、本遺跡では唯一のものである。（袖部は幅広い）

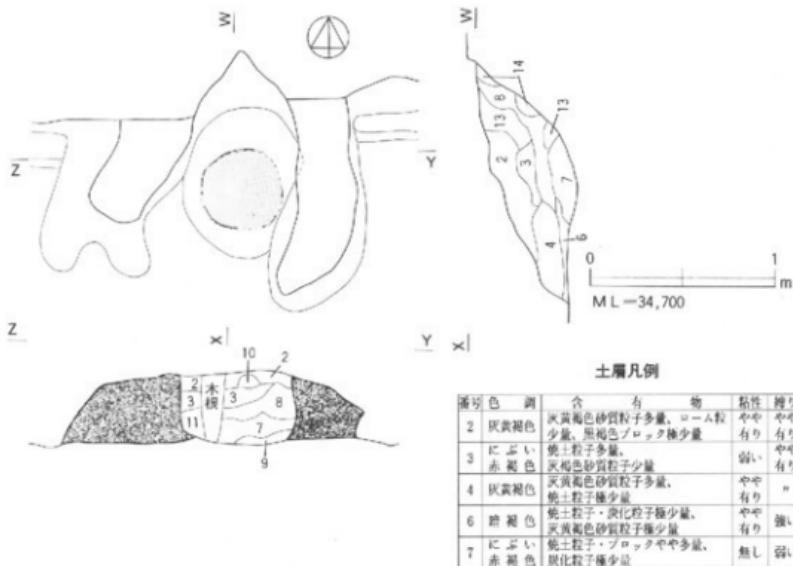
覆土は、レンズ状の自然埋積と理解される層序を示す。確認面1・2層は褐色、ロームブロック、粒の混入量の差、4層も同様に近い。5層は周溝部分に認められる明褐色層、3層は床面に面する明褐色層で若干投げ込み的部分も認められる。

遺物は、総数100片程認められ散在して出土していた。器形の窺えるものは少ない。甕は、頸部「く」の字状に強く外反、口唇部はつまみ出し、頸部に刷毛状？、調整痕をもつ。須恵器坏は、外反して立ち上がり口唇部を丸く収める。碗に近い3も見られた。3はロクロ水引か？底部はナテ調整。



土層凡例

第126図 第59号住居址実測図



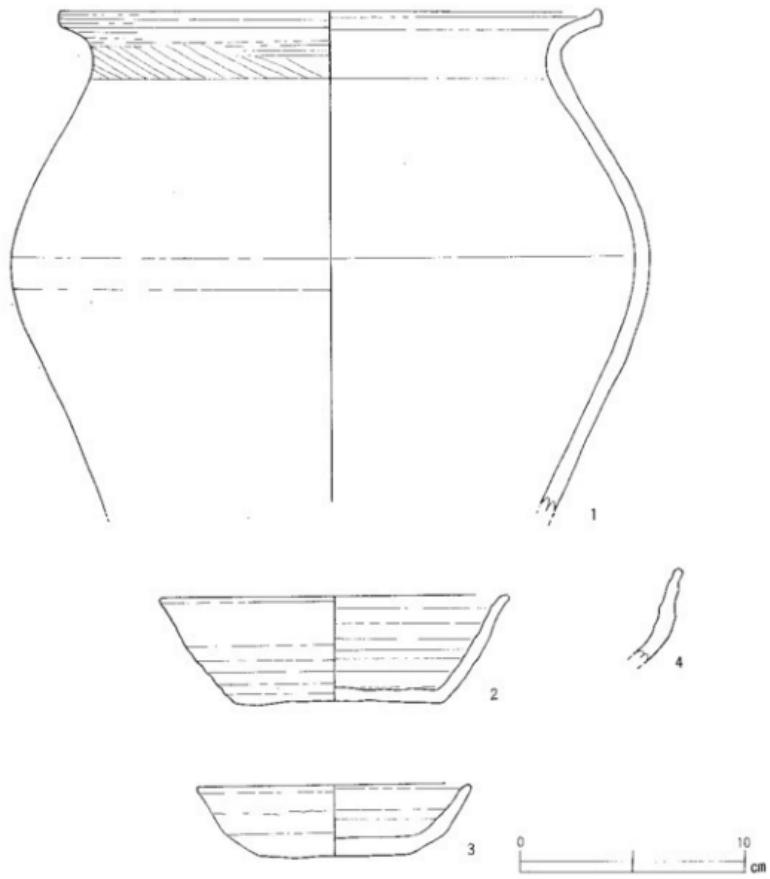
第127図 第59号住居址遺実測図

土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	塊り
2	灰黄褐色	灰黄褐色砂質粒子多量、ローム粒少量、黒褐色ブロック粒少量	やや有り	やや有り
3	赤褐色	赤褐色砂質粒子多量	弱い	やや有り
4	灰黄褐色	灰黄褐色砂質粒子多量、褐色土粒子極少量	やや有り	なし
6	暗褐色	褐色土粒子、灰化土粒子極少量、灰黄褐色砂質粒子微量	やや有り	強い
7	にぶい赤褐色	褐色土粒子、ブロックやや多量、灰化土粒子極少量	無し	弱い
8	赤褐色	灰黄褐色砂質粒子多量、褐色土粒子少量	やや有り	やや有り
9	黄褐色	褐色土粒子微量	無し	なし
10	明赤褐色	黒褐色ブロック極少量、褐色土粒子多量、灰黄褐色砂質粒子少量	無し	強い
11	にぶい赤褐色	褐色土ブロック、黄褐色砂質粒子やや多量	弱い	やや有り
12	褐色	ローム粒子やや多量	やや有り	なし
13	明褐色	ローム粒子多量、ブロック少量	なし	なし

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 土器	A 24.0	最大径を胴上位に置き、活れは強いが口縁は短く、「く」の字状に強く外反、口唇部上方へつまみ出す。	横ナデ、横状調整 痕を残す。ナダ	疎、石英 暗褐色 やや良	30 %
		B				床直
		C				
2	环 須恵器	A 15.5	安定した半底から開いて立ち上がり口唇部丸く収め外反。	粘土絞巻上げ 回転ミズビキ、ナダ	疎、密母 灰褐色 やや良	60 %
		B 4.6				+ 34
		C 9.2				



第128図 第59号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
3	壺 須恵器	A 12.1	平底からゆるく内傾して立ち上がり、口唇部丸く収める。	粘土縁巻上げ？ 回転ミズビキ 窓割り、ナデ(底部)	礫、長石 褐灰色 良	15 % 1 20
		B 3.2				
		C 6.8				
4	壺 須恵器	A	やや鋭角に立ち上がるか、口唇部つまみ出し状？丸く収める。	粘土縁巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 底部窓割り	礫、長石 灰褐色 やや良	10 % 覆土中
		B				
		C				

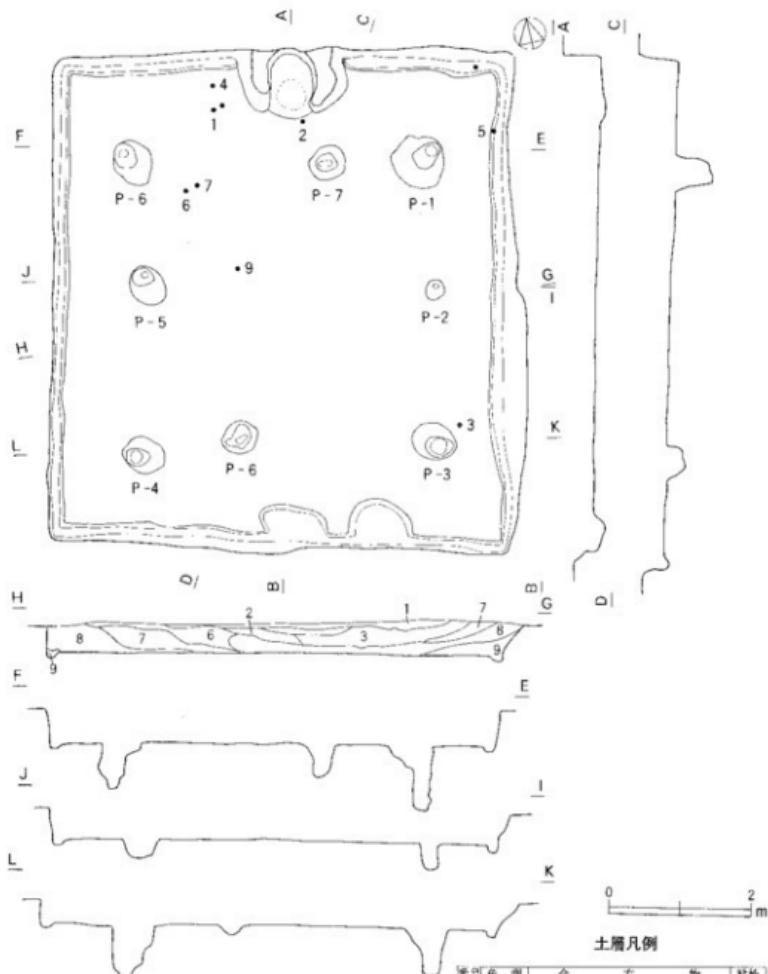
#### 第60号住居址（第129・130・131図）

本址は、59号住居址の西側、56号住居址の南側1区、Y-20・21、Z-20・21グリットを中心確認された住居址で台地は緩く西側に傾斜を示す。56号住居址の一部、59号住居址の極一部を掘り込み切り合い関係にある。主軸をN-9°-Eに置き、東西6.4m、南北6.8m、隅部の鋭角なやや大型の方形プランを呈する。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がり壁高は30cm～60cmを測る。床面は、竈前面を中心に良く固められ僅かに周溝部、南壁部周辺にローム剥き出し状の部分を認められた。ほぼ平坦に移行する。南側壁面部に貯蔵穴と思われる半円形状の浅い掘り込みが二ヶ所認められた。径90cm、深さ10cm～30cmと浅い。柱穴は、6ヶ所認められ、他に2ヶ所ピットが確認された。隅部、壁面からやややすれて位置しP1・3・4・5・6は楕円形状で径50cm～70cm、二段の掘り込み、深さ65cm～90cmを測る。P2・P5は中央部に位置するもので径25cm～50cm、深さ30cm前後、円筒形、U字状と掘り方、深さ、径に違いが認められ、P7・8としたピットは浅く7は、U字状掘り込みをもつ柱穴とは考えにくい。

竈は、北壁中央部に位置し確認された。外部へ掘り込みはなく袖幅が円形状に90cm程付設され袖幅は広く、焚口部は狭くなる。火床部は5cm程掘り込み前面に位置している。煙道部は垂直に立ち上がる。本遺跡で類例はない。黄褐色の粘土を用い筑いている。形態的には円形状。

覆土は、9層に分類された。確認面1・3・6層は褐色、にぶい褐色が認められ中央部で3・4層と若干の差異を認めるがレンズ状の自然埋積と理解出来る。9層周溝部は明褐色、比較的綿まりはある。ロームブロック、粒、粒子、焼土粒子等の混入量の差。

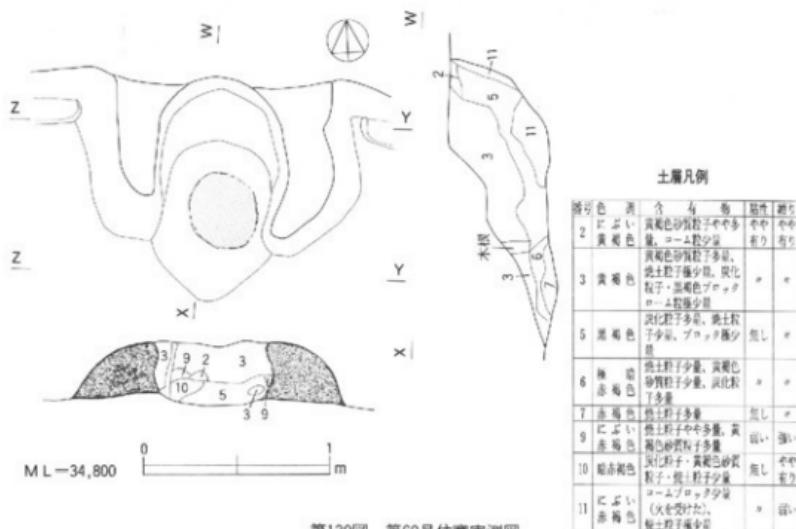
遺物は、散在して200片程出土した。頸部長目で口唇部丸味をもつ。壺は、肩部に顕著な稜をもち内傾し薄いものと半球形状のものが認められ、図示した6・7は2層上部から出土した須恵器で本址とはかなり時間差をもつ。6は安定した平底から外反して立ち上がる。1は、短い付高台を有し直立気味、8は手捏土器、上製の丸球は球形状で孔部円形、重さ20g。



ML = 34,700

番号	色調	含 有 物	粒性	綿り
1	褐色	陶土粒・藻類少量	細い	弱い
2	暗褐色	ローム粒少量、陶土粒少量	n	n
3	灰褐色	ローム粒・粒子少量、 ブロック藻類少量	やや 有り	n
4	褐色	ローム粒少量、 陶土粒少量	n	n
5	褐色	ローム粒少量、 ローム・ブロックやや多量、 粒子少量	n	やや 有り
6	褐色	ローム粒多量、 ローム・ブロック・粒子・粒少量	中や 有り	n
7	褐色	ローム・ブロック少量	n	n
8	褐色	ローム粒多量、 ブロック少量	n	n
9	明褐色	ローム粒多量、 ブロック少量	n	n

第129図 第60号住居址実測図

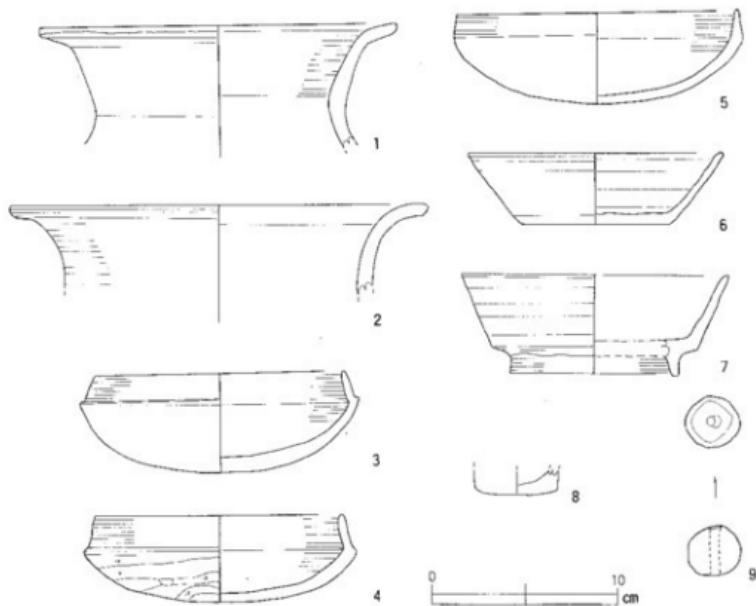


第130図 第60号住居実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺?	A 18.9	器形的には壺に近い、頸部長く口縁は水平に開き、口唇部は丸く收める。	横ナデ、ナデ	礫 にじいろい やや良	10 %
	土器	B				+ 46
	C					
2	甕	A 22.3	やや長めの頸部か? 口縁部は水平に開き口唇部は外面カット状。	横ナデ、ナデ	礫、長石 黄褐色 やや良	10 %
	土器	B				
	C					床直
3	环	A 13.3	丸底気味の底部からゆるく内壁して立ち上がり、肩部に段状の受部、口縁長目で内傾口唇部尖る。	横ナデ、箆ナデ状 ナデ	礫、長石 にじいろい やや良	80 %
	土器	B 5.3				+ 12
	C 4.0					
4	环	A 13.4	平底に近い底部からゆるく内壁して立ち上がり、肩部に段をもち、長目の口縁部は内傾、口唇部は丸く收める。	横ナデ、箆削り ナデ	礫、長石 黒褐色(橙色) 良	40 %
	土器	B 4.6				+ 19
	C 4.5					
5	环	A 15.0	丸底気味、ゆるく内壁して立ち上がり、肩部で内傾気味の口縁、口唇部断面三角形状に尖る。丁重なナデ調査。	横ナデ、ナデ ナデミガキ状	礫、長石 にじいろい やや良	90 %
	土器	B 5.0				
	C 3.0					床直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
6	环 須恵器	A 13.5 B 3.8 C 8.0	平坦な底部から開いて立ち上がり口唇部やや丸く肥厚する。	底部、体部ナデ調整	礫、長石 褐色 やや良	20 % + 46
7	高台环 須恵器	A 14.3 B 5.3 C 9.0	高台は短く直立気味、短い、器肉を減じて開いて立ち上がる。口唇部丸く収める。	ロクロ水引か?回転ミズビキ?ナデ	礫、長石 褐色 良	20 % + 46
8	手 槌 土器	A B C 4.4	半底、ほぼ安定しているが立ち上がりは不規則?	ナデ、鋤削り	礫、長石 にぶい橙色 やや良	40 % 箇土中



第131図 第60号住居址出土遺物実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
9	土瓶	2.7	2.9	0.8	20	土製	+ 41	ほぼ球形状

## 第61号住居址（第132・133・134図）

本址は、59号住居址の東側2区、A-19・20、B-19・20グリットを中心に確認された住居址で台地は東側に傾斜を示し調査区の東端部に占地する住居址で6号溝に中央部東側を切り込まれ遺存状態はあまり良くない。主軸をN-15°-Wに置き、東西6.3m、南北6.2m、隅部の鋭角な方形プランを呈する大型の住居址である。壁面は、緩く外反して立ち上がり壁高は東側では30cm、西・北側では60cmを測る。床面は良好な締まりを有していたが、東側の一部を6号溝に掘り込まれ二分されていた。周溝は北・西・南の隅部に「V」の字状に認められたが幅は10cm~22cm、深さ5cm~10cmと浅く不明瞭の部分がある。ほぼ水平に移行する。柱穴は、4ヶ所確認されいずれも円形でP1・P2は径40cm深さ75cmを測る。P3・P4は径60cm~65cm深さ55cm~70cmで二段の掘り込みを呈しP4からは甕が出土している。

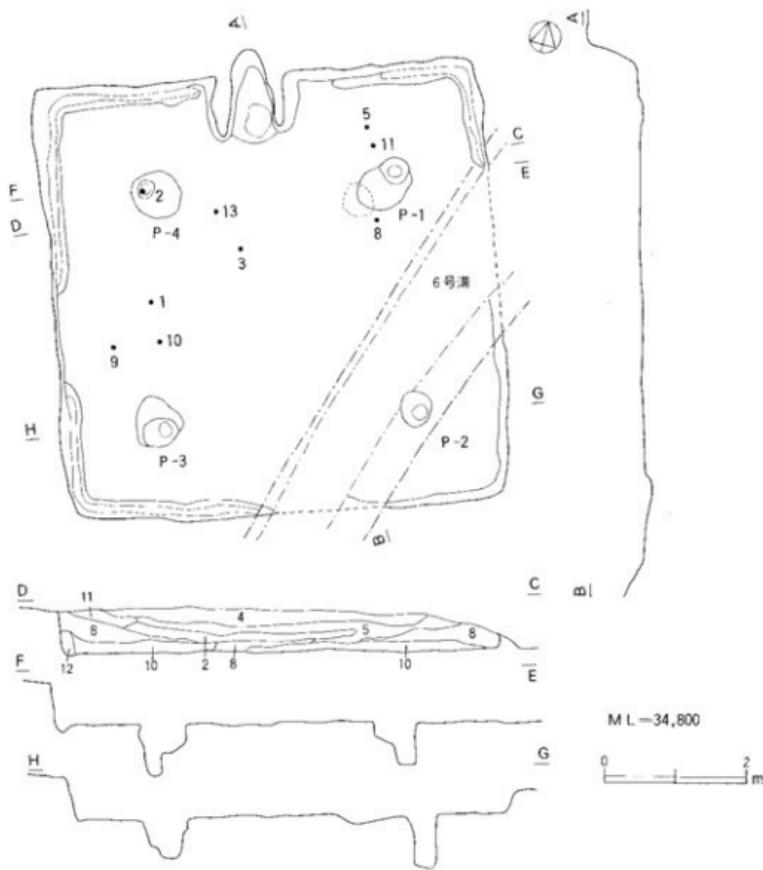
甕は、北壁中央部に位置し構築されていた。外部へ30cm程U字状に掘り込み袖部は80cm程開いて付設、焚口部は開く、火床部は10cm程掘り込み前面に位置し、水平に移行してから強く立ち上がる。U字状形態。

覆土は、12層に分類されレンズ状の自然埋積を呈している。確認面の4層は黒褐色、床面に向かって明るさを増し明褐色。6層、12層に焼土粒子が混入されていた。締まりはややある。いずれもローム粒、粒子、ブロックの混入量の差で粘性、締まりから分類した。

遺物は、総数300片程中央部に散在して出土した。長胴気味の甕が認められ口頸部は肥厚外反し、口唇部は丸く収める。坏は、半球形状で口縁部は長めで直立する小型で器肉の薄いものが認められ6は須恵器。手捏状の7、支脚は小型化し円筒状、上製の丸球は粗雑な調整で孔部半円形、三ヶ月状、円型等が認められ重さ7g~30gを計る。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土瓶器	A 16.3 B 22.5 C 8.5	安定した底盤から内縁して立ち上がり頸部「く」の字状外反、口縁部水平に近く開き口唇部肥厚、丸く収める。	横ナデ、窓ナデ状ナデ	綈、長石、砂 淡い黄褐色（黒褐色、褐色） 普通	90 % 床直

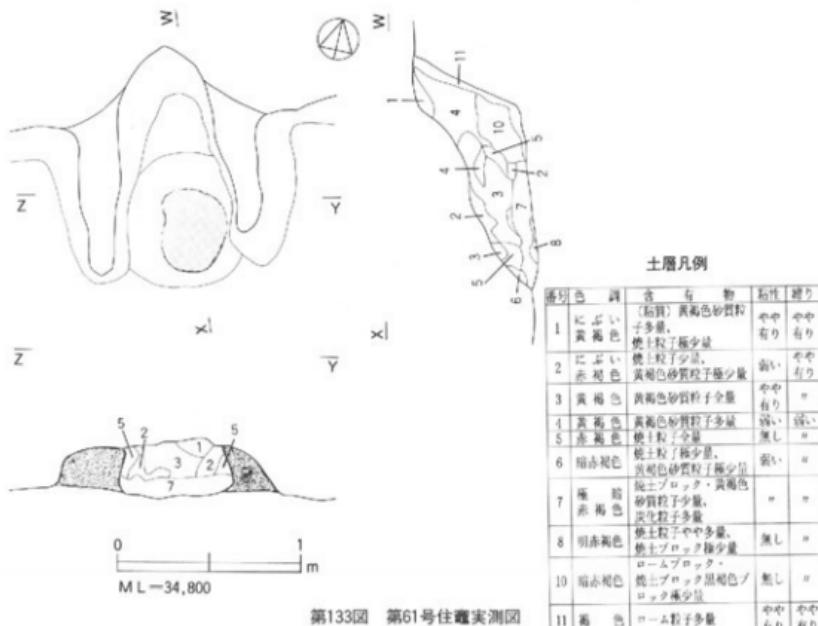


土層凡例

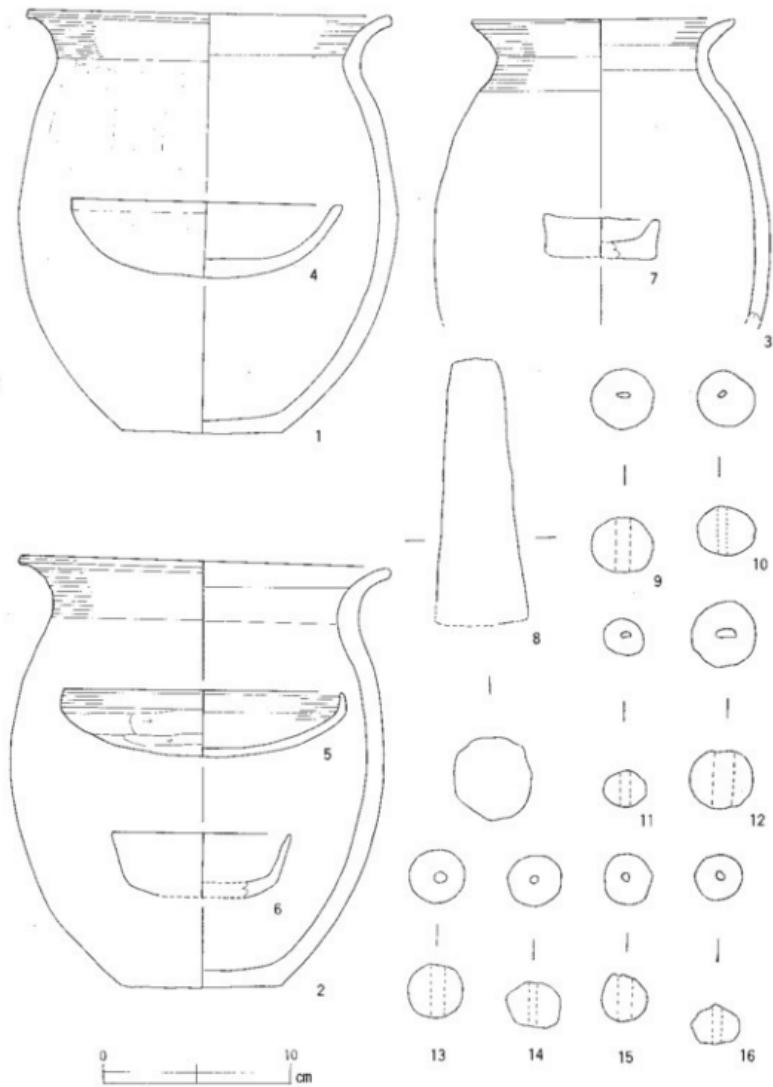
番号	色	調 査	含 有 物	粘 性	締 り
2	暗 褐 色	ローム粒・粘土粒極少量	"	"	"
4	褐 色	ローム粒極少量	"	"	"
5	褐 色	ローム小ブロック・粒小・粒少量	"	"	"
8	明 褐 色	ローム粒子多量、粒少量	やや 有り	やや 有り	"
10	褐 色	ローム粒子・ブロック多量	"	"	"
11	明 褐 色	ローム粒子・ブロック多量	"	"	"
12	褐 色	ローム粒子・粘土粒少量	多い 無い	無い 無い	"

第132図 第61号住居址実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	壺 土師器	A 19.8 B 23.0 C 8.4	肩部のくびれは深く口縁部外反水平に近く開く、口唇部丸く肥厚して収めている。最大径を胸中位に置き長胴形状。	横ナデ、継位の擦ナデ、ナデ	礫、長石 褐色一黒褐色 やや良	90 % P 4 中
3	小型壺 土師器	A 13.9 B 13.0 C	肩部の上位に弱いハミダシ状の棱をもつ肩部長胴形、頸部「く」の字状外反口縁部水平に近く開き口唇部丸く収める。	横ナデ、擦ナデ状ナデ	礫、長石 にぶい橙色 普通	20 % 床 直
4	壺 土師器	A 14.4 B 4.0 C 5.3	丸底から張り気味に開いて立ち上がり、口唇部外側へ肥厚し丸く収める。	ナデ	精選 にぶい橙色 良	90 % 床 直
5	壺 土師器	A 14.8 B 3.5 C 4.5	平底気味ゆるやかに内彎して立ち上がり口縁部やや内傾気味。口唇部尖り気味。	横ナデ、箇削りナデ	礫、長石 にぶい黒褐色 やや良	50 % 床 直
6	壺 須恵器	A 9.5 B 3.5 C	平底やや厚目から鋭角的に立ち上がる。器肉は薄く口唇部尖り気味。	回転ミズビキ? ロクロ水引き?ナデ	礫 褐灰色 やや良	20 % 覆土中
7	手 捶 土師器	A 6.2 B 2.0 C 6.0	鉢に近い手程、内外指頭押え、底部木葉痕をもつ。	指頭押え、ナデ	礫 褐色 普通	30 % 覆土中



第133図 第61号住處実測図



第134図 第61号住居址出土遺物実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
8	支脚	14.8	5.0	4.5	295	土 製	+	12 下端一部欠失、方円形状
9	土 鏟	2.9	3.3	0.8	31	"	+	32 ほぼ球形状、孔部長円形
10	"	2.6	3.0	0.5	21	"	+	9 つぶれた球形状、孔部長方形状
11	"	1.8	2.1	0.7	7	"	+	26 やや小形不整形球状、孔部長方形
12	"	3.0	3.4	1.1	30	"	床 直	不整形球形状、孔部長円形状
13	"	2.9	2.9	0.7	23	"	覆土中	ほぼ球形状、孔部正円形状
14	"	2.3	2.8	0.4	21	"	"	不整形粗雫、球状、孔部正円形
15	"	2.5	2.5	0.7	14	"	"	不整形粗雫、孔部円形状
16	"	2.0	2.5	0.5	10	"	"	つぶれた球状、孔部半円形状

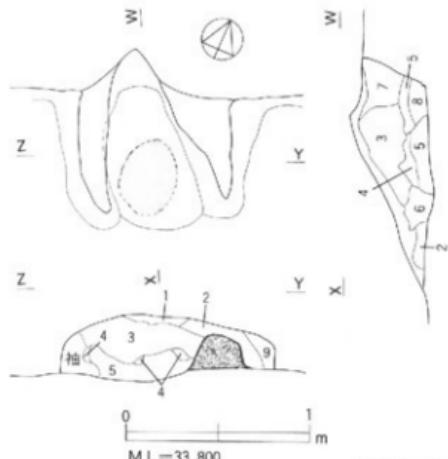
### 第62号住居址（第135・136・137図）

本址は、59号住居址の南西側1区W-21・22、X-22・23グリットを中心に確認された住居址で台地は南側に強く傾斜を示し3分の1程を欠失していた。北側隅部で62号住居址を掘り込み複合関係にあり切り合い関係からは62号が新しい。主軸をN-24°-Wに置き東西3.8m前後、南北4.25m、隅部の鋭角な方形プランを呈する。壁面は、北、東側で70cm~80cmを測り深いが南側では欠失している。床面は、良好な締まりを有し、ほぼ平坦に移行している。柱穴は、3ヶ所確認されたがP3は確認出来なかった。いずれも円形状で径30cm~40cm、深さ35cm~55cm、U字状形を呈する。周溝は、幅10cm~20cmで南側欠失部を除き巡り、深さ10cm~20cmと明確に掘り込まれていた。

竈は、北壁中央部に構築され、外側に20cm程U字状形に掘り込み袖部は、70cm程直線気味に付設。火床部は前面に位置し若干掘り込む。煙道部は鋭角に立ち上がり遺存状態は良い。焚口部は若干開き気味。黄褐色粘土を用い粘性はやや弱い。形態的にはU字状形。

覆土は、10層に分類されレンズ状の自然埋積と理解される。3・5層は暗褐色、1・2・4・6・10は褐色。ロームブロック、粒、粒子、焼土粒子、炭化粒子等の混入量の差。6層は、黄褐色砂質粒子を含む。6・7層は粘性、締まりは強い。他はいずれも弱い。

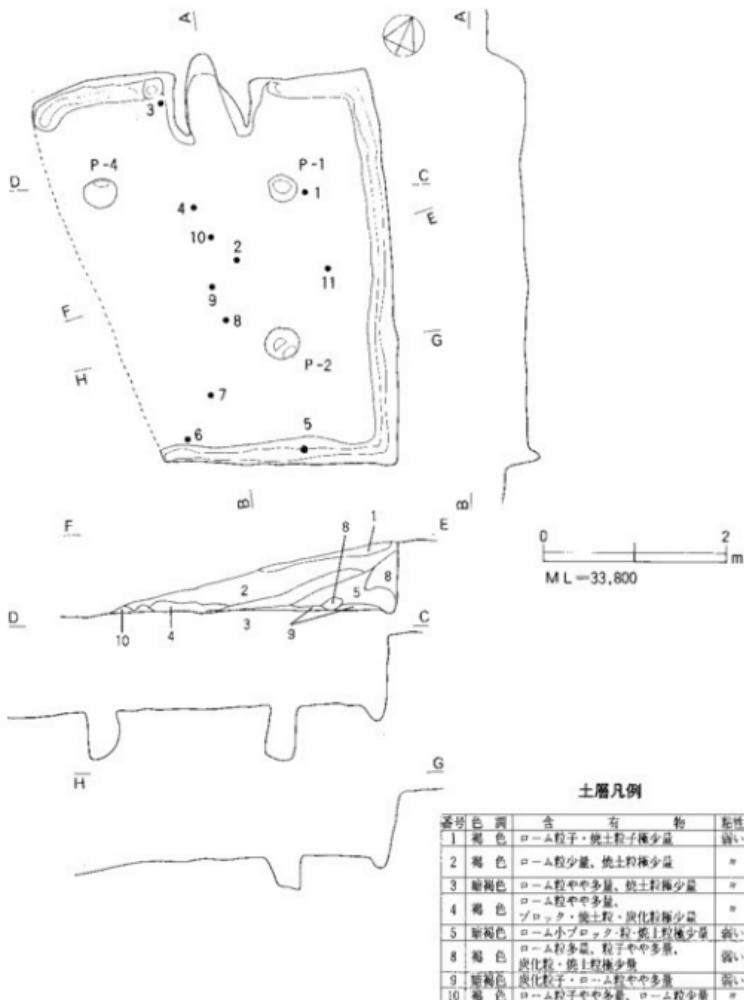
遺物は、中央部に散在して出土し総数100片前後。小型の鉢に近い甕、壺は、小型化し半球形状、口唇部は内面、外面にカット状。長くかなり使用痕を残し渦曲する砥石が出土している。土製の丸球は、いずれも押しつぶされた球形状を呈し重さ10g~30gを計り、孔部凹形状。



第135図 第62号住竈実測図

土層凡例

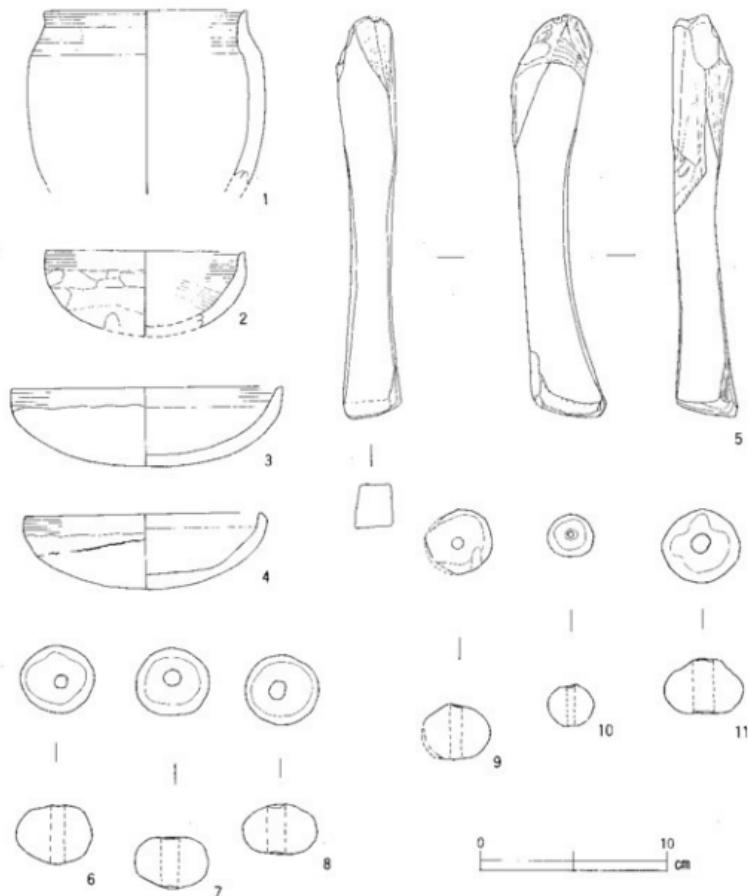
番号	色調	含 有 物	粘 性	締 み
1	にじい 黄褐色	黄褐色砂質粒子少量	弱い	弱い
2	褐 色	黄褐色砂質粒子や多量	やや 有り	やや 有り
3	にじい 黄褐色	黄褐色砂質粒子多量、 燒土ブロック少量	#	強い
4	赤褐色	燒土粒子多量	無し	やや 有り
5	にじい 赤褐色	黄褐色砂質粒子少量	やや 有り	##
6	赤褐色	黄褐色砂質粒子多量、燒土ブロ ック少量、燒土粒少量	やや 有り	##
7	にじい 黒褐色	黄褐色砂質粒子多量、 黑色粒少量	やや 有り	やや 有り
8	褐 色	黄褐色砂質粒子少量	弱い	弱い
9	褐 色	ローム粒子極少量、 黄褐色砂質粒子極少量	#	##



第136図 第62号住居址実測図

出土土器觀察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	小型壺 上耳器	A 10.8 B C	器形的には鉢に近いか、最大径を胴上部肩におき、口縁部内傾、口唇部開き気味で尖る。	横ナデ、ナデ 跳ナデ状、ミガキ に近い	醜、長石 褐色 普通	10 % + 33



第137図 第62号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	碗 土師器	A 10.6 B 約4.5 C	ほぼ丸底と思われる半球形状形態、口縁部直立気味で口唇部や尖り気味です。	横ナデ、鋸削り ナデ、不規則なナ デ	礫、長石 黒褐色、褐色 やや良	40 % + 6
3	环 土師器	A 14.0 B 4.2 C 4.5	丸底気味からゆるやかに内彎して立ち上がり 口縁部弱く開き口唇部丸く収める。	横ナデ、鋸ナデ ナデ	礫、長石 にぶい褐色 やや良	60 % 床 直
4	环 土師器	A 12.7 B 4.0 C 3.5	丸底に近い底部からゆるく開いて立ち上がり 口縁短く直立、口唇部尖り気味。	横ナデ、巻上痕を 残す、鋸磨状	礫 黒褐色(一部褐色) 普通	40 % + 9

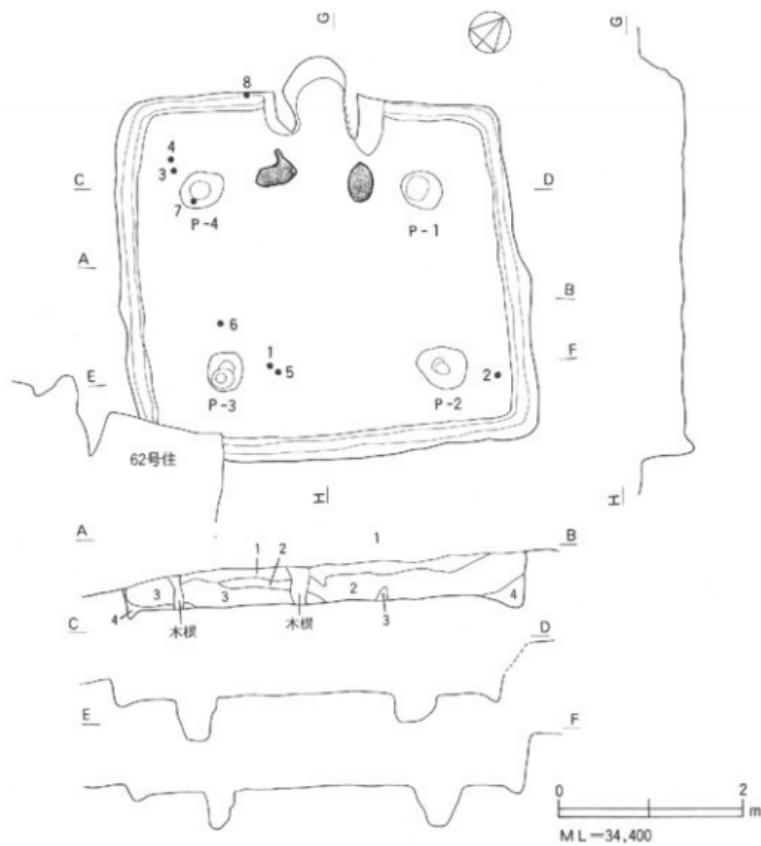
石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
5	砥石	21.7	3.8	2.4	292	凝灰岩	+ 34	四面かなりの使用痕をもち内済状にくぼむ
6	土鍤	3.1	3.9	0.7	39	土 製	床 直	不整形球状、孔部正円形狀一部欠
7	"	2.7	3.9	1.0	34	"	+ 14	不整形つぶれた球状、孔部正円形狀
8	"	2.7	3.8	0.9	30	"	+ 16	つぶれた球形狀、孔部やや長円形狀
9	"	3.0	3.6	0.6	28	"	+ 4	ややつぶれた球形、孔部正円形1/5欠失
10	"	2.2	2.4	0.4	10	"	+ 13	やや小型の球形、孔部小孔、正円形狀
11	"	2.8	4.2	1.1	39	"	覆十中	つぶれた球形、孔部やや長円氣味

## 第63号住居址（第138・139・140戸）

本址は、62号住居址の北側1区、U-21・22、V-21・22グリットを中心に確認された住居址で台地は、西側に傾斜を示している。南側隅部を62号住居址に切り込まれ複合関係にある。主軸をN-42°-Wに置き、東西4.3m、南北4.1m、剛部が若干丸味をもつ方形プランを呈する。壁面は、総じて弱く開き気味に立ち上がり西側では10cm～20cm前後、北、東側では50cmの壁高を測り傾斜は強い。床面は、竈前面、中央部では良く踏み固められていたが壁面部では僅かにあまく弱い。竈の前面には粘土ブロックが2ヶ所認められほぼ平坦に移行する。周溝は、幅20cm前後、深さ5cm～10cm程でU字形状に巡る。柱穴は、4ヶ所確認され緩いU字状形態で長径40cm～55cm、深さ30cm～50cmを測る。

竈は、北西壁面中央部に確認された。外側に30cm程円形狀に掘り込み袖部は短く直線的に付設、火床部は前面に位置し僅かに掘り込み、前面に緩やかな灰原状の部分も認められた。焚口部は、やや開き気味、煙道部は開き気味に立ち上がる。黄褐色の粘土を用い築いている。



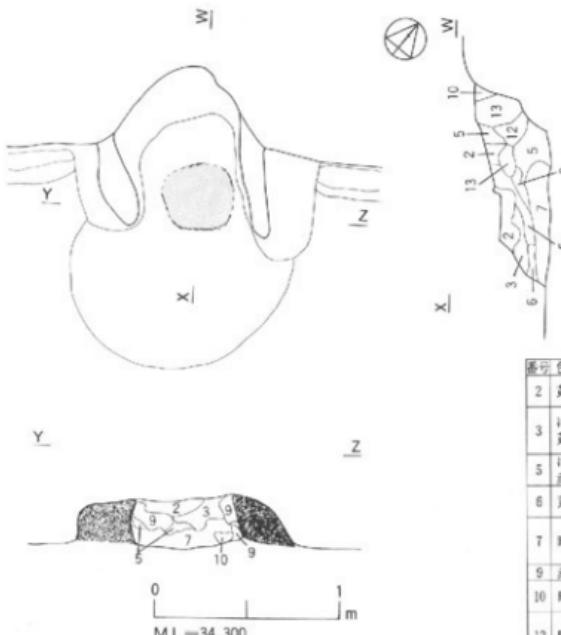
### 土層凡例

透視色調	含有物	粘性質	粒度
1 前褐色	ローム質・小ブロック少量	弱	い
2 褐色	ローム質・小ブロック・粒子多量	やや有り	やや有り
3 灰色	ローム粒子や多量。	#	#
4 明褐色	ローム粒子・ブロック多量	#	#

第138図 第63号住居址実測図

覆土は、7層に分類されたが図示した部分では4層であり高い北側から流れ込む自然埋積と理解される。確認面1層は、暗褐色、2・3層は褐色、4層は周溝部に認められた明褐色層粘性、締まりは強い。

遺物は、散在して総数150片程出土した。床面からもやや多く認められた住居址であったが図示出来る遺物は少ない。甕は、やや長胴形状気味、頸部は「く」の字状に外反。口唇部は、尖り氣味、壺は、碗に近い器形、内面に粗い笠磨きが認められる。外面に巻上げ痕を残す。皿に近い器形も存在する。5は、須恵器広口の長頸瓶かー。ロクロ水引調整。土製の丸球は、円形状で重さ15gと25gのものが認められ孔部は小円形状。

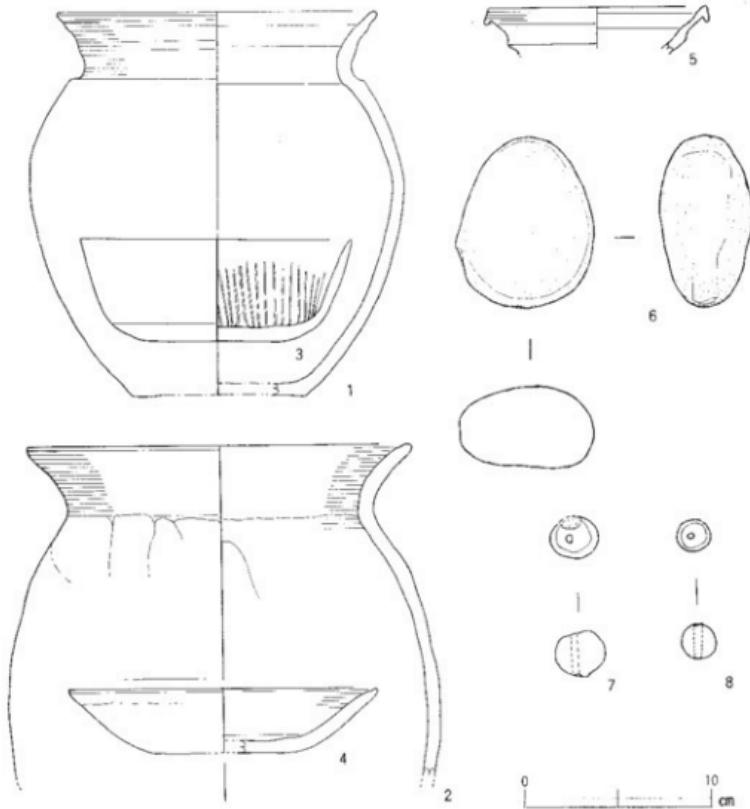


第139図 第63号住居址実測図

#### 出土土器観察表

番号	器 種	法量 (cm)	器形の特徴及び文様	整形技法		胎土 色調 焼成	備 考
				横ナデ	箇ナデ (横、縦) ナデ		
1	甕 土器	A 17.0 B 20.8 C 9.2	やや小型の甕で最大径を胴上位に置き、肩部に調整ハミダシの段をもつ、口縁部は外反口唇部丸く收める。	横ナデ、箇ナデ (横、縦) ナデ	黒、長石 褐色。(橙色) 普通	80 %	床 直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	甕 土師器	A 20.5 B C	やや長脚気味か、頸部「く」の字状外反、口縁長目でやや肥厚、口唇部丸く收める。	輪ナデ、箒削り ナデ、押え	礫、長石 にぶい暗褐色 普通	15 % 床直
3	甕 土師器	A 14.5 B 5.5 C 8.0	安定した平底から鋭角、直線的に立ち上がり 口唇部薄く尖る。内側に粗いヘラ磨きをもつ。	ナデ磨状 ナデ、ヘラ磨き	礫、スコリア 浅い褐色 やや良	20 % 床直
4	甕 土師器	A 16.5 B 3.5 C 7.0	平底から強く外反、口唇部内側に北緯状凹部 が通る。浅く皿に近い器形。	箒ナデ、ナデ 横ナデ	礫、スコリア 浅い褐色 やや良	20 % + 7



第140図 第63号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
5	長頸瓶 須恵器	A 11.8 B C	口縁部は外反する長頸瓶と考えられる。縁柱を大部分有し、口肩部下方へ折り曲げ垂下。 搬入品か。	ロクロ水引	織、淡緑灰色 良	10 % + 5

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
6	敲石	9.3	7.5	4.4	471	砂岩	床直	自然石に近い、先端部磨耗痕、顎著、長円形状
7	上鍤	2.3	2.6	0.3	11	土製	10	長円形状球状、孔部横円形状一部欠
8	"	1.9	1.8	0.4	6	"	床直	やや小型、ほぼ球形状、孔部横円形状

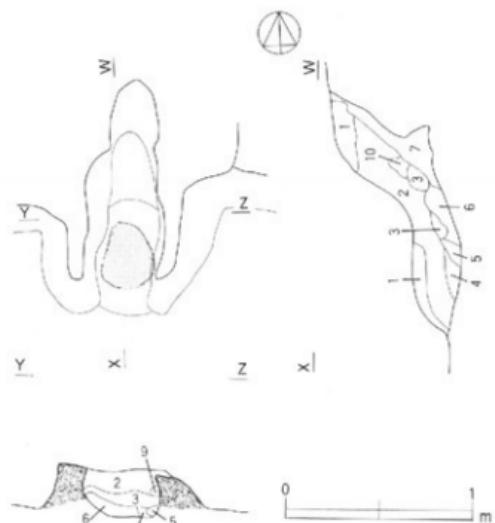
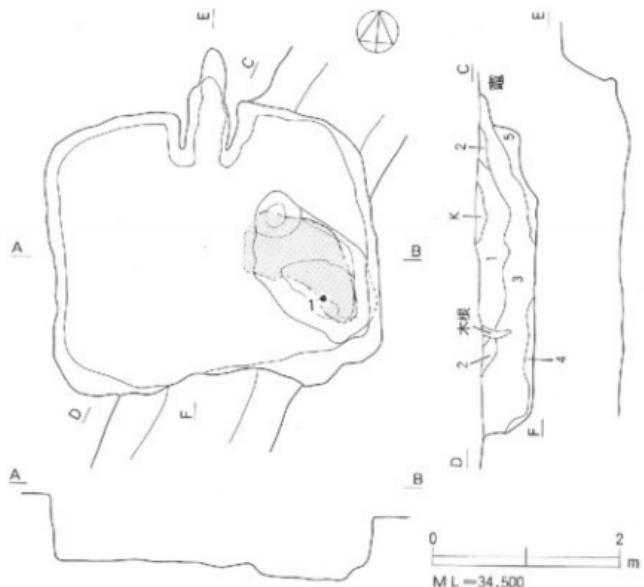
## 第64号住居址（第141・142図）

本址は、57号住居址の東側2区、A-21・22グリットに確認された住居址で東、南側に緩く傾斜を示し覆土の大半を6号溝に掘り込まれ欠失している。主軸をN-5°-Wに置き、東西3.5m、南北3mで東西に50m程長い。隅部は丸味をもつ長方形形状プランを呈する。壁面は、鋭角的に立ち上がり50cm～70cmと深く掘り込む。床面は、縒まりは弱く東側に20cm程の深さの掘り込みが認められ上部には焼上粒子が多量に認められ東南隅部側から3の碗に近い环が出土している。周溝、柱穴は検出されなかった。

竈は、北壁中央部に検出された。外側に50cm～70cm円筒状に長く掘り込む特異な形態を有し、類例は本址の東側に位置する65号住居址に認められただけであった。火床部は前面に位置し10cm程掘り込む。焚口部は幅50cmと広く、弱く開き気味、煙道部は開きながら立ち上がる。黄褐色の粘土を用い塗いている。

覆土は、大半を前述の様に6号溝に掘り込まれ遺存部は南北ラインで確認した。5層に分類された。レンズ状の自然埋積を呈している。確認面1・2層は、暗褐色、3・4・5層は褐色で粘性、縒まりはややある。5層は、竈流れ出しの黄褐色粘土層を含む。

遺物は、総数100片前後と少なく小型の皿状に近い环が出土している。他は図示出来るものではなく須恵器壺の破片が若干認められ横位の平行叩目を残す。



第141図 第65号住居址、実測図

土層凡例

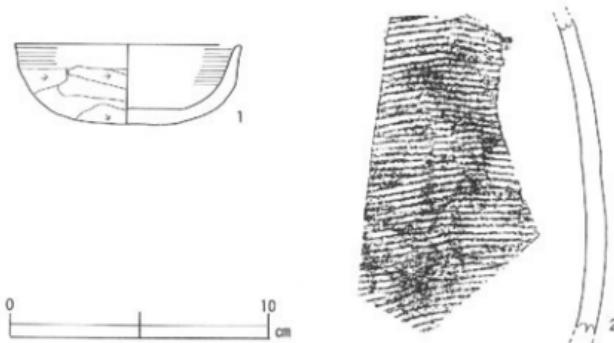
番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	暗褐色	ローム粒や多量、 粒子少量	弱い	弱い
2	暗褐色	ローム粒や多量、 粒子少量	"	"
3	褐色	ローム粒多量、 粒子少量	やや 有り	やや 有り
4	褐色	ローム粒多量、 プロック少量	"	強い
5	褐色	黄褐色砂質粒子や多量、 ローム粒少量	"	"

土層凡例(窓)

番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	黄褐色	黄褐色砂質粒子多量、 泥土粒子少量	弱い	やや 有り
2	黄褐色	黄褐色砂質粒子多量、 ローム粒少量	やや 有り	やや 有り
3	赤褐色	土上ブロック、粒子多量	無し	強い
4	にじみ 黄褐色	黄褐色砂質粒子、泥土粒子	弱い	"
5	暗褐色	炭化粒子少量	"	"
6	褐色	炭化粒子多量、 土上粒子少量	"	"
7	褐色	黄褐色砂質粒子少量、 ローム粒少量	やや 有り	やや 有り
10	黄褐色	黄褐色砂質粒子多量、 泥土粒子少量	弱い	"

### 出土土器観察表

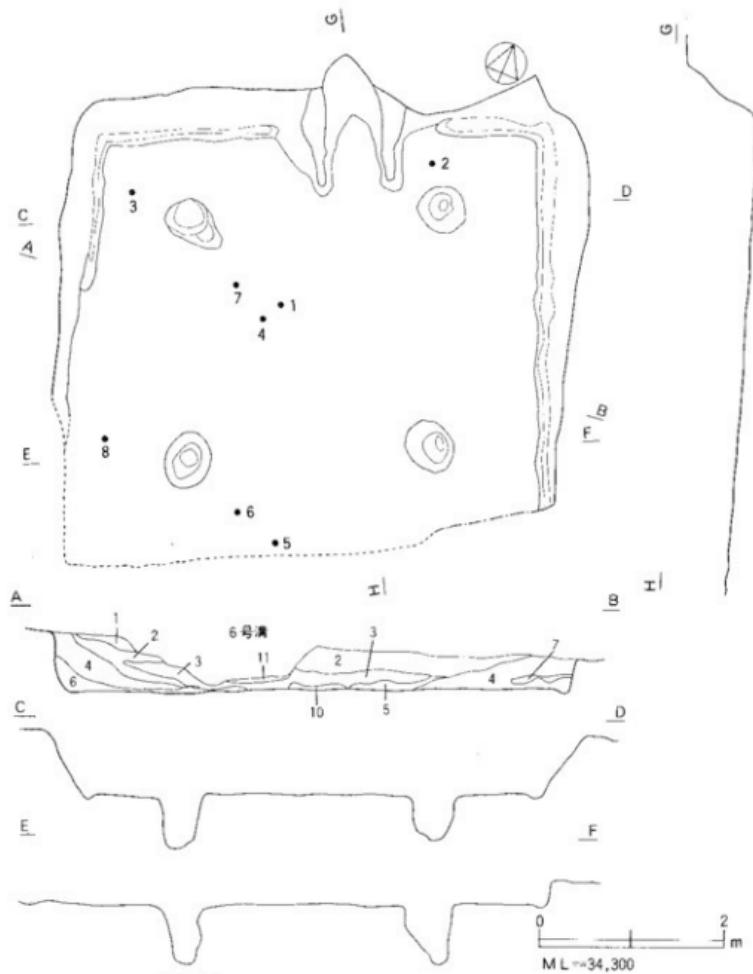
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	壺形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	小型環土師器	A 8.7 B 3.2 C 4.5	小型で平底から内側して立ち上がり口縁部開き気味、口縁部は丸く收める。外面粗雰、内面丁重な調整(火打明面?)	横ナデ、箒削りナデ	疊、長石一部黒褐色、褐色良	100%床直
2	大型甕須恵器	A B C	横位の平行叩きをもち内面は当面を、丁重なナデで消している。	叩き、ナデ	疊 褐灰色 やや良	覆土中



第142図 第64号住居址出土遺物実測図

### 第65号住居址（第143・144・145図）

本址は、64号住居址の南側1区、Z-23、2区A-22・23グリットを中心に確認された住居址で台地は南、東側に傾斜を示し特に南側へは強い傾斜面を有し、壁面は存在しない。中央部覆土の大半を6号溝に掘り込まれ床面直前に達している。主軸をN-13°-Wに置き、東西5.6m、南北約5.3m前後の隅部の鋭角的な方形プランを呈すると推定される。壁面は、南側で欠失し、北側では50cm前後を測り強く開く。床面は総体的に綿まりを認める。北側にゆるく傾斜を示す。柱穴は、4ヶ所認められ隅部からやや離れた位置に認められた。いずれも径40cm～50cmの円形、梢円形状、深さ50cm～70cmを測る。周溝は、北側、東側に幅10cm～15cmで深さ5cm前後でゆるいU字状形態で認められた。



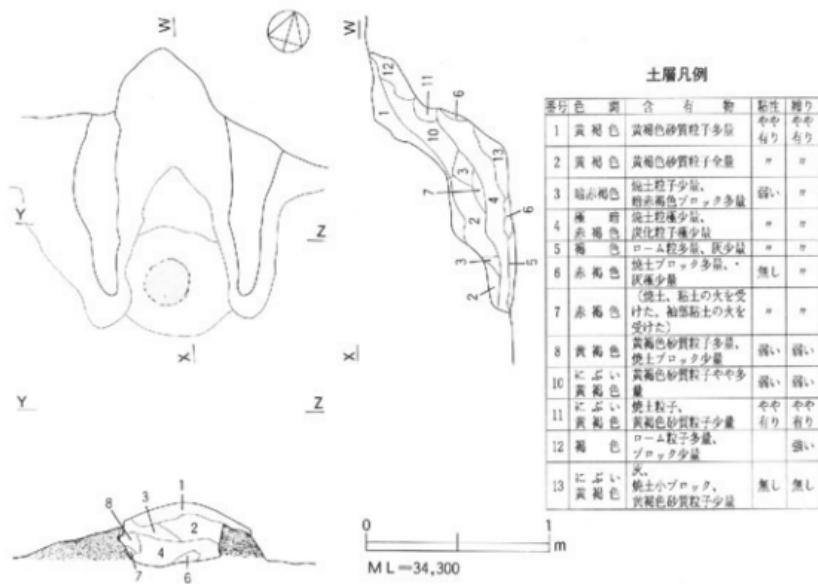
土層凡例

番号	色調	含 有 物	特 性	継 り
1	褐色	ローム粒子極少量	弱い	弱い
2	暗褐色	ローム粒多量、鐵土粒、極少量	〃	〃
3	黒褐色	炭化物極少量、ローム粒少量	〃	〃
4	褐褐色	ローム小ブロック少量、粒多量、鉄土粒少量	やや有り	やや有り
5	褐色	ローム小ブロックやや多量、粒子やや多量	〃	弱い
6	明褐色	ローム粒子多量、粒多量、ブロック多量	〃	やや有り
7	褐色	ローム粒少量、粒少量	弱い	弱い
8	褐色	鐵土粒極少量	強い	強い
9	黑褐色	炭化物ブロック多量、SD-6底面	強い	〃

第143図 第65号住居址実測図

壇は、北壁中央部に検出され外側に40cm程掘り込み袖部を1.2m程直線的に長く付設、焚口部は開き、火床部は、前面に位置若干掘り込む。形態的にはU字形状。黄褐色砂質粘土を用いて築いている。

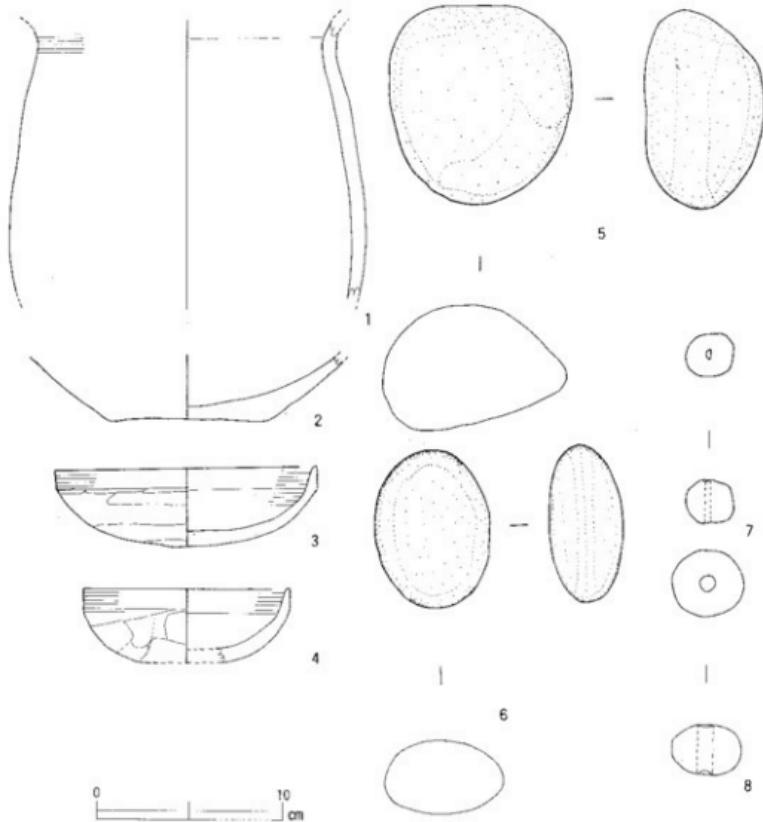
遺物は、西側にやや偏在して散布し検出された。総数200片前後。壺は、長胴形状のものと球形のもの1・2が認められた。壺は半球形で小型、肩部に弱いはみだし状の稜、口縁部直立気味、口唇部尖る。土製の丸球は不整形で10g、34gを計る。



第144図 第65号住窯実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備考
1	壺 土師器	A B C	口縁部、底部欠失している。長胴形を呈するか、器肉はやや薄目。	横ナデ、箆削り ナデ	礫、長石 暗褐色 普通	40 % 床直
2	壺 土師器	A B C 8.5	球形形状の大型壺か、器肉はやや薄い、平底の底部から開いて立ち上がる。	ナデ、内面剥離	礫、雲母 褐色 やや不良	10 % + 10



第145図 第65号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法身(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
3	壺 土師器	A 14.0 B 4.0 C 4.0	半球形肩部に斜い稜を有し口縁部や長目で やや開き気味。	横ナデ、範磨状 ナデ	礫、スコリア に混じる黒褐色 やや良	70 % + 12
4	碗 上部器	A 11.1 B 4.0 C 4.8	平底かゆるく内凹して立ち上がり、口縁開き 気味、口縁部尖り気味。	横ナデ、範削り ナデ	礫、長石、霰母 淡い褐色 やや良	20 % + 20

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
5	敲石	10.6	9.9	6.7	926	流紋岩	+	13 片面凸部、下位に使用痕
6	スリ石?	8.6	6.2	4.0	306	安山岩	床直	自然石状、すり石?縫部に使用痕あり、石斧?
7	土錘	2.3	2.6	0.3	14	土製	+	12 不整形球状、倒卵形、孔部三ヶ月形
8	〃	2.7	3.7	0.9	34	〃	床直	つぶれた球形状、孔部円形

## 第66号住居址（第146図）

本址は、19号住居址の南側1区、J-17.18グリットを中心に確認された住居址で台地は緩く東側に傾斜を示す。切り合ひ関係はない。調査区の中央部南側に位置する。主軸をE-15°-Nに置き、東西3.4m、南北2.2m、隅部が丸味をも長方形プランを呈する。壁面は、開いて立ち上り北側で10cm、南側では5cmを測る。床面は、南側で若干凸凹を認めローム剥き出し状、中央部、竈前面では良好な状態を呈していた。柱穴は検出されなかった。周溝は、幅10cm~20cm、深さ10cm前後でU字形状に掘り込む。

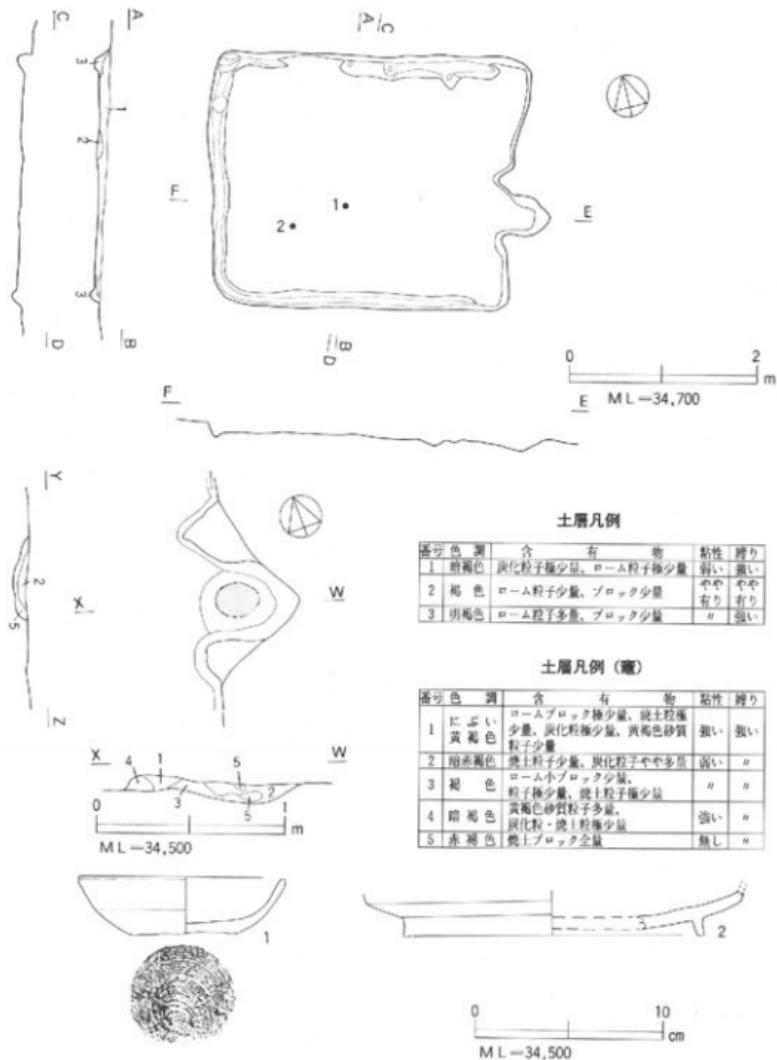
竈は、東壁やや南寄りに位置し外側にU字状に50cm程掘り込み營まれていた。袖部は、僅かに付設、取って付けた様な状態、15cm前後の長さ。焚口部は開き、火床部はやや奥部に位置10cm程掘り込み、單純な層序を示す。形態的には、外側へのU字形状。にぶい黄褐色砂質粒子をもって構築している。

覆土は、4層に分類されたが図示した面では3層である。確認面大半をしめる1層は、暗褐色、壁面部に褐色層2層が認められ3層は明褐色、1層は炭化粒子を少量含む。他はロームブロック、粒子の混入量の差2・3層は粘性、締まりはややある。

遺物は、少なく総数35片前後が散在して出土し、須恵器の量が多い。1は床面から出土した碗に近い小型の环型土器で底部回転糸切り痕を残す。2は盤か、短い脚部を貼付、やや大型。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	碗 土器	A 11.0	底面回転糸切りゆるく内側して立ち上がり口	巻上げか?、回転? ズビキ、ナデ 右回り	礫、長石 淡い褐色 普通	80 %
		B 3.0	底部やや肥厚丸く収める。			
		C 5.6				
2	皿? 須恵器	A	高台部は貼付、底部はゆるく立ち上がりながら移行、口縁部欠失し不明。	ロクロ水引か?	礫、長石 褐色 良	5 %
		B				
		C 16.5				



第146図 第66号住居址、車、出土遺物実測図

### 第68号住居址（第147・148・149図）

本址は、64号住居址の東側2区、B-21・22 グリットを中心に確認された住居址で調査区の最も東端に占地し、東、南側にややつよく傾斜を示す。切り合い関係はなく単独であるが西側20cmには64号住居址が接している。主軸をN-20°-Wに置き、東西 3.8m、南北 3.8m、隅部の丸味をもつ方形プランを呈する。壁面は、弱く外反して立ち上がり東側では40cm、西側では60cmを測る。床面は、南側の一部を除き良く踏み固められほぼ平坦に移行している。周溝は西北隅部を除き巡る。幅は10cm～20cm、深さ 5cm～10cmを測る。柱穴は確認出来なかった。

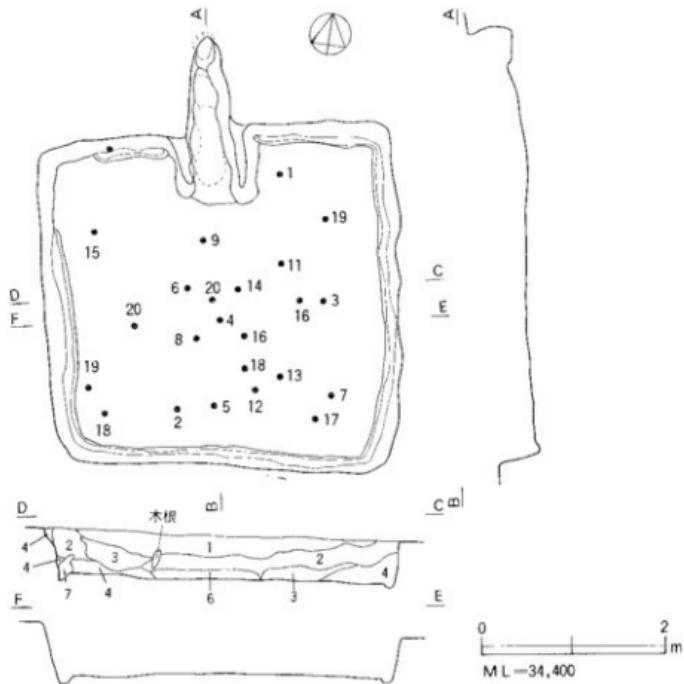
竈は、北壁中央部に位置し検出された。外側に95cm程円筒状に掘り込み、袖部は80cm程直線的に付設、幅の狭いV字状に近い形態、焚口部は開く。火床部は2ヶ所認められ最奥部に若干の掘り込みを有し5cm程掘り下げている。竈形態は、64号住居址に近いが、火床部が2ヶ所認められるものは本遺跡に類例はない。

覆土は、レンズ状の自然埋積と理解され7層に分類された。1層確認面は褐色、焼土粒、炭化粒を含む、2・3層も褐色ロームブロック、粒の混入量の差。4層は明褐色でロームブロックを多量に含む。6・7層は暗褐色、炭化粒子をやや多量に含む。1層を除き粘性、締まりは弱い。

遺物は、中央部を中心集中して出土、総数 300片程認められ半数以上は投げ込み的な状態で、出土、床面直上は3点と少ない。甕は頸部「く」の字状外反、口唇部やや尖り気味、やや長胴気味、鉢は大型の碗状に近い。口唇部は短く外反するものと直立気味のものが認められた。坏類は、肩部に顕著な稜をもち外反するもの、内傾するもの半球形狀のものが認められやや大型、稜をもつものは口縁部は長く内傾、口唇部は尖り気味。半球形狀のものは断面三角形狀で短い。高坏脚部は円筒状、14は円盤状の土製品、砾石は三角形狀で両面に使用痕をもつ小型のものであった。17～26は上製の丸球で不整形状、乳部は、長方形、長円形、三ヶ月状、円形と多様で重さ 7g～25gを計る。

出土土器観察表

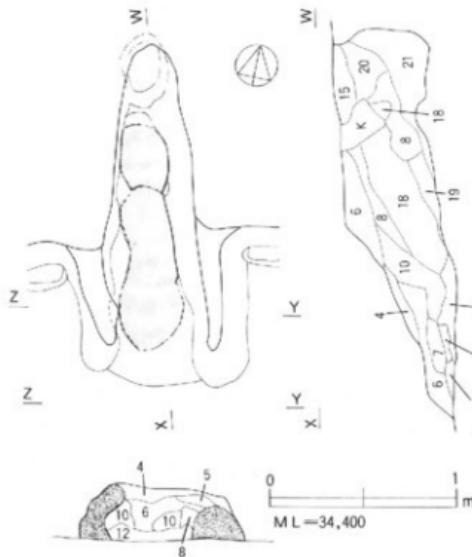
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	縦土師器	A 20.7 B C	頸部「く」の字状に外反、口縁部肥厚し口唇部水平に近く開き丸くおさめる。	横ナデ、窪による縦位の削り状	礫、長石、砂褐色やや不良	30 % + 10
2	小型縦土師器	A 14.4 B 8.9 C 6.5	決定した平底から内彎して立ち上がり、頸部短く崩くびれる。口縁部近く外反。口唇部丸く収める。	横ナデ、窪ナデ状ナデ	礫、長石、スコリア淡い橙色やや良	60 % + 18
3	小型縦土師器	A B C 7.0	2に近い器形を呈する小型縦と思われ、外面粗雑な調整。	窪ナデ状、削りナデ	礫、砂、長石暗い橙色やや不良	40 % + 19
4	縦土師器	A 15.5 B 9.5 C 5.8	平底から内彎して立ち上がり口縁部長目で内傾気味、口唇部尖る。沿肉はそうじて薄い。	横ナデ、窪ナデ調整(斜位)ナデ	礫、長石にぶい黒褐色普通	99 % + 22
5	大型環土師器	A 17.5 B 5.0 C 5.0	丸底気味からゆるく内彎して立ち上がり肩部に顯著な縦を有し口縁部外反、口唇部外反し尖り気味。	横ナデ、窪磨状	礫 褐色 やや良	80 % + 30
6	環土師器	A 13.4 B 4.5 C 5.5	丸底に近い底部からゆるやかに内彎して立ち上がり肩部に段をもち口縁部「く」の字状に屈曲、口唇部尖り気味。	横ナデ、窪ナデナデ	礫 褐色 やや良	60 % + 40
7	環土師器	A 12.7 B 4.7 C 3.0	半球形状受部に段をもち口縁部長目で内傾、口唇部尖り気味。	横ナデ、窪ナデ状ナデ	礫、長石にぶい黒褐色やや良	40 % + 22
8	環土師器	A 12.0 B 4.3 C	半球形状体部からゆるく内彎して立ち上がり口縁部直立気味、口唇部尖る。口縁部は弱く「く」の字状に張り気味。受部顯著。	横ナデ、窪ナデ状ナデ	礫、長石黒褐色やや良	40 % + 19
9	環土師器	A 14.2 B 4.5 C 7.5	半球気味の底窪からゆるやかに内彎して立ち上がり肩部に顯著な受部を有し、口縁部内傾し口唇部尖る。8に近い。	横ナデ、窪ナデ状ナデ	礫 褐色、1部黒褐色やや良	30 % + 20
10	環土師器	A 16.1 B 14.5 C 4.0	丸底に近い、ゆるやかに器内を減じ立ち上がる。口縁部短く直立、口唇部尖る。	横ナデ、ナデ	礫、長石にぶい黒褐色やや良	70 % + 10
11	環土師器	A 14.2 B 4.1 C 4.5	丸底に近い、ゆるやかに内彎して立ち上がり口縁部短く内傾、口唇部尖る。	横ナデ、丁重なナデ	礫、長石にぶい暗褐色やや良	80 % + 20
12	環土師器	A 14.5 B 4.3 C 4.2	丸底に近い底部からゆるく内彎して立ち上がり口縁部短く直立し、口唇部尖る？。	横ナデ、窪削りナデ	礫 黒褐色 普通	40 % + 20
13	高環土師器	A B C	环部、脚部欠失、筒部は円筒状やや短い。	窪削り、ナデ 横ナデ	礫 長石 淡い橙色 やや良	30 % + 24



土層凡例

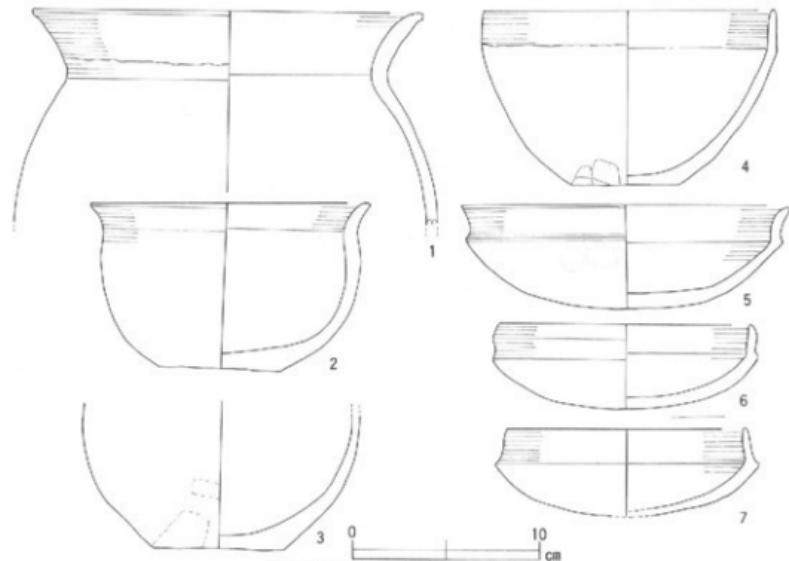
番号	色調	含 有 物	粘 性	輕 き
1	褐色	純土粒、炭化粒極少量、ローム小ブロックや多量 粒少量、粒子多量	やや有り	やや有り
2	褐色	ローム小ブロック少量、粒多量、純土粒少量	弱い	弱
3	褐色	ローム小ブロックや多量、純土粒少量	弱	弱
4	明褐色	ロームブロック多量、粒子多量	やや有り	弱
5	暗褐色	炭化粒や多量、ローム粒少量	弱い	やや有り
6	紺褐色	炭化粒多量、ローム粒子少量	弱	弱

第147図 第68号住居址実測図

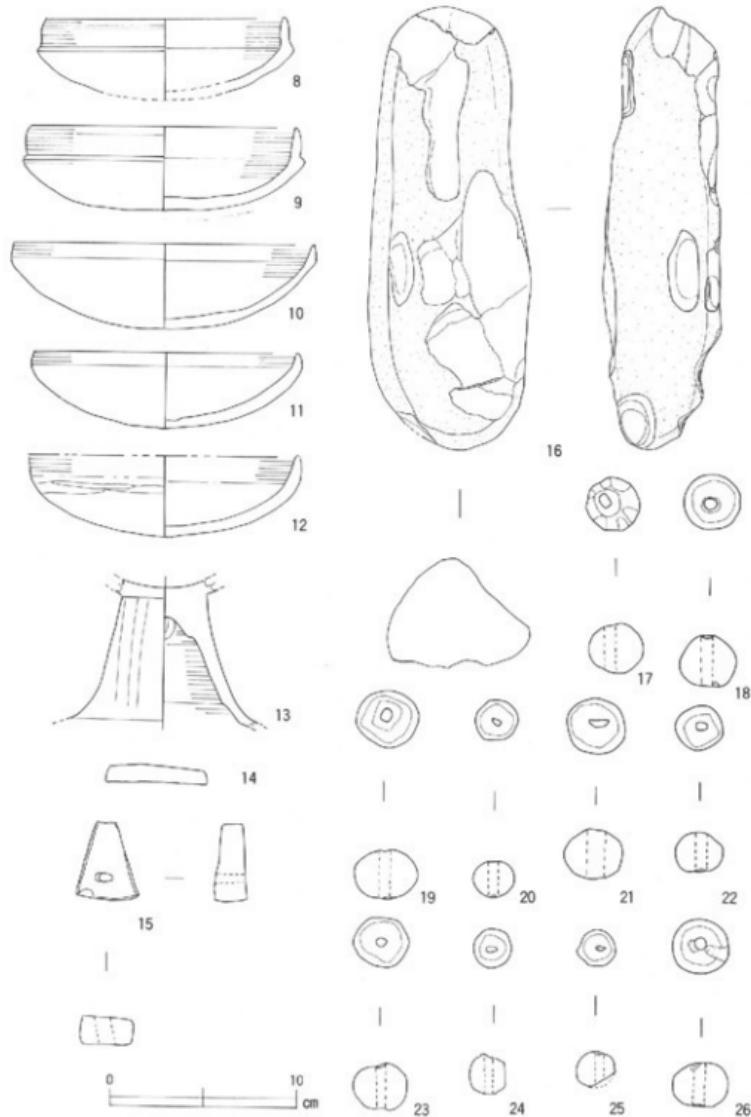


土層凡例

番号	色 調	含 有 物	粒性	適り
4	褐 色	ローム粒極少量、 ブロック極少量、 灰青褐色粘土粒子極少量	弱い やや 有り	
5	に ぶ い 色	黄褐色砂質粒子、 純土粒子、炭化粒子極少	無し 弱い	
6	褐 色	ローム粒多量、 燒土粒子少量	弱い 〃	
7	に ぶ い 色	灰黃褐色粘土ブロック、 燒土粒子少量	〃 〃	
8	暗赤褐色	燒土粒子多量、 黄褐色砂質粒子や多量	無し やや 有り	
9	褐 色	粒子少量、 燒土ブロック極少量	弱い 〃	
10	暗 褐 色	灰黃褐色粘土ブロック極少量、 燒土粒子少量	弱い 〃	
12	黒 褐 色	炭化粒子、燒土粒子少量	無し やや 有り	
15	黄 褐 色	黄褐色砂質粒子多量	強い	
18	赤 褐 色	燒土ブロック多量	無し 弱い	
19	赤 褐 色	燒土粒子少量、火を受けたロームブロック多量	〃 〃	
20	褐 色	炭化粒子極少、 ロームブロック、燒土粒子少量	〃 〃	
21	暗赤褐色	燒土粒子や多量、 ローム小ブロック極少量	〃 無し	



第148図 第68号壺、出土遺物実測図



第149図 第68号住居址出土遺物実測図

石器・土製品一覧表

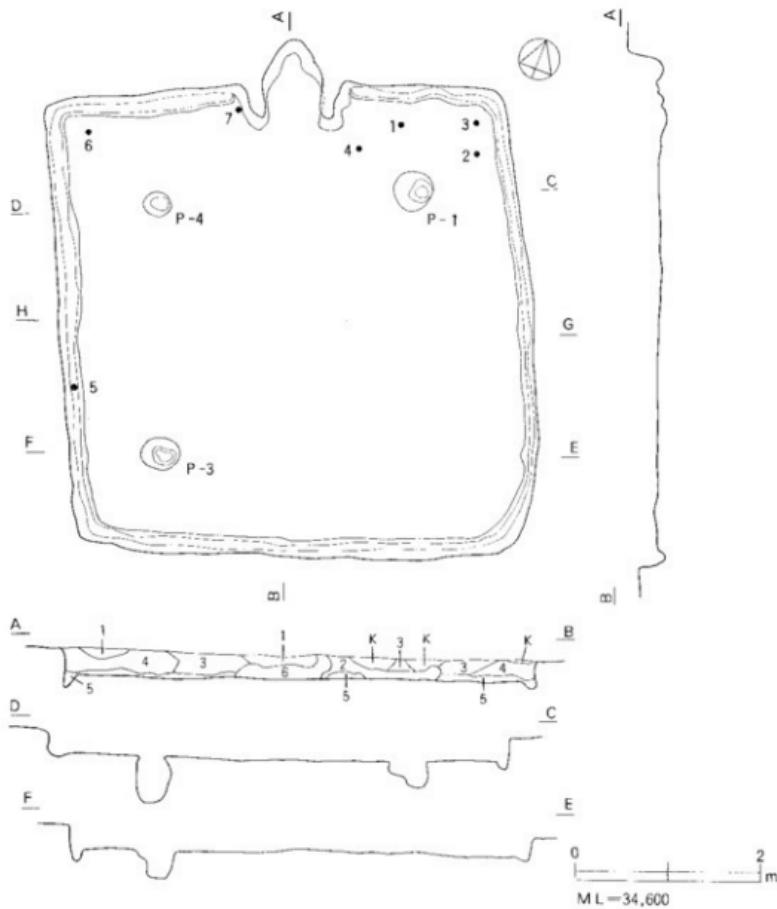
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
14	土製品	5.3		0.8	45	土製	16	円盤状(上部器)
15	砥石	4.2	3.4	0.8	26	凝灰岩	+	三角形状(面使用痕あり、孔有する)
16	敲石	23.8			1090	安山岩	+	欠缺多し
17	土鍤	2.6	3.0	0.6	20	土製	+	やや粗雑不整形球状、孔部長円形
18	〃	2.7	3.0	0.7	25	〃	+	やや長円球形、孔部正円形
19	〃	2.5	3.3	0.6	20	〃	+	端部カット状球形、孔部円形
20	〃	1.9	2.2	0.5	9	床直		ややつぶれた球形、孔部長円形
21	〃	2.6	3.1	1.1	25	〃	龜内	ほぼ球形、孔部ヶ月状
22	〃	2.1	2.5	0.6	12	〃		不整形球状、孔部長円形
23	〃	2.5	3.0	0.5	22	〃	覆土中	ややつぶれた球形、孔部正円形
24	〃	2.2	2.0	0.5	10	〃		長方形状球形、孔部長円形
25	〃	1.9	2.1	0.4	7	〃		不整形球状、孔部細長い長円形
26	〃	2.4	2.9	0.6	21	〃		つぶれた球状、孔部正円形状、1部欠失

## 第69号住居址(第150・151図)

本址は、66号住居址の南側1区、H-18・19、I-18・19グリッドを中心に確認された住居址で緩く東側に傾斜を示す面に検出された。切り合い関係はなく単独で検出された。主軸をN-29°-Wに置き、東西5m、南北5.1m、隅部が南側で若干丸味を持つ方形プランを呈する。壁面は20cm前後の立ち上がりを測り垂直気味。床面は、龜前面、中央部で良好な状態を示していたが南東側で若干乱れ、擾乱が認められ状態は悪い。周溝は、幅10cm~20cm深さ5cm~15cmでU字状に巡る。柱穴は、3ヶ所認められた。いずれも径、深さ、掘り方に特徴をもちP2は検出出来なかつた。(擾乱?) P1は径45cm、深さ30cm、二段状、P3は径40cm前後、深さ30cm、ゆるいU字状形。P4は径25cm、中程でやや広くなり深さ50cmと最も深い。円筒状掘り込み。

龜は、北壁中央部に検出された。遺存状態は良い。外側に40cm程U字状に掘り込み袖部は、50cm程直線的に付設、焚口部はやや狭くなる。火床部は、前面に位置し若干掘り込む。煙道部は鋭角に立ち上がる。袖の幅は広く灰黄褐色の粘土を用い築いている。

覆土は、9層に分類されたが図示した面では6層である。上部確認面では擾乱層が入り1層黒褐色、3層褐色と交互に認められ投げ込み状の上層を呈している。5層の床面に接する土層が暗褐色を示す。他はすべて褐色層でロームブロック、粒、粒子、の混入量の差。7・8層は灰褐色の粘土粒子を含む。

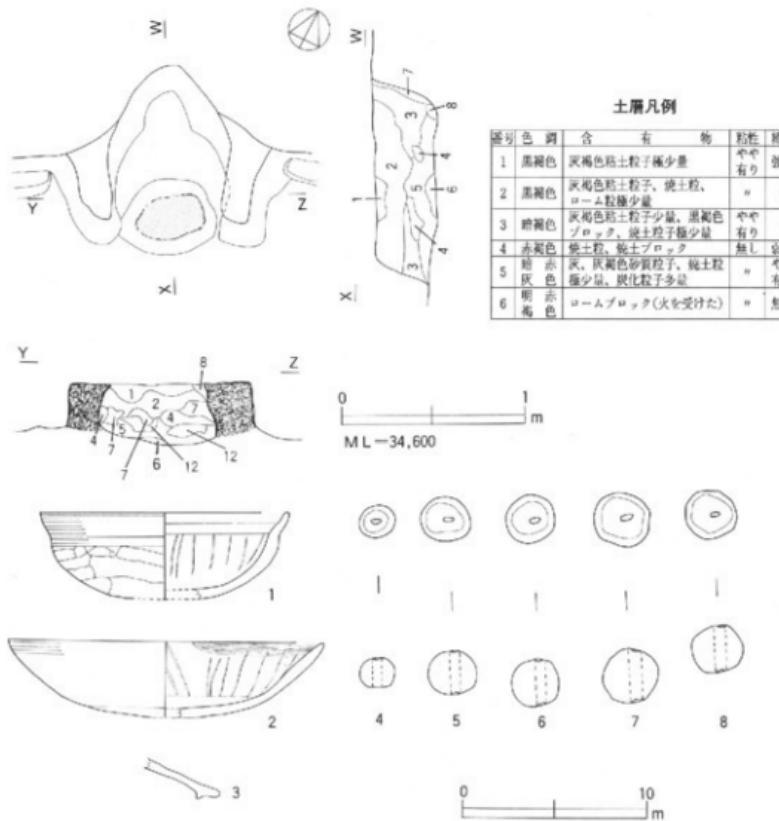


土層凡例

名	色	調	含	有	物	粘性	繊り
1	黒褐色		ローム小ブロック多量、粒子少量			弱い	弱い
2	褐色		ローム粒多量、ブロック少量			〃	〃
3	褐色		ブロック僅少量、ローム粒、粒子少量			〃	〃
4	褐色		ローム粒多量、ブロック少量			やや 有り	有り
5	明褐色		ロームブロック、粒子多量、粒少量			〃	〃
6	褐色		ローム粒、粒子少量、ブロックや少量			弱い	弱い

第150図 第69号住居址実測図

遺物は、少なく総数 100点程であった。坏は、ゆるく内湾して立ち上がるものと開いて立ち上がる体部をもつものが認められ口唇部は尖り気味。内側に粗い範ミガキがある。幅は狭い。須恵器も少量検出され蓋は、水平に伸び、天井部の膨らみは弱いがカエリは顕著、土製の丸球は、ほぼ球形状、孔部はすべて三ヶ月状形、重さ 7 g ~ 20 g を計る。



第151図 第69号住窯、出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	环 土師器	A 13.5 B 4.8 C 5.3	平底に近いと思われる底部からゆるく内側して立ち上がり口縁部外反、口唇部つまみ出し気味、尖る。	横ナデ、直削り ナデ、直磨き	礫、長石 にぶい黒褐色 やや良	20 % 床直
2	环 土師器	A 17.1 B 4.2 C	形態は輪、皿状に近い、ゆるやかに内側して立ち上がり全体、口縁部鋸歯、口唇部はやや丸味をもつ、内面に割れ跡磨き有り。	横ナデ、直磨き ナデ	礫 にぶい黒褐色 やや良	20 % 床直
3	蓋 須恵器	A B C	天井部のフクラミは、弱いと思われる。端部は水平に伸び丸く収めカエリは頗る。	巻き上げ? 回転ミスピキ、ナデ	礫、雲母 褐色 普通	10 % + 23

土製品一覧表

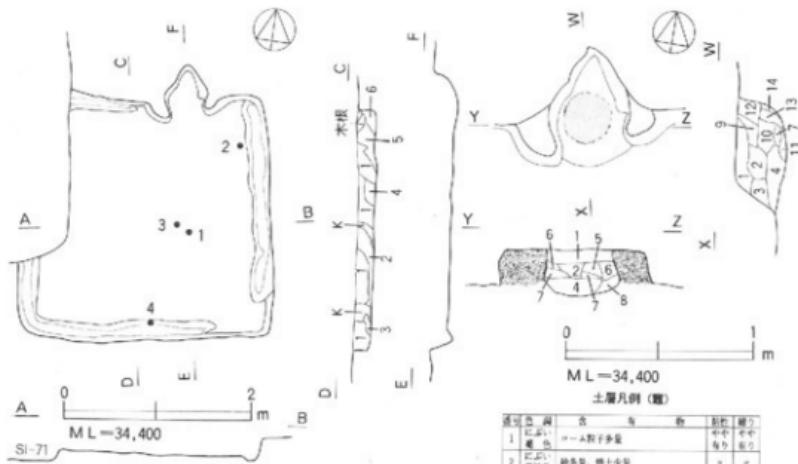
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
4	土鍤	1.6	1.9	0.5	7	土製	床直	やや小型、球形、孔部三ヶ月状
5	〃	2.4	2.7	0.6	17	〃	+ 16	不整形球状、孔部長方形状
6	〃	2.6	2.7	0.5	20	〃	+ 14	ほぼ球形状、孔部三ヶ月状
7	〃	3.0	3.0	0.7	28	〃	床直	不整形球状、孔部長円形状
8	〃	2.6	2.8	0.7	19	〃	竈内	不整形球状、孔部

第70号住居址（第152図）

本址は、69号住居址の南西側1区、G-20グリットに位置し検出された住居址で台地は若干南東側に傾斜を示す。本遺跡の中では、最も高い部分に位置する。西側を71号住居址に掘り込まれ複合関係にある。主軸をN-12°-Wに置き、東西4.1m、南北4.9mの南北に僅かに長い方形プランを呈する。壁面は、開いて立ち上がり15cm~20cmを測り浅い。床面は、弱いが安定した締まりを呈していた。ほぼ平坦に移行する。周溝は、南東隅部に欠失部も認められるが幅10cm~20cm、深さ10cm程で巡る。U字形状。柱穴は検出されなかった。

竈は、北壁中央部やや東寄りに位置し検出された。外部へは半円形状に50cm程V字状に掘り込み、袖部は20cm程短く付設、焚口部は開き気味。火床部は僅かに掘り込み中位に位置、煙道部は、ゆるく立ち上がりながら移行してから鋭角的に立つ。少量の粘土をもつが多量の砂を用いて築いている。他の住居址と比べ特異な用材を用いている。（類例は、1軒のみ）竈袖部の幅は広い。

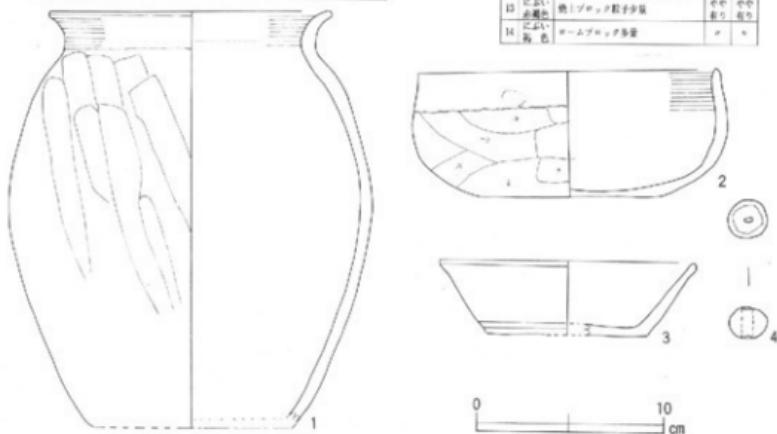
覆土は、東西南北で土層の層序が違い8層に分類された。図示した層序からは埋積状態を推定する事は困難であった。単純に推定すれば北側から投げこみ状に埋積していたのか。東西方向から投げこみ状の層序を呈していた。（7・8層が大部分で褐色、にぶい褐色）



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	筋り
1	褐色	小ロームブロック、粒子多量	有り	やや 有り
2	にじい 褐色	小ロームブロック多量	やや	〃
3	黄褐色	中ロームブロック少量	有り	有り
4	橙 色	砂多量	〃	やや 有り
5	褐 色	ローム小ブロック少量	〃	〃
6	にじい 褐色	粘土粒子、焼土粒子少量	〃	有り

番号	色調	含 有 物	粘性	筋り
1	にじい 褐色	ローム粒子多量	やや	やや 有り 有り
2	にじい 褐色	砂少量、焼土少量	〃	〃
3	にじい 褐色	砂、焼土、粒子少量	〃	〃
4	にじい 褐色	焼土、粒子多量	無し	無し
5	褐色	焼土粒子、ロームブロック少量	やや	やや 有り 有り
6	にじい 褐色	焼土粒子多量	〃	〃
7	水褐色	焼土粒子少量	無し	無し
8	にじい 褐色	焼土粒子、砂多量	〃	〃
9	黒 色	ロームブロック、褐色少量	有り	無し
10	褐色	焼土粒子、砂多量	無し	やや 有り
11	にじい	ロームブロック、焼土粒子多量	やや	やや 有り
12	にじい	ロームブロック、褐色少量	有り	〃
13	にじい	焼土ブロック粒子少量	有り	やや 有り
14	黒 色	ロームブロック多量	〃	〃



第152図 第69号住居址、窓、出土遺物実測図

遺物は、少なく総数 100片程で中央部に散在して出土した。甕は長胴形状、頸部「く」の字状に外反、口唇部は丸く收める。大型で深い碗が認められ体部は窓削りがなされている。器肉は薄く安定した平底。須恵器も少量認められたが図示出来たものは 1 点のみであった。安定した平底から外反して立ち上がり回転ミズビキ調整、口唇部は若干肥厚し丸く收める。底部はナデ調整が行なわれている。土製の丸球は小型、円形、孔部長円形状、重さ 7 g。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 土師器	A 15.0 B 22.4 C 10.5	やや大きめの安定した底部と思われる長胴形、最大径や上位、口唇部短く外反、口唇部丸く收める。	横ナデ、窓削りナデ	礫、長石 黒褐色 やや不良	60 % 床直
2	人型胴 土師器	A 16.0 B 6.7 C 9.5	安定した平底から強く内側して立ち上がり内傾、口唇部や肥厚する。	横ナデ、窓削りナデ	礫、長石 黒褐色 普通	70 % 床直
3	环 須恵器	A 13.6 B 4.0 C 9.0	安定した平底から強く開いて立ち上がり口唇部や肥厚。底部ナデ	回転ミズビキ、ナデ	礫、雲母、長石 灰褐色 やや良	20 % + 4

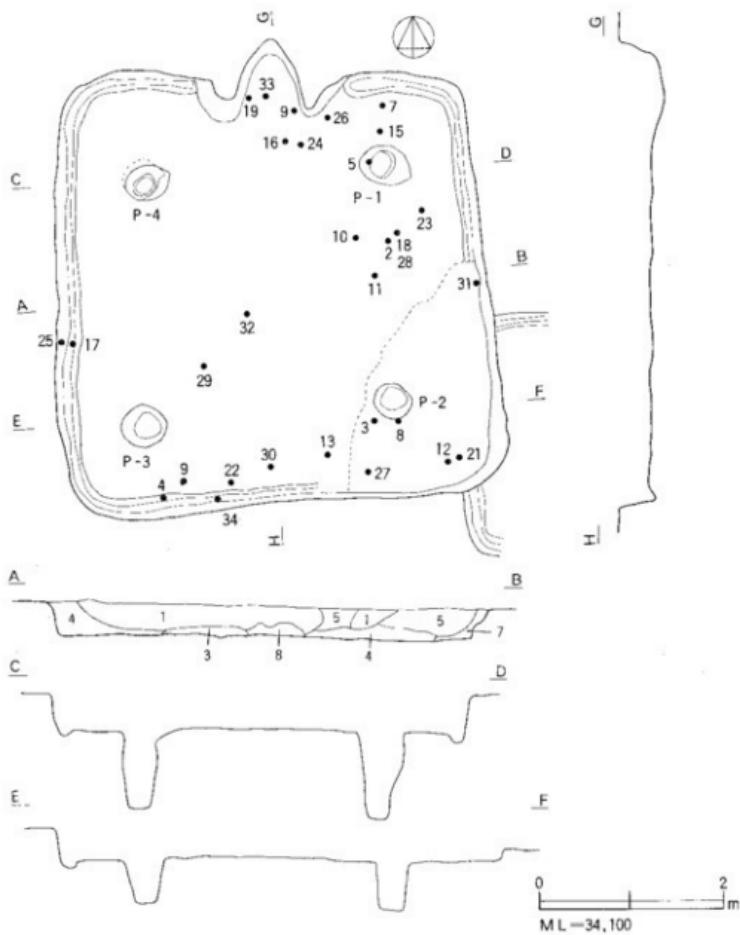
土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
4	土輪	1.6	2.1	0.6	7	土製	床直	やや小型、球形状、孔部長円形状

#### 第71号住居址（第153・154・155・156図）

本址は、70号住居址の西側、1区、I-19・20、G-19・20グリットを中心に確認された住居址で前述の70号住居址同様最も高所に位置し検出された。東側では、70号住居址の一部を掘り込み複合関係にある。主軸をN-9°-Wに置き、東西4.8m、4.4m、南北4.6m、4.6m隅部が丸味をもつ不整形状のプランを有する。壁面は開き気味に立ち上がり、壁高35cm前後を測る。床面は、東、西隅部に縫まりの悪い部分が認められ周溝も検出出来なかった部分が存在する他は良好な縫まりを呈していた。中央部が僅かに高まるがほぼ平坦に移行し張り床である。周溝は、前述のように一部を残し幅10cm前後でU字状に巡る。柱穴は、四ヶ所認められ50cm前後、深さ50cm～95cmを有し円筒形状の掘り込みを呈する。

竈は、北壁中央部に位置し外部へは、30cm程V字状に掘り込み袖部は、30cm程の長さで付設、



#### 土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘 性	經 り
1	褐色	ロームブロック粒子(混乱?)	やや有り	やや有り
3	暗褐色	ローム粒子・礫・粒子少量	なし	有り
4	褐色	ローム、礫・粒子	なし	なし
5	褐色	ローム塊、粒子少量	なし	なし
7	褐色	ローム粒子少量	なし	なし

第153図 第70号住居址、甕、出土遺物実測図

焚口部は開き、火床部は若干掘り込み中位に位置する。壁面部は赤褐色、火勢の強さを物語る。灰褐色の粘土を開いて築いている。袖部は幅は35cm～40cmと広い。

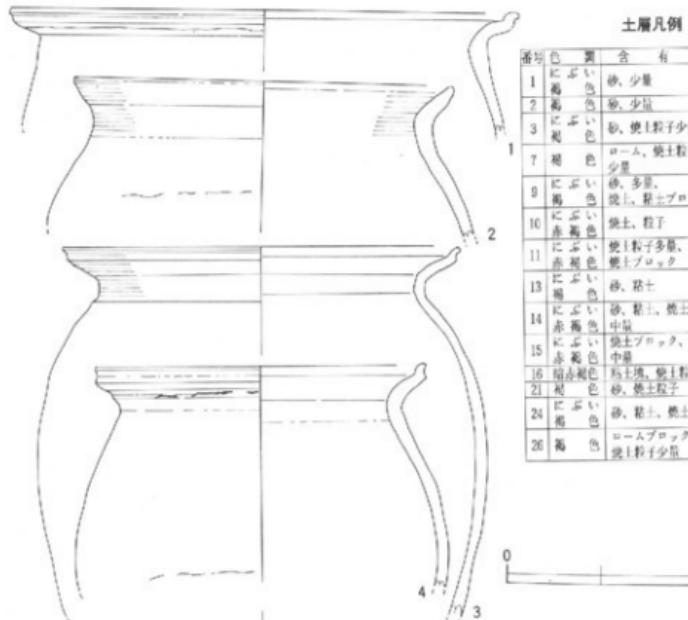
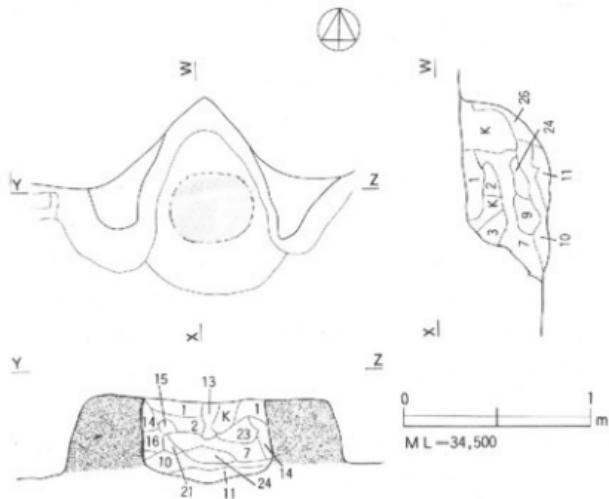
覆土は、8層に分類された。確認面1層褐色、床面直に暗褐色層の3層が認められ層序的には自然埋積と投げ込みによるものと思われる。各層とも粘性、締まりはある。ロームブロック、粒、粒子、焼上粒子を含む。

遺物は、総数300片前後出土し、量的には最も多い住居址で中でも須恵器の量が卓越する。図示した遺物も最も多い。1～4は土師器甕で頸部「く」の字状外反、口唇部長円につまみ出す。器形は長胴形状5～32までは須恵器で大型の壺と思われるもの（5）や口縁部を水平に開き口唇部を上下につまみ出す（6）大型でやや粗雑な（7）などが認められいずれも輪積痕、内側には当痕を残し横位、縦位の平行叩目をもつ、下部はナデ調整8は甌、これらはすべて輪積成形がなされている。坏類は、短い脚部を直立気味に貼付するものと安定した平底から弱く開いて立ち上がるるもの17・18・21・と外反してたちあがるもの10・11・12・13・14・15・16・19・20・などが認められる。口唇部は肥厚し、丸く収めるものとカット状のもの、尖り気味のものの三種類が認められる。いずれも回転ミズヒキ調整とおもわれるが16は、ロクロ水引きと推定される。他はすべて底部に手持ちの箒削りをもつ。22からは付高台で短いもの、長いもの二種類認められ長いものは総じて強く開く、高台部はすべて貼付、皿から盤に近い器形である。31は高坏で坏部は皿状30は台付皿、蓋は、天井部はやや膨らみをもつ口端部は水平に近く伸びカット状、つまみはやや扁平化、カエリは退化し僅かに認める。33は土師器小型甕か・・26・28・29・30はロクロ水引きの可能性が高い。土製の丸球は小型、不整形状孔部小孔、円形で重さ10g、11gを計る。

本址の下位には10cm～20cmの掘り込みが認められたが掘り込み時のものと、2回にわたる建て替えと考える事が出来るが、一応掘り込み等に拡幅、狭広がないため1軒の住居址と理解し若干の時間差を有するものと推定、71号住居址とし別扱いはしなかった。銅製の箱状の金具が出土している。

出土土器観察表

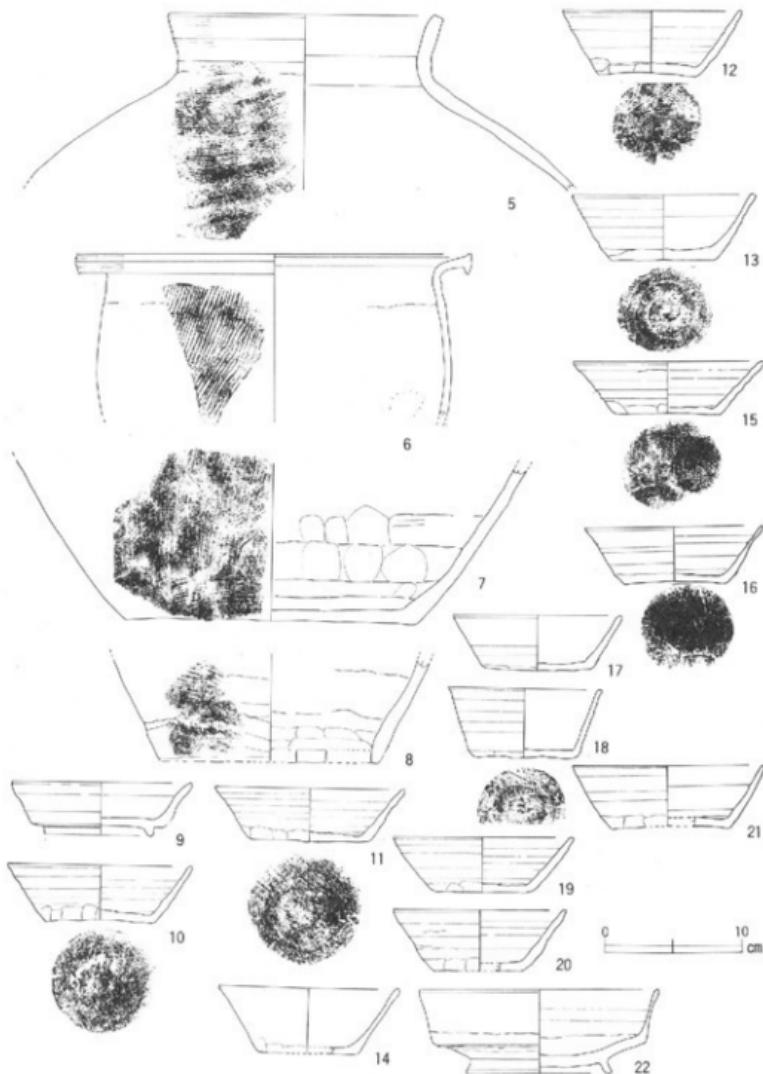
番号	器種	法寸(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 七郎器	A 27.0 B C	器肉は薄く、口縁部外反、口唇部丸く肥厚し つまみ出す。	ナデ	纏、雲母 淡い橙色 やや良	5 % 電 内
2	甕 十郎器	A 20.3 B C	やや球胴形に近い器形か。口唇部斜上方へつ まみ出す。輪積痕を残す。	横ナデ、ナデ	纏、雲母 におい橙色 普通	15 % 床 直



番号	色	質	含	有	物	特性	説り
1	にふい 褐色	砂、少量	砂、少量	有り	無し		
2	褐色	砂、少量	砂、少量	無	無		
3	にふい 褐色	砂、少量	砂、少量	有り	有り		
7	褐色	少量	砂、少量	無	無		
9	にふい 褐色	砂、多量、 泥上、	砂、多量、 泥上、	有り	強い		
10	赤褐色	泥土、柱子	泥土、柱子	有り	有り		
11	にふい 褐色	泥土、柱子多量、 泥上ブロック	泥土、柱子多量、 泥上ブロック	有り	有り		
13	褐色	砂、粘土、	砂、粘土、	有り	有り		
14	にふい 赤褐色	砂、粘土、燒土粒子、 中量	砂、粘土、燒土粒子、 中量	無	無		
15	にふい 褐色	燒土ブロック、粒子、 中量	燒土ブロック、粒子、 中量	有り	有り		
16	暗赤褐色	泥上塊、燒土粒子多量、 砂、燒土粒子	泥上塊、燒土粒子多量、 砂、燒土粒子	有り	無		
21	褐色	砂、粘土、燒土多量	砂、粘土、燒土多量	無	無		
24	にふい 褐色	ロームブロック、 燒土粒子少量	ロームブロック、 燒土粒子少量	強い	無		
26	褐色						

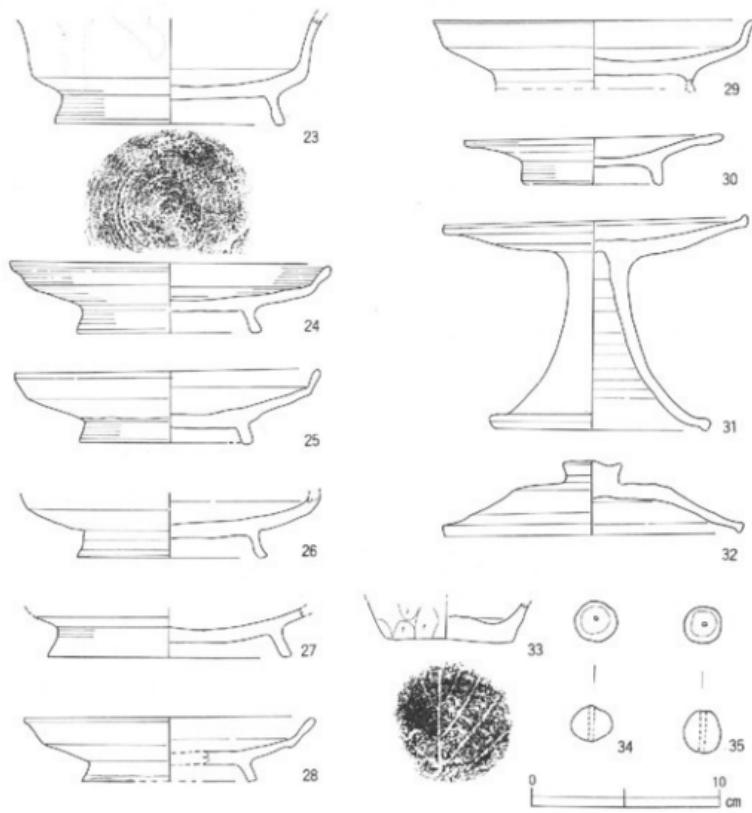
第154図 第71号住居出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
3	甕 上飾器	A 21.2	口縁部水平に近く開き、口唇部斜上方へつまみ出し長胴形器形。	横ナデ、ナデ	織、雲母 にぶい黒褐色 やや良	30 %
		B				床直
		C				
4	甕 土師器	A 17.6	口唇部長く上方へつまみ出し、長胴形器形、 器内薄い。	横ナデ、ナデ	織、雲母、石英 にぶい橙色 普通	15 %
		B				+
		C				20
5	甕 土師器	A 20.1	肩部の張る大型の甕と推定され口唇部に一条の沈線がめぐる。	横ナデ、叩き、ナデ	織、雲母、長石 褐色灰色(灰褐色) やや良	10 %
		B				床直
		C				
6	瓶 扁底器	A 28.8	口縁部水平に開き、口唇部上下へつまみ出し 器内薄い。斜位の叩き。	叩き 横ナデ、ナデ	織、長石 晴い褐色 良	50 %
		B				覆土中
		C				
7	甕 須恵器	A 21.3	大型の甕から鉢に近い、開いて立ち上がり内 面当腹状凸凹あり。外面調整後うミガキに近 いナデ、内面粗雰。	窯削り、ナデ	織、長石 灰褐色 やや良	50 %
		B				
		C				
8	瓶 須恵器	A 16.0	底部5孔を有する器形と推定される。	輪植?叩き 窯ナデ、窯削り	織、長石、石英 灰褐色 普通	10 %
		B				床直
		C				
9	高台环 土師器	A 13.2	付台は短く内腹貼付、环部は開いて立ち上り り口唇部穴り気味。(内黒)	粘土紐巻上げ? 回転ミズビキ、ナデ	織、スコリア、砂 淡い褐色(内黒) やや不良	80 %
		B 4.0				覆内
		C 7.9				
10	环 須恵器	A 13.5	安定した底部から開いて器肉を減じて立ち上 りがり口唇部丸く収め、巻上痕残す。 以上20まで底部手持窯削り。	粘土紐巻上げ、回 転ミズビキ、窯ナデ、 左削り	織、長石 褐灰色 やや良	95 %
		B 4.0				+
		C 8.0				14
11	环 須恵器	A 13.9	安定した平底から開いて器肉を減じながら立 ち上がり、口唇部や丸柱をもつ。底部との 間に不整形部残す。	粘土紐巻上げ、回 転ミズビキ、窯削り ナデ、左削り	織、雲母、長石 灰褐色 やや良	95 %
		B 4.1				+
		C 8.9				7
12	环 須恵器	A 13.1	やや底部が小さくなる。開いて器肉を減じな がら立ち上がり口唇部穴り気味。底部と体部 との間に貼付状貌ある。	粘土紐巻上げ?回 転ミズビキ、回転糸 切り、窯削り、ナデ	織、長石、石英 褐灰色 やや良	90 %
		B 4.6				+
		C 7.1				17
13	环 須恵器	A 13.4	やや底部が小さくなり開いて器肉を減じて立 ち上がり口唇部肥厚し丸く収める。底部体部 との間に不規則な段をもつ。	粘土紐巻上げ、回 転ミズビキ、窯切り ナデ、左削り	織、石英、長石 褐灰色 やや良	90 %
		B 4.9				床直
		C 7.0				
14	环 須恵器	A 13.2	やや小さめの底部から開いて立ち上り口唇 部肥厚丸く収める。	ロクロミズビキ? 窯削り	織、長石 褐灰色 良	50 %
		B 4.9				覆土中
		C 7.2				
15	环 須恵器	A 13.2	やや小さめの底部から強く開いて立ち上がる。 口唇部は丸く収める。生焼状、焦土痕をのこ す。質の表現が適当か。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナ デ	織、雲母、長石 暗褐色 やや不良	60 %
		B 4.9				床直
		C 7.2				
16	环 須恵器	A 13.1	やや小さめの底部から開いて立ち上り口唇 部で一旦器肉が薄くなる。口唇部薄いが丸く 収める。底部と体部との間に不規則な段をも つ。	回転ミズビキ? ロクロ? 回転糸切り	織、長石 青褐色 良	60 %
		B 4.1				+
		C 7.4				8
17	环 須恵器	A 12.4	安定した平底から開いて立ち上り口唇部肥 厚し丸く収める。	ロクロ水引き? 窯切り	織、長石、雲母 灰褐色 普通	50 %
		B 4.1				+
		C 7.9				5



第155図 第71号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量 (cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	釉土、色調、焼成	備考
18	环 須恵器	A 10.2 B 5.2 C 8.1	安定した平底から絶対的に立ち上り口唇部カット状で平滑に収める。小鉢状。	クロコ水引き？ 底部廻削り 窓ナデ	黒、長石 灰褐色 良	60 % + 8
19	环 須恵器	A 13.1 B 4.2 C 7.0	やや小さめの底部から開いて立ち上がる、口唇部や角がある。	クロコ水引き？ 窓削り、ナデ	黒、長石、石英 褐灰色 やや良	30 % 電 内
20	环 須恵器	A 12.7 B 4.5 C 6.6	やや小さめの底部から強く開いて立ち上がり口唇部丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ ナデ、廻削り	黒、長石 褐灰色 やや良	30 % 覆土中
21	环 須恵器	A 14.1 B 4.5 C 8.7	平底から全体が弱く張る器形、口唇部やや尖り気味。	クロコ水引き？	黒、長石、石英 褐灰色 良	40 % + 17
22	高台环 須恵器	A 17.5 B 6.2 C 10.2	底部がゆるく凹む。高台は短く「く」の字状に張る。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ ナデ	黒、石英 褐灰色 やや良	60 % + 9
23	高台环 須恵器	A B C 12.2	高台部の張りは弱く長目、鋭角的に立ち上がり口唇部不明。スヌ付着、付高台。	粘土紐巻上げか？ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	黒、石英 暗褐色灰色 やや良	30 % + 12
24	台付皿 須恵器	A 17.1 B 3.9 C 9.9	高台は貼付、やや短く目で「ハ」の字状に張る。底部水平に移行、口縁部外反、口唇部丸く収める。	クロコ水引きか？ ナデ、回転窓切り	黒、石英 暗褐色灰色 やや良	70 % 電 内
25	台付皿 須恵器	A 16.3 B 3.9 C 9.2	脚部は短く弱く張る。底部はゆるく凹み口縁短く外反、口唇部肥厚、高台貼付。	粘土紐巻上げ？ 回転ミズビキ、ナデ	黒、石英、雲母 暗褐色 やや不良	90 % + 6
26	台付皿 土師器	A B C 10.1	高台やや短め、底部水平に移行、口縁部外反か、高台貼付。	粘土紐巻上げ？ 回転ミズビキ 左廻り	黒、砂 暗い褐色 やや良	30 % 床 直
27	盤 須恵器	A B C 13.1	底部は水平に近い、環の可もあり。高台貼付、長目で張る。	クロコ水引？ナデ	黒、長石 褐灰色 やや良	20 % 床 直
28	盤 須恵器	A 15.5 B 3.5 C 10.2	高台は、短く開き気味口縁部外反、口唇部丸く収める。高台貼付。	クロコ水引き、ナデ	黒、石英 灰褐色 良	40 % + 6
29	盤 須恵器	A 17.8	高台脚欠失、口縁部は外反し立ち上がり口唇部丸く収める。	クロコ水引き、ナデ	黒、石英 褐灰色 やや良	40 % + 7
30	皿 土師器	A 13.8 B 3.6 C 7.3	ほぼ水平に開き立ち上がりをもたず口唇部丸く収める。付高台はやや短く直立。	クロコ水引き、ナデ	黒、石英 暗褐色灰色 良	90 % + 9
31	高 壁 須恵器	A 16.3 B 11.3 C 11.4	脚筒部は円筒状、腹部はラッパ状に開き端部丸く収め、皿部はほぼ水平、口唇部丸く収める。	クロコ水引き、ナデ	黒、石英 暗褐色灰色 良	80 % + 15
32	蓋 須恵器	A 15.8 B 4.0 C 3.1	つまみ部やや扁平化する。大井部フクラミやや有り。底部は一旦水平に伸び内傾し断面二角形。つまみ貼付け。	回転ミズビキ、ナデ	黒、石英 褐灰色 やや良	60 % 床 直
33	小型鉢 土師器	A B C 6.8	底部に木葉紋、西肉薄く鋭角に立ち上がる。底部内面弱くふくらむ。	廻削り、ナデ	黒、砂、雲母、石英 暗褐色（褐色） 普通	10 % 電 内



第156図 第71号住居址出土遺物実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
34	土錘	1.9	2.3	0.3	11	土製	+ 20	算盤玉状、孔部小円形
35	土錘	2.2	2.0	0.3	10	"	覆土中	長円形状球形、孔部小円形

### 第72号住居址（第157・158図）

本址は、71号住居址の南側1区、I-21、G-21グリットを中心に確認された住居址で台地は、ほぼ平坦に移行する、切り合ひ関係はなく単独で検出された。主軸をN方向、西側ではN-8°-Wに置き不整形東西3.3m、3.6m、南北3.3m脇部の丸味をもつ変形プランを呈する。壁面は垂直に近く立ち上がり壁高40cmを測る。床面は、中央部が10cm程高くなり移行繰まりはやや強い。周溝は幅5cm~10cm、深さ5cm~10cmでU字状形に掘り込まれている。柱穴は確認出来なかった。

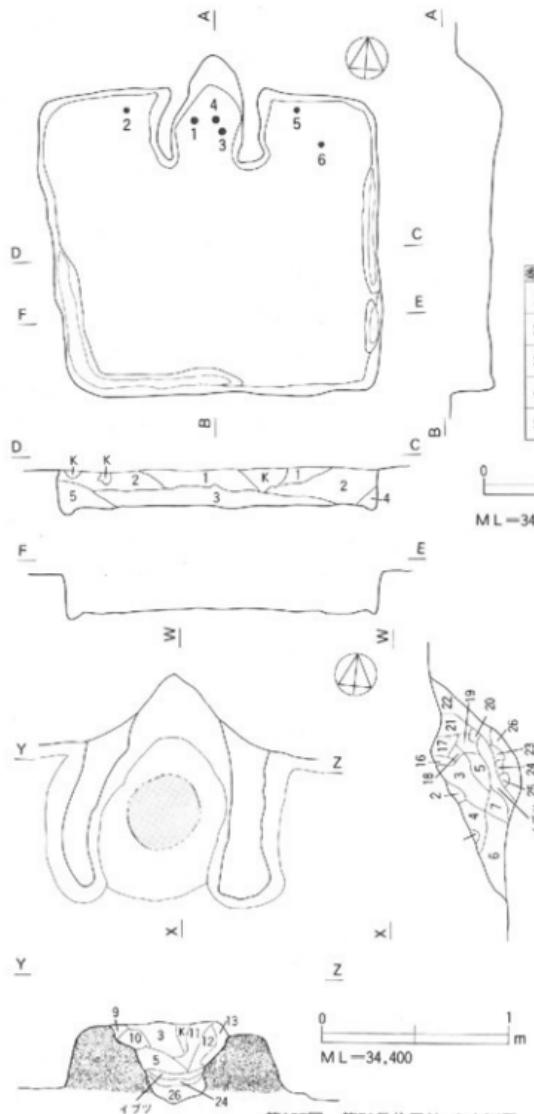
窓は、北壁中央部に構築されていた。外側に30cm程U字状に掘り込み袖部は80cm程長く直線的、内傾的に付設、焚口部はやや開き気味、火床部は中央部に位置し20cmと深く掘り込む。砂を含む？粘土で構築している？火床部はV字状形で狭い。袖部は幅30cmと広く構築している。

覆土は、9層に分類されたが図示した面では5層であり確認面1層は鈍い褐色、中央部に3層床直が認められ左右には4、5層とやや埋積状態の差が認められた。土層からは自然堆積？投げ込み？と理解すべきか。ローム粒子、粒、ブロックの混入量の差、1層のみ焼土粒子を極少量含む。

遺物は、須恵器がやや多く認められ総数100片と少ない。1は鉢状に近い大型の甕か瓶？縦位の平行叩目をもち口唇部は上部につまみ出す。小型の甕は長胴形状で土師器。（2・4・5）3は安定した大型の甕？須恵器で内面に輪積痕を残す。坏は籠削りをもつ一群の他高台貼付と思われるものが認められた。須恵器は二割前後の割合を示す。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	断形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1 1	甕 土師器	A 35.0	須恵器模はうのものと考えられ口縁部短く水平に開き口唇部上方へ丸くつまみ出す。内面輪積痕を残す。粗雑	横ナデ、叩き、ナデ	輝、雲母、長石 橙色（赤褐色） やや良	10 % 甕 内
		B				
		C				
2 2	小型甕 土師器	A 16.0	胴部最大径を肩部に置き、口縁部開き口唇部長目に上方へつまみ出す。	横ナデ、ナデ	輝、長石、雲母 暗褐色 やや良	15 % 床 直
		B				
		C				
3 3	鉢 須恵質	A	大きめの底部から鋭角に立ち上がる器形、大型の撚型土器と思われ、口縁部は短く水平に開くか？	輪穂、叩き、 籠削り、ナデ	輝、雲母、長石 暗褐色 やや不良	40 % 甕 内
		B				
		C 14.0				
4 4	小型甕 土師器	A	小さめの底部からゆるく内側して立ち上がり最大径を胴上位に置くと思われる器内は薄い。	籠削り、ナデ	輝、長石、雲母 にぶい黒褐色 普通	80 % 甕 内
		B				
		C 7.9				



第157図 第72号住居址、竪実測図

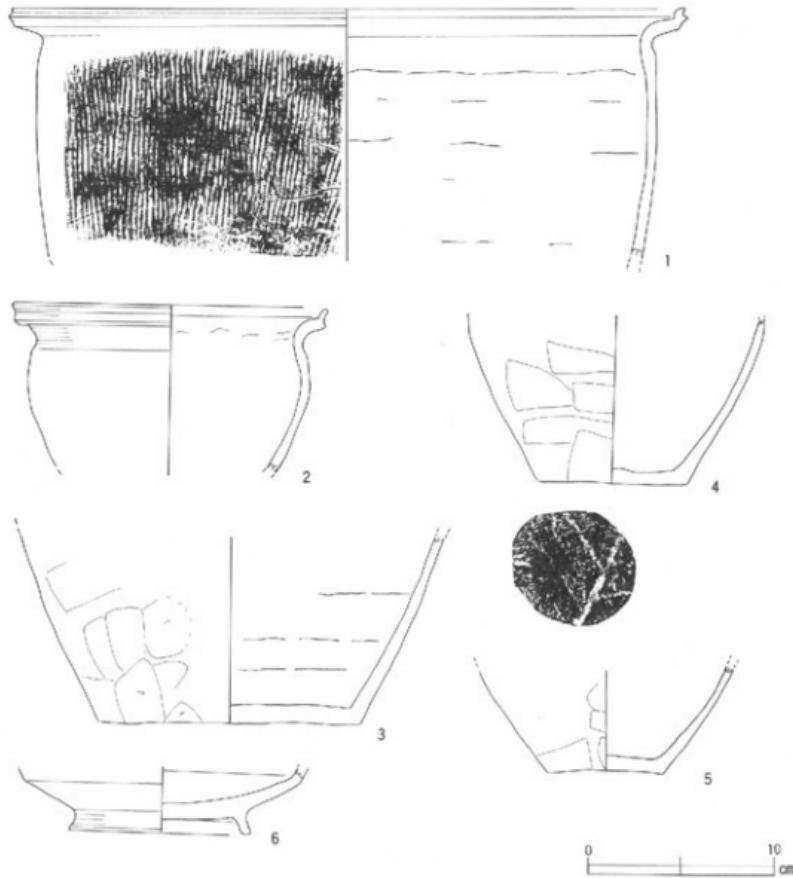
#### 土層凡例

番号	色	性質	含	右	物	粘性	硬り
1	褐色	褐色	粘土粒子を極少量			有り	有り
2	褐色	褐色	ロームブロック、 粒子少量			〃	〃
3	褐色	褐色	中ロームブロック、 粒子			なし	〃
4	褐色	褐色	ロームブロック、 炭粒少量			やや 有り	やや 有り
5	褐色	褐色	小ロームブロック、 粒子少量			有り	有り

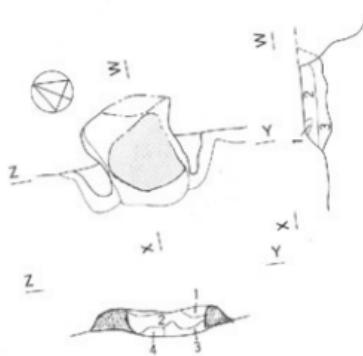
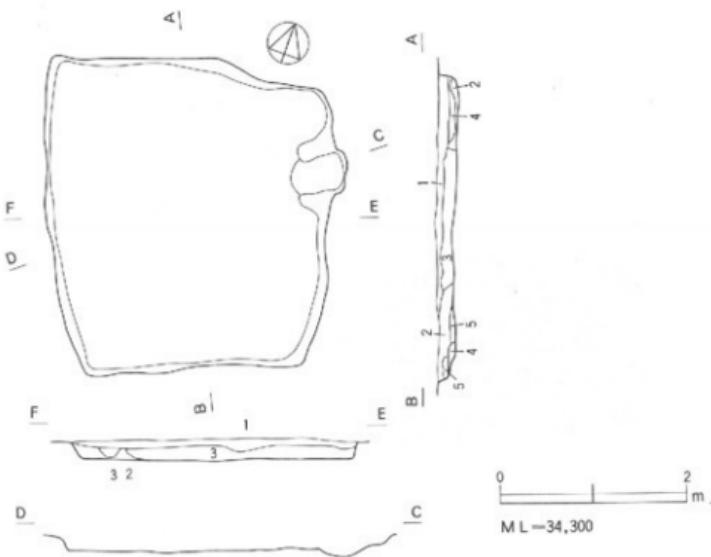
#### 土層凡例(窓)

番号	色	性質	含	右	物	粘性	硬り
2	褐色	褐色	砂?			有り	有り
3	褐色	褐色	粘土ブロック、粒子、 砂?			〃	〃
4	褐色	褐色	砂多量			〃	〃
5	褐色	褐色	粘土、砂砂を中量			〃	〃
6	褐色	褐色	砂少量			〃	〃
7	褐色	褐色	砂?			〃	〃
9	褐色	褐色	砂?			〃	〃
10	褐色	褐色	砂砂多量、 粘土ブロック少量			無し	〃
11	褐色	褐色	粘土粒子中量、 ローム粒子?			有り	〃
12	褐色	褐色	粘土粒子			〃	〃
13	褐色	褐色	砂中量、粘土粒子少量			やや	〃
16	褐色	褐色	砂?			有り	〃
17	褐色	褐色	砂?			やや	〃
18	褐色	褐色	砂子ブロック、 ロームブロック			〃	〃
19	褐色	褐色	砂土ブロック(小)を 少量			〃	〃
20	褐色	褐色	ロームブロック			〃	〃
21	褐色	褐色	黑色粘土、砂?			〃	〃
22	褐色	褐色	黑色粘土ノロック中量			〃	〃
23	褐色	褐色	砂?			無し	強い
24	褐色	褐色	ローム粒子少量			やや	やや
25	褐色	褐色	砂砂多量			無し	〃
26	褐色	褐色	ロームブロック、 砂?			有り	有り

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	斎形技法	胎土、色調、焼成	備考
5	小型甕 土師器	A 6.2 B C	器内薄く開きながら立ち上がる。小型甕?鉢か?粗雑な調整	薙削り、ナデ	黒、雲母、長石 にぶい褐色(暗褐色) やや良	100% + 5
6	高台環 須恵器	A B C 9.7	高台は短く貼付、張りは弱い、盤になるか、剥落多し。	粘土紐巻上げ? 回転ミズビキ、ナデ?	黒、石英、雲母 灰褐色 良	40% + 15



第158図 第72号住居址出土遺物実測図



番号	色調	含 有 物	粘性	締り
1	褐色	ローム粒、粒、褐色、黄褐色 砂質粒子少量	やや 有り	強い
2	褐色	ローム粒、ブロック多量	無	やや 有り
3	褐色	ローム粒、ブロック、燒土粒、灰 化鉱物少量	無	無
4	褐色 に赤い 赤褐色	ローム粒、多量、ブロック少量 燒土粒子、黄褐色砂質粒子、ローム ブロック少量	無 し	弱い
5	褐色	ブロック少量	無し	無し

#### 土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	締り
1	褐色	ローム粒、ブロック	無し	弱い
2	褐色 褐色赤	ロームブロック、燒土ブロック、粒 子、炭化物子や多量	無	無
3	褐色	ローム粒子、ブロック多量	弱い	無
4	暗褐色	ローム粒子、粒少量	やや 有り	強い

#### 土層凡例

0 1 m

ML - 34,350

第159図 第74号住居址、竪穴測図

#### 第74号住居址（第159図）

本址は、54、55号住居址の下位1区、Y-17・18、Z-17・18グリットを中心に確認された住居址で56・73号住居址を掘り込んで営まれた住居址である。主軸をE-25°-Nに置き、東西2.6m、南北3.4m。隅部の鋭角的な部分をもち長方形プランを呈する。壁面は、上部大半を前述のように削平され確認面から10cm前後の掘り込み、外反、開き気味。床面は、やや締まりは悪くローム剥き出し状の部分も認められた。ほぼ平坦に移行する。周溝、柱穴は確認されなかった。

竈は、東壁の北側に寄った位置に検出された。外側に20cm程コの字状に掘り込み袖部を25cm程短く付設、特異な形態を有している。火床部は8cm程U字状に掘り込み中央部に位置していた。本遺跡では竈形態がコの字状を呈するものは唯一のものである。

覆土は、5層に分類され投げ込み的、5層を除き褐色で確認面1層は55号住居址の貼り床部分で粘性ややあり締まりは強い。他は、ローム粒子、ブロック、ブロック、焼土粒子、炭化粒子等を含む。締まりはややある。

遺物は、散在して50片程出土した。図示出来るものではなく遺物割合は、縄文土器が六割を占める。須恵器は、検出されなかった。

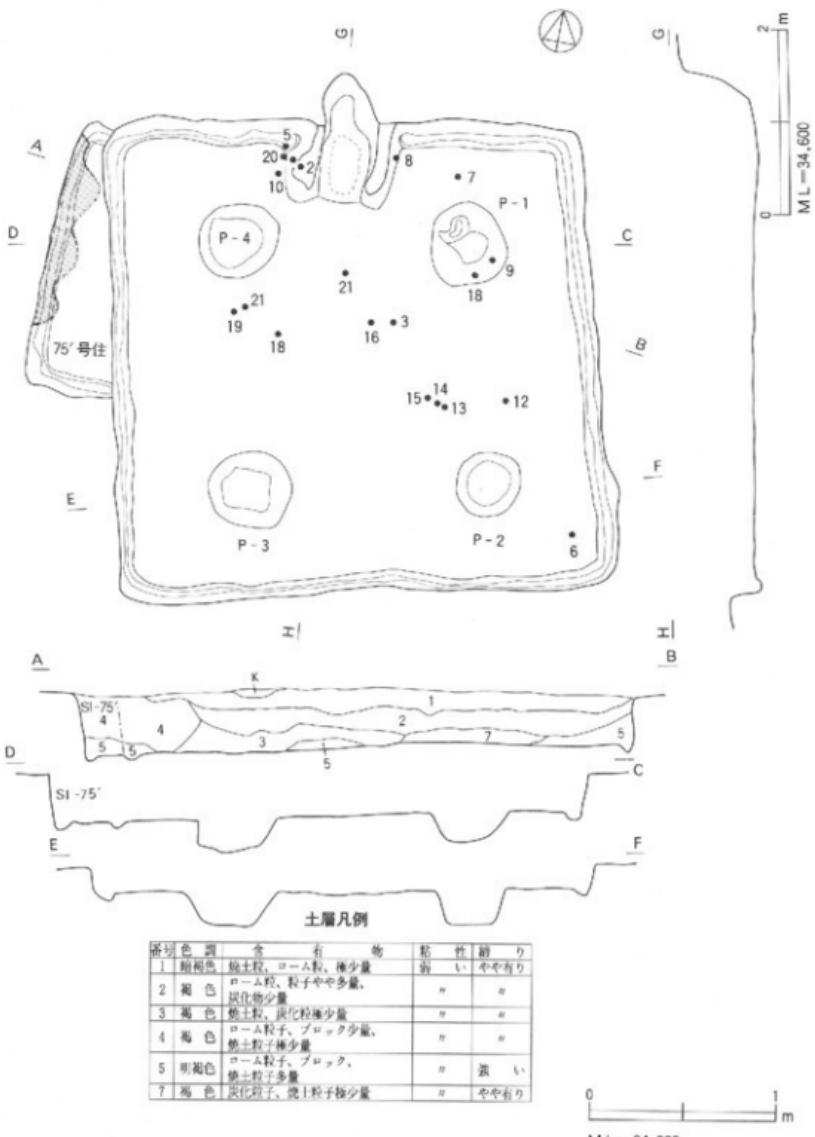
本時期で東側に竈を構築している遺構は類例はなく5ヶ所の遺跡群の中でもない。

#### 第75・75'号住居址（第160・161・162図）

本址は、59号住居址の西側1区、X-23・24、Y-23・24グリットを中心に確認された住居址で台地が南側に強く傾斜を示す面に検出された。西側では縄文中期の88号住居址、古墳時代後期の75'号住居址を掘り込み営まれていた。主軸をN-17°-Wに置き、東西5.3m、南北5.2mを測る。隅部が若干丸味を呈する。壁面は、南側で30cm、西、北側で60・80cmを測りやや開き気味に立ち上る。75'号住居址は主軸をN-11°-Eに置き、南北2.9m程の方形プランを呈すると思われる。壁面部、床面部には焼土が認められ、一部は88号住居址の炉址を掘り込んでいる。床面は、良好な締まりを示しほぼ平行に移行している。周溝は、幅10cm~20cm、深さ5cm~10cmでU字状に巡る。75号住居址もほぼ同様の形態を有する。柱穴は、四ヶ所認められたが掘り込み形態は前述までの形態とはかなりの差異を呈している。径70cm~90cm、深さ38cm前後と一定し円形状、で「U」の字状形態を有している。75'号住居址では柱穴は確認されなかった。

竈は、北壁中央部に位置し検出された。外部へは50cm程のU字状に掘り込み袖部はやや西側へ向き90cmの長さで付設、焚口部はやや開き気味、火床部は若干掘り込み長円形状、中央部前面に位置している。煙道部は強く立ち上る。灰褐色の砂質粘土を用いて築いている。

覆土は、7層に分類された。確認面1層は暗褐色でほぼレンズ状の自然埋積と理解される。2・3・4層は褐色、ロームブロック、粒、粒子、焼土粒子、炭化粒子、粒等の混入量の差で粘性は



第160図 第75、75'号住居址実測図

弱く、繕まりはややある。75'号住居址もほぼ同様な層位を示す。

遺物は、中央部、甕前面を中心に多く散在し総数 300片程検出された。甕は、頸部が肥厚、「く」の字状に外反、口縁部は水平に近く開き、口唇部は尖り氣味、長胴形から球形状、口縁部は短く外反し尖る瓶型土器もみられた。坏は肩部に顯著な稜をもち、口縁部は内傾するものと確に近い深いものも認められた。その他支脚などが出土している。上製の丸球は17点と多量に出土した。調整は粗雑で不整形、孔部円形状でかなり使用され丸味をもつものも多い。重さは 9gから45gと重量にはかなりの差が認められる。

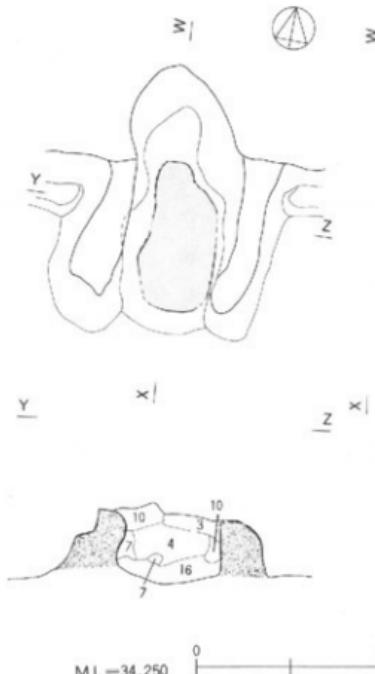
出土土器觀察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 21.5 B C	頭部や長呂、口縁部外反、口唇部尖り氣味、器肉は薄い。	やや粗雑、輪削痕残す。ナデ	礫、砂、長石 淡い橙色 やや不良	15 % 覆土中
2	甕 土師器	A 20.6 B C	最大径を上位に廣くか、長胴氣味、口縁部「く」の字状外反、口唇部丸く収める。	横ナデ、輪削り ナデ	礫、砂、長石 黄橙色 普通	20 % 覆土
3	甕 土師器	A B C	口縁部底欠、長胴形状、二次焼成の為不良 (窓内出土)	横ナデ、ナデ	礫、砂、長石 赤褐色(暗い橙色) やや不良	30 % 覆土
4	小型甕 土師器	A 15.5 B 14.4 C 7.4	平底の底部から内彎して立ち上がり胴部で器肉を減らし、頭部肥厚し口縁部短く外反、口唇部丸く収める。	横ナデ、ナデ 輪削り	礫、砂、長石 赤褐色(淡い赤褐色) やや良	60 % 床直
5	甕 土師器	A 6.2 B C	平底から内彎して立ち上がる小型のカメ、内面ヘラによる互々の輪削り	ナデ、輪削り	礫、砂、長石、青母 赤褐色(黒褐色) 普通	20 % 覆土
6	甕 土師器	A 19.7 B C	直線的に立ち上がり口縁部外反、口唇部尖り氣味丸く収める。剥落多し。	横ナデ、ナデ 粗雑	礫、長石 橙色(極端褐色) やや不良	15 % + 5
7	坏 土師器	A 4.3 B 4.5 C	丸底氣味からゆるく内彎して立ち上がり、肩部に顯著な稜をもち口縁部内傾、短く口唇部尖る。	横ナデ、輪削り 輪ナデ、ナデ	礫、石英 暗褐色(にぶい橙色) 良	30 % 床直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	構形技法	胎土、色調、焼成	備考
8	肩 土師器	A 14.1 B 7.5 C 6.6	底部に孔部を有しているが器肉は薄い為自然 使用上の可能性有り。肩部で内側、口唇部丸 く收める。	壺ナデ、範削り ナデ	黒、長石、青母、砂 に赤い赤褐色(赤褐色) 普通	100%? 重袖
9	長頸瓶? 須恵器	A B C	肩部か? 瓦質に近い。	カキ目、ナデ	黒、長石 暗褐色 やや良	頸部 腹土中

### 石器、土製品一覧表

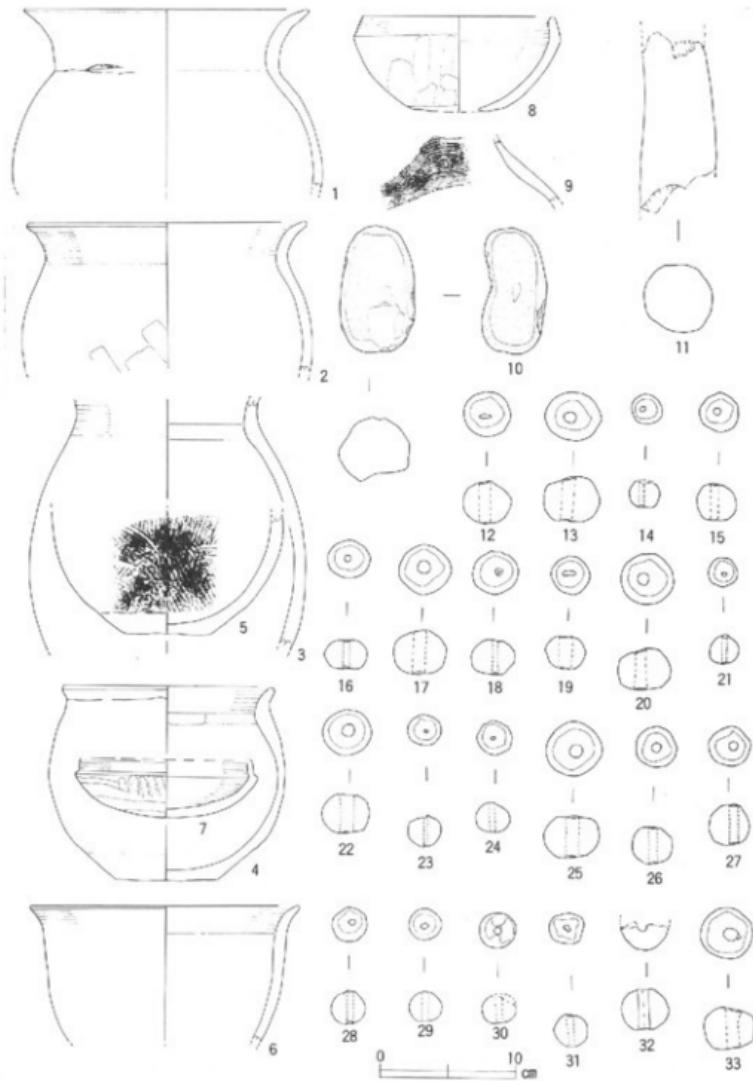
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	山土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
10	敲石?	9.3	5.4	4.7	338	安山岩	庵内	刀部1部欠損、石斧?



第161図 第75号住窯実測図

- 242 -





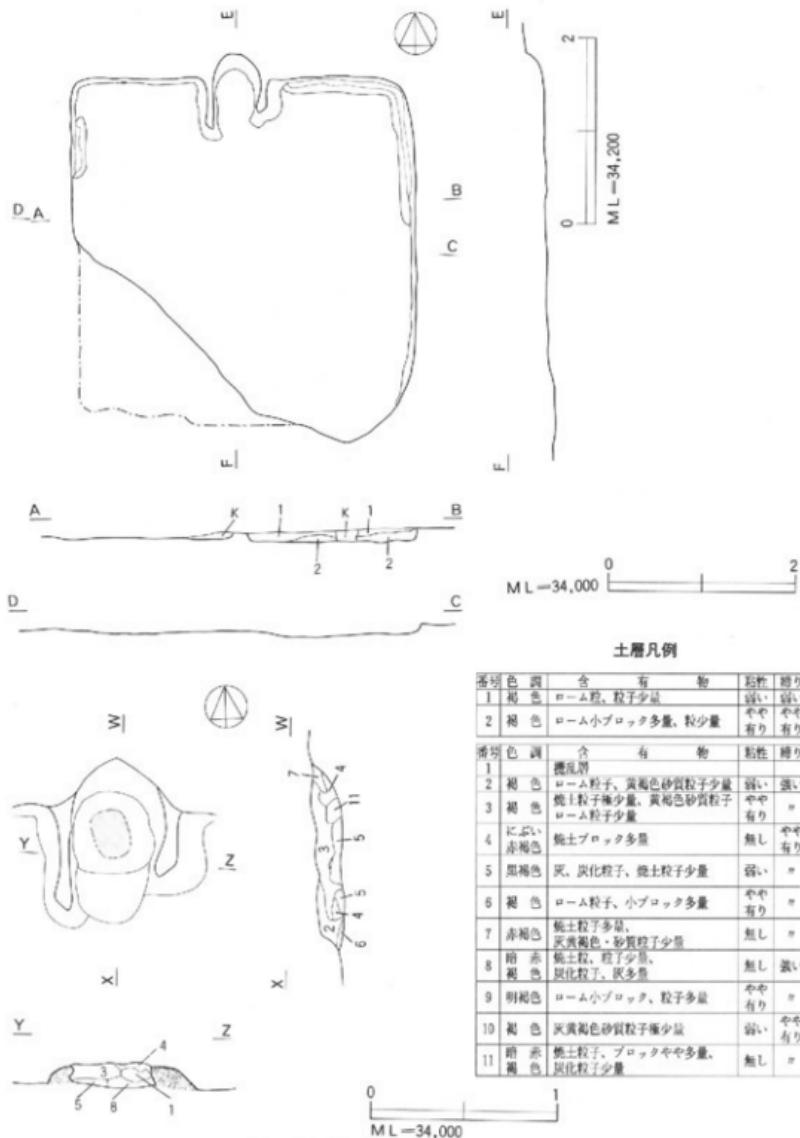
第162図 第75号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
11	支脚		5.6	5.0		土製	床 直	上下端部欠失、円筒状
12	上 館	3.1	3.5	0.8	35	"	+	32 不整形球状、孔部正円形、ナデ
13	"	3.2	4.1	1.0	45	"	+	34 不整形球状、孔部正円形状、ナデ
14	"	1.9	2.3	0.3	9	"	+	36 ほぼ球形状、孔部正円形(小型)、ナデ
15	"	2.7	2.9	0.6	22	"	+	37 不整形球状、孔部正円形
16	"	2.1	3.1	0.5	18	"	床 直	つぶれた球形状、孔部正円形(砂やや多し、ナデ)
17	"	3.2	3.9	0.9	38	"	+	21 不整形球状、孔部正円形、ナデ
18	"	2.6	3.3	0.4	22	"	+	50 つぶれた球形状、孔部小乳円形(ナデ)
19	"	2.3	2.9	1.0	18	"	+	23 不整形球状、孔部正円形、ナデ
20	"	3.0	3.8	0.8	38	"	+	47 不整形球状、孔部正円形、ナデ
21	"	2.1	2.1	0.5	9	"	1	48 不整形球状、孔部二ヶ月状(ナデ)
22	"	2.9	3.5	1.0	29	"	覆上中	不整形球状大型、孔部正円形(ナデ)
23	"	2.3	2.5	0.2	10	"	"	不整形球状、孔部小乳円形(ナデ)
24	"	2.2	2.5	0.4	11	"	"	不整形球状、孔部小長円形状(ナデ覆削り)
25	"	3.0	4.1	1.0	43	"	"	不整形球状大型、孔部正円形、ナデ
26	"	2.6	3.0	0.6	21	"	"	不整形球状、孔部正円形、ナデ
27	"	2.9	3.1	0.6	22	"	"	長円形状、孔部正円形状、ナデ
28	"	2.9	2.6	0.4	12	"	"	不整形球状、孔部長円形、ナデ、覆削り
29	"	2.1	2.4	0.5	10	"	"	ほぼ球形状、孔部西角状(ナデ)
30	"	2.0	2.7	0.5	10	"	"	不整形球状、孔部正円形(ナデ、1部欠)
31	"	2.3	2.5	0.5	12	"	"	不整形球状(角ばる)、孔部不整形長形状、ナデ、押え
32	"	2.9	3.5	0.8	17	"	"	球形状、孔部正円形状?(ナデ、1/2欠)
33	"	0.9	0.9	0.1	1.5	"	床 直	不整形状、孔部円形状

#### 第76号住居址(第163図)

本址は、22号住居址の南側1区M-17・18、N-17・18グリットに位置し台地は、南側に強く傾斜を示し南西側を欠失している。切り合ひ関係はない。主軸をN方向に置き、東西約4m・南北3.7m、隅部の丸い方形プランを呈すると推定される。壁面は、北・東側で20cm、10cm程認められ外反して立ち上る。床面は、竈前面の一部に締まりが認められたが、総体的に悪く南側ではローム剥き出し状。ほぼ平坦に移行する。周溝は北、東、西側に認められたがいずれも浅くV字形状、柱穴は、検出されなかった。

竈は、北壁中央部に認められた。外側に30cm程U字状に掘り込み袖部を直線的に60cm程付設、焚口部は若干狭くなる。火床部は床面とほぼ水平、やや奥部に位置する。形態的には、U字形状・灰黄褐色の粘土を用い築いている。



第163図 第76号住居址、確実測図

覆土は、2層に分類され以前畠地のため擾乱が多い。土層からは自然埋積と推定される。いずれも褐色層でロームブロック、粒、粒子の混入量の差、締まりは2層はややある。

遺物は、少なく僅かに30片程度であった。図示出来るものはない。いずれも土師器で須恵器は数片と少ない。

#### 第77号住居址（第164・165図）

本址は、16号住居址の西側1区、D-15・16E-15・16グリットを中心に確認された住居址で台地は西側に傾斜を示す。切り合い関係はないが北側では擾乱が入り不明確。近年まで烟に使用されていたため覆土は浅い。切り合い関係はない。主軸をN-30°Wに置き・東西3.9m・南北3.9m、隅部の鋭角的な方形プランを呈する。壁面は、開いて立ち上がり西側は欠失し立ち上がりはない。遺存状態の良い南、東側で10cm~15cmを測る。床面は、擾乱部を除き踏み固められ良好で、ほぼ平坦に移行している。周溝は、幅10cm~20cm、深さ10cm~15cmとU字状の明確な掘り込みが認められた。柱穴は3ヶ所認められ、P1は円筒状掘り込みを呈している。径40cmの円形状、深さ20cmと深い。P2は径40cmと長円筒状で深さ45cm、P3は径20cm円形、深さ50cmと円筒状、P4と思われる部分は擾乱の為欠失していると推定される。

竈は、北壁中央部西寄りに構築されていた。外部へは、20cm程円形状に掘り込み、袖部は直線的に60cm程の長さで付設、焚口部は若干狭くなる。火床部は5cm程掘り込む。大半を畠耕作の為欠失しているがU字状形を呈していたか、？。灰褐色の粘土を用い築いている。

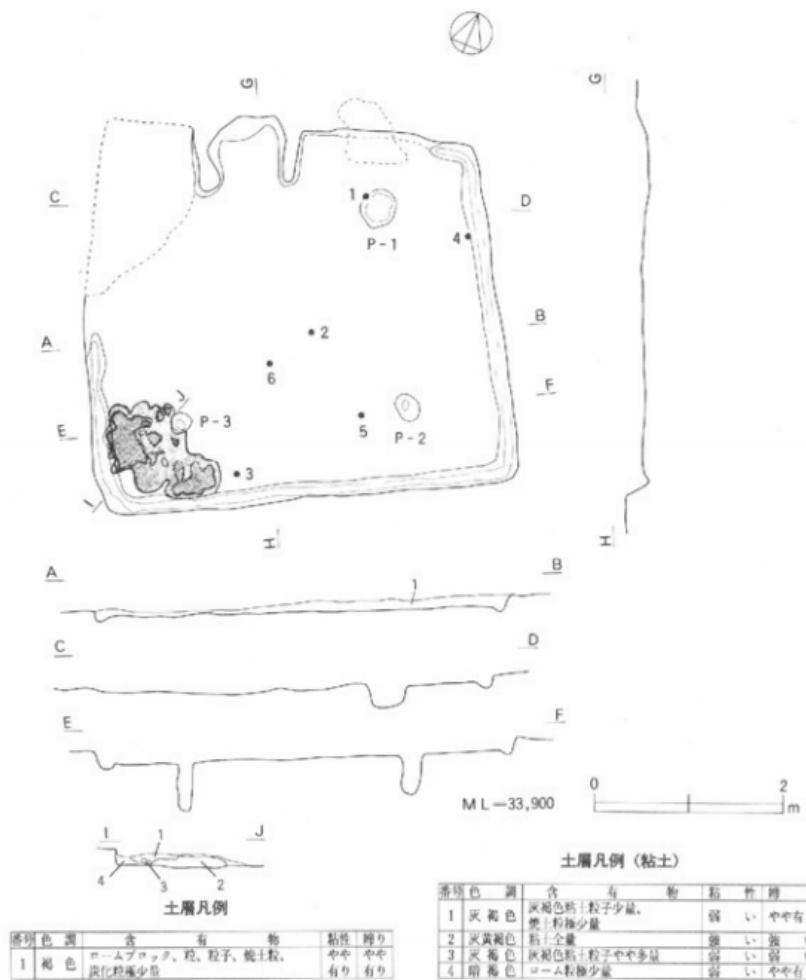
覆土は、1層褐色でロームブロック、粒、粒子、焼土、炭化粒子を含む。粘性、締まりはやや

#### 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 上陣器	A 23.3	頸は弱くびれ口縁水平に開き、口唇部外面凹部をもつ、つまみだし長脚形。	横ナデ、ナデ	礫、雲母、石英、長石 暗褐色 普通	15 %
		B				+
		C				2
2	环 土師器	A 10.3	安定した底部から強く内彎して立ち上がり口縁部近く直立から内傾気味矧い。口唇部尖る。	横ナデ、箒削り 施磨き	礫、長石 淡い棕色 やや良	100 %
		B 4.2				4
		C 4.8				
3	皿? 土師器	A 18.4	高環、器台、形態的には环より皿状のもの、内側口縁部に凹部有り。器台状か。	ナデ、箒削り 施ナデ	礫、長石 棕色一部黒褐色 やや良	60 %
		B				10
		C				
4	蓋 須恵器	A 16.6	天井部のフクラミはやや強くカエリは顯著、天井部箒削り	粘土組巻上げ 回転ミズビキ 施削り	礫、雲母、石英 灰褐色 やや良	30 %
		B				5
		C				

ある。その他、南西隅部に粘土塊が認められた。

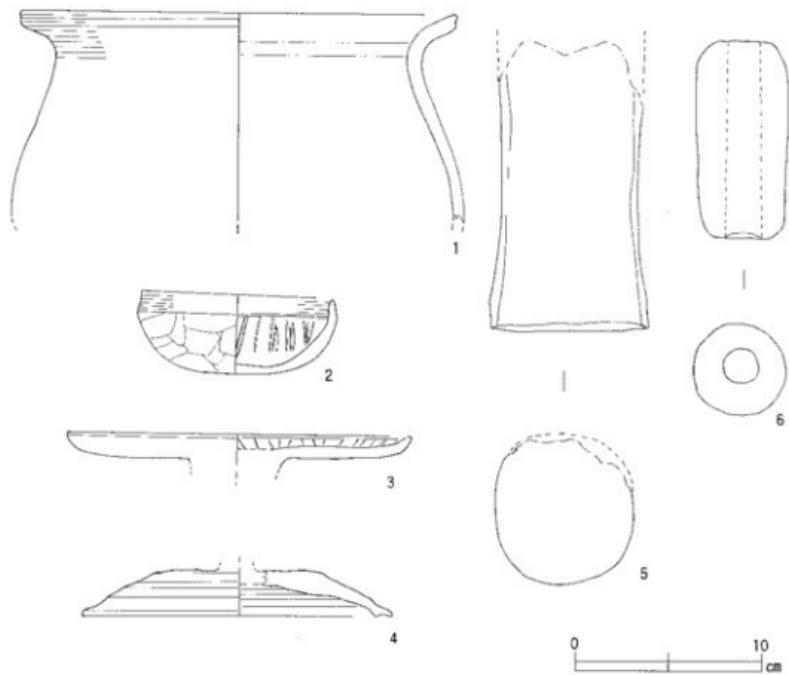
遺物は、総数 100片出土した。縄文土器が 1割を占める。甕は、口唇部つまみ出し、坏は、小型碗に近く内面に粗い箝磨きがある。皿に近い器台があるが脚部は欠失し不明。円筒状の管状土錐がみられた。須恵器も 1割前後を占める。



第164図 第77号住居址実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
5	支脚		8.6			土製	床直	大型で円筒形状、丁重なナゲ調整、上部欠
6	管状土錐	10.6	4.9	2.0	300	土製	床直	管状、孔部正円形、丁重なナゲ一部欠



第165図 第77号住居址出土遺物実測図

### 第78号住居址（第166・167・168・169図）

本址は、77号住居址の北西側1区、B-9・10、C-9・10グリットに位置し確認された住居址で台地は、西、北側に僅かに傾斜を示す。切り合い関係ではなく単独で他の住居址から離れて占地し最も近い12号住居址からでも20m程離れている。主軸をN-16°-Eに置き、東西4.4m、南北4.2m、隅部の直角な方形プランを呈する。壁面は、垂直に立ち上がり壁高50cm～60cmを測り深い。床面は、竈前面、中央部を中心に良く踏み固められ遺存状態は良い。ほぼ平坦に移行する。周溝は、幅10cm～20cm、深さ5cm～10cmで明確な掘り込みをもつ。柱穴は、4ヶ所認められいずれも円形状、径40cm～50cm、P1は5cmと浅い。P2は2段状、下部は円筒状の掘り込み、P3、P4は不整形形状の掘り込み、深さ40cm、20cm。浅い掘り込み形態。

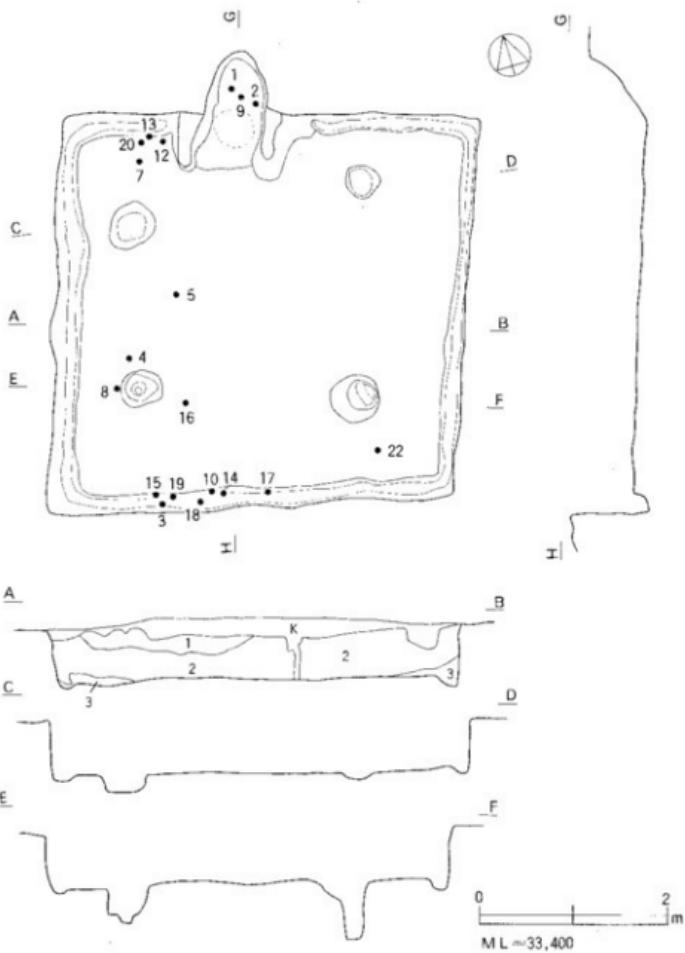
竈は、北壁中央部やや西寄りに位置し構築されていた。外部へはU字状に70cm程掘り込み袖部を直線的に60cm程付設、やや西側に向き焚口部は開く。火床部は、中位に位置し若干掘り込む。U字形、黄褐色粘土を用い築いている。

覆土は、5層に分類されたが図示したものは3層のみで確認面の大半は攢乱層で1層は褐色、大半を占める2層は暗褐色・周溝部3層は褐色で1層よりやや明るい。2層は、焼土粒子を含む他は灰褐色の粘土、ローム粒、粒子を含む。

遺物は、南壁側、竈前面、西側に主として集中して出土、総数300片を数える。甕は小型化、器内は薄く輪積痕、回転調整痕を残し口唇部は長目につまり出す。大型の須恵器甕は調整痕を残す。平行叩目を残す土師器と須恵器が認められ直線的に開いて立ち上がる。IIは格子状の叩目を残す。坏は、外反して立ち上がるものと、底径と口径の差が倍に近いものが認められる。量的には、後者が大半を占める。20は直立する付高台を貼付、底部に「再」の捺書きを有し明確に判読される。

出土土器観察表

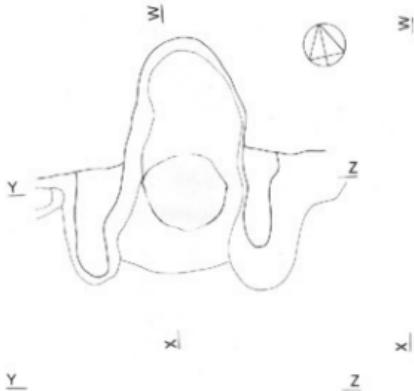
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土	色調	焼成	備考
1	甕 土師器	A 19.3	安定した底部から直立気味に立ち上がり口縁部ゆるく開き、口唇部斜、横位につまみ出す。	横ナデ、ナデ 鏡削り	礫、長石、雲母 橙色、褐色 普通	40 %	電 内	
		B 19.0						
		C 9.8						
2	甕 土師器	A 18.7	長嗣形器形、口縁部短く外反、口唇部斜上方へ長くつまり出す。外面輪積痕残す。	横ナデ、ナデ	礫、雲母、長石、石英 褐色(淡い赤褐色) 普通	15 %	電 内	
		B						
		C						
3	甕 土師器	A 15.2	巻上げ痕、回転ミズビキ整形、口縁部短く外反、口唇部斜上方へつまり出し。	巻上げ、回転ミズ ビキ、横ナデ、ナデ 鏡削り	礫、石英、長石 浅い赤褐色(黒褐色) やや良	10 % + 33		
		B						
		C						



土層凡例

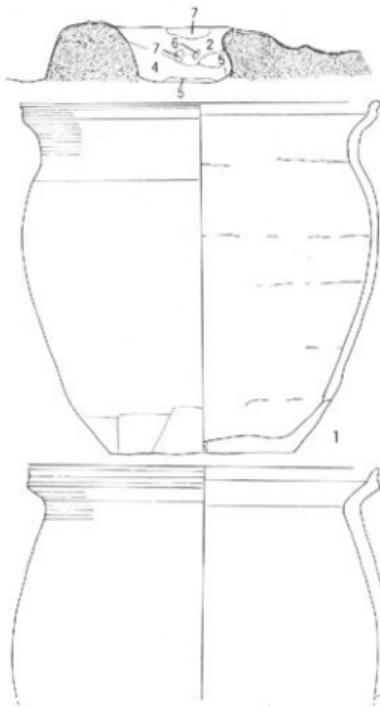
番号	色	層	含	有	物	特	性	範	り
1	褐	色	ローム粒、	粉	微少量	38	い	細	い
2	暗褐色	色	ローム粒、	粉	微少量	"	やや有り		
3	褐	色	ローム粒、粒子、	ブ	ロックやや多量	やや有り	"		

第166図 第78号住居址実測図

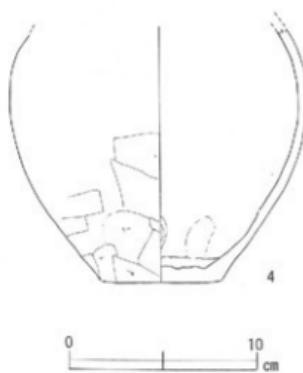
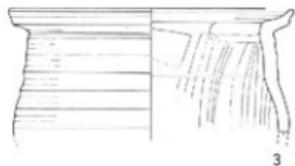


土層凡例

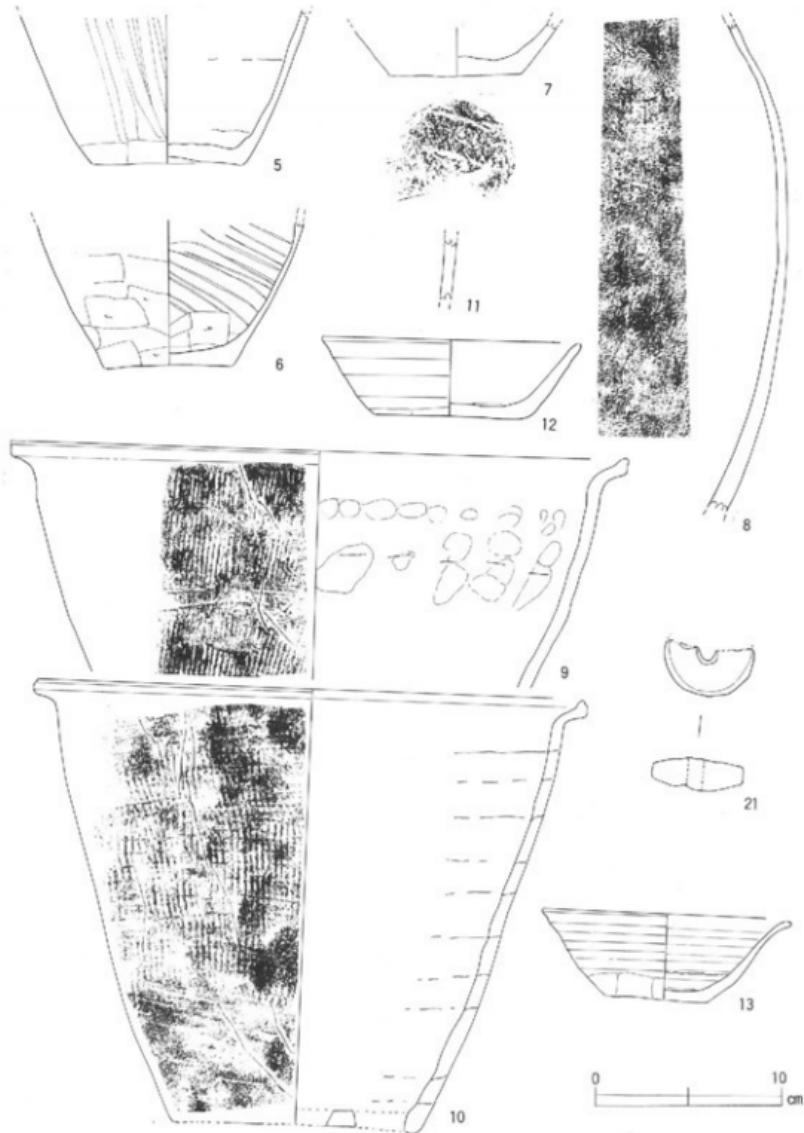
層号	色調	含水率	性質	割り
1	褐色	コームブロック、 黄褐色粘土、粘子少量	弱い	強い
2	褐色	黄褐色粘土、粘子や多量、ローム ブロック少量、砂・粒状少量	○	△
3	紫褐色	コームブロック、粘少量 黄褐色粘土、粘子少量	△	△
4	にごい 赤褐色	泥・粘子や少量、ブロック極少 黄褐色粘土粘子少量	△	△
5	赤褐色	粘土ブロック多量	無し	弱い
6	褐色褐色	泥化粘子、泥化粘子、黄褐色粘土 粘子少量	△	△



0 1 m  
ML -34,000

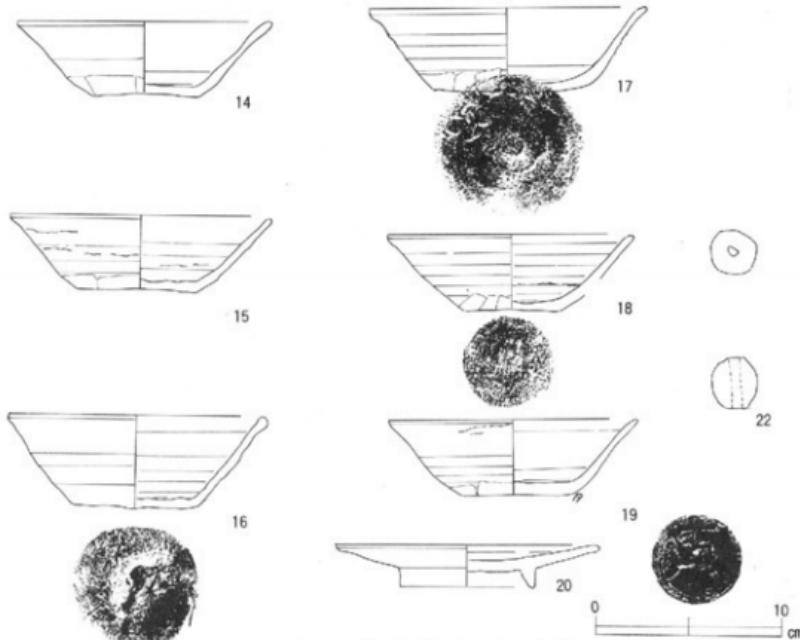


第167図 第78号住戸、出土遺物実測図



第168図 第78号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	釉上、色調、焼成	備考
4	小型壺 土師器	A B C 6.5	小さめの底部から内凹して立ち上がり最大径を胴中位に置く。ナデ、箒削りの粗雑な作り器肉薄い。	ナデ、箒削り 左右方向	礫、雲母 極端褐色(暗褐色) 普通	40 % + 6
5	壺 土師器	A B C 8.2	平底から直線的に弱く開いて立ち上がり、器内は薄い。小型の壺か?	箒削り、ナデ	礫、雲母、長石、石英 黒褐色(明褐色) 普通	40 % + 4
6	壺 土師器	A B C 7.0	小型の壺型土器と思われ器肉は薄い。瓶角に立ち上がる。	箒削り、内面 櫛状工具による斜 位のナデ	礫、石英、雲母	100 % 竈内
7	小型壺 土師器	A B C 7.1	小型の壺型土器と思われ、器内は薄く開き気味に立ち上がる。	箒削り、ナデ	礫、雲母 黒褐色、赤褐色 普通	100 % + 13
8	大型壺 須恵器?	A B C	外面へラナテ状調査痕を残し、内面当底をナ デ消し。	叩き、箒ナデ? ナデ	礫、長石、石英 暗褐色灰色(灰褐色) 良	10 % + 4



第169図 第78号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
9	瓶?	A 32.8 B C	瓶の可能性が高い、外反して立ち上がり口縁部短く水平に近く開き、口唇部は斜上方につまみ出す。内面当瓶、輪積痕顯著。	横ナデ、叩きナデ	礫、雲母暗褐色、橙色やや良	40 % 壺内
10	瓶 須恵器	A 29.5 B 23.6 C 13.1	底部5孔、中央円形能三ヶ月状、鉢に近い器形、口縁部近く外反、口唇部つまみ出し巻上痕を残す。	平行叩き、箒削りナデ	礫、石英、長石褐灰色やや良	40 % + 10
11	瓶?	A B C	格子状、変形な臺形の叩きをもつ。	叩き、ナデ	礫、雲母、石英におい橙色普通	1 % 壺土中
12	环 土師器	A 14.0 B 4.1 C 8.2	安定した平底から外反して器内を減じて立ち上がり口唇部丸く収める。内面ナデ黒褐色。	回転ナデ、箒削りナデ	礫、雲母、石英におい橙色普通	90 % 床直
13	环 土師器	A 13.3 B 4.6 C 5.6	底径と口径の差が倍になる器形、口縁部水平に開き、口唇部肥厚する。	粘土紐巻上げ、回転ミズビキ、箒切り、底部籠ナデ、箒削り、左廻り	礫、雲母灰白色やや良	80 % + 13
14	环 須恵器	A 13.6 B 3.8 C 5.8	底径の倍に近い径を有している。外反して立ち上がり口唇部肥厚し丸く収める。	粘土紐巻上げ、回転ミズビキ、箒削り、ナデ	礫、石英、雲母におい橙色(暗褐色)やや不良	80 % + 5
15	环 須恵器	A 14.0 B 3.8 C 6.3	底径に対し、口径が倍に近くなり、体部は外反し立ち上がる。外面、内面は巻上痕を残す。やや不整形。	粘土紐巻上げ、回転ミズビキ、箒削り、ナデ、左廻り	礫、石英、雲母暗褐色灰色やや良	80 % + 20
16	环 須恵器	A 13.7 B 5.0	底径と口径の差が倍に近く口縁部外反、口唇部カット状肥厚。	ロクロ水引き? ナデ、回転糸切り左廻り	礫、石英褐灰色良	60 % + 8
17	环 須恵器	A 15.0 B 4.5 C 8.3	やや大きめの底部から外反して立ち上がり、底径の倍に近い口径を有し口唇部肥厚、丸く収める。	粘土紐巻上げ? 回転ミズビキ? 箒切り、ナデ、左廻り	礫、雲母暗褐色灰色やや良	70 % + 8
18	环 須恵器	A 13.3 B 4.0 C 5.2	底径の倍以上の口径を有し、口縁部外反、口唇部肥厚、巻上痕を残す。	粘土紐巻上げ、回転ミズビキ、箒切り、底部籠ナデ箒削り、左廻り	礫、雲母灰白色やや良	100 % + 10
19	环 須恵器	A 13.5 B 4.1 C 6.2	底径の倍に近い口径を有し、口縁部外反口唇部肥厚、巻上痕を残す。	粘土紐巻上げ、回転ミズビキ、箒切り左廻り	礫、雲母、長石褐灰色やや良	90 % + 17
20	皿 須恵器	A 14.2 B 2.3 C 7.3	やや長目の高台を直立し貼付、口部は水平に伸び、口唇部丸く収める。底部に「再」の施書きあり。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ 高台貼付、ナデ	礫、雲母、石英橙色、白褐色やや良	70 % + 13

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔深				
21	纺錘車	1.5	4.8	0.8	21	上製	竈内	円形状1／5欠失、孔部円形状、ナデ
22	土鍤	2.6	2.4	0.5	11	〃	+	22 長円形状、孔部三ヶ月状

## 第79号住居址（第170・171・172図）

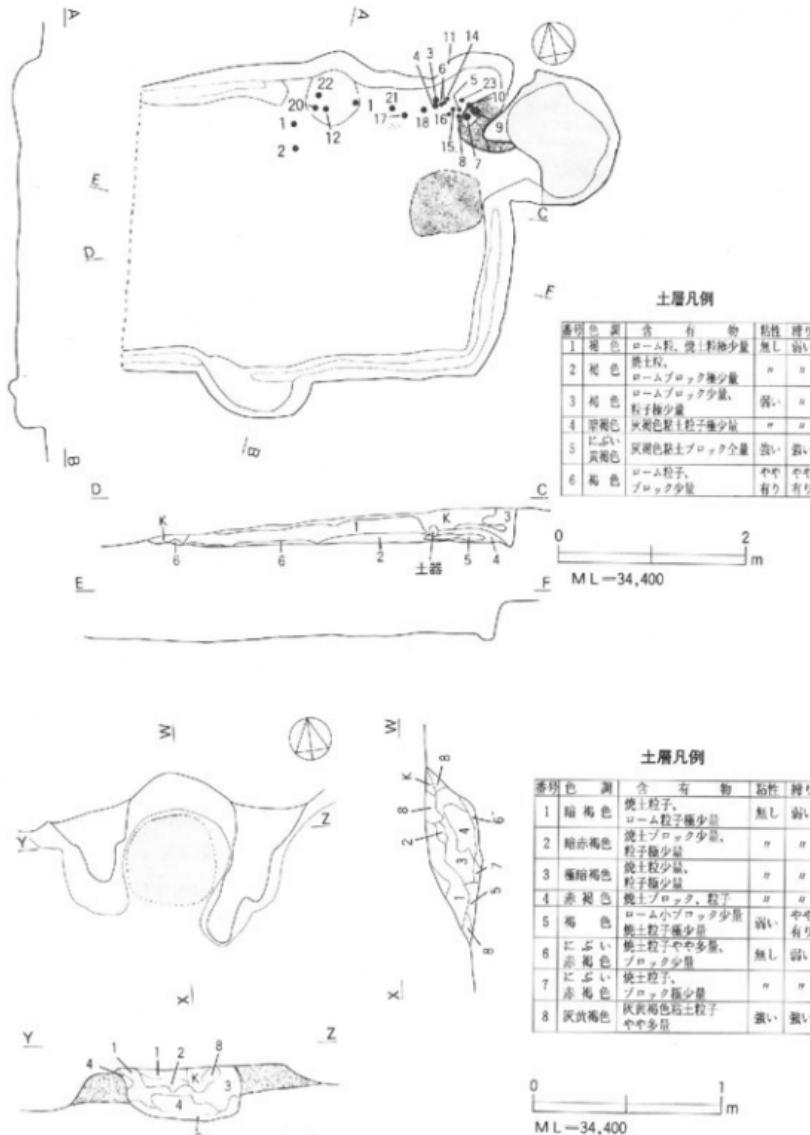
本址は、77号住居址の東側1区、F-16、G-16グリットを中心に確認された住居址で台地は、西側に傾斜を示し、近年まで畠として利用されていた段違い部分に入り西側では立ち上がり部分は5cm前後である。切り合い関係ではなく単独で検出された。主軸をN-10°-Eに置き、東西4.2m前後、南北3.2mの長方形プランを有し隅部は、丸い部分、折れる部分が認められる不整形状。壁面は、前述の様に西側では若干立ち上がりを認めるものの欠失、東側は鋭角的に立ち上がり40cm前後を測る、床面は、ほぼ良好な締まりを呈しており状態は良い。ほぼ平坦に移行する。周溝は、遺存部では幅10cm～25cm、深さ5cm～10cmで認められてU字状形を呈する。

窓は、北壁側に構築されているが他に北東隅部に竈状遺構が認められた。北壁側に位置している窓は、外部へは、10cm程「く」の字状に僅かに掘り込み、袖部は内傾状に70cm、50cm程付設、焚口部はせまくなり火床部は中位に位置、若干掘り込む。形態的には凸形状、灰黄褐色の粘土を用いて築いている。東側に位置する部分は、全面に焼土が存在。ローム層は火を受けブロック状、袖にあたる部分には灰褐色の粘土が付設され住居址内へ30cm程伸び、掘り込み形態は径1.4m程の円形状に掘り込む。

覆土は、9層に分類されたが図示した部分では6層で東側ではかなり変則的な状態を呈している。カマド状の遺構袖部の1部にあたる。他は、自然埋積状を呈する。ロームブロック、粒、粒子、焼土粒、灰褐色粘土等を含む。各層をも粘性は弱く、締まりはややある。

遺物は、竈東側から集中して出土、完形に近いもの重ね合わせた状態のものが認められ大部分は土師器壺であった。甕は、長胴形で下半部に箒削りがなされる。口唇部丸く収めつまり出しはない。壺は碗形に近いものと口縁部が外反し口唇部尖り気味のもの半球形状のものが認められ横位の箒削りがなされ内面は粗い箒磨きを残す。半球形のものも内面に粗い箒磨きが認められ、手捏ね状の小鉢、盃状、壺状のものが認められた。遺物の量は総数100片程度で少なく須恵器は少量であった。上製の丸球は不整形状粗雑。

本遺跡では本址の様に東側、北側に窓、カマド状遺構を有するものは無く唯一の住居址である。

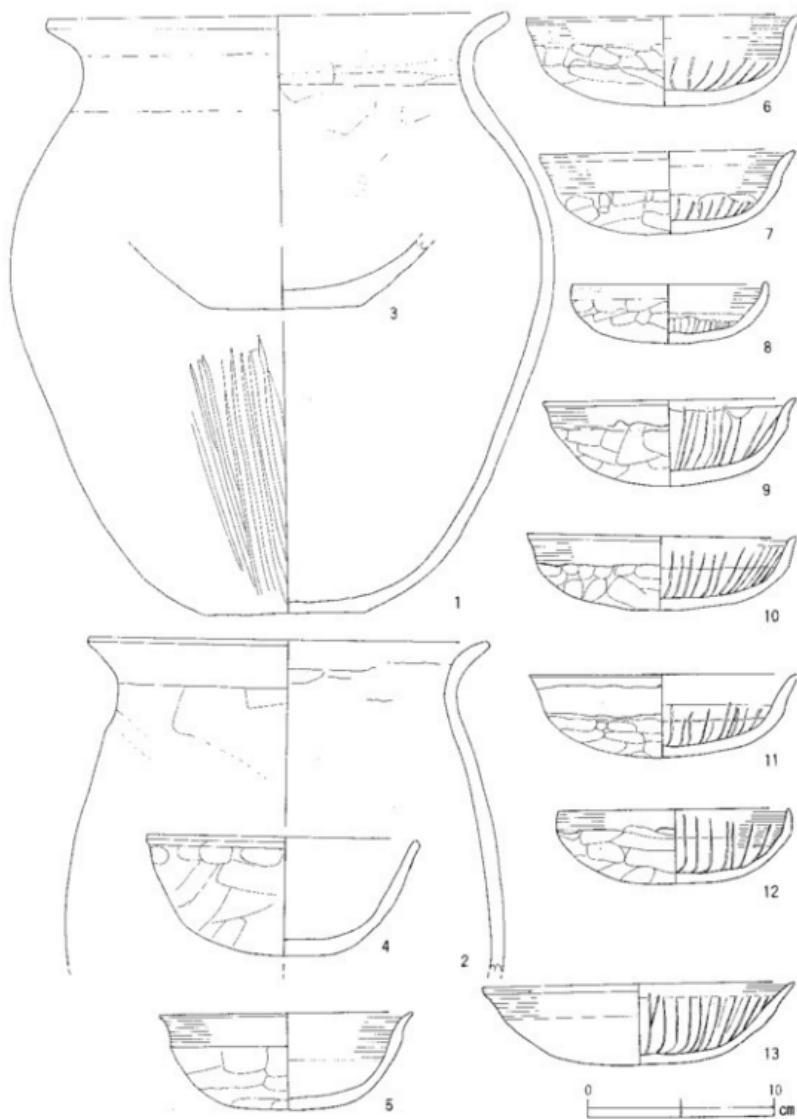


第170図 第79号住居址、地質測図

出土土器觀察表

番号	器種	法寸(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 24.7 B 32.0 C 8.7	安定した平底から立ち上がり最大径を胴上位に置き、頸部や長目、口縁部外反、口唇部外面カット状。	ナデ、箠削り	礫、長石、褐色 普通	40 % 床 直
2	甕 土師器	A 21.6 B C	長胴形状器形、括れは弱く、口縁部短く外反 肥厚、丸く収める。輪横痕を残す。粗雑。	横ナデ、ナデ 箠削り	礫、長石 黒い赤褐色 やや不良	50 % + 14
3	甕 土師器	A B C 8.1	平底からゆるく開いて立ち上がる。器内は厚い人型の窪?	箠ナデ状、ナデ	礫、雲母、長石 黒褐色 普通	10 % 床 直
4	甕 土師器	A 14.5 B 6.3 C 5.5	深めで内脇して立ち上がり口唇部丸く収める。 粗雑なナデ調整。	ナデ、山線指頭押え	礫、長石 暗褐色 普通	95 % 床 直
5	环 土師器	A 13.5 B 5.2 C 6.5	平底に近く底部から内脇して立ち上がり肩部に弱い稜をもつ口縁部外反、口唇部尖る。	横ナデ、箠削り ナデ	礫 暗い橙色 やや良	70 % 床 直
6	环 土師器	A 14.6 B 5.0 C 6.5	平底に近く直立気味に立ち上がり、口縁部外反、口唇部丸く収める。内面粗磨き。 以下13まで同様。	横ナデ、箠削り 箠磨き、ナデ	礫 暗褐色(黒褐色) 普通	100 % 床 直
7	环 土師器	A 13.6 B 5.5 C 5.7	平底気味、体部は内脇して立ち上がり、肩部に弱い稜をもつ口縁部外反、口唇部丸く収める。	横ナデ、箠削り 箠磨き、ナデ	礫、長石、雲母 暗い橙色(黒褐色) やや良	90 % 床 直
8	环 土師器	A 13.5 B 4.6 C 4.0	丸底に近い内脇して立ち上がり口縁部外反、肩部に調整痕弱い稜を持つ。	横ナデ、箠削り 箠磨き	礫、長石、雲母 褐色(暗褐色) 普通	100 % 床 直
9	环 土師器	A 10.3 B 3.2 C 4.5	平底気味の底部からゆるやかに内脇して立ち上がり、口縁部弱く外傾、口唇部尖る。巻上痕を残す。	横ナデ、箠削り 箠磨き	礫、雲母 褐色 普通	50 % 床 直
10	环 土師器	A 14.3 B 4.0 C 6.0	平底気味からゆるやかに立ち上がり口縁部外反、口唇部斜上方に尖る。肩部に弱い稜をもつ。巻上げ痕を残す。	横ナデ、箠削り ナデ、箠磨き	礫、雲母 橙色 やや良	98 % 床 直
11	环 土師器	A 14.3 B 4.5 C 5.5	ゆるく外反して立ち上がり口縁部開き口唇部斜上方へ尖る。巻上痕を残している。	ナデ、箠削り 箠磨き	礫 淡い褐色 良	60 % 床 直
12	环 土師器	A 12.4 B 4.0 C 5.3	平底に近い底部から内脇して立ち上がり、口縁部内傾気味、口唇部尖る。内面粗いヘラミガキ。	横ナデ、箠削り 箠磨き	礫、長石 暗い褐色 やや良	30 % 床 直
13	环 土師器	A 16.7 B 5.2 C 7.0	平底に近い底部から内脇して立ち上がり口縁部内傾気味、口唇部尖る。内面粗い箠磨き。	横ナデ、箠削り 箠磨き	礫、長石 暗い褐色 やや良	30 % 床 直
14	环 土師器	A 15.0 B 4.3 C 3.5	半球形状丸底に近い、口縁部内側に凹みをもつ、口唇部内傾気味。	ナデ、箠削り 横ナデ	礫 橙色 やや良	80 % 床 直

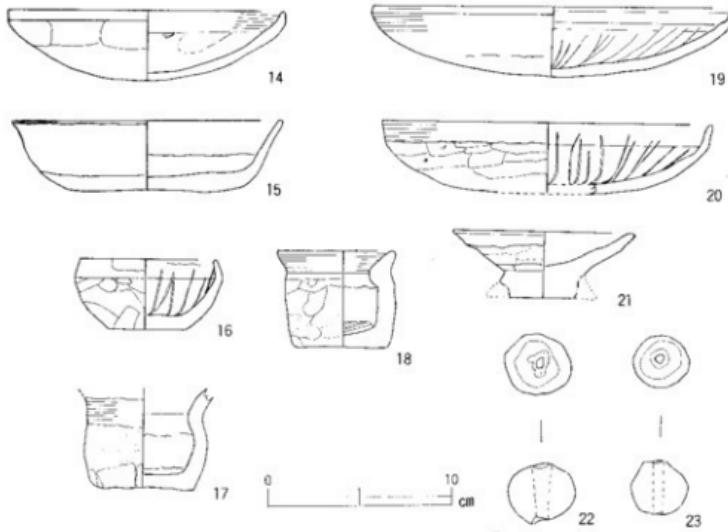
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
15	杯 須恵器	A 14.5 B 9.5 C 3.7	安定した平底から開いて器内を減じて立ち上がり口唇部尖る。	巻上げ?ナデ、回転ミズビキ? 回転窯切り	礫、石英 灰褐色(褐色) 普通	80 % 床直
16	小型杯 土師器	A 7.5 B 3.8 C 4.1	安定した平底から内脇して立ち上がり、口唇部内傾し短く尖る。	ナデ、窓削り 窓磨き	礫、長石、雲母 にぼい橙色(黒褐色) やや良	90 % 床直
17	小型鉢 土師器	A 5.5 B C	安定した平底から直立して立ち上がり口唇部外反する。手捏的、底部木質痕。	横ナデ、ナデ、押え	礫、長石、雲母 暗褐色 普通	80 % 床直
18	小型鉢 土師器	A 6.4 H 5.2 C 4.9	安定した平底から直立に立ち上がり、口唇部短く外反、口唇部肥厚丸く収める。内側に顯著に張る。手捏的。	横ナデ、押え	礫、石英、長石 褐色 普通	90 % 床直
19	皿? 土師器	A 19.5 B 3.7 C 6.0	丸底氣味で形態的には皿状、ゆるやかに立ち上がり、口唇部外面カット状内面に幅広の凹部が造り粗い窓磨きが認められる。	横ナデ、ナデ 窓磨き	礫、長石 黒褐色(褐色) やや良	80 % 床直
20	皿? 土師器	A 17.9 B 3.8 C 10.5	やや深め、形態的には皿。ゆるやかに立ち上がり口唇部ゆるく外反、口唇部丸く収める。内面ヘラミガキ。	横ナデ、窓削り 窓磨き、ナデ	礫 暗褐色(褐色) やや良	40 % 床直
21	台付皿 土師器	A 9.8 B 3.6 C	台部は1.5cm程の高さをもち、基部は開いて立ち上がり口唇部肥厚氣味。面に近い。	外面部粗な横ナデ ナデ	礫、スコリア、石英 暗い橙色(褐色) やや良	80 % 床直



第171図 第79号住居址出土遺物実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
22	上 瓢	3.1	3.5	1.1	31	土 製	竈 内	不整形建状、孔部2回にわたり穴孔、粗雑
23	"	2.9	3.1	0.6	21	"	床 直	不整形建状、孔部方形状、ナデ



第172図 第79号住居址出土遺物実測図

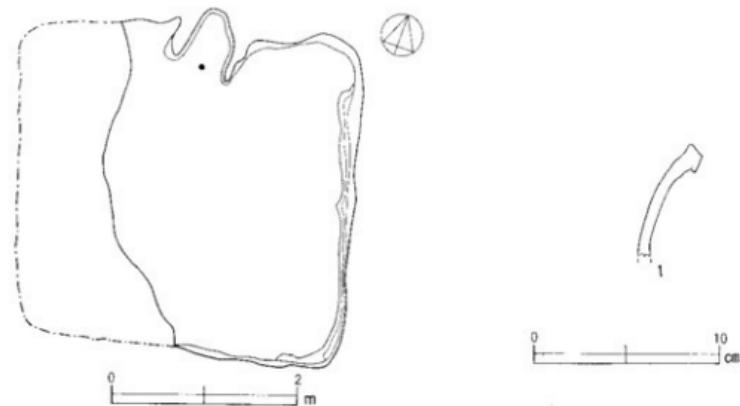
第80号住居址（第173図）

本址は79号住居址の南西側1区、△-20を中心確認された住居址であったが近年まで畠として利用されていた為、遺存状態は悪い。西側に傾斜を示す位置に検出されたが三分の一程を欠失する。主軸をN-19°-Wに置き、東西3.5m前後か…、南北3.5mを測り隅部の丸みをもつ方形プランを呈すると推定される。壁面は、開き気味に立ち上がり東側で壁高は15cm前後。床面は、竈前面で若干の継まりが認められた他はローム剥き出し状、ほぼ平坦に移行、周溝は、東側に幅10cm前後、深さ5cm～10cmでV字状に認められた。柱穴は確認出来なかった。

竈は、北壁に位置し確認されたが遺存状態は悪い。外側には20cm程U字状に掘り込む袖部は、若干西側に向き長さ50cm程付設、焚口部は開く。火床部は、中位に位置10cm程掘り込む。U字状形態か、黄褐色の粘土を用いて築いている。

覆土は3層に分類された。東側の高い部分からの流れ込み状を呈しておりロームブロック、粒・粒子等の混入の差。

遺物は、少なく図示出来るものはないが、口縁部下端に平行叩目をもつものが認められ、口唇部は断面正三角状を呈する。



第173図 第80号住居址、出土遺物実測図

#### 出土土器観察表

番号	器種	法用(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺？ 須恵器	A B C	大型の壺か。口縁部M字状に垂下外反。	横ナデ、ナデ	織、石英、雲母 暗褐色 やや良	50 % 壺 内

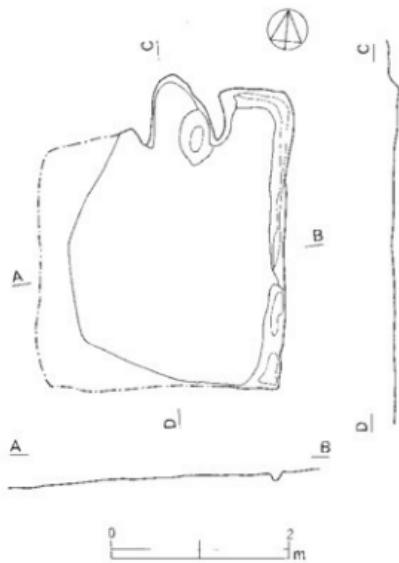
### 第81号住居址（第174図）

本址は、80号住居址の、西側1区の西側端部A-22グリットの南側に確認された住居址で台地は西側に傾斜を示し、近年まで畑として利用されていたため西側大半を欠失している。主軸をN-5°-Wに置き、南北3.4m前後で長方形状プランを呈すると思われる。壁面部は東側に10cm程の立ち上がりを認める他は、床面の確認面であった。周溝は東側、竈東側にV字状に認められ柱穴は確認されなかった。

竈は、北壁に位置し外部への掘り込みはほとんどないか？袖部は若干東に向くか？遺存状態は悪い。袖部と思われる灰黄褐色の粘土粒の散布が認められた。1部に焼上粒子が散在している。本址を“カマド”と一応推定した。

覆土は2層に分類され1層はやや暗い褐色（2層に比べ）ロームブロック、焼土粒子を少量含む。

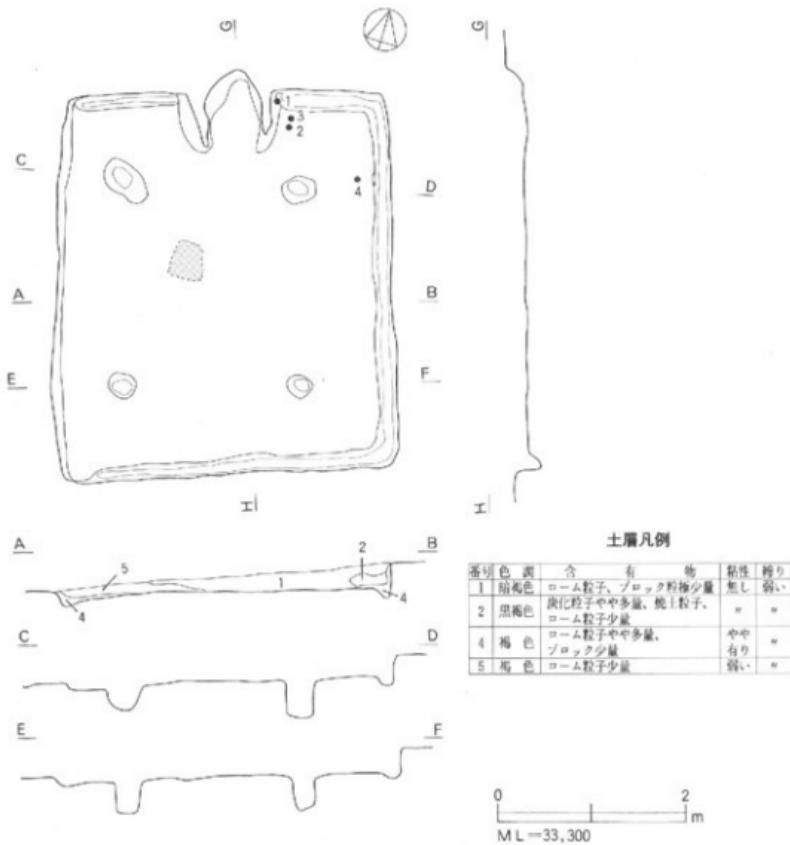
遺物は少なく図示出来るものはなかった。総数30片程度であった。



第174図 第81号住居址実測図

### 第82号住居址（第175・176図）

本址は、81号住居址の南西側1区、A-23グリットの西側に位置し台地は西側に傾斜を示す。切り合い関係はなく単独で検出された住居址で調査区の最も南西隅部に位置している。主軸をN-18°-Wに置き、東西3.7m、南北4.1m、隅部が若干丸味をもつ長方形状プランを呈する。壁面は、垂直に近く立ち上がり東側で30cm、西側では5cm~10cm前後を測る。床面は、緩く西側に傾斜を示し西側では若干締まりが悪いが他は良く、近年まで畑として利用されていたが東側部分では良好な遺存状態を残しており幅10cm~20cm程でU字状の周溝を認める。西側では検出されない。



第175図 第82号住居址実測図

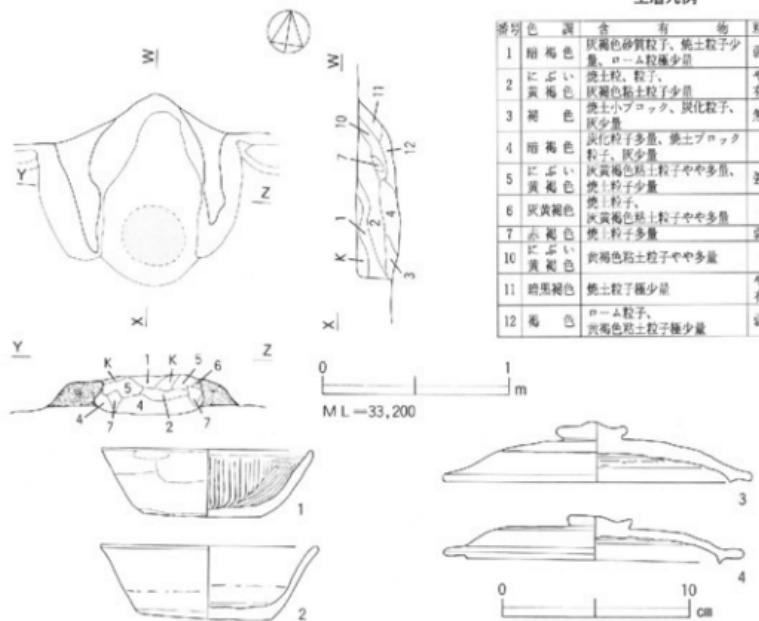
竈は、北壁中央部に位置し構築されていた。外側に20cmほどU字状に掘り込み袖部は60cm程直線的に付設、焚口部は僅かに狭くなる。火床部は、前面に位置して僅かに掘り込む、煙道部は開き気味に立ち上がる。形態的にはU字形状、灰黄褐色の粘土を用いている。

覆土は、6層に分類された。図示した面では4層で確認面では暗褐色、2層は黒褐色で炭化粒子、焼土粒子を含む。他は褐色ロームブロック、粒子等の混入量の差。平均して締まり、粘性は弱い。

遺物は、総数100片程検出されたが、図示出来るものは4点でいずれも坏、蓋で1を除き須恵器である。1は口唇部の内側に稜状のものが認められ幅の狭い箇所。蓋は、天井部の膨らみをもつものと扁平気味のものが認められる。口端部は水平に伸び丸味をもって取める。カエリは顯著で口唇部より下部に伸びるものも認められた。

#### 土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	締り
1	暗褐色	灰褐色砂質粒子、焼土粒子少量、ローム粒極多量	弱い	強い
2	灰褐色	焼土粒、粒子、灰褐色粘土粒子少量	やや有り	〃
3	褐色	焼土小ブロック、炭化粒子、灰少量	無し	弱い
4	暗褐色	炭化粒子多量、焼土ブロック、粒子、灰少量	〃	やや有り
5	灰褐色	灰褐色粘土粒子や多量、焼土粒子少量	強い	強い
6	灰褐色	灰褐色粘土粒子や多量	〃	〃
7	赤褐色	焼土粒子多量	弱い	〃
10	灰褐色	灰褐色粘土粒子や多量	〃	〃
11	暗褐色	焼土粒子極少量	やや有り	〃
12	褐色	ローム粒子、灰褐色粘土粒子極少量	弱い	〃



第176図 第82号竈、出土遺物実測図

## 出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎上・色調・焼成	備考
1	环 土師器	A 11.1	安定した平底から内彎して立ち上がり、口縁部外反、口唇部丸く收める。内面粗い鉢磨き。	ヘラナデ、横ナデ 鉢磨き	精選 橙色 良	99 % 床直
		B 3.6				
		C 6.6				
2	环 須恵器	A 11.6	平底から内彎して立ち上がり口縁部外反、口唇部肥厚し丸く收める。	粘土縦巻上げ? 回転ミズビキ? ロクロ水引か	礫、雲母、曜 灰褐色(橙色) やや不良	80 % 床直
		B 3.9				
		C 7.1				
3	蓋 須恵器	A 16.5	天井部のフクラミは弱い。つまみ部もやや扁平化しているがカエリは顕著。	粘土縦巻上げ? ナデ	礫、長石、雲母 灰褐色 やや良	90 % 床直
		B 3.4				
		C 6.0				
4	蓋 須恵器	A 16.0	焼ゆがみがひどく天井部のフクラミではなく端部水平長めに肥厚し伸び、カエリは顕著、つまみは扁平化、貼付。	粘土縦巻上げ? 回転ミズビキ、ナデ	礫、雲母、長石 淡い橙色 普通	100 % 床直
		B 2.5				
		C 3.3				

## 第83号住居址（第177・178・179図）

本址は、81号住居址の東側1区、B-22グリットに位置し確認された住居址で台地は西側、南側に傾斜を示す。87号住居址に南側を、西側は欠失し明確な形態、プランはつかめなかった。主軸はE-5°前後南側に振るか。竈を中心部と推定すれば東西4m程の方形プランを呈し、竈を東壁に置くプランと推定される。壁面は、東側の一部は15cm程の立ち上がりを認める。遺存部は良く踏み固められていたが覆土の大半を欠失し遺存状態は不良で床面は、ほぼ平坦に移行している。周溝はみとめられず東西の隅部に変形な掘り込みを認める。深さ20cm前後。その他北側中央部に炉址状ピットが認められ焼土粒子を含む。ゆるいU字状形掘り込み。北東隅部に46号土坑が掘り込まれている。

竈は、東壁側に位置し確認された。大部分を外側にU字状に掘り込む。袖部は短くあるかないか判断に苦しむ程短く付設。（外部へは70cm程掘り込む）火床部は奥部に位置10cm程掘り込む、焚口部は若干狭くなり前面に小ピットが認められた。形態的には外側へ掘り込むU字形状、煙道部はやや強く立ち上がる。黄褐色の粘土を用いて築いている。

覆土は、3層に分類された。いずれも明褐色、粘性は弱い。締まりはやや強い。

遺物は、輪積痕を残す壺と思われるものと口縁部が水平に開く壺は、器内は薄く輪積痕を残すもの、回転ミズビキ調整、ロクロ水引と思われるもの（回転糸切り痕）、皿状の付高台をもつもののなどが認められた。8はロクロ整形で胎土が精選された長頸形と思われるもので在地産ではないと推定される。（搬入品か…）

### 第87号住居址（第177・178・179図）

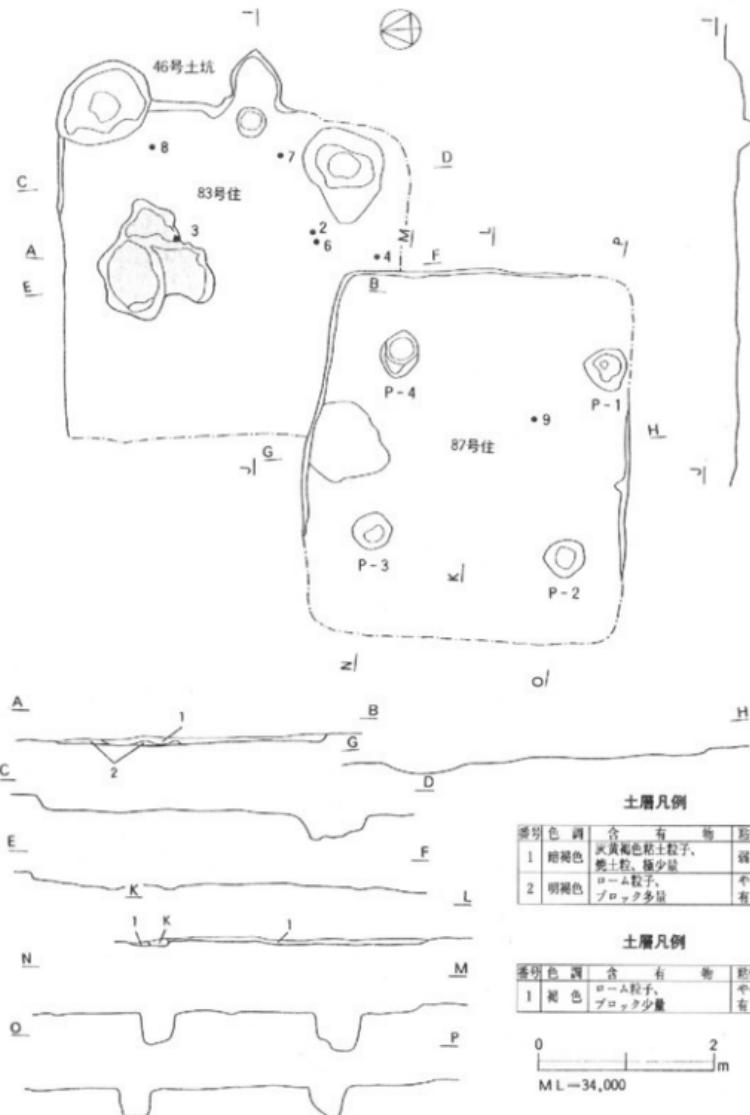
本址は、83号住居址に一部を埋められていた。1区A-21・22、B-21・22グリットに位置し確認された住居址で西側、南側に傾斜を示し壁面立ち上がりは確認出来ない。北、東側で5cm前後。主軸をN-4°-E前後で東西4.2m、南北3.7m程の長方形状プランを呈するものと思われる。床面は若干凹凸を認めるが締まりは良い。南側に若干傾斜を示す。周溝は、確認出来ない。柱穴は、4ヶ所認められいずれも径40cm～50cm程の円形状、深さ30cm～50cmで2段のもの、V字状に近いもの、円筒状のものなどが認められる。

竈は、北壁部分に焼土が認められ火床部と思われる部分は、ロームがブロック化している。一応竈と理解しておきたい。火床部は10cm程掘り込み、袖部は確認出来ない。

覆土は、1層で褐色、ロームブロック粒子等を含む。

遺物は、総数250片程検出されたがいずれも細片で図示したものは大型の甕と思われる須恵器で横位の叩目をもつ。

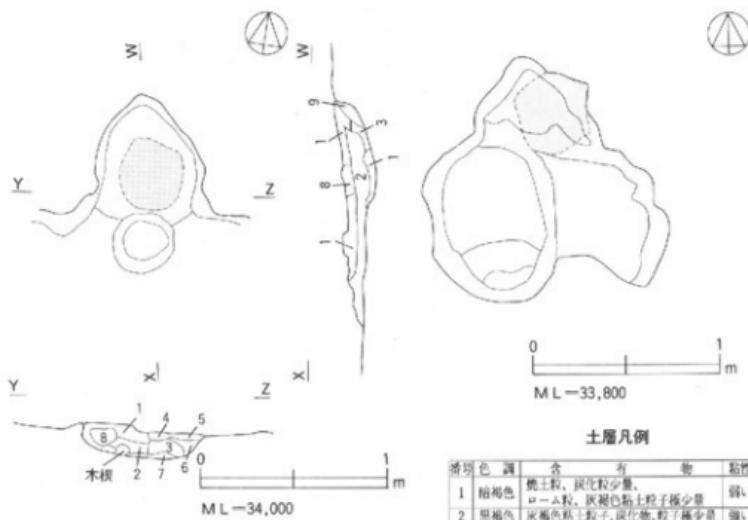
新旧関係では覆土がほとんど存在しない為、明確には断定出来ないが出上遺物から83号住居址が新しくなることが推定される。



第177図 第83、87号住居址実測図

出土土器観察表

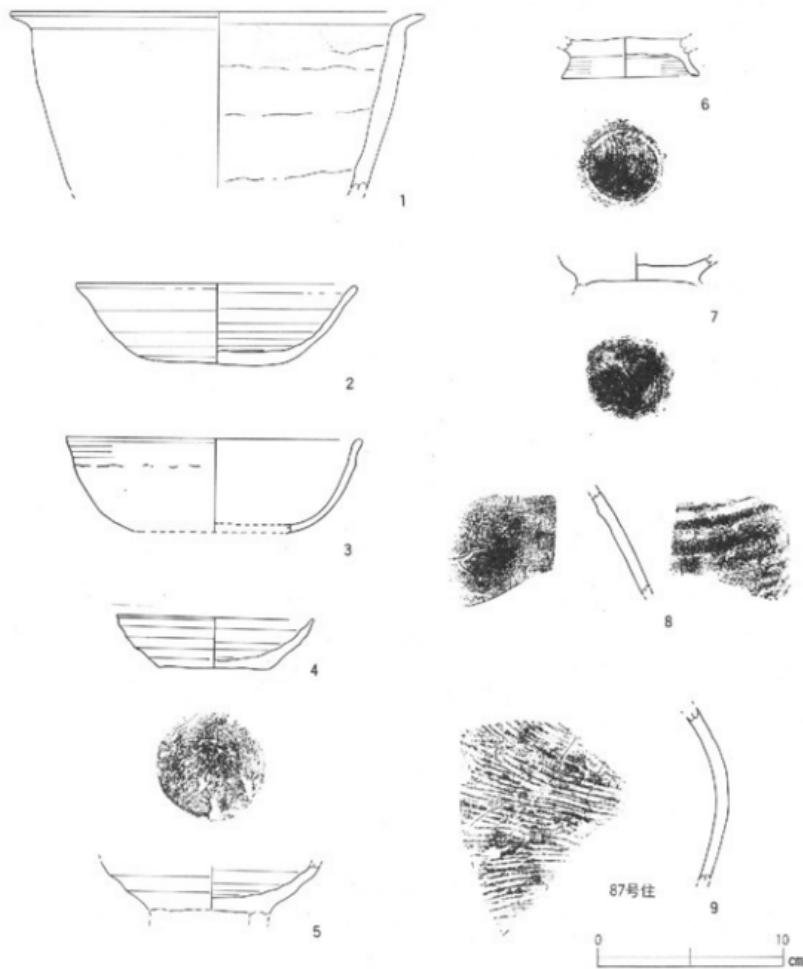
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	瓶 土師器	A 22.4 B C	口縁部短く水平に開き尖る。三角形状の形態か? 口縁部凹凸有り。輪縁痕を残す。	ナド、粗雑	礫、雲母 淡い褐色(黒褐色) 普通	10 %
2	环 土師器	A 15.1 B 5.0 C 6.0	体部は外反して立ち上がり口唇部肥厚し丸く収める。	ロクロ水引き	礫 褐色(黒褐色) 普通	70 % + 6
3	环 土等器	A 14.0 B C	内墨、外面に回転調整痕と思われる弱い凹凸が有る。内面は細かなヘラナメ状。	横ナド? 回転ミズ ビキ、ヘラナメ状	礫 淡い褐色(黒褐色) やや良	10 % + 5



番号	色調	含 有 物	粘性	硬 り
1	脂褐色	燒土粒、炭化粒少量、 ローム粒、灰褐色粘土粒子極少量	弱い	強い
2	黒褐色	灰褐色粘土粒子、炭化物、粒子極少量	強い	"
3	褐色 褐 色	燒土粒子少量、炭化粒子多量		
4	にじい 赤褐色	燒土粒子多量、黃褐色粘土粒子少量 炭化粒子極少量	弱い	強い
5	にじい 赤褐色	燒土粒子多量、黃褐色粘土粒子少量	"	"
6	赤褐色 褐 色	燒土粒子少量、炭化粒子極少量		
7	赤褐色	燒土粒子、プロック全量	無し	やや 有り

第178図 第83号住居、炉状実測図

番号	器種	法寸(cm)	器形の特徴及び文様	彫形技法	胎土、色調、焼成	備考
4	碗？ 土師器	A 10.6 B 2.8 C 5.8	底部回転糸切り痕を残す。器肉を減じてゆるく立ち上がる。口唇部丸く収める。(二次焼成)	ロクロ水引き 左廻り	疊、雲母、石英 にぶい赤褐色 やや不良	90 % 床直



第179図 第83・87号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
5	台付碗? 土師器	A B C	高台貼付、器形や人形?、二次焼成。	ロクロ水引き 左彫り	礫、雲母、石英 暗い赤褐色 不良	60 % + 6
6	台付碗? 土師器	A B C	底部は静止糸切りか、台付き碗?の形態か? 高台貼付。	ロクロ水引き、ナデ	礫、雲母、石英 淡い褐色(黒褐色) やや良	20 % + 6
7	台付碗? 土師器	A B C	底部静止糸切り痕を残し台、脚をもつが形態不明。	ロクロ水引き、ナデ	礫、雲母、石英 暗褐色 普通	10 % 床直
8	長頸瓶 須恵器	A B C	平行叩き目をもつ大型の甕か。	叩きながら水引きか?	礫、石英 晴褐色 やや良	5 % 覆土中

出土土器観察表 (87号住)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
9	甕 須恵器	A B C	大型の壺型土器か、最大径を肩部に置く形態?横位、斜位に近い平行叩き目をもつ	叩き、ナデ	礫、雲母、石英 灰褐色 普通	10 % + 10

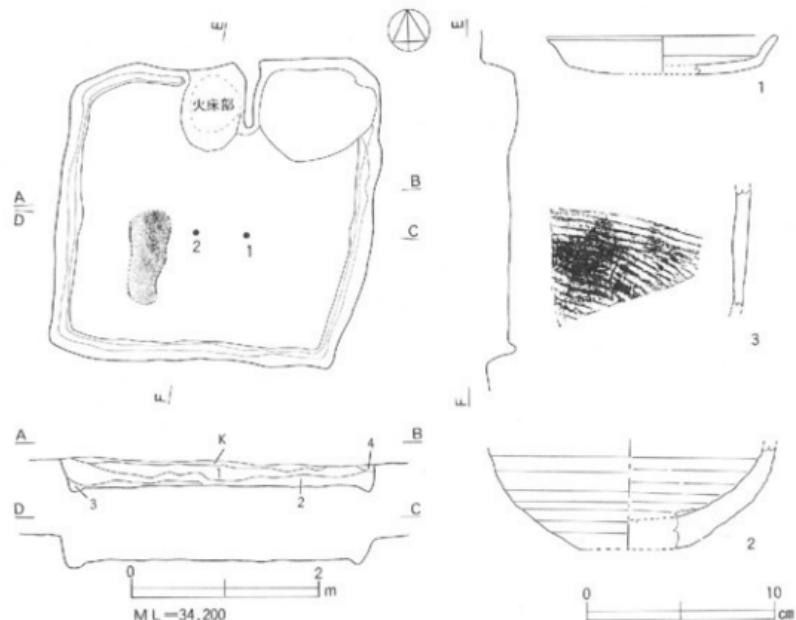
第84号住居址 (第180図)

本址は、83号住居址の東側1区D-22グリットを中心に確認された住居址で台地はゆるく東側、南側に傾斜を示す。東側は煙の「よせ」の為の傾斜で台地の傾斜は南側。切り合い関係はないが北東隅部に芋穴による攪乱が認められた。主軸をN-3°-Eに置き、東西3.2m、南北3.2mのやや菱形の変形プラン。隅部はやや丸味をもつ。壁面は、開き気味に立ち上がり30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦に移行、縫まりは良い。周溝は、幅15cm~20cm、深さ5cm~10cmを測る。U字状形態。柱穴は確認出来なかった。南側に粘土粒の散布が認められた。

竈は、北壁中央部に確認されたが遺存状態は悪く形態、外部への掘り込み、袖部等不明で右側に袖部の遺存部と推定されるものが直線的に付設されている。火床部と推定される部分はロームがブロック化しやや範囲は広い。

覆土は、4層に分類されレンズ状の自然埋積と理解される。いずれロームブロック、粒、粒子の混入量の差であり3層を除き粘性、縫まりは弱い。

遺物は、少なく総数で40片程度であった。浅い皿状のものとロクロ水引きで縁輪をもつ甕?長頸瓶?が認められこれも搬入品の可能性が強い。平行叩き目を横位にもつ甕は巻上げ。



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	褐色	ロームブロックや多量、粒子少量	無し	弱い
2	褐色	ロームブロック、粒子やや多量	弱い	〃
3	褐色	ローム粒子多量、ブロック少量	やや	やや
4	褐色	ロームブロック、粒子極少量	有り	有り

第180図 第84号住居址出土遺物実測図

### 出土土器観察表

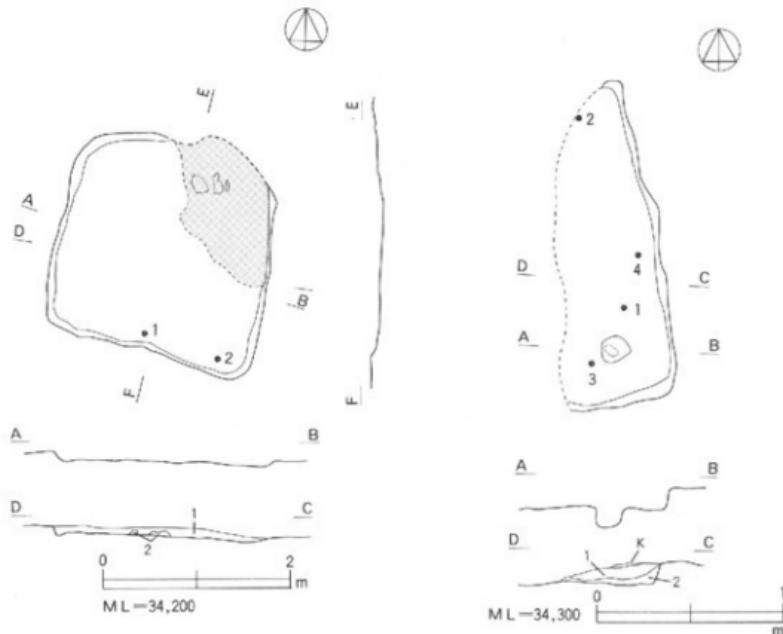
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備考
1	皿 土師器	A 12.3 B C	遺存部が少なく断定は出来ないが皿の形態と 思われ、口縁部外反、口唇部尖り気味。	ナデ、簾削り	褐、青母 褐色(にぶい橙色) 普通	10 % + 24
2	瓶 須恵器	A B C 5.5	長頸瓶になるか、底部内側に線軌を残す。搬入品か。	ロクロ水引き、ナデ	精選 灰白色 やや良	10 % + 14
3	壺 須恵器	A B C	大型の壺か、横位の平行凹目をもつ。やや引 き気味。	巻き上げか引き状 ナデ 叩き	褐、石英 暗褐色 やや良	1 % 覆土中

### 第85号住居址（第181・182図）

本址は、84号住居址の北側1区D-20・21グリット確認された住居址で台地は、東側に緩く傾斜を示す。（畑の「よせ」溝の為）切り合い関係はなく単独で検出された。主軸をN-10°-Eに置き、東西2.3m、南北2.3m、不整形な方形プランを呈する小型の住居址である。壁面は、聞いて立ち上がり壁高は5cm~10cm、床面は、東側に傾斜を示す。東北隅部に焼土、炭化物が認められたが炉址、窯の可能性もあると考えて調査を行ったが焼土層のみであった。したがって窯、炉址は検出されず、柱穴、周溝も認められなかった。

覆土は、2層で褐色層、2層は炭化粒子を含む。締まりは弱い。

遺物は、幅の広い箇所をもつ土器器甕、長頸瓶と思われ上部に線軸をもつ2は須恵器。総体的に少なく30片程度であった。

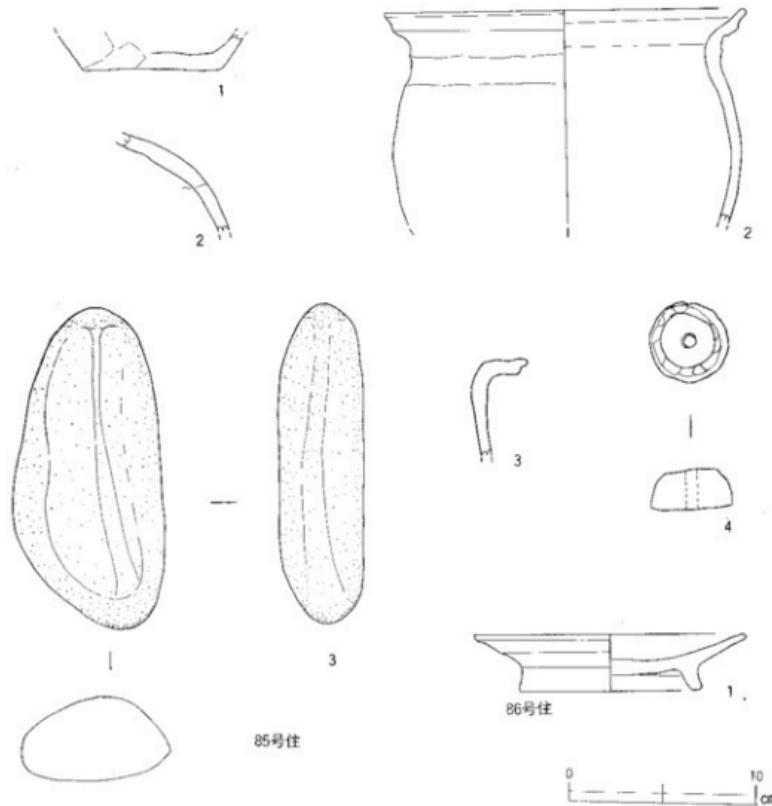


第181図 第85、86号住居址実測図

第86号住居址（第181・182図）

本址は、85号住居址の東側1区F-22グリットを中心に確認された住居址で大半を畑に削平され遺存部はL字状に東壁側と南壁側の一部であった。その他僅かに北側で隅部のみ確認された。主軸をN-18°-Nに傾き、南北で3.4m前後のプランを呈する住居址と推定される。壁高は、20cm程測り鋭角的に立ち上がる。床面は、ほぼ平坦、周溝は認められず、柱穴と思われるものが南東隅部に一ヶ所認められた。円形状で深さ20cm。

竈、炉址等は検出されなかった。



第182図 第85、86号住居址出土遺物実測図

覆土は、3層に分類された。1・2層は褐色、1層は焼上粒子、炭化粒を含む。3層は明褐色ロームブロック、粒子を多量に含む。

遺物は、遺存部の少ない割にはやや多く認められ50片程出土、須恵器も3分の1程の割合を占める。甕は、口唇部をやや長目につまみ出す。高台付の須恵器皿が認められ張りは弱い。灰白色、搬入品?、その他上製で台形状の紡錘車が認められた。

出土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕?	A B C 7.3	安定した平底から開いて立ち上がる。縁?。	ナデ、箒削り、ナデ	褐 褐色 やや良	5 96 覆土中
2	長頸甕 須恵器	A B C	肩部球形状。肩部に顯著な縫合をもつ。	粘土巻き上げ? 回転水引き?	礫、長石 銀灰色(灰褐色) 良	5 96 床直

出土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 須恵器	A 14.4 B 3.1 C 9.8	付高台の皿で短く太く水平気味。ゆるく立ち上がりながら開く。	粘土巻き上げ? 回転水引き、ナデ	礫、雲母、石英 灰白色 普通	70 % 床直
2	壺 土師器	A 19.5 B C	柄は弱く、口縫部短く開き、口唇部斜上方へ長目につまみ出し丸く收める。	横ナデ、ナデ	礫 暗褐色 普通	10 % 床直
3	甕 土師器	A B C	頸部「く」の字状外反、口縫部短く水平に近く口唇部斜上方へつまみ出し。	横ナデ、ナデ	礫、雲母 にぶい緑色 普通	5 96 + 5

石器一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
3	敲石?	17.4	8.0	4.5	1,450	安山岩	+	4 大半が自然部、1部使用痕をもつ。

土製品一覧表

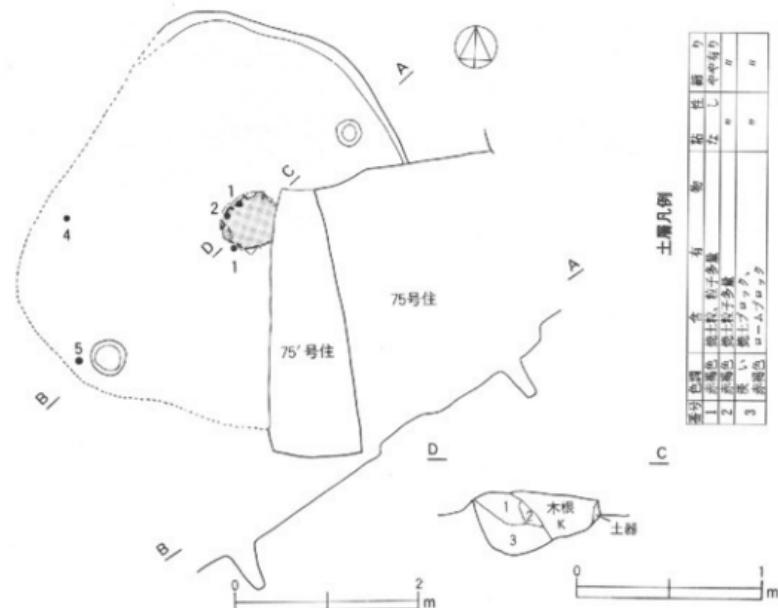
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
4	紡錘車	4.3	4.2	2.1	48	土 製	+	3 台形状、孔部正円形、箒削り、ナデ、粗雑な作り

第88号住居址（第183・184図）

本址は、75号、75'号住居址の西側1区W-24グリットを中心に確認された住居址で台地は西、南側に傾斜を示す面に占地し最も南側に位置する。大半を75'号、75号住居址に掘り込まれ、西側、南側は欠失し壁面立ち上がりは検出出来ない。壁面は北側で10cm程認められたが他は不明で床面と推定される部分を破線で示した。これらから推定するとほぼ平坦に移行、炉址はやや北側に寄った位置に掘り込まれ地床炉で土器口縁、胴部を利用して閉まれていた。一部を75'号住居址に掘り込まれていたがU字形状で径60cmを測る。柱穴と思われるピットが南、北に2ヶ所認められた。いずれも円筒状、深さ50cmを測る。床面は炉周辺のみに縮まりが認められたが他は、ローム剥き出し。以上の点から本址は径、4.5m前後の円形状プランを呈していたと思われる。

覆土は、1層で単純、ロームブロックを多く含む明褐色層に近い褐色層。

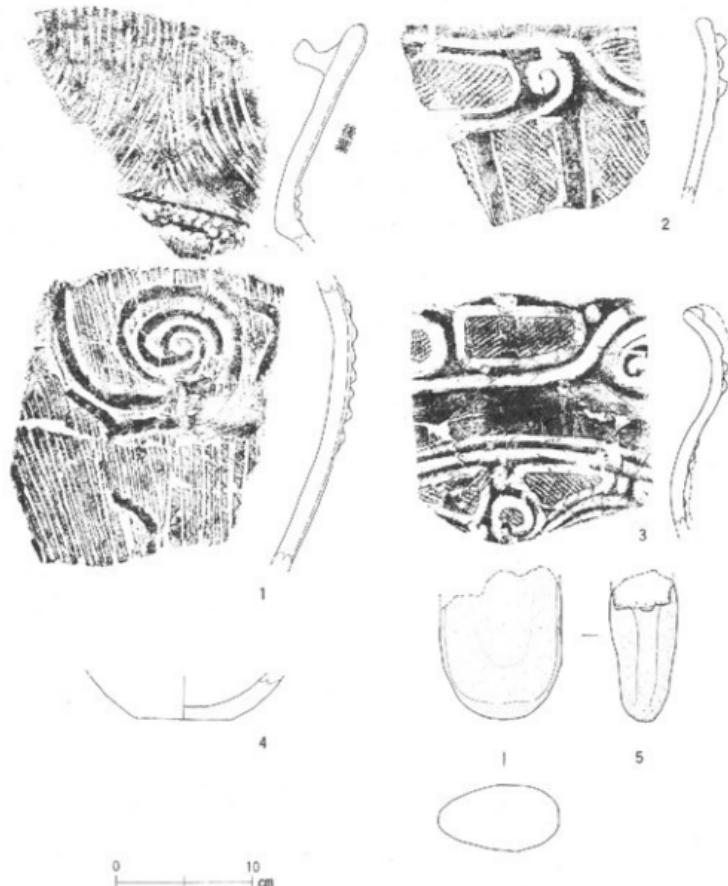
遺物は、炉址の周りに使用された土器群で3個体分と床面から胴部、石器が出土している。1は接合関係はないが胎土、色調、地文から同一個体と推定されるもので大型の深鉢形土器と思われ口縁部内側に天狗の鼻状の突起がめぐる。地文は竹管による平行沈線を施し、粘土紐貼付によ



第183図 第88号住居址実測図

る渦文を施す。上位には隆帶上に棒状工具による指突文を2列施す。

2は、口縁部が弱く内傾し降帯による渦文を椭円状に貼付、口縁部は無文帯を狭く巡らし窓枠状に区画、RLの繩文と無文、口縁部下端から沈線区画による磨消部が懸垂される。3は、口縁部キャリバー状で2と同様に降帶貼付、渦文、窓枠状に区画、内に繩文RLを施し、頸部下端から2本の隆帶を横位に巡らしてから三角形状、渦文を貼付している。口縁部下端はやや広い磨消部が巡り暗褐色焼成は良好。2から判断すれば繩文中期後葉の年代が推定される住居址である。



第184図 第88号住居址出土遺物実測図

石器一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
5	石斧	11.0	9.0	4.8	645	安山岩	床直	刃部 使用痕状あり1/3欠

## 第89号住居址（第185・186図）

本址は、69号住居址の北側1区、II-17、18グリットを中心に確認された住居址で台地はほぼ平坦に移行する。90号住居址の一部を掘り込み構築されていた。主軸をN-20°-Eに置き、東西2.7m 南北2.9m、隅部がやや丸味をもつ方形プランを呈する小型の住居址である。壁面は、開き気味に立ち上がり25cm～30cmの壁高を測る。床面は、西、北側に僅かに傾斜を示す。縁まりは良い。周溝は、検出されなかった。柱穴は、4ヶ所認められたがいずれも径20cm前後の円形、掘り込みも20cm～35cmと浅い。U字状形のものと円筒状のものが認められた。

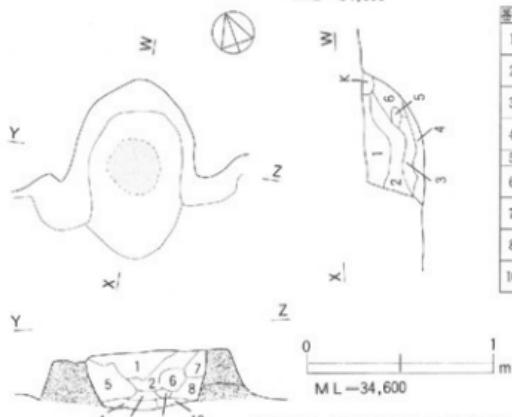
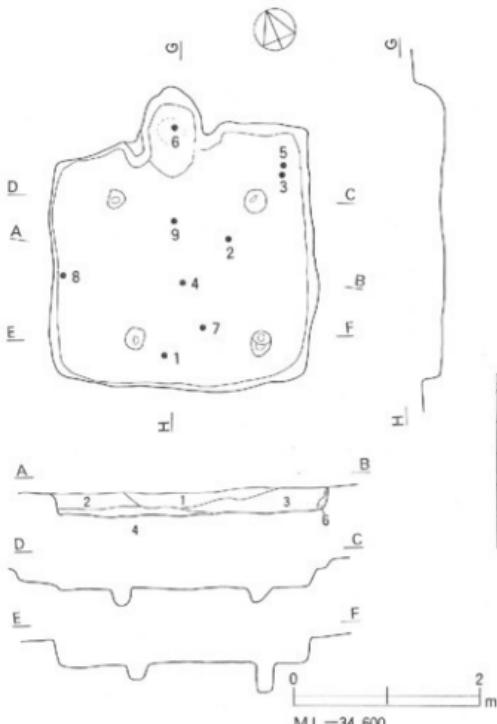
竈は、北壁中央部からやや西側に寄った位置に構築されていた。外側に45cm程U字状に掘り込み袖部は短く20cm～30cm程度付設、焚口部はやや内傾する。火床部は奥部に位置し10cm程掘り込み、煙道部はやや強く立ち上がる。形態的にはU字状。黄褐色の粘土を用いて築いている。粘性はやや強い。

覆土は、7層に分類されたが図示した部分では4層である。確認面1層は暗褐色、2層は明褐色で投げ込み的土層と理解される。1、3層は焼土粒子、炭化粒子等を極少量含む。6層は壁面部のみ認められた層。

遺物は、II線部長目に上方へつまみ出すものと平行叩目をもつ上師器壺が認められる。3は須恵器壺で中央に円形孔の5孔形態か…。須恵器壺は外反して立ち上がり口径と底径が倍に近く。一部に巻き上げ痕を残す粗雑な作りを残すものも認められる。（回転ミズビキ調整）付高台をもつものも認められ高台部は端に貼付され「ハ」の字状形。端部は丸く收める。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	摹形技法	胎土 色調 焼成	備考
1	壺 土師器	A 18.4	長胴形、口縁部短く肥厚外反、口唇部長くつまみ出す。	横ナデ、ナデ	礫、長石、雲母 暗褐色(にぶい橙色) 普通	15 %
		B				+ 10
		C				
2	壺 上師器	A	内面剥落、斜位の平行叩目をもつ。下位施削り調整、瓦質に近い。	叩き、ナデ施削り	礫、雲母 にぶい黒褐色 やや良	10 %
		B				+ 6
		C				



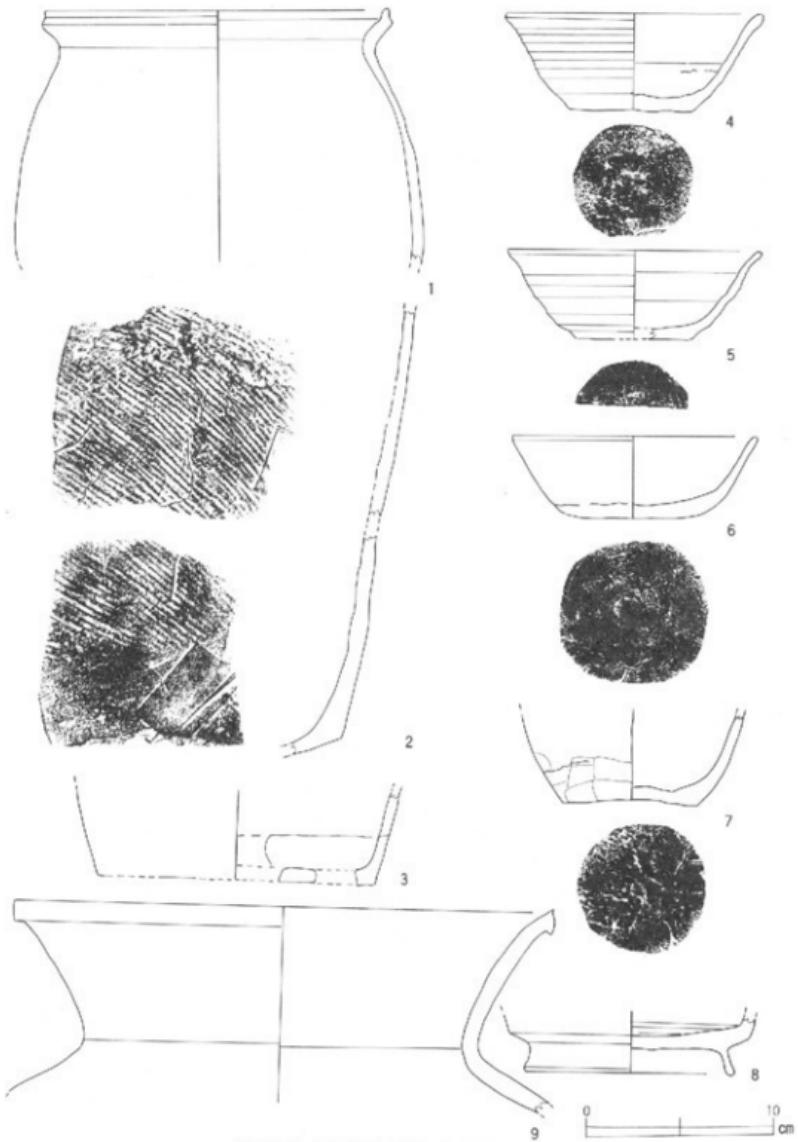
第185図 第89号住居址、発実測図

#### 土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	持 り
1	暗褐色	ローム粉、小プロック、炭化粒、燒土粒子極少量	無し	やや 有り
2	褐褐色	プロックやや多量	やや	〃
3	褐色	ローム小プロック少量、ローム粉、燒土粒子極少量	弱い	〃
4	褐色	燒土プロック、ロームプロック極少量	〃	強い
5	明褐色	ローム粒子多量、ローム小プロック少量	やや	やや 有り

#### 土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	持 り
1	褐色	燒土粒、粒子少量、ローム粒子極少量	無し	やや 有り
2	褐色	燒土粒、粒子、黃褐色粉極少量	〃	〃
3	にぶい 褐色	黃褐色粉、燒土粒子やや多量、燒土粒子極少量、灰少量	〃	弱い
4	褐褐色	燒土粒、粒子極少量、燒土粒子、粒極少量、炭化粒多量	〃	やや 有り
5	暗褐色	燒土粒、粒子多量	〃	〃
6	にぶい 褐色	燒土粒、粒子やや多量、炭化粒多量	弱い	強い
7	にぶい 褐色	燒土粒、粒子少量		
8	暗褐色	燒土粒、粒子少量、炭化粒やや多量	無し	弱い
10	にぶい 褐色	黃褐色粉、燒土粒子多量、灰、燒土粒子極少量	やや 有り	有り



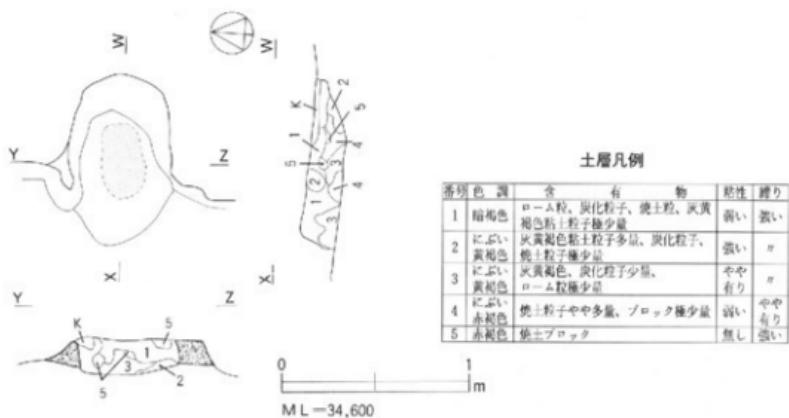
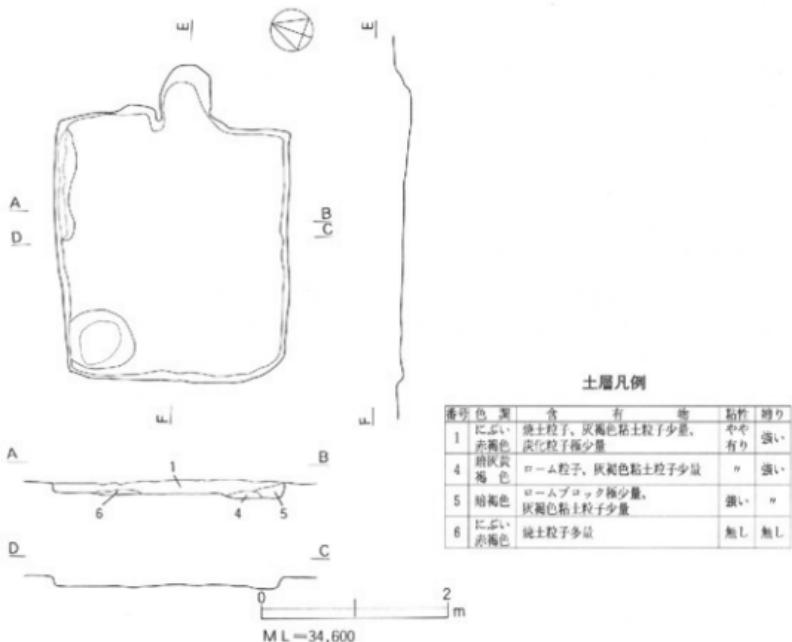
第186図 第89号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法規(cm)	器形の特徴及び文様	摹形技法	胎土・色調、焼成	備考
3	瓶 須恵器	A B C 14.9	底部五孔の形態、体に近い器形、遺存部下位 内外、塗刷り。	塗刷り、ナデ	礫、雲母、石英 に赤褐色 やや不良	10 % + 5
4	环 須恵器	A 13.7 B 5.1 C 6.6	底径が口径の半分に近い。外反して立ち上がり り口部肥厚、丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 回転磨切り	礫、石英 褐色 やや良	10 % + 11
5	环 須恵器	A 13.5 B 4.7 C 6.1	底径と口径が倍に近い。外反して立ち上がり ながら器内を感じる。	回転ミズビキ、ナデ?	礫、石英、雲母 褐色 やや良	20 % + 6
6	环 土師器	A 13.1 B 4.4 C 6.3	安定した平底からゆるやか、なめらかに器肉 を減じながら立ち上がり、口部部丸く収める。 (内里)	回転ミズビキ 回転磨切り、ナデ	砂 淡い赤褐色(黒色) やや良	70 % + 5
7	小型鉢? 土師器	A B C 7.2	平底から緩角的に立ち上がり鉢?の可あり。 底部木葉痕。	薙刷り、ナデ	礫、石英、雲母 暗い赤褐色 やや良	20 % 床直
8	高台 須恵器	A B C 11.2	付高台で腹部に位置し、薄くやや弱く張る。 体部は直立気味に立ち上がる。环の可大。	粘土紐巻上げ、付高台 回転ミズビキ 左彫り	礫 褐色 やや良	40 % + 2
9	壺? 土師質	A B C	胸墻器に近い。直立気味に、		礫、長石 暗い褐色 良	10 % 床直

#### 第90号住居址（第187図）

本址は、89号住居址の北西側1区、G-17グリットを中心に確認された住居址で台地は、ほぼ平坦に移行する。91号住居址の覆土を掘り込み構築され、複合関係にある。主軸をE-13°-Sに置き、東西2.8m、南北2.5m、隅部が丸味をもつ長方形形状プランを呈する小型の住居址である。壁面は、開いて立ち上がり高さ10cm前後、床面は、中央部、窓前面でやや良く踏み固められていたが他は悪く、91号住居址の覆土、粘土等が露呈した状態、周溝は北側の1部に認められた。柱穴は、認められず西北隅部に性格不明の円形のビットが認められた。（径60cm、深さ45cm、U字状掘り込み）。

窓は、東壁中央部やや南寄りに位置し検出された。外側に50cm程U字状に掘り込み袖部を櫛かに付設、大部分を住居址へ構築している。焚口部は開く、火床部は奥部に位置、若干掘り込む。煙道部はゆるく立ち上がる。形態的にはU字形状、灰褐色粘土を用いて築いている。



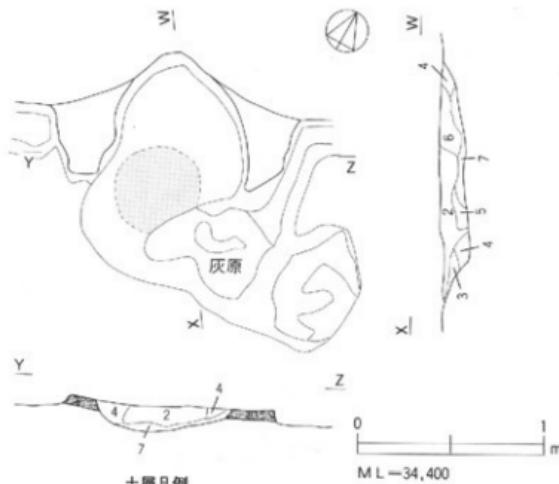
第187図 第90号住居址、竪実測図

覆土は、6層に分類されたが大半は確認層の1層が占め、鈍い赤褐色を呈する。焼土粒子、粘土粒子、炭化粒子を含む。床面にも一部焼土粒子が認められたが炭化物は検出されなかった。

遺物は、少なく総数30片前後で須恵器、雲母片岩等が認められたが図示できる遺物はなかった。雲母片岩は竈外からの出土であった。

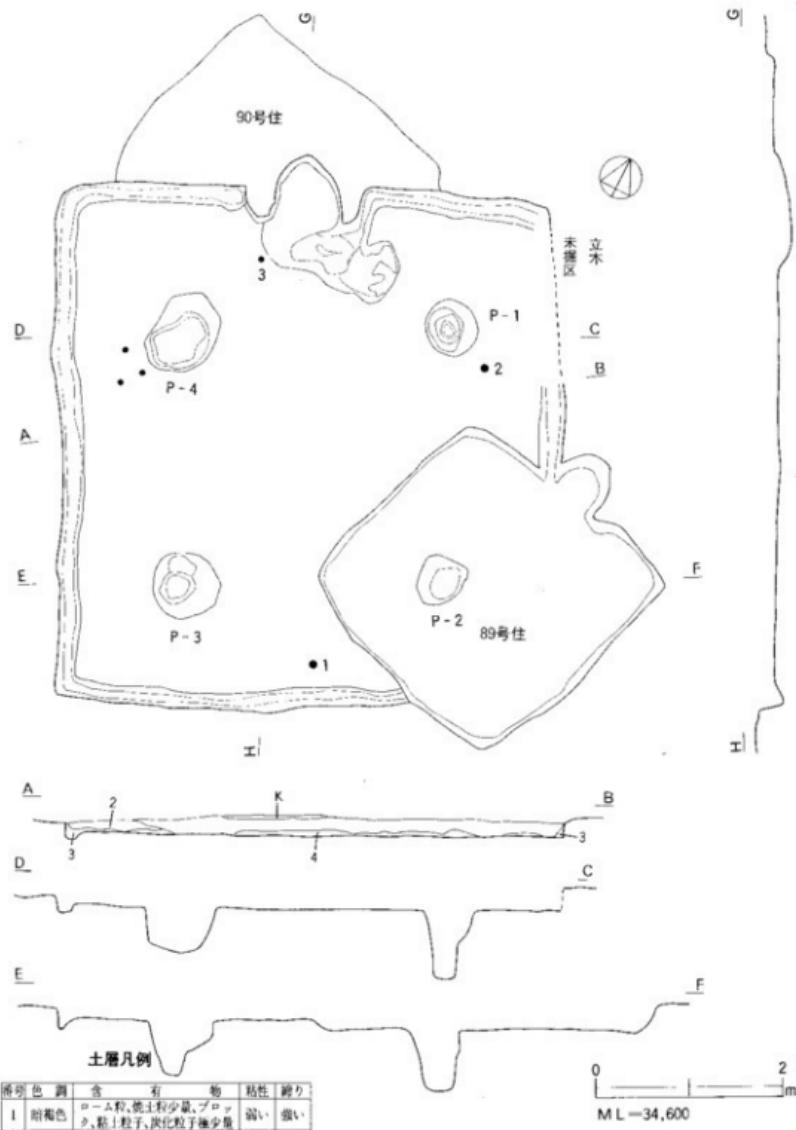
#### 第91号住居址（第188・189・190図）

本址は、90号住居址の下位1区、G-17・18グリットと中心に確認された住居址で一部90号住居址に埋められている。主軸をN-23°-Nに置き、東西5.4m、南北5.6m、隅部の鋭角なやや大型の住居址である。壁面は開き気味に立ち上がり東側で30cm、西側で10cm、南側で20cmを測る。床面は、良く踏み固められ僅かに東側に傾斜を示すがほぼ平坦に移行。周溝は切り合い部と立木の為の未掘部を除き幅10cm~20cm、深さ10cm~15cmで巡る。柱穴は4ヶ所認められ、P4を除き径70cm程の円形状、P2は89号住居址に掘り込まれ、下位の部分、深さ50cm~70cm、P1は下部



番号	色調	含 有 物	粘性	繊維
2	黒褐色	炭化粒子多量、焼土粒子、粘土粒子少量	無し	弱い
3	にじみ 赤褐色	焼土粒子、粒子、ロームブロック少量	弱	弱
4	黒褐色	焼土粒子やや多量、炭化粒子多量、 ロームブロック少量	弱	弱
5	赤褐色	ロームブロック、焼土粒子、ブロック炭化粒子少量	弱	弱
6	赤褐色	焼土粒子多量、ブロック炭化粒子少量	弱	弱
7	褐色	ロームブロック極少量、粒子、 焼土粒子少量	弱い	やや 有り

第188図 第91号住居実測図



第189図 第91号住居址実測図

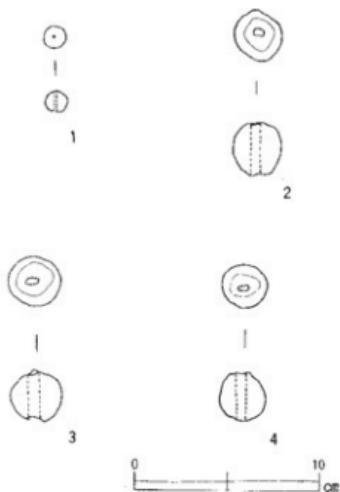
円筒状、P 3 はV字状で2段の掘り込み、P 4 は長径90cmの長円形状、45cmと浅く鍋底状形態。

竈は、北壁側に確認されたが大半を90号住居址につぶされ遺存状態は悪い。外部へ半円状に40cm程掘り込み袖部は、50cm程開いて付設、焚口部は開き前面に灰原と思われる掘り込みが認められ炭化物、焼上等が埋積していた。火床部は前面に位置し、20cm程掘り込む。煙道部はゆるく立ち上がる。形態的には半円形状か？。灰黄褐色の粘土を用いて築いている。

覆土は、4層に分類された。層序からは自然埋積か…。確認面1層は暗褐色、床面中央部に4層黒褐色層が認められた。2層褐色層を除きいずれも炭化粒子、焼土粒子、粘土粒子等を含む。

遺物は、少なく総数100片前後で土製丸球の他は図示出来るものはなかった。1は小玉か、小孔で調整は良い。2～4は粗雑な調整、長円形状、孔部長円形。

本遺構は、東側で89号住居址に掘り込まれており時期的には最も古く91号住→89号住→90号住居址の新旧関係が推定される。



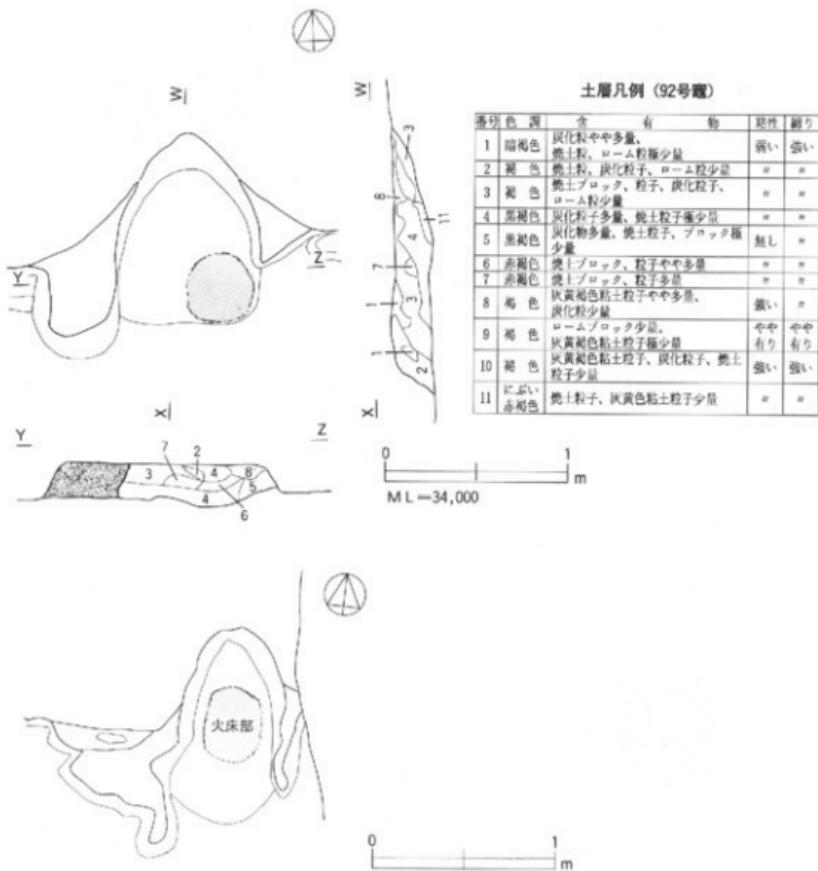
第190図 第92号住居址出土遺物実測図

#### 土製品一覧表

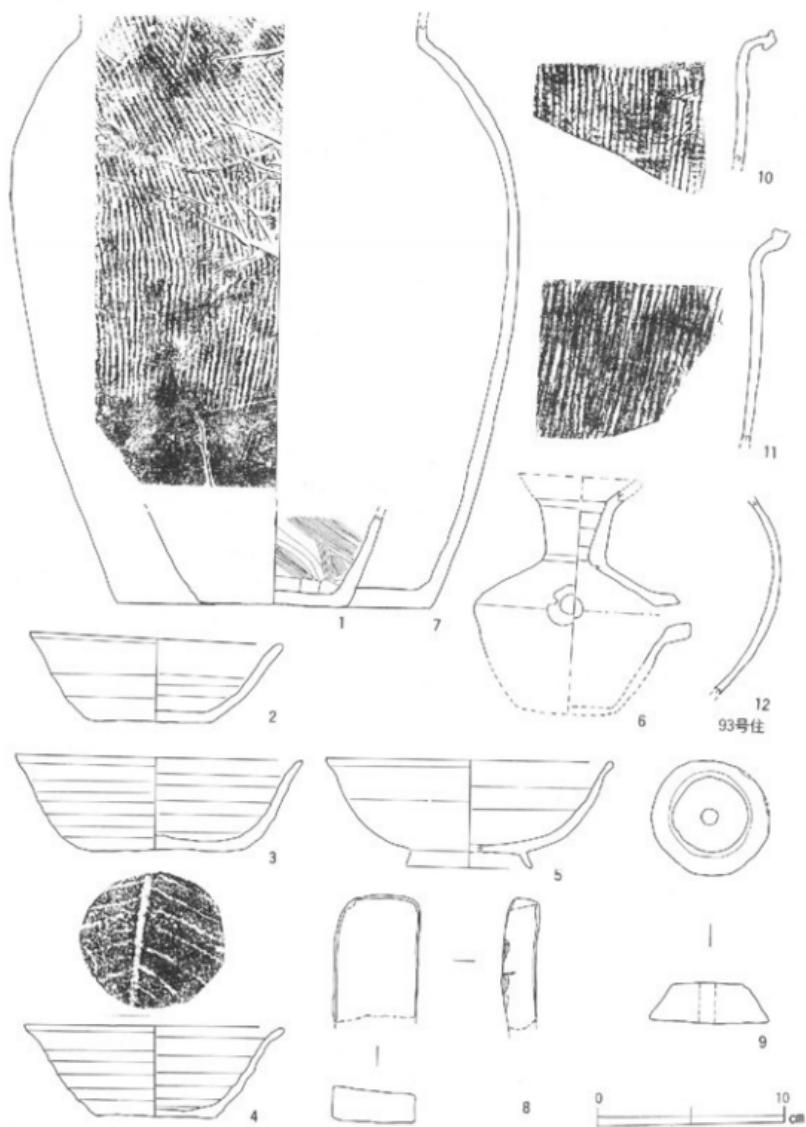
番 号	器 種	法 量(cm)			重 量(g)	材 質	出 土 地 点	備 考
		最大長	最大幅	孔 部 厚				
1	小 玉	1.1	1.2	0.1	4	土 製	床 直	小玉、椭円形状球状、孔部少孔(三ヶ月状)
2	土 球	2.7	2.5	0.5	18	"	覆土中	不整形球状、孔部方形状
3	"	2.5	2.8	0.6	16	"	"	不整形球状、孔部三ヶ月状
4	"	2.5	2.4	0.5	12.5	"	"	不整形球状、孔部長円形

第92号住居址（第191・192・193図）

本址は、91号住居址の西側1区、E-17、18グリットを中心に確認された住居址で東側は畠の“よせ”部に位置、確認面では東側に傾斜を示す。93号住居址の3分の1程を掘り込み、構築されていったが内部には芋穴が4ヶ所掘り込まれ遺存状態は悪い。主軸をN-11°-Wに置き、東西4.6m、南北4m、隅部が丸味をもつ長方形プランを呈する。壁面は、いずれも開き気味に立ち上



第191図 第92、93号住窓実測図



第192図 第92号住居址出土遺物実測図

がり東側では60cm、西側では35cmの壁高を測る。床面は、良く踏み固められ良好な締まりを呈していた。平坦に移行している。周溝は、遺存部で幅10cm～20cm、深さ10cm～15cmで認められた。西側では、幅60cm程の浅い掘り込みを認める。南側は粘土で“たたいた”ような面に凹凸があり小鍛冶場の跡かー、本址からはそれに関する羽口、鉄滓、鉄製品等は出土していないが本例は本遺跡の中では唯一のものであった。近くからは羽口が出土している。粘土中には“わら”状の炭化物が混入している。柱穴は、径25cm～45cm程で円形、長円形状で深さ50cm前後の円筒状。

竈は、北壁中央部やや東寄りに位置し構築されていた。外例にU字状に70cm程掘り込み、袖部は短く付設、焚口は開く、火床部は前面に位置し床面とほぼ水平に近い、煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的にはU字形状、灰黄褐色の粘土を用いて築いている。

覆土は、7層に分類された。層序からは投げ込み状と理解される。各層とも炭化粒、ブロックを含む。中央部に芋穴の攪乱層が認められる。

遺物は、総数150片程出土した。須恵器のやや多い遺構であった。平行叩目とナデ調整と内面に刷毛状調整痕をもつ土師器と口唇部が断面5角形状、四角形状の須恵器等が認められいずれも器内は薄い。6は縁、底部を欠失する。注孔部はやや長日に貼付している。ロクロ水引整形。2～4は須恵器環で4はロクロ水引か…。5は高台付碗、脚部は短い。口唇部は丸く肥厚して収める。8は一部欠失する砥石、9は紡錘車で上製、重さ、75g。

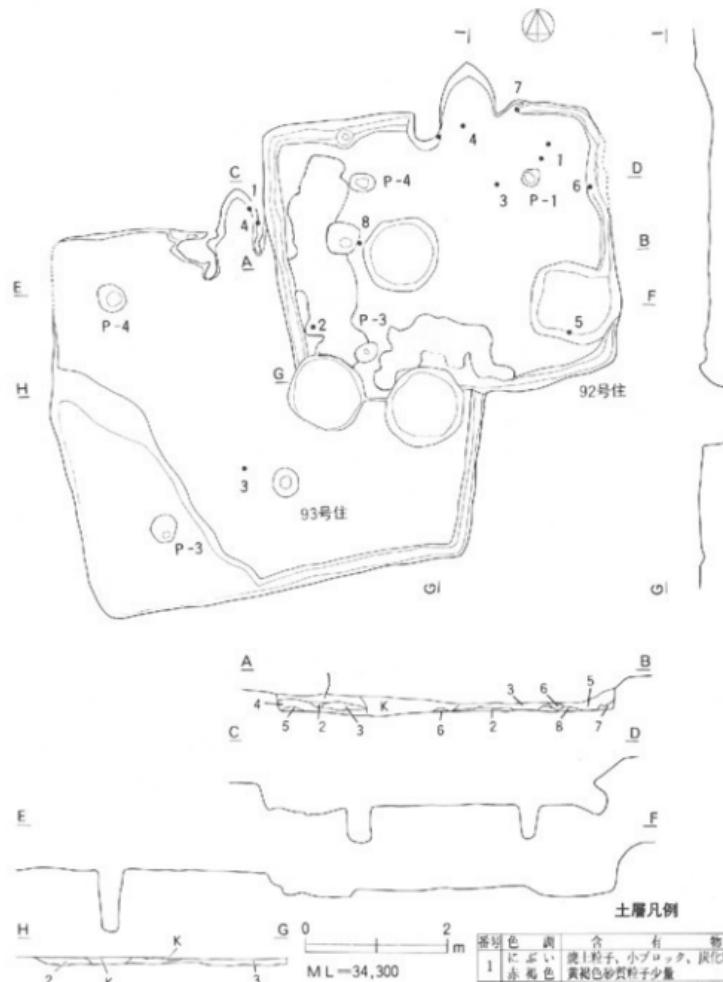
#### 第93号住居址（第193・194図）

本址は、92号住居址に北東隅部を3分の1程を掘り込まれた住居址で遺存状態はあまり良くない。主軸をN-13°-W前後に置くか。東西5.5m前後、南北5.3m前後の不整形状の方形プランを呈する住居址と思われる。壁面立ち上がりは5cm～10cm程認められたに過ぎない。周溝は南側、東側に認められた。南西隅部に若干の掘り込みがあり攪乱か、床面は中央部では良好な状態であった。ほぼ平坦に移行する。

覆土は、6層に分類されたが図示した面では2層のみで暗褐色。

遺物は口唇部つまみ出しの甕、外反して立ち上がる甕、ややふくらみをもつ蓋がみとめられカリはない。

本址は、新旧関係からは92号住居址より古い時期になる。



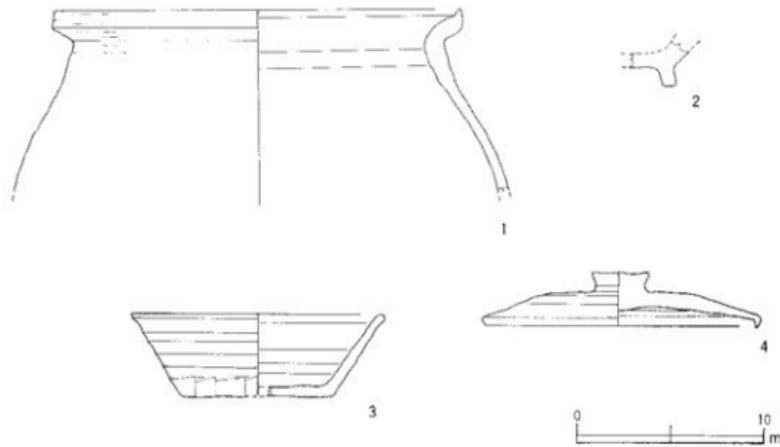
番号	色調	含 有 物	性 質	織り
2	細褐色	ローム小ブロック少量 あり	やや あり	やや 有り
3	暗褐色	ローム小ブロック、粒子少量	〃	〃

番号	色 調	含 有 物	粘性	織り
1	に ぶ い 赤褐色	燒上粒子、小ブロック、炭化粒子 黄褐色砂質粒子少量	弱い	強い
2	に ぶ い 赤褐色	燒上ブロック、粒子、炭化粒子少 量	〃	〃
3	赤褐色	燒上ブロック、粒子やや多量 ローム小ブロック、粒、燒上粒、 黄褐色砂質粒子少量	無し	〃
4	褐 色	ローム小ブロック、粒、燒上粒、 黄褐色砂質粒子少量	弱い	やや 有り
5	褐 色	炭化粒子、ローム小ブロック少量	〃	無い
6	褐暗褐色	炭化粒子多量、 黄褐色砂質粒子少量	〃	〃
7	黑褐色	炭化粒子、ローム粒子少量	無し	弱い

第193図 第92、93号住居址実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A B C 8.0	平底から囲く立ち上がり小型壺か、内面ナデ、調整粗雑。	ナデ、横ナデ	難、雲母 にぶい褐色 普通	10 % 床直
2	壺 土師器	A 13.8 B 4.4 C 6.7	安定した底部から外反して立ち上がり口唇部肥厚、丸く収める。内面ヘラナア、ミガキ。	巻上げ 回転ミズビキ、ナデ ヘラミガキ状	難、雲母 暗褐色(黒褐色) やや良	100 % + 9
3	壺 土師器	A 15.4 B 4.9 C 9.1	安定した底部から器肉を減じて立ち上がり、口唇部開き丸く収める。底部木葉痕。	回転ミズビキ、ナデ 鎌磨き状	難、石英 にぶい橙色(黒褐色) やや良	40 % + 5
4	壺 須恵器	A 13.9 B 4.9 C 6.5	底径と口径の差は倍に近い。外反して立ち上がり、口唇部肥厚丸く収める。	ロクロ水引き、ナデ	難 にぶい橙色 普通	70 % + 11
5	壺 土師器	A 15.4 B 5.8 C 6.8	短く細い付高台をもち体部はゆるやかに内彌して立ち上がり口唇部やや肥厚、外反。	回転ミズビキ、ナデ 鎌磨き状	難 淡い橙色(黒色) 良	40 % 芋穴中
6	はそう 須恵器	A B C	最大径を肩上位に置く。頸部、注孔部貼付、外側から孔を穿つ。	ロクロ水引き 頸部、孔部貼付	精選 褐色(一部灰褐色) 良好	40 % + 10
7	壺 須恵器	A 16.3 B 4.5 C 8.5	径の大きい底部から直立気味に立ち上がり最大径を肩部に置く。口縁欠失。器肉薄い。縦位の平行凹目をもつ。	叩き、ナデ	難 淡い褐色 やや良	70 % 床直



第194図 第93号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表（92号住）

番 号	器 種	法 量(cm)			重 量(g)	材 質	山 土 地 点	備 考
		最大長	最大幅	最大厚				
8	砥 石		4.4	1.7	79	凝灰岩	床 直	3面に使用痕あり。
9	紡錘車	2.1	6.2	0.9	75	土 製	"	正円形、孔部凹形、台形状形態。

出土土器観察表（93号住）

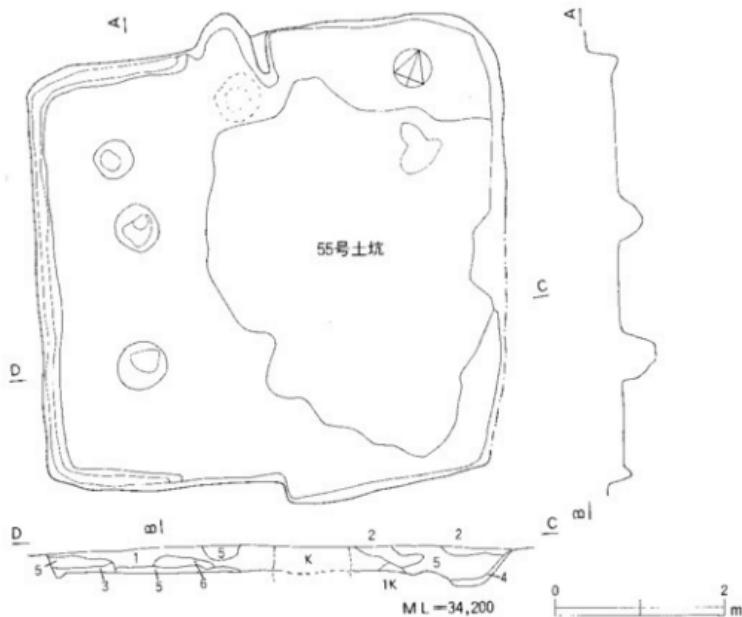
番号	器 種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備 考
1	甕 土師器	A 20.0	口縁部肥厚短く外反、口唇部上方へ長目につまみ出る。	横ナデ、ナデ	礫、長石 褐色 やや良	100 % 甕 内
		B				
		C				
2	長頸瓶 須恵器	A	ロクロ水引長頸瓶？縁輪をもつ脚部貼付	ロクロ水引き、ナデ	礫、石英、長石 灰褐色 良	1 % 覆土中
		B				
		C				
3	壺 須恵器	A 14.5	安定した平底から外反して立ち上がり口唇部肥厚し、丸く収める。(底部、ヘラ、ナデ調整)	回転ミズビキ、ナデ	礫、滑母 褐色(橙色) 普通	60 % 床 直
		B 4.5				
		C 8.5				
4	蓋 須恵器	A 3.0	天井部のフクラミは弱く、口端部内傾、断面三角形状(つまみ貼付)。	回転ミズビキ、ナデ	礫、石英 褐色 やや良	40 % 甕 内
		B 3.1				
		C 14.2				

## 第94号住居址（第195・196図）

本址は、72号住居址の南側1区、G-22、23グリットを中心に確認された住居址で台地は南側に緩く傾斜を示し、調査区西側の最も南側に占地する遺構で上部を7号溝と多くの擾乱によって変形を示し、約半分程は床面をも掘り込んでいる。主軸をN-21°-Wに置き、東西5.6m南北5.1m、隅部の丸味をもつ長方形状プランを呈する。壁面は、東側では擾乱の為緩やかに立ち上がり、西側は鋭角的に立ち上がる。壁高30cm前後、北側で35cm前後を測る。床面は、擾乱の為約5分の2程を欠失し北側の一部、西側の約半分程が遺存していた。締まりはややあり、ほぼ平坦に移行する。周溝は、西側と北、南側の一部に検出され幅10cm~15cm、深さ10cm前後、U字状形態。柱穴は2ヶ所認められ、円形状を呈し径45cm~55cm、深さ40cm~50cm U字状掘り込みが見られた。その他1~2ヶ所柱穴状の掘り込みが認められたが全体的に主柱穴の構成がつかめなかった為柱穴とはしなかった。

竈は、北壁部に位置し構築されていたが大半を欠失していた。外側に30cm程半円形に掘り込み袖部は、右側のみ遺存、開いて直線的に付設。火床部は前面に位置、僅かに掘り込む。煙道部はやや緩く立ち上がり、黄褐色の粘土を用い築いている。

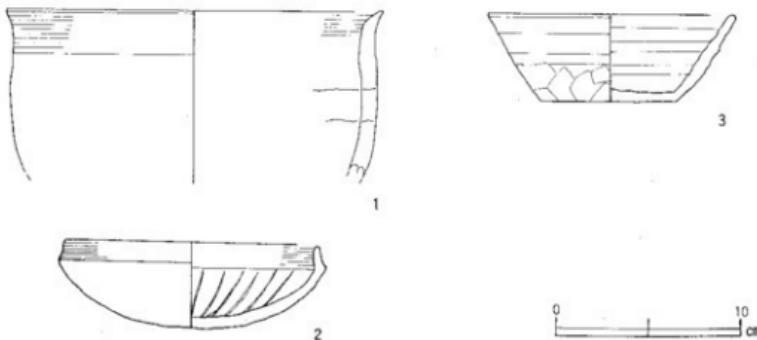
遺物は少なく総数100片前後で須恵器も少量認められた。鉢状のものは口唇部は尖り、口縁部は短くて外反、环は半球状の体部から立ち上がり肩部に弱い稜をもち、口縁部は短く内傾気味のものが認められる。須恵器は安定した平底から開いて立ち上がる。口唇部は丸く収める。体部下半、底部は籠削り。



土層凡例

番号	色調	含 有 物	新 性	弱り
1	褐色	ロームブロック少量、ローム粒少量	なし	弱い
2	褐色	炭化粒少量、炭化粒少量	弱い	弱い
3	褐色	ローム粒子少量、ロームブロックやや 有り	やや 有り	有り
4	明褐色 多量	ロームブロック、ローム粒子やや 有り	弱い	弱い
5	褐色 少量	ロームブロック少量、ローム粒子 少量	なし	弱い
6	暗褐色	炭化粒子少量	なし	弱い

第195図 第94号住居址実測図



第196図 第94号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	鉢 上彫器	A 20.1 B - C -	口縁部、わずかに外反、口唇部丸く收める。輪穂痕を残す。	横ナデ、ナデ	礫、長石 にぶい橙色 やや不整	10 % + 10
2	环 下彫器	A 13.7 B 4.6 C 4.5	丸底に近い底盤から、緩やかに内傾して立ち上がり肩部に弱い棱をもち、口縁部緩く内傾丸く收める。内面に薄いミガキあり。	横ナデ、ミガキ状 荒磨き状	礫、長石 黒褐色(にぶい橙色) やや皮	70 % + 15
3	环 彫意器	A 13.2 B 4.7 C 7.2	安定した底盤から外反して立ち上がり口唇部肥厚丸く收める。体部下端端削り(底部も)	粘土紐巻上げ、端削り、ナデ	礫、長石 褐色 やや皮	50 % + 10

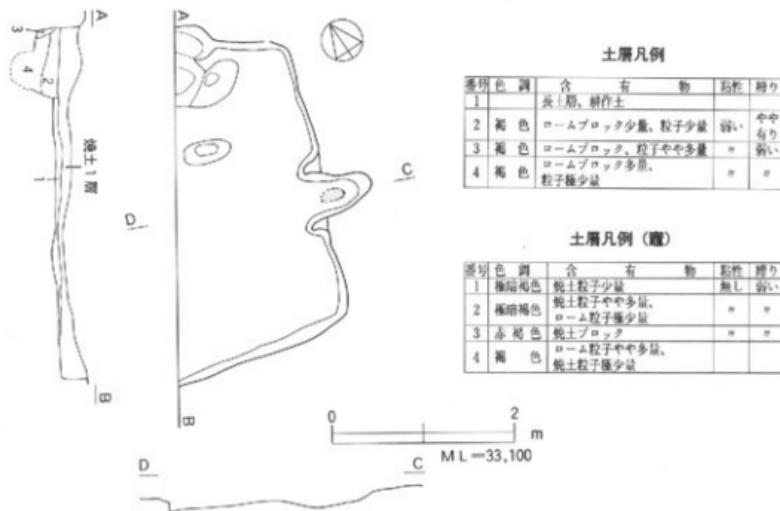
第95号住居址（第197図）

本址は、調査区の最も西端部に位置し大半をエリア外に置く。調査は遺構の約3分の1前後で台地の傾斜面に占地。主軸をE-17°-Sに置き、南北3.2mの小型な住居址と推定される。壁面立ち上がりは10cm前後、床面は、北側に若干傾斜を示す。竈前面部では若干縫まりを認める。

竈は、東壁に位置し検出された。外部へU字状に60cm程掘り込み袖部を僅かに付設、焚口部は開く。火床部は奥部に位置し僅かに掘り込む。煙道部は緩やかに立ち上がる。形態的には幅狭なV字形状。灰褐色の粘土を用いて築いている。

覆土は、4層に分類されたが2・3・4層はピット状部分の土層で本遺構とは直接関係がないと理解される。1層は褐色ロームブロック、粒子を含む。

遺物は少なく、図示出来るものはなかった。総数30片程度であった。



第197図 第95号住居址実測図

第96号住居址（第198・199図）

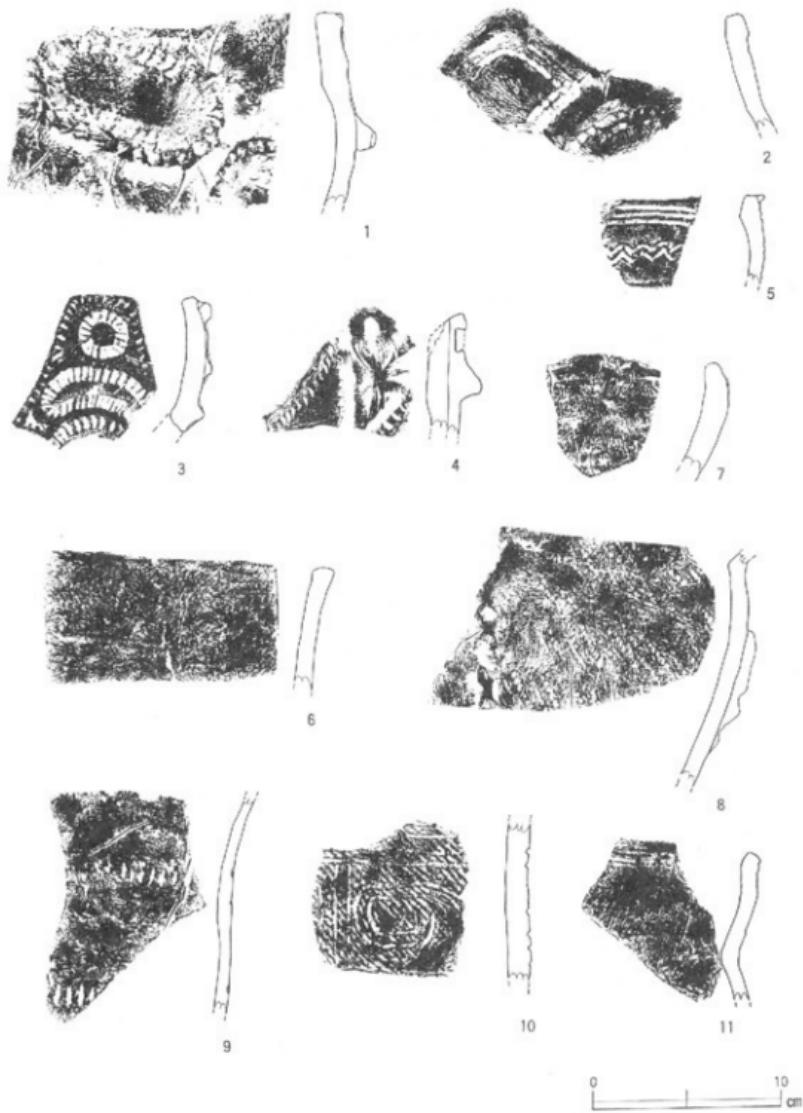
本址は、42号住居址の南側1区、X-14グリットを中心に確認された住居址で台地は、ほぼ平坦に移行する。42号住居址（古墳時代）に掘り込まれ約5分の2程を欠失する。径4.8m程の円形プランを呈する。縄文時代の住居址と思われるが断定は出来ない。床面は締まりは弱く、床面はソフトローム剥きだし状、ほぼ平坦に移行する。炉址と思われる部分は若干火を受けロームがブロック化し地床炉と思われる。炉の層序は1層のみで焼土粒子を含む。

覆土は、1層のみで黄褐色、締まりは弱い。

遺物は、西側に集中して出土したがいずれも破片で投げ込み状の感じであった。1～4は角押文を有する口縁部で1は平縁、2・3・4は山形状の突起を有する深鉢形の土器で1は楕円形状、2は突起部に頂部を置く方形状、3は角張った山形突起頂部に角押文で円形モチーフを有し4は孔状の凹みを有している。1・2は複列に施文。5は口縁部に3条の平行沈線、鋸歯状沈線を横位に施文、口唇部平滑。6は無文、7は継位の細い櫛状施文、口縁内縫気味、9は、刻み目を2列ほどこす深鉢形土器口縁部、肩部片であり雲母をやや多量に含む。色調は暗褐色、黒褐色のものが多い。



第198図 第96号住居址実測図



第199図 第96号住居址出土遺物実測図

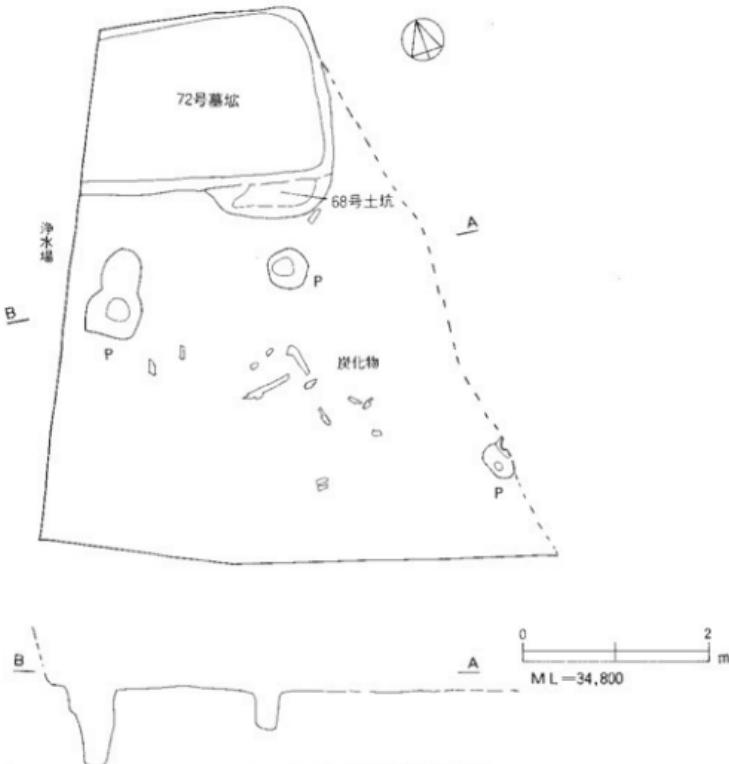
### 第97号住居址（第200図）

本址からは、浄水場の隣接区に位置する調査区で3区と呼称した。（97号住～104号住）

本址は、最も南側に位置し検出されたが農道、浄水場等のエリア外に位置している為プラン、規模等不明な点が多い。壁面は一部に10cm程の立ち上がりを認めるが大半は欠失する。床面は遺存部では良く踏み固められ、ほぼ水平に移行する。65号土坑粘土張りと72号土坑に掘り込まれていた。1部縄文のフラスコ、68号土坑が認められた。炉、甌は検出されなかった。

覆土は、1層のみで暗褐色、縁まりはやや強く炭化物、粒、粒子、焼土粒子を含むみ5cm～10cm前後で1部は、遺構確認中に床面が検出される状態であった。

遺物は、図示できるものはなく縄文土器片、土師器片等が総数30片程であった。床面からは炭化物がみとめられた。遺存状態からは架屋状態の復元は不可能である。



第200図 第97号住居址遺実測図

### 第98号住居址

本址は、97号住居址の北側3mに検出された。大半をエリア外、浄水場内に位置すると推定される。主軸をN-10°-Eに置き、南北3.5m前後のプランと推定される。壁面は、10cm前後の掘り込み、壁高を測る。床面は、確認された区内では良好な状態を示しほぼ水平に移行する。周溝は、幅20cm、深さ15cm~20cmでU字状に掘り込む。柱穴と思われるピットが1ヶ所認められた。他に土坑が1ヶ所認められた。(68号土坑)

竈、炉は検出されない。(全体の5分の1程と推定される。調査面は2m<sup>2</sup>前後)

### 第99号住居址

本址は、98号住居址の北4mに検出された。大半をエリア外、浄水場内に位置すると推定される。調査部分は東壁に添った幅10cm~30cm前後である。これらから判断すると主軸をN-1°-W前後に置き、南北4m前後のプランの住居址か…。壁面はやや開いて立ち上がり20cm程の壁高を測る。床面は、壁面部ながら良く踏み固められほぼ平坦に移行する。周溝は、幅10cm、深さ10cm程で検出された。柱穴は、確認出来なかった。(全体の1割前後か)

竈も同様な状態で確認出来ない。

覆土は、1層で暗褐色ロームブロックをやや多く含む。締まり、粘性はややある。

遺物は土師器が少量で(10片)図示出来るものはなかった。

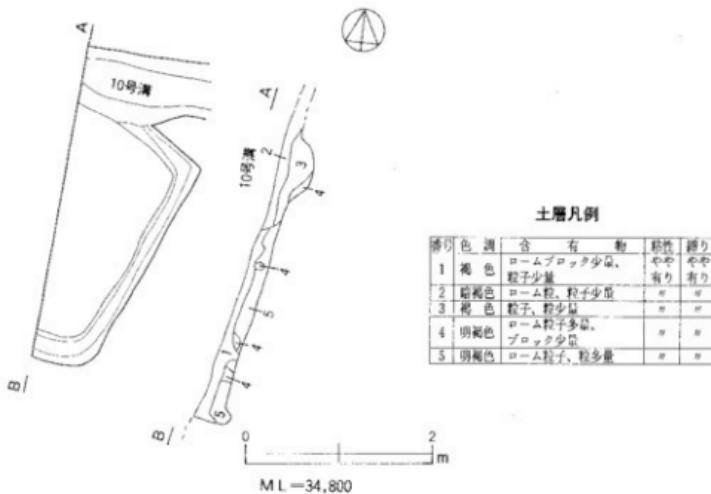
### 第100号住居址(第201図)

本址は、99号住居址の北側2mに検出された。大半をエリア外、浄水場内に位置すると推定される。北側を10号溝に掘り込まれ1部消失するが約3分の1程は調査出来たと推定される。主軸をN-35°C-Eに置き、南北4.8m隅部は鈍角的に掘り込む。壁面は垂直に立ち上がり深さ20cmを測る。床面は1部にローム剥きだし状の部分も認められたが他は比較的良く平坦に移行する。周溝は、幅15cm~20cm、深さ15cm前後でUの字状に掘り込む。

竈は、検出されなかつたが北壁側に灰黄褐色の粘土が少量認められ北壁に位置していたと推定され10号溝に掘り込まれて消失した可能性が強い。

覆土は、3層に分類されたがいずれもロームブロック、粒、粒子等の混入量の差で褐色層であった。粘性、締まりはやや有る。

遺物は、総数50片程検出されたが図示出来るものはなかった。大半は土師器で繩文土器、須恵器も少量認められる。



第201図 第100号住居址実測図

#### 第101号住居址（第202図）

本址は、100号住居址の北側8mに検出された。1部を浄水場、エリア外に置き、北東隅部を102号住居址に掘り込まれ欠失している。主軸をN-2°-Eに置き、南北3mを測り方形プランを呈すると推定される。壁面は、垂直に立ち上がり15cmを測る。床面は、総じて踏み固められ馬溝部を除いて良好ではほぼ平坦に移行している。周溝は、幅10cm~20cmで深さ5cm~10cmでU字状の掘り込みをもつ。

竈は、北壁側に位置し検出され外側に40cm程U字状に掘り込む。袖部は内傾気味に70cm程付設、焚口部は狭くなる。火床部は、中位に位置し10cm程掘り込む。煙道部は鋭角的に立ち上がる。灰黄褐色の粘土を用いて築いている。形態的にはUの字状。

覆土は、4層に分類された。中央部にピット状の掘り込みが認められ左右で土層の違いが認められる。ローム粒、粒子、ブロックの混入量の差と織まり等に若干の差違が認められる。

遺物は、総数50片程でいずれも少破片で図示出来るものはなかった。上師器が大半を占め須恵器は数点であった。

### 第102号住居址（第202・203図）

本址は、101号住居址の北東側に位置し101号住居址の北東隅部を切り込んで検出された。約5分の2をエリア外に置く。主軸をN-31°-Eに置き、東西4.5m、南北4.4mの方形プランを呈すると推定される。壁面は、鋭角的に立ち上がり壁高40cmを測る。床面は、良好な締まりを呈し中央部が若干高くなるがほぼ平坦に移行する。柱穴は、確認出来ないが南西の周溝部に深さ60cm、径30cm程円筒状のピットが検出された。周溝は、幅15cm~20cm、深さ5cm~10cmを測る。

竈は、エリア外部分の北側に位置すると推定されこの部分の床面に若干の砂質の灰褐色粘土が認められた。

覆土は、9層に分類された。土層的には複雑な埋積状態を示し暗褐色層が主体を占める。焼土粒子、ロームブロック、粒子、緒まり、粘性等の差違によるもの。投げ込み状と理解される。

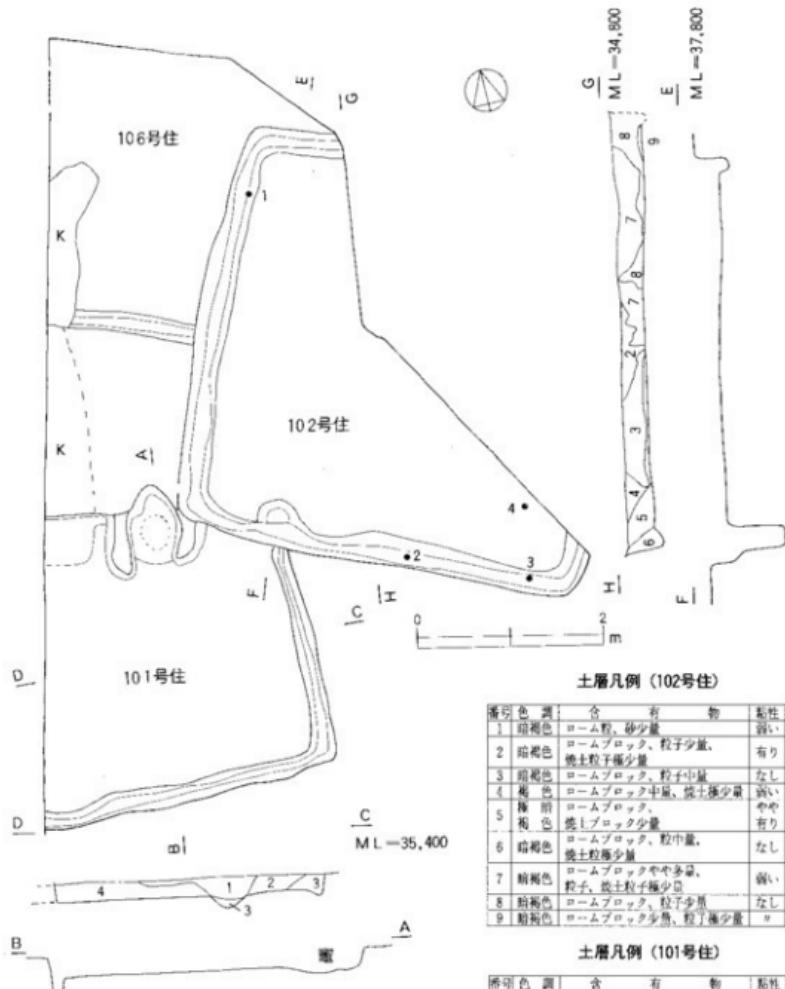
遺物は、総数50片程度少ない。格子状の叩目をもつ甕？甌？が認められ器肉は薄い。坏は、外反して立ち上がり底部に手持鉗削りをもつものも認められ口唇部は丸く収める。1部欠失し四面に使用痕をもつ磁石が認められた。

### 第106号住居址（第202図）

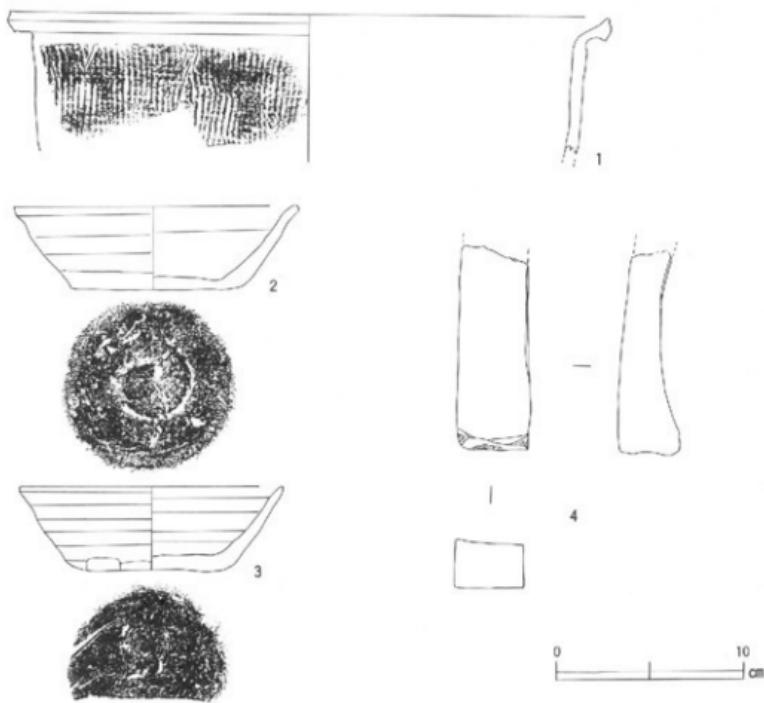
本址は、102号住居址の西側に位置し検出された住居址で西側を浄水場、北側をエリア外に置き東側を102号住居址に掘り込まれていた。遺存状態は悪く覆土は5cm~10cmで1部遺構確認中床面が検出された。遺存部から推定すれば主軸をN-Eに若干寄るものと推定されやや大型のプランを呈すると思われる。南側の1部に周溝を認める。遺物は皆無、切り合い関係からは3軒の中では本址が最も古い時期に位置する。

### 出土土器観察表

番号	器種	法標(cm)	器形の特徴及び文様	摹形技法	胎土 色調 燃成	備考
1	甕 須恵器	A 32.1 B C	大形の鉢状甕か？、格子状叩目をもつ。甕の可能性が強い。	叩き、ナデ	礫、長石、褐灰色 良	10 % + 5
2	坏 須恵器	A 15.2 B 4.5 C 9.4	安定した平底から外反して立ち上がり体部肥厚、口唇部丸く収める。	粘土縦巻上げ 回転ミズビキ、 ナデ(左廻り)	礫、石英、長石、雲母 暗褐色(灰褐色) 普通	80 % + 3
3	坏 須恵器	A 14.1 B 4.5 C 8.0	口径はやや大きめ、開きながらがら立ち上がり口唇部尖り気味、粗雑。	回転ミズビキ ナデ	礫、雲母、石英 褐色(灰褐色) 普通	40 % 床直



第202図 第101、102、106号住居址実測図



第203図 第102号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
1	砥石	10.5	3.9	2.5		礫灰岩	+	10 一部欠。使用痕顯著。4面に使用痕あり

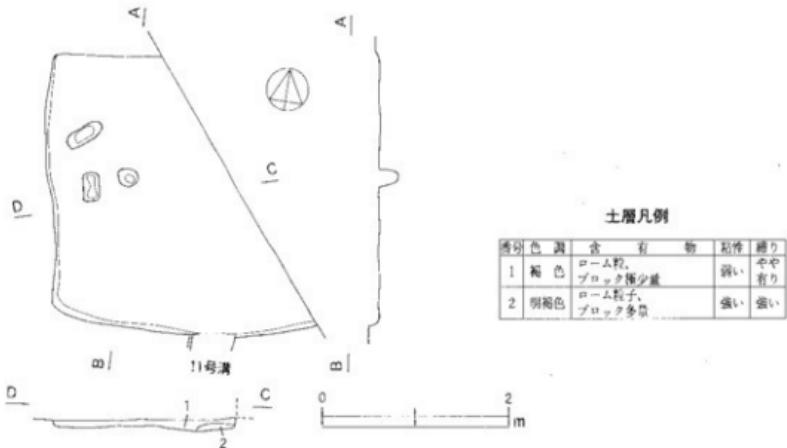
### 第103号住居址（第204図）

本址は、104号住居址の北側1mに検出された住居址で第11号溝が上部に僅かに掘り込まれていた。約3分の1程度を調査区外に置き、全容はつかめなかった。主軸をN方向に置くと推定され南北2.8m、東西3m前後の方形プランを呈すると思われる。壁面は開いて立ち上がり壁高5cm～10cmを測る。若干の凸凹が認められたが周溝とは推定出来る程のものはない。床面はほぼ水平に移行縁まりはやや有る。中央西側に長方形状、円形状の小孔が認められる。柱穴は検出されなかつた。

癒は検出、確認出来なかった。エリア外に置くと推定され北側か…。

覆土は、2層に分類された。確認面1層は褐色、本層が大半を占めローム粒、ブロックを含む。  
2層は粘性、焼きまろは強い

遺物は、総数20件程度で、図示出来るものはない。すべて土師器で古墳時代の遺構と推定される。

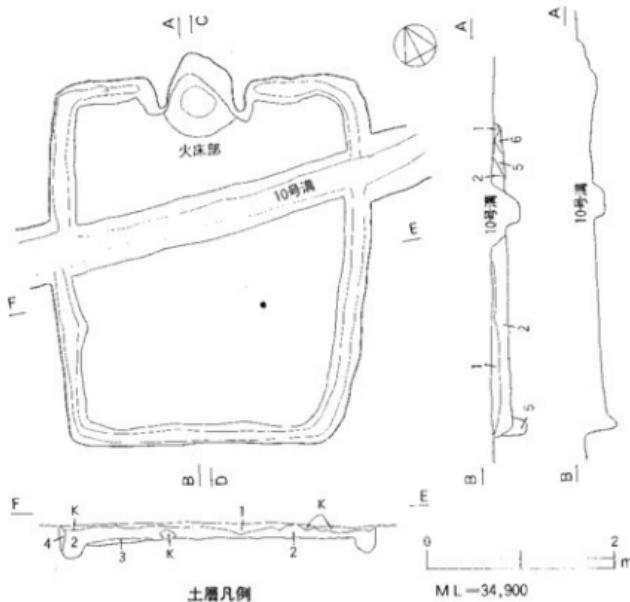


第204回 第103号住居実測図

第104号住居址（第205・207図）

本址は、102号住居址の南側に位置し中央に10号溝が東西に掘り込まれていた。台地は北及び東側に5cm～10cm程の傾斜を示している。主軸をN-20°-Eに亘り東西3.4m南北3.7mの長方形プランを呈する。壁面は、鋭角に立ち上がり深さは10cm～40cm程測る。床面は中央部で10cm程高く移行、良好な縫まりを呈していた。柱穴は確認出来ない。周溝は幅10cm～20cm、深さ10cm～20cmでU字状にめぐる。

竈は、北壁中央部に構築され、外部へは20cm程U字状に掘り込み袖部は40cm程の長さで直線的に付設、焚口は開く。火床部は中位に位置し若干掘り込む、煙道部はゆるやかに立ち上がる。



第205図 第104号住居址実測図

覆土は、6層に分類された。いずれも粘性、締まりは弱く確認面は暗褐色層で2層の褐色層が大半を占める。ほぼ自然埋積と理解される。

遺物は、少なく総数100片程で図示出来るのが少なく1点のみであった。2分の1程欠失する土製の紡錘車で台形状。重さ20g。

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔深				
1	紡錘車	4.5	0.7	20	滑石	味面	台形状上部「+」の字刻文あり、孔部円形	

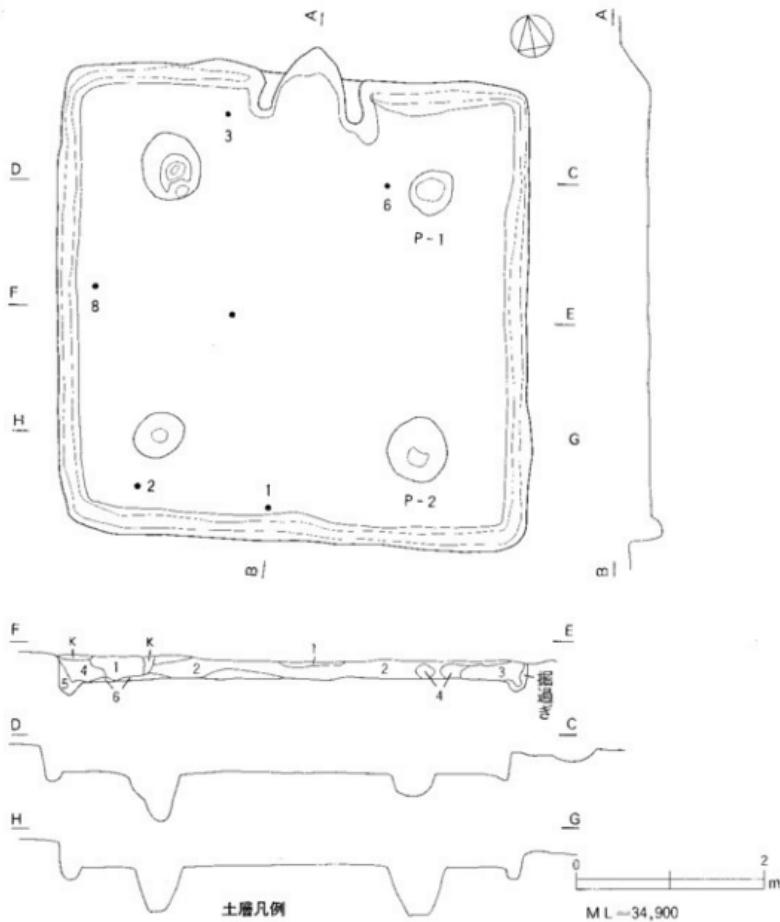
#### 第105号住居址（第206・207図）

本址は、104号住居址の南側に位置し北東隅部を第11号溝に僅かに掘り込まれているだけで本調査区の中では最も遺存状態の良好な遺構で主軸をN-12°-Eに置き、東西、南北各5mの隅部が丸味をもつ方形プランを呈する。壁面は垂直に近く立ち上がり東側で20cm、西側で30cmを測る。床面は中央部が僅かに高いがほぼ水平に移行、締まりは良好。周溝は、U字状に幅20cm～25cm、深さ10cm～15cmで全周する。柱穴は、4ヶ所確認され北、南の壁面に若干寄り気味に位置しいずれも円形状、P1は径50cm梢円形状、深さ20cm。P2は70cm梢円形状、深さ50cm、P3は、径50cm梢円形状、深さ50cm、P4は、2段の掘り込みが認められ70cm、深さ50cm。

竈は、北壁中央部に位置し構築されていた。外側に20cm程U字状に掘り込み袖部は50cm程開いて付設、焚口部は八の字状に近く開く。火床部は中位に位置、煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には開き気味のU字状、黄灰褐色の粘土を用いている。

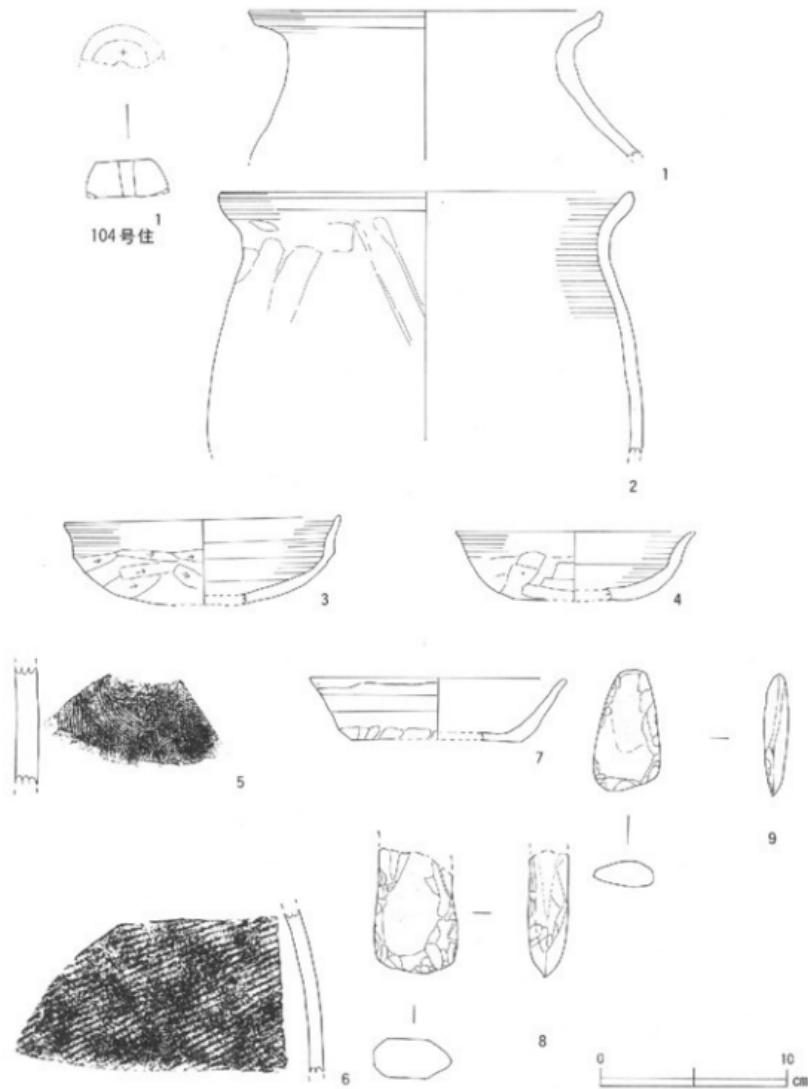
覆土は、7層に分類された。確認面では2層褐色が大半を占める。3、4層は暗褐色層でいずれもブロック状に認められた層であり、主体を占める層ではなかった。層序からは自然埋積に近いと推定される。いずれもロームブロック、粒子、焼土粒、粒子等を含む。下部に向って締まり、粘性をやや有する。

遺物は、総数200片程検出されたがいずれも細片で図示出来るものは少ない。1は内面に円形状の当て痕を残す須恵器片で大形の壺か？2は平行叩目をもつ。3は器肉の薄い环形土器で体部は外反して立ち上がり下部に箇削りを残す、巻上痕と推定されるつなぎ目を有する。4、5は半磨製石器。



透視色調	含 有 物	物 性	繰り
1 褐色	植物・ロームブロック微少量、粒少量	なし	弱い
2 茶色	ロームブロック、粒少量	弱い	やや 有り
3 咖褐色	ローム小ブロック、粒少量、微土粒、極少量	弱	弱
4 黄褐色	砂土粒子、ローム粒少量	弱	弱い
5 褐色	ロームブロックやや多量、粒子少量	弱	弱
6 明褐色	ローム粒子多量、ブロック種少量	やや 有り	やや 有り

第206図 第105号住居址実測図



第207図 第104、105号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 16.7 B C	頭部やや長且、口縁外反、口唇部つまみ出す。 (斜上方へ)	横ナデ、ナデ	磯、雲母 暗褐色 やや良	10 % + 10
2	甕 土師器	A 22.0 B C	長圆形状胴部で口縁部短く外反、やや肥厚沈 縁か、一条溝る。口唇部上方へつまみ出す。	横ナデ、箋削り ナデ	磯、長石 橙色、黒色 普通	100 % 床直
3	坏 土師器	A 14.7 B C	体部はゆるく内湾して立ち上がり、肩部に弱 い稜をもち、口縁部外反、口唇部丸く収める。	横ナデ、箋削り、ナデ ナデ	磯 弱い褐色 やや良	40 % + 10
4	坏 土師器	A 12.8 B C	碗に近い器形、口縁部強く外反し、口唇部丸 く収める。	横ナデ、箋削り ナデ	橙色 磯、長石 やや良	10 % 床直
5	大型甕 須恵器	A B C	円形狀叩目をもつ。	叩き、ナデ	磯、雲母 褐色 良	覆土中
6	大型甕 須恵器	A B C	平行叩目。	叩目、ナデ	磯、石英 灰褐色(褐色) 良	覆土中
7	坏 須恵器	A 13.8 B 3.2 C 9.1	安定した平底から外反して立ち上がり、口唇 部薄いが丸く収める。巻上痕を残す。	粘土編巻上げ、回 転ミズヒキ、ナデ 箋削り	糊邊 灰褐色 良	20 % + 15

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔 最大厚				
8	平磨製石器		4.4	2.1	108	流紋岩	+ 5	握部欠失
9	平磨製石器	6.5	3.7	1.4	43	〃	+ 10	ハマグリ刃状完形

#### 銅、鉄製品（第208図）

金属製品は、遺構の割合には少なかった。図示出来るものは総数25片で他は鋳造が進行し、旧状を推定出来ないものも數点認められその他は、鉄滓が100片程検出された。これらはいずれも東側に竈を構築しているものの覆土、床面からが多く認められ中には竈袖部に、また支脚状に利用したと思われるものも認められた。最大20kg、最小4kg前後と重量的には多様である。内容的には刀子と推定出来るものが最も多く、鐵鎌の茎と推定されるもの、和釘などがあり、銅製品3点は箱状のもの帶金具？、耳環などが出土している。

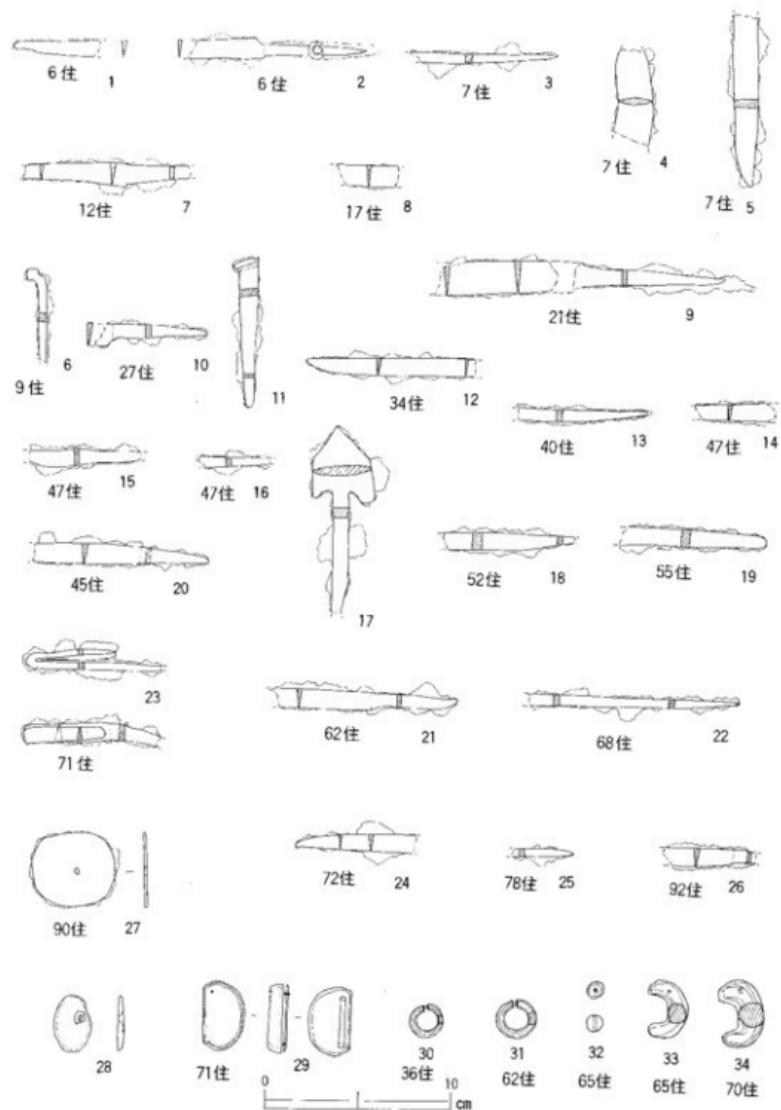
その他土製品の小玉、勾玉、メノウ製のものなどが認められた。

刀子は、いずれも遺存状態は悪く原型、旧状を残しているものはない。9はやや大形で切先部を欠失しているが刃部長6cm、刃部幅1.7cm、茎も9cmと長い。1は、刃部のみで切先部が屈曲を示している。刃部幅9mmと狭い。2も同様と思われる。3は、鐵鎌か・・。7は、かなり使いこまれたと推定され刃部が丸味を持つ。8は、棟部が薄く2mm、刃部幅1.3cm。10は、茎のみで刀子と思われる。14は、刃部の1部で刃幅9mm、13は、茎のみ、18、19は、鐵鎌よりは刀子の茎と断定される。21は、茎のやや短いもので刃部幅1.1cmとやや狭い。20は切先部のみ欠失し最も遺存状態の良いもので茎は刃部に比べ短い。21も20に近い。23は刃部中央から折れ曲り重なる。棟幅のやや広いもので茎の一部を欠失している。24は刃部のみで切先はゆるやかである。26は、やや小型の刀子。

鉄劍と思われる4は先端、下部を欠失し断面中央で3mm、幅3cmを測る。17は大型の鐵鎌で三角形状、直線的、鉤はややたれ氣味。左右対象形でない。厚さ4mm、遺存長10cm、22、25は鐵鎌か・・。

27からは装飾品と思われるもので28は石製、中央やや左寄りに片側から穿孔されている。厚さ4mm、長さ3.1cmの長円形状。30、31は銅製品の耳環りで円形状、30は径1.8cm、断面ほぼ円形状、31は径2.2cm断面楕円形状、32は径8mmの小型の小玉、円形で約1mmの孔を穿つ。33、34は勾玉で33は土製、34はメノウ製でいずれもコの字形状態を呈し33は孔1.5mm前後、34は片側穿孔、29は銅製の箱状製品で中空、帶金具の1部か、裏側に長方形、短間状のすかしが認められる。

27は、厚さ1mm前後で長径4.5cm、短3.9cmの小判状の薄い鉄製品で中央部に2mm程の小孔を穿つ。



第208図 鉄、銅、土製品実測図

鉄製品観察表

番号	種別	法量(cm)	特徴	備考	番号	種別	法量(cm)	特徴	備考
1	刀子 鉄	A 4.7 B 0.9 C 0.3	先端部屈曲あり 刃部のみ	6 住 覆 土	18	刀子 鉄	A 7.0 B 0.9 C 0.4	茎のみ、鉄錆の可 あり	52 住 覆 土
2	刀子 鉄	A 9.9 B 1.0 C 0.2	木質遺存 遺存状態はや良	6 住 覆 土	19	刀子 鉄	A 7.8 B 0.9 C 0.4	茎のみ、鉄錆の可 あり	65 住 覆 土
3	刀子? 鉄	A 7.8 B 0.6 C	茎のみ 鉄錆か?	7 住 覆 土	20	刀子 鉄	A 9.4 B 1.0 C 0.3	切先部欠失し遺存 状態はやや良	52 住 覆 土
4	鉄劍? 鉄	A 5.0 B 1.9 C 0.3	断面変状 切先、茎欠失	6 住 覆 土	21	刀子 鉄	A 9.4 B 1.0 C 0.3	切先のみ欠失遺存 状態は良好	62 住 覆 土
5	釘状 鉄	A 9.3 B 1.3 C 0.4	釘か?頭欠失	7 住 覆 土	22	刀子 鉄	A 11.2 B 0.7 C 0.4	茎のみ、遺存状態 はやや良	68 住 覆 土
6	釘? 鉄	A 5.0 B 0.5 C 0.4	釘か?	9 住 覆 土	23	刀子 鉄	A 12.0 B 0.9 C 0.4	2重に折れまがっ て出土。茎一部欠 している。	71 住 覆 土
7	刀子 鉄	A 9.0 B 0.7 C 0.3	かなり使用され刃部 変形、遺存状態はや 良	12 住 床 直	24	刀子 鉄	A 6.3 B 1.0 C 0.3	刃部のみ	72 住 床 直
8	刀子 鉄	A 3.4 B 1.1 C 0.2	刃部のみ、やや細身	17 住 覆 土 (竈内)	25	鉄錆 鉄	A 3.4 B 0.5 C 0.3	鉄錆か-茎のみ	78 住 覆 土
9	刀子 鉄	A 16.7 B 1.8 C 0.3	やや大型の刀子で 茎は遺存状態は良 好	21 住 覆 土	26	刀子 鉄	A 4.8 B 1.1 C 0.25	刃部、茎の1部	92 住 覆 土
10	刀子 鉄	A 5.8 B 1.3 C 2.2	茎のみ 刃部は極 一部	27 住 覆 土	27	鉄製品? 鉄	A B C	円盤状で薄い	71 住 覆 土
11	釘 鉄	A 7.5 B 1.0 C 0.3	頭部が良く遺存し 最も良好	30 住 覆 土	28	耳飾り? 石	A 3.1 B 2.0 C 0.4	石製品、耳飾り? 中央左側穿孔片側 から	92 住 覆 土
12	刀子 鉄	A 9.0 B 1.0 C 0.3	刃部はやや細身	34 住 覆 土	29	不明 銅	A 4.3 B 2.3 C 1.0	箱状で裏側に知細 状孔あり銅製品	71 住 床 直
13	刀子 鉄	A 6.9 B 0.9 C 0.3	茎のみで錆?	40 住 覆 土	30	耳 環 銅	A 1.8 B 0.4	やや小型で円形状 銅製品	36 住 覆 土
14	刀子 鉄	A 3.7 B 1.1 C 0.2	刃部のみや小茎 かー	47 住 覆 土	31	耳 環 銅	A 2.2 B 0.4	円形状、断面椿円形 銅製品	62 住 覆 土
15	刀子 鉄	A 5.9 B 0.9 C 0.3	茎のみ	47 住 覆 土	32	小 玉 土 製	A 0.9 B 0.9 C 0.1	小玉と思われ小孔 1mmを穿つ	65 住 覆 土
16	鉄錆? 鉄	A 3.8 B 0.6 C 0.25	鉄錆の可あり	47 住 覆 土	33	勾 玉 土 製	A 3.1 B 1.1	土製でコの字状を 呈する	65 住 覆 土
17	鉄 錆 鉄	A 9.9 B 3.1 C 0.5	三角形状、断面椿 葉状、遺存状態は 良好。一部欠	覆 土	34	勾 玉 メノウ	A 3.7 B 1.1 C	コの字状メノウ製 や角張る	70 住 覆 土

## 2 土 坑

土坑は、75基検出された。中でも縄文時代の土坑が最も多く30基前後、古墳時代から平安時代にかけてのも6基、粘土張りで中世期に位置づけられるもの6基、墓壙と推定されるもの3基、その他時期不明のもの8基、その他芋穴状、木根痕状のもの11基があり調査中番号を付して調査を行なったが欠番としたものもある。従って後述する遺構数と、総数は一致しない。以下縄文時代、古墳時代、粘土張り、墓壙の順に後述する。

### (1) 縄文時代の土坑

本時代の遺構は前述のように30基程認められた。明確に時期を断定されるもの少ない。掘り込み形態はフ拉斯コ状を呈するもの7基、円形状のもの8基、長方形状を呈するもの3基、その他掘り込まれて遺存率が少なく形状の不明のもの12基がある。

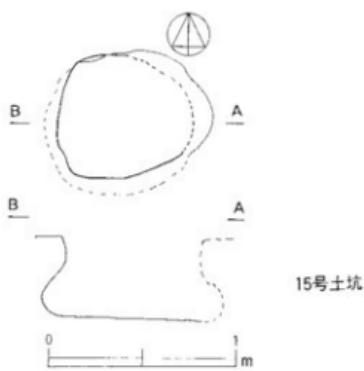
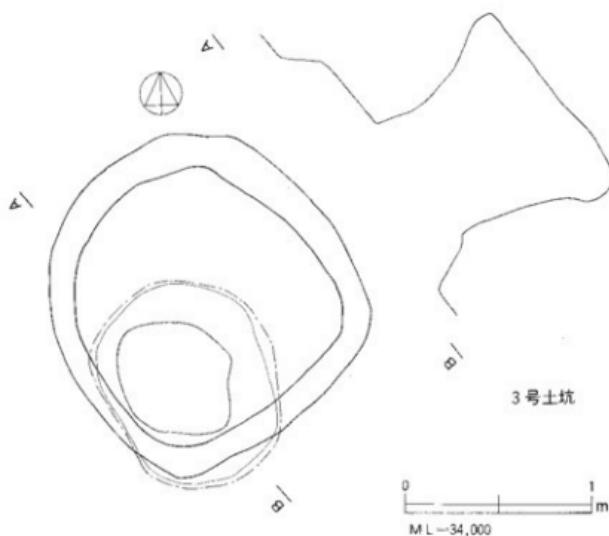
#### 第3号土坑（第209・210・211図）

本址は、調査区西側中央部に位置し検出されたもので確認面では長径1.8m、短径1.7m、深さ20cm程の掘り込みを有し壁面はゆるやかに開いて立ち上がり底面は平坦に移行し縫まりはやや強い。南側隅部に方形状に60cm程のフ拉斯コ状のビットを有し底部から80cm程掘り込む。底部に向ってゆるやかに内傾し底面近くで若干丸味をもつ。底部は平坦、縫まりをもち一辺1.2mを測る橢丸方形状を呈する。

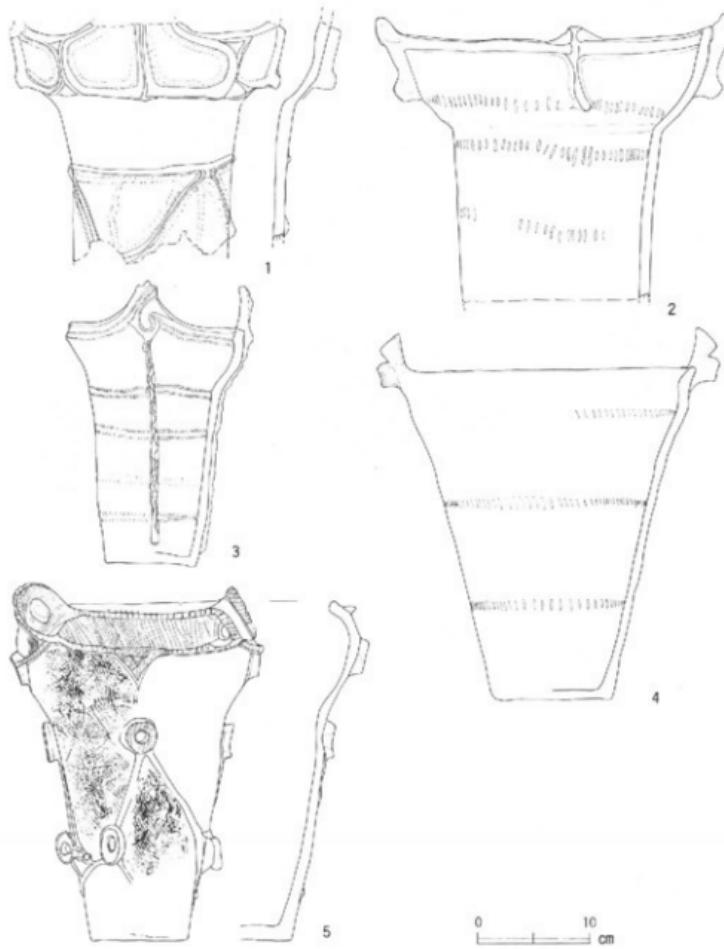
覆土は3層に分類され上部は褐色、2、3層は暗褐色、ビット部分はロームブロックをやや多く含む、下部は黒褐色層で粘性、縫まりは弱い。

遺物は大部分がこのビット内から出土しいずれも壹母をやや多量に含み深鉢形の形態で胴部は円筒状、筒状を呈する。1は、胴下半部と突起部を失する。口縁部は隆帯にそって角押文を2列施し胴部文様帶の間は素文、胴部は三角形モチーフを隆帯で区画、隆帯にそって有節沈線文を2列施す。口縁部突起は山形状か…。2は4ヶ所の小突起をもつ。口縁は弱いキャリバー状、やや粗雑な刻目文を三段施し他はすべて素文、胴部は筒状、器肉はやや薄い。3はやや小型で器高25cm、胴部円筒状、口縁部は若干内傾気味。突起部から粘土紐を貼付し懸垂押圧を加える。角押文を2列4段施す。4は、底部から弱く開いて直線的に立ち上がり半縁、小突起を4ヶ所有すると推定される。刻目文1列、3段施す。他はすべて素文、口縁部は内面カット状、器高29.5cm、口径27cmで器肉は薄い。口唇部はやや丸く収める。5は復元によりほぼ完形に近く器高30cm、口径19cm、口縁部の文葉帶は隆帯貼付による楕円形状区画、内はLRの縄文を充填、小突起部には橋状の円形状把手を貼付、頸部には三角形状のモチーフをもつ隆帯を貼付、胴部は円形を4ヶ所貼付し隆帯で連結している。地文はすべてRLで唯一のものである。第211図1は大形の浅鉢形に近い器形を呈する。隆帯貼付による窓枠状区画で2列の角押文を施し内部に半円形状に有節沈線文をもつ。2も同様か、3は胴下半部で「フ」状モチーフを貼付、角押文2列施している。4

は平縁、口唇部尖る。内側にやや顯著な稜をもつ5、6は石器。遺物から阿玉台II式前後が推定される。すべて投込み状で出土。



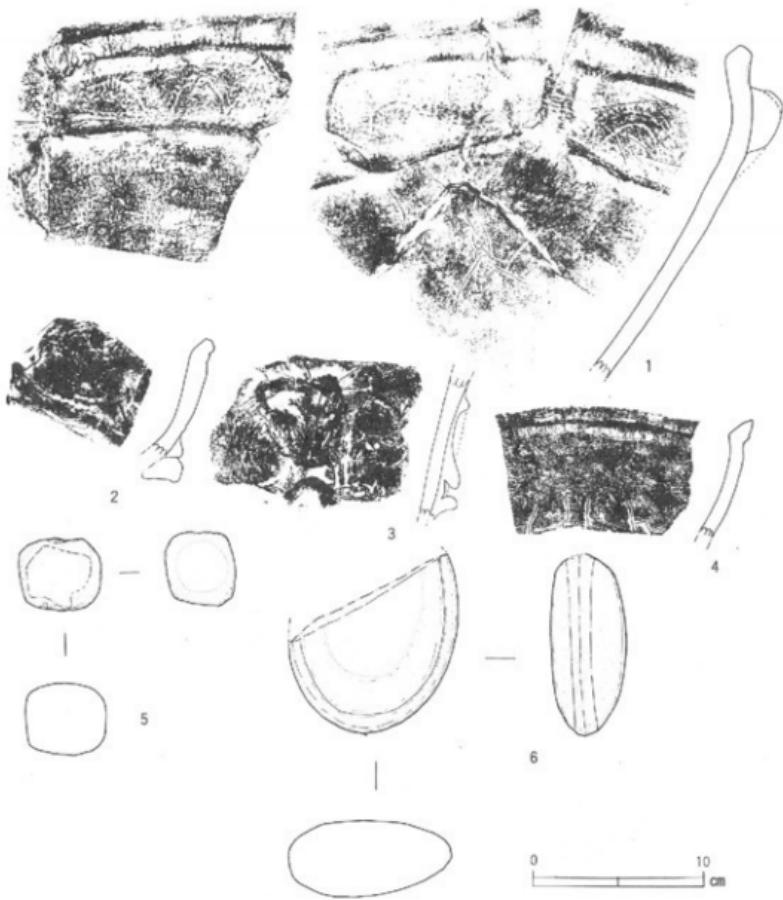
第209図 第3、15号土坑実測図



第210図 第3号土坑出土遺物実測図

#### 第15号土坑（第209図）

本址は、24号住居址の南側壁面部に検出された遺構で覆土の大半を24住居址によって掘り込まれていた。遺存率は3割前後か…。底面は住居址床面より下位に存在しほぼ平坦に移行。掘り込み面は推定65cm前後の円形状か…。オーバーハング状で掘り込まれ底面近くでややふくらみ径90



第211図 第3号土坑出土遺物括影図

cm前後を測る。深さは45cm。3号土坑ピットに近い形態。

覆土は2層に分けられ1層は黒褐色、炭化物、焼土粒子をやや多く含む。粘性、締まりはややある。2層は暗褐色、ローム粒子をやや多く含む。

遺物は阿玉台式の隆帯貼付、角押文をもつものが2点程認められ24号住居址覆土内からも同様の遺物が20片程認められ掘り込み形態、出土遺物から縄文時代の遺構とした。

### 第17号土坑（第212図）

本址は、調査区中央部南側32号住居址の北壁側、竈東側から検出された。遺構確認面は32号住居址によって約2分の1程上部を掘り込まれ1部は床面からの調査となった。遺存部から推定して長径80cm、短径60cm程で倒卵形を呈すると推定される。掘り込みは一旦80cm程垂直に掘り込みそれから水平に近く横位に掘り込む。底面は円形状で底径2.9m深さ1.3mを測る。底面の縛まりは良好であった。

覆土は、暗褐色層でロームブロック、粒子を含む。4層に分類された。底面近くは、黒褐色層でロームブロックのやや大きめのものを含む、粘性、縛まりは弱い。

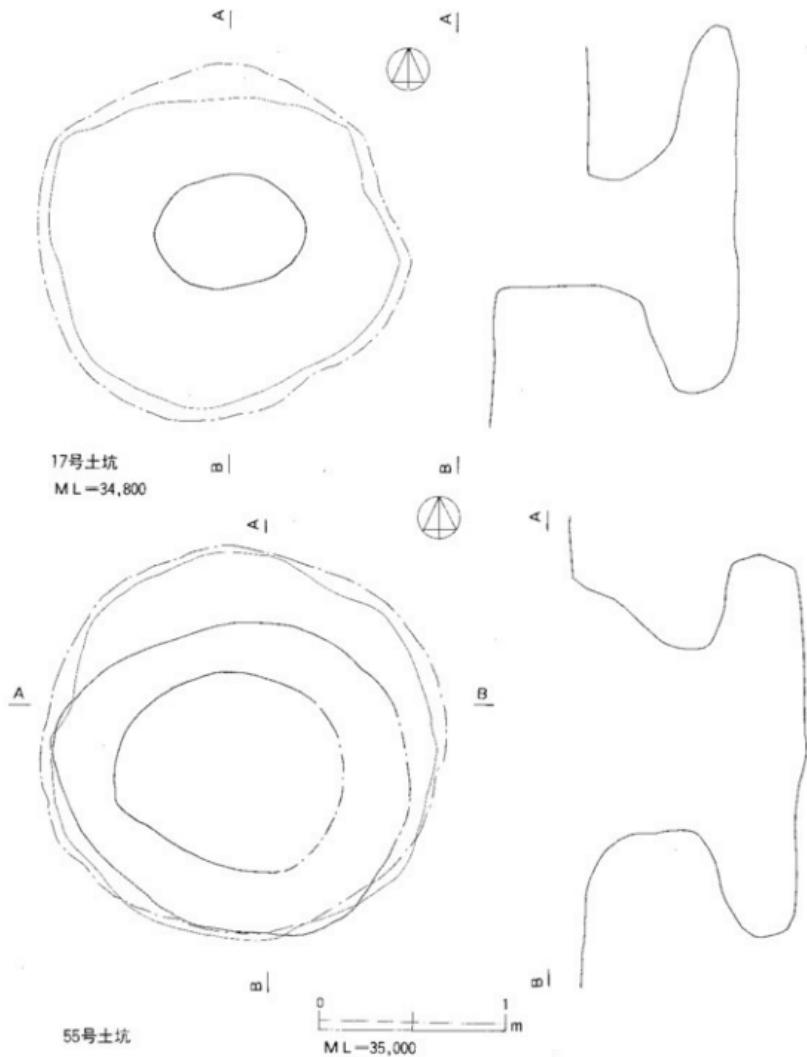
遺物は少なく総数10片程で隆帯貼付下に角押文を2列施文するものが認められ他に石器が1点出土している。遺物から阿玉台II式前後の時期が推定される。

### 第55号土坑（第212・229図）

本址は、調査区中央部に位置し検出された。遺構確認面では長径1.9m、短径1.65mを測る円形状。やや強く傾斜して60cm程掘り込んでから直角気味に横位に掘り込む。底面部は口字状形態、40cm程の幅をもちややふくらみを持ち他のフラスコ状土坑とは若干形態的に差をもつ。底面は中央部で若干低くなり縛まりはやや強い。底径2.1mを測り円形状、深さ1.25m。

覆土は、5層に分類され確認面から暗褐色、明褐色、褐色、暗褐色、黒褐色と変化し下部は1部自然埋積状の部分も認められたが大半は人為的な投げ込み層で底面部は粘性、縛まりは弱い。

遺物はいずれも上部の投げ込み層から出土し確認面では土師器も数点認められた。下位からは総数160片の細片化した繩文式土器が出土し大部分胴部でLRの地文をもつもの多かった。第229図3は口縁部に隆帯貼付し粗い沈線を巡らすものと角押文を施すものが認められ阿玉台式の新しい時期か。



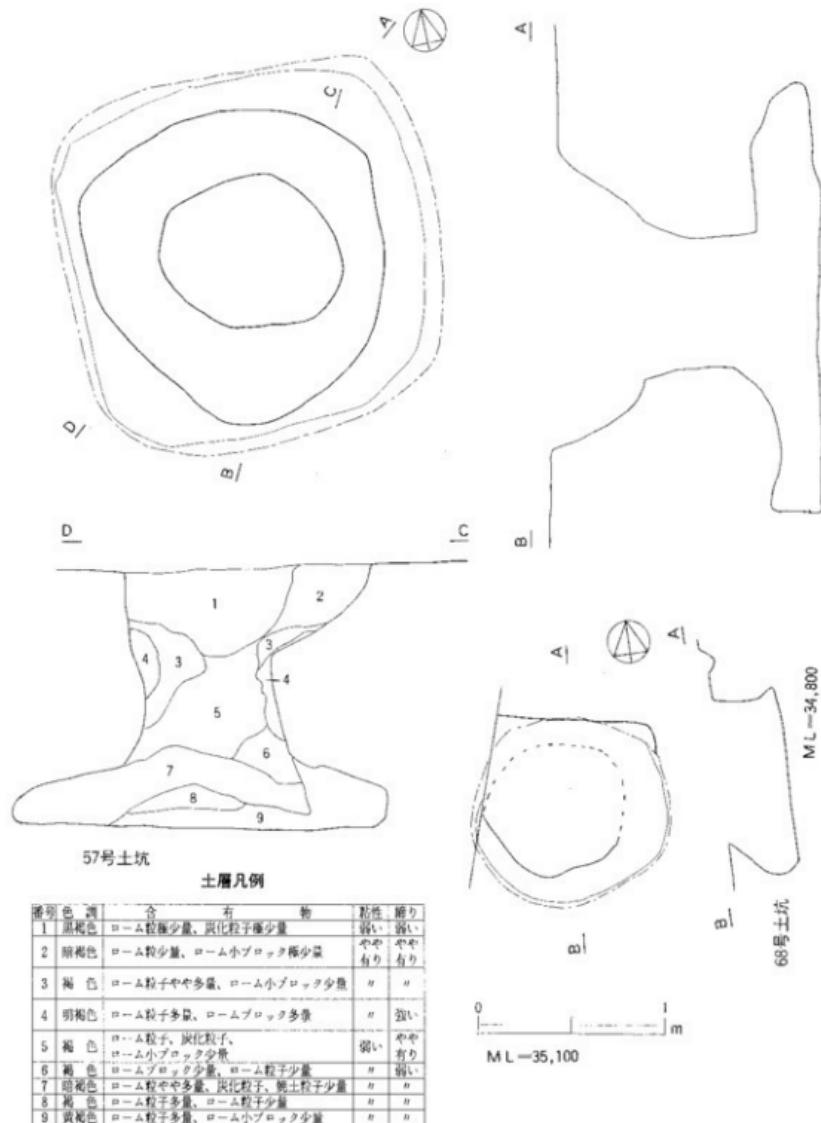
第212図 第17、55号土坑実測図

## 第57号土坑（第213・224・229図）

本址は、55号土坑の東南側6m程に位置し検出された。確認面では一部擾乱が認められた。長径1.7m、短径1.6mの不整形な円形状を呈する。55号土坑同様一旦ゆるく掘り込んでから垂直気味に50cm程掘り込み、それから強く内傾して80cm程掘り込む。底径2.5m、短径1.9mと方形状プランを呈し深さ1.8mを測る。掘り方、プラン的には55号土坑に近い。

覆土は9層に分類された。1層は黒褐色、7層は暗褐色、9層は黄褐色を除けば褐色層でロームブロック粒子、焼土粒子等の混入量の差である。下部から7層までは自然埋積状、2層～6層は投げ込み的、遺物は5層部分に投げ込み状に認められた。7、8層には少なく9層底面には皆無に近い。

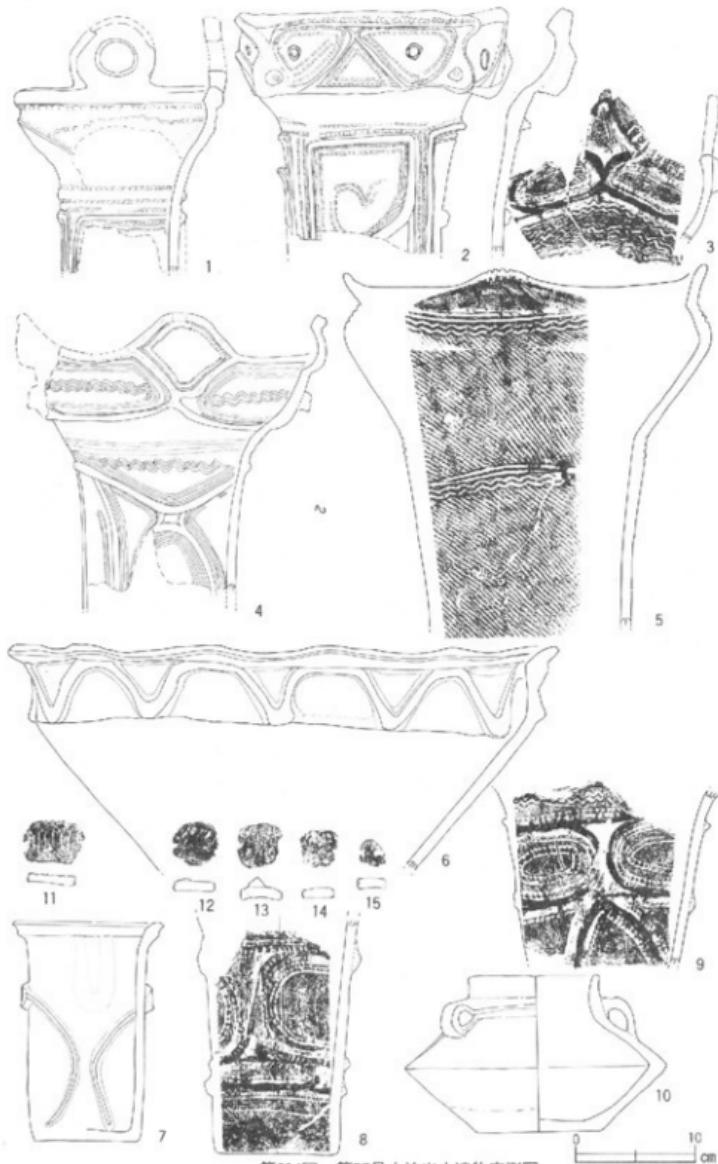
遺物は復元によって器形の窺がえるものが8点程出土している。1は円形の把手を有しやや小型の鉢形土器で平縁、隆帯下部に角押文、半戴竹管による押引状の有節沈線文列を巡し、胴部には隆帯による方形に4区画がなされ2列の有節沈線文を巡らす。口径17.5cm、胴下半部を欠失する。2は、口径22.5cm、平縁、隆帯による三角形区画を上下交互に構成するモチーフ、隆帯内側には2列の角押文中央に沈線による円形文、胴部文様帯は隆帯貼付による方形状に4区画、角押文、有節沈線文を巡らす。胴中央部にハート状のモチーフをもつ。3は山形突起をもつ、山形部は隆帯による方形状、両側を窓枠状、内側に2列の角押文、頸部には半戴竹管の波状沈線を3列巡らす。4は口径26cm程を測る。波状突起を4対配し波状部のみ隆帯にそって角押文を複列、波状の間は梢円区画で沈線をそれぞれ2列、3列巡らす。中央部には半戴竹管による波状沈線を横位に巡らす。口縁下部、頸部は3列横位に平行または隆帯にそってそれぞれ施文し沈線文を主体とした文様構成をもつ。5は口径30cmで口縁部は内傾気味、波頂部のみ外反、頂部に4ヶ所刻目、1ヶ所のみ山形状を呈する。胴部は筒状、口縁部及び頸部との間に4条の沈線を横位に巡らし隆帯をもたない唯一の土器である。6は大型の鉢形土器口径47cm、平縁、貼付によるV字状モチーフを連続的に巡らす。すべて素文、灰褐色で他の土器とは形態、モチーフとも差違を認め雲母の混入量も極少量の土器である。7は円筒状、口径13cm、器高18.5cm小型で平縁、口縁部は外反気味、焼成は良好、8も同様な器形を呈すると思われ隆帯で隅丸方形区画と有節沈線を2列巡らす。9は隆帯にそって2列沈線を巡らす。10は口径11cm、器高13.1cm口縁は直立し平縁、橋状の把手を4ヶ所貼付、上部は隆帯で連結する。第229図5は大型の波状を呈する鉢形土器で口縁部内側にやや顯著な稜をもち素文、6は大型の山形状波状口縁を有し中央部に隆帯を貼付押圧を加える。左は縦位、右側は横立の細い沈線、7、8は微隆起状に貼付、7は3本の沈線で素文、8は繩文を施す。9は土器片鱗。



57号土坑  
土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	黒褐色	ローム粒極少量、炭化粒子極少量	弱い	弱い
2	暗褐色	ローム粒少量、ローム小ブロック極少量	やや	やや
3	褐色	ローム粒子やや多量、ローム小ブロック少量	弱い	弱い
4	明褐色	ローム粒子多量、ロームブロック多量	強	強
5	褐色	ローム粒子、炭化粒子、 ローム小ブロック少量	弱い	やや 有り
6	褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量	弱い	弱い
7	暗褐色	ローム粒やや多量、炭化粒子、陶土粒子少量	弱い	弱い
8	褐色	ローム粒子多量、ローム粒子少量	弱い	弱い
9	黄褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	弱い	弱い

第213図 第57、68号土坑実測図



第214図 第57号土坑出土遺物実測図

### 第68号土坑

本址は、浄水場東側の調査区から検出されたもので一部をエリア外に置き中央部に方形状の土坑が掘り込まれていた為大半を欠失していた。南側の一部と北側の一部の底面が遺存していた。確認面で径70cm、オーバーハング状に内傾して掘り込む。底径95cm程の円形を呈すると推定され、ほぼ水平、縫まりはやや強い。南側部分が最も良く遺存していた。

覆土は遺存部では2層で1層は暗褐色、底面では褐色粘性、縫まりはやや弱い。

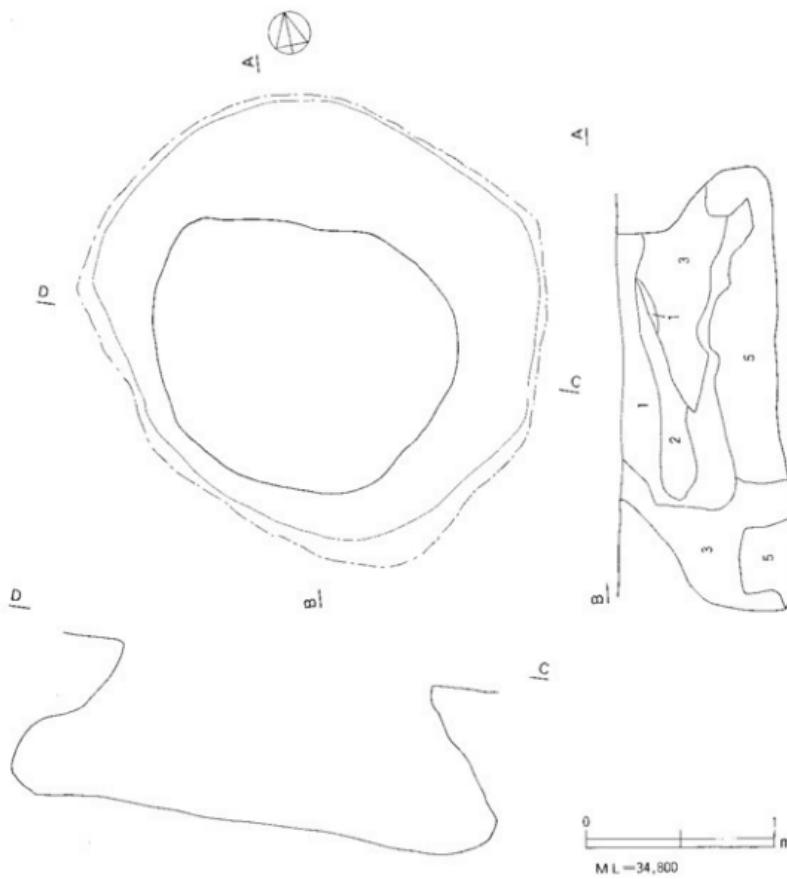
遺物は口縁キャリバー状、沈線による懸垂が認められ橋状突起をもつものも認められる。加曾利E式期の土坑と推定される。

### 第66号土坑（第216・217図）

本址は、68号土坑の東側に位置して検出された。確認面では長径1.6m、短径1.4mの長円形状、確認面からオーバーハング状に直線的に掘り込み底面近くではコの字状形態を呈し底径2.2mの円形状、中央部がやや高い。底面は良好な縫まりを有する。

覆土は5層に分類され1層は焼土粒子2層は炭化粒子を含む。投げ込み的な土層を示し底面部は明褐色粘性、縫まりはややある。

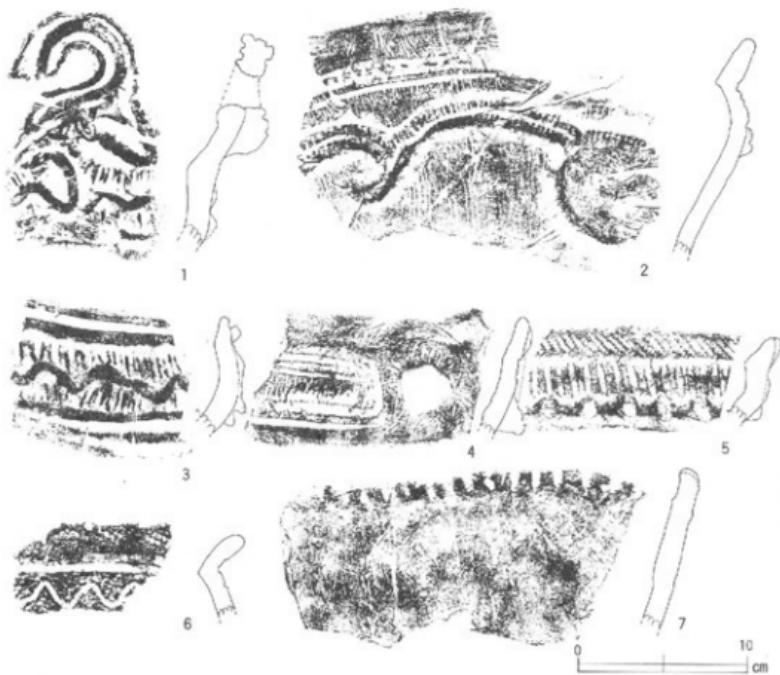
遺物は総数267片出土している。第231図1は口径37cmを測る大形の鉢形土器で灰褐色に近い。口縁部は隆帶による窓枠状区画、刻目文、沈線による渦文を施す。他はすべて素文、第216図1、は突起部環状で幅広の沈線、刻目文を施す。2は口縁部無文帯、隆帶による円形状モチーフをもち連結部分等に刻目を施す。3は平縁か、波状に粘土紐貼付、4は2に近いモチーフをもつが窓枠状区画内には横位の沈線をもつ。5は、口唇部に繩文を施す、幅広の沈線を施し粘土紐を貼付し押圧を加える。6も5に近いが口縁部との間に幅広の沈線をもつ地文にR Lの縞文を施す、7は口唇部に刻目他はすべて無文、8は浅鉢？口径24.5cm、器高14.5cm「く」の字状に内傾する。沈線による渦文を施す他はすべて磨消。9は口径17cm、器高18cm胴部円筒状で平縁、2段の隆帶を口縁部に巡らす。他はすべて素文。10~14は土器片錆重さは最高70g、最少14gを計る。加曾利E I式前後か…。



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子少量、ロームブロック少量	弱い	やや 有り
2	黒褐色	炭化物極少量、ロームブロック種少量、 ローム粒子少量	〃	〃
3	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	〃	〃
4	明褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック多量	やや 有り	〃

第215図 第66号土坑実測図

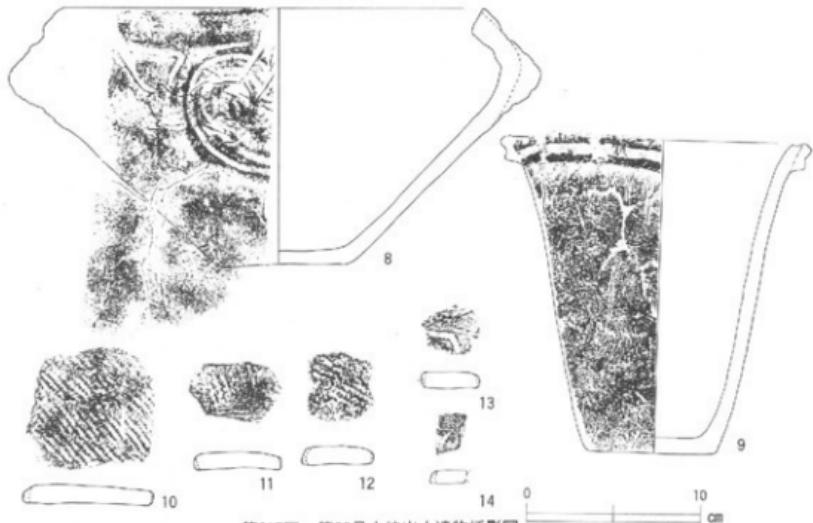


第216図 第60号土坑遺物括影図

#### 第4号土坑（第218・230図）

本址は中央部西側に位置し検出された。長径2.4m、短径2.3m、深さ50cmを測る円径状プランを呈する。壁面は東側では垂直に、西側は開いて立ち上がる。底面はやや西側が高く、縫まりはやや強い。覆土は4層に分類され自然埋積状を呈する。確認面では若干擾乱層が認められ下層程暗さを増し暗褐色、粘性、縫まりは強い。

遺物は第230図1の筒状を呈する胸部をもつものが認められた。地文に繩文を施す。他は細片で総数21片出土している。時期は加曾利E式期と推定される。



第217図 第66号土坑出土遺物括影図

#### 第6号土坑（第218・230図）

本址は、中央部西北側から検出された。10号住居址に南側を掘り込まれ約3分の1程を欠失すると思われる。遺存部は長径2.5m短径2m程で深さ40cmを測る長円形状を呈する。底部はゆるやかに移行し縫まりは強い。壁面は開いて立ち上がる。

覆土は6層に分類され6層部分を除いて自然埋積と推定された。2層を除き褐色でローム粒、ブロックの混入量の差である。下層部粘性、縫まりは強くなる。

遺物は第230図2～4で口縁部外反、隆帶上に押圧を加えるものと突起部に「の」の字状の渦文と沈線による菱形区画も持つものがみられ口縁は内傾する。4は胸部で円筒状、地文に網文をもつ。総数71片出土している。口縁形態はキャリバー状を呈するものが多く主文様を沈線によって構成する。加曾利式の新しい時期か。

#### 第13号土坑（第219図）

本址は、中央部北側に検出された。南側を28号住居址に掘り込まれ一部を欠失する。遺存部は長径95cm、短径90cm、形態的には長円形状を呈すると推定される。壁面は外反して立ち上がり深さ15cm前後で底部はほぼ水平で縫まりはやや強い。北隅部に長円形状の小ピットが認められた。



土層凡例（4号土坑）

層別色調	含有物	粘性	締り
1 にぶい 赤褐色	地土粒子多量	弱い	強い
2 褐色	地上粒子わずかにローム ブロック少量	やや 有り	〃
3 黄褐色	ロームブロックや多し ローム粒子多量	強い	〃
4 淡褐色	ロームブロック多量、 ローム粒子多量	〃	〃

B

A

B

A

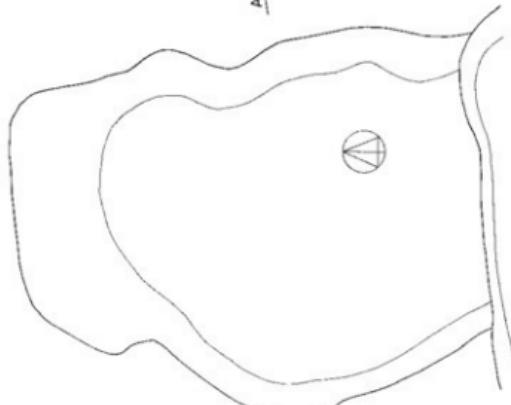
土層凡例（6号土坑）

層別色調	含有物	粘性	締り
1 褐色	ロームブロック多量	弱い	やや 有り
2 黄褐色	ローム小ブロックや多 少	〃	〃
3 褐色	ローム粒、ロームブロック 少量	やや 有り	〃
4 褐色	ローム粒、ロームブロック 少量	〃	強い
5 褐色	ローム粒子多量、ローム ブロックや多し	強い	〃
6 淡褐色	ローム粒子多量	弱い	〃

ML=34,300

A

A

0  
— + — 1 m

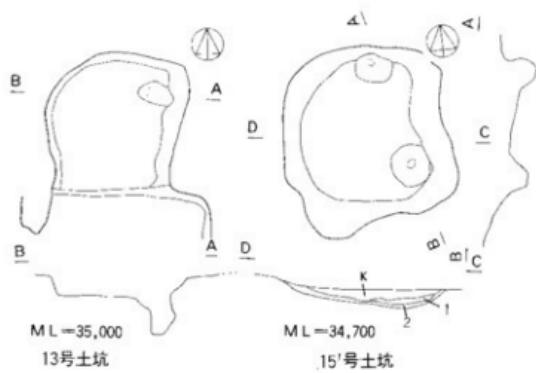
ML=34,800

B



B

第218図 第4、6号土坑実測図



#### 土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	締り
1	黒褐色	炭化物多量、焼土粒子やや多し	やや なし	やや 有り
2	明褐色	ローム粒子多量	強い	強い



第219図 第13、15、20、21号土坑実測図

覆土は1層で褐色層、ピット内は暗褐色で木根痕の可能性もある。

遺物は深鉢形の胴部破片が7片検出された。地文は縄文、時期は加曾利E式か。

#### 第15号土坑（第219図）

本址は、13号土坑の東側に検出された。長径1.3m、短径1.1mの方形状形態を呈する。掘り込みはゆるやかで底面は東側にゆるく傾斜を示す。底面には2ヶ所小ピットが認められる。

覆土は2層に分類された。1層は黒褐色、2層は明褐色と明確な差を示す。粘性、締まりはやや強い。

遺物は15片出土している。口唇部肥厚し隆帯部に角押文を施文するものと波状の平行沈線を施すものとが認められ雲母を多量に含む。時期は阿玉台式か…。

#### 第20号土坑（第219・220図）

本址は、中央部北東側53号住居址（加曾利E式）の東側に検出されたもので21号土坑を切り込み掘り込まれていた。長径2.5m、短径1.8mの長円形状を呈する。壁面は開いて立ち上がり深さは45cmを測る。底面は東側に向ってゆるく傾斜を示す。締まりは強い。中央部に小ピットを4ヶ所連続して掘り込む。いずれも円形状で浅い。

遺物は縄文土器が67片出土している。第220図1・2・3で隆帯貼付による梢円状区画、有節沈線、角押文、刻目文などが施文されている。口縁部は波状、山形突起などをもつ。口縁波状部に刻目等が施され胴部は筒状を呈する。時期は阿玉台II式前後か…。

#### 第21号土坑（第219・220図）

本址は、前述の20号土坑に一部掘り込まれ切り合い関係にある。径2.5m程の円形状を呈する。壁面は開き気味に立ち上がる。底部は若干凹凸をもつがほぼ平坦状、締まりは強い。20号土坑より20cm程深い。

覆土は4層に分類され一部投げ込み状を呈する。締まり、粘性はやや強い。

遺物は第220図4・5・6に示したものの他3片がある。4は爪形文を素文上に施し口縁部角張り内側にやや顯著な稜をもつ、5は粗製の石器で刃部は蛤刃で一部欠失している。6はメノウ製の倒卵形状を呈する。時期は阿玉台II式前後か…。

#### 第22号土坑（第221図）

本址は、中央部東側、やや台地が傾斜を示す面に検出された。北側の大半を23号土坑に掘り込まれ長径2.1m前後、短径1.7m程の長円形状を呈すると推定される。壁面は開いて立ち上がり掘り

込み深さは12cmと浅く底面の縫まりはやや有る。

覆土は1層で褐色、粘性、縫まりはやや有る。

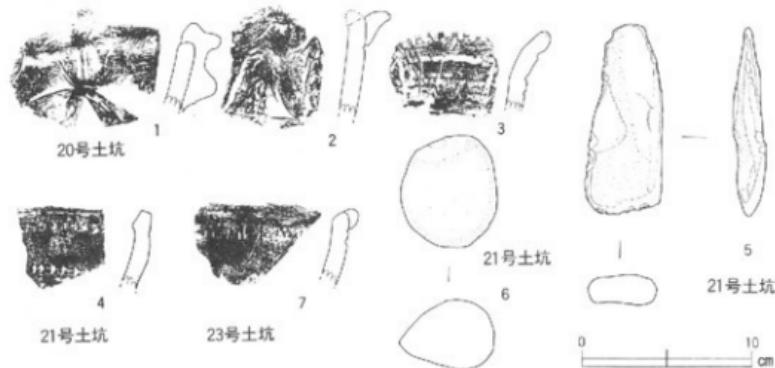
遺物は深鉢形の繩文土器胴部1・底部1で時期は阿玉台式か…。

#### 第23号土坑（第220・221図）

本址は、前述の様に22号土坑の約半分程を掘り込み検出されたもので南側は方形状、北西側は梢円形状で不整形プランを呈している。長径2.2m、短径1.4m南側には深さ1.1m、1mの円形状のビットが認められた。底部はやや縫まりをもち壁面は外反して立ち上がる。

覆土は2層に分類された。褐色層、暗褐色層でビット内は明褐色層で粘性、縫まりはやや有る。

遺物は繩文深鉢形土器15片が出土、口縁部1、胴部17、底部7で第220図7は口縁部に隆帯を貼付細かい刻目を施す。時期は阿玉台式か…。



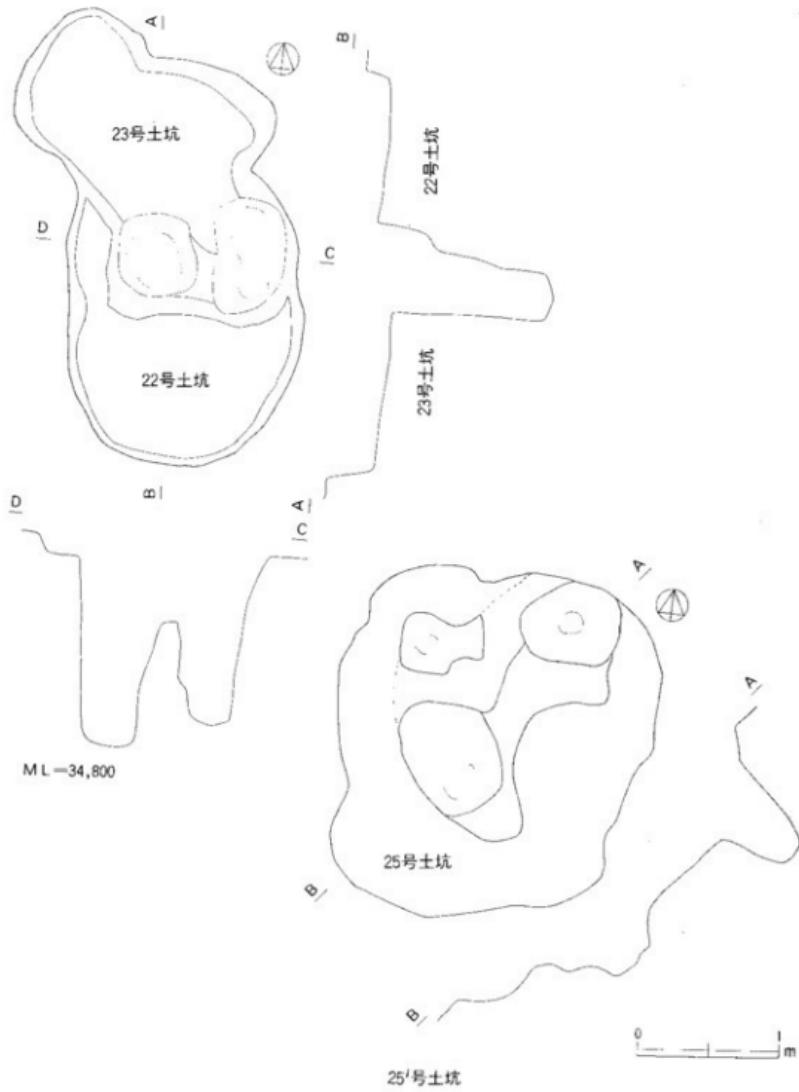
第220図 第20、21、23号土坑出土遺物括影図

#### 第29号土坑（第222・223図）

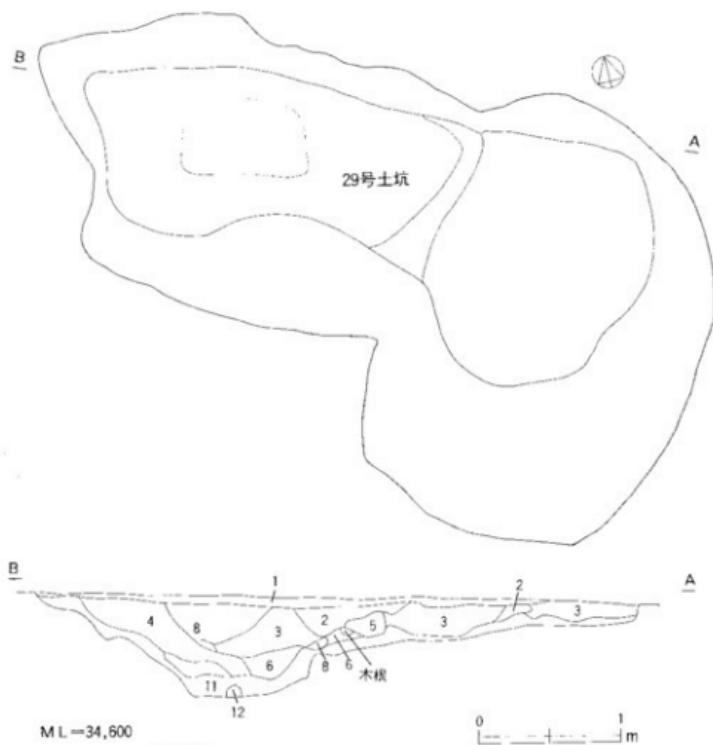
本址は、調査区の中央部北側に位置し検出された。長径5.1mのややつぶれたひょうたん形状を呈し西側は方形状に70cm程掘り込み底面は東側に向ってゆるやかに立ち上がる。壁面は西側ではゆるく、北、南側ではやや強く立ち上がる。底面はやや凹凸をもち縫まりは弱い。

覆土は、12層に分類され1層確認面ではにぶい赤褐色を呈し西側では焼土粒子を含む4層が流れ込み状に認められた。層序的には投げこみ的。

遺物は総数62片程検出された。大部分深鉢形土器で口縁キャリバー状を呈し微隆起による「の」字状、鉤状などのモチーフをもつ1と刻目文を施す2、隆帯貼付のもの、幅の広い磨消部をも

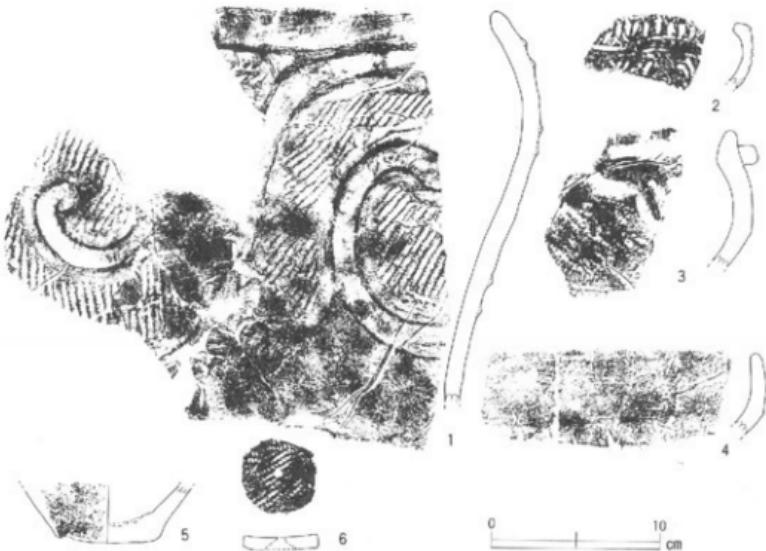


第221圖 第22、23號土坑實測圖



番号	色 虹	含 有 物	黏 性	硬 り
1	にふい 赤褐色		弱い	弱い
2	にふい 赤褐色	ロームブロックや多量	#	#
3	褐 色		やや 有り	やや 有り
4	赤褐色	ロームブロック少量、 粘土粒子多量	弱い	弱い
5	褐 色		やや 有り	やや 有り
6	褐 色	ロームブロック少量	#	#
7	黄褐色		強い	強い
8	褐 色		やや 有り	やや 有り
9	黄褐色		強い	強い
10	褐 色	ロームブロック少量	やや 有り	やや 有り
11	明褐色	ロームブロック少量	強い	強い
12	暗褐色		やや 有り	やや 有り

第222図 第29号土坑実測図



第223図 第29号土坑出土遺物括影図

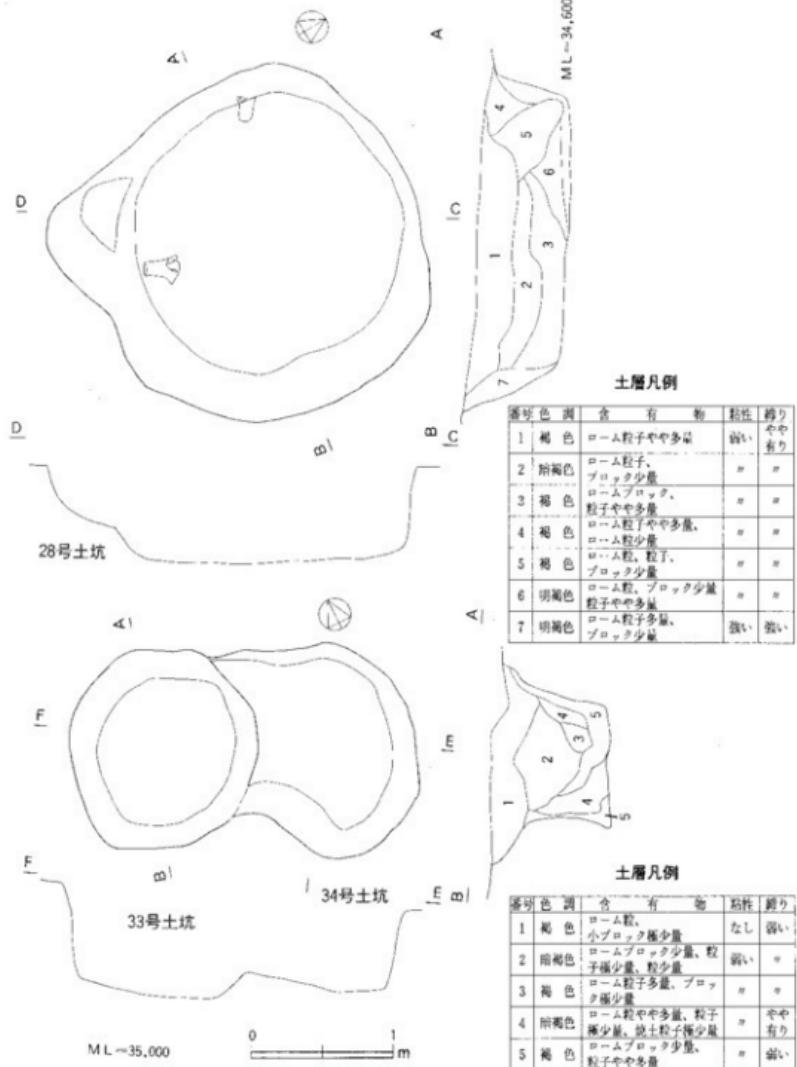
つものが認められる。その他円形状で片側穿孔の土製品が認められる。時期は加曾利E IV式前後と推定される。

#### 第28号土坑（第224・225図）

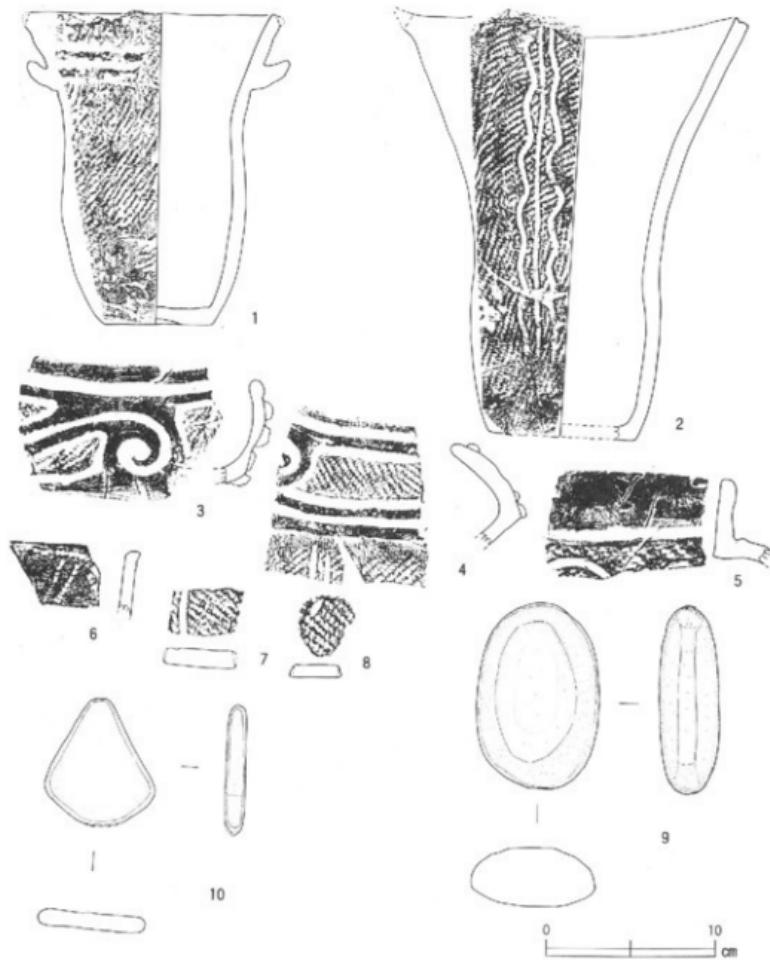
本址は、29号土坑の西側12mに位置し検出された。径2.5mの円形状を呈し南側は一部突き出し状にふくらみゆるく傾斜を示す。北、西、東側は鋭角的に立ち上がり東側の一部を27号住居址に掘り込まれている。底面は、ほぼ水平に移行縫まりは強い。

覆土は7層に分類され5層を除き自然埋積と理解される。いずれもロームブロック、粒子の混入量の差で粘性、縫まりはやや強い。

遺物は図示したように底部近くから完形に近い深鉢形土器が出土している。1・2は胴部円筒状で弱く張る。1はやや小型で口径15.5cm、器高18.5cm、頸部に隆帯を2段に貼付、4ヶ所隆帯上に突起をもち地文は縄文、2はゆるい波状口縁を呈し波頂部から3本の沈線を懸垂する。地文は1と同じ、ほかに3～5のように「の」の字状、梢円区画、口縁部に幅広の磨消部をもつものなどが認められる。口縁部はキャリバー状、内傾、直立する。6は角押文をもち7・8は土器片錐、9・10は半磨製の石器、時期は加曾利E IV式か…。



第224図 第28、33、34号土坑実測図



第225図 第28号土坑出土遺物括影図

第33・34号土坑（第224図）

本址は、調査区ほぼ中央部から検出されたもので34号土坑を掘り込んでいる。掘り込みから34号土坑が古い。径1.4m前後で壁面は開き気味に立ち上がり底面の締まりはやや強い。

覆土は5層に分類された。いずれもロームブロック、粒、粒子の混入量の差で粘性・締まりはやや弱い。

遺物は皆無で時期は不明。

34号土坑も径1.5m程の変形な円形状か…。遺物は皆無、時期は不明、床面はやや締まりは強い。

#### 第26号土坑（第226・227図）

本址は、調査区中央部東端部36号土坑の北側5mに位置し検出された。長径3.5m、短径2.7mの長円形状を呈する。壁面は鋭角で深さ40cm前後・底部はほぼ水平に移行するが大小15のビットが掘り込まれている。深いものは30cm程を測るが、他は10~20cm前後、形状は円形、不整形、長円形を呈する。底面の締まりはやや強い。

覆土は4層に分類され4層を除きいずれも水平状に埋積、2層は焼土粒子を少量含む。他はロームブロック、粒子等の混入量の差である。粘性、締まりはやや弱い。

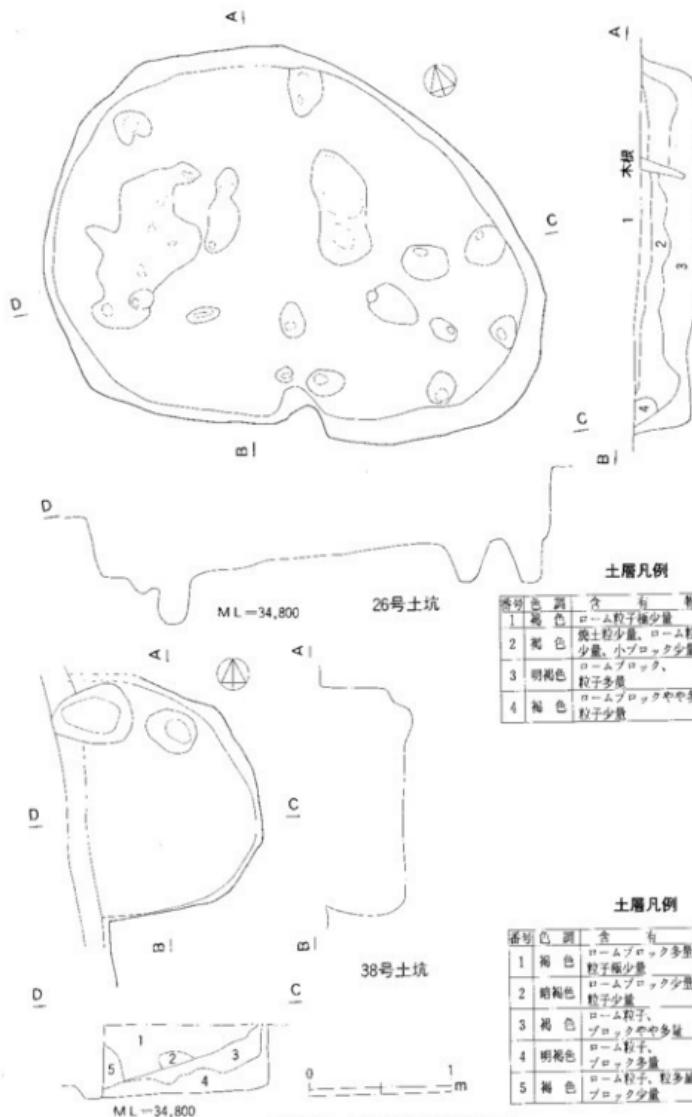
遺物は総数115片出土している。角押文、有節沈線文を施すもの隆帶上に細かい押圧を加えるもの、口縁部無文帯を微隆起で区画するもの、「の」の字状、梢円区画のモチーフをもつもの刻目文を施すもの、3条の沈線を垂下させるものなどが認められる。時期は加曾利E II式か…。

#### 第38号土坑（第226・227図）

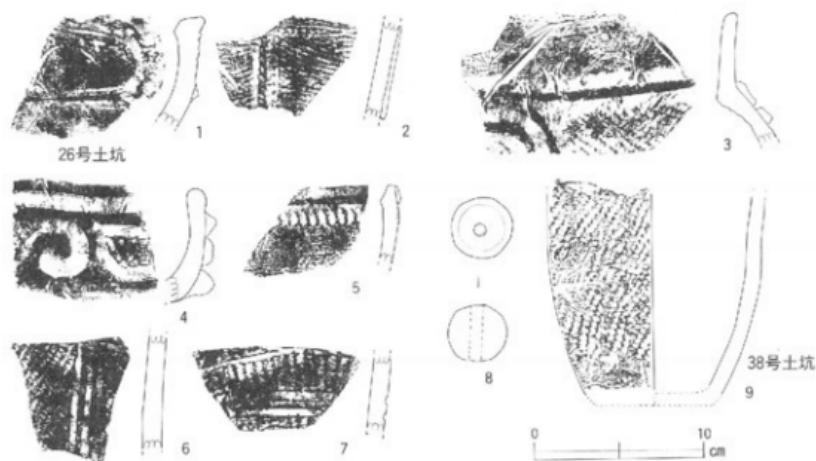
本址は、調査区中央部東側26号土坑の西側8m、55号住居址に西側を、北側を73号住居址に掘り込まれ約2分の1欠失する。径1.7mの円形状を呈するか…。壁面は若干オーバーハング状。底部はほぼ水平に移行、北側に浅い長円形状の小ビットを有し、底面はやや締まりをもつ。

覆土は5層に分類された。1層と5層はロームブロックの混入の差でほぼ自然埋積の様相を呈し、ゆるやかに流れこむ。

遺物は総数33片出土した。いずれも深鉢状形態を有すると推定され口縁部は沈線を巡らすものが認められ胴部は同筒状を呈しR Lの繩文を施す。器内は絶じて薄い。時期は加曾利E式か…。



第226図 第26,38号土坑実測図



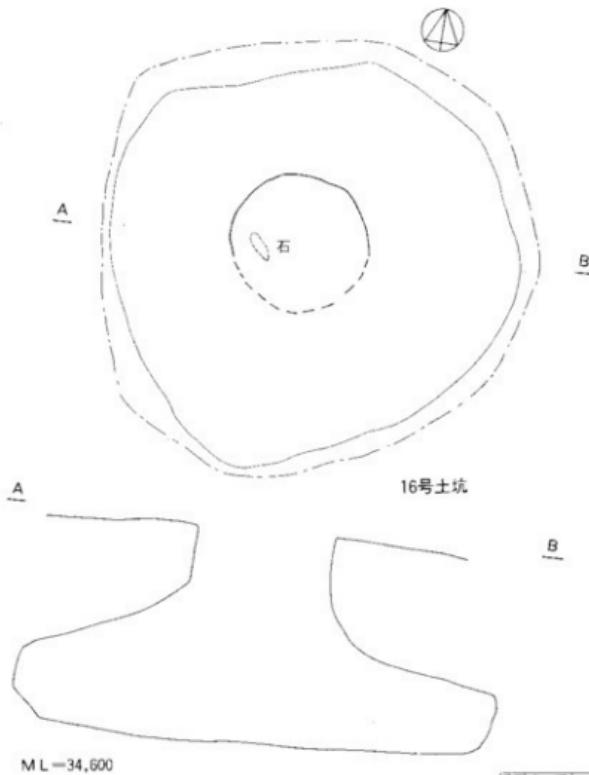
第227図 第26,38号土坑出土遺物括影図

#### 第16号土坑（第227・228・229図）

本址は、調査区南東側32号住居址の竈袖西側から検出された。約1.5m東側には17号土坑が位置する。約2分の1程を住居址の床面からの掘り込みで径75cmの円形状を呈する。50cm程垂直に掘り込んでから斜位に直線的に内側へ掘り込む、底部は円盤状形を呈し底径2.3mのやや不整円形状を有する。底部はほぼ水平に移行、締まりは強い。深さは1.15mを測る。

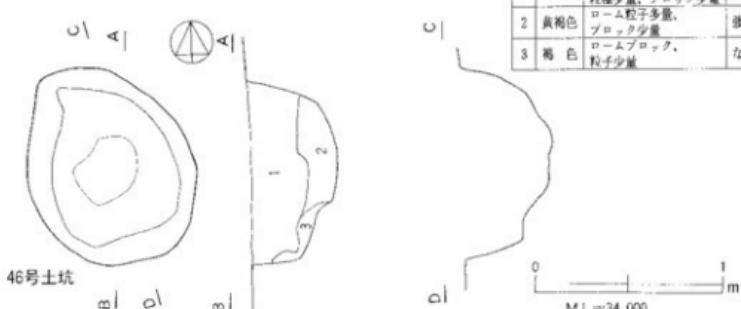
覆土は4層に大別したが袋状部分は安全上、土層図を作製しなかった。確認面は暗褐色、下部は暗褐色から黒褐色、ロームブロック、粒、灰褐色粘土粒などを含み粘性、締まりはやや強い。

遺物は中央底部に大型の石？が、そのそばに円形状の石器などが認められた。土器は60片検出された。石、石器が中央部から出土している。自然石状。第229図1は降帶上に押圧を加える山形状の突起部、2は隆帶区画内に角押文を2列巡らす。時期は阿玉台II式前後？…。

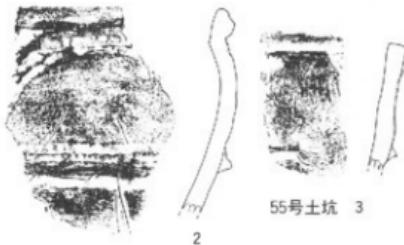
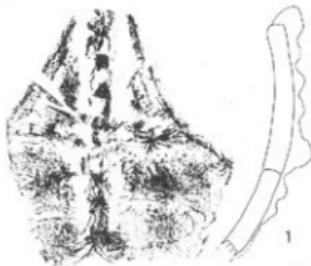


土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	適り
1	黒褐色	ローム粒や多量。块土 粒種少量、ブロック少量	なし 有り	やや 有り
2	黄褐色	ローム粒子多量、 ブロック少量	強い	強い
3	褐色	ロームブロック、 粒子少量	なし	弱い



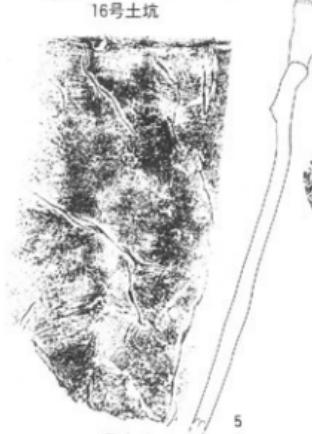
第228図 第16,46号土坑実測図



1

2

3



4

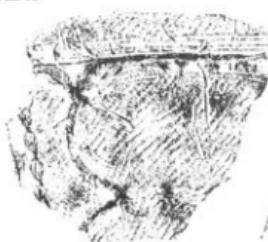
5

57号土坑

6



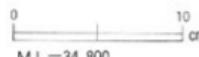
7



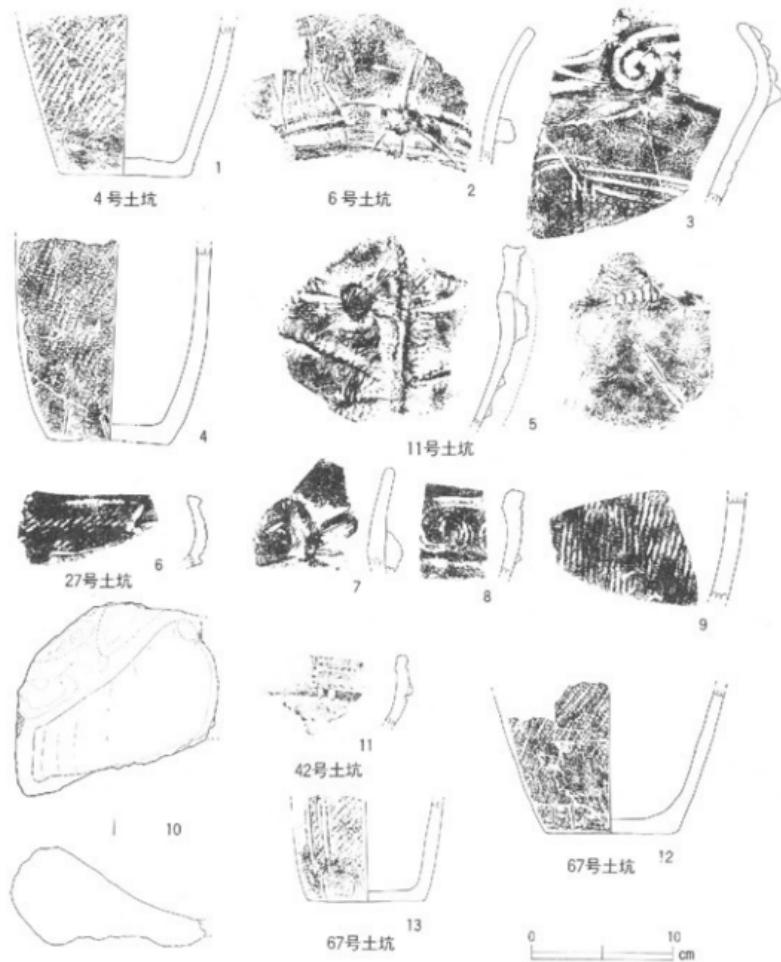
8



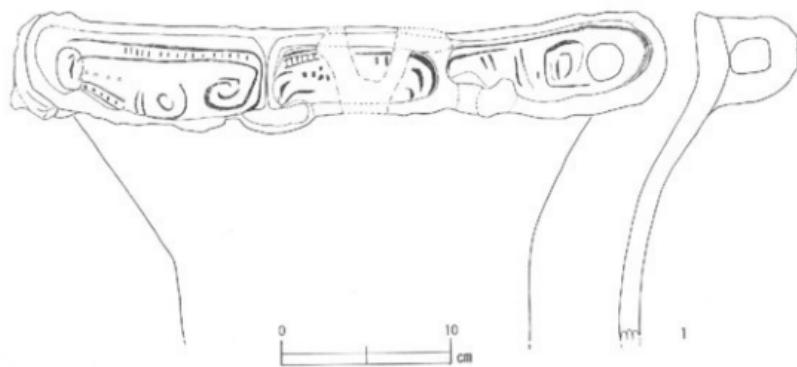
9



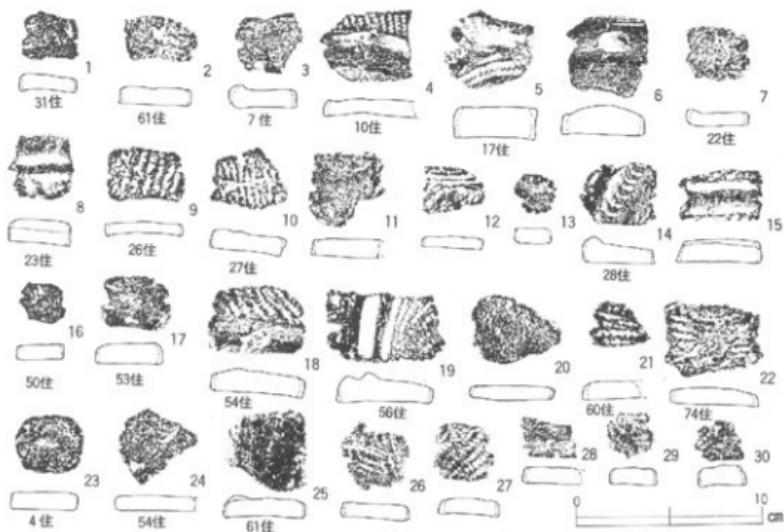
第229圖 第16.50.55.56.57號土坑出土土器括影圖



第230図 第4.6.11.27.42.67号土坑出土遺物括影図



第231図 第66号土坑出土遺物実測図



第232図 土器片錆括影図

## 土製品

番号	器種	法 周(cm)			重量(g)	出土地点	番号	器種	法 周(cm)			重量(g)	出土地点
		最大長	最大幅	最大厚					最大長	最大幅	最大厚		
1	上器片鱗	A 3.0	B 2.5	C 0.9	10g	3往	19	下器片鱗	A 5.1	B 3.7	C 1.2	35g	56往
2	"	A 3.7	B 2.2	C 0.9	10g	6	20	"	A 3.0	B 3.6	C 1.0	9g	56
3	"	A 3.5	B 3.1	C 1.2	15g	7	21	"	A 4.7	B 2.4	C 0.9	20g	60
4	"	A 5.0	B 3.7	C 0.8	20g	10	22	"	A 3.5	B 3.7	C 0.9	15g	74
5	"	A 4.4	B 4.3	C 1.5	30g	17	23	"	A 4.2	B 3.0	C 0.8	15g	4
6	"	A 4.3	B 4.2	C 1.6	26g	17	24	"	A 7.5	B 4.0	C 1.5	10g	54
7	"	A 3.2	B 2.3	C 0.7	10g	22	25	"	A 3.5	B 4.3	C 0.9	15g	61
8	"	A 3.3	B 3.5	C 1.3	12g	23	26	"	A 3.2	B 3.7	C 0.7	10g	61
9	"	A 4.1	B 2.8	C 0.6	12g	26	27	"	A 3.4	B 3.0	C 0.8	10g	61
10	"	A 3.8	B 3.3	C 1.0	20g	27	28	"	A 2.6	B 2.1	C 0.8	9g	61
11	"	A 3.5	B 4.1	C 0.9	12g	27	29	"	A 2.3	B 2.3	C 0.8	7g	61
12	"	A 3.2	B 2.5	C 0.6	6g	27	30	"	A 4.3	B 2.1	C 0.9	25g	61
13	"	A 1.9	B 2.1	C 0.8	5g	27	31	"	A 3.6	B	C 0.8	10g	61
14	"	A 3.7	B 3.3	C 1.3	15g	28	32	"	A 3.4	B	C 0.9	10g	61
15	"	A 4.5	B 2.7	C 1.0	16g	28	33	"	A 3.1	B	C 0.9	7g	61
16	"	A 2.4	B 2.1	C 0.8	5g	50	34	"	A 2.6	B	C 0.9	8g	61
17	"	A 3.5	B 2.7	C 1.1	16g	53	35	"	A 2.6	B	C 1.1	9g	61
18	"	A 4.9	B 3.6	C 1.2	32g	54							

## 2 古墳時代～平安時代の土坑

本時代の土坑は12基程検出されている。以下その概要について述べる。

### 第46号土坑（第238図）

本址は、83号住居址の東側隅部に検出された。83号住居址を掘り込み長径1.1m、短径90cmの長円形状、壁面は一旦鋭角に掘り込む。底部はU字状にゆるく凹む。

覆土は3層に分類された。1層は黒褐色、2層は黄褐色粘性、縊まりは弱い。

遺物は底部に回転糸切り痕をもつものが出土している。台付碗はハの字状に短く貼付する。時期は平安時代初頭か…。

### 第35号土坑（第233図）

本址は、調査区東南側54号住居址の北側から検出された。西南側には35'号とした炉穴状土坑が認められ1部掘りこんでいる。長径1.9m、短径1.4mの長円形状を呈し深さ50cmを測る。壁面は開いて立ち上がり底部はゆるく二段になり中央部が若干低くなる。ピット状のものが2ヶ所認められる。底面の縮まりは強い。

覆土は7層に分類された。3層は焼土小ブロックを多量に含む。粘性、縮まりは各層とも弱い。遺物は縄文土器11片が検出された。口縁部7、胸部7、底部1、円形状の土製品1が認められ上部層からは土師器が5片出土している。時期は古墳時代後期か…。

### 第36号土坑（第233図）

本址は、35号上坑の東側、調査区東端部近くに位置し検出された。長径3m、短径2.8mのはば円形状を呈し深さ1.2mを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がり底面は水平に移行、縮まりは強い。

覆土は10層に分類された。3層に黒褐色層を認める他は褐色、暗褐色層で上層は焼土粒子を含む。自然埋積に近い層序を示す。粘性、縮まりはやや弱い。

遺物は土師器環の肩部に稜を有するものが認められ47片、縄文土器56片が出上している。古墳時代後期鬼高期の遺構か…。

### 第37号土坑（第234図）

本址は、調査区中央部南側の50cm程一段低い部分に検出された。径2.2m程の円径状を呈し西側で30cm程半円形状に張り出す。壁面は開いて立ち上がり深さは10cmと浅い。底部はほぼ水平に移行、縮まりは弱い。

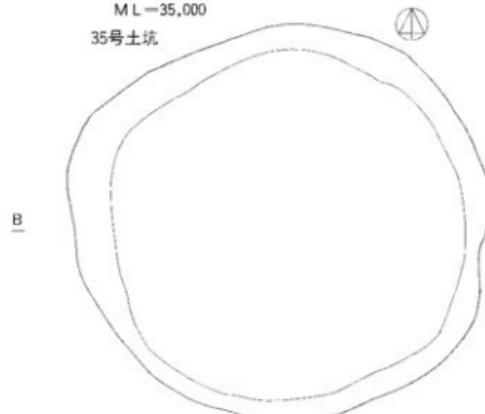
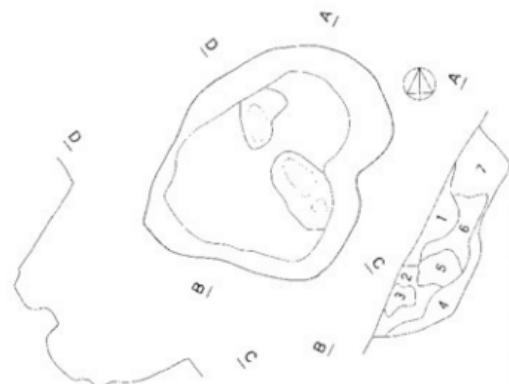
覆土は4層に分類され褐色、にぶい褐色、にぶい橙色などを呈する。粘性、縮まりは強い。遺物は総数37片検出された。縄文土器深鉢形が21片、沈線による縦位の区画？垂下？のものも認められる。その他は上師器甕、环であった。時期は古墳時代後期鬼高期か…。

### 第48号土坑（第234図）

本址は、調査区中央部西側19号住居址の南側に位置し検出された。径1.1mのほぼ円径状を呈し深さ60cm、壁面は垂直に近く底部はほぼ水平に移行、芋穴状形態。

覆土は1層で褐色、中央部に木根痕が入る。

遺物は皆無、時期は不明。



ML -34,700 36号土坑

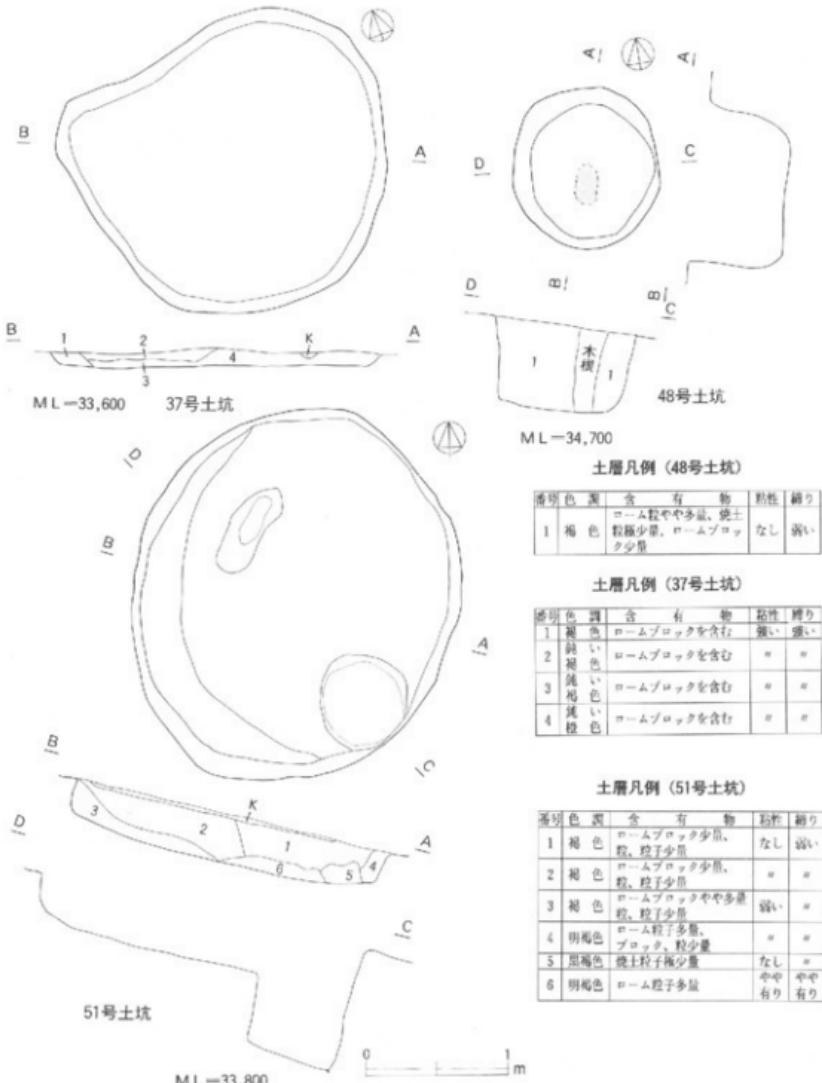
### 土層凡例

重り 色 調	含 有 物	粘性	硬 り
1 暗褐色	ローム小ブロック少量、 燒土粒少量	弱い	弱い
2 暗褐色 や多量	ローム粒少量、燒土粒や ローム粒多量	〃	〃
3 黒 赤褐色	燒土小ブロック多量、 ローム粒少量	なし	〃
4 褐 色	ローム粒子多量、 燒土粒子や多量	やや 有り	やや 有り
5 暗褐色	燒土粒子や多量、 ローム粒子少量	なし	弱い
6 褐 色	ローム小ブロック少量、燒土 粒少量	弱い	〃
7 暗褐色	ローム小ブロック多量、 ローム粒子多量	〃	やや 有り

### 土層凡例

重り 色 調	含 有 物	粘性	硬 り
1 褐 色	黒褐色小ブロック少量 ローム粒少量	弱い	弱い
2 褐 色	ローム小ブロック、ロ ーム粒、ローム粒子、燒 土粒子、燒化粒子少量	〃	やや 有り
3 黒褐色	ローム粒子、燒化粒子少量	〃	〃
4 明褐色	ローム粒子少量、燒 土粒子多量	やや 有り	〃
5 褐 色	燒土粒子少量、 燒土粒子多量	弱い	〃
6 褐 色	ローム小ブロックやや多 量、ローム粒子少量	〃	弱い
7 明褐色	ローム粒子、ロームブロ ック多量	〃	なし
8 刷褐色	ロームブロック多量、 ローム粒子多量	やや 有り	強い
9 明褐色	ロームブロック多量、 ローム粒子多量	〃	やや 有り
10 褐 色	ローム粒子、焼化粒、 ロームブロック少量	弱い	弱い

第233図 第35、36号土坑実測図



土層凡例 (48号土坑)

番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	褐色	ローム粒や多量、焼土 数種少量。ロームブロック 少量	なし	弱い

土層凡例 (37号土坑)

番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	褐色	ロームブロックを含む	弱い	弱い
2	褐色	ロームブロックを含む	弱い	弱い
3	褐色	ロームブロックを含む	弱い	弱い
4	褐色	ロームブロックを含む	弱い	弱い

土層凡例 (51号土坑)

番号	色調	含 有 物	粘性	繊り
1	褐色	ロームブロック少量、 粒少量	なし	弱い
2	褐色	ロームブロック少量、 粒少量	弱い	弱い
3	褐色	ロームブロックや多量、 粒少量	弱い	弱い
4	明褐色	粒少量	弱い	弱い
5	暗褐色	焼土粒子極少量	なし	弱い
6	明褐色	ローム粒子多量	やや 有り	弱い

第234図 第37、48、51号土坑実測図

### 第51号土坑（第234図）

本址は、調査区中央部西側一段低い近年まで畠として利用されていた部分から検出された。長径2.6m、短径2.3mの長円形状を呈する。壁面は鋭角的に立ち上がり深さは35cmを測る。底部はほぼ水平に移行、南側に径60cm、深さ50cmの円形状のピットが掘り込まれている。底部はやや縮まりを有する。覆土は6層に分類され1部投げ込み状の埋積を示し縮まりは各層とも弱い。5層のみ焼土粒子を含む。

遺物は覆土中から縄文土器8片で頸部1、胴部7、土師器3片が出上している。時期は古墳時代？…。

### 第70号土坑（第235図）

本址は、浄水場東側に検出された。約2分の1程はエリア外に置く。径2.4mの円形状かー。壁面はオーバーハング状に内傾し底径2.6m、深さ57cmを測る。底面はほぼ平坦、縮まりはやや強い。

覆土は5層に分類された。上部1層はシジミ貝を含む層で黒褐色、2層は貝が混入しない黒褐色、他は暗褐色、褐色。粘性、縮まりは1層を除きやや強い。

遺物は縄文土器深鉢が9片、他に土師器壺5片、須恵器壺、壺などが出土している。時期は古墳時代後期鬼高期か？…。

### 第1号土坑（第236図）

本址は、調査区中央部西側に位置し5号住居址を掘り込み検出された。確認がおそらく上部を5号住居址として床面まで掘り込み、それからの確認であったため10cm程を欠失した。長径1.15m、短径70cm程の長円形状、深さは15cm程を測る。壁面は開いて立ち上がり底部はほぼ平坦に移行、縮まりはやや強い。

覆土は3層に分類された。1層は黒褐色、2層は暗褐色、3層褐色で埋積状態からは投げ込み的。

遺物は土師器壺、須恵器壺、高台壺などが出土している。平安時代初頭前後か…。

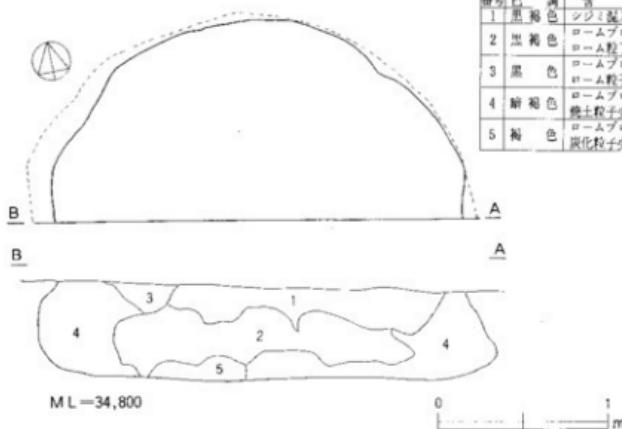
### 第2号土坑（第236図）

本址は、1号土坑の南側4mに位置し検出された。長径1.6m、短径1.1mの長円形状を呈し南側に深さ30cm程のピットが認められた。壁面は開いて立ち上がり南側のみオーバーハング状を呈する。底面の縮まりはややありほぼ平坦に移行する。

覆土は5層に分類された。1・2・3層は褐色、4・5層は暗褐色粘性、縮まりはややあり埋

土層凡例

番号	色	含 有 物	粘性	締 り
1	黒褐色	シジミ混入多量、 ロームブロック粒子少量、 ローム粒子少量、シジミ少量	やや 有り	弱い 弱い
2	黒褐色	ロームブロック粒子少量、 ローム粒子少量、シジミ少量	やや 有り	やや 弱い
3	黒 色	ロームブロック粒子少量、 ローム粒子少量	〃	〃
4	暗褐色	ロームブロック粒子少量、 砂土粒子少量	〃	強い
5	褐色	炭化粒子少量	〃	〃



第235図 第70号土坑実測図

積状態は自然でレンズ状の層序を呈する。

遺物は土師器が3片検出されたのみで時期は古墳時代後半?…。

#### 第8号土坑（第237図）

本址は、調査区中央部南側に位置し31号住居址の一部を掘り込み検出された。長径2.25m、短径1.1mの長円形状を呈する。壁面西側はややオーバーハング気味、北、東側は開き気味、南側はゆるく開いて立ち上がる。底面はほぼ平坦、締まりはややある。

覆土は4層に分類された。確認面では暗褐色、3・4層は褐色、締まり、粘性はややある。レンズ状の自然埋積を呈する。

遺物は総数8片出土した。すべて土師器で甕4片、壺4片であった。時期は古墳時代後半から平安時代か。

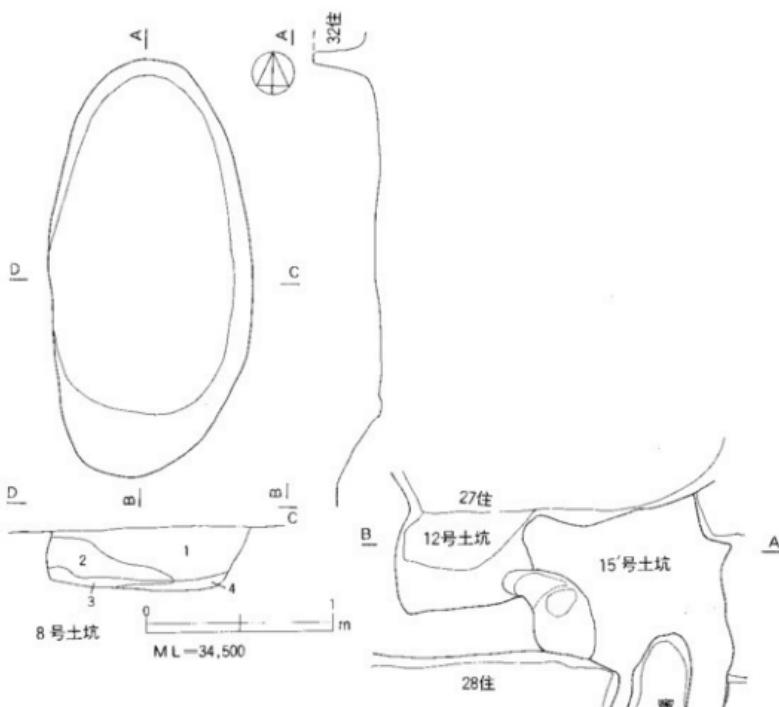
#### 第12号土坑（第237図）

本址は、調査区中央部北側に位置し27号住居址に北側を掘り込まれ遺存部は方形状、東側は15号土坑を掘り込み切り合い関係にある。切り合いの新旧関係を確認するのがおそかつたため13号土坑を一部掘りこみ、東西70cm、南北60cm程であったが形状は長方形、長円形が推定される。壁面は西側は鋭角的に立ち上がり他はゆるやか。底面の締まりは弱い。

覆土は1層で褐色粘性、締まりは弱い。

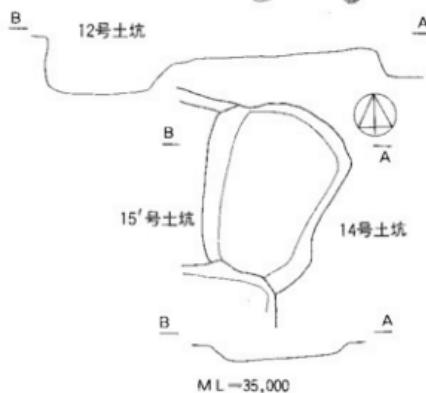


第236図 第1、2号土坑案測図



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘性	適り
1	暗褐色	ローム質やや多い、ブロック少	弱い	弱い
2	暗褐色	ローム質やや多い	"	やや 有り
3	褐色	ローム小ブロックやや多い	やや	"
4	褐色	ローム輕少、 ブロックやや多し	"	"



第237図 第8、12、13、14号土坑実測図

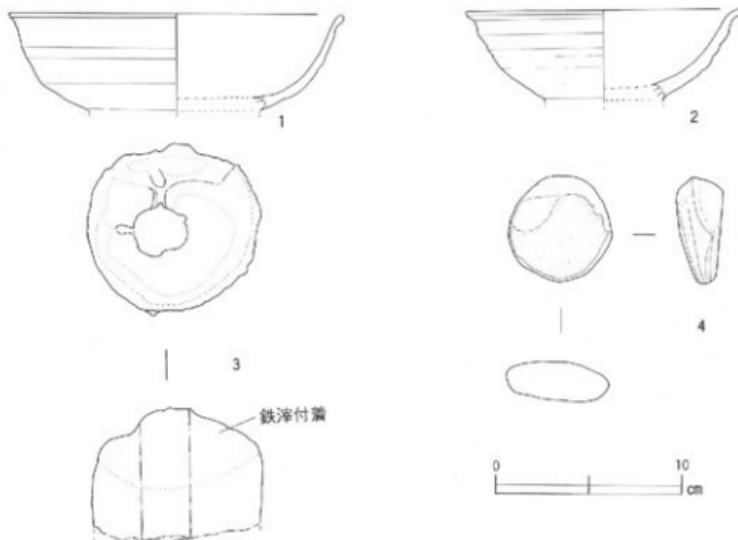
遺物は2片のみで1点は「く」の字状に外反する口頸部をもち口唇部は丸くつまみ出す。他は縄文土器片。時期は古墳時代か…。

#### 第14号土坑（第237・238図）

本址は、12号土坑の東側に位置し15号土坑の上面を掘り込み検出された。長径1m、短径60cm前後と推定される。一部を28号住居址と切り合い関係にあり確認がおくれたため一部はつかめなかった。壁面はゆるく外反して立ち上がり底面は、ほぼ水平に近く深さは10cm、締まりは弱い。

覆土は1層で褐色、焼土粒子を少量含む。粘性、締まりは弱い。

遺物は土師器坏、壺、羽口の一部等が出土している。1・2は高台坏で脚部を欠失する。ロクロ水引成形と推定される。3は径9cm程の円形状中央部に径3cmの円形孔をもちこれら周辺にはノロ、鉄滓が溶着している。4はメノウの円形状石製品。



第238図 第14号土坑出土遺物実測図

### 3 粘土張り土坑

粘土を底面、及び壁面に張り付けた遺構は調査区の中央部南側の一段低い傾斜面からかたまって出土した5基と浄水場東側の調査区から1基の計6基検出された。いずれも灰褐色、黄灰褐色の粘土を1~8cm程の厚さで張り付け丁重な作りであった。形態的にはいずれも隅丸方形状プランを呈しており同一時期の可能性が強いが方向、規模等に一定の企画性はないと思われる。

#### 第39号土坑（第239図）

本址は、後述する4基の土坑よりやや南西側に3m程離れて検出された。長さ1.5m、幅1.3m、深さ20cm、隅部が丸味をもつ長方形状で壁面は、それぞれ外反気味に立ち上がり底面はほぼ平坦に移行、粘土は一部に1cm前後の部分も認められるがほぼ5~6cmの厚さで張り付けている。

覆土は1層で暗褐色、灰褐色の粘土粒を少量含む。粘性、締まりは弱い。投げ込み的。遺物は皆無で上面で上部器片が確認されたのみであった。中世期…？。

#### 第40号土坑（第239図）

本址は、41号土坑南側の一部を掘り込み東側を43号土坑に掘り込まれている。一群の土坑の中では切り合い関係からは41号土坑について古い。長軸をW-Eに置き長さ1.75m、幅1.2mの隅部の丸味をもつ長方形状プランを呈する。壁面は外反して立ち上がり深さ35cmではほぼ平坦に移行、粘土は5~8cm程丁重に張り付けている。

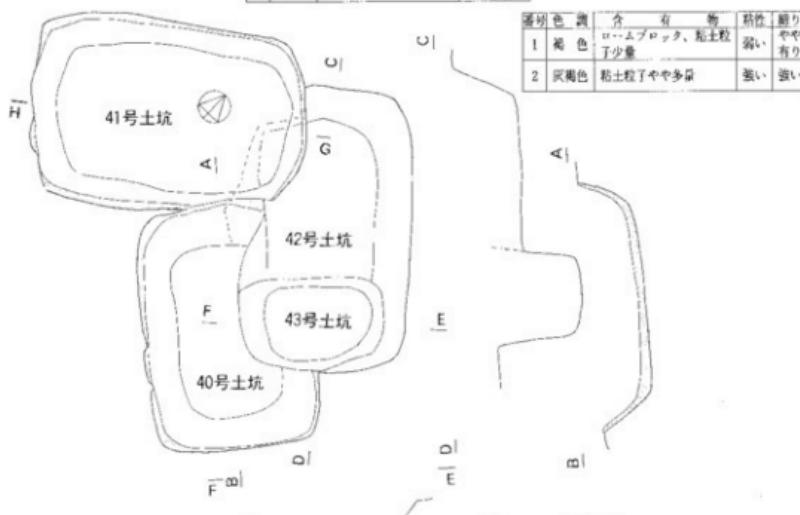
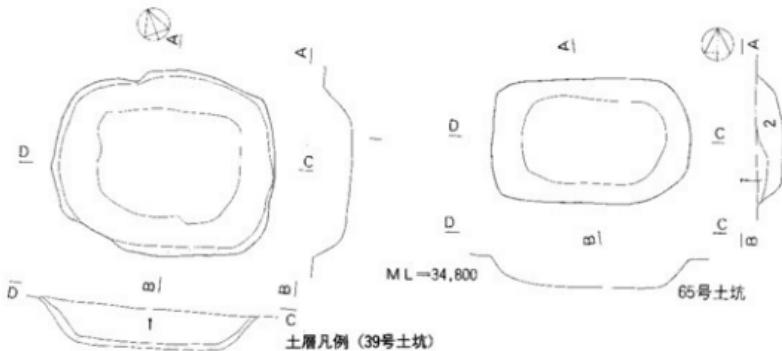
覆土は3層に分類された。1層は黄褐色、黄褐色ブロックを含む。2・3層は灰褐色粘土粒子を含む。3層は粘性、締まりは強い。人為的埋積を示す。

遺物は皆無であった。時期は中世か…。

#### 第41号土坑（第239図）

本址は、40号土坑に南側の一部を掘り込まれ42号土坑を一部掘り込んで構築されていた。長軸をN-S方向に置き長さ1.9m、幅1.3mの隅部が丸味をもつ長方形プランを呈する。壁面はやや鋭角的に立ち上がり深さ40cmを測り底面はほぼ平坦に移行、灰褐色粘土を8~10cm程、立ち上がり部分は2~3cmとやや薄く張り付けている。

覆土は4層に分類され下層程暗さを増し4層を除き人為的埋積を示す。灰褐色粘土粒子を少量含む。遺物は皆無であった。時期は中世か…。



番号	色調	含 有 物	粘性	綿り
1	褐色	ロームブロック多量、 ローム粒子少量	なし	弱い
2	褐色	ロームブロック少量、 灰褐色粘土粒子極少量	弱	弱
3	暗褐色	ロームブロック極少量、 火褐色粘土粒子微量	弱	弱
4	暗褐色	ロームブロック、灰褐色 粘土粒子少量	弱い	弱



第239図 第39、40、41、42、43、65号土坑実測図

#### 第42号土坑（第239図）

本址は、41号土坑に北西、西側を40号土坑、南側を43号土坑に掘り込まれ遺存率は6割前後で長さ80cm、幅50cm前後を測る。壁面は開いて立ち上がる。深さ50cm底面はほぼ平坦に移行する。

覆土は2層に分類され1層は褐色、2層は暗褐色で灰褐色粘土粒を含む。粘性、締まりは弱い。遺物は皆無であった。時期は中世か…。

#### 第43号土坑（第239図）

本址は前述のように42号土坑、40号土坑を掘り込み検出された。本群の中では最も新しい土坑で粘土の張り付けはないが層的に粘性の強い黄灰褐色の中に掘り込まれていた。長軸をW-E方向に置き長さ1m、幅65cm程度でやや隅部が丸味をもつ長方形を呈する。壁面は鋭角的に75cm程度掘り込み底面はほぼ平坦。底面の締まりはやや強い。

覆土は黄灰褐色の粒子を多量に含み粘性はやや強い。

遺物は皆無。時期は中世か…。

#### 第65号土坑（第239図）

本址は、浄水場東側の調査区から検出され97号住居址の床面を掘り込んでいる。長軸をW-E方向に置き長さ1.3m、幅85cm、深さ20cmを測る。壁面はゆるく外反して立ち上がる。底面、壁面は1~3cm程の灰褐色粘土を張り付けている。

覆土は2層に分類された。1・2層とも灰褐色の粘土粒を含み粘性、締まりはややある。

遺物は繩文深鉢14片、土師器甕、壺4片、須恵器甕?等が出土しているが本址の年代とは時間的にかなりの差をもつと推定される。時期は中世か…。

#### 4 墓 墓

本遺跡からは掘り込み形態から墓壙と思われるものが3基検出された。掘り方プランは方形1基、長方形2基が認められたが明確に「墓」と断定出来るものはない。

##### 第45号土坑（第240図）

本址は、調査区の最も西側から検出された遺構で上部は円形状を呈するが下部はほぼ方形状を呈する。東西1.4m、南北1.7m、深さ95cmを測る。底面はほぼ平坦、締まりは強い。底面には焼土、粘土が検出された。

覆土は3層に分類された。1・3層は褐色、2層は灰を少量含む。人為的埋積と理解される。遺物は土師器甕、壺、蓋、砥石等が出上している。時期は不明。江戸時代？…。

##### 第69号土坑（第240図）

本址は、浄水場東側の調査区から出土したもので68号土坑を掘り込んでいる。長軸をW-E方向に置き一部をエリア外に置くと推定され長さ1m前後、幅55cm、深さ40cm長方形状を呈する。壁面は垂直に立ち上がり底面はほぼ平坦、締まりは強い。

覆土は1層でロームブロック、粒、粒子等を含み暗褐色、粘性、締まりは弱い。人為的埋積。遺物は繩文土器深鉢形土器、土師器、須恵器等が出土している。時期は不明、江戸時代か…。

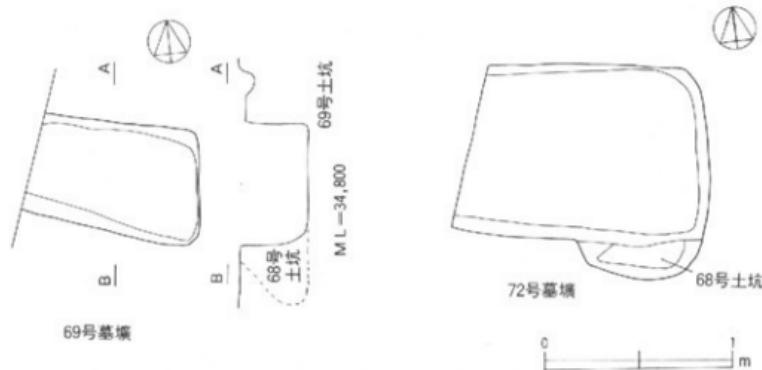
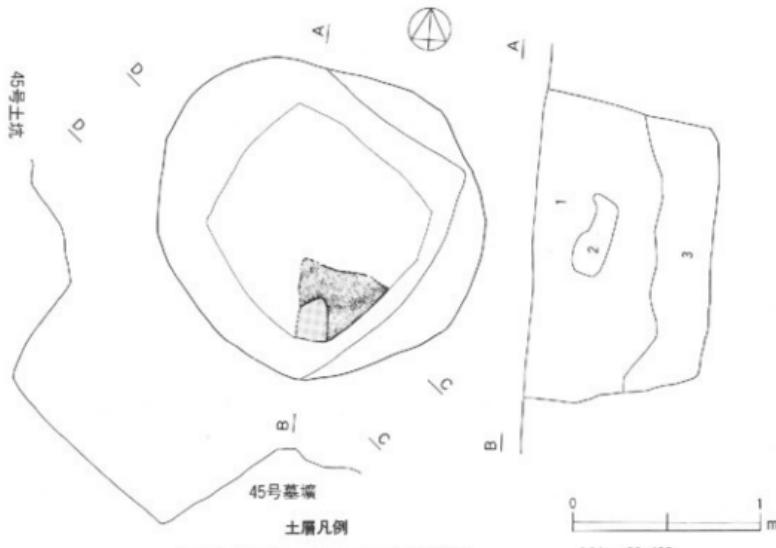
##### 第72号土坑（第240図）

本址は、68号土坑の南側97号住居址の一部を掘り込み検出された。長軸をW-E方向に置き推定1.5m前後か…。幅90cm、深さ50cmの長方形状プランを呈する。壁面は垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦、締まりは強い。

覆土は1層で暗褐色、ロームブロック、炭化粒子を含む。粘性、締まりは弱い。

遺物は覆土中から鉢状の灰褐色磁器が1片出土している。底面部には50cm程の範囲に骨粉状の灰褐色を呈するものが認められた。時期は江戸時代か…。周辺からは寛永通宝が出上している。

69・72号はいずれも方形状の掘り方、プランで現在の「蔵」に近い形態で江戸時代の通貨が検出されていることから墓と推定することが妥当と理解した。



第240図 第45、68、72号土坑実測図

## 5 溝

本遺跡からは11条の溝が検出された。形態的には1号、7号溝がU字状形態、2号、3号溝はゆるい落ちこみ状、4号溝はゆるいV字状形、5号、6号、9号溝はやくずれた箱状に近い形態、8号、10号溝はゆるやかなU字状、11号溝はV字状形態を呈していた。5号、6号、9号溝は総体的には長方形プランを呈し同一の画性をもって掘り込まれていると思われる。

### 第1号溝（第241図）

本溝は、調査区の中央部に位置し検出された。南北方向に34m程の長さを有し最大幅1.3cm、深さ30cm、全体的にはゆるいU字状形態を呈していた。南側端部は台地の傾斜の為欠失、北側は9号溝に切られていた。直線的である。切り合い関係は北側で3号住、中程で13号住、南側で14号住を掘り込んでいる。

覆土は3層に分類され上部から暗褐色、褐色、明褐色を呈しレンズ状の自然埋積を示している。粘性、締まりはややある。ロームブロック、粒、粒子の混入量の差である。

遺物は、底部に回転糸切り痕をもつ皿状のものが出土している他は土師器が散在して認められた。南側上部グリットからは常滑の腰脛部が出土している。

### 第2号溝（第241図）

本溝は調査区の中央部1号溝の東側に検出されたもので東西方向に長さ15m程で直線的、西側端部は9号溝に切られ欠失している。掘り込みは浅く底面は1部に凹凸が認められる。底面は締まりは弱い。ほぼ平坦で深さ20cm東側に向かって徐々に浅くなり端部は自然消滅状。

覆土は、褐色、明褐色などの3層に分類されたがレンズ状の自然埋積を示す。

遺物は、土師器片がみとめられただけで時期を特定するものはない。9号溝よりは古くなる。

### 第3号溝（第241図）

本溝は、2号溝の東側に検出されたもので北から東南方向へ半円形状の形態を有する。全長15m、最も深い部分で15cm程を測り底面はローム剥き出し状で締まりは弱く両端部は不明、2号溝よりは落ちこむ。凹地状と理解されよう。遺物は土師器片のみで時期を特定するものはないが、やや古くなるかもしれない。覆土は2層に分類され褐色層。

### 第4号溝（第241図）

本溝は、3号溝の南側に位置し南北方向に長さ9m、南側は傾斜面に移行し不明、32号住居址覆土を掘り込む。ゆるいU字状形掘り込み。

覆土は暗褐色、褐色、明褐色の3層に分類されいずれも粘性、締まりはややある。

遺物は、土師器片が認められただけで時期を特定するものはない。32号住を掘り込む。

#### 第5号溝（第241図）

本溝は、調査区の北東隅部に検出されたもので台地が天狗の鼻状に伸びる基部を東西方向に切断して掘り込まれ全長25.5m、最大幅3.7m、ゆるやかなU字状形を呈し底面は踏み固められ通路、道路状に近い。51、52号住居址を掘り込んでいる。以前畑として利用されていたため上部に土塁等は存在しない。壁面はゆるく開いて立ち上がる。

覆土は、6層に分類された。いずれもレンズ状の自然埋積であった。1・2層が大半を占めいずれもロームブロック、粒、粒子の混入量の差である。

遺物は、土師器、須恵器が散在して出土したに過ぎず本址の時代を決定出来るものはない。底部の締まり状態から通路として利用された可能性が強い。“館”の一部の可能性がある。

#### 第6号溝（第241図）

本溝は、調査区の東南隅部に位置し検出され台地が若干ふくらむ部分を南北方向に直線的に掘り込み全長35m、最大幅1.6m、深さ80cm程を測る。壁面はやや外反し底部幅50cm～1m程の平面を有しかなり強く踏み固められて通路として利用された可能性が強い。（5号溝と同様）

覆土は、暗褐色、褐色、明褐色の3層に分類されいずれも西側の高い部分からのレンズ状の流れ込みを呈している。

遺物は、土師器、須恵器等が散在して出土したに過ぎず時期を決定するものはない。切り合ひ関係からは61・62・65号住居址を掘り込んでいる。

#### 第7号溝（第241図）

本址は、調査区の南西側に位置し検出された。長さ16mで東西方向で幅1.5m、深さ15cm程でゆるいV字状形で底面は30～70cm程の平坦面を有する。94号住居址を掘り込んでいる。西、東端部は消失する。覆土は1層で暗褐色、粘性締まりはない。（遺物は少なく土師器のみ）

#### 第8号溝（第241図）

本址は近年まで畑として利用されていた部分から検出されたもので調査区の西側に位置する。東西方向に掘り込まれ全長17.5m、最大幅1.6m、深さ30cm、底面は30～70cm程の平面をもつ、底面は一部凹凸をもつ。締まりはややある、東側はとび口状、中央部で弱く「く」の字状に屈曲する。西側に向かって傾斜を示す。

#### 第9号溝（第241図）

本溝は、1号溝の東側、ほぼ平行して検出されたもので当初畠の“寄せ”と考えていたが調査の結果明確な溝となった。ほぼ南北方向を指し長さ37m、最大幅3m、最大深さ80mを測る。北側ではT字状に分かれ浅くなる。南側では斜面部で欠失する。底面は若干の凹凸を認めるが締まりは良く5・6号溝底面に近い。

覆土は、暗褐色、褐色、明褐色等に分類され若干の締まりを認める。

遺物は、土師器、雲母片岩などが少量認められた。

5・6・9号溝は総体的にみれば長方形状のプランを呈し“館”的可能性を認める屋敷に近いものか。

#### 第10号溝（第241図）

本址は浄水場東側の調査区から検出された。西、東側ではそれぞれ調査区外へ伸び確認出来ない。検出面の長さ11m、東側に向かってゆるく傾斜を示し最大幅80cm、東側で長方形状に1.4m程広くなるが底面は20~30cmでやや締まりをもつ。壁面は外傾する。U字状形態。

覆土は3層に分類された。暗褐色、褐色、明褐色で粘性、締まりはやや有る。

遺物は土師器、須恵器等が確認されたのみで時期を決定出来るものはない。

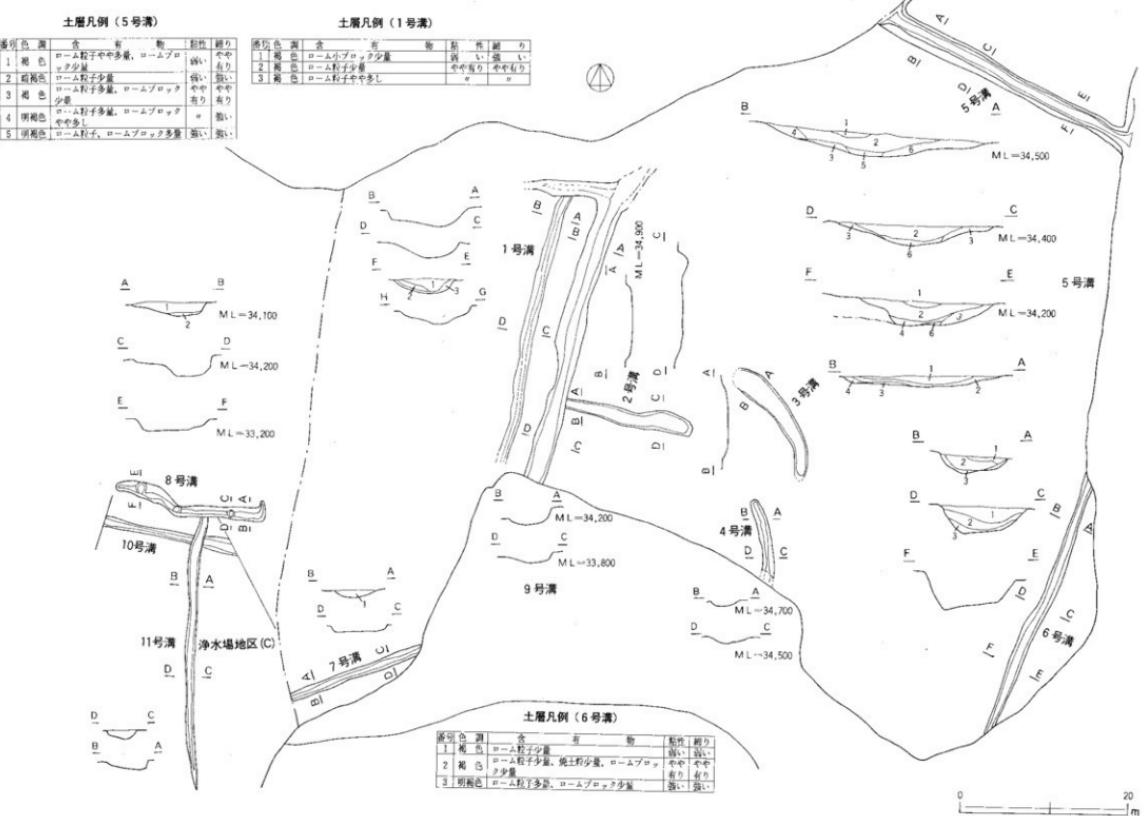
西側では100号住、東側で103号住を掘り込んでいる。時期は不明。

#### 第11号溝（第241図）

本溝は10号溝の東側で直角に近く交わり南北に伸びるもので10号溝の一部を掘り込む。全長30mでゆるくU字状の掘り込みを呈している。104号住、103号住の覆土の一部を掘り込んでいる。底面はローム剥き出し、締まりは無い。

覆土は1層で褐色、粘性、締まりは弱い。

遺物は土師器片が散在して出土したのみであった。時期は不明。



第241図 第1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11号溝実測図

## V 総 括

本遺跡からは104軒の住居跡と81基の土坑、11条の溝が検出された。大別すれば縄文時代の住居跡3軒、古墳時代の住居跡40軒、奈良、平安時代の住居跡40軒、時期不明のもの4軒でいずれも細分は可能である。これらの住居跡は大きく7つのブロックに分類される。

遺構プランは縄文時代のものは円形または長円形状、炉跡をやや北側に偏在している。古墳時代のものは方形で北、北西側に竈を構築主柱穴は4本が基本で1軒のみ6本もつものも見られた。規模は5m以上のものが多い。奈良、平安時代のものは細分されて奈良時代のは主柱穴の確認出来ないものもみられ規模は4m前後と縮小し、まれに東側に半円形状に竈を構築するものが見られた。この時代の遺構は須恵器の量が多い。プランは方形状が大半を占める。平安時代のものは長方形プランが多く東側に竈を構築しているものが大部分を占め掘りこみも浅く床面の綿まりも弱いもの多かった。主柱穴の確認出来たものは無い。土師質の甕は平行叩き目を残し器肉は薄い。土坑はプラスコ状を呈するものがみられ阿玉台式の土器が認められ加曾利式の段階のものは円形、長円形のものが多い。古墳時代から平安時代にかけてのものは少なく断定できるものは不整形状であった。粘土張りで隅丸方形状を呈するものも6基程認められたが時期を特定する遺物は無い。

溝は5・6・9号が掘り方、位置関係から同一の遺構と推定され一辺60m、80m程の長方形プランを呈すると推定される。1号溝は南北に直線的に伸びるが他の溝はいずれも短く不規則で相互の関係は持たない。10、11号溝は十字状に切りあい関係に行つた。

その他墓壙と推定されるものも3基みられ方形、長方形のプランを呈していた。

以上の諸遺構から本遺跡は縄文時代中期、前葉から後葉、古墳時代後期から平安時代にかけて集落が形成されていたと理解出来る。1時期の軒数は遺物から細分すれば数軒である。



調査区中央部からの遠景、北浦、鹿島台地を望む東側。上

山田城址側を望む南側。下





▲調査前の風景(東側から西側).上

▼調査前の風景(東側から西側を見る).下





遺跡中央部の検出状態.上



中央部から南側の検出状態.下



中央部から北側の検出状態.上





中央部から東側の検出状態.上

中央部から東、南側の検出状態.下





北東隅部の住居址と溝(2区)上

南側から北側を見る(住居址と6号溝).下





南東隅部から西北側を見る(住居址群).上

北側から南側の住居址検出状態(2区)下





南東隅部の住居址検出状態.上

南側の傾斜面に位置する住居址群.下





西南部の住居址群検出状態.上

中央部の住居址群検出状態.下





C地区完振状態(東側から).上

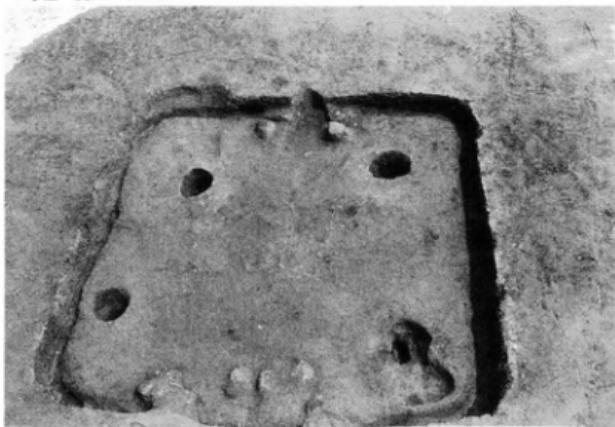
C地区完振状態後は浄水場.下





南面隅部の住居址群検出状態.上

1号住 完 捩.下





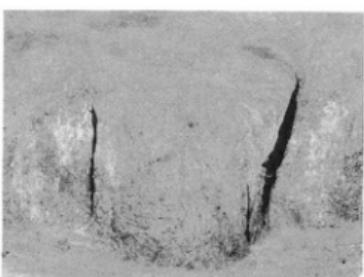
2住 遺物出土状態



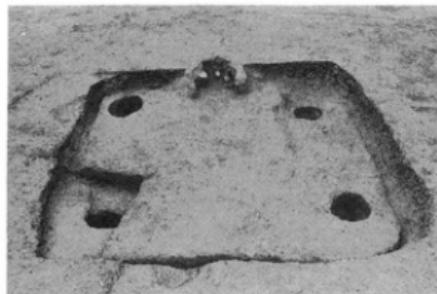
3住 遺物出土状態



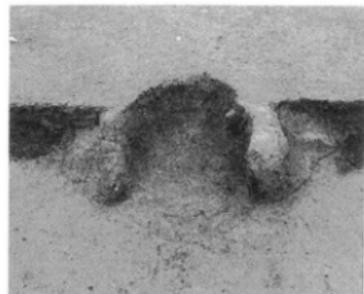
3住 遺物出土状態



3住 壄完掘状態



4住 完 堀



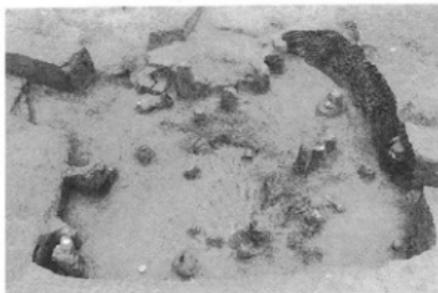
4住 壄完掘状態



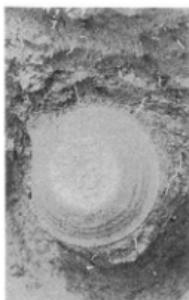
5 住 完 挖



5 住 罐 完 挖



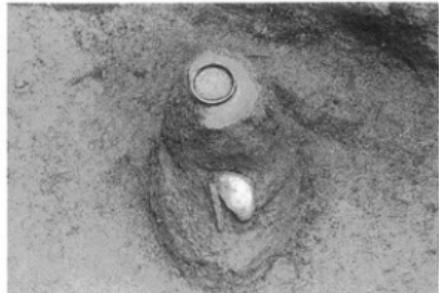
6 住 遗物出土状態



坏出土状態



坏出土状態



碗形土器高台部



6住 寧内遺物



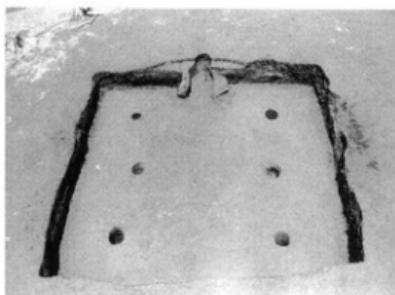
6住 完 挖



7住 遺物出土状態



7住 窯土層



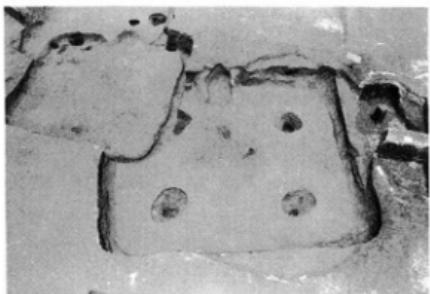
7住 完 挖



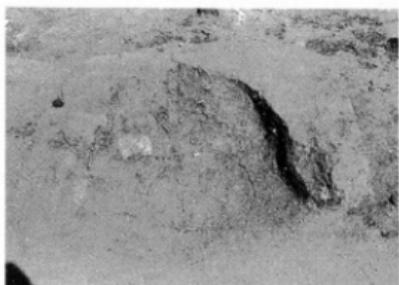
8住 窯土層



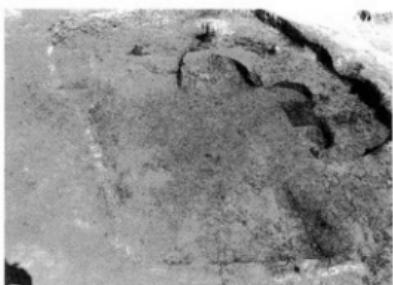
8住 穹完掘



8住 完 挖



9住 穹完掘



9住 完掘西側から



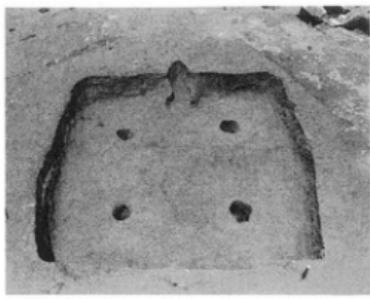
9住 完掘南側から



10住 穹完掘



10住 遺物出土状態



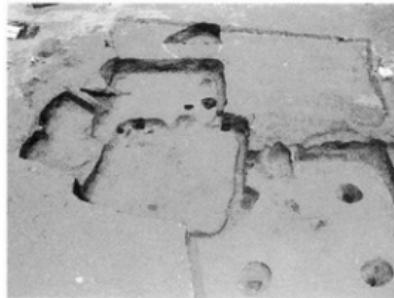
10住 完 挖



11住 遺物出土状態南側



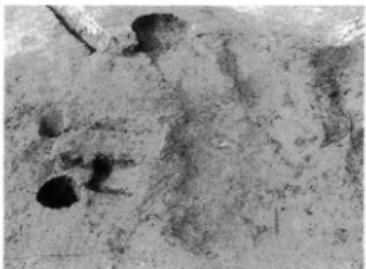
11住 完掘東側から



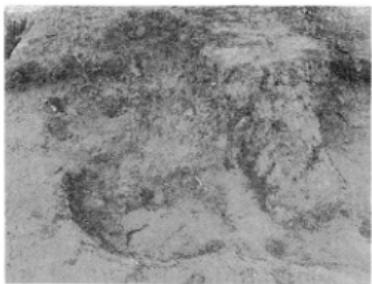
15.11.6.8 各住居址完掘状態



12住 墓 土 層



13住 住居址完掘



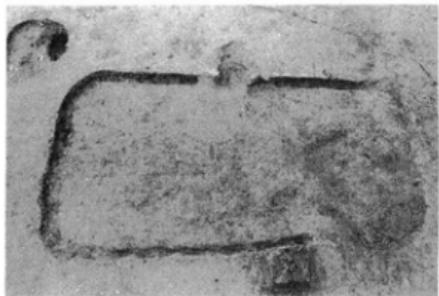
14住 住居址



14住 住居址土層



15住 完 挖(左)



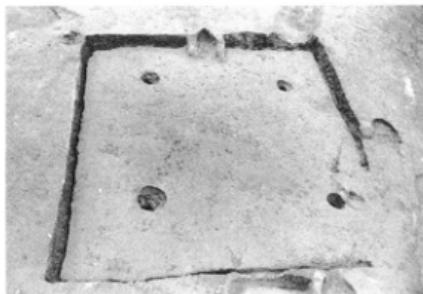
16住 完掘(西側から)



17住 遺物出土状態(西側から)



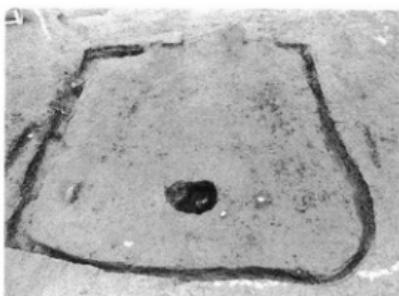
17住 竜完掘



17住 完 挖



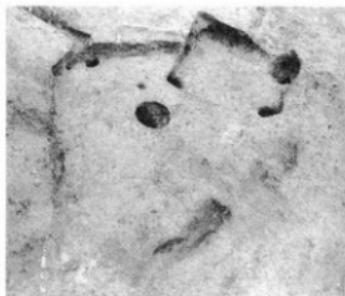
18住 竜完掘



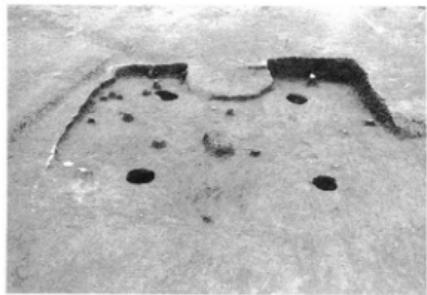
19住 造物出土状態(西側から)



18住 完掘(西側から)



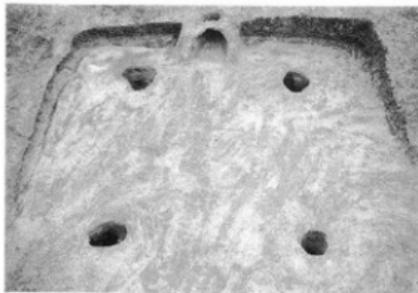
20.25住 完掘(上25住)



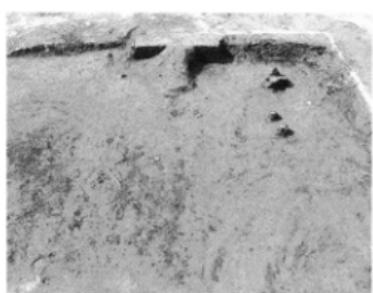
21住 遺物出土状態



21住 完全掘



21住 完全掘



22住 遺物出土状態



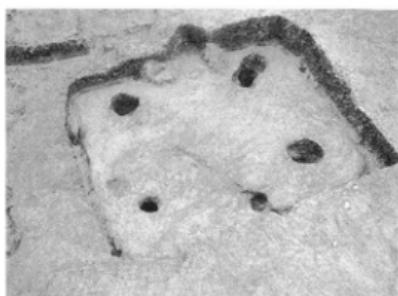
22住 遺物出土状態



22住 完全掘



23住 遺物出土状態



23住 完 挖



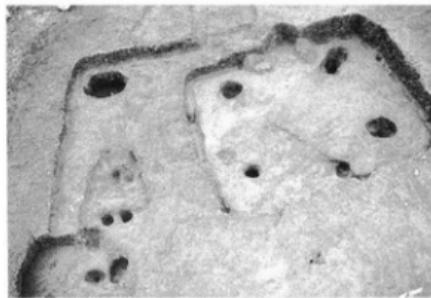
24住 遺物出土状態



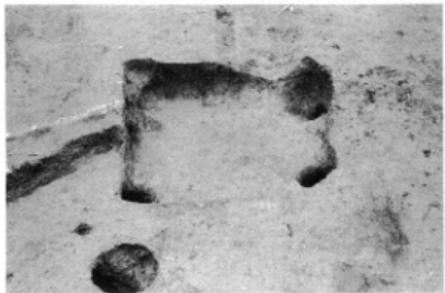
24住 遺物出土状態



24住 遺物(玉類)出土状態



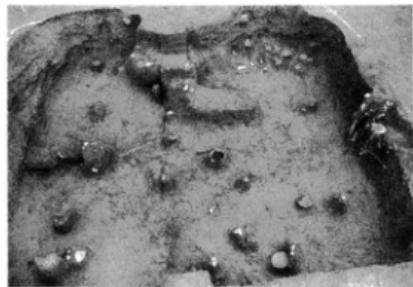
24住 完 挖(右23号住)



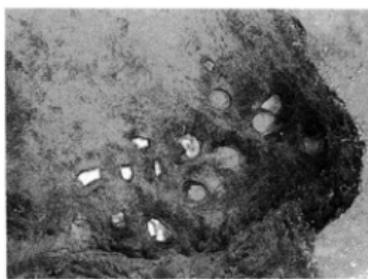
25住 完 据



26住 廃土層



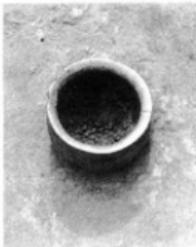
27住 遺物出土状態



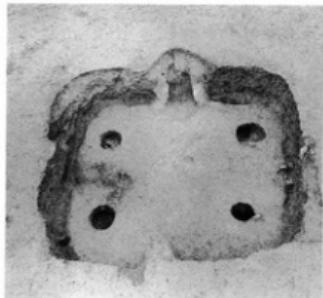
27住 遺物出土状態



27住 遺物出土状態



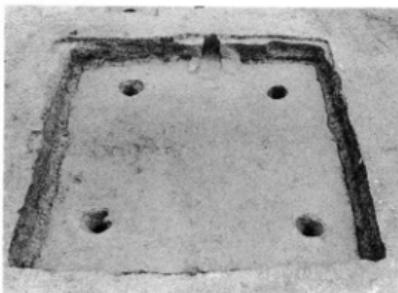
27住 売出土状態



27住 完 挖



28住 遺物出土状態



28住 完 挖

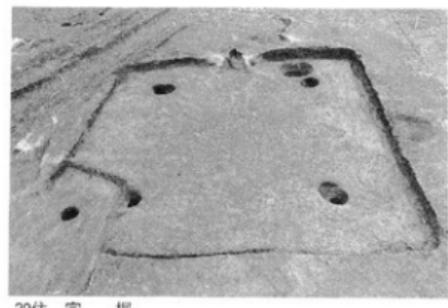


29住 遺物出土状態

29住  
遺物  
出土  
狀態



29住 遺物出土状態



29住 完 挖



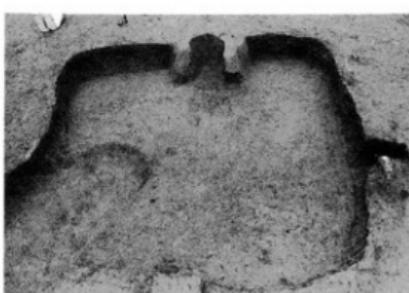
31住 遺物出土状態



31住 壺



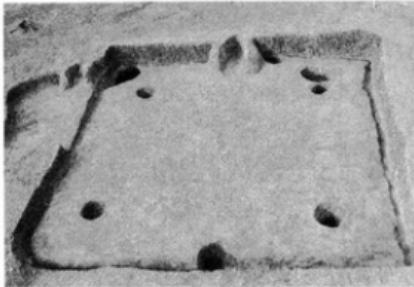
31住 壺右袖遺物出土状態



31住 完 捜



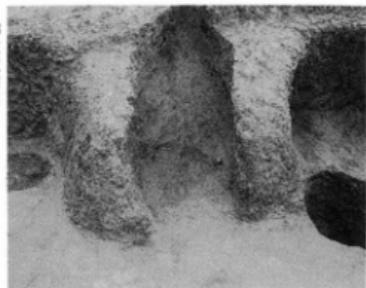
32住 壺遺物出土状態



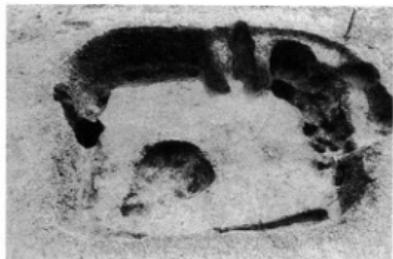
32住 完 捜



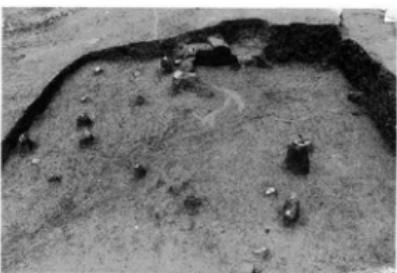
33住 遺物出土状態



33  
住  
遺  
物  
完  
掘



33住 完 捣



34住 遺物  
出土状態

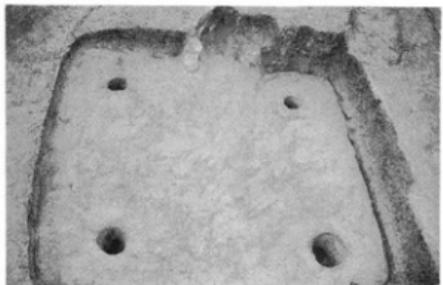


34  
住  
出  
土  
遺  
物  
狀  
態

34  
住  
出  
土  
遺  
物  
狀  
態



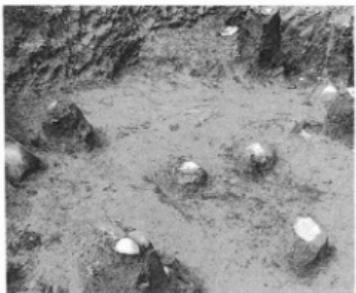
34住 完掘



34住 完 捣



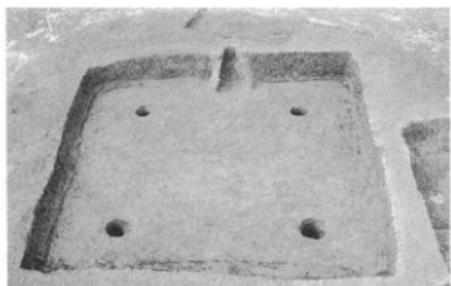
36住 遺物出土状態



36住 遺物出土状態



36住 瓦土層



36住 完 据



36住 瓦完据



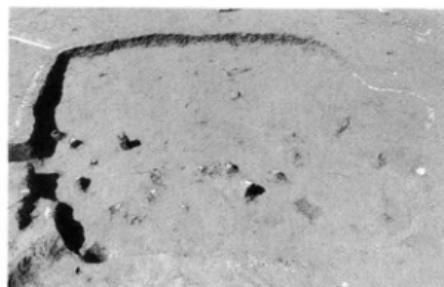
37住 遺物出土状態



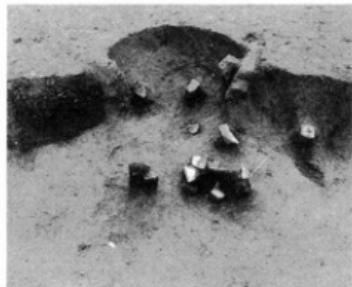
37住 考査状態



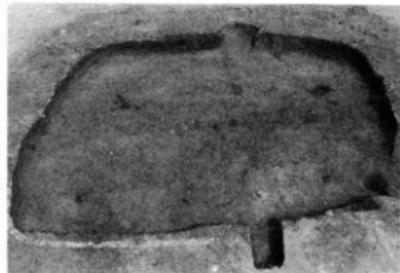
37住 完 挖



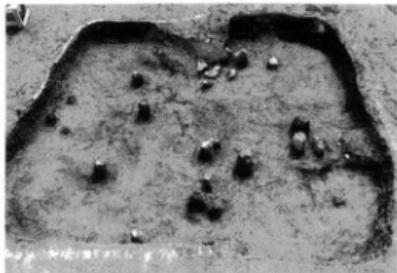
38住 遺物出土状態



38住 遺物(西側から)



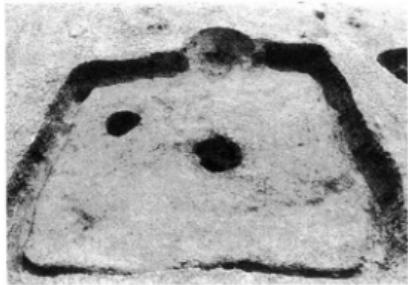
38住 完 挖



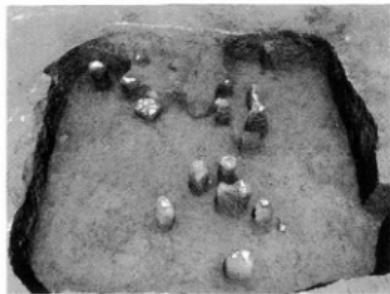
39住 遺物出土状態



39住 蝙内遺物



39住 完 据



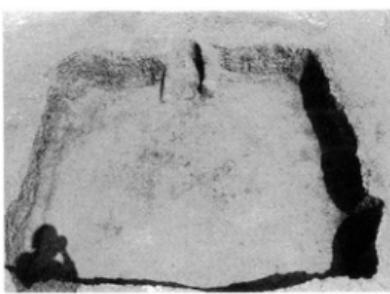
40住 遺物出土状態



40住 蝙土層



40住 蝙完据



40住 完 据



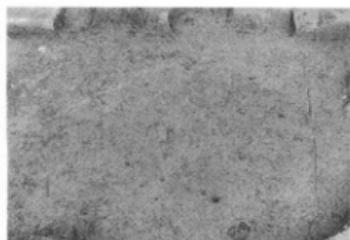
41住 土 層



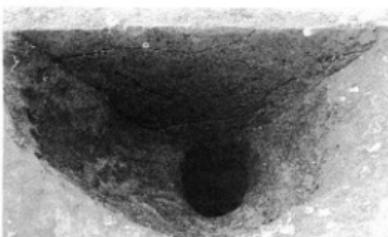
41住 土 層



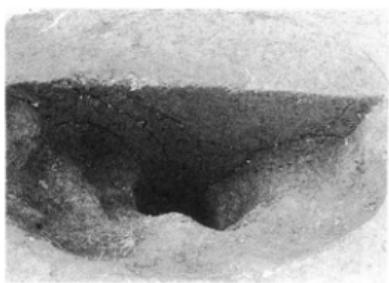
41住 窟内遺物出土状態



41  
住  
完  
掘



42住  
柱穴土層



42住 柱穴土層



42住 完 掘



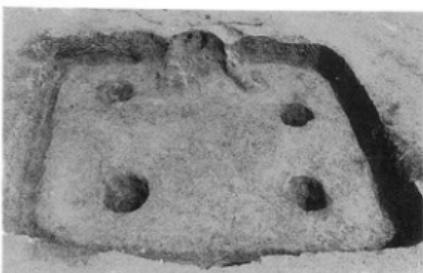
44住 窟土層



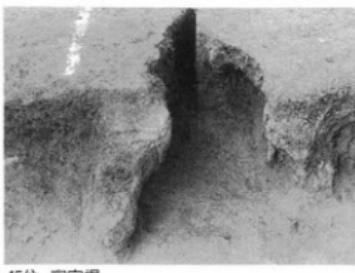
44住 窑完掘



44住 窑内遺物出土状態



44住 完 挖



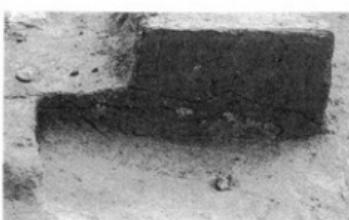
45住 窯完掘



45住 遺物出土状態



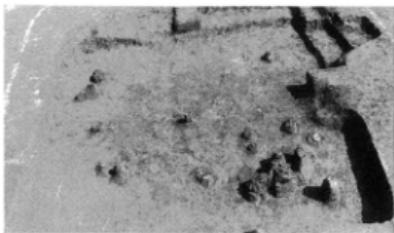
45住 窯土層



45住 窯土層



46住 遺物出土状態



47住 遺物出土状態



47住 遺物出土状態



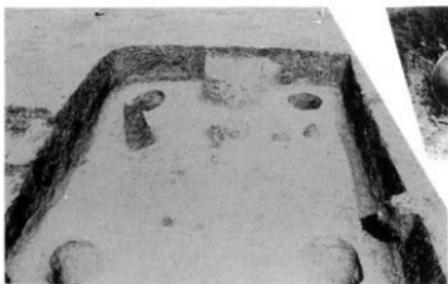
47住 黒土層



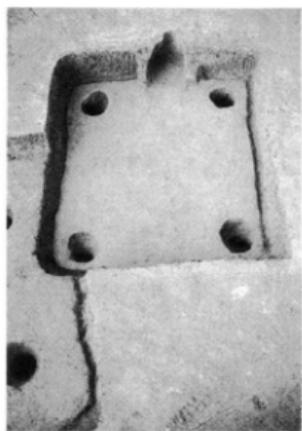
47住 黒完掘



47住 完  
掘



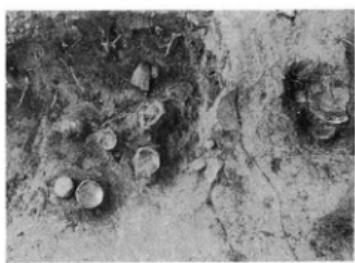
48住 遺物出土状態



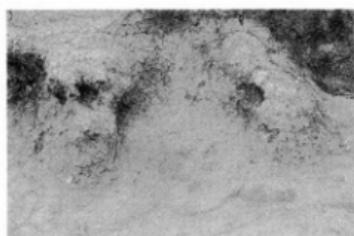
48住 完 墓



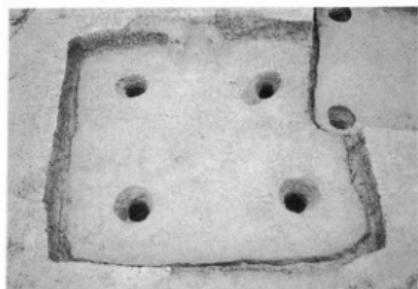
49住 遺物出土状態



49住 遺物出土状態



49住 罐完振



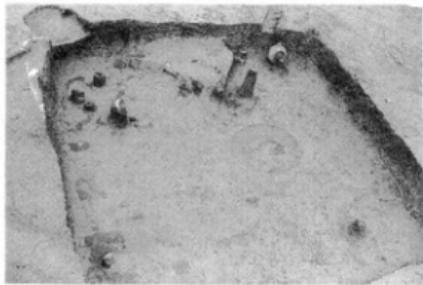
49住 完 捩



50住  
遺物出土状態



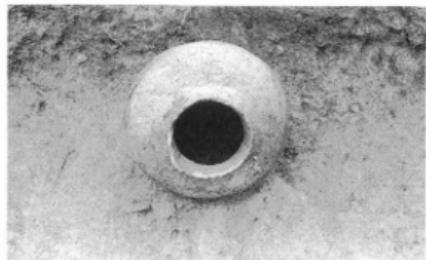
50住 遺物出土状態



51住 遺物出土状態



51住 遺物出土状態



51住 須恵器甕出土状態



51住 土製品？出土状態



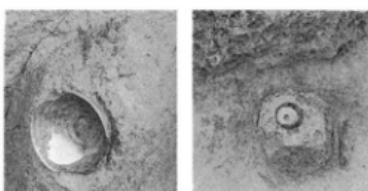
51住  
竈内遺物出土状態



51住 完 捨



52住 遺物出土状態



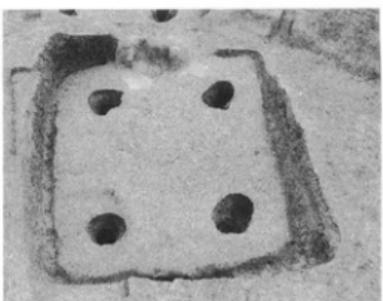
51住 遺物出土状態



52住 遺物出土状態



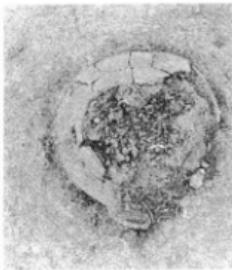
(左同)



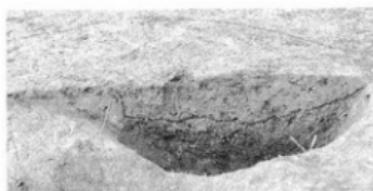
52住 完 捨



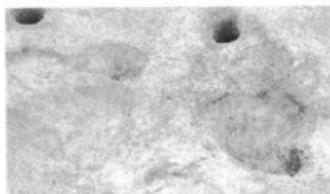
53住  
遺物出土状態



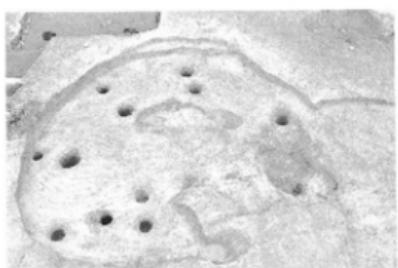
53住  
遺物出土状態



53住 炉址土層



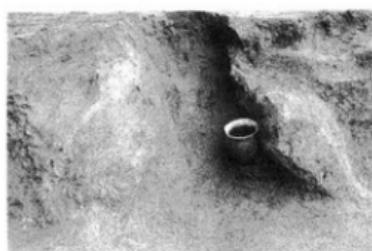
53住 炉完掘



53住 完掘(續文)



54住 電土層



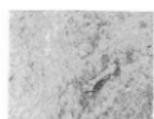
54住 電内甕出土状態



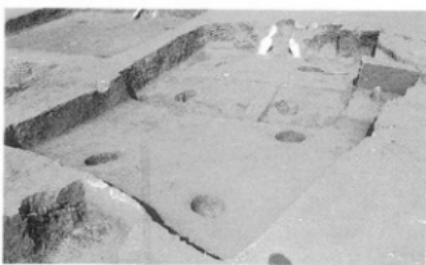
54住 完掘



55住 遺物出土状態



55住 鐵 器



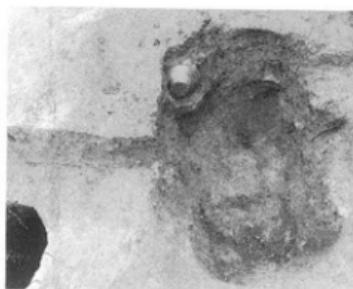
←55住 完 挖



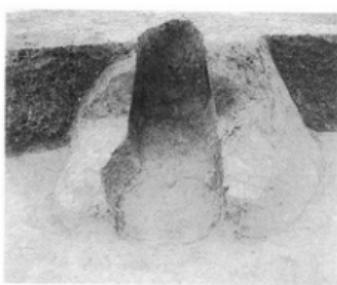
55住 遺物出土状態



56住 豚土層



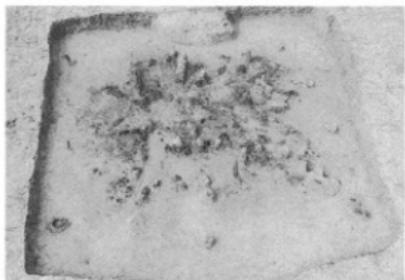
56住 貯藏穴



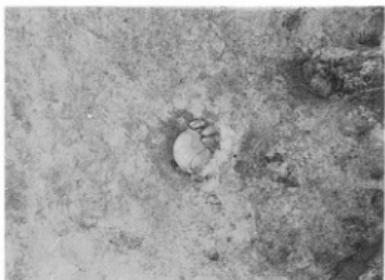
56住 豚完掘



56住 完 挖



57住 遺物出土状態



57住 遺物出土状態



57住 遺物出土状態



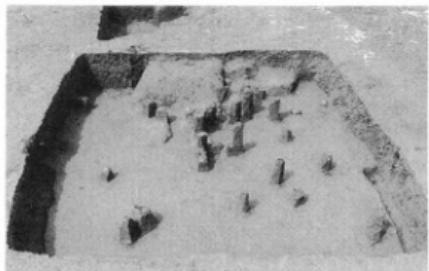
57住 完 挖 (67住)



58住 遺物出土状態



左同近景



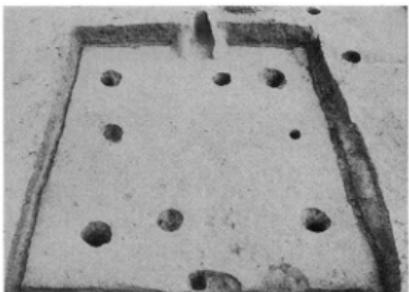
59住 遺物出土状態



59住 薙 完 堀



60住 遺物出土状態



60住 完 挖

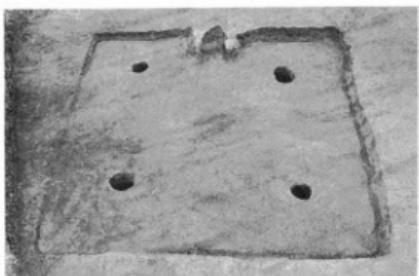


61住 遺物出土状態

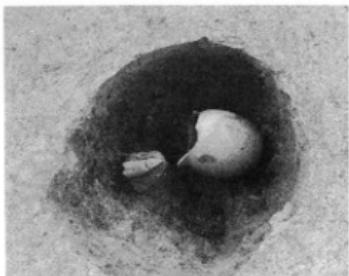
(6号溝)



61住 薙完掘



61住 完 挖



61住 柱穴内遺物出土状態



61住 完 挖

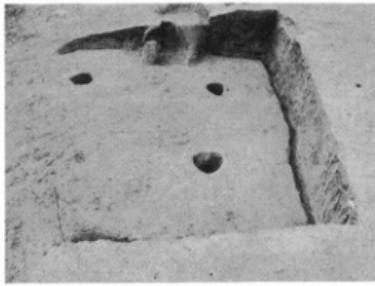
(6号溝)



62住 遺物出土状態



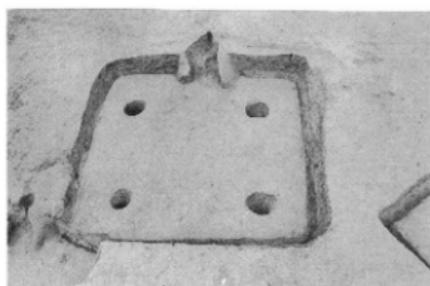
62住 土 層



62住 完 挖



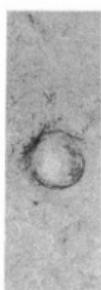
63住 窟内遗物 出土状态



63住 完 据



64住 遗物出土状态



(坏)

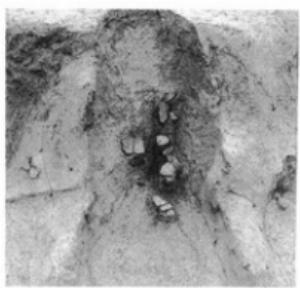


64住 窑完据



64住 完 据

(6号满)



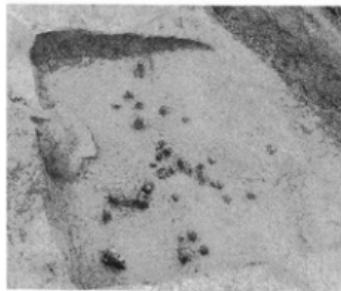
65住 窟内遗物 出土状态



65住 土層



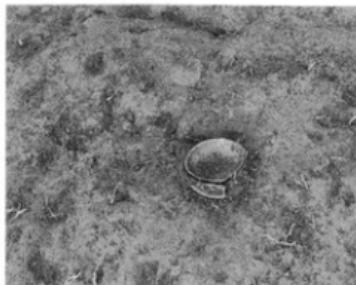
65住 土層、遺物出土状態



65住 遺物出土状態(西侧から)



65住 完掘



66住 遺物出土状態



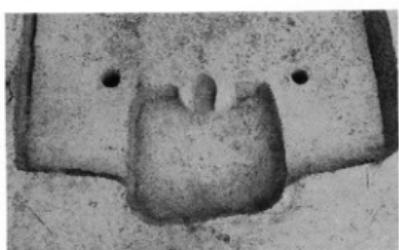
66住 遺物出土状態



67住 電土層



左同



69住 完 挖

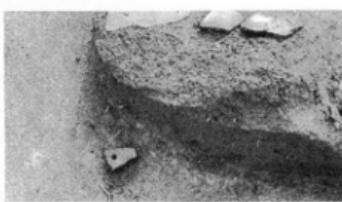


68住 遺物出土状態



68  
住

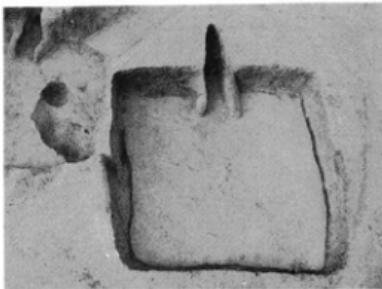
遺物出土狀態



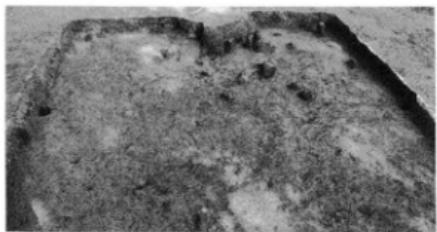
68住 碓石土狀態



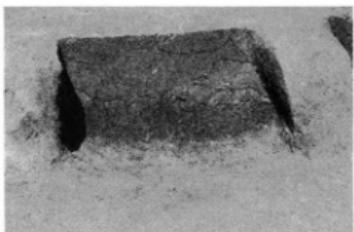
68住 壴完掘



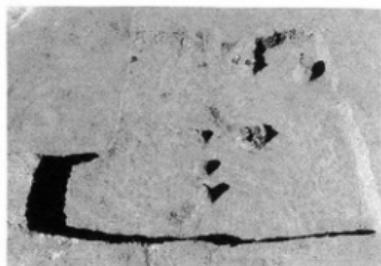
68住 完 挖



69住 遺物出土状態



69住 壱土層



70住 遺物出土状態



70住 遺物出土状態



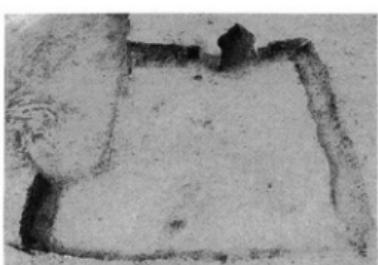
70住 遺物出土状態



70住 壱土層



70住 壱完掘



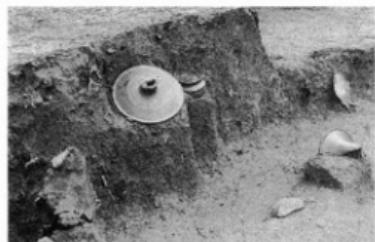
70住 完 挖



71住 遺物出土状態



71住 遺物出土状態



71住 遺物出土状態



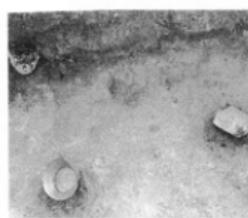
左同細部



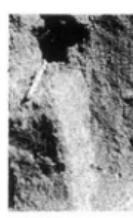
同細部



71住 遺物出土状態



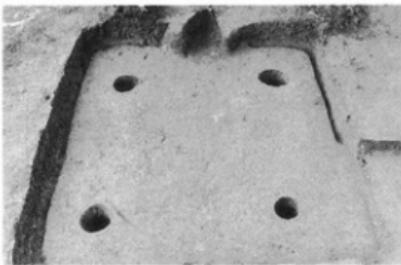
(左同)



(左同)



71住 罐内遺物出土状態



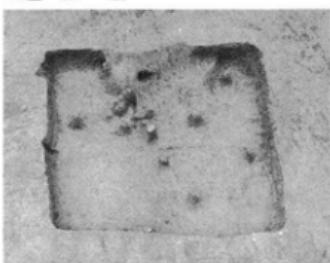
71住 完 摘



72住 土 層



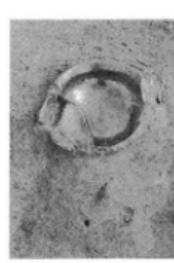
72住 潜内遺物出土状態



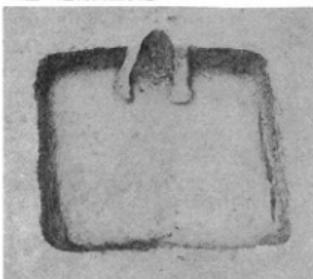
72住 遺物出土状態



72住 遺 物



72住 遺 物



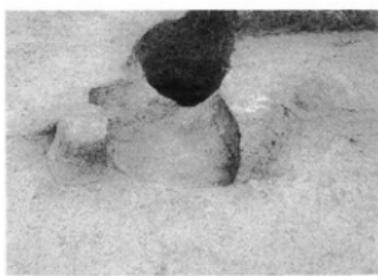
72住 完 握



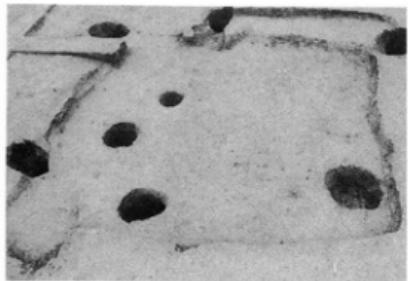
73住 完 握



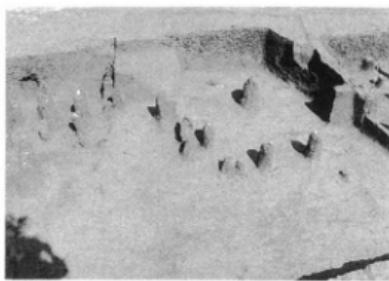
74住 遺物出土状態



74住 蓄完握



74住 完 挖



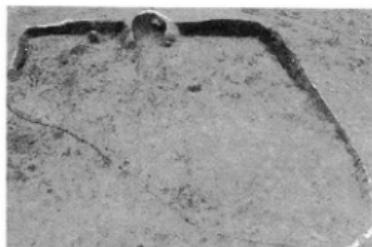
75住 遺物出土状態



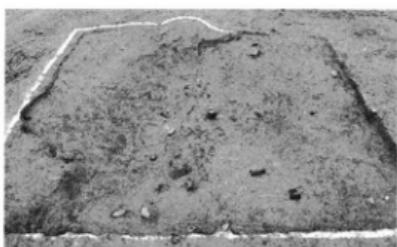
75住  
遺物出土状態



75住  
紡錘車出土状態



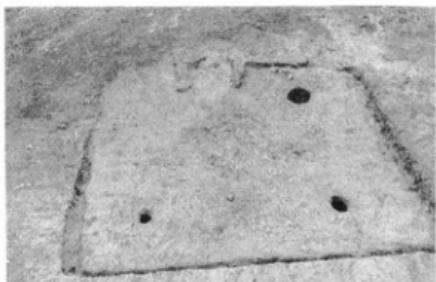
75住 完 挖



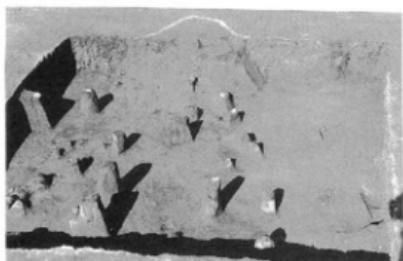
77住 遺物出土状態



77住 管状土錐出土状態



77住 完 挖



78住  
遺物



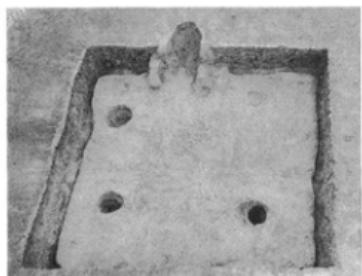
78住  
遺物



78住  
遺物  
出土状態



78住  
遺物「再」の文字



78住 完 摘



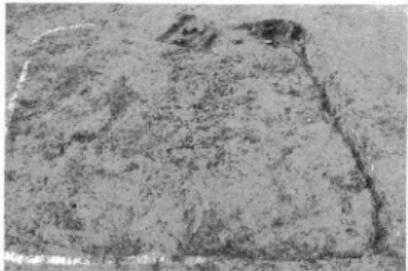
79住 遺物出土状態



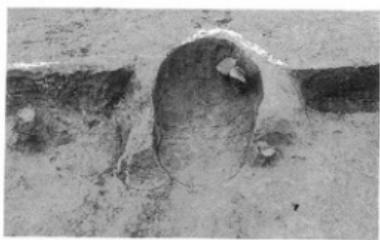
79住 遺物出土状態縫袖部



79住 遺物壺類出土状態



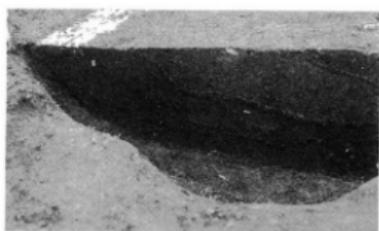
80住 完 据



80住 完据



82住 遺物出土状態



82住 填土層



82  
住  
遺物出土状態



82  
住  
遺物出土状態



83住 填内出土遺物状態



左同



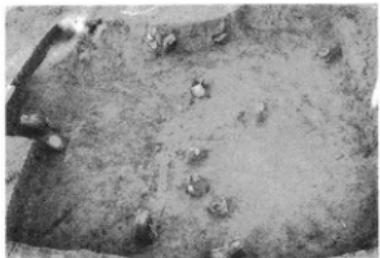
84住 土 層



84住 土 層



85住 土 層



89住 遺物出土状態



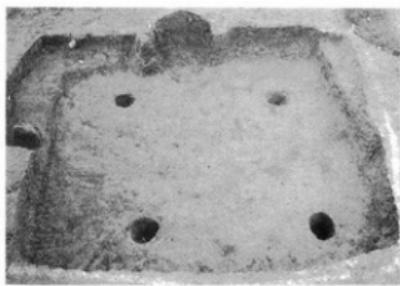
89住  
竈内遺物出土状態



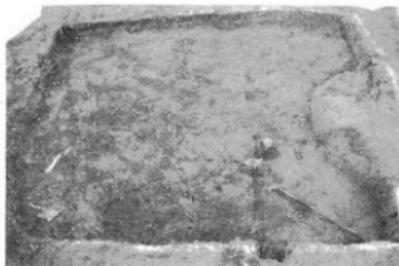
89住  
遺物出土状態



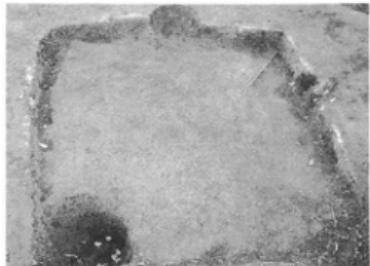
89住 遺物出土状態



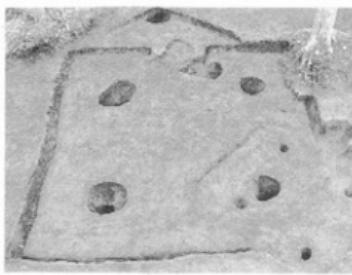
89住 完 摘



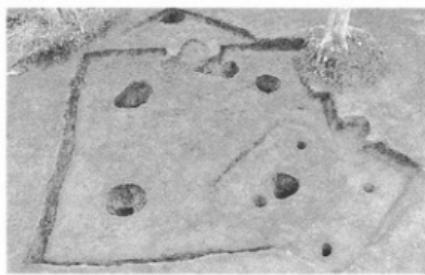
90住 遺物出土状態



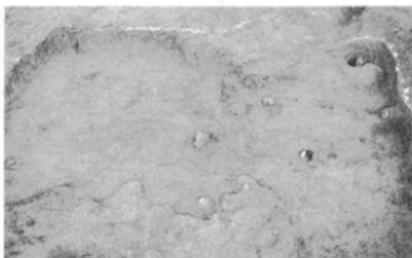
90住 完 挖



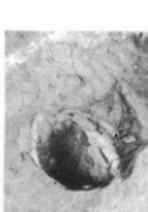
91住 完 挖



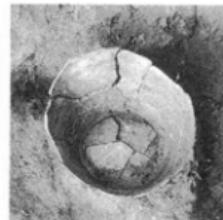
上、90 中、91 下、89住 完 挖



92住 遺物出土状態



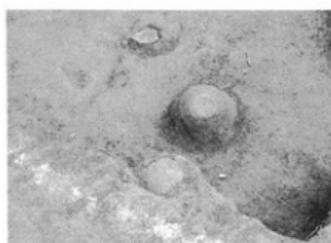
同左



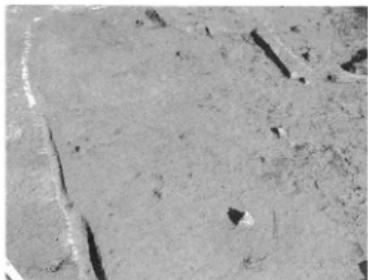
同左



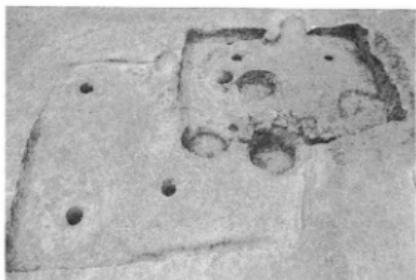
92住 遺物出土状態



92住 遺物出土状態



93住 遺物出土状態



93・92住 完 堀



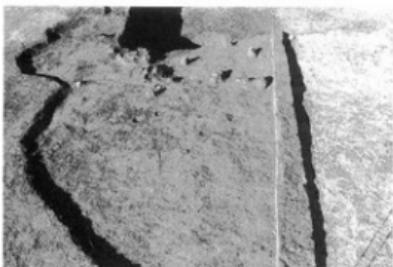
94住 完 堀



95住 遺物出土状態



96住 遺物出土状態(縄文)



96住 遺物出土状態



99住 土層と完堀



100住 完 挖



101.102.106住 完 挖



103住 遺物出土状態



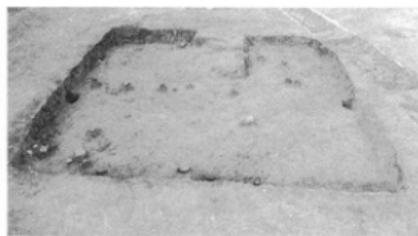
103住 離土層



98住 完 挖



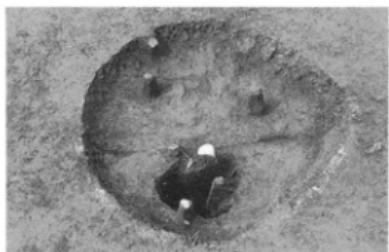
104住 完 挖



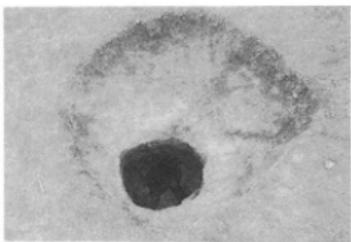
105住 遺物出土状態



105住 遺物出土状態



3号 土坑遺物出土状態



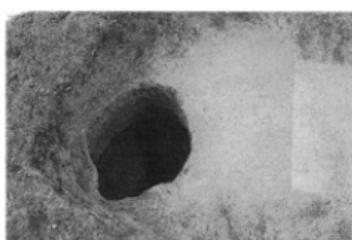
3号 土坑上部



3号  
出土  
土坑  
遺物  
状态



3号 土坑遺物出土状態



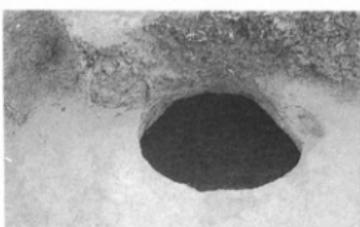
3号 土坑完掘



16号 土坑遺物出土状態



16号 土坑石器出土状態



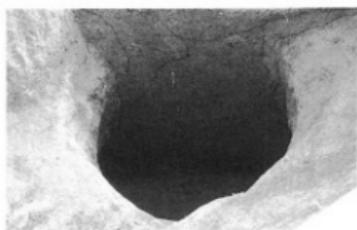
17号土坑と32号坑



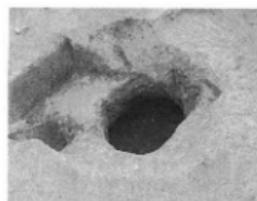
57号 土坑遗物出土状态



同上部



57号 土坑土层



57号 土坑完掘



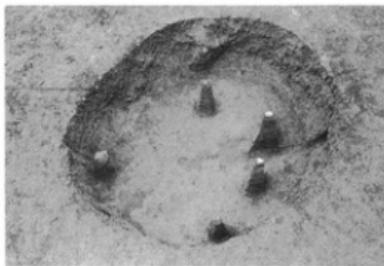
66号 土坑土层



66号 土坑遗物出土状态



66号 土坑遗物出土状态



4号 土坑遗物出土状态



6号 土坑遗物出土状态



同细部



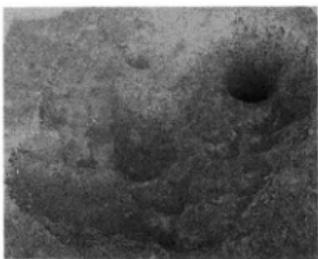
15号 土坑完掘



20、21号 土坑完掘



22、23号 土坑完掘



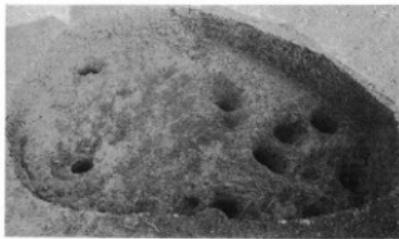
25号 土坑完掘



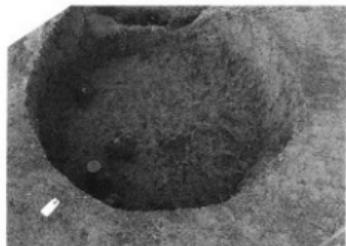
35号 土坑完掘



33、34号 土坑完掘



26号 土坑完掘



38号 土 坑



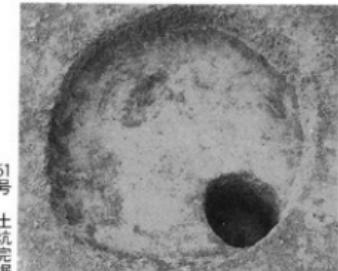
38号 土坑遗物出土状态



38号 土坑遗物出土状态



68号 遗 物



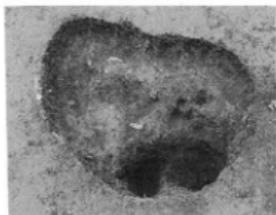
51号  
土坑完掘



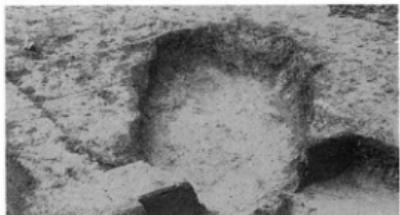
59号  
土坑完掘



13号  
土坑遗物出土状态



2号 土坑遗物出土状态



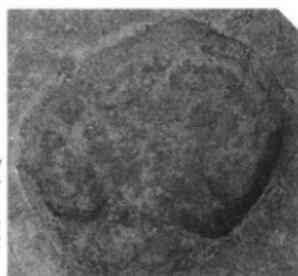
8号 土坑完掘



36号 土坑遗物出土状态



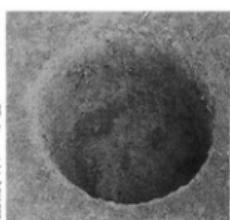
36号 土坑遗物出土状态



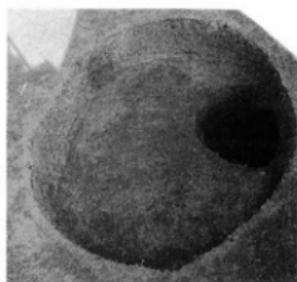
37号  
土坑完掘



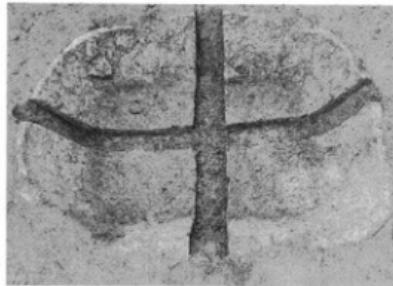
47号  
土坑完掘



48号  
土坑完掘



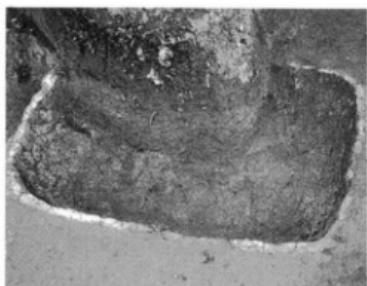
50号  
土坑完掘



39号 粘土坑完掘



40号 粘土坑完掘



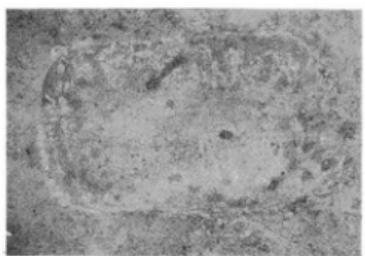
41号 粘土坑完掘



40、41、42、43号 粘土坑完掘



40、41、42、43号 粘土坑完掘



45号 粘土坑完掘



72号 墓塚と97号住 65号 土坑



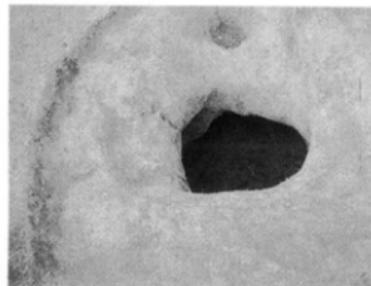
55号 土坑完掘



17号 土坑完掘



28号 土坑遺物出土状態



57号 土 坑



28号 土坑遺物出土状態



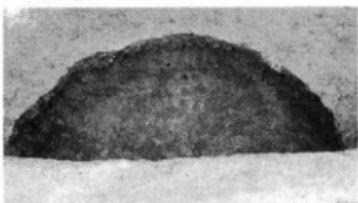
66号 土坑完掘



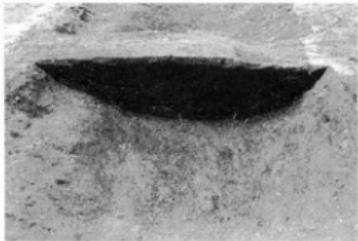
68号、72号 土坑完掘



6号 土坑完掘



70号 土坑完掘



1号 满土层



68号 土坑完掘



1号 满完掘



2号 溝完掘



3号 溝土層



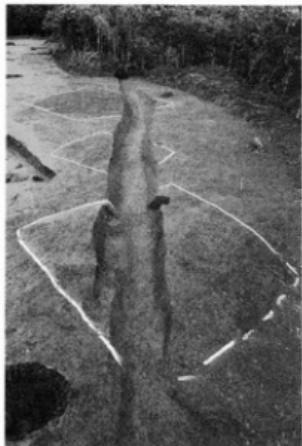
5号 溝完掘（西側から）



4号 溝完掘（南側から）



5号 溝完掘（東側から）



6号 溝完掘（南側から）



8号 溝完掘



9号 溝完掘



10号 溝完掘



11号 溝完掘



1号住



2号住

3号住



4号住



4号住



6号住





7号住



7号住



7号住



7号住



7号住



8号住



9号住



10号住



10号住



11号住



16号住



17号住





18 号 住



19 号 住



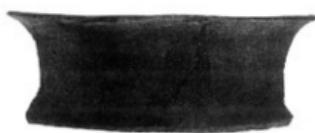
21 号 住

22 号 住  
23 号 住

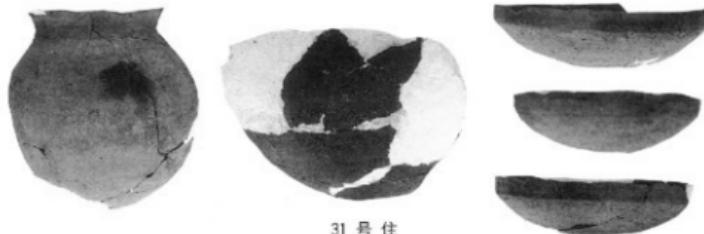
24 号 住

26 号 住  
27 号 住

28 号 住



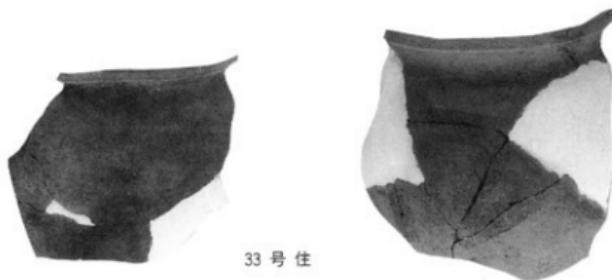
29 号 住



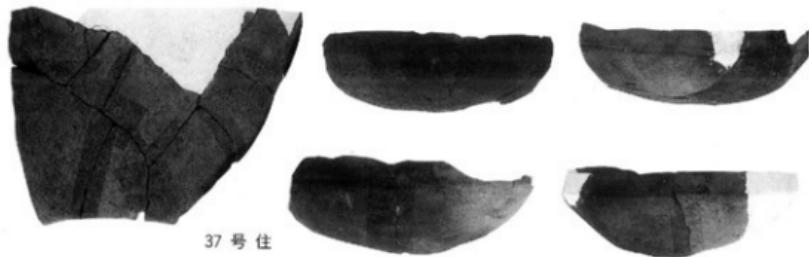
31号住



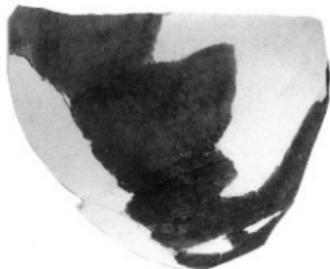
32号住



33号住



34.36.37号住居址出土遗物



39号住



40号住



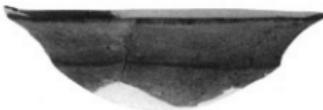
41号住



42号住



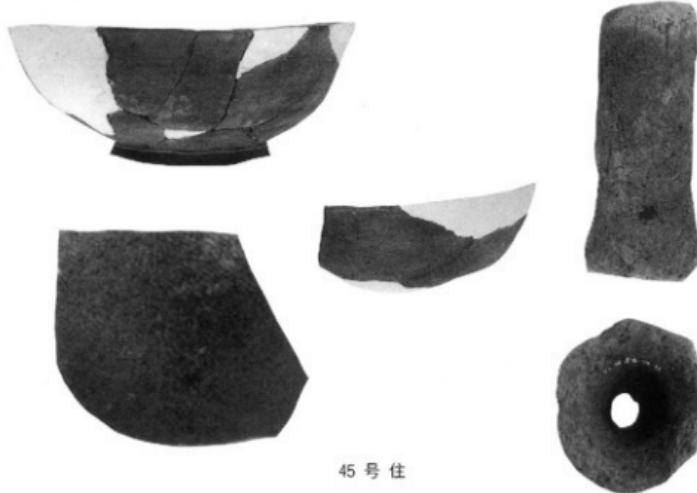
41号住



44号住



42号住



45号住



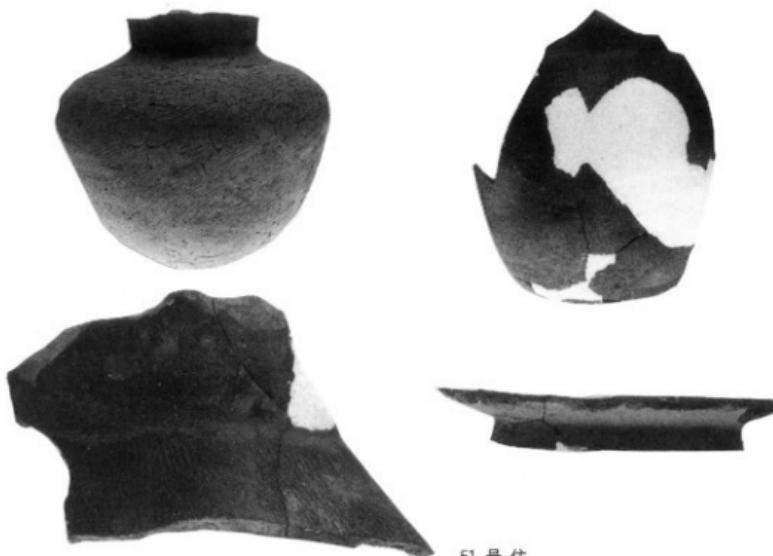
46号住



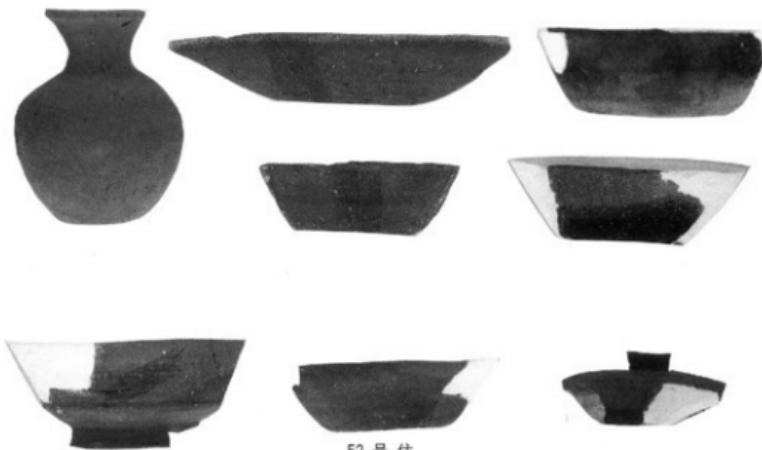
47号住



48号住



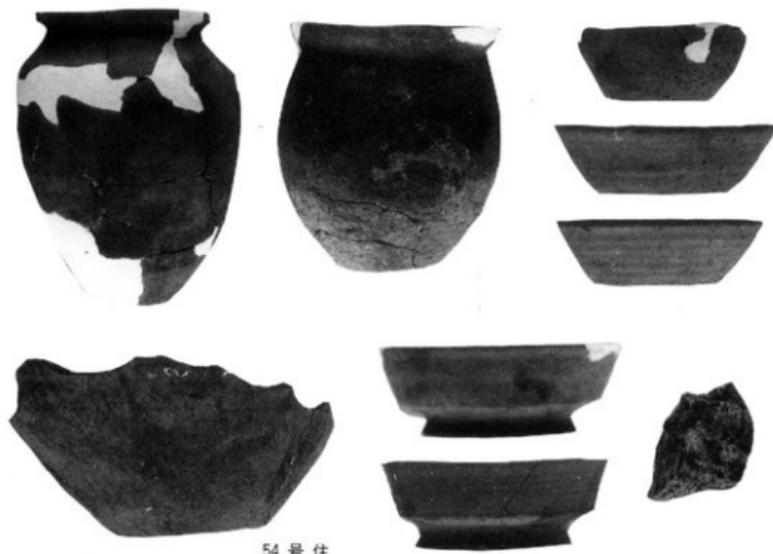
51号住



52号住



53号住



54号住

53.54号住居址出土遗物



49号住



49号住



50号住

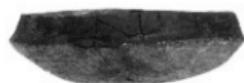
50号住



51号住



55 号 住



56 号 住



56 号 住

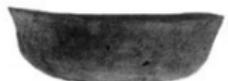


57 号 住



57 号 住

57 号 住



58 号 住

55,56,57,58号住居址出土遗物



59号住



60号住



61号住



62号住



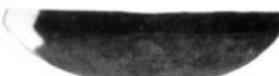
轻石



63号住



64号住



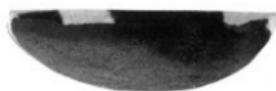
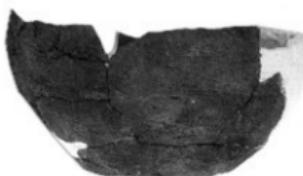
65号住



66号住



67号住



68号住



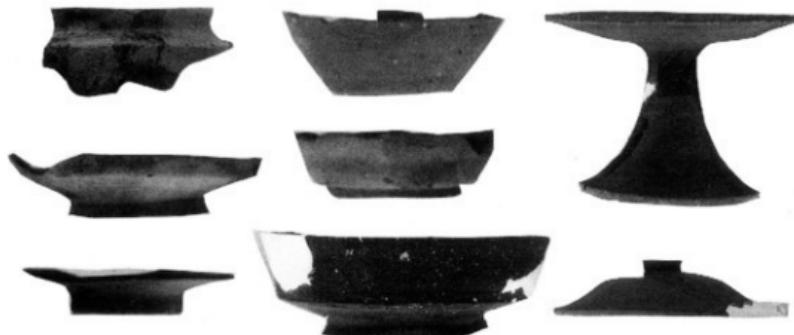
66.67.68号住居址出土遗物



70号住



71号住

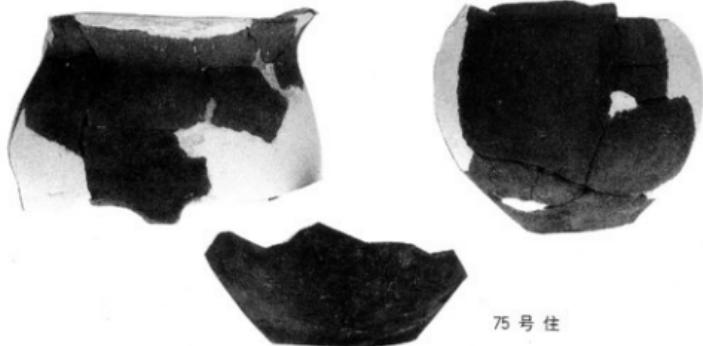


71号住

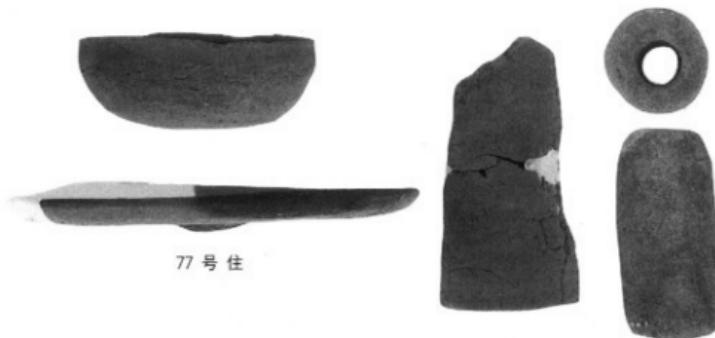


72号住

73号住



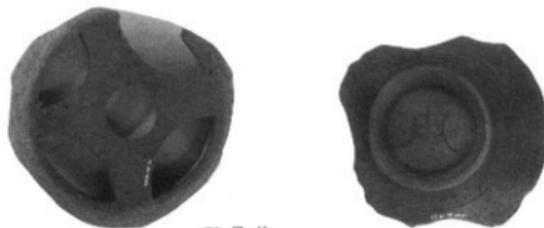
75号住



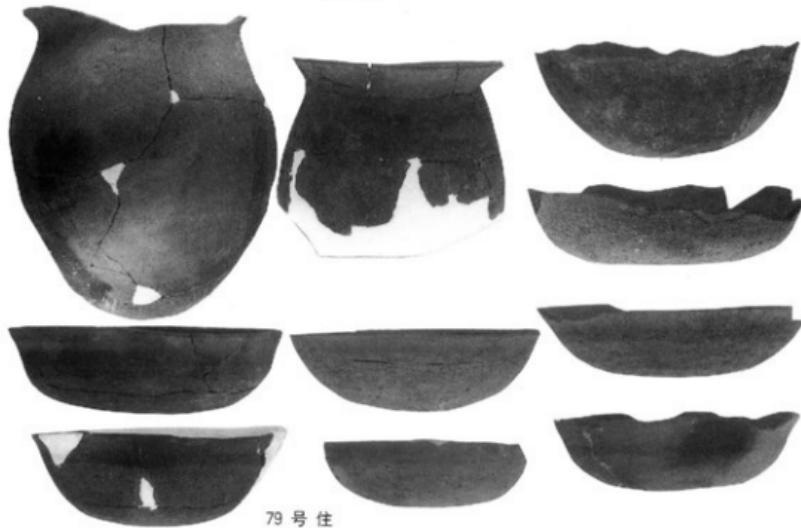
77号住



78号住

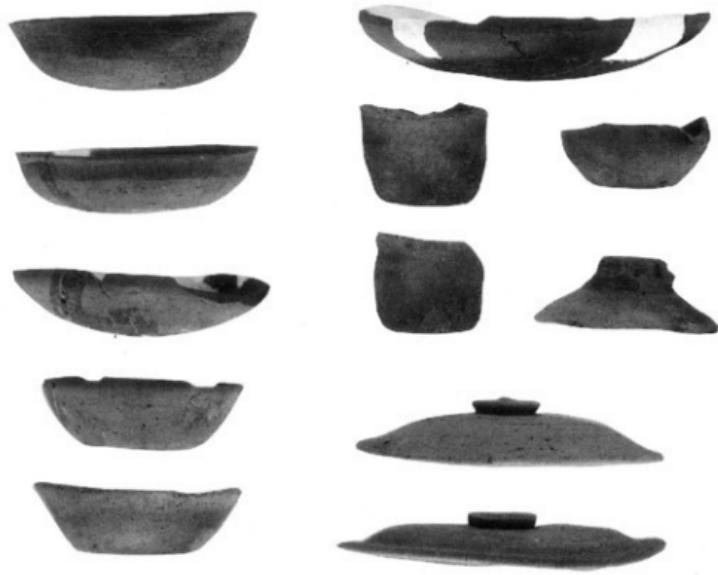


78号住



79号住

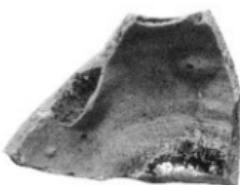
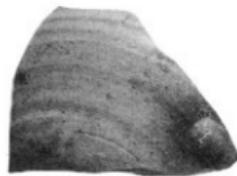
78、79号住居址出土遗物



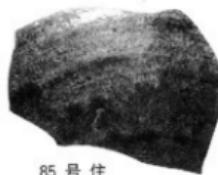
82 号 住



83 号 住



84号住



85号住

86号住



88号住



88号住



89号住

84.85.86.88.89号住居址出土遗物



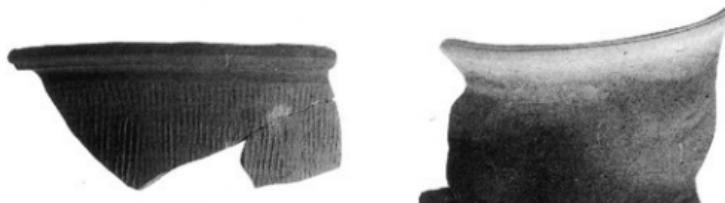
92.93.94号住居址出土遗物



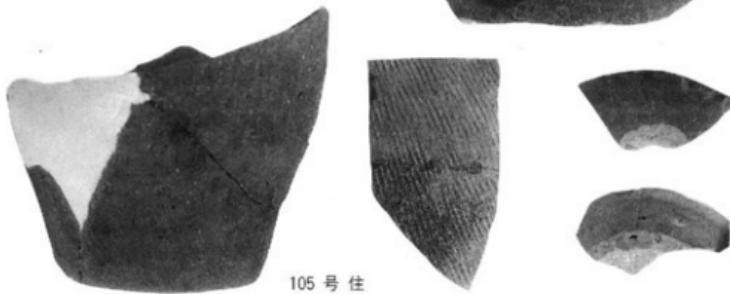
96号住



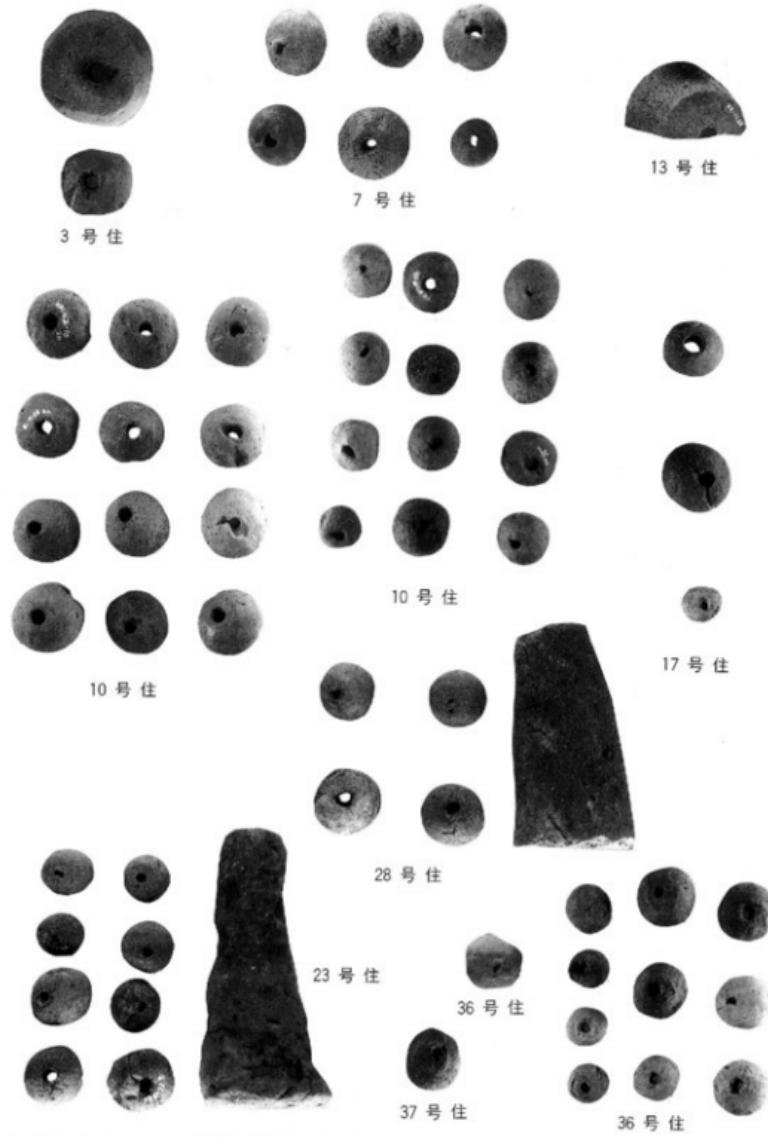
97号住



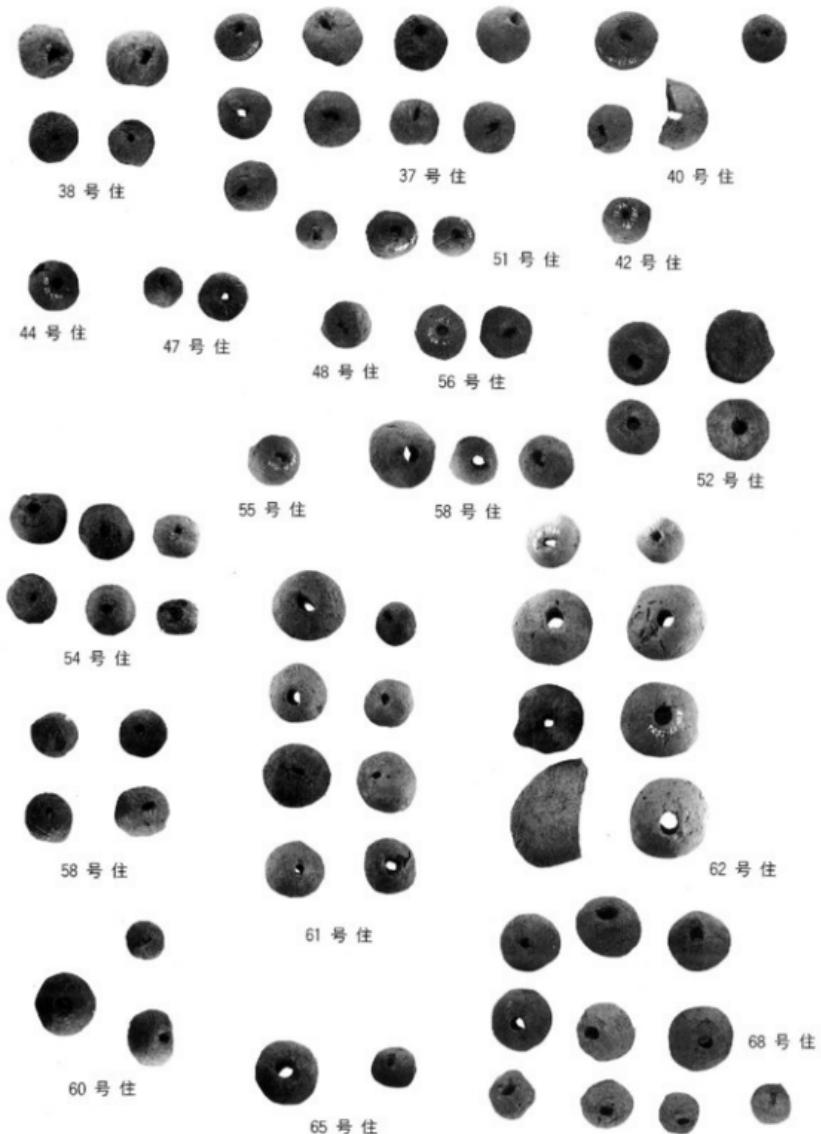
102号住



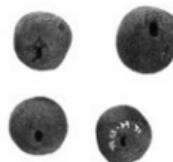
105号住



3.7.10.13.17.23.28.36.37号住居址土錐、支脚



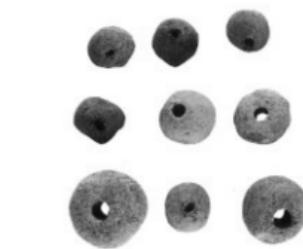
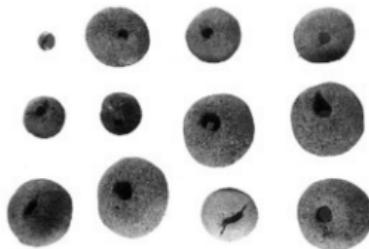
38.37.40.42. 44.47.48.52.54.55.56.58.60.61.62.65.68号住居址出土鍾



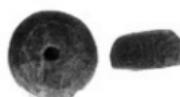
69号住



70号住



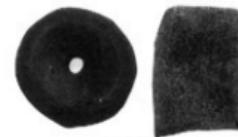
75号住



86号住



91号住



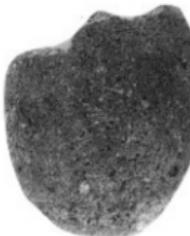
92号住



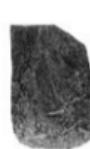
85号住



104号住

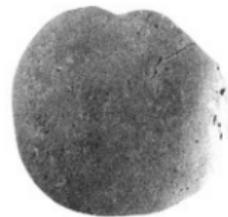


88号住



105号住

69,70,75,85,86,88,91,92,104,105号住居址出土土锤,石器,砾石



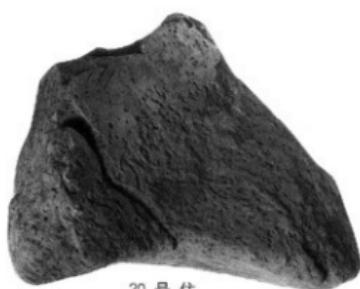
3号住



6号住



10号住



20号住



21号住



34号住



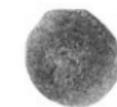
36号住



37号住



40号住



41号住



42号住



3.6.10.20.21.34.36.37.40.41.42号住居址石锤,砾石,石器



47号住



48号住



51号住



53号住



51号住



54号住



58号住



59号住



63号住



65号住



68号住



69号住



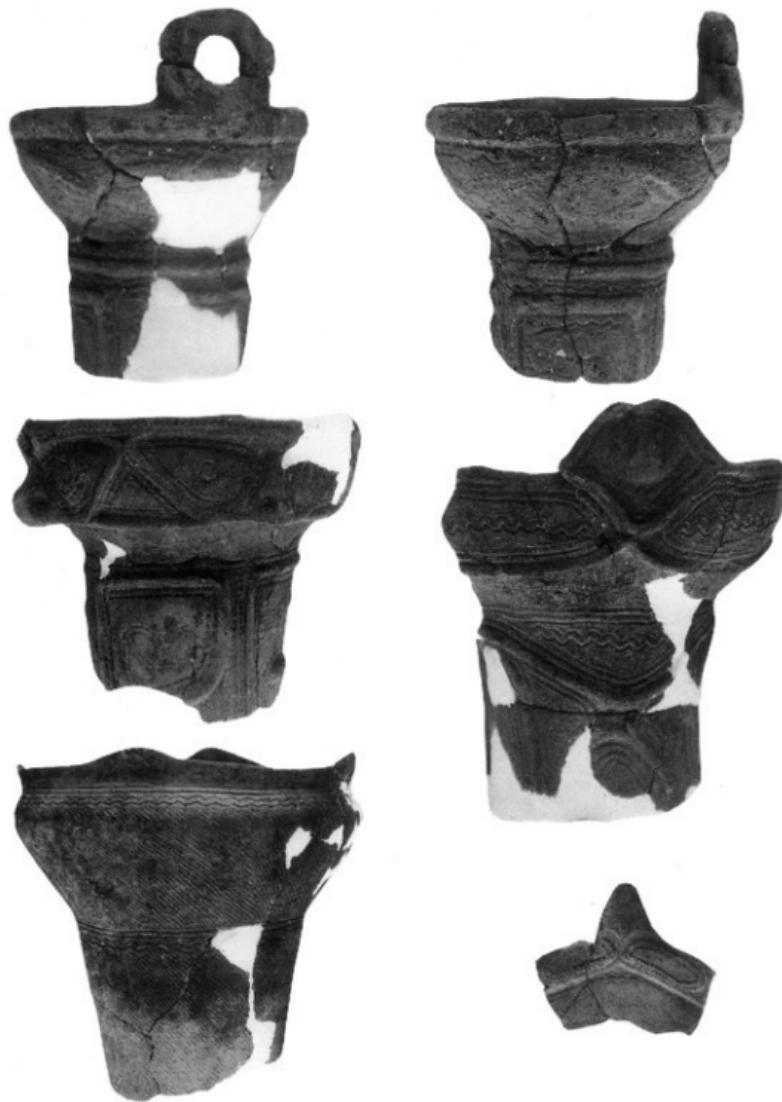
75号住





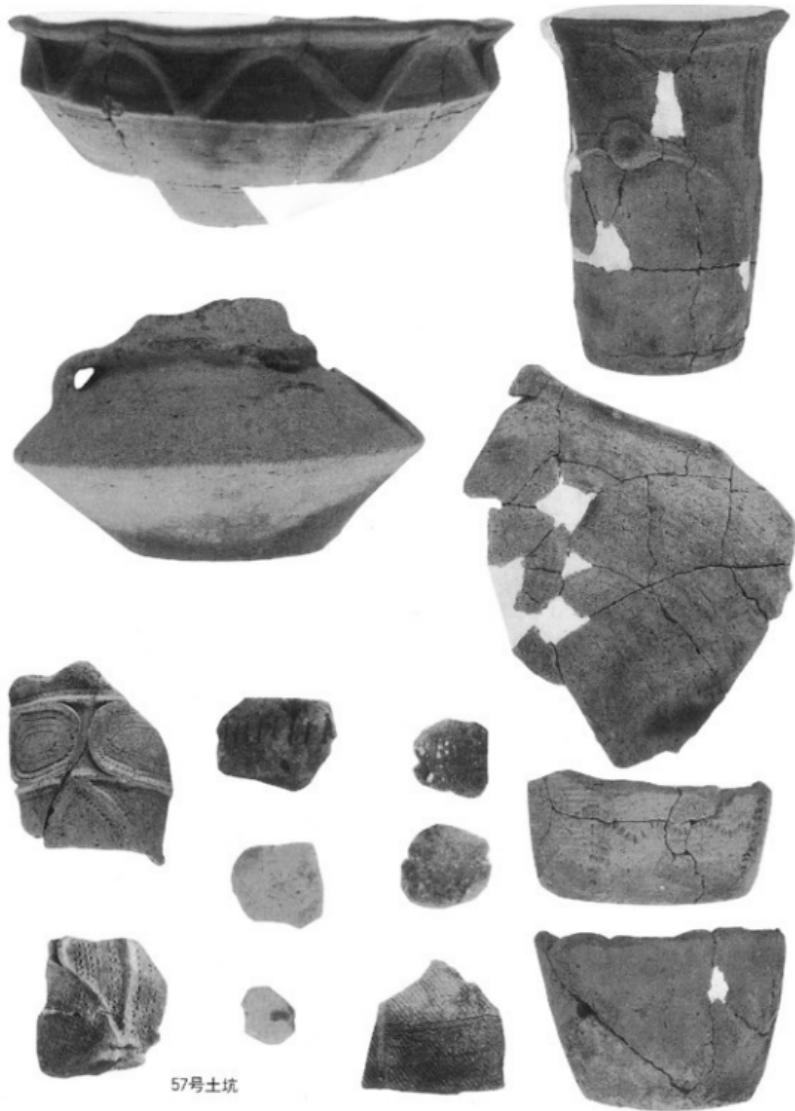
3号土坑

3号土坑出土遗物



57号土坑

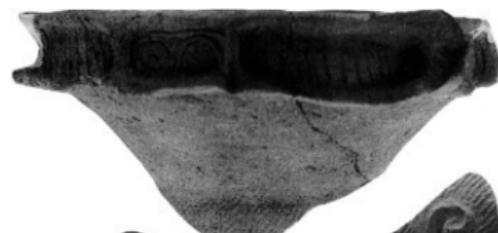
57号土坑出土遗物



57号土坑



66号土坑



3.61.67.27.16.17号土坑出土遗物



28号土坑



26号土坑



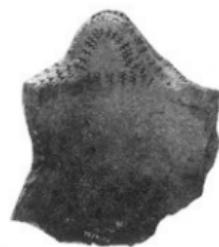
38号土坑



6号土坑



11号土坑



27号土坑



68号土坑



6.11.27.29.68号土坑出土遗物



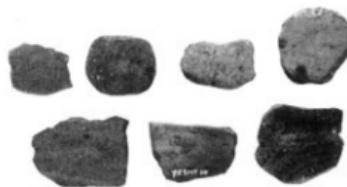
14号土坑



36号土坑



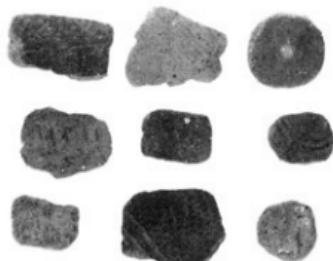
28号土坑



3住~11住



22住~28住



32住~41住



42住~49住



50住~74住



75住~93住

最後に



現地説明会の風景（上、下）

---

茨城県行方郡北浦村  
**六台遺跡発掘調査報告書**

編集発行 山田地区遺跡発掘調査会  
北浦村山田2564-10  
発行日 1990年3月  
印刷 株式会社 さんゆう社印刷  
行方郡玉造町甲2641

---